市原市海保地区遺跡群Ⅰ

（第2分冊）

海保西竹谷遺跡
海保小谷作遺跡
海保大塚遺跡

2014

大成建設株式会社
国際文化財株式会社

千葉県

市原市海保地区遺跡群 Ⅰ

（第2分冊）

2014

大成建設株式会社
国際文化財株式会社

市原市海保地区遺跡群Ⅰ

（第2分冊）

海保西竹谷遺跡（かいほにしたけやつ）
海保小谷作遺跡（かいほこやつさく）
海保大塚遺跡（かいほおおつか）

２０１４

大成建設株式会社
国際文化財株式会社

目　次

第４章　海保大塚遺跡 ……523
第１節　縄文時代 ……524
１．竪穴建物 ……524
２．炉　穴 ……525
３．土　坑 ……538
４．遺構外出土遺物 ……542
第２節　弥生時代 ……545
１．竪穴建物 ……545
２．溝 ……657
３．土　坑 ……659
４．ピット出土遺物 ……668
５．遺構外出土遺物 ……668
第３節　古墳時代 ……670
１．古　墳 ……670
２．溝 ……707
３．土　坑 ……709
４．遺構外出土遺物 ……715
第４節　奈良・平安時代 ……716
１．溝 ……716
２．土　坑 ……717
第５節　時期不明の遺構 ……718

第５章　総　括 ……719
はじめに ……719
第１節　縄文時代 ……719
第２節　弥生時代 ……719
第３節　古墳時代 ……722
第４節　奈良・平安時代 ……763
第５節　中・近世 ……765
おわりに ……768

図版
抄録

挿図目次

海保大塚遺跡

第647図　海保大塚遺跡遺構配置図……523
第648図　SI001……524
第649図　SI001出土遺物……525
第650図　SK001……525
第651図　SK001出土遺物……526
第652図　SK002 ～ SK004……527
第653図　SK004出土遺物……528
第654図　SK005 ～ SK008……529
第655図　SK009……530
第656図　SK009出土遺物……530
第657図　SK010 ～ SK012……531
第658図　SK013 ～ SK017……533
第659図　SK018・SK019……534
第660図　SK019出土遺物……534
第661図　SK020……535
第662図　SK020出土遺物……535
第663図　SK021 ～ SK026……537
第664図　SK027・SK028……538
第665図　SK028出土遺物……539
第666図　SK029……539
第667図　SK029出土遺物……539
第668図　SK030 ～ SK032……540
第669図　SK033・SK034……541
第670図　SK033出土遺物……541
第671図　縄文時代遺構外出土遺物（1）……542
第672図　縄文時代遺構外出土遺物（2）……543
第673図　SI002……545
第674図　SI002炉……545
第675図　SI003……546
第676図　SI003出土遺物……546
第677図　SI004……547
第678図　SI005……548
第679図　SI005炉……548
第680図　SI005出土遺物……549
第681図　SI006……549
第682図　SI006出土遺物……549
第683図　SI007（1）……550
第684図　SI007（2）……551
第685図　SI007炉1・炉2……552
第686図　SI007出土遺物……552
第687図　SI008・SI009……554
第688図　SI008炉……554
第689図　SI008出土遺物……555
第690図　SI009炉1・炉2……555
第691図　SI010……556
第692図　SI010炉1・炉2……556
第693図　SI010出土遺物……557
第694図　SI011・SI012……558
第695図　SI011炉……559
第696図　SI011出土遺物……559
第697図　SI012出土遺物……560
第698図　SI013・SI014……561
第699図　SI013出土遺物……562
第700図　SI014炉……562
第701図　SI014P5……562
第702図　SI015・SI016（1）……564
第703図　SI015・SI016（2）……565
第704図　SI015炉……565
第705図　SI015出土遺物……565
第706図　SI016炉……566
第707図　SI016出土遺物……566
第708図　SI017……567
第709図　SI017炉1・炉2……567
第710図　SI017SK1 ～ SK3……568
第711図　SI017出土遺物……568
第712図　SI018……569
第713図　SI018出土遺物……569
第714図　SI019……570
第715図　SI019炉……570
第716図　SI019出土遺物……571
第717図　SI020……572
第718図　SI020炉……572
第719図　SI021・SI022……573
第720図　SI021炉……573
第721図　SI022炉……573
第722図　SI022出土遺物……574
第723図　SI023……574
第724図　SI023炉……575
第725図　SI023出土遺物……575
第726図　SI024……576
第727図　SI024炉……576
第728図　SI024出土遺物……576
第729図　SI025……577
第730図　SI025炉……577
第731図　SI025出土遺物……578
第732図　SI026……578
第733図　SI026炉……579
第734図　SI026出土遺物……579
第735図　SI027……580
第736図　SI027炉……580
第737図　SI027出土遺物……581
第738図　SI028……581
第739図　SI028炉……582
第740図　SI029……582
第741図　SI029炉……583
第742図　SI030……583
第743図　SI030炉……584
第744図　SI030出土遺物……584
第745図　SI031……585
第746図　SI031炉……585
第747図　SI031出土遺物……586
第748図　SI032……586
第749図　SI032出土遺物……587
第750図　SI033……587
第751図　SI033炉……588
第752図　SI033出土遺物……588
第753図　SI034……589
第754図　SI034炉……589
第755図　SI034出土遺物……589
第756図　SI035……590
第757図　SI035炉……591
第758図　SI035出土遺物……591
第759図　SI036……591
第760図　SI036炉……592
第761図　SI037……592
第762図　SI037炉……593
第763図　SI037遺物出土状況……593
第764図　SI037出土遺物……593
第765図　SI038……594
第766図　SI038出土遺物……595
第767図　SI039……595
第768図　SI039炉……596
第769図　SI039出土遺物……596
第770図　SI040……597
第771図　SI040SK1……598
第772図　SI040出土遺物……598
第773図　SI041……599
第774図　SI041炉……599
第775図　SI041出土遺物……599
第776図　SI042a・SI042b……600
第777図　SI042a炉……601
第778図　SI042a出土遺物……601
第779図　SI043……602
第780図　SI043炉……602
第781図　SI044……603
第782図　SI045……604
第783図　SI045炉……604
第784図　SI045出土遺物……604
第785図　SI046……605
第786図　SI047a・SI047b……605
第787図　SI048……606

第788図　SI048炉・遺物出土状況 ……607
第789図　SI048出土遺物（1）……607
第790図　SI048出土遺物（2）……608
第791図　SI049炉……609
第792図　SI050……609
第793図　SI050炉……609
第794図　SI051……610
第795図　SI051炉1・炉2 ……611
第796図　SI051出土遺物……611
第797図　SI052……612
第798図　SI052炉……612
第799図　SI052出土遺物……613
第800図　SI053……614
第801図　SI054……614
第802図　SI055……615
第803図　SI055炉……615
第804図　SI055遺物出土状況 ……615
第805図　SI055出土遺物……616
第806図　SI056……617
第807図　SI056炉……618
第808図　SI056出土遺物……618
第809図　SI057……619
第810図　SI057炉……620
第811図　SI057出土遺物……620
第812図　SI058……621
第813図　SI059……621
第814図　SI059炉……622
第815図　SI059出土遺物……622
第816図　SI060……623
第817図　SI060炉……623
第818図　SI060出土遺物……623
第819図　SI061……624
第820図　SI061炉……624
第821図　SI061出土遺物……625
第822図　SI062……625
第823図　SI062出土遺物……626
第824図　SI063……626
第825図　SI063出土遺物……627
第826図　SI064……628
第827図　SI064炉……628
第828図　SI064出土遺物……629
第829図　SI065a……630
第830図　SI065a出土遺物……630
第831図　SI065b……630
第832図　SI065b出土遺物……631
第833図　SI066……631
第834図　SI067……632
第835図　SI067炉……632
第836図　SI067出土遺物……633
第837図　SI068……633
第838図　SI068炉……634
第839図　SI068出土遺物……634
第840図　SI069……635
第841図　SI069出土遺物……635
第842図　SI070……636
第843図　SI070炉……636
第844図　SI070P1……636
第845図　SI070出土遺物……637
第846図　SI071……637
第847図　SI071出土遺物……638
第848図　SI072……638
第849図　SI072炉……639
第850図　SI073……639
第851図　SI073炉……640
第852図　SI073出土遺物……640
第853図　SI074……641
第854図　SI074炉……641
第855図　SI075a・SI075b ……642
第856図　SI075a炉……642
第857図　SI075a出土遺物……642
第858図　SI076……643
第859図　SI077……644
第860図　SI077炉……644
第861図　SI077遺物出土状況 ……644
第862図　SI077出土遺物……645
第863図　SI078……646
第864図　SI078炉……647
第865図　SI078出土遺物……647
第866図　SI079・SI080 ……648
第867図　SI079出土遺物……648
第868図　SI080炉……648
第869図　SI081……649
第870図　SI081炉……649
第871図　SI081出土遺物……650
第872図　SI082・SI083 ……651
第873図　SI082炉……651
第874図　SI083炉……651
第875図　SI082出土遺物……652
第876図　SI083出土遺物……652
第877図　SI084……652
第878図　SI084炉……653
第879図　SI084出土遺物……653
第880図　SI085……654
第881図　SI085炉……654
第882図　SI086……655
第883図　SI086炉……656
第884図　SI086出土遺物……656
第885図　SD001・SD002……657
第886図　SD003・SD004……658
第887図　SD005……659
第888図　SK035……659
第889図　SK036 ～ SK041 ……661
第890図　SK042 ～ SK046 ……663
第891図　SK047 ～ SK052 ……665
第892図　SK053……666
第893図　SK053出土遺物 ……666
第894図　SK054 ～ SK056 ……667
第895図　SK057……668
第896図　SH017出土遺物 ……668
第897図　弥生時代遺構外出土遺物 ……669
第898図　SM001 ……670
第899図　SM002 ……671
第900図　SM003 ……672
第901図　SM004 ……673
第902図　SM004SK1 ……675
第903図　SM004SK1出土遺物（1）……676
第904図　SM004SK1出土遺物（2）……677
第905図　SM004SK1出土遺物（3）……678
第906図　SM004SK1出土遺物（4）……679
第907図　SM004SK1出土遺物（5）……680
第908図　SM004出土遺物 ……681
第909図　SM005 ……684
第910図　SM006 ……685
第911図　SM007 ……686
第912図　SM007出土遺物 ……687
第913図　SM008 ……688
第914図　SM008SK1 ……690
第915図　SM008SK2 ……690
第916図　SM008SK1出土遺物 ……691
第917図　SM008SK2出土遺物 ……692
第918図　SM008出土遺物 ……692
第919図　SM009 ……694
第920図　SM010 ……695
第921図　SM010SK1 ……696
第922図　SM010SK2 ……696
第923図　SM010SK1出土遺物 ……697
第924図　SM010出土遺物 ……698
第925図　SM011 ……699
第926図　SM011SK1 ……700
第927図　SM011SK1出土遺物 ……701
第928図　SM012 ……702
第929図　SM012出土遺物 ……703
第930図　SM013 ……704
第931図　SM013遺物出土状況……704
第932図　SM013出土遺物 ……705
第933図　SM014 ……706

第934図　SM014出土遺物 …… 706
第935図　SD006 …… 707
第936図　SD007 …… 708
第937図　SD008 …… 709
第938図　SK058 ～ SK063 …… 711
第939図　SK064 …… 712
第940図　SK064出土遺物 …… 712
第941図　SK065 ～ SK068 …… 713
第942図　SK069 …… 714
第943図　SK069出土遺物 …… 714
第944図　SK070・SK071 …… 715
第945図　古墳時代遺構外出土遺物 …… 715
第946図　SD009 …… 716
第947図　SD009出土遺物 …… 716
第948図　SK072 …… 717
第949図　SK072出土遺物 …… 717
第950図　SK073 …… 718
第951図　SK073出土遺物 …… 718

総　括
第952図　時期別遺構分布図（縄文時代） …… 720
第953図　時期別遺構分布図（弥生時代） …… 721
第954図　海保地区遺跡群　中期の土器変遷図（甕） …… 725
第955図　海保地区遺跡群　中期の土器変遷図
（壺・広口壺・甑） …… 726
第956図　海保地区遺跡群　中期の土器変遷図（広口壺） … 727
第957図　海保地区遺跡群　中期の土器変遷図（鉢・坩） … 728
第958図　海保地区遺跡群　中期の土器変遷図（高坏） … 729
第959図　海保地区遺跡群　中期の土器変遷図
（坏・平底鉢・その他） …… 730
第960図　海保地区遺跡群　中期の土器変遷図（須恵器） … 731
第961図　海保地区遺跡群　終末期の土器変遷図（甕） … 734
第962図　海保地区遺跡群　終末期の土器変遷図（甑） … 736
第963図　海保地区遺跡群　終末期の土器変遷図（鉢） … 737
第964図　海保地区遺跡群　終末期の土器変遷図（坏） … 738
第965図　海保地区遺跡群　終末期の土器変遷図（高坏） … 739
第966図　海保地区遺跡群　終末期の土器変遷図
（須恵器） …… 740
第967図　房総の終末期前方後方墳（１） …… 745
第968図　房総の終末期前方後方墳（２） …… 746
第969図　養老川流域の横穴式石室墳 …… 747
第970図　時期別遺構分布図（古墳時代中期０段階） …… 751
第971図　時期別遺構分布図（古墳時代中期１段階） …… 752
第972図　時期別遺構分布図（古墳時代中期２段階） …… 753
第973図　時期別遺構分布図（古墳時代中期３段階） …… 754
第974図　時期別遺構分布図（古墳時代中期４段階） …… 755
第975図　時期別遺構分布図（古墳時代終末期１段階） … 758
第976図　時期別遺構分布図（古墳時代終末期２段階） … 759
第977図　時期別遺構分布図（古墳時代終末期３段階） … 760
第978図　時期別遺構分布図（古墳時代終末期４段階） … 761
第979図　時期別遺構分布図
（７世紀末葉～８世紀初頭） …… 762
第980図　時期別遺構分布図（奈良・平安時代） …… 764
第981図　市原市域の主要な塚 …… 765
第982図　時期別遺構分布図（中・近世） …… 767

挿表目次

海保大塚遺跡

第213表　SI001出土土器観察表 …… 525
第214表　SK001出土土器観察表 …… 526
第215表　SK004出土土器観察表 …… 528
第216表　SK009出土土器観察表 …… 530
第217表　SK019出土土器観察表 …… 535
第218表　SK020出土土器観察表 …… 535
第219表　SK028出土土器観察表 …… 539
第220表　SK029出土土器観察表 …… 539
第221表　SK033出土土器観察表 …… 541
第222表　縄文時代遺構外出土土器観察表 …… 544
第223表　縄文時代遺構外出土石器観察表 …… 544
第224表　SI003出土土器観察表 …… 546
第225表　SI005出土土器観察表 …… 549
第226表　SI006出土土器観察表 …… 549
第227表　SI007出土土器観察表 …… 553
第228表　SI007出土土製品観察表 …… 553
第229表　SI008出土土器観察表 …… 555
第230表　SI010出土土器観察表 …… 557
第231表　SI010出土石製品観察表 …… 557
第232表　SI011出土土器観察表 …… 559
第233表　SI012出土土器観察表 …… 560
第234表　SI013出土土器観察表 …… 562
第235表　SI015出土石製品観察表 …… 565
第236表　SI016出土土器観察表 …… 566
第237表　SI017出土土器観察表 …… 568
第238表　SI018出土土器観察表 …… 569
第239表　SI019出土土器観察表 …… 571
第240表　SI022出土土器観察表 …… 574
第241表　SI023出土石器観察表 …… 575
第242表　SI024出土土器観察表 …… 576
第243表　SI025出土土器観察表 …… 578
第244表　SI026出土土器観察表 …… 579
第245表　SI027出土土器観察表 …… 581
第246表　SI030出土土器観察表 …… 584
第247表　SI031出土土器観察表 …… 586
第248表　SI031出土石器観察表 …… 586
第249表　SI032出土土器観察表 …… 587
第250表　SI033出土石製品観察表 …… 588
第251表　SI034出土土器観察表 …… 589
第252表　SI035出土土器観察表 …… 591
第253表　SI037出土土器観察表 …… 594
第254表　SI038出土土器観察表 …… 595
第255表　SI039出土土器観察表 …… 596
第256表　SI040出土土器観察表 …… 598
第257表　SI041出土土器観察表 …… 599
第258表　SI041出土石器観察表 …… 599
第259表　SI042a出土土器観察表 …… 602
第260表　SI045出土土器観察表 …… 604
第261表　SI048出土土器観察表 …… 608
第262表　SI051出土土器観察表 …… 611
第263表　SI052出土土器観察表 …… 613
第264表　SI055出土土器観察表 …… 616
第265表　SI056出土土器観察表 …… 618
第266表　SI056出土石器・石製品観察表 …… 618
第267表　SI057出土土器観察表 …… 620
第268表　SI059出土土器観察表 …… 622
第269表　SI060出土土器観察表 …… 623
第270表　SI061出土土器観察表 …… 625
第271表　SI062出土土器観察表 …… 626
第272表　SI063出土土器観察表 …… 627
第273表　SI063出土石器観察表 …… 627
第274表　SI064出土土器観察表 …… 629
第275表　SI065a出土土器観察表 …… 630
第276表　SI065b出土土器観察表 …… 631
第277表　SI065b出土石器観察表 …… 631
第278表　SI067出土土器観察表 …… 633
第279表　SI068出土土器観察表 …… 634
第280表　SI069出土土器観察表 …… 635
第281表　SI070出土土器観察表 …… 637
第282表　SI071出土土器観察表 …… 638
第283表　SI073出土土器観察表 …… 640
第284表　SI075a出土土器観察表 …… 643
第285表　SI077出土土器観察表 …… 646
第286表　SI077出土石器観察表 …… 646
第287表　SI078出土土器観察表 …… 647
第288表　SI079出土土器観察表 …… 648
第289表　SI081出土土器観察表 …… 650
第290表　SI082出土土器観察表 …… 652
第291表　SI083出土土器観察表 …… 652
第292表　SI084出土土器観察表 …… 653
第293表　SI086出土土器観察表 …… 656
第294表　SI086出土金属製品観察表 …… 656
第295表　SK053出土石器観察表 …… 666

第296表　SH017出土土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・668
第297表　弥生時代遺構外出土土器観察表・・・・・・・・・・・・669
第298表　SM004SK1出土玉類観察表・・・・・・・・・・・・・・681
第299表　SM004SK1出土金属製品観察表・・・・・・・・・・・・683
第300表　SM004SK1出土鉄鏃観察表・・・・・・・・・・・・・・683
第301表　SM004出土土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・683
第302表　SM007出土土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・687
第303表　SM008SK1出土鉄刀観察表・・・・・・・・・・・・・・693
第304表　SM008SK1出土鉄鏃観察表・・・・・・・・・・・・・・693
第305表　SM008SK1出土金属製品観察表・・・・・・・・・・・・693
第306表　SM008SK2出土鉄刀観察表・・・・・・・・・・・・・・693
第307表　SM008出土土製品観察表・・・・・・・・・・・・・・・693
第308表　SM010SK1出土鉄刀観察表・・・・・・・・・・・・・・698
第309表　SM010SK1出土鉄鏃観察表・・・・・・・・・・・・・・698
第310表　SM010出土土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・699
第311表　SM010出土石器・石製品観察表・・・・・・・・・・・699
第312表　SM011SK1出土鉄刀観察表・・・・・・・・・・・・・・701
第313表　SM011SK1出土鉄鏃観察表・・・・・・・・・・・・・・701
第314表　SM012出土土製品観察表・・・・・・・・・・・・・・・703
第315表　SM013出土土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・705
第316表　SM014出土土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・707
第317表　SK064出土土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・712
第318表　SK069出土土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・714
第319表　古墳時代遺構外出土土器観察表・・・・・・・・・・・715
第320表　SD009出土土製品観察表・・・・・・・・・・・・・・・717
第321表　SK072出土土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・717
第322表　SK073出土土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・718
第323表　ピット計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・718

総　括
第324表　海保地区遺跡群　古墳一覧表・・・・・・・・・・・・・742
第325表　養老川下流域の中期主要古墳一覧表・・・・・・・・・743
第326表　房総の終末期前方後方墳一覧表・・・・・・・・・・・744
第327表　養老川流域の横穴式石室墳一覧表・・・・・・・・・・748

第328表　海保西竹谷遺跡遺構名対照表・・・・・・・・・・・・・769
第329表　海保小谷作遺跡遺構名対照表・・・・・・・・・・・・・770
第330表　海保大塚遺跡遺構名対照表・・・・・・・・・・・・・・772

図版目次

海保西竹谷遺跡
図版1　SK001　北から
SK002　東から
SK003セクション　東から
SK004　南から
SK005　南から
SK006　東から
SK007　東から
SK008　東から
図版2　SK009　東から
SK010　南から
SK017　東から
SK017遺物出土状況　南から
SM001
図版3　SM001SK1　南から
SM001SK2　南西から
SM001SK3　東から
SM001SK4　北西から
SM002　西から
図版4　SM003　北西から
SM003
図版5　SM003検出状況
SM003後方部北西周溝セクション　北から
SM003前方部北西周溝セクション　南西から
SM003後方部南西周溝(埋没周溝)セクション　西から
SM003墳丘（後方部）北西側セクション　南西から
SM003北西周溝くびれ部付近　北西から
SM003SK2木棺部検出状況　東から
SM003SK2　東から
図版6　SM004　南から
SM004
図版7　SM004SK1・SK2　東から
SM004SK2石材散乱状況　南から
SM004SK1セクション北側　東から
SM004主体部掘り方検出状況　北から
SM004北西－南東セクション北西側　南西から
SM004北西－南東セクション南東側　南西から
SM004周溝セクション東側　南から
SM004周溝セクション南側　東から
図版8　SI001　南から
SI001カマド　南から
SI002　南から
SI002カマド　南から
SI003　南から
SI003カマド　南から
SI004　南から
SI005　東から
図版9　SI005カマド　東から
SI006　南から
SI006カマド　南から
SI007　東から
SI007カマド　東から
SI008　南から
SI008カマド　南から
SI009　東から
図版10　SI009カマド　東から
SI010　南東から
SI010カマド　南から
SI010鉄製鋤先出土状況　西から
SI011　東から
SI011カマド　東から
SI012　東から
SI012カマド　東から
図版11　SI012遺物出土状況　南東から
SI013　東から
SI014　南から
SI014カマド　南から
SI014遺物出土状況　南西から
SI015・SI016　東から
SI016カマド　東から
SI017　東から
図版12　SI017カマド　東から
SI018　東から
SI018カマド　東から
SB001　東から
SK021　南から
SM005　東から
SM005SK1　南から
SM006　南から
図版13　SM006SK1　東から
SM006遺物出土状況　南から
SD001南側　北から
SD002　南から
SD002南側　北西から
SD002・SD003・SD016　西から
SD004南側　南から
図版14　SD005　西から
SD006硬化面検出状況　北東から
SD007・SD008　西から
SD009　南から
SD010　南から
SK026　東から
SK026　北から
SK027　北から
図版15　SK028　北から
SK029　北から
SK030　西から
SK036　北から
SK037セクション　東から
SK038　東から
SK054セクション　南東から
SK056焼土検出状況　東から

図版16　SM007　東から
SM007セクション　東から
SM007SK1セクション　東から
SM007SK1　東から
SM007SK2銭貨出土状況　西から
SM007SK2数珠１・２出土状況　西から
SM007SK2数珠２出土状況　西から
SM007SK2数珠３出土状況　西から
図版17　SM007SK2整地層　西から
SM007SK2かわらけ出土状況　西から
SM007SK2六道銭出土状況　西から
SD012　東から
SD013　南から
SD014硬化面検出状況　西から
SD015　南から
SK064　北から
図版18　縄文時代出土土器
縄文時代遺構外出土石器
図版19　古墳時代出土土器（１）
図版20　古墳時代出土土器（２）
図版21　古墳時代出土土器（３）
図版22　古墳時代出土土器（４）
図版23　古墳時代出土土器（５）
図版24　古墳時代出土土器（６）
図版25　古墳時代出土土器（７）
図版26　古墳時代出土土器（８）
図版27　古墳時代出土土製品
古墳時代出土石器・石製品
図版28　古墳時代出土玉類
古墳時代出土金属製品
奈良・平安時代出土土器
図版29　奈良・平安時代出土土製品
中・近世出土土器
中・近世SM007出土銭貨
図版30　中・近世SM007出土数珠

海保小谷作遺跡
図版31　調査区北側（Ｅ区Ｓ～Ｖ付近）全景
調査区北側（Ｅ区Ｗ～Ｈ区Ｃ付近）全景
図版32　調査区中央（Ｈ区Ｂ～Ｆ付近）全景
SK001　南から
SK002　北から
SK003　南西から
SK004　北から
図版33　SK005　南から
SK006　南から
SK007　南から
SK008　南から
SK009　南から
SK010　南から
SI001　西から
SI002　東から
図版34　SI003　南から
SI004　南から
SI005　南から
SI006　南から
SI006炉焼土・炭化物検出状況　南から
SI007　南から
SI008　南から
SI009　南から
図版35　SI010　南から
SI011　南から
SI011遺物出土状況　南から
SI012　南から
SI013　南から
SI013炉　南から
SI013遺物出土状況　西から
SI014　南から
図版36　SI014遺物出土状況　東から
SI016　北西から
SI016遺物出土状況　西から
SI017　北から
SI018　北から
SI019　南から
SI020　南から
SI021　東から
図版37　SI021炉１　東から
SI022a　南から
SI022b　南から
SI023　北から
SI024　北から
SI025　北から
SI026　北西から
SI027　南から
図版38　SI029　南から
SI030　南から
SI031　南から
SI032　南から
SI033　南から
SI034　南から
SI035　南から
SI036　南から
図版39　SI037　南西から
SI038　南から
SI039　西から
SI040　西から
SI041　南から
SI041遺物出土状況　南から
SI042　南から
SI043　北から
図版40　SI044　南から
SI044炉　西から
SI044遺物出土状況　南西から
SI045焼土・炭化材検出状況　南から
SI045　東から
SI045炉　西から
SI046　南東から
SI047　南から
図版41　SI048　北から
SI050　南から
SI051　南から
SI052　南西から
SI053　南から
SI054　東から
SI055　南西から
SI056　南から
図版42　SI057　南から
SI058　南から
SI059　東から
SI060　東から
SI060遺物出土状況　西から
SI061　東から
SI062　東から
SI063　南西から
図版43　SI064　南から
SI065　南から
SI066　南から
SI067　南から
SI068　南から
SI068遺物出土状況　北から
SI069　南から
SI069遺物出土状況　南から
図版44　SI070　南から
SI070遺物出土状況　北西から
SI071　西から
SI071炉　南から
SI072　南から
SI073　南から
SI073SK1遺物出土状況　西から
SI073炉　東から
図版45　SI074　南から
SI075　東から
SI076　南から
SI077　南から
SI078　南から
SI078遺物出土状況　西から

SD001　南から
SH219遺物出土状況　西から
図版46　調査区南側（H区Ｊ～Ｓ付近）全景
調査区南側（H区Ｌ～Ｓ付近）全景　南から
図版47　SM001　南西から
SM001北周溝セクション　西から
SM002　北から
SM002北西周溝セクション　南から
SM003　南から
SM003東周溝セクション　北から
SM003遺物出土状況　北から
SM004北東周溝セクション　南から
図版48　SM005 ～ SM007　北から
SM005
図版49　SM005盛土セクション　南西から
SM005SK1副葬品出土状況　北西から
SM005SK1　北西から
SM005SK2　北から
SM005SK3副葬品出土状況　北西から
SM005SK3　南東から
SM005北側周溝遺物出土状況１　北東から
SM005北側周溝遺物出土状況２　北東から
図版50　SM005北西側周溝遺物出土状況１　北東から
SM005北西側周溝遺物出土状況２　西から
SM005北西側周溝遺物出土状況３　南西から
SM005北西側周溝遺物出土状況４　南東から
SM006
図版51　SM006SK1a・b　南から
SM006SK1a・b掘り方　南から
SM007
SM007盛土セクション南側　南東から
SM007盛土セクション北側　北東から
図版52　SM007盛土セクション西側　北西から
SM007盛土セクション東側　北東から
SM007北側周溝セクション　東から
SM007西側セクション　北から
SM007SK1検出状況　東から
図版53　SM007SK1セクション　東から
SM007SK1　東から
SM008
SM008硬化面検出状況　北から
SM008東周溝セクション　南から
図版54　SM008西周溝セクション　南から
SM008遺物出土状況　西から
SM009
SM009南側周溝セクション　東から
SM009北側周溝セクション　東から
図版55　SM010 ～ SM013
SM010東側周溝セクション　南から
SM010南側周溝セクション　東から
SM011南側周溝セクション　東から
SM011遺物出土状況　北東から
図版56　SM012北側周溝セクション　東から
SM012南側周溝セクション　東から
SM012遺物出土状況　南から
SM013東側周溝セクション　南から
SM013SK1セクション　南東から
SM013SK1　南東から
SI079　南から
SI080　南から
図版57　SI080カマド　南から
SI081　西から
SI082　南から
SI082カマド　南から
SI083　南から
SI084　南から
SI084炉　北から
SI085　南から
図版58　SI086　南から
SI087　南から
SI088　南から
SI089・SI015（奥）　西から
SI090　西から
SI091焼土・炭化材検出状況　南東から
SI091　南東から
SI091遺物出土状況　東から
図版59　SI092　南西から
SI094　北から
SI095　南から
SI095遺物出土状況　東から
SI096　北東から
SI097　南から
SI098　南から
SI098遺物出土状況　西から
図版60　SI098カマド　南から
SI099　南から
SI100　南から
SI100カマド　南から
SI101　西から
SI102　南西から
SI103　南から
SI104　南西から
図版61　SI105　南から
SI105カマド　南から
SI106　南から
SI107　南から
SI107遺物出土状況　南から
SI108　南から
SI108遺物出土状況　南から
SI108SK1遺物出土状況　北から
図版62　SI109　南西から
SI110　東から
SI110カマド　東から
SI111　北から
SI111遺物出土状況　南から
SI112　西から
SI112遺物出土状況　西から
SI113　西から
図版63　SI114　西から
SI114炭化米出土状況　東から
SI115　南から
SI115カマド　南から
SI116　南から
SI116カマド　南から
SI117　北から
SI117遺物出土状況　西から
図版64　SI118　南から
SI118カマド　南から
SI119　北から
SI119遺物出土状況　西から
SI120・SI049（奥）　南から
SI120SK1　南から
SI120遺物出土状況　西から
SI121　南から
図版65　SI121遺物出土状況　西から
SI121P3遺物出土状況　南西から
SI122　東から
SI122遺物出土状況１　東から
SI122遺物出土状況２　東から
SI123　北から
SI123遺物出土状況　北から
SI124　南東から
図版66　SI124カマド　南東から
SI125　東から
SI126　南から
SI126P4遺物出土状況　南から
SI127　南から
SI127カマド　南から
SI127カマド遺物出土状況　南から
SI127カマド脇遺物出土状況　南から
図版67　SI128　南から
SI129　南から
SI129カマド　南から
SI130掘り方　南西から
SI131　南から
SI132　南から

SI133炭化材検出状況　南から
SI133　南から
図版68　SI133カマド　南西から
SI134　南から
SD003　西から
SD004　北から
SD005　南西から
SD006　南から
SK015　南から
SK016　南から
図版69　SK017　西から
SK018　南から
SK019　北から
SK020　南から
SK021遺物出土状況　北から
SK021　北から
SK022遺物出土状況　西から
SK023　南から
図版70　SK023遺物出土状況　北から
SK024　北から
SK025　南から
SK026　西から
SK027　南から
SK028　南から
SK029　北から
SK030　南から
図版71　SK031　東から
SK032　南西から
SK033　南から
SK034　南から
SK035　南から
SK036　南から
SK037　南から
SK038（奥）・SK039　西から
図版72　SK040　北東から
SK041　北東から
SK042　西から
SK043　西から
SK044　西から
SK045遺物出土状況　南から
SK046　東から
SK047　南から
図版73　SK048　西から
SK049　南から
SK050　南から
SK051　東から
SK052　西から
SK053　南西から
SK054　南東から
SK055　南から
図版74　SK057　南東から
SK058セクション　南から
SK059（右）・SK060　南から
SK061　南から
SK062　西から
SK063　南から
SK064　北東から
SK065　南西から
図版75　SK066　東から
SK067　南から
SK068　南から
SK069　南から
SK070　南から
SK071　南から
SK072　南西から
SH108遺物出土状況　南から
図版76　SD007（E区12S･13Tグリッド付近）　南から
SD007硬化面検出状況　南から
SD007（H区13Bグリッド付近）　北西から
SD007（H区19Lグリッド付近）　北から
SD007（H区20Mグリッド付近）　北から
SD007（H区21N・21Oグリッド付近）　北から
SD007（H区21Pグリッド付近）　北から
SD007（H区22Rグリッド付近）　北から
図版77　SD007セクション　南から
SD008　東から
SD009　西から
SD010　西から
SD011　西から
SD012～SD014　西から
SD014　西から
SD015　南から
図版78　SD016　南西から
SD017　西から
SD018　北から
SK073　西から
SK074　南から
SK075　南から
SK076　南から
SK077　西から
図版79　SK078　西から
SK081　南東から
SK082　東から
SK083　東から
SK084　東から
SK085　東から
SK086　南西から
SK087　東から
図版80　SK088　南東から
SK089　北から
SK090　西から
SK091　西から
SM014
図版81　SD019　南から
SD020　南西から
SD021　北から
SK092　西から
SK093　南東から
SK094　南から
SK095　北から
SK096　南から
図版82　SK097　北から
SK098　北から
SK099　北西から
SK100　南から
SK101　北東から
SK102　西から
SK103　南から
SK104　南東から
図版83　SK105　南から
SK106　東から
SK107　南から
SK108　東から
SK109　東から
SK110　南から
SK111　北東から
SK112　東から
図版84　SK113　南東から
SK114　北から
SK115　南から
SK116　北から
SK117　南から
SK118　西から
SK119　南から
SK120　北西から
図版85　SK121　南西から
SK122　西から
SK123　西から
SK124　南から
SK125　南から
SK126　北から
SK127　東から
SK128　東から
図版86　SK129　西から
SK130　西から
SK131　南から

SK132　南から
SK133　東から
SK134　南西から
SK135セクション　南西から
SK136　南東から
図版87　SK137　南から
SK138　南から
SK139　南から
SK140　南から
SK141　南から
SK142　北から
SK143　東から
SK144　南から
図版88　縄文時代遺構外出土遺物
弥生時代出土土器（1）
図版89　弥生時代出土土器（2）
図版90　弥生時代出土土器（3）
図版91　弥生時代出土土器（4）
図版92　弥生時代出土土器（5）
図版93　弥生時代出土土器（6）
図版94　弥生時代出土土器（7）
弥生時代出土土製品
弥生時代出土玉類
弥生時代出土石器
図版95　古墳時代出土土器（1）
図版96　古墳時代出土土器（2）
図版97　古墳時代出土土器（3）
図版98　古墳時代出土土器（4）
図版99　古墳時代出土土器（5）
図版100　古墳時代出土土器（6）
図版101　古墳時代出土土器（7）
図版102　古墳時代出土土器（8）
図版103　古墳時代出土土器（9）
図版104　古墳時代出土土器（10）
図版105　古墳時代出土土器（11）
図版106　古墳時代出土土器（12）
図版107　古墳時代出土土器（13）
図版108　古墳時代出土土器（14）
図版109　古墳時代出土土器（15）
図版110　古墳時代出土土器（16）
図版111　古墳時代出土土器（17）
図版112　古墳時代出土土器（18）
古墳時代出土土製品
図版113　古墳時代出土石器・石製品
古墳時代出土玉類
古墳時代出土金属製品
古墳時代出土鉄刀
図版114　古墳時代SM005SK1出土鉄鏃
図版115　古墳時代SM005SK1出土玉類
古墳時代SM011出土鉄鏃
古墳時代SM012出土鉄鏃
図版116　奈良・平安時代出土土器
中・近世出土遺物

海保大塚遺跡
図版117　調査区西側（E区5・6付近）全景
調査区東側（E区7・8付近）全景
図版118　SI001　北から
SK001　西から
SK001遺物出土状況　北から
SK002　北西から
SK004　北から
SK004遺物出土状況　西から
SK005　西から
SK007　東から
図版119　SK008　北から
SK009　北西から
SK011　東から
SK014　東から
SK015　南から
SK017　北東から
SK018　南から
SK019遺物出土状況　西から
図版120　SK019　南から
SK020　南東から
SK021　東から
SK022　西から
SK023　西から
SK024遺物出土状況　南から
SK024　南から
SK025　西から
図版121　SK026　西から
SK027　東から
SK028　東から
SK029　西から
SK030　南から
SK031　南東から
SK033　東から
SK034　東から
図版122　SI002　南東から
SI003　南から
SI004　南から
SI005　南東から
SI006　東から
SI007　南から
SI007遺物出土状況　北から
SI008・SI009　南から
図版123　SI010　南から
SI011　南東から
SI012　南から
SI013　東から
SI014　南東から
SI016　南東から
SI017　南東から
SI018　南西から
図版124　SI019　東から
SI019炉　南西から
SI020　南から
SI021・SI022　南から
SI023　南東から
SI024　南東から
SI025・SI026　南から
SI027　南から
図版125　SI028　南から
SI028炉1　東から
SI029　南西から
SI030　南から
SI031　南東から
SI032　南東から
SI033　南東から
SI034　南西から
図版126　SI035　東から
SI036　南から
SI037　南東から
SI037炉　南から
SI037遺物出土状況1　北から
SI037遺物出土状況2　北から
SI038　南から
SI039　南東から
図版127　SI040　南から
SI041　南から
SI042a・b　南から
SI042a遺物出土状況　北東から
SI043炉　南から
SI044　東から
SI045　南から
SI046　南から
図版128　SI047a　西から
SI047b　西から
SI048　南東から
SI048遺物出土状況　南から
SI049炉　東から
SI050　南から
SI051　東から
SI052　南東から
図版129　SI053　南から

SI054　東から
SI055炭化材検出状況　東から
SI055遺物出土状況　東から
SI056　東から
SI057　東から
SI057遺物出土状況　西から
SI059　南から
図版130 SI059炉　東から
SI060・SI061　南から
SI062　南から
SI063　南から
SI064　南から
SI065a　東から
SI065a遺物出土状況　東から
SI065a粘土検出状況　南から
図版131 SI065b　東から
SI066　東から
SI067　東から
SI067遺物出土状況　西から
SI068　東から
SI069　南東から
SI070焼土・遺物出土状況　南から
SI071　西から
図版132 SI071遺物出土状況　西から
SI072　東から
SI072P2遺物出土状況　南から
SI072粘土検出状況　南から
SI073　東から
SI074　西から
SI075a・b　南から
SI075a遺物出土状況　南から
図版133 SI076　北から
SI077・SI078　南から
SI079 ～ SI081　南から
SI082・SI083　南から
SI084　西から
SI085　西から
SI086　西から
SI086炉　南西から
図版134 SD002　東から
SD002セクション　東から
SD003　南西から
SD004　西から
SK035　北から
SK036　南から
SK037　南から
SK038　北西から
図版135 SK039　西から
SK040　南から
SK041　東から
SK043　北東から
SK044　南東から
SK045　東から
SK046　南から
SK047　西から
図版136 SK048　東から
SK049　西から
SK052　西から
SK053　南から
SK054　西から
SK055　西から
SK056　南から
SK057　南から
図版137 SM001　南西から
SM001南周溝セクション　東から
SM002　南西から
SM003　南東から
SM004　南西から
図版138 SM004SK1遺物出土状況１　東から
SM004SK1遺物出土状況２　南東から
SM004SK1セクション　東から
SM004東周溝セクション　南から
SM005　西から
図版139 SM006・SM008・SM010　南から
SM006　西から
SM006北周溝セクション　東から
SM007　北東から
SM007北周溝セクション　東から
図版140 SM007
SM008　南東から
図版141 SM008SK1遺物出土状況　南東から
SM008SK2遺物出土状況　北西から
図版142 SM008SK1・SK2検出状況　東から
SM008北周溝セクション　東から
SM008東周溝セクション　南から
SM008西周溝セクション　南から
SM010　西から
SM010遺物出土状況　西から
SM010北周溝セクション　東から
SM010SK2　南東から
図版143 SM010SK1　東から
SM011　南東から
図版144 SM011SK1遺物出土状況１　東から
SM011SK1遺物出土状況２　南東から
SM012・SM013
SM012北東周溝・SM013南西周溝セクション 南から
SM013遺物出土状況　東から
図版145 SM014　南から
SM014南西周溝　西から
SM014遺物出土状況　西から
SM014北東周溝セクション　南から
SD006　東から
SK058　南東から
SK059　東から
SK060　北東から
図版146 SK061　東から
SK062　南西から
SK063　南東から
SK064　南から
SK065　西から
SK066　南から
SK067　東から
SK068　北東から
図版147 SK069　南から
SK069遺物出土状況　東から
SK070　西から
SK071　西から
SD009（E区7J ～ 7K付近）　南から
SD009（E区7K ～ 8K付近）　南から
SK072　南から
SK073　南から
図版148 縄文時代出土土器
図版149 縄文時代遺構外出土石器
弥生時代出土土器（１）
図版150 弥生時代出土土器（２）
図版151 弥生時代出土土器（３）
図版152 弥生時代出土土器（４）
図版153 弥生時代出土土器（５）
図版154 弥生時代出土土器（６）
図版155 弥生時代出土土器（７）
弥生時代出土土製品
弥生時代出土金属製品
弥生時代出土石器・石製品
図版156 古墳時代出土土器
古墳時代出土土製品
図版157 古墳時代出土石器・石製品
古墳時代出土金属製品
古墳時代出土直刀
図版158 古墳時代SM004SK1出土玉類
図版159 古墳時代SM004SK1出土金属製品
図版160 古墳時代SM004SK1出土鉄鏃
古墳時代SM008SK1出土鉄鏃
古墳時代SM010SK1出土鉄鏃
古墳時代SM011SK1出土鉄鏃
奈良・平安時代出土土器
奈良・平安時代出土土製品

第４章　海保大塚遺跡

本調査区は、北西－南東方向に伸びる痩せ尾根上に立地し、調査区の中央が狭小な平坦面となり、縄文時代～奈良・平安時代にかけての遺構・遺物が検出されている。遺構の立地によっては、斜面側が土砂の流失により消失しているものが多い。

縄文時代の遺構は竪穴建物１棟、炉穴26基、土坑８基である。炉穴は早期前半～後半のものと考えられる。遺構の分布は調査区北側を中心としている。本来は、南側まで広がっていたと想定されるが、弥生時代や古墳時代の遺構が密集して構築された結果、遺構が消失していると考えられる。

弥生時代の遺構は後期～終末期の竪穴建物85棟、溝５条、土坑23基が検出されている。竪穴建物は調査区北側の斜面部を除くほぼ全面に分布し、斜面にも竪穴建物が構築されるが、平坦面は特に密

第647図　海保大塚遺跡遺構配置図

集して構築され、建物によっては重複の結果、壁が消失し残存する周溝により存在が確認されたほどである。

古墳時代の遺構は、中期の古墳７基、後期～終末期の古墳４基、また詳細な時期は不明ながら調査区外に墳丘を有する古墳の周溝の一部、溝３条、土坑14基である。古墳は調査区中央の平坦面から南側の斜面にかけて分布している。後期～終末期の方墳（SM004）の埋葬施設からは水晶切子玉や棗玉、多数のガラス小玉が副葬品として出土している。竪穴建物は検出されておらず、古墳時代の本調査区は墓域としてのみ利用されていたと考えられる。

奈良・平安時代の遺構は溝１条、土坑２基が検出されている。SK072・SK073はいわゆる有天井土坑である。

上記の遺構のほか、33基のピットが検出されている。計測値をまとめた第323表をもって報告に代える。

第１節　縄文時代

１．竪穴建物

SI001（第648・649図、第213表、図版118・148）

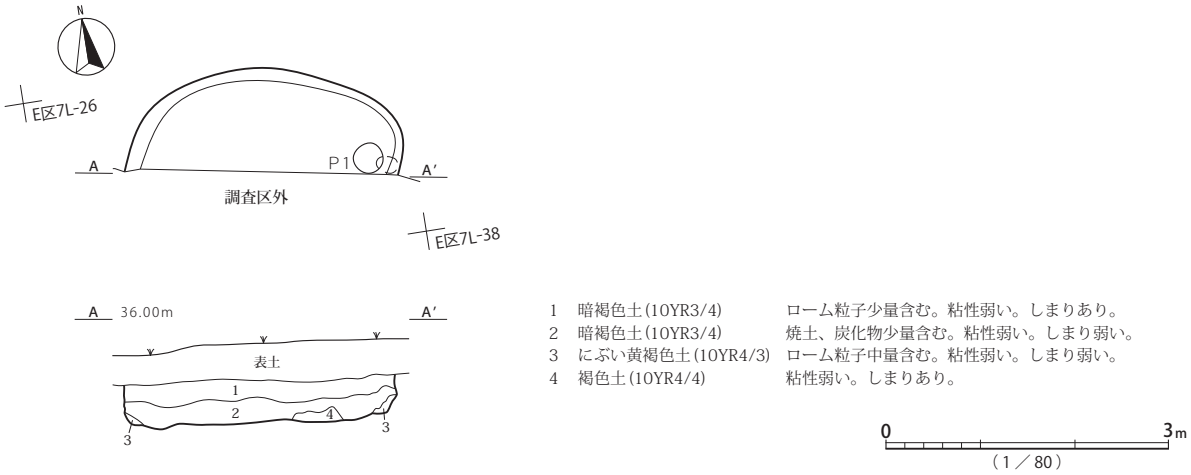
位置：Ｅ区７Ｌ-27グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。南側は調査区外へ伸びる。**規模：**南北方向を主軸と推定し（1.16）m、副軸（2.96）m、確認面からの深度0.48ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ－９°－Ｅ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが１基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。

時期：出土遺物から縄文時代中期初頭と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。規模・平面形態から竪穴建物と判断した。調査区南壁面の土層観察では、ローム漸移層からの掘り込みを確認している。

遺物：縄文土器2,126.4g、石器・石製品19.00g、土器223.8gが出土した。

１は波状口縁を有する深鉢で、内外面に貝殻条痕文が施される。２は口唇部に棒状工具による刺突文、口縁部外面には貝殻条痕文、内面には擦痕が施される。３は外面に沈線文が施される。



第648図　SI001

第649図　SI001出土遺物

第213表　SI001出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[9.4] 最大径：　－	外面：貝殻条痕文 内面：貝殻条痕文	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：にぶい褐 残存度：口縁部の破片	縄文早期後半、条痕文系
2	縄文土器 深鉢	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.0] 最大径：　－	外面：口唇部刺突文、口縁部貝殻条痕文 内面：擦痕	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：にぶい黄褐 残存度：口縁部の破片	縄文早期後半、条痕文系
3	縄文土器 深鉢	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[5.3] 最大径：　－	外面：集合沈線文	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：にぶい黄褐 残存度：胴部の破片	縄文中期初頭、五領ヶ台式か

2．炉　穴

炉穴とは断定するには疑わしいものも含んでいるが、被熱痕の検出や出土遺物から縄文時代早期の炉穴と考えられる。そのため、各遺構の時期は記載を省略した。

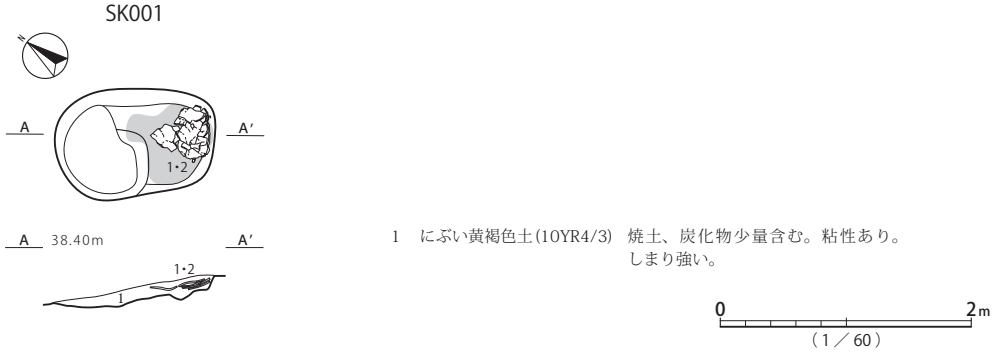
SK001（第650・651図、第214表、図版118・148）

位置：E区7Ⅰ-64グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.38m、短軸0.88m、確認面からの深度0.27m。**長軸方位：**N-40°-W。**形態：**楕円形、底面は段差があり、地形に沿って北西側に下がる。壁面は緩やかに立ち上がる。

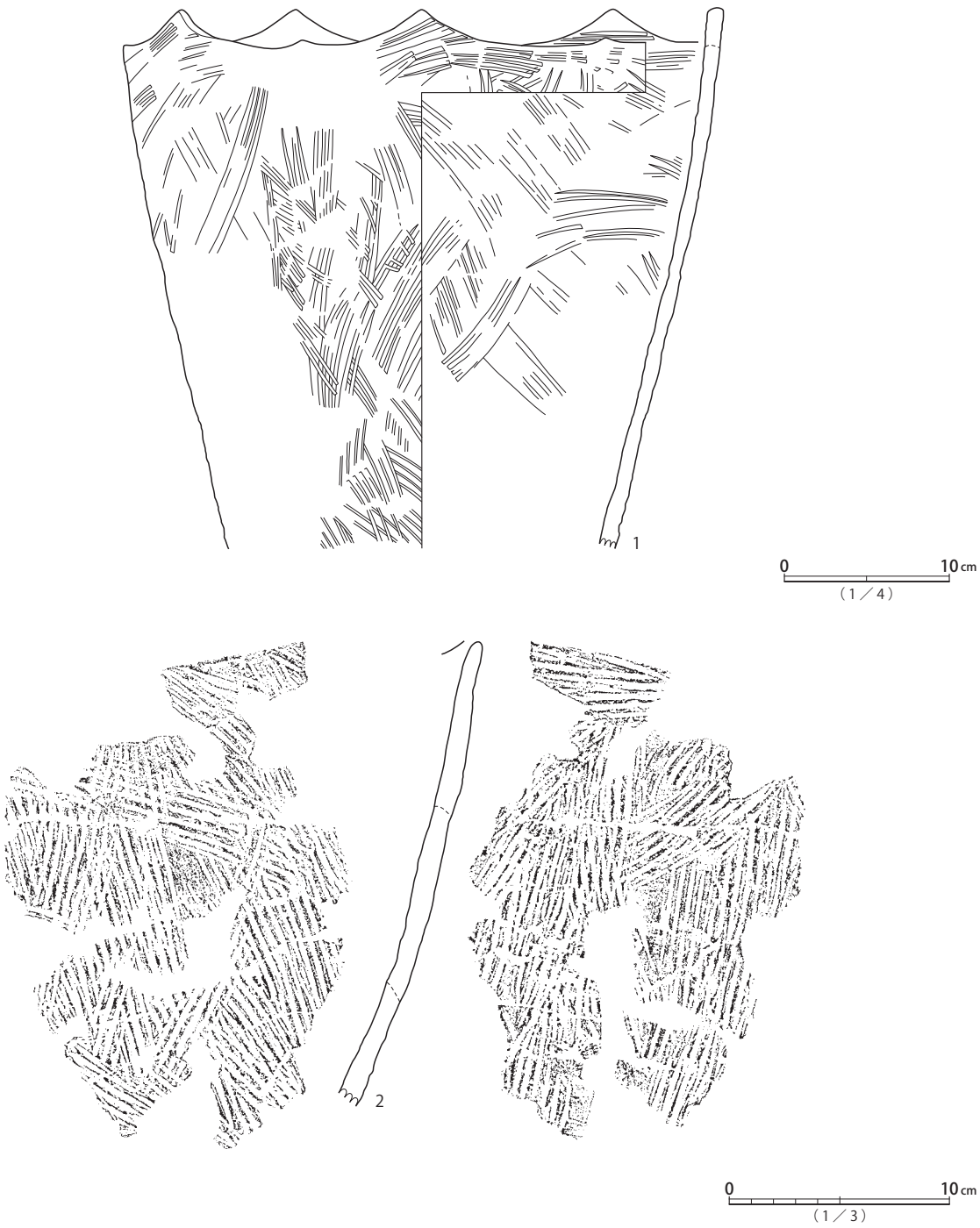
所見：燃焼面は底面南東側の上段で1箇所確認され、直上から深鉢が出土している。

遺物：縄文土器2,866.9gが出土した。

1は波状口縁を有する深鉢である。頂部には高低の別があり、復元によりそれぞれ5単位となることが推測される。内外面には貝殻条痕文が施されている。2も内外面に貝殻条痕文の施される深鉢である。



第650図　SK001



第651図　SK001出土遺物

第214表　SK001出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	縄文土器 深鉢	底面	口　径：(36.1) 底　径：　－ 器　高：[32.5] 最大径：　－	特徴：波状口縁 外面：貝殻条痕文 内面：貝殻条痕文	胎　土：白色粒・石英・長石 焼　成：普通 色　調：にぶい黄褐 残存度：口縁部～胴部の2/3	縄文早期後半、野島式か
2	縄文土器 深鉢	底面	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[21.1] 最大径：　－	外面：貝殻条痕文 内面：貝殻条痕文	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：にぶい黄褐 残存度：口縁部～胴部の1/3	縄文早期後半、条痕文系

SK002（第652図、図版118）

位置：Ｅ区７Ｉ-72グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.84ｍ、短軸0.52ｍ、確認面からの深度0.12ｍ。**長軸方位：**Ｎ-47°-Ｅ。**形態：**小判形。底面は平坦で壁面はわずかに立ち上がる。

所見：燃焼面は底面南西側で１箇所確認された。

遺物：出土していない。

SK003（第652図）

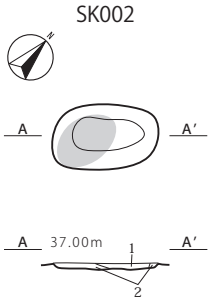
位置：Ｅ区７Ｉ-72グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.50ｍ、短軸0.44ｍ、確認面からの深度0.12ｍ。**長軸方位：**Ｎ-47°-Ｅ。**形態：**不整円形、底面は平坦で壁面はわずかに立ち上がる。

所見：燃焼面は認められなかったが周囲に炉穴が多数検出されていること、覆土中に焼土を含むことから炉穴と考えられる。

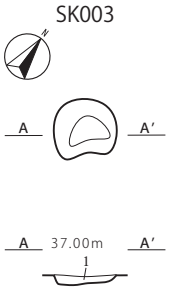
遺物：出土していない。

SK004（第652・653図、第215表、図版118・148）

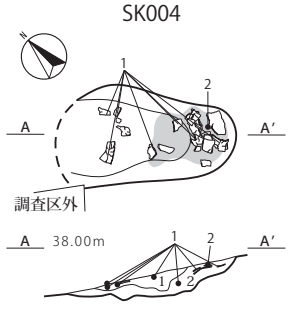
位置：Ｅ区７Ｉ-72グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.28ｍ、短軸0.78ｍ、確認面からの深度0.35ｍ。**長軸方位：**Ｎ-45°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は起伏があり壁面は緩やかに立ち上がる。



1　明赤褐色土(2.5YR5/6)　にぶい黄褐色土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土少量、ローム粒子、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　黒褐色土(7.5YR3/2)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～10mm、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。

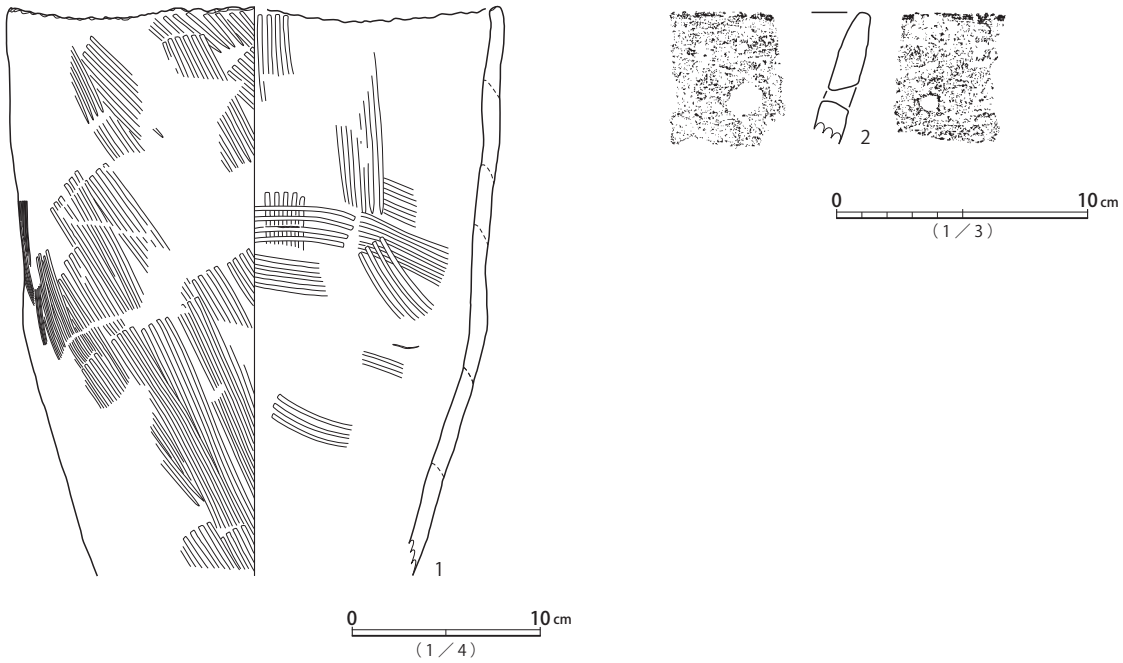
0　2m
（1／60）

第652図　SK002 ～ SK004

所見：燃焼面は底面南東側で１箇所確認された。覆土中から深鉢が出土している。

遺物：縄文土器1,547.6gが出土した。

１は４単位の波状口縁を有する深鉢である。口唇部には刺突文が、内外面には貝殻条痕文が施される。２は胴上部に円孔が施される。



第653図　SK004出土遺物

第215表　SK004出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土上層	口　径：(25.8) 底　径：　－ 器　高：[30.1] 最大径：　－	特徴：波状口縁 外面：口唇部刺突文、口縁部～胴部貝殻条痕文 内面：貝殻条痕文	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～胴部下半の1/2	縄文早期後半、野島式か
2	縄文土器 深鉢	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[5.2] 最大径：　－	外面：擦痕 内面：貝殻条痕文	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	縄文早期後半、条痕文系か

SK005（第654図、図版118）

位置：Ｅ区７Ｉ-91グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.92ｍ、短軸0.74ｍ、確認面からの深度0.19ｍ。**長軸方位：**Ｎ－９°－Ｗ。**形態：**楕円形、底面は起伏があり壁面は緩やかに立ち上がる。

所見：底面南側でわずかにみられる被熱部が燃焼面と推測される。

遺物：出土していない。

SK006（第654図）

位置：Ｅ区７Ｉ-85グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。東側の一部は撹乱される。**規模：**長軸1.30ｍ、短軸0.64ｍ、確認面からの深度0.30ｍ。**長軸方位：**Ｎ-67°－Ｗ。**形態：**楕円形、底面は落ち込みが２箇所あり、壁面は緩やかに立ち上がる。

所見：燃焼面と考えられる被熱部は確認されなかったが、覆土中に焼土層が認められ、壁面が一部被熱していることから炉穴と考えられる。

遺物：縄文土器6.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK007（第654図、図版118）

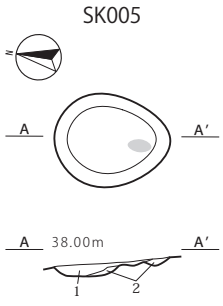
位置：Ｅ区７Ｉ-95グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。南側の一部は削平される。**規模：**長軸1.07ｍ、短軸0.61ｍ、確認面からの深度0.13ｍ。**長軸方位：**Ｎ-25°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

所見：燃焼面は底面北東側で１箇所確認された。

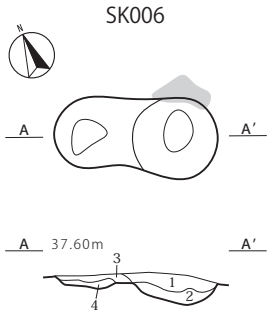
遺物：出土していない。

SK008（第654図、図版119）

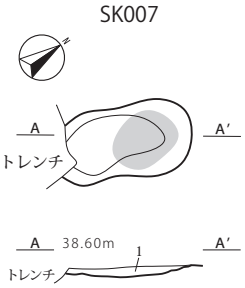
位置：Ｅ区７Ｊ-06グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.88ｍ、短軸0.56ｍ、確認面からの深度0.19ｍ。**長軸方位：**Ｎ-42°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかである。



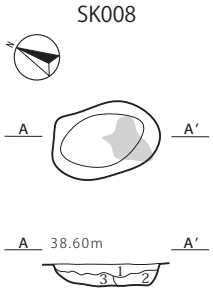
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。



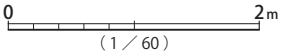
1　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子多量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ローム粒子多量、ロームブロックφ20～50mm中量含む。粘性あり。しまり弱い。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　褐色土(7.5YR4/3)　焼土ブロックφ５～30mm、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(7.5YR3/4)　焼土中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(7.5YR3/4)　焼土微量含む。粘性あり。粘性あり。しまり強い。



第654図　SK005 ～ SK008

所見：燃焼面は底面南西側で１箇所確認された。

遺物：出土していない。

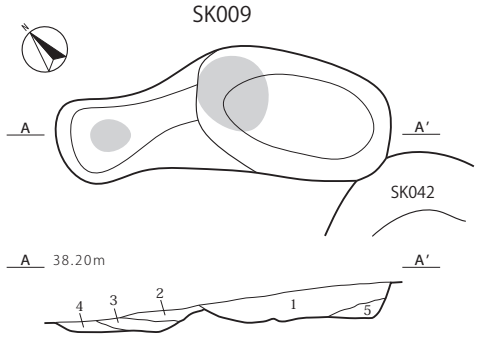
SK009（第655・656図、第216表、図版119・148）

位置：Ｅ区６Ｊ-29グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.66ｍ、短軸１.00ｍ、確認面からの深度0.47ｍ。**長軸方位：**Ｎ-50°-Ｗ。**形態：**隅丸長方形、底面は落ち込みが２箇所あり、壁面は緩やかに立ち上がる。

所見：燃焼面は底面中央と北西側で２箇所確認された。

遺物：縄文土器104.3gが出土した。

１は口縁部の破片であり、撚糸文Ｒが施される。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　にぶい赤褐色土(5YR4/4)　焼土中量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(7.5YR4/6)　ローム粒子少量、焼土中量。粘性あり。しまり強い。
5　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子多量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第655図　SK009

0　10cm
（1／3）

第656図　SK009出土遺物

第216表　SK009出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	縄文土器深鉢	覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.3] 最大径：　－	外面：撚糸文（R）	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：にぶい黄橙 残存度：口縁部の破片	縄文早期前半、撚糸文系

SK010（第657図）

位置：Ｅ区６Ｊ-29グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.78ｍ、短軸0.90ｍ、確認面からの深度0.40ｍ。**長軸方位：**Ｎ-72°-Ｗ。**形態：**長楕円形、底面は南東側が皿状に落ち込む。壁面は漏斗状である。

所見：燃焼面は底面南東側で１箇所確認された。

遺物：縄文土器49.7gのほか土器15.0gが混入しているが、小破片のため図示していない。

SK011（第657図、図版119）

位置：E区7Ｊ-23グリッドを中心に位置する。**重複：**SH005に切られる。**規模：**長軸（1.25）m、短軸1.05m、確認面からの深度0.16m。**長軸方位：**N-33°-W。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

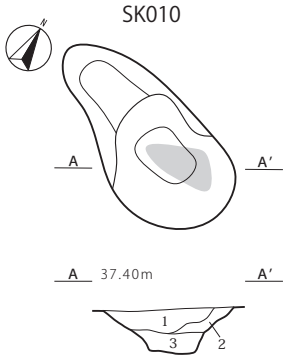
所見：底面北側で検出された被熱部分が燃焼面と考えられる。

遺物：縄文土器37.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

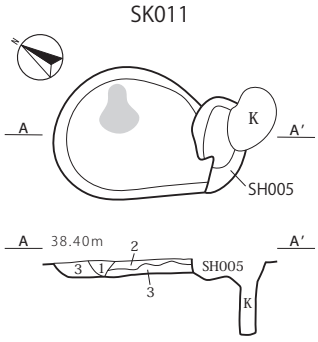
SK012（第657図）

位置：E区7Ｊ-13グリッドを中心に位置する。**重複：**SI005に切られる。**規模：**長軸0.76m、短軸0.74m、確認面からの深度0.28m。**長軸方位：**N-26°-W。**形態：**楕円形と推測される。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。　**所見：**SI005により北側が欠失しているため性格を断定することはできないが、覆土中に焼土を含み、周囲で検出された同程度の遺構は炉穴のみであることから炉穴と判断した。

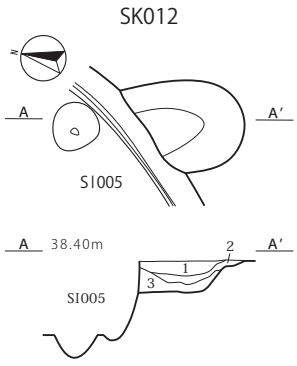
遺物：縄文土器60.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、焼土少量含む。粘性あり。しまり弱い。
3　赤褐色土(2.5YR4/6)　焼土多量含む。粘性あり。しまりあり。



1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子中量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量、焼土少量含む。粘性あり。しまり強い。
3　極暗褐色土(7.5YR2/3)　ローム粒子中量、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子中量、焼土中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　2m
（1／60）

第657図　SK010～SK012

SK013（第658図）

位置：Ｅ区７Ｊ-14グリッドに位置する。**重複：**SH017に切られる。**規模：**長軸1.38ｍ、短軸0.60ｍ、確認面からの深度0.18ｍ。**長軸方位：**Ｎ-46°-Ｗ。**形態：**長楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

所見：燃焼面は底面南東側で１箇所確認された。

遺物：出土していない。

SK014（第658図、図版119）

位置：Ｅ区７Ｊ-52グリッドを中心に位置する。**重複：**SI023に切られる。**規模：**長軸1.72ｍ、短軸0.92ｍ、確認面からの深度0.31ｍ。**長軸方位：**Ｎ-29°-Ｅ。**形態：**長楕円形、底面は南西側に下がり壁面はゆるやかに立ち上がる。

所見：燃焼面は底面南西側で１箇所確認された。

遺物：縄文土器62.0gのほかに土器7.0gが混入しているが、小破片のため図示していない。

SK015（第658図、図版119）

位置：Ｅ区７Ｊ-43グリッドを中心に位置する。**重複：**SI023に切られる。**規模：**長軸1.06ｍ、短軸0.76ｍ、確認面からの深度0.34ｍ。**長軸方位：**Ｎ-88°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

所見：燃焼面は底面中央で１箇所確認された。

遺物：縄文土器122.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK016（第658図）

位置：Ｅ区７Ｊ-43グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.10ｍ、短軸0.54ｍ、確認面からの深度0.26ｍ。**長軸方位：**Ｎ-２°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は北側がやや深く掘り込まれており、壁面は緩やかに立ち上がる。

所見：燃焼面は底面北側で１箇所確認された。

遺物：縄文土器111.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

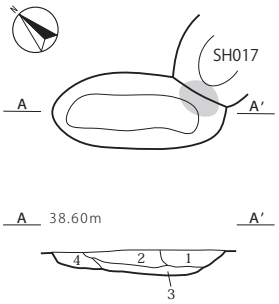
SK017（第658図、図版119）

位置：Ｅ区７Ｊ-36グリッドを中心に位置する。**重複：**SI024に切られる。**規模：**長軸0.90ｍ、短軸0.68ｍ、確認面からの深度0.30ｍ。**長軸方位：**Ｎ-51°-Ｗ。**形態：**不整形、底面は南側が皿状に落ち込む。壁面は緩やかに立ち上がる。

所見：遺構検出時および覆土の観察から、重複は考えられず１基の遺構と判断した。南側の壁面で被熱部分を検出しており、これが燃焼面と考えられる。

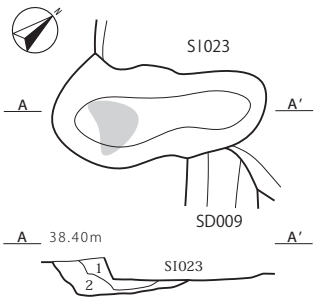
遺物：縄文土器34.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK013



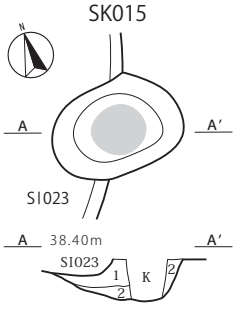
1　赤褐色土(5YR4/6)　焼土多量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　赤褐色土(2.5YR4/6)　焼土多量含む。粘性あり。しまり強い。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

SK014



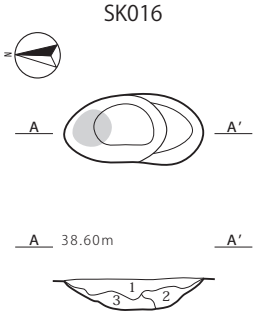
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ10～30mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK015



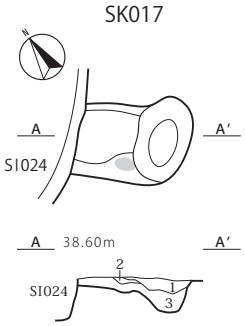
1　黒褐色土(10YR3/1)　焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK016

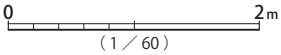


1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性強い。しまりあり。
2　にぶい赤褐色土(5YR4/4)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性強い。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性強い。しまりあり。

SK017



1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子中量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　にぶい赤褐色土(5YR5/4)　ローム粒少量。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。



第658図　SK013～SK017

SK018（第659図、図版119）

位置：Ｅ区７Ｊ-37グリッドを中心に位置する。**重複：**SK045に切られる。**規模：**長軸2.58ｍ、短軸1.50ｍ、確認面からの深度0.33ｍ。**長軸方位：**Ｎ-67°-Ｅ。**形態：**不整楕円形、底面は起伏があり壁面は緩やかに立ち上がる。

所見：底面で明確な燃焼面は検出されなかったが覆土に焼土を含み、周囲で検出された同程度の遺構は炉穴のみであることから炉穴と判断した。

遺物：縄文土器245.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

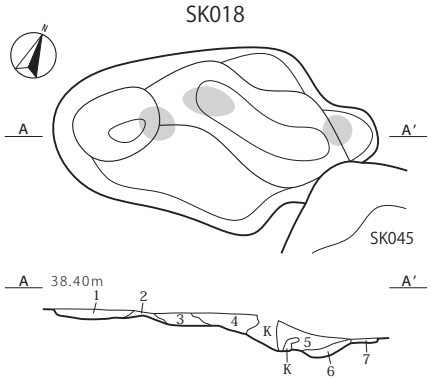
SK019（第659・660図、第217表、図版119・120・148）

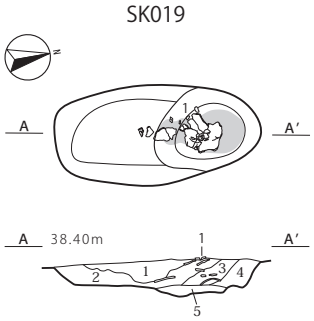
位置：Ｅ区７Ｊ-72グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.64ｍ、短軸0.80ｍ、確認面からの深度0.30ｍ。**長軸方位：**Ｎ-６°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は北側がやや深く掘り込まれており、壁面は緩やかに立ち上がる。

所見：燃焼面は底面北側で１箇所確認され、上位から深鉢が出土している。

遺物：縄文土器1,577.4gのほかに土器47.0gが混入している。

１は口唇部に刺突文、口縁部には円孔文が４箇所施されており、全周していたと推測される。





1	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	焼土微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	にぶい褐色土(7.5YR5/4)	焼土中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	灰黄褐色土(10YR4/2)	焼土微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4	暗褐色土(10YR3/3)	焼土少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
5	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ10～30mm多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
6	灰黄褐色土(10YR4/2)	焼土中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
7	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	焼土少量、炭化物少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

1	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ10～40mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2	灰黄褐色土(10YR4/2)	ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	黒褐色土(10YR3/2)	ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
5	にぶい赤褐色土(5YR4/3)	焼土多量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第659図　SK018・SK019

0　10cm
（1／3）

第660図　SK019出土遺物

第217表　SK019出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土中層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[5.4] 最大径：　－	外面：口唇部刺突文、口縁部円孔文	胎　土：白色粒・長石・金雲母 焼　成：普通 色　調：にぶい赤褐 残存度：口縁部の破片	縄文早期後半、条痕文系

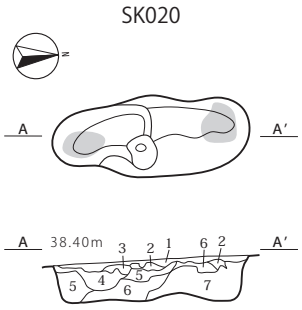
SK020（第661・662図、第218表、図版120・148）

位置：Ｅ区７Ｊ-64グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸3.14ｍ、短軸1.30ｍ、確認面からの深度0.42ｍ。**長軸方位：**Ｎ－４°－Ｗ。**形態：**長楕円形、底面は起伏があり壁面はきつく立ち上がる。

所見：燃焼面は底面の南北両端で２箇所確認しているが、覆土の堆積状況からは２基の重複とは考えがたい。東側の壁面でピット状の掘り込みを確認している。

遺物：縄文土器920.8gが出土した。

１は口唇部に貝殻腹縁による刺突文、口縁部に平行沈線文が施される。２は外面に貝殻条痕文が施される。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR2/3)　焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ロームブロックφ５～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ10～20mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
6　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（１／60）

第661図　SK020

（１／３）

第662図　SK020出土遺物

第218表　SK020出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.2] 最大径：　－	外面：口唇部貝殻腹縁刺突文、口縁部平行沈線文	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：にぶい褐 残存度：口縁部の破片	縄文早期中葉、田戸下層式
2	縄文土器 深鉢	覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[6.1] 最大径：　－	外面：貝殻条痕文	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：にぶい黄橙 残存度：胴部の破片	縄文早期後半、条痕文系

SK021（第663図、図版120）

位置：Ｅ区７Ｊ-93グリッドを中心に位置する。**重複：**SM012に切られる。**規模：**長軸（0.98）m、短軸0.86ｍ、確認面からの深度0.19ｍ。**長軸方位：**Ｎ－２°－Ｗ。**形態：**小判形と推測される。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

所見：燃焼面は底面南側で１箇所確認された。

遺物：縄文土器74.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK022（第663図、図版120）

位置：Ｅ区５Ｋ-88グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.90ｍ、短軸0.58ｍ、確認面からの深度0.23ｍ。**長軸方位：**Ｎ－８°－Ｗ。**形態：**長楕円形、底面は地形に沿って南側に下がり、壁面はわずかに立ち上がる。

所見：燃焼面は底面北側で１箇所確認された。

遺物：縄文土器12.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK023（第663図、図版120）

位置：Ｅ区６Ｌ-02グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.10ｍ、短軸0.58ｍ、確認面からの深度0.17ｍ。**長軸方位：**Ｎ-37°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は起伏があり地形に沿って南側に下がる。壁面はわずかに立ち上がる。

所見：燃焼面は底面南東側で１箇所確認された。

遺物：石器・石製品1.00gが出土しが、小破片のため図示していない。

SK024（第663図、図版120）

位置：Ｅ区６Ｋ-56グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.21ｍ、短軸0.68ｍ、確認面からの深度0.33ｍ。**長軸方位：**Ｎ－２°－Ｅ。**形態：**楕円形と推測される。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

所見：燃焼面は西側の壁面で１箇所確認され、上位から深鉢が出土している。

遺物：縄文土器29.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK025（第663図、図版120）

位置：Ｅ区７Ｌ-20グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。東側の一部は削平される。**規模：**長軸0.64ｍ、短軸（0.44）m、確認面からの深度0.21ｍ。**長軸方位：**Ｎ-12°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は地形に沿って南側に下がり、壁面はわずかに立ち上がる。

所見：燃焼面は底面のほぼ全面である。

遺物：出土していない。

SK026（第663図、図版121）

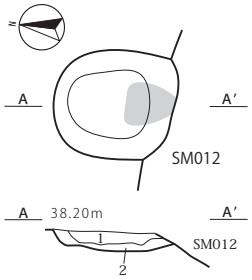
位置：Ｅ区７Ｋ-85グリッドに位置する。**重複：**SI075aに切られる。**規模：**長軸（0.64）m、短

軸0.90ｍ、確認面からの深度0.34ｍ。**長軸方位：**Ｎ－２°－Ｅ。**形態：**楕円形と推測される。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

所見：燃焼面は底面中央で１箇所確認された。

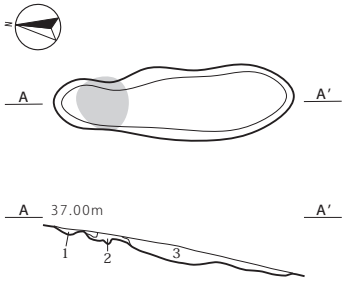
遺物：石器・石製品1.00gのほか土器28.0gが混入しているが、小破片のため図示していない。

SK021



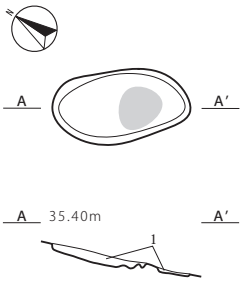
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK022



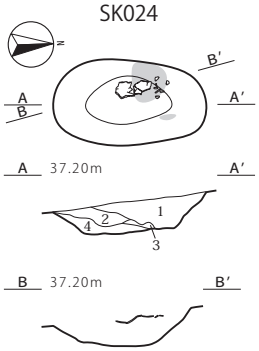
1　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　赤褐色土(5YR4/6)　焼土少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　灰褐色土(7.5YR4/2)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまりあり。

SK023



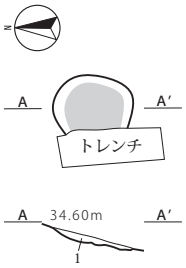
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

SK024



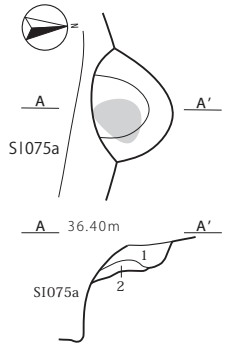
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　赤褐色土(2.5YR4/6)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。燃焼面。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまり強い。

SK025

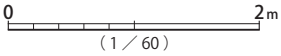


1　褐色土(7.5YR4/4)　焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK026



1　暗褐色土(10YR3/4)　焼土ブロックφ微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　灰オリーブ色土(7.5Y5/4)　焼土ブロックφ多量含む。粘性弱い。しまりあり。



第663図　SK021 ～ SK026

３．土　坑

SK027（第664図、図版121）

位置：Ｅ区５Ｊ−44グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.00ｍ、短軸0.87ｍ、確認面からの深度0.47ｍ。**長軸方位：**Ｎ−18°−Ｗ。**形態：**楕円形、底面は南側に段差があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

所見：底面の南側が落ち込むため、柱穴の可能性もあるが、周囲に組み合う柱穴は認められない。

遺物：出土していない。

SK028（第664・665図、第219表、図版121・148）

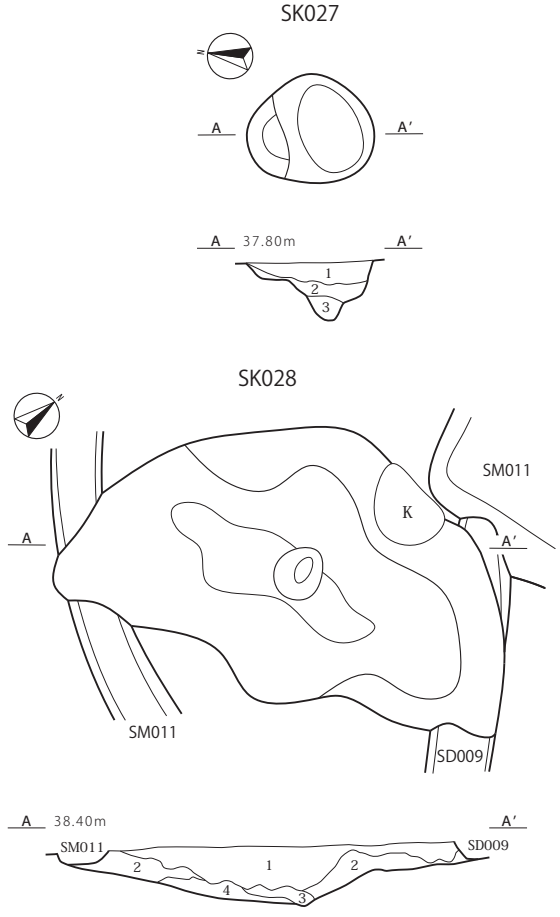
位置：Ｅ区７Ｊ−40グリッドを中心に位置する。**重複：**SM011、SD009に切られる。北側の一部は撹乱される。**規模：**長軸3.66ｍ、短軸2.20ｍ、確認面からの深度0.65ｍ。**長軸方位：**Ｎ−23°−Ｗ。**形態：**不整形、底面は起伏があり壁面に向かって緩やかに立ち上がる。

時期：出土遺物から縄文時代と考えられる。

所見：覆土に焼土を含むが、壁面や底面に被熱痕はみられなかった。

遺物：縄文土器565.2gが出土した。

１は外面に貝殻条痕文が施される。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ10～40mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/6)　ロームブロックφ10～50mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり弱い。

1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまり強い。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
4　黒褐色土(10YR3/2)　焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第664図　SK027・SK028

第665図　SK028出土遺物

第219表　SK028出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［6.5］ 最大径：　－	外面：胴部下半貝殻条痕文	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：胴部下半～底部の破片	縄文早期後半、条痕文系

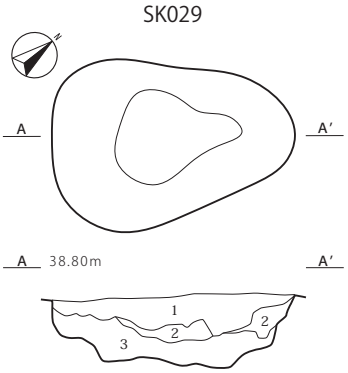
SK029（第666・667図、第220表、図版121・148）

位置：Ｅ区７Ｊ-66グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.93ｍ、短軸1.38ｍ、確認面からの深度0.66ｍ。**長軸方位：**Ｎ-35°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は起伏があり壁面はきつく立ち上がる。

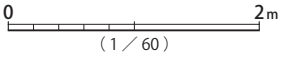
時期：出土遺物から縄文時代と考えられる。

遺物：縄文土器204.7gが出土した。

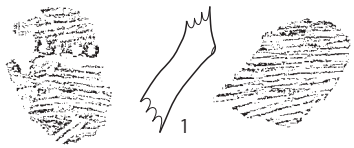
1は胴屈曲部の浮線上に棒状工具による刺突を巡らす。内外面ともに貝殻条痕文が施される。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子多量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子多量、ロームブロックφ5～15mm少量含む。粘性あり。しまりあり。



第666図　SK029



第667図　SK029出土遺物

第220表　SK029出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［5.4］ 最大径：　－	外面：刺突文、貝殻条痕文 内面：貝殻条痕文	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：にぶい橙 残存度：胴部の破片	縄文早期後半、条痕文系

SK030（第668図、図版121）

位置：Ｅ区７Ｋ-23グリッドを中心に位置する。**重複：**SM012に切られる。**規模：**長軸1.67ｍ、短軸1.38ｍ、確認面からの深度0.61ｍ。**長軸方位：**Ｎ-65°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面の平坦面は狭く壁面は外側に湾曲しながら立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

所見：覆土に焼土を含むが、壁面や底面に被熱痕はみられなかった。

遺物：出土していない。

SK031（第668図、図版121）

位置：Ｅ区５Ｋ-86グリッドを中心に位置する。**重複：**SM003に切られる。**規模：**長軸2.43ｍ、短軸0.51ｍ、確認面からの深度0.51ｍ。**長軸方位：**Ｎ-79°-Ｗ。**形態：**長楕円形、底面は平坦で壁面はきつく立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

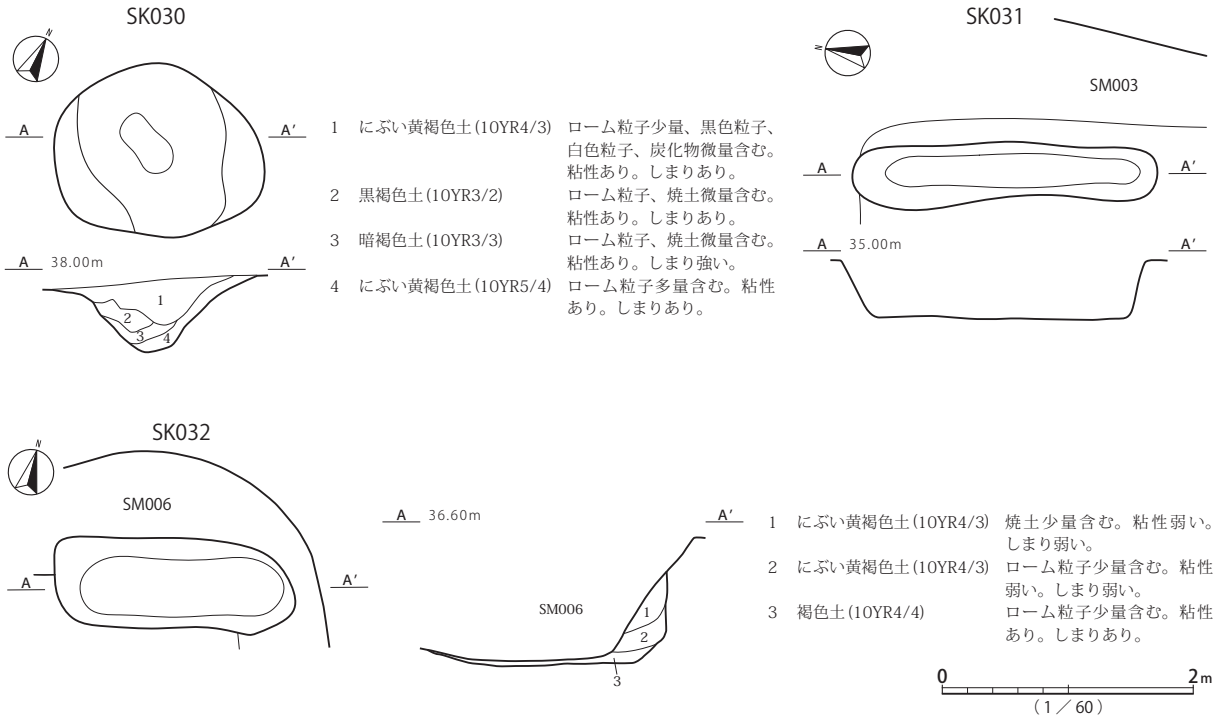
遺物：出土していない。

SK032（第668図）

位置：Ｅ区６Ｋ-62グリッドを中心に位置する。**重複：**SM006に切られる。**規模：**長軸1.89ｍ、短軸0.72ｍ、確認面からの深度0.62ｍ。**長軸方位：**Ｎ-77°-Ｅ。**形態：**長楕円形、底面は平坦で壁面はきつく立ち上がる。

時期：覆土や出土遺物から縄文時代と考えられる。

遺物：縄文土器445.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第668図　SK030 ～ SK032

SK033（第669・670図、第221表、図版121）

位置：E区7L-12グリッドに位置する。**重複：**SM010に切られる。**規模：**長軸（0.80）m、短軸1.04m、確認面からの深度0.43m。**長軸方位：**N-81°-W。**形態：**楕円形と推測される。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土や出土遺物から縄文時代早期と考えられる。

遺物：縄文土器273.9gが出土した。

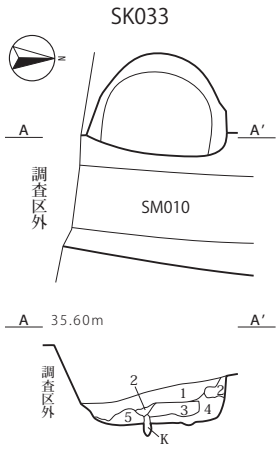
1は外面に貝殻条痕文が施される。

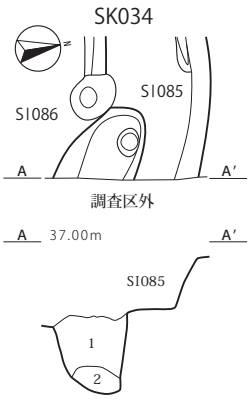
SK034（第669図、図版121・148）

位置：E区8L-24グリッドを中心に位置する。**重複：**SI085・SI086に切られる。東側は調査区外へ伸びる。**規模：**長軸（0.63）m、短軸0.56m、確認面からの深度1.06m。**長軸方位：**N-48°-W。**形態：**長楕円形と推測される。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

遺物：出土していない。



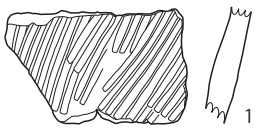


1　黒褐色土(10YR3/2)　粘性弱い。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックφ10～15mm少量含む。粘性弱い。しまり強い。
3　暗褐色土(10YR3/3)　粘性弱い。しまり弱い。
4　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。

1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ5～20mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　2m
（1／60）

第669図　SK033・SK034



0　10cm
（1／3）

第670図　SK033出土遺物

第221表　SK033出土土器観察表

単位：cm

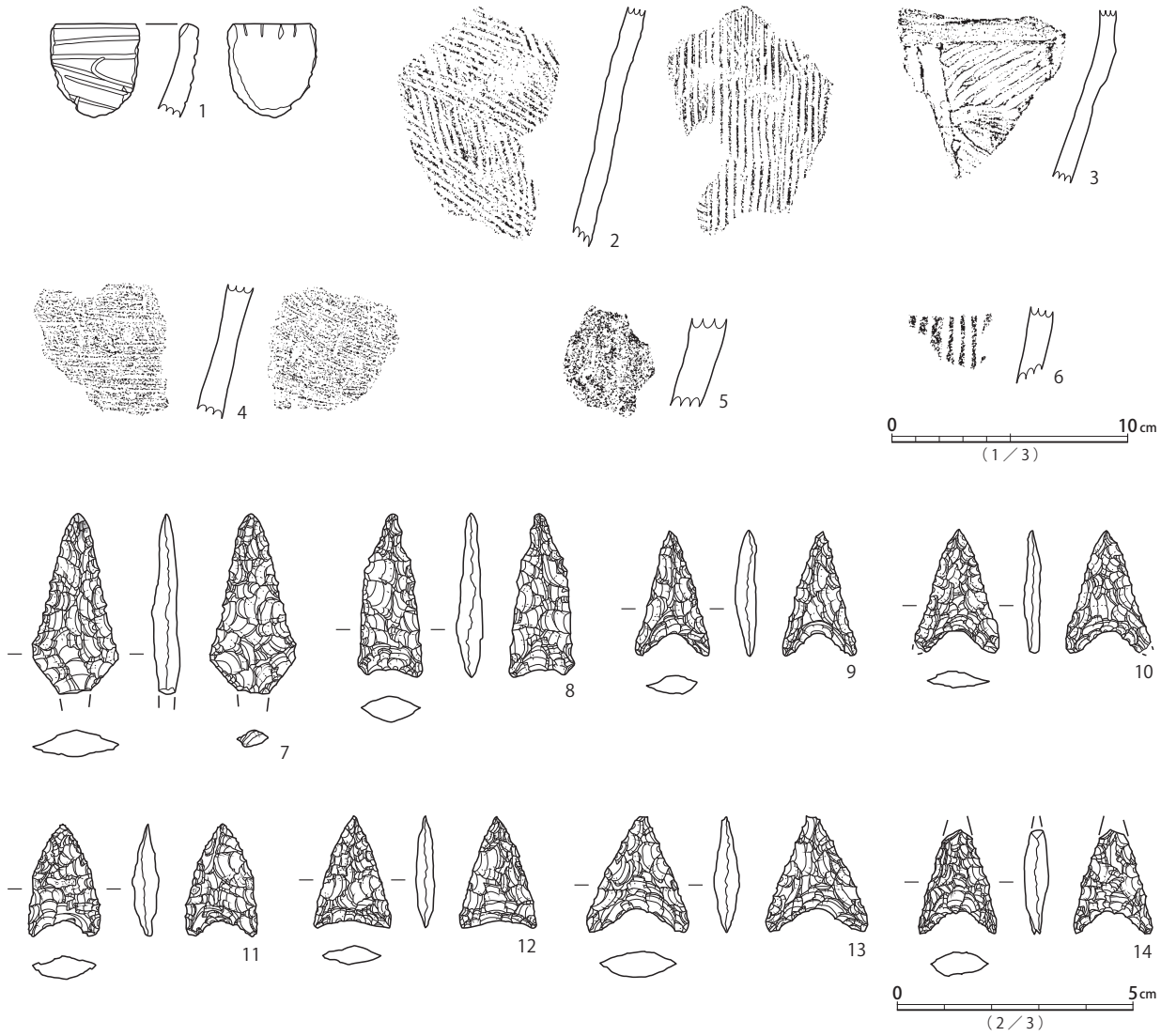
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土中層	口　径：　- 底　径：　- 器　高：　[4.6] 最大径：　-	外面：貝殻条痕文	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：暗赤褐 残存度：胴部の破片	縄文早期後半、条痕文系

４．遺構外出土遺物（第671・672図、第222・223表、図版148・149）

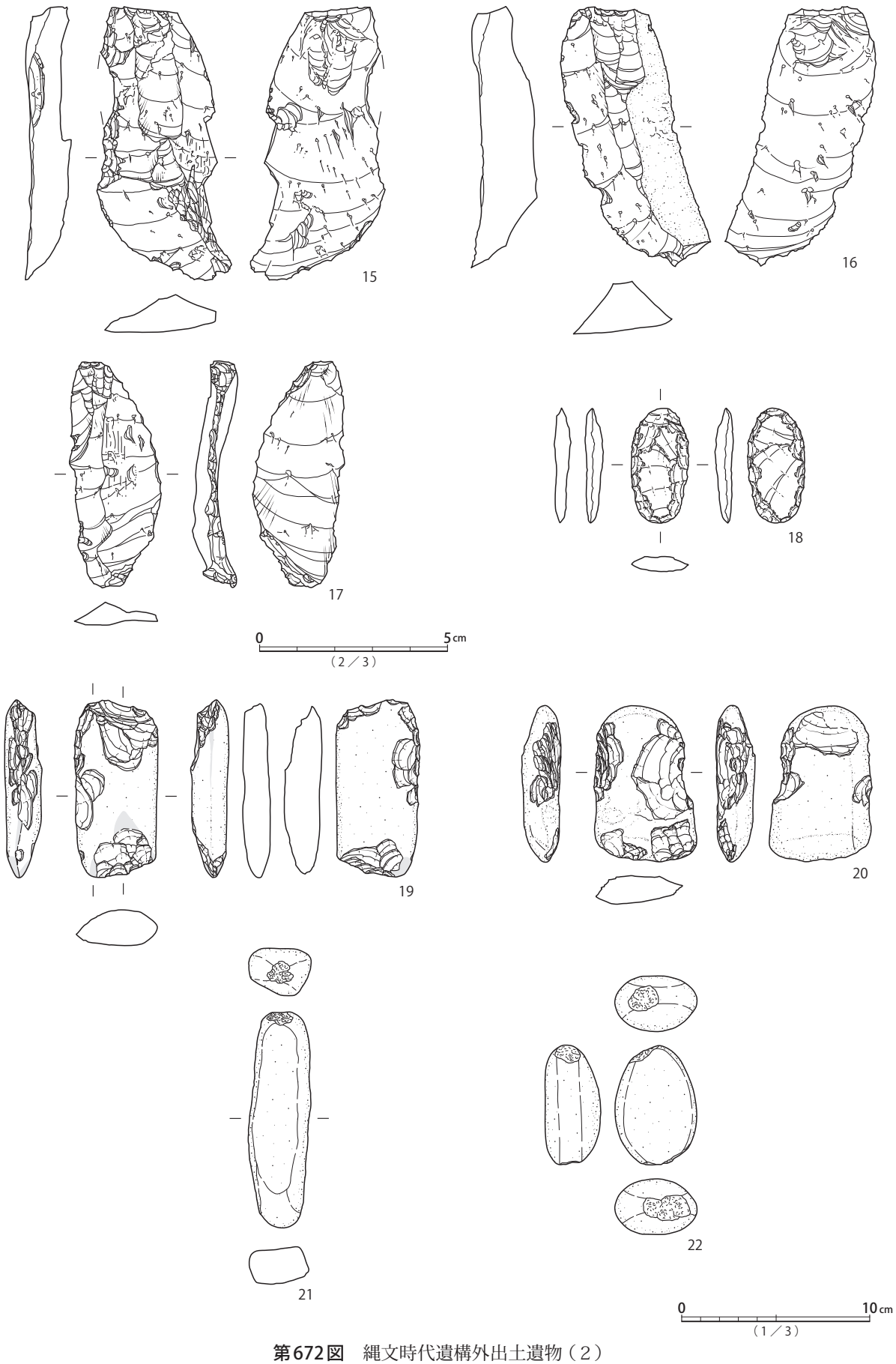
他時代の遺構から出土した混入遺物のうち、縄文時代の遺物についてここで報告する。本調査区における縄文時代の遺構は早期後半が大半を占めており、混入遺物も同様の傾向を見せている。

１は外面に平行沈線文、口唇部内面には貝殻腹縁による刺突文が施される。２・６は内外面に貝殻条痕文が施される。３は胴上部外面に沈線文が施される。４の内外面へ施文されているのは貝殻条痕文、あるいは擦痕であろうか。５は早期後半、貝殻条痕文系と考えられる胴部片である。

７は凸基有茎の石鏃である。先端部は表裏とも磨滅している。８～14は凹基無茎の石鏃である。９・11の側面は裏面側にやや反っている。８・10・12～14の側面は直線的で、14は裏面の上部に素材剥片の主要剥離面が残存している。15は縦長剥片を素材とする削器である。左側縁に連続的な剥離を行い、刃部を作出している。左側縁下半には使用に伴うと考えられる微細剥離痕が見られる。16は使用痕剥片である。縦長剥片の左側縁の使用に伴うと考えられる微細剥離が見られ、右側縁は素材の自然面が残る。17は二次加工剥片である。縦長剥片を素材として右側縁に急角度の剥離を連続的に施している。16・17は和田峠産の黒曜石である。18～20は石斧である。18は打製石斧であ



第671図　縄文時代遺構外出土遺物（１）



第672図　縄文時代遺構外出土遺物（2）

る。素材の全面を剥離で整形している。石材はホルンフェルスで、風化が著しい。19・20は扁平な礫を素材としている。19は上下と左側縁を剥離によって整形している。左右両側縁と刃部を部分的に研磨している。20は左右両側縁を剥離によって整形している。下端は散発的で、刃部の形成には至らない。打製石斧の未成品と考えられる。21は流紋岩質凝灰岩の敲石である。棒状礫の一端に弱い敲打面がみられる。22は石英斑岩の敲石である。楕円礫の両端部に敲打痕があり、使用後に被熱している。

第222表　縄文時代遺構外出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	縄文土器 深鉢	SK039 覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［4.0］ 最大径：　－	外面：平行沈線文 内面：口唇部貝殻腹縁刺突文	胎　土：赤色粒・白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：黒褐 残存度：口縁部の破片	縄文早期中葉、田戸下層式
2	縄文土器 深鉢	SK062 覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［10.2］ 最大径：　－	外面：貝殻条痕文 内面：貝殻条痕文	胎　土：白色粒・長石・銀雲母 焼　成：普通 色　調：灰黄褐 残存度：胴部の破片	縄文早期後半、条痕文系
3	縄文土器 深鉢	E区 7L-01 Ⅱ層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［7.2］ 最大径：　－	外面：沈線文	胎　土：白色粒・長石 焼　成：良好 色　調：にぶい黄褐 残存度：胴部の破片	縄文早期後半、野島式か
4	縄文土器 深鉢	SK059 覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［5.7］ 最大径：　－	外面：貝殻条痕文もしくは擦痕 内面：貝殻条痕文もしくは擦痕	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：にぶい黄橙 残存度：胴部の破片	縄文早期後半、条痕文系
5	縄文土器 深鉢	SK069 覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［3.8］ 最大径：　－		胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：底部の破片	縄文早期後半、条痕文系か
6	縄文土器 深鉢	SK058 覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［3.2］ 最大径：　－	外面：集合沈線文	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：胴部の破片	縄文中期初頭、五領ヶ台式か

第223表　縄文時代遺構外出土石器観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
7	石鏃	チャート	SI042覆土下層	［3.85］	1.80	0.60	2.49	凸基有茎、摩滅、黒色付着物
8	石鏃	チャート	SI056覆土下層	3.45	1.35	0.55	2.19	凹基無茎
9	石鏃	安山岩	SM012覆土下層	2.65	1.55	0.45	1.18	凹基無茎
10	石鏃	安山岩	SI007P2覆土	2.60	［1.75］	0.35	1.24	凹基無茎
11	石鏃	黒曜石 （球顆混入）	SI004覆土下層	2.40	1.50	0.55	1.40	凹基無茎
12	石鏃	チャート	SI042覆土下層	2.35	1.65	0.40	1.25	凹基無茎
13	石鏃	チャート	SM005覆土下層	2.45	2.10	0.55	1.79	凹基無茎
14	石鏃	黒曜石 （斜長石含む）	SI073覆土上層	［2.20］	1.60	0.50	1.29	凹基無茎
15	削器	黒曜石 （球顆混入）	SI040床面	7.25	3.55	1.20	24.45	使用痕
16	使用痕剝片	黒曜石	SM007覆土下層	6.90	4.00	1.70	27.15	和田峠産、使用痕
17	二次加工剝片	黒曜石	SI025覆土上層	6.00	2.45	1.20	8.15	和田峠産
18	打製石斧	ホルンフェルス	SI045覆土	6.10	3.05	1.00	19.05	風化顕著
19	石斧	ホルンフェルス	SI064覆土下層	9.40	4.40	1.90	118.40	剝離後部分研磨
20	打製石斧	菫青石 ホルンフェルス	表土	8.30	5.45	2.10	123.76	未製品
21	敲石	流紋岩質凝灰岩	SM008周溝覆土下層	11.45	3.20	2.50	128.22	敲：上1箇所
22	敲石	石英斑岩	SM006周溝覆土下層	6.30	4.35	3.00	114.58	敲：上・下各1箇所、被熱

第２節　弥生時代

１．竪穴建物

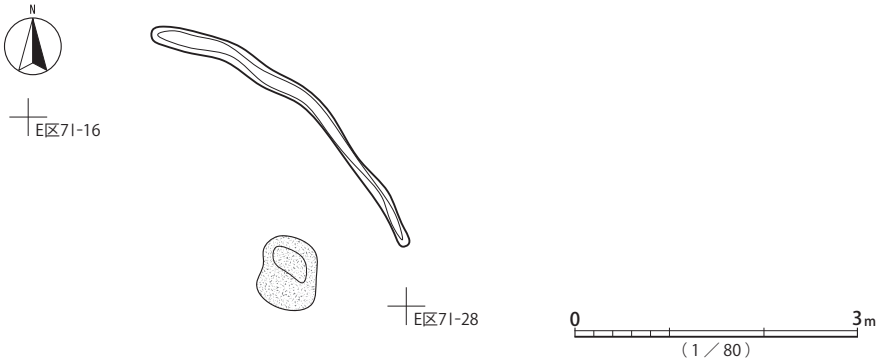
SI002（第673・674図、図版122）

位置：Ｅ区７Ｉ-17グリッドを中心とする台地の北西向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。検出段階で床面が露出しており壁面は残存していない。**規模：**主軸（3.52）m、副軸（2.00）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-50°-Ｗ。**炉：**東壁付近に位置する。長軸0.80ｍ、短軸0.60ｍで浅く窪む。**施設：**周溝は北壁から東壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

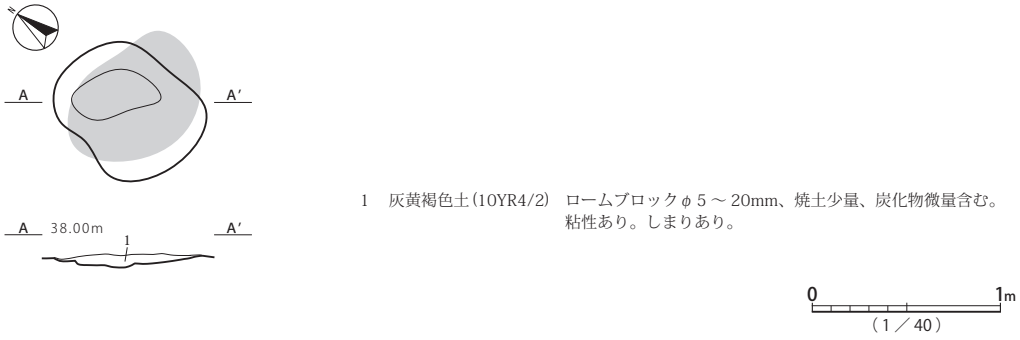
時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：壁面が削平されており、主柱穴も検出されなかったが周溝と炉の検出から竪穴建物と判断した。

遺物：出土していない。



第673図　SI002



第674図　SI002炉

SI003（第675・676図、第224表、図版122・149）

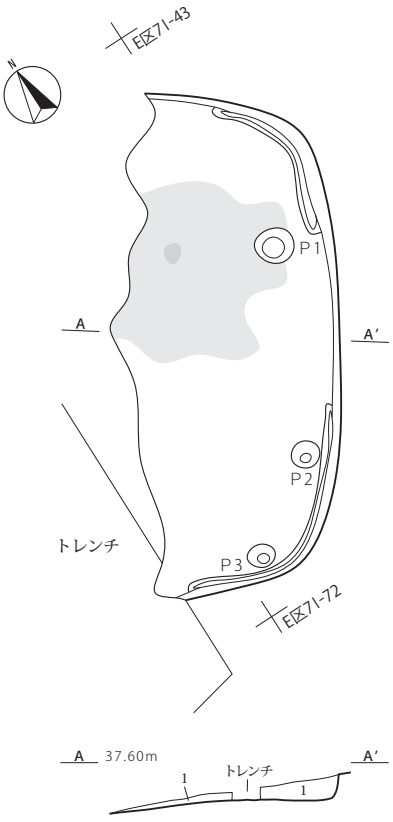
位置：Ｅ区７Ｉ-52グリッドを中心とする台地の北西向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**北東－南西方向を主軸と推定し（5.36）m、副軸（2.44）m、確認面からの深度0.51ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-33°-Ｅ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが３基検出された。周溝は北東壁から南壁にかけて断続的に検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央北寄りが硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：周溝が検出されたが、炉、主柱穴は検出されなかった。硬化面中央の被熱部分が炉に相当する可能性があるが、明確な掘り込みは確認できなかった。

遺物：土器417.5g、縄文土器170.0gが出土した。

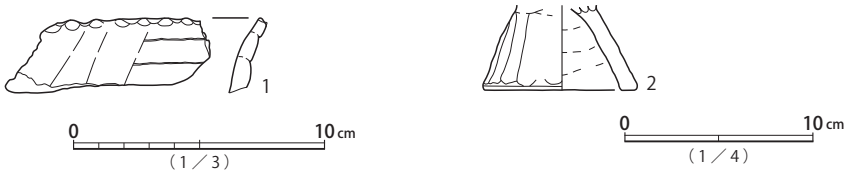
１は甕、２は台付甕である。１は外面に輪積み痕を残すが、一部がヘラ状工具によりナデ消されている。２は脚台部で、「ハ」の字形に開く。



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性強い。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第675図　SI003



第676図　SI003出土遺物

第224表　SI003出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［3.0］ 最大径：　－	特徴：輪積み痕を２段残す 外面：口唇部上と外から交互押圧、口縁部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：にぶい黄橙 残存度：口縁部の破片	
2	弥生土器 台付甕	覆土	口　径：　－ 脚　径：　8.0 器　高：［4.5］ 最大径：　－	外面：脚台部ヘラケズリ 内面：脚台部ヘラナデ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：脚台部のみほぼ完存	

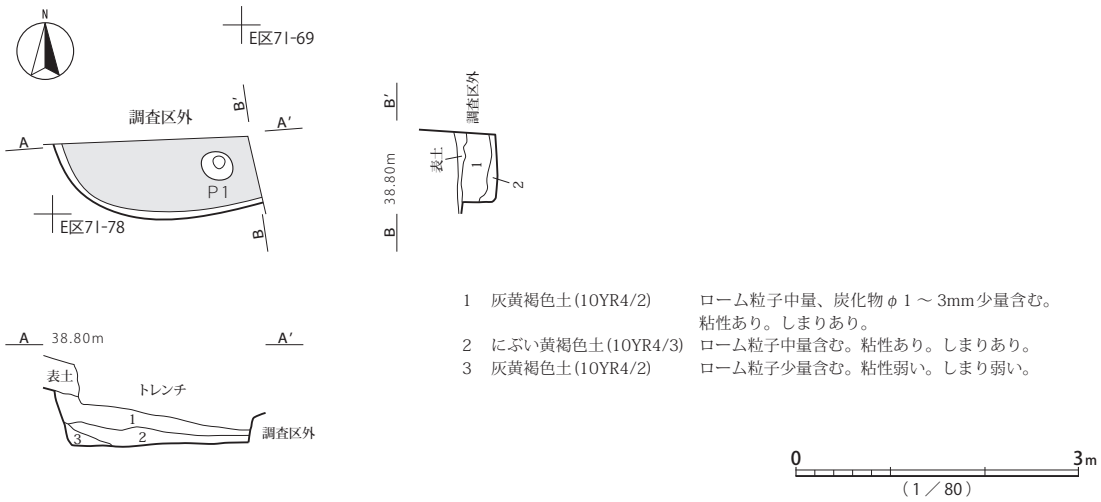
SI004（第677図、図版122）

位置：Ｅ区７Ｉ-68グリッドを中心とする台地の東向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はないが、大部分は調査区外へ伸びる。**規模：**南北方向を主軸と推定し（0.88）m、副軸（2.20）m、確認面からの深度（0.26）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが１基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、検出範囲の全面が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器62.0g、石器・石製品1.40gが出土したが、小破片のため図示していない。



第677図　SI004

SI005（第678～680図、第225表、図版122・149）

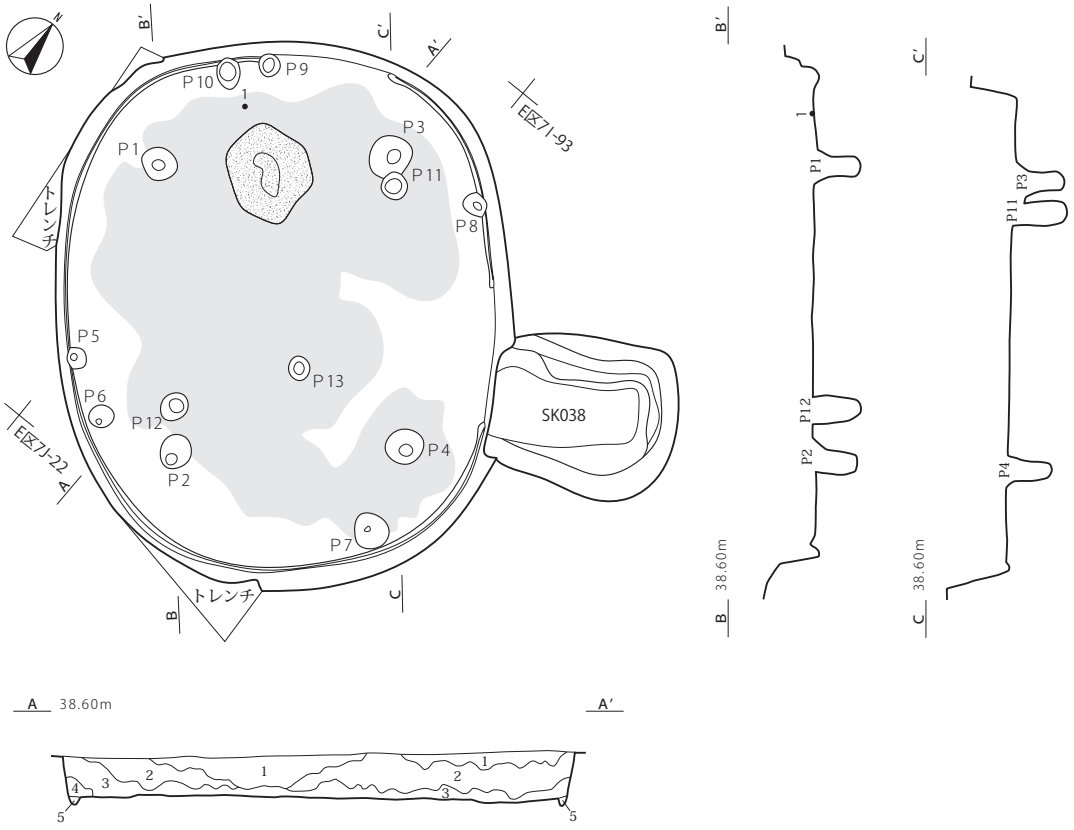
位置：Ｅ区７Ｊ-02グリッドを中心とする台地の北西向き緩斜面に位置する。**重複：**SK012を切り、SK038に切られ、SI021・SI022と切り合うが新旧関係は不明である。**規模：**主軸5.80ｍ、副軸4.84ｍ、確認面からの深度0.77ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-39°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.08ｍ、短軸0.88ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが13基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で柱間は主軸3.12ｍ、副軸2.40ｍ。壁際には小ピットがありＰ５とＰ６、Ｐ９とP10は２基１組で配置されているようにみえる。中央やや南側には、浅い小ピットのP13がある。周溝は北西壁と北東壁で一部途切れるが、ほぼ全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央から広い範囲がＥ字状に硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期後葉と考えられる。

所見：床面は完存している。炉、主柱穴、周溝が検出された。壁際で小ピットを多数確認したが、出入り口施設については明確にできていない。床面から壺（１）が出土している。

遺物：土器1,950.2g、縄文土器583.0gが出土した。

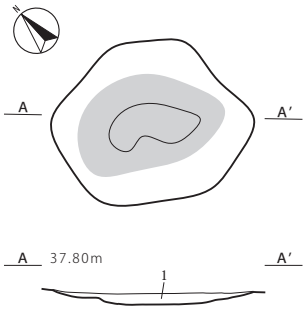
１の頸部は単節羽状縄文が結節により区画される。肩部も同様と考えられるが、下部は欠損している。



1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～10mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、ロームブロックφ5mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
4　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

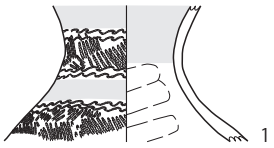
第678図　SI005

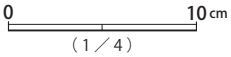


1　黒褐色土(10YR2/3)　ロームブロックφ10～20mm、焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第679図　SI005炉





第680図　SI005出土遺物

第225表　SI005出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	床面	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［7.2］ 最大径：　－	外面：頸部ナデ・結節文（S2段）・単節縄文（RL）・結節文（S2段）、肩部ナデ・結節文（S2段）・単節羽状縄文（LR・RL）、施文部以外赤彩 内面：頸部～肩部ヘラナデ、頸部赤彩	胎　土：砂粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：頸部～肩部の2/3	

SI006（第681・682図、第226表、図版122・149）

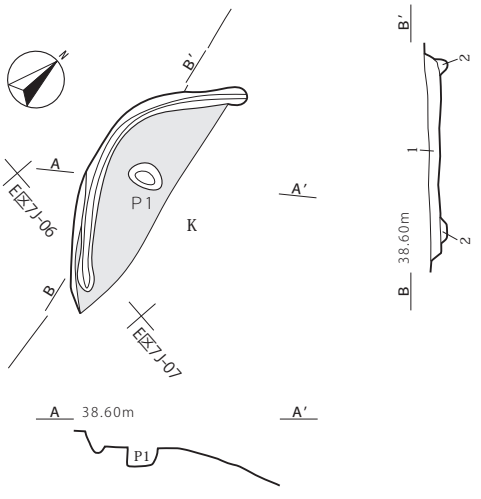
位置：E区７Ｉ-96グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。東側の大部分は撹乱される。**規模：**北西－南東方向を主軸と推定し（2.40）m、副軸（1.88）m、確認面からの深度（0.23）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**N-49°-W。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが１基検出された。周溝は北西壁から南西壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、残存部分の全面が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

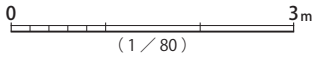
所見：周溝が検出されたが、主柱穴、炉は検出されなかった。

遺物：土器94.4g、縄文土器4.0gが出土した。

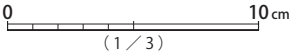
１は下端にハケキザミが施される。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。



第681図　SI006



第682図　SI006出土遺物

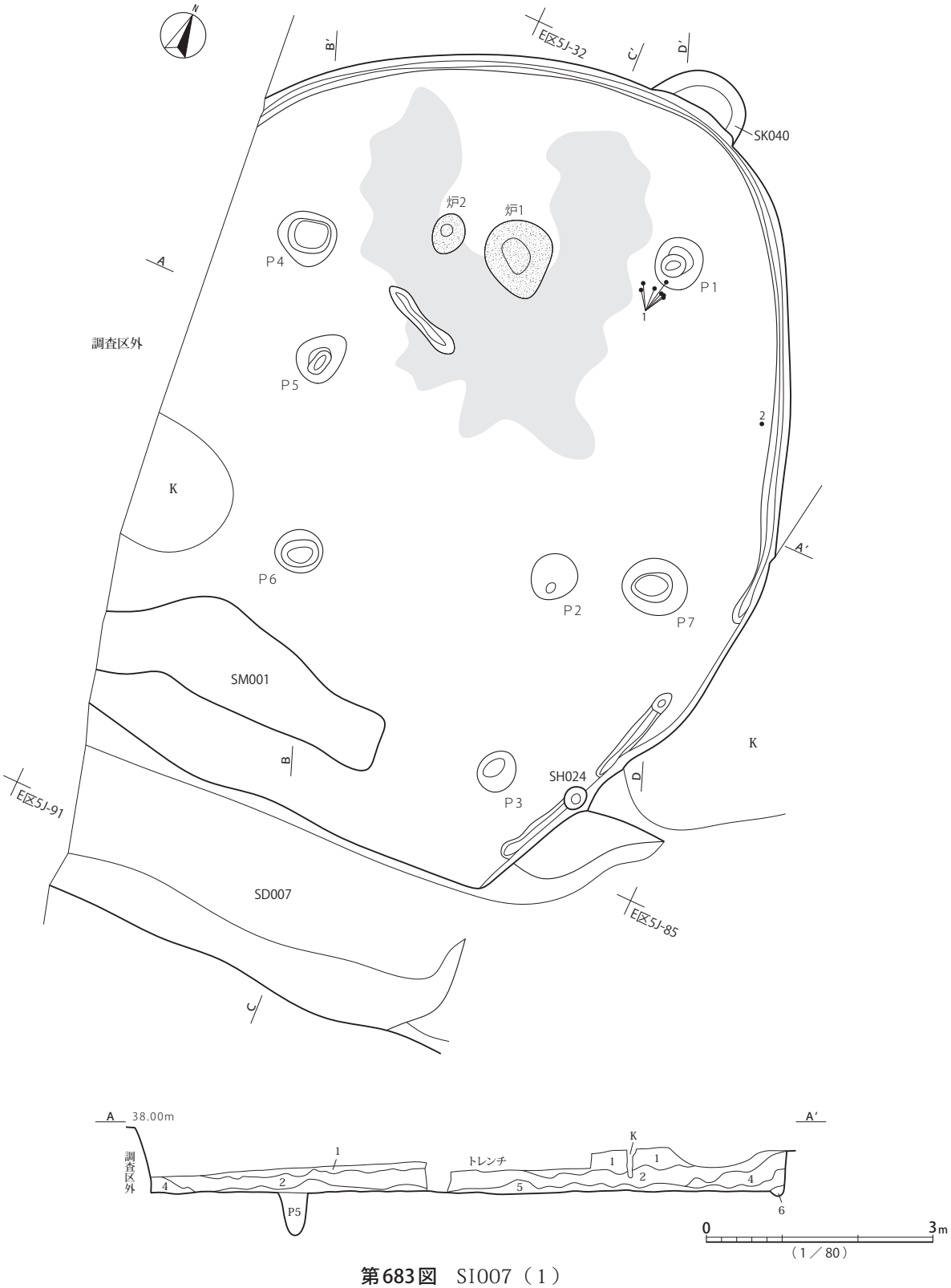
第226表　SI006出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［1.7］ 最大径：　－	外面：頸部ナデ・ハケキザミ 内面：頸部ナデ	胎　土：砂粒・石英 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：頸部の破片	

SI007（第683 ～ 686図、第227・228表、図版122・149・155）

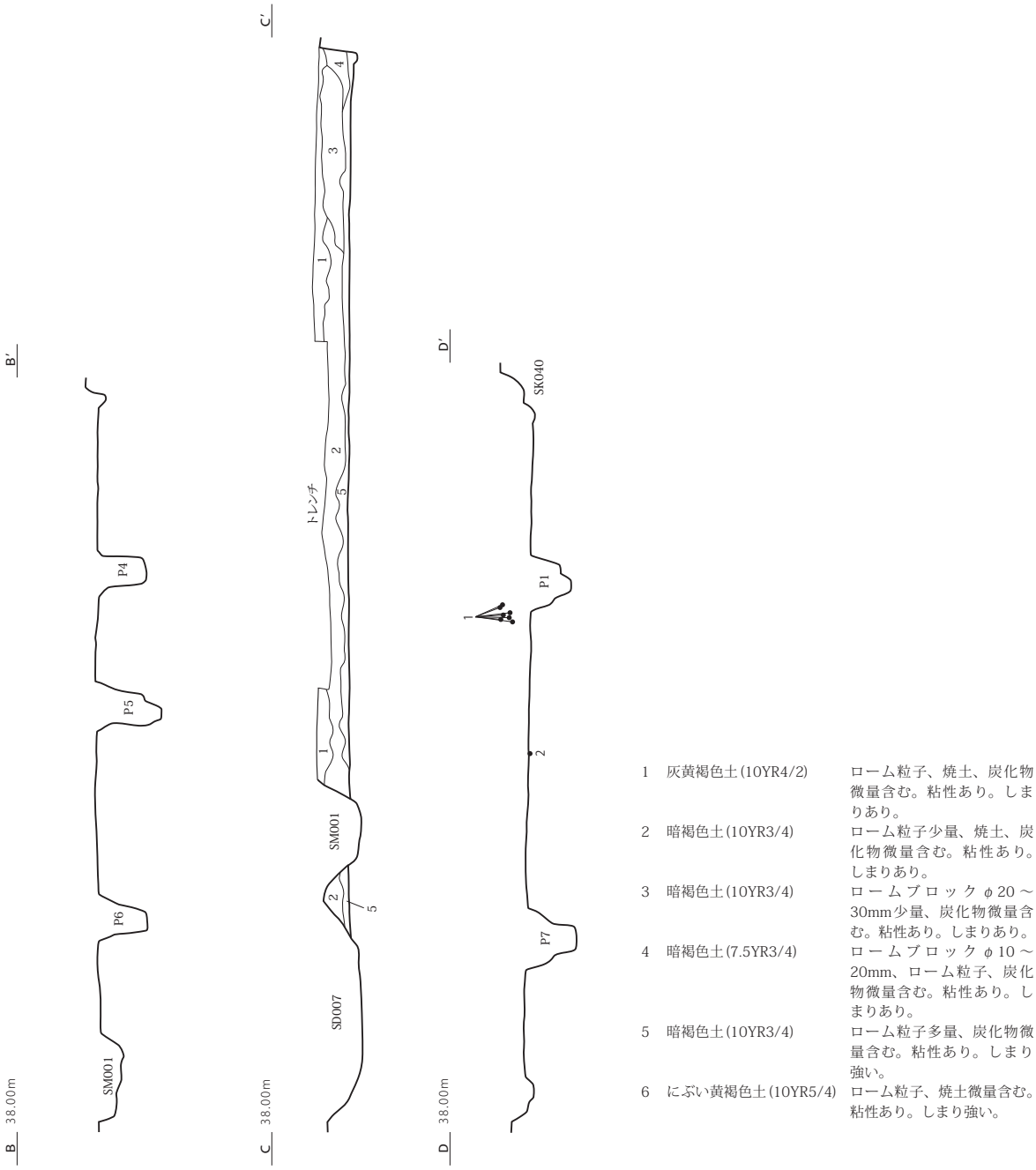
位置：Ｅ区５Ｊ-52グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SK040を切り、SM001、SD007に切られる。竪穴中央南西側の一部は撹乱され、西側は調査区外へ伸びる。**規模：**主軸（11.00）m、副軸（9.20）m、確認面からの深度0.80ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方**



第683図　SI007（１）

位：Ｎ－25°－Ｗ。**炉：**２基検出された。いずれも竪穴中央やや北寄りに位置し燃焼面が強く硬化、赤化している。炉１は規模が比較的大きく、長軸1.04ｍ、短軸0.88ｍ、炉２は長軸0.52ｍ、短軸0.40ｍ。**施設：**ピットが７基検出された。主柱穴はＰ１・Ｐ４・Ｐ６・Ｐ７で柱間は主軸4.20ｍ、副軸4.80ｍ。Ｐ３は主軸上、炉の対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。周溝は南西壁で断続的になるが、ほぼ全周する。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の両脇からＵ字状に硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代終末期と考えられる。

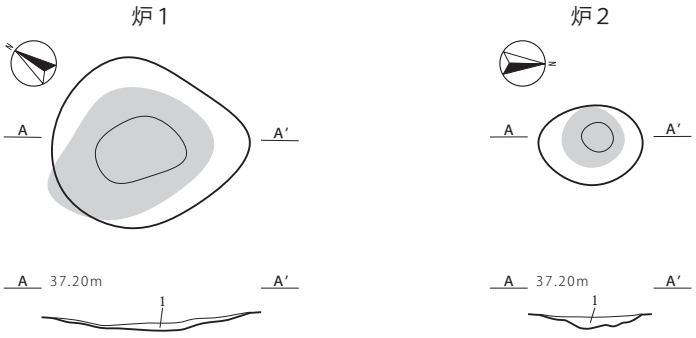


第684図　SI007（２）

所見：主軸が10mを超える大型の竪穴建物である。炉、主柱穴、周溝が検出された。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。床面から土製勾玉（２）が出土している。

遺物：土器8,996.0g、土製品8.48g、石器・石製品8.24g、縄文土器360.0gが出土した。

１は口唇部に外側から押圧が施される。胴部はヘラケズリで粗く調整される。２は土製勾玉である。焼成良好で硬質、色調は黒褐色である。

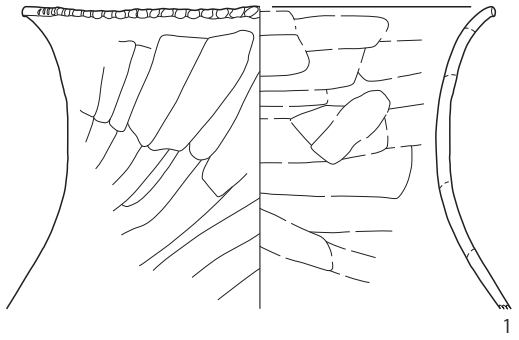


炉1
1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子中量、焼土、炭化物少量。ロームブロックφ５～30mm微量含む。粘性あり。しまりあり。

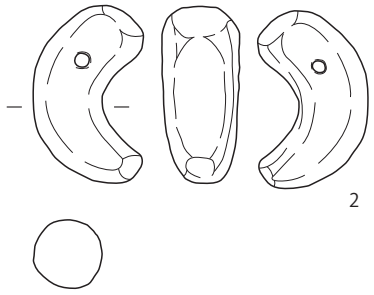
炉2
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子中量、焼土、炭化物少量含む。粘性あり。しまり強い。

0　1m
（1／40）

第685図　SI007炉１・炉２



0　10cm
（1／4）



0　5cm
（2／3）

第686図　SI007出土遺物

第227表　SI007出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土上層	口　径：(25.0) 底　径：　－ 器　高：[15.0] 最大径：　－	外面：口唇部外から押圧、口縁部ヨコナデ、頸部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヘラナデ	胎　土：砂粒・石英・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～頸部の1/4	

第228表　SI007出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
2	勾玉	床面	長さ：3.5　幅：2.2　厚さ：1.5　孔径：0.3	8.48	

SI008（第687 ～ 689図、第229表、図版122・149）

位置：Ｅ区５Ｊ－37グリッドを中心とする台地の北向き斜面に位置する。**重複：**SI010、SK041を切り、SI009と切り合うが新旧関係は不明である。北側は調査区外へ伸びる。**規模：**主軸（6.40）m、副軸（6.96）m、確認面からの深度0.54ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ－47°－Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.88ｍ、短軸0.48ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：重複および出土遺物から弥生時代後期中葉～終末期と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。南側の床面レベルはSI009と同一であり、先に構築されたどちらかの床面をそのまま使用したと考えられる。

遺物：土器771.6g、縄文土器21.0gが出土した。

１は壺の口縁部および底部である。色調や胎土の混入物が酷似しており同一個体として図示した。口縁部の下部に粘土帯を貼付し、幅広の複合部を作出している。表裏とも磨耗が著しく、外面はハケメ調整、内面はヘラナデの痕跡がわずかに残存するのみである。

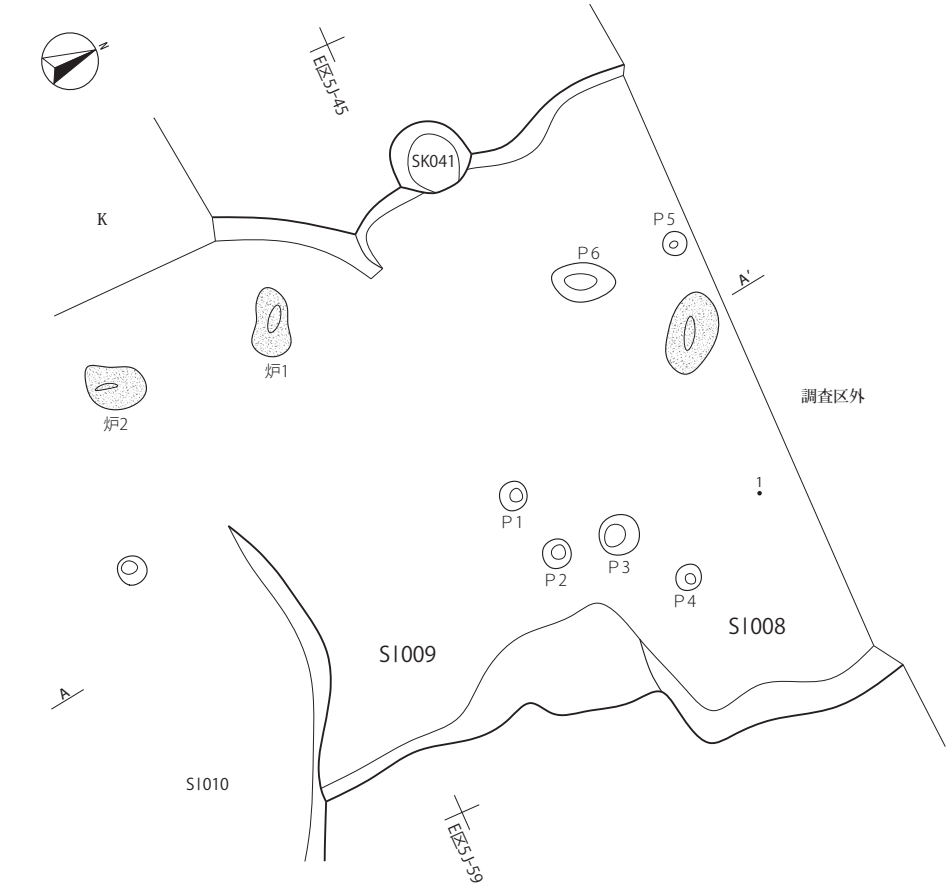
SI009（第687・690図、図版122）

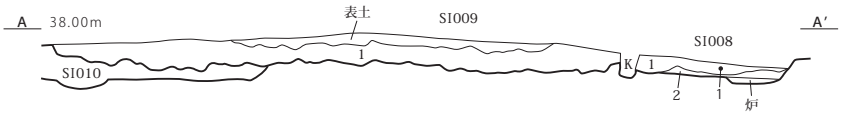
位置：Ｅ区５Ｊ－47グリッドを中心とする台地の南西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI010を切り、SI008と切り合うが新旧関係は不明である。西壁は撹乱される。**規模：**主軸（6.56）m、副軸（5.96）m、確認面からの深度0.59ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ－91°－Ｗ。**炉：**２基検出された。炉１は竪穴中央やや西寄りで長軸0.72ｍ、短軸0.40ｍ、炉２は竪穴中央やや南西寄りで長軸0.64ｍ、短軸0.44ｍ、ともに浅く窪む。　**施設：**床面はSI010覆土とハードローム層を直接使用している。

時期：重複および出土遺物から弥生時代後期中葉～終末期と考えられる。

所見：重複により竪穴建物の中央のみが残存している。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。東壁が歪で、炉も２基検出されていることから、複数の建物とも考えられるが、床面レベルが同一であることから、１棟の建物と判断した。北側の床面レベルはSI008と同一であり、先に構築されたどちらかの床面をそのまま使用したと考えられる。

遺物：土器221.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



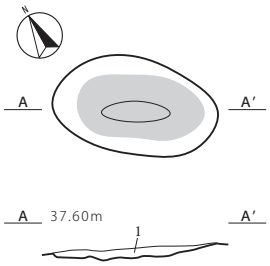


SI008
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

SI009
1　黒褐色土(10YR3/1)　黒褐色土少量、ロームブロックφ5mm、焼土、炭化物、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

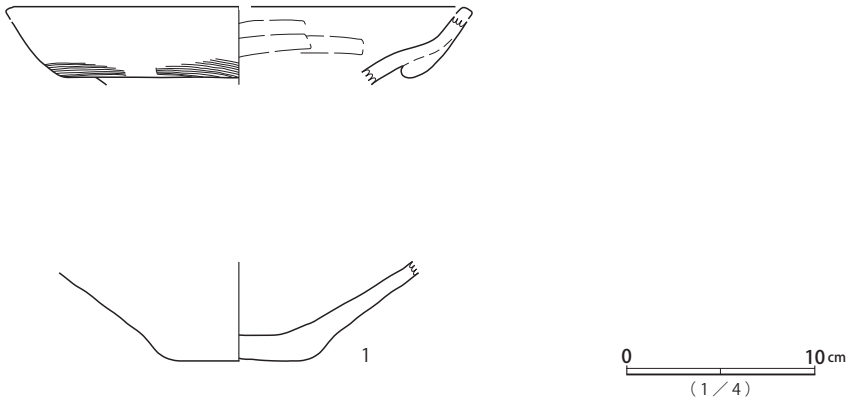
第687図　SI008・SI009



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第688図　SI008炉

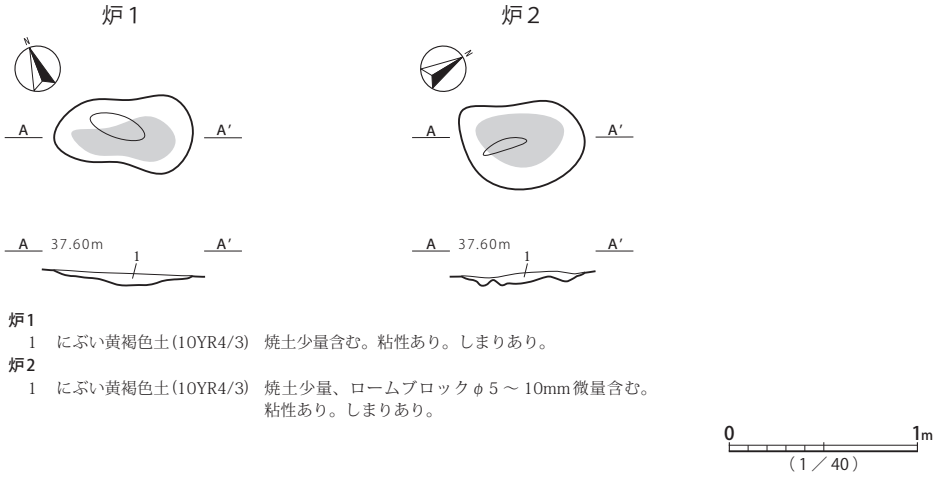


第689図　SI008出土遺物

第229表　SI008出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土中層	口　径：　－ 底　径：　6.5 器　高：　[3.6] 　　[5.3] 最大径：　－	特徴：複合口縁 外面：複合部ハケメ、底部ナデ 内面：口縁部ヘラナデ、底部ナデ	胎　土：石英顕著 焼　成：普通 色　調：浅黄橙 残存度：口縁部の1/2、底部ほぼ完存	



炉1
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
炉2
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土少量、ロームブロックφ５～10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。

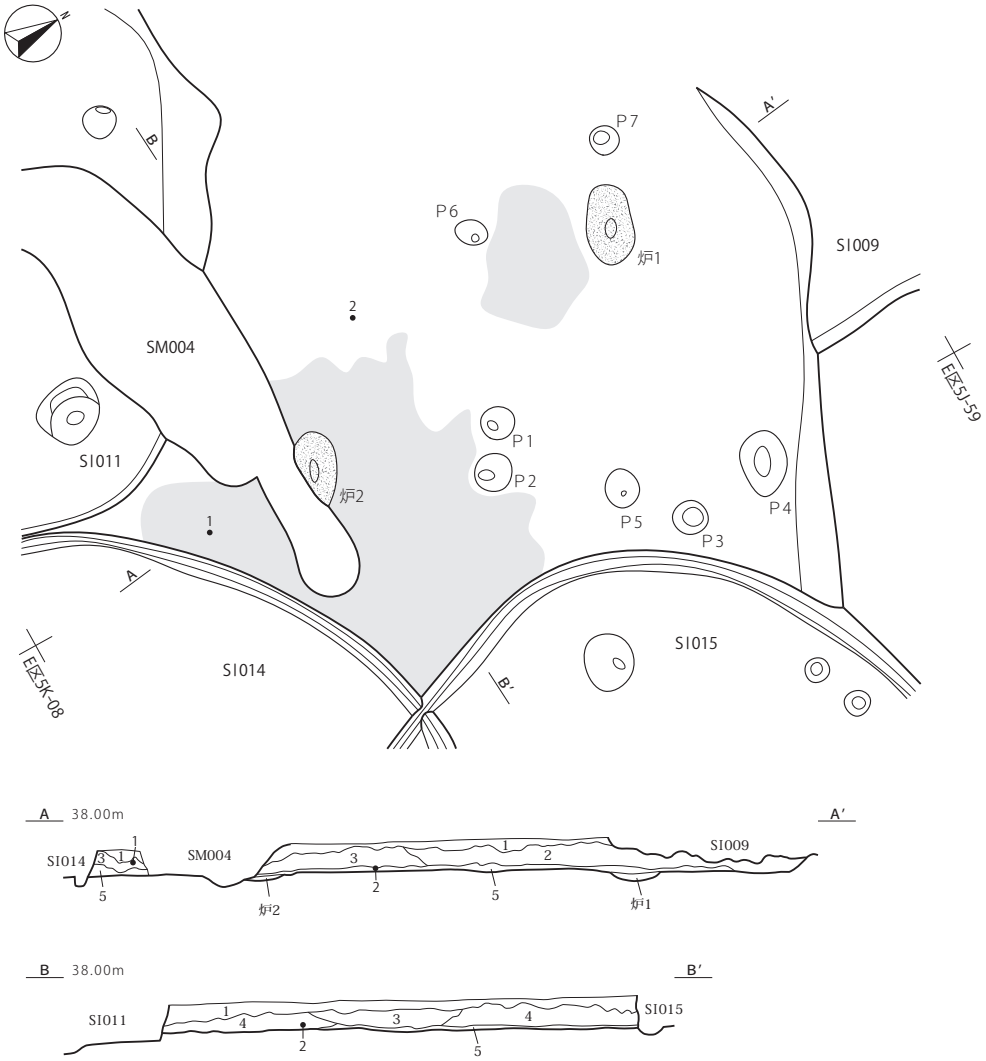
第690図　SI009炉１・炉２

SI010（第691～693図、第230・231表、図版123・149・155）

位置：Ｅ区５Ｊ-77グリッドを中心とする台地の南西向き緩斜面に位置する。**重複：**SM004、SI008・SI009・SI011・SI015に切られ、SI014と切り合うが新旧関係は不明である。**規模：**主軸（6.44）m、副軸（7.40）m、確認面からの深度0.56ｍ。**形態：**不明。**主軸方位：**Ｎ-61°-Ｗ。**炉：**炉１が竪穴中央やや北西寄りで長軸0.84ｍ、短軸0.48ｍ、炉２が竪穴中央やや南寄りで長軸（0.60）m、短軸（0.40）m、ともに浅く窪む。**施設：**ピットが７基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉１の両脇と炉２の周辺が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

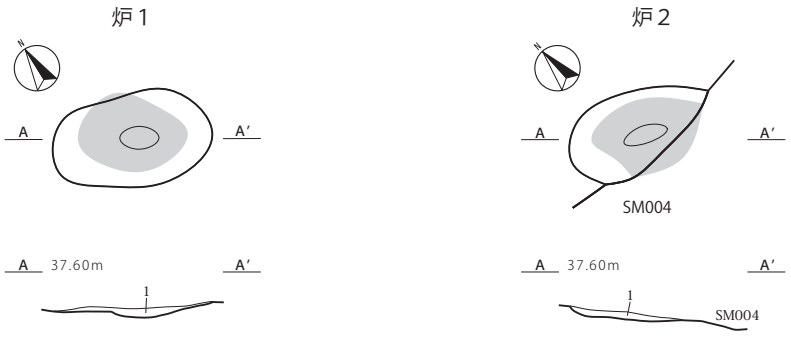
所見：炉が２基検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。複数の炉が検出されており、建物が重複しているとも考えられるが、床面レベルが同一であることから、１棟の建物と判断した。床面から壺（２）が出土している。



1　暗褐色土(10YR3/4)　　ロームブロックφ10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)　　ロームブロックφ10～20mm微量含む。粘性あり。しまり強い。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ロームブロックφ10mm微量含む。粘性あり。しまり強い。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第691図　SI010



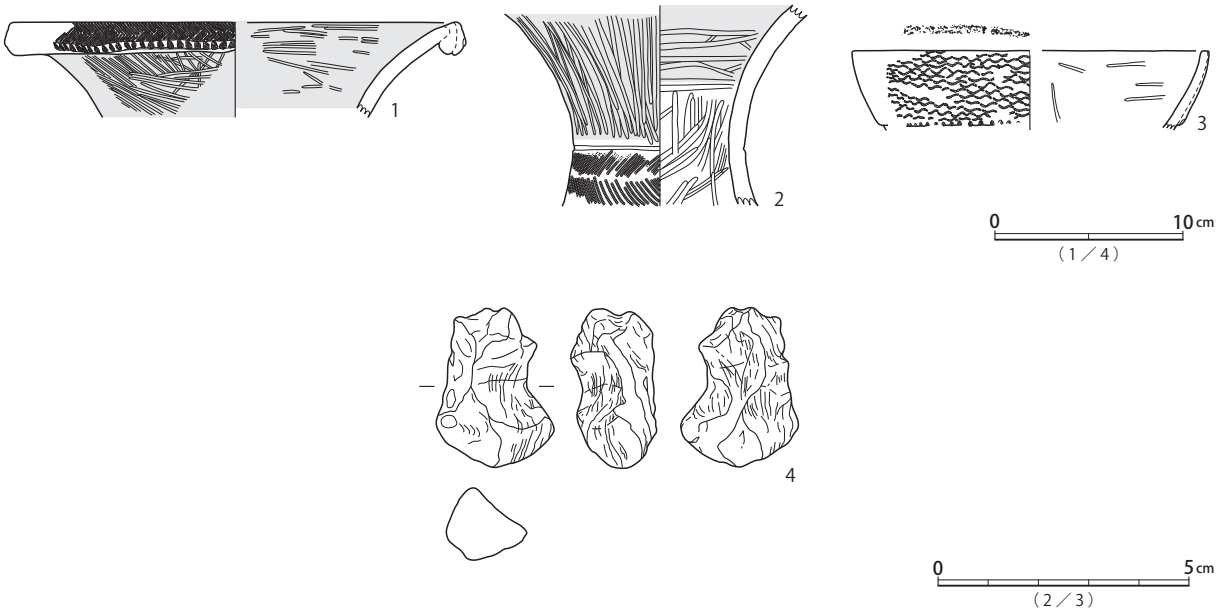
炉1・2
1　褐灰色土(10YR4/1)　焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第692図　SI010炉1・炉2

遺物：土器4,081.0g、石器・石製品4.33g、縄文土器108.0gが出土した。

１・２は壺、３は鉢である。１の折り返し部内面は粘土帯を挟み込み多段となっている。２の頸部は沈線により単節羽状縄文が区画される。３は口縁部に多条結節文が施される。４は海成泥岩の小礫である。色調は白色と赤色の斑である。赤色顔料の原料として持ち込まれたと考えられる。



第693図　SI010出土遺物

第230表　SI010出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土中層	口　径：(23.4) 底　径：　－ 器　高：［5.0］ 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：口唇部単節羽状縄文(RL・LR)、端部縄文原体によるキザミ、口縁部ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：黒色粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：にぶい橙 残存度：口縁部の破片	
2	弥生土器 壺	床面	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［10.6］ 最大径：　－	外面：口縁部ヘラミガキ縦位、赤彩、頸部沈線横位・単節羽状縄文（LR・RL） 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：砂粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：口縁部～頸部の4/5	
3	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：(18.8) 底　径：　－ 器　高：［4.2］ 最大径：　－	外面：口唇部結節文(S)、口縁部多条結節文・縄文原体によるキザミ 内面：口縁部ヘラミガキ横位	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	

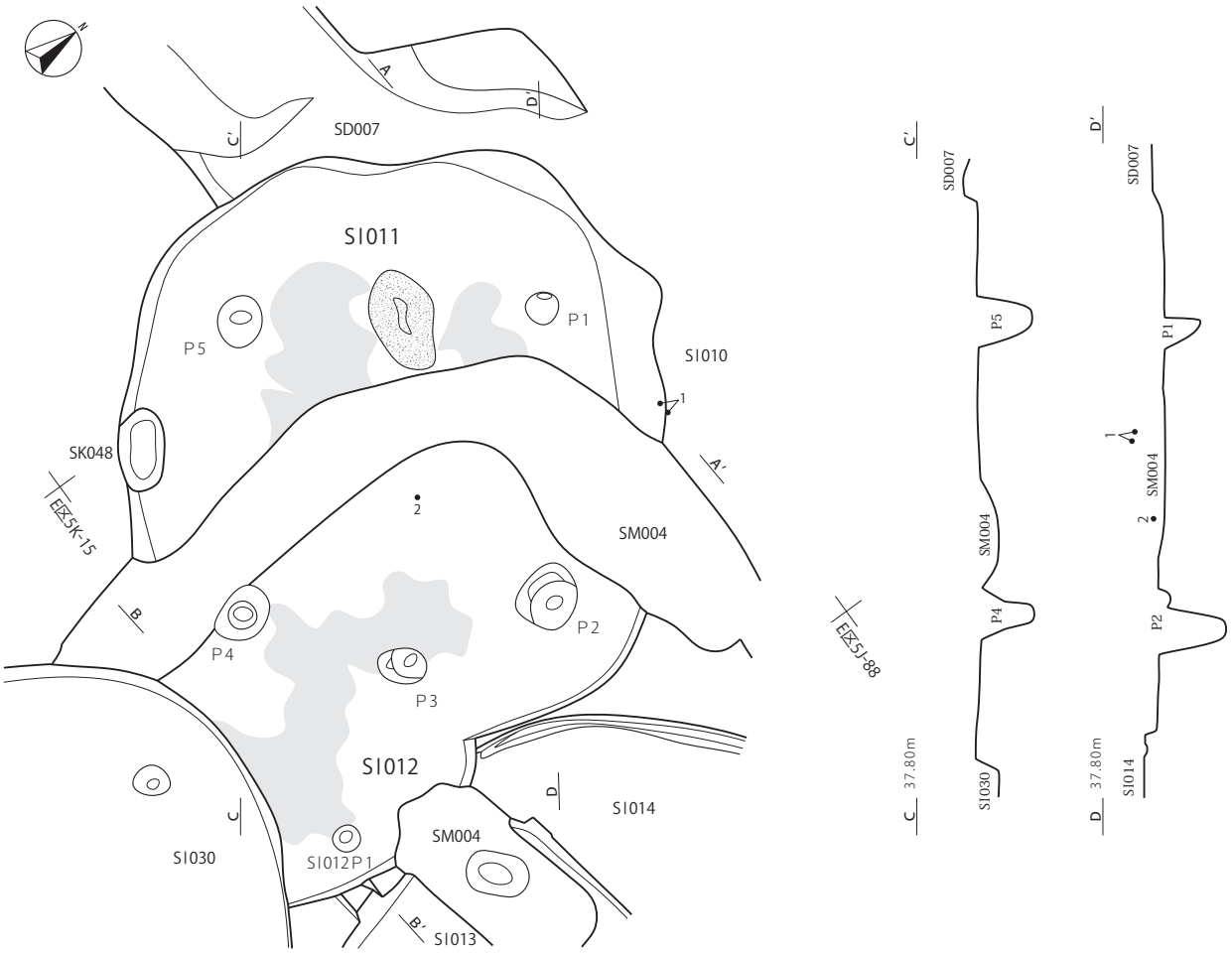
第231表　SI010出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
4	顔料	海成泥岩	覆土下層	3.50	2.35	1.40	4.33	

SI011（第694～696図、第232表、図版123・149）

位置：Ｅ区５Ｊ-95グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI010・SI012、SK048を切り、SM004、SD007に切られる。**規模：**主軸（6.28）m、副軸5.76ｍ、確認面からの深度0.32ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-54°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.12ｍ、短軸0.68ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが５基検出された。主柱穴はＰ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５で柱間は主軸方向3.20ｍ、副軸方向3.32ｍ。Ｐ３は主軸線上、炉の対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方



SI011

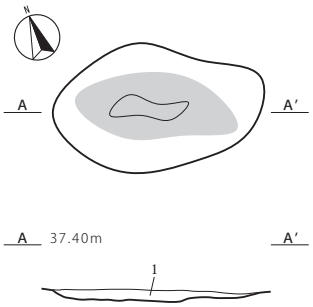
1	黒褐色土(10YR2/2)	ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2	灰黄褐色土(10YR4/2)	ロームブロックφ5mm、焼土微量。粘性あり。しまりあり。
3	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ10mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ20～50mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。

SI012

1	暗褐色土(10YR3/4)	焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2	暗褐色土(7.5YR3/4)	ローム粒子、ロームブロックφ5～30mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	暗褐色土(10YR3/4)	ロームブロックφ5～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4	暗褐色土(7.5YR3/3)	ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
5	暗褐色土(10YR3/4)	ロームブロックφ5～10mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

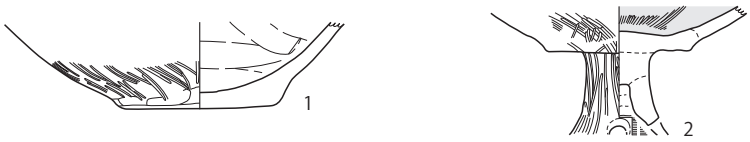
第694図　SI011・SI012



1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土少量、ロームブロックφ10 ～ 20mm微量含む。
粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第695図　SI011炉



0　10cm
（1／4）

第696図　SI011出土遺物

第232表　SI011出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　8.2 器　高：　[4.6] 最大径：　－	外面：胴部下半ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面：胴部下半～底部ヘラナデ	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：胴部下半～底部の3/4	
2	弥生土器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：　－ 器　高：　[6.8] 最大径：　－	特徴：脚部に円形透かし４箇所 外面：坏部～脚部ハケメ後ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ、赤彩、脚部ヘラナデ・ハケメ	胎　土：白色粒・長石・石英 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：坏部～脚部の1/4	

を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の両脇と南東側の一部が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代終末期と考えられる。

所見：炉、主柱穴が検出されたが、周溝は検出されなかった。SI012と重複し、床面レベルが同一で、硬化面もSI012に連続する。先に構築されたSI012の床面をそのまま使用した結果、同一レベルになった可能性がある。

遺物：土器1,629.0g、石器・石製品3.00g、縄文土器44.0gが出土した。

１は壺、２は高坏である。１は胴下部の歪みが顕著である。２は底部が平坦な坏部をもち、脚部には円形の透かしがみられる。

SI012（第694・697図、第233表、図版123・149）

位置：Ｅ区５Ｋ-06グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI014を切り、SM004、SI011・SI030に切られる。**規模：**東西方向を主軸と推定し（2.84）m、副軸（2.88）m、確認面からの深度0.64ｍ。**形態：**不明。**主軸方位：**Ｎ-76°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピッ

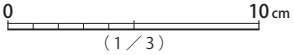
トが１基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央でＷ字状に硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器898.8g、縄文土器150.0gが出土した。

１は折り返し部に結節文、下端には縄文原体によるキザミが施される。また折り返し部内面は粘土帯を挟み込み多段となっている。



第697図　SI012出土遺物

第233表　SI012出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［1.8］ 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部結節文(S2段)、端部縄文原体によるキザミ、口縁部ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：砂粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：にぶい橙 残存度：口縁部の破片	

SI013（第698・699図、第234表、図版123・150）

位置：Ｅ区５Ｋ-08グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI014を切り、SM004に切られる。**規模：**南北方向を主軸と推定し3.24ｍ、副軸3.56ｍ、確認面からの深度0.43ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-12°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが１基検出された。Ｐ１は主軸線上、炉と推測される被熱部分の対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

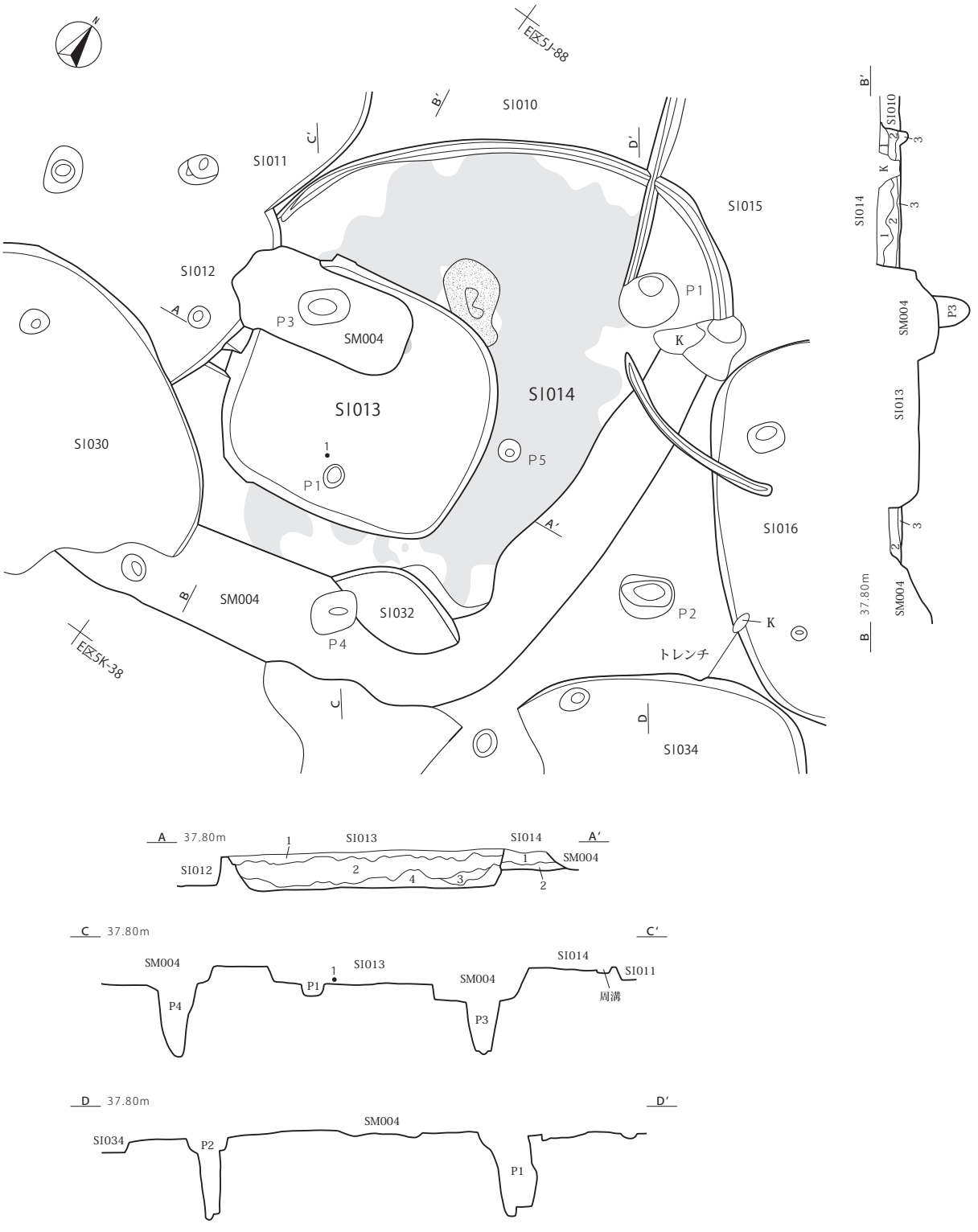
所見：本調査区では比較的小型の竪穴建物である。炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。中央北寄りの被熱部分が炉の可能性があるが、明確な掘り込みは確認できなかった。

遺物：土器886.5g、縄文土器29.0gが出土した。

１は口唇部に押圧はなく、頸下部に輪積みによる明瞭な段が見られる。

SI014（第698・700・701図、図版123）

位置：Ｅ区５Ｋ-09グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SM004、SI012・SI013・SI015・SI030・SI032に切られ、SI010・SI016と切り合うが新旧関係は不明である。**規模：**主軸（6.52）ｍ、副軸（7.36）ｍ、確認面からの深度0.48ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-36°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸（0.84）ｍ、短軸0.76ｍで浅く窪



SI013

1　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ロームブロックφ5mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ５～10mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

SI014

1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10～20mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　3m
（1／80）

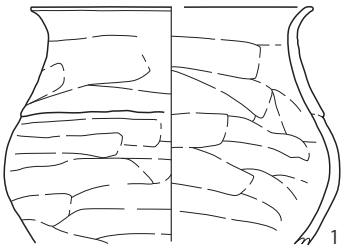
第698図　SI013・SI014

む。**施設：**ピットが５基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で柱間は主軸方向3.96ｍ、副軸方向4.24ｍ。周溝は東壁から北壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、残存部分のほぼ全面が硬化している。

時期：重複および竪穴建物の形態から、弥生時代後期と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。主柱穴はＰ１を除いて、他遺構に分断されているが、規模や配置からSI014の主柱穴と判断した。

遺物：土器1,365.0g、石器・石製品2.00gが出土したが、小破片のため図示していない。



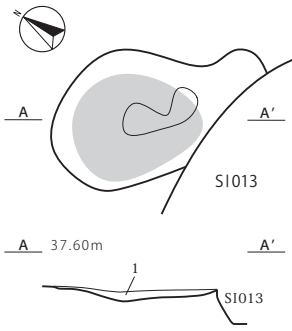
0　10cm
（1／4）

第699図　SI013出土遺物

第234表　SI013出土土器観察表

単位：cm

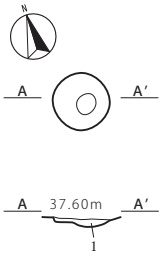
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：(14.8) 底　径：　－ 器　高：[12.6] 最大径：　－	特徴：輪積み痕を1段残す 外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ	胎　土：砂粒・石英 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/3	



1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ５～10mm、炭化物、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第700図　SI014炉



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第701図　SI014P5

SI015（第702 ～ 705図、第235表、図版155）

位置：Ｅ区６Ｊ-70グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI010・SI014を切り、SM004、SI016に切られる。**規模：**主軸7.36ｍ、副軸6.48ｍ、確認面からの深度0.62ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-18°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.20ｍ、短軸（0.84）ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。主柱穴はＰ１・Ｐ２・Ｐ５・Ｐ７で柱間は主軸方向3.48ｍ、副軸方向3.68ｍ。Ｐ３・Ｐ４は主軸上、北壁付近に位置する浅い小ピットである。周溝はほぼ全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の両脇から南東側にかけて硬化している。

時期：重複および出土遺物から、弥生時代後期と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。南西側でSI016と重複するが床面レベルが同一で、硬化面もSI016と連続する。土層の観察から、SI015埋没後SI016が構築され、SI015床面の一部をSI016が使用していることが確認できる。Ｐ２はSI016の主柱穴と重複しており、断面形状から、１段目の浅い段差がSI015、底面がSI016の主柱穴に相当すると考えられる。

遺物：土器3,085.0g、石器・石製品101.20g、縄文土器128.0gが出土した。

１は結晶片岩の砥石である。表裏を主要な砥面とする。

SI016（第702・703・706・707図、第236表、図版123・150）

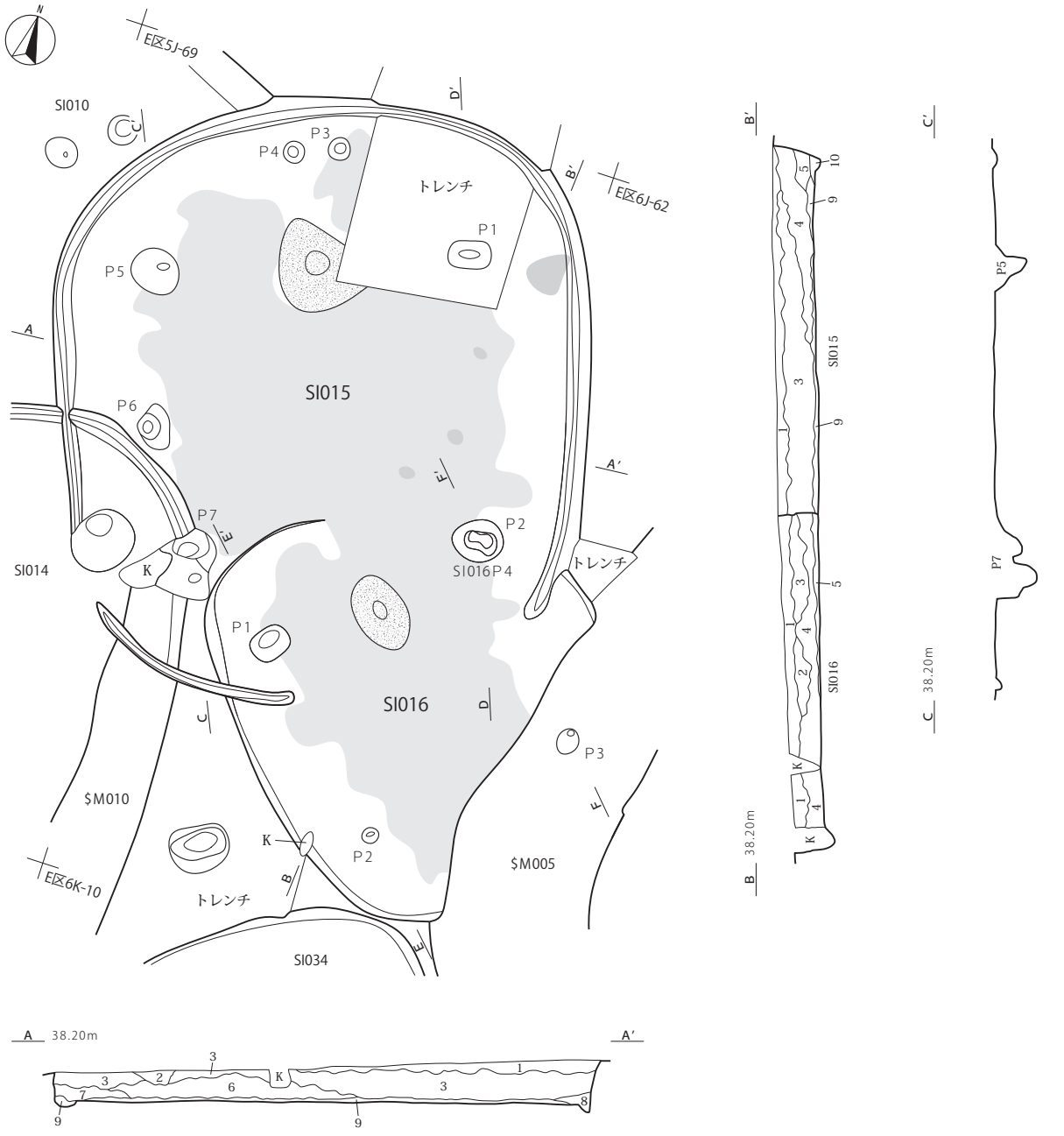
位置：Ｅ区６Ｊ-91グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI015を切り、SM007に切られる。SI014と切り合うが新旧関係は不明である。南壁の一部は撹乱される。**規模：**主軸（5.04）ｍ、副軸（4.52）ｍ、確認面からの深度0.28ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-45°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.96ｍ、短軸0.60ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で柱間は主軸・副軸方向ともに2.68ｍ。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周辺から南東側にかけて硬化している。

時期：重複および出土遺物から弥生時代後期後葉と考えられる。

所見：炉、主柱穴が検出されたが、周溝は検出されなかった。

遺物：土器2,165.5g、縄文土器17.0gが出土した。

１の口縁部は内面に折り返され、口唇部、内面の折り返し部、頸下部の３箇所にヘラキザミが施される。



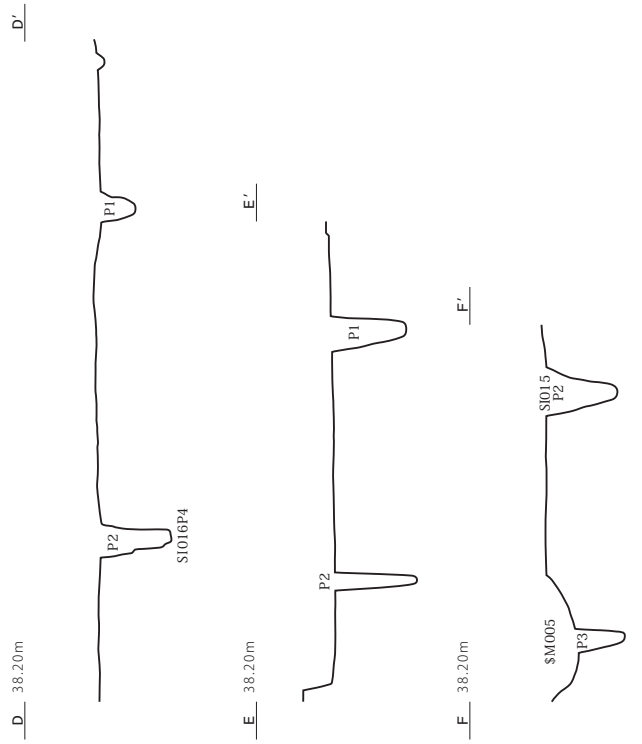
SI015

1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土少量、ロームブロックφ10～30mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまり弱い。
6　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ10～30mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
7　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ５～10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
8　黒褐色土(10YR2/3)　ロームブロックφ5mm、焼土微量含む。粘性あり。しまり弱い。
9　暗褐色土(10YR3/3)　焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
10　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土少量、ロームブロックφ5mm微量含む。粘性あり。しまり強い。

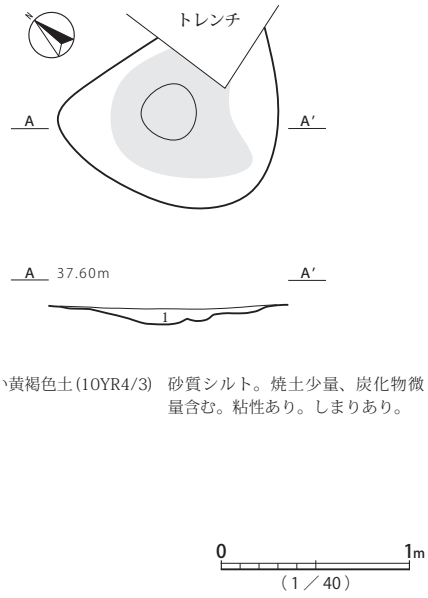
SI016

1　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ５～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ５～30mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ5mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10～20mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

第702図　SI015・SI016（１）

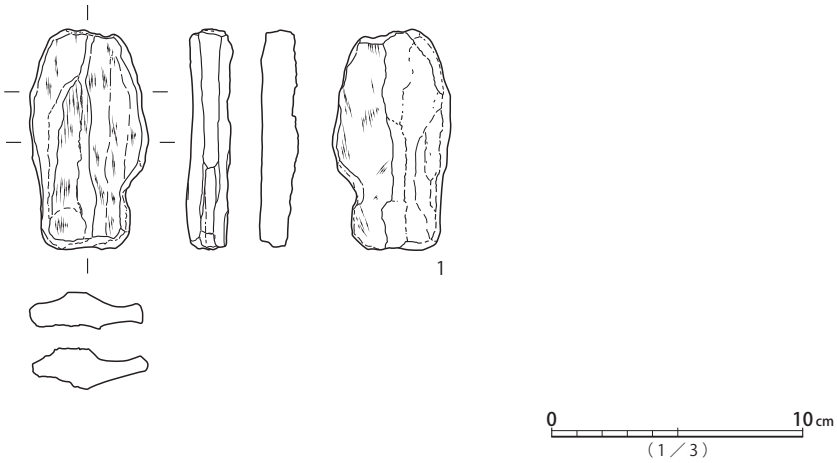


第703図　SI015・SI016（2）



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質シルト。焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

第704図　SI015炉

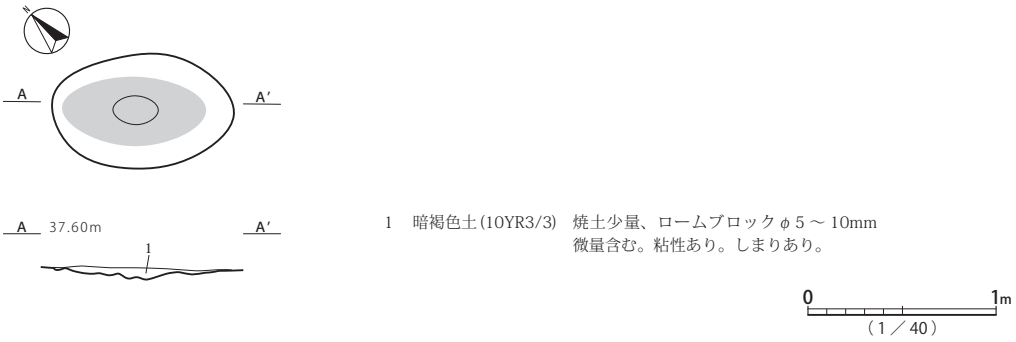


第705図　SI015出土遺物

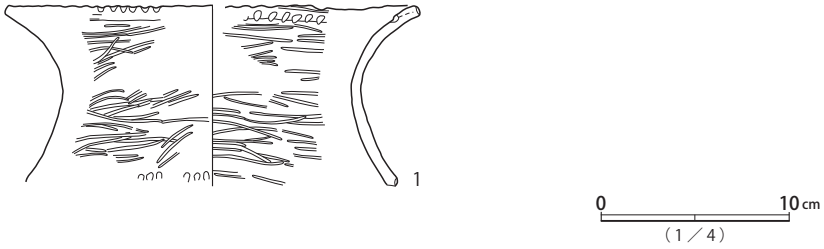
第235表　SI015出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	備考
1	砥石	結晶片岩	覆土下層	8.70	4.60	1.60	93.20	



第706図　SI016炉



第707図　SI016出土遺物

第236表　SI016出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：(21.5) 底　径：　－ 器　高：　[9.5] 最大径：　－	**特徴**：口縁部内面に折り返し **外面**：口唇部ヘラキザミ、口縁部ヘラミガキ横位、頸下部ヘラキザミ **内面**：折り返し部ヘラキザミ、口縁部～頸部ヘラミガキ横位	**胎　土**：石英・黒色粒・海綿骨針 **焼　成**：良好 **色　調**：橙 **残存度**：口縁部～頸部の1/3	

SI017（第708～711図、第237表、図版123・150）

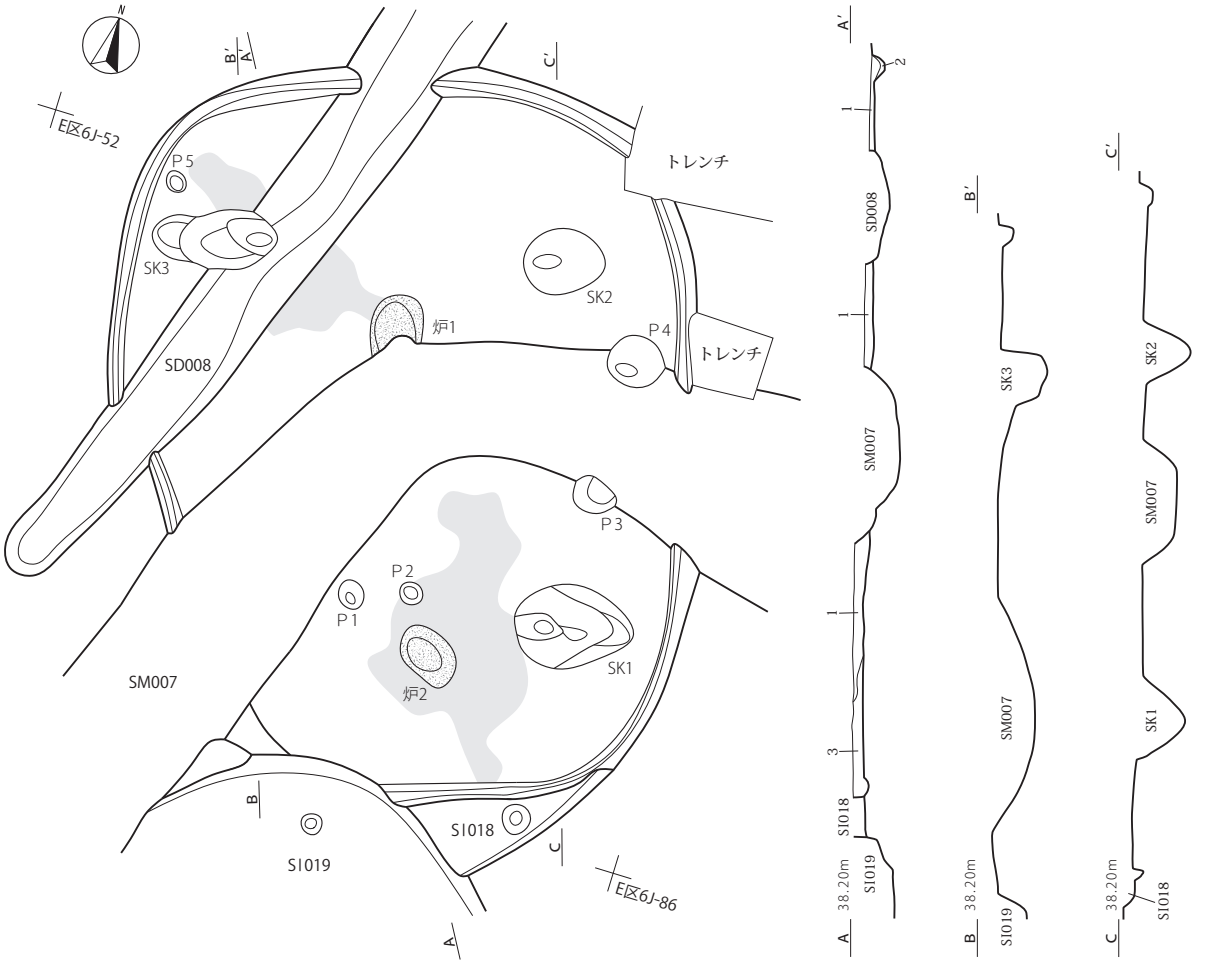
位置：Ｅ区６Ｊ-64グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI018を切り、SM007、SI019、SD008に切られる。**規模：**主軸（7.84）m、副軸（6.24）m、確認面からの深度（0.32）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-17°-Ｗ。**炉：**２基検出された。炉１が竪穴中央やや北寄りで長軸0.60ｍ、短軸0.56ｍ、炉２が竪穴中央やや南東寄りで長軸0.72ｍ、短軸0.48ｍ、ともに浅く窪む。**施設：**土坑３基、ピット５基が検出された。主柱穴はSK1～SK3で主軸方向3.92ｍ、副軸方向3.20ｍ。周溝は残存する壁際で検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央北西側の一部と炉２の周辺が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：２基の炉、主柱穴、周溝が検出された。SM007により分断されたそれぞれの床面で炉が検出されていることから、２棟の竪穴建物とも考えられるが、床面レベルが同一であることや主柱穴の配置から１棟の建物と判断した。主柱穴のうち、もう１基はSM007によって削平されたと考えられる。

遺物：土器922.0g、石器・石製品14.00gが出土した。

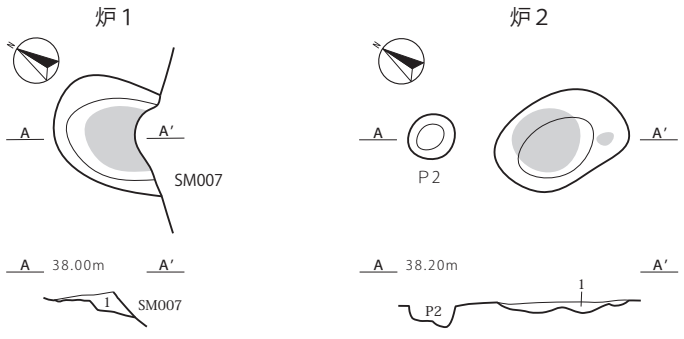
１の口唇部は単節縄文が施され、内外面は細かくヘラミガキされる。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、ロームブロックφ10～50mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子、ロームブロックφ5～20mm微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　3m
（1／80）

第708図　SI017

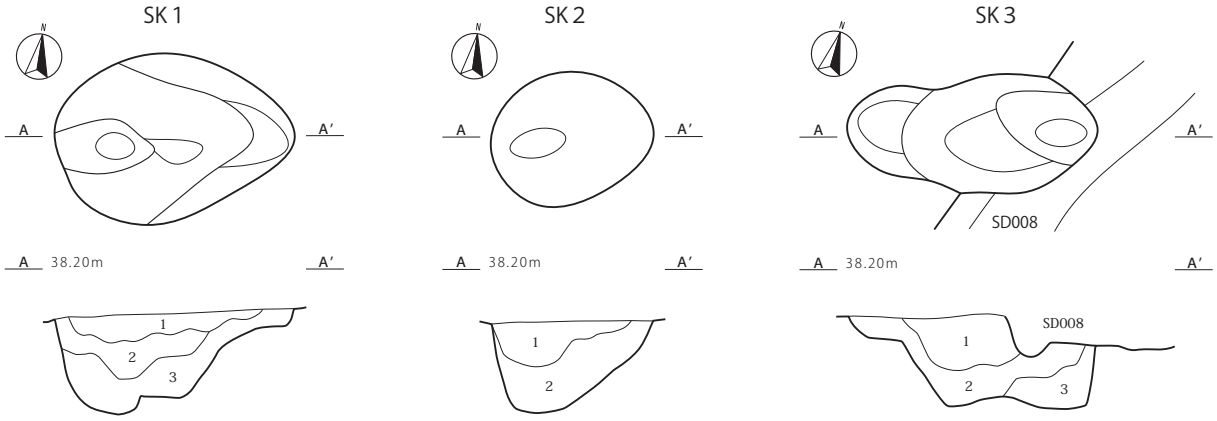


炉1
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土中量、ロームブロックφ10～30mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

炉2
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子、焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第709図　SI017炉１・炉２



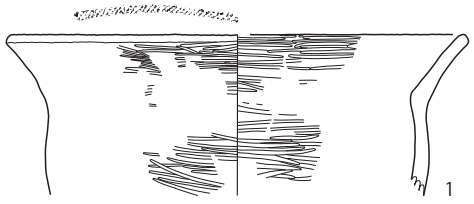
SK1
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子多量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　オリーブ褐色土(2.5Y4/3)　ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。

SK2
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子多量、ロームブロックφ10～30mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK3
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10～40mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ５～10mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第710図　SI017SK1～SK3



0　10cm
（1／4）

第711図　SI017出土遺物

第237表　SI017出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土上層	口　径：(24.0) 底　径：　－ 器　高：　[8.5] 最大径：　－	外面：口唇単節縄文（RL）、口縁部～胴部ヘラミガキ横位 内面：口縁部～胴部ヘラミガキ横位	胎　土：黒色粒顕著・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	

SI018（第712・713図、第238表、図版123・150）

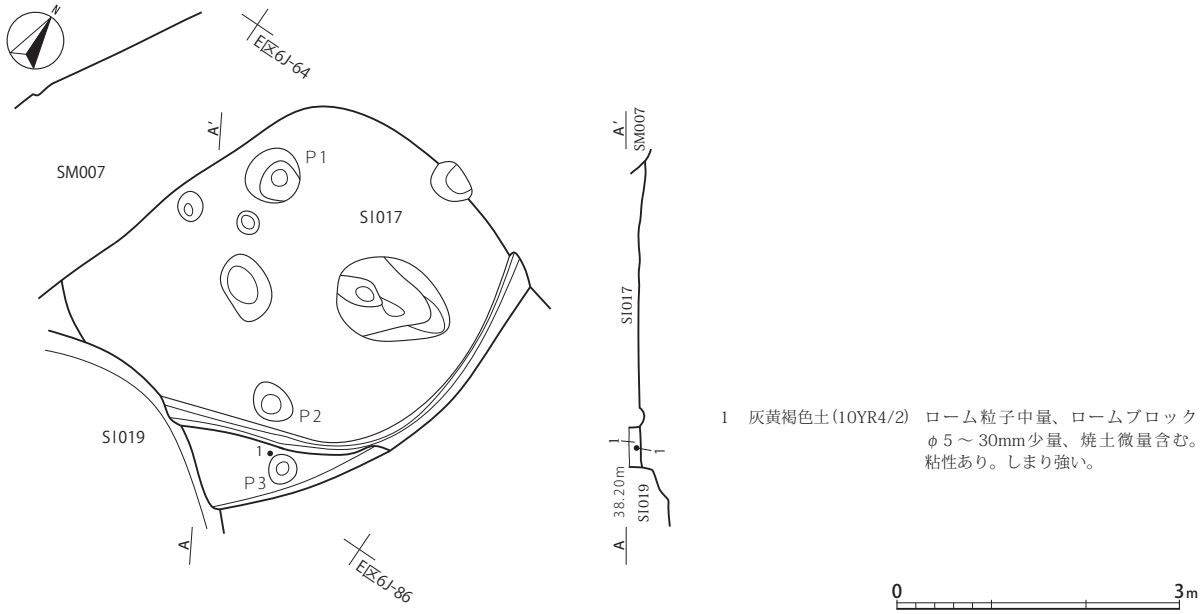
位置：Ｅ区６Ｊ-74グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI017・SI019に切られる。**規模：**北西－南東方向を主軸と推定し（3.80）m、副軸（3.84）m、確認面からの深度（0.21）m。**形態：**不明。**主軸方位：**Ｎ-34°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが３基検出された。１列に並ぶがＰ３は深度0.14ｍと浅く柱穴とは言いがたい。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期前葉～中葉と考えられる。

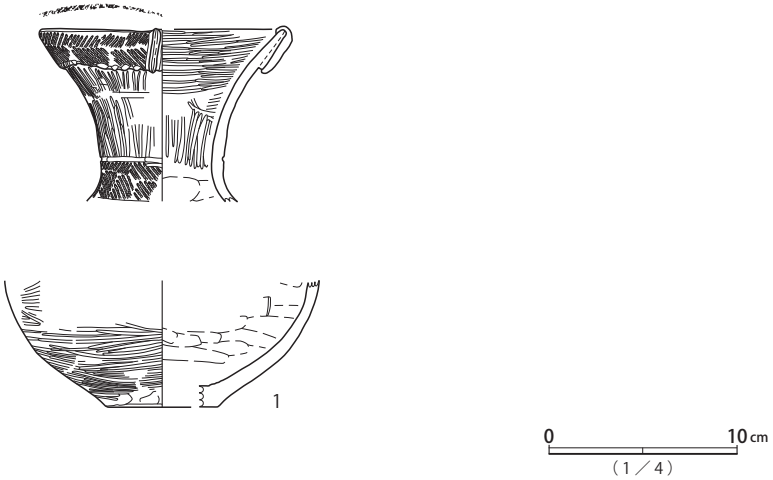
所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。壁面がほぼ垂直に立ち上がり底面が水平に広がることから竪穴建物と判断した。床面から壺（１）が出土している。

遺物：土器668.3g、石器・石製品5.00g、縄文土器32.0gが出土した。

１は肩部から胴部を欠く２点を同一個体とし図示している。複合部は単節羽状縄文を施し棒状貼付文を添付している。頸部は沈線により単節羽状縄文を区画する。



第712図　SI018



第713図　SI018出土遺物

第238表　SI018出土土器観察表

単位：cm

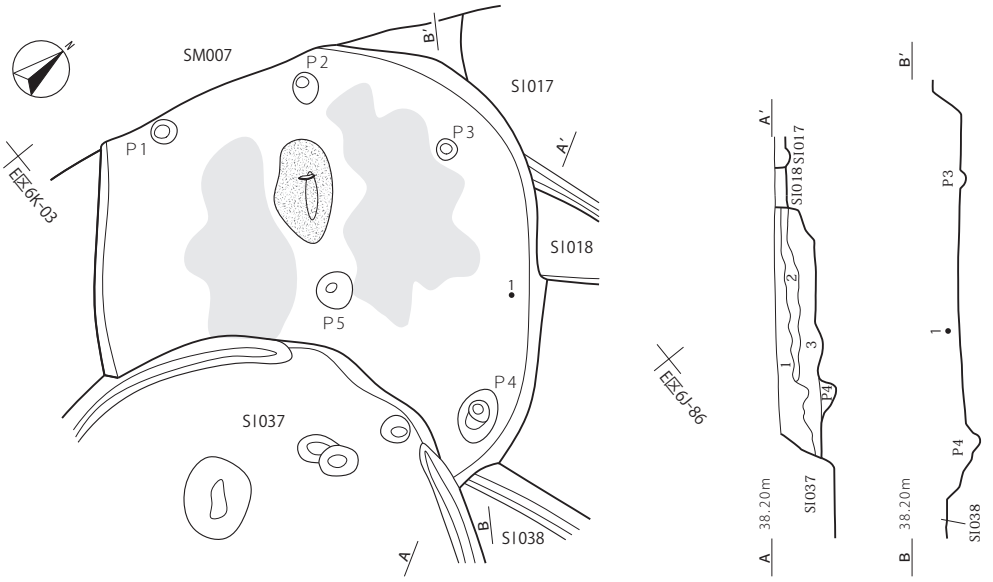
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	床面	口　径：(12.8) 底　径：　(5.9) 器　高：　[9.1] 　　[6.7] 最大径：　－	**特徴**：複合口縁 **外面**：口唇部単節縄文（LR）、複合部単節羽状縄文（LR・RL）、端部ヘラキザミ、棒状貼付文２本一組４箇所、口縁部ヘラミガキ縦位、頸部単節羽状縄文（LR・RL）施文後、上下を沈線区画、胴部ヘラミガキ横位、底部ヘラケズリ **内面**：口縁部ヘラミガキ、頸部ヘラナデ、胴部～底部ヘラナデ	**胎　土**：砂粒・黒色粒 **焼　成**：良好 **色　調**：橙 **残存度**：口縁部～頸部と底部の1/4	

SI019（第714～716図、第239表、図版124・150）

位置：Ｅ区６Ｊ-94グリッドを中心とする台地の南向き緩斜面に位置する。**重複：**SI017・SI018・SI038を切り、SM007、SI037に切られる。**規模：**主軸（4.68）m、副軸（4.76）m、確認面からの深度（0.49）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-51°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.12ｍ、短軸0.60ｍで浅く窪む。燃焼面からは、壺の頸部片が直立して出土しており、土器囲いに使用されたと考えられる。**施設：**ピットが５基検出された。Ｐ１～Ｐ４は、壁に沿うように等間隔で検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の両脇が硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

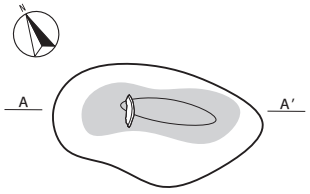
所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し自然埋没した状況を示す。



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子、ロームブロックφ5mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　　ロームブロックφ５～30mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　　ローム粒子、ロームブロックφ５～30mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第714図　SI019



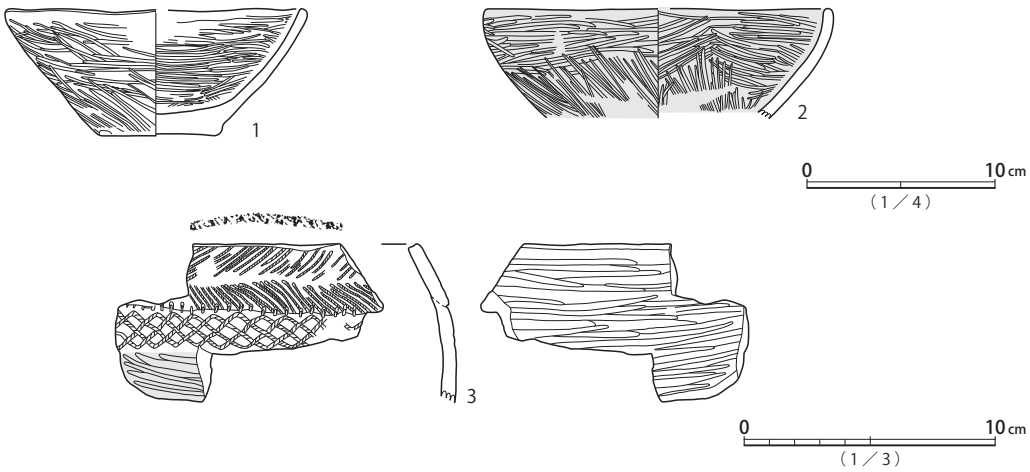
1　黒褐色土(7.5YR3/1)　焼土中量、ロームブロックφ５～10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第715図　SI019炉

遺物：土器1,899.0g、石器・石製品4.00g、縄文土器235.0gが出土した。

１・２は鉢、３は無頸壺もしくは鉢である。１は無文、無彩でヘラミガキは粗く、内外面に細かい凹凸が見られる。２の器面調整は丁寧で、内外面とも赤彩される。３は薄手で、口唇部に無節縄文、口縁部には無節羽状状文が施文され、段部は縄文原体によるキザミを用いて区画されている。その下位には下端の閉じた網目状撚糸文が施文される。



第716図　SI019出土遺物

第239表　SI019出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：(15.5) 底　径：　6.2 器　高：　6.7 最大径：　－	**外面：**口縁部ヨコナデ体部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ **内面：**口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ	**胎　土：**石英・砂粒・黒色粒 **焼　成：**良好 **色　調：**橙 **残存度：**口縁部～底部の2/3	
2	弥生土器 鉢	覆土上層	口　径：(18.0) 底　径：　－ 器　高：　[5.8] 最大径：　－	**外面：**口縁部～体部ヘラミガキ、赤彩 **内面：**口縁部～体部ヘラミガキ、赤彩	**胎　土：**石英・砂粒 **焼　成：**良好 **色　調：**橙 **残存度：**口縁部～体部の1/2	
3	弥生土器 無頸壺又は鉢	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[6.3] 最大径：　－	**特徴：**口縁部内湾 **外面：**口唇部無節縄文（R）、口縁部無節羽状縄文（L・R）・端部縄文原体によるキザミ、網目状撚糸文・ヘラミガキ、赤彩 **内面：**口縁部ヘラミガキ横位	**胎　土：**黒色粒・海綿骨針 **焼　成：**良好 **色　調：**橙 **残存度：**口縁部の破片	

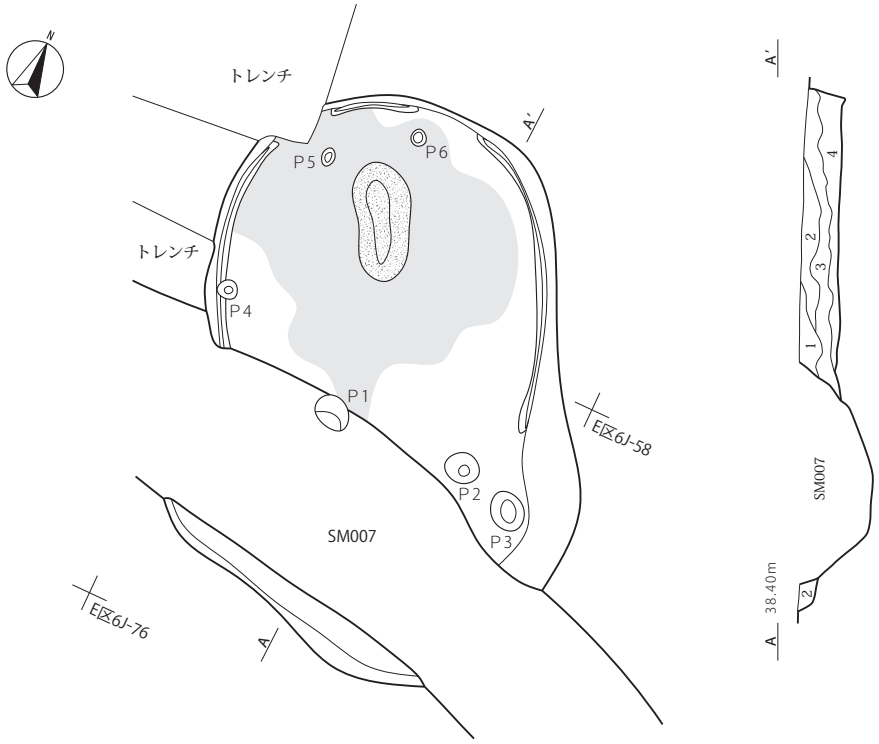
SI020（第717・718図、図版124）

位置：Ｅ区６Ｊ-56グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SM007に切られる。**規模：**主軸6.24ｍ、副軸（4.40）ｍ、確認面からの深度（0.49）ｍ。**形態：**小判形もしくは長楕円形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-25°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.28ｍ、短軸0.60ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。Ｐ３～Ｐ６は壁沿いに位置する。周溝は西壁から東壁にかけて断続的に検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の周辺が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。隅丸方形の竪穴建物が大半を占める中で、長楕円形に近い形である。複数の建物を１棟と誤認している可能性もあるが、床面レベルが一定であり、覆土からも重複が認められなかったことから１棟の建物と判断した。

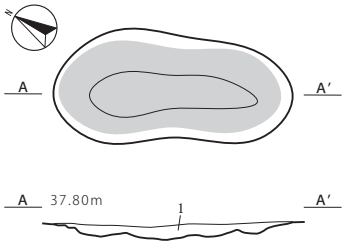
遺物：土器876.0g、縄文土器238.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子中量、ロームブロックφ20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、ロームブロックφ10～20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、ロームブロックφ5～10mm微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　3m
（1／80）

第717図　SI020



1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土少量、ローム粒子、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第718図　SI020炉

SI021（第719・720図、図版124）

位置：Ｅ区７Ｊ-00グリッドを中心とする台地の北西向き斜面に位置する。**重複：**SI005・SI022と切り合うが新旧関係は不明である。検出段階で床面が露出し、壁面と床面の一部が削平ないし流失している。**規模：**主軸（3.04）m、副軸（2.32）m。**形態：**周溝から隅丸方形と推測されるが断定はできない。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.76ｍ、短軸0.32ｍで浅く窪む。**施設：**周溝は南東側から南側にかけて検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、飛び石状に硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

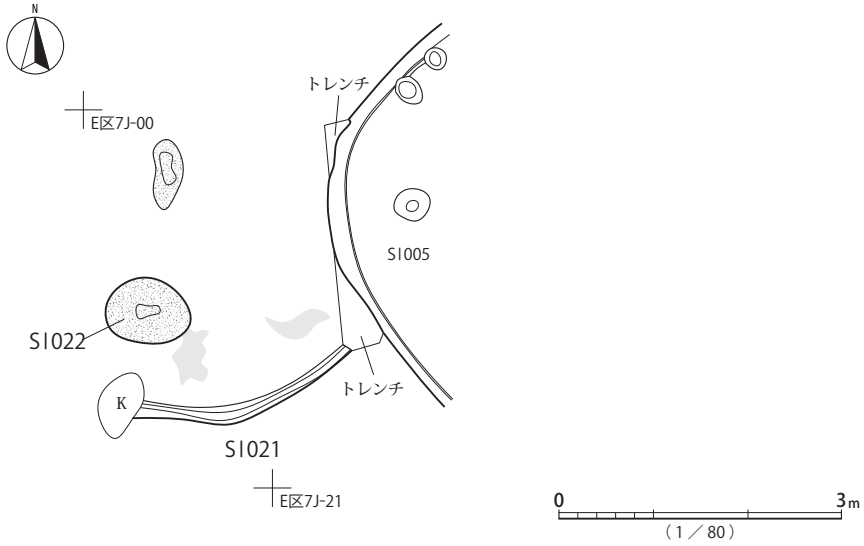
所見：炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。周溝の内側で２基の炉を検出しているが、周溝に近い炉は別の竪穴建物（SI022）と判断した。

遺物：出土していない。

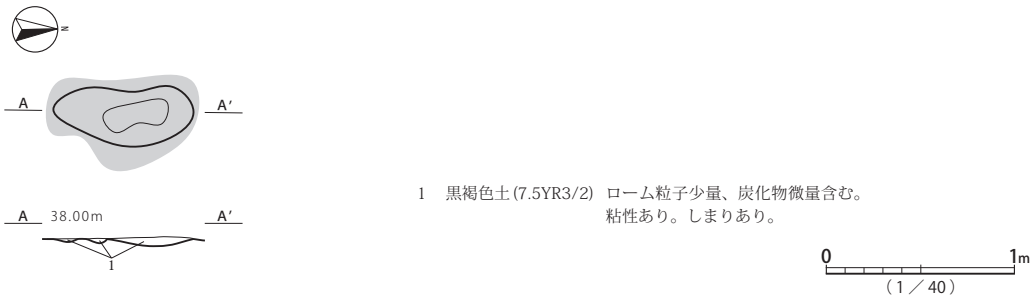
SI022（第719・721・722図、第240表、図版124・150）

位置：Ｅ区７Ｊ-00グリッドを中心とする台地の北西向き斜面に位置する。**重複：**SI005・SI021と切り合うが新旧関係は不明である。炉のみを確認した。**規模：**不明。**形態：**不明。**炉：**長軸0.88ｍ、短軸0.68ｍで浅く窪む。**施設：**不明。

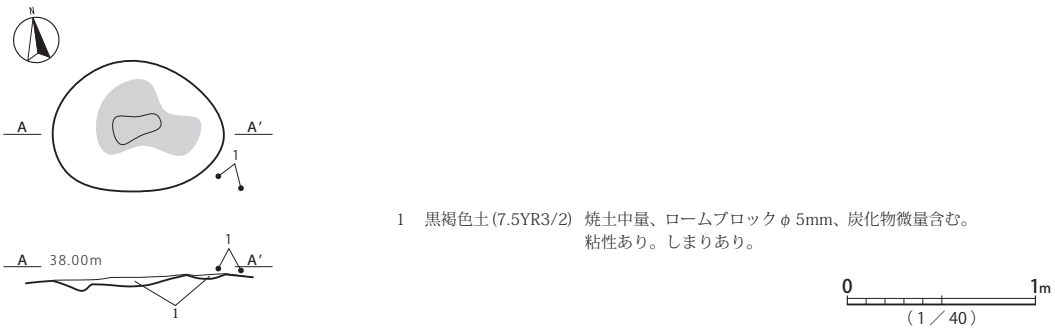
時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期後葉と考えられる。



第719図　SI021・SI022



第720図　SI021炉

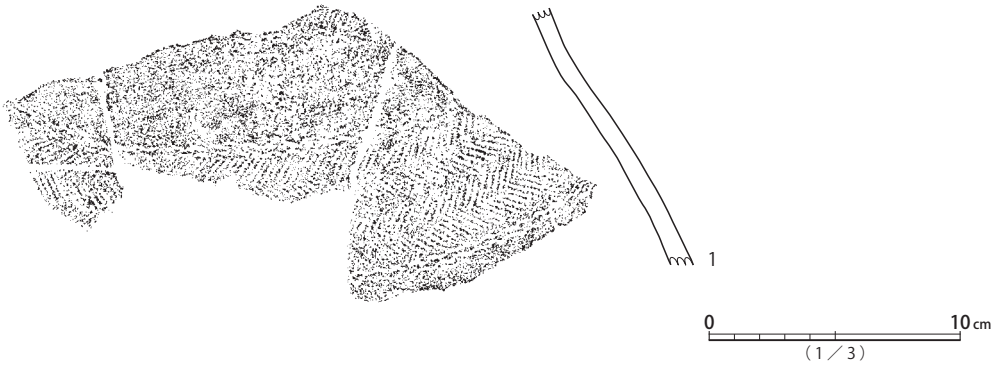


第721図　SI022炉

所見：炉のみの検出である。調査区内では縄文時代早期の炉穴も検出されているが、掘り込みの形態や深度から炉穴とは考えにくく、削平された竪穴建物の炉と判断した。

遺物：土器589.6g、縄文土器44.0gが出土した。

１は単節羽状縄文が２段の結節により区画される。



第722図　SI022出土遺物

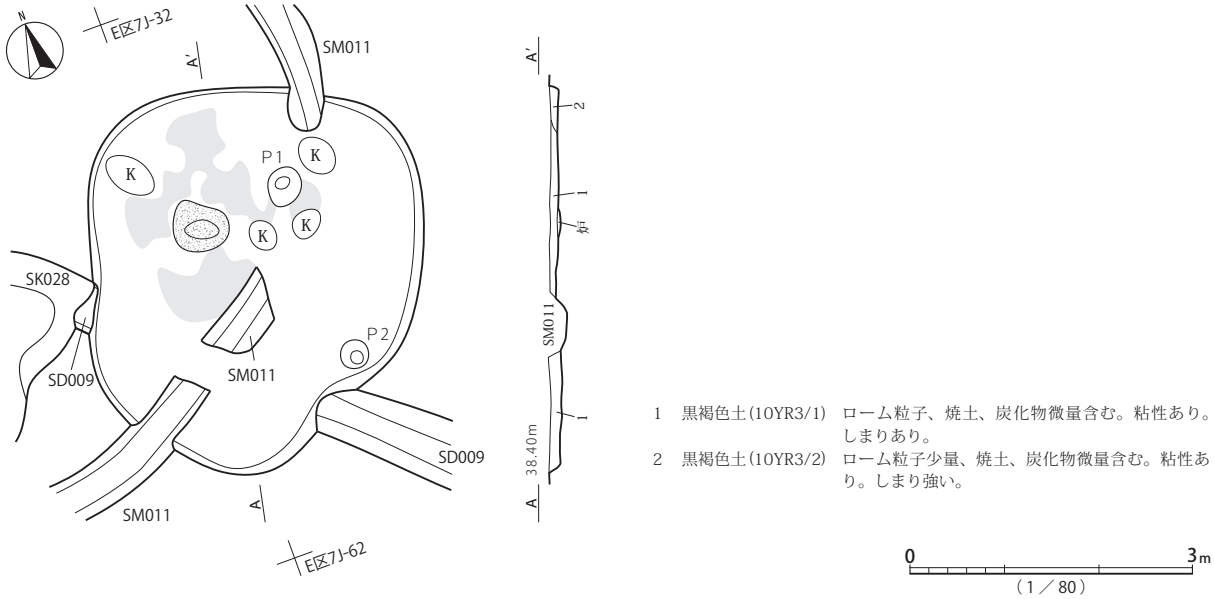
第240表　SI022出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[10.2] 最大径：　－	外面：肩部単節縄文（RL）・結節文（S2段）・ヘラミガキ・結節文（S2段）・単節羽状縄文（LR・RL・LR・RL）・結節文（S2段）・ヘラミガキ 内面：肩部ヘラナデ横位	胎　土：砂粒・石英 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：肩部の破片	大型壺

SI023（第723～725図、第241表、図版124・155）

位置：Ｅ区７Ｊ-42グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SK014・SK015を切り、SM011、SD009に切られる。床面北西側と北東側の一部は撹乱される。**規模：**主軸4.08ｍ、副軸3.52ｍ、確認面からの深度0.17ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-20°-Ｅ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.56ｍ、短軸0.48ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出され



第723図　SI023

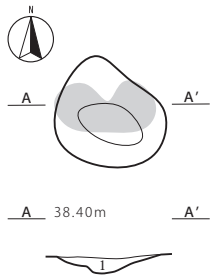
た。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の周辺から樹枝状に硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。重複や壁面の崩落により平面形態が歪になっており建物機能時の状況を示してはいない。

遺物：土器396.1g、石器131.00g、縄文土器381.0gが出土した。

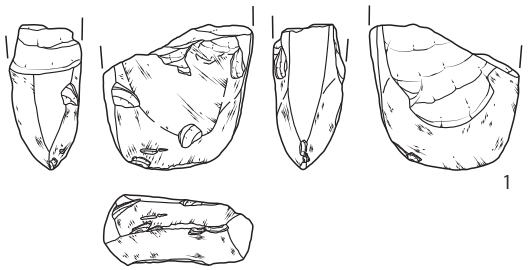
１はドレライトの太型蛤刃石斧である。裏面は整形時の剥離痕が残る。刃部には小剥離や刃潰れなどの使用痕がみられる。



1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土少量、炭化物、ローム粒子微量含む。
粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第724図　SI023炉



0　10cm
（1／3）

第725図　SI023出土遺物

第241表　SI023出土石器観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
1	磨製石斧	ドレライト	覆土	[5.80]	[5.90]	[2.85]	130.00	太型蛤刃石斧、剥離後研磨、使用痕

SI024（第726 ～ 728図、第242表、図版124・150）

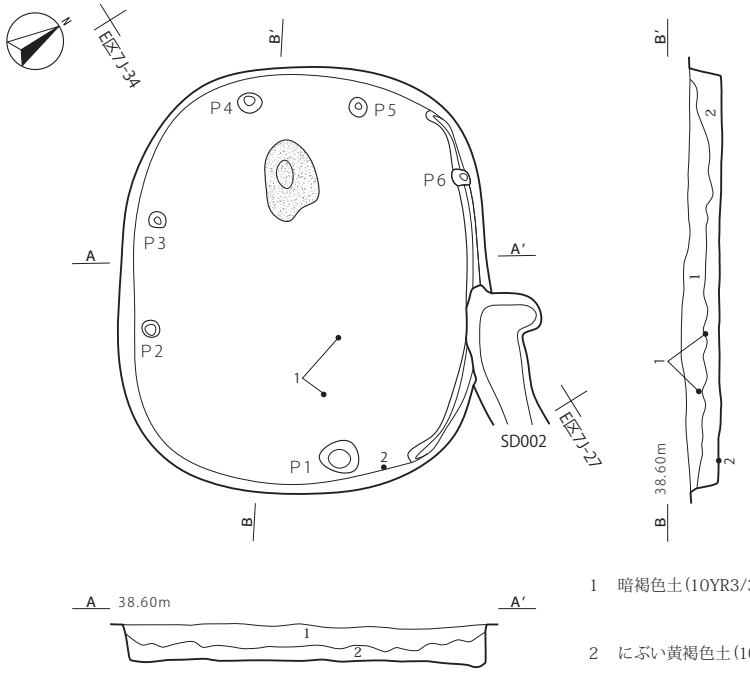
位置：Ｅ区７Ｊ-25グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SK017を切り、SD002に切られる。**規模：**主軸4.52ｍ、副軸3.96ｍ、確認面からの深度0.42ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-58°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.84ｍ、短軸0.52ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。Ｐ１は主軸線上、炉の対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。Ｐ２～Ｐ６は壁沿いにほぼ等間隔で並ぶ。周溝は北壁から東壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、全面が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期前葉と考えられる。

所見：床面は完存している。炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。床面から鉢（２）が出土している。遺構の残存状況は良好であるが、遺物の出土量は少ない。

遺物：土器1,590.8g、石器・石製品14.00g、縄文土器776.0gが出土した。

１は壺、２は鉢である。２は単節羽状縄文を沈線で区画している。

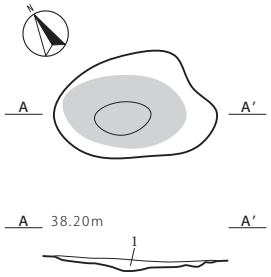


1　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土少量、ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

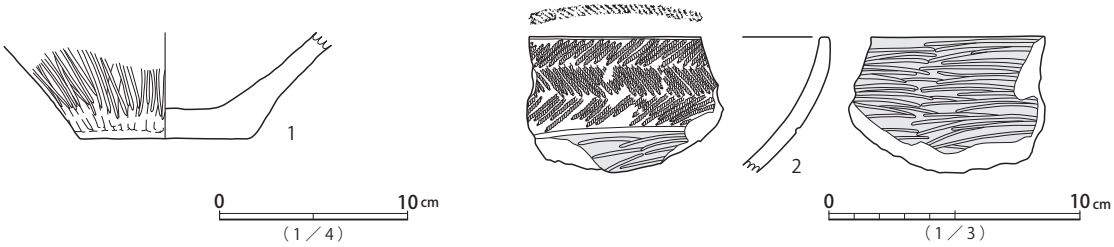
第726図　SI024



1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　1m
（1／40）

第727図　SI024炉



0　10cm
（1／4）

0　10cm
（1／3）

第728図　SI024出土遺物

第242表　SI024出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土中層	口　径：　－ 底　径：　9.0 器　高：［5.6］ 最大径：　－	外面：底部ヘラナデ後ヘラミガキ縦位 内面：底部器面剥落	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：底部のみほぼ完存	
2	弥生土器 鉢	床面	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［5.4］ 最大径：　－	外面：口唇部単節縄文（RL）、口縁部単節羽状縄文（LR・RL・LR）・沈線横位、ヘラミガキ横位、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：にぶい橙 残存度：口縁部の破片	

SI025（第729 ～ 731図、第243表、図版124・150）

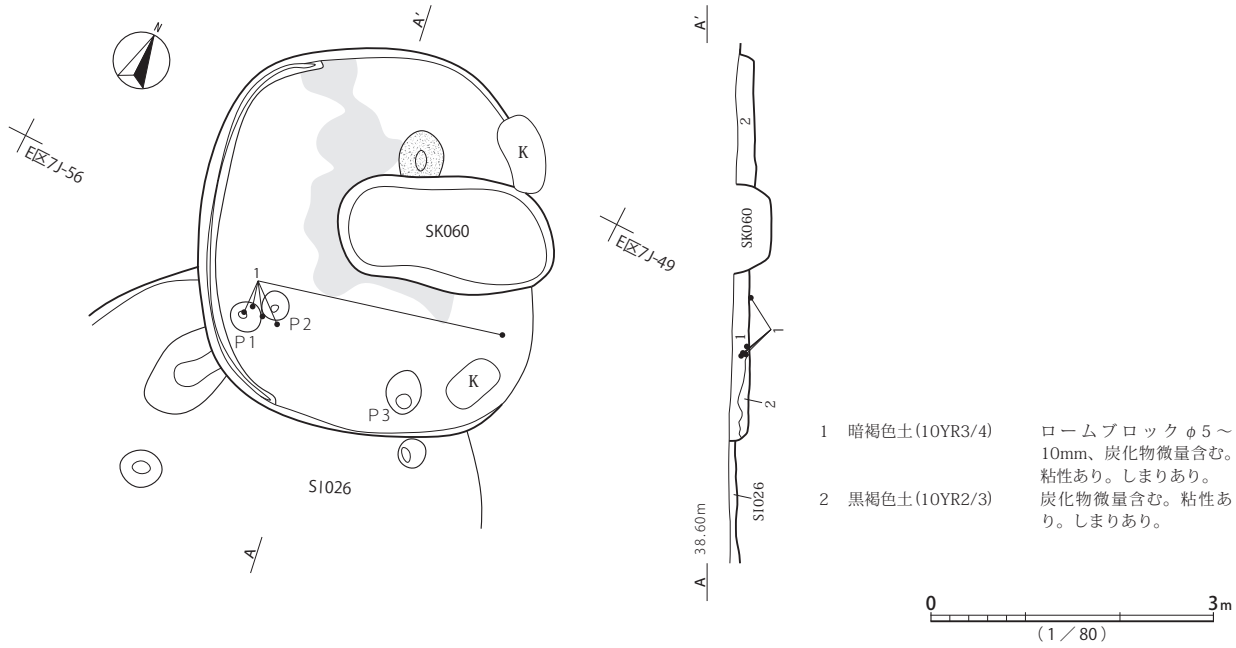
位置：Ｅ区７Ｊ-47グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**SI026を切り、SK060に切られる。北東壁と南東側の一部は撹乱される。**規模：**主軸4.08ｍ、副軸（3.56）ｍ、確認面からの深度（0.33）ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-27°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸（0.48）ｍ、短軸0.48ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが３基検出された。Ｐ３は主軸線上、炉の対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は北西壁から南壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央から北西側にかけて硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期中葉と考えられる。

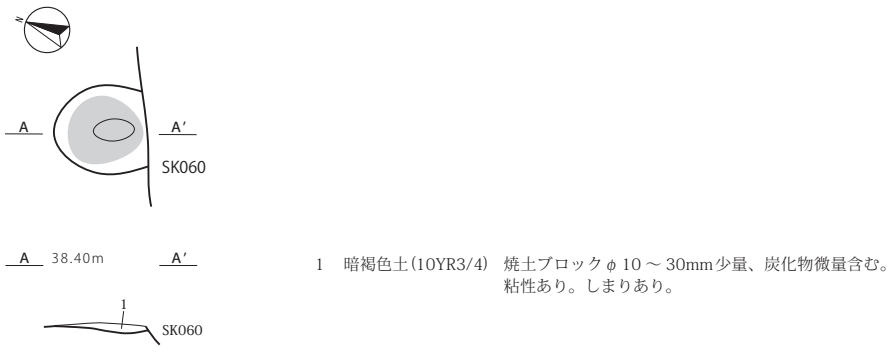
所見：炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。底面から壺（１）が出土している。

遺物：土器824.1g、石器・石製品8.15g、縄文土器57.0gが出土した。

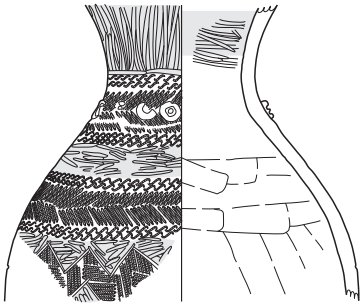
１は単節羽状縄文が２段の結節により区画される。この縄文帯の下位には山形縄文帯が施文される。単節縄文の施文後、山形の沈線により区画され、枠外を磨り消している。



第729図　SI025



第730図　SI025炉



第731図　SI025出土遺物

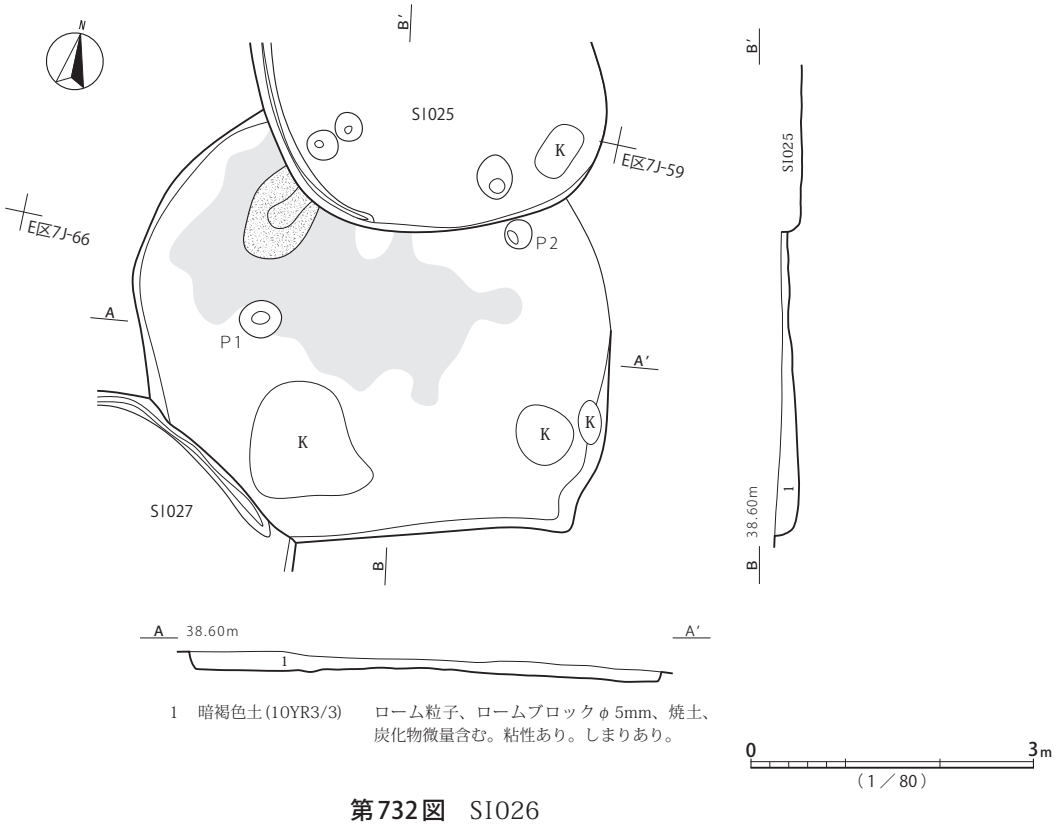
第243表　SI025出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下 層・床面	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[15.7] 最大径：　－	**外面**：頸部ヘラミガキ・結節文（S2段）・単節羽状縄文（LR・RL）後筒状工具による刺突のある円形貼付文・結節文（S2段）・ヘラミガキ横位・結節文（S2段）・単節羽状縄文（LR・RL）・結節文（S2段）・単節縄文を施文後沈線で山形帯を施文、区画外ヘラミガキ、ヘラミガキ部赤彩 **内面**：頸部ヘラミガキ横位、赤彩、胴部ヘラナデ	**胎　土**：砂粒・石英・黒色粒 **焼　成**：良好 **色　調**：橙 **残存度**：頸部～胴部の1/2	

SI026（第732～734図、第244表、図版124・150）

位置：Ｅ区７Ｊ-68グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SM013、SI025に切られ、SI027と切り合うが新旧関係は不明である。南西側と東側の一部は撹乱される。**規模：**主軸5.52ｍ、副軸（4.76）ｍ、確認面からの深度（0.31）ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方**



第732図　SI026

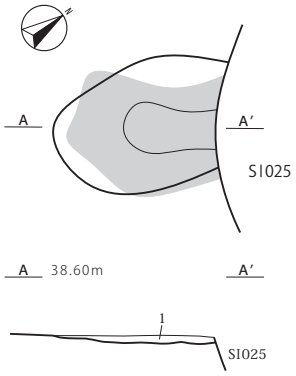
位：N－51°－W。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸（0.96）m、短軸0.72ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の周辺から南東側にかけて硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器555.1g、石器・石製品1.00g、縄文土器335.0gが出土した。

１は山形の沈線区画内に結節が施文される。



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土ブロックφ10～40mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第733図　SI026炉

0　10cm
（1／3）

第734図　SI026出土遺物

第244表　SI026出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[2.0] 最大径：　－	外面：肩部沈線２段で山形帯を区画、区画内結節文（S2段） 内面：肩部ナデ	胎　土：砂粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：肩部の破片	

SI027（第735 ～ 737図、第245表、図版124・150）

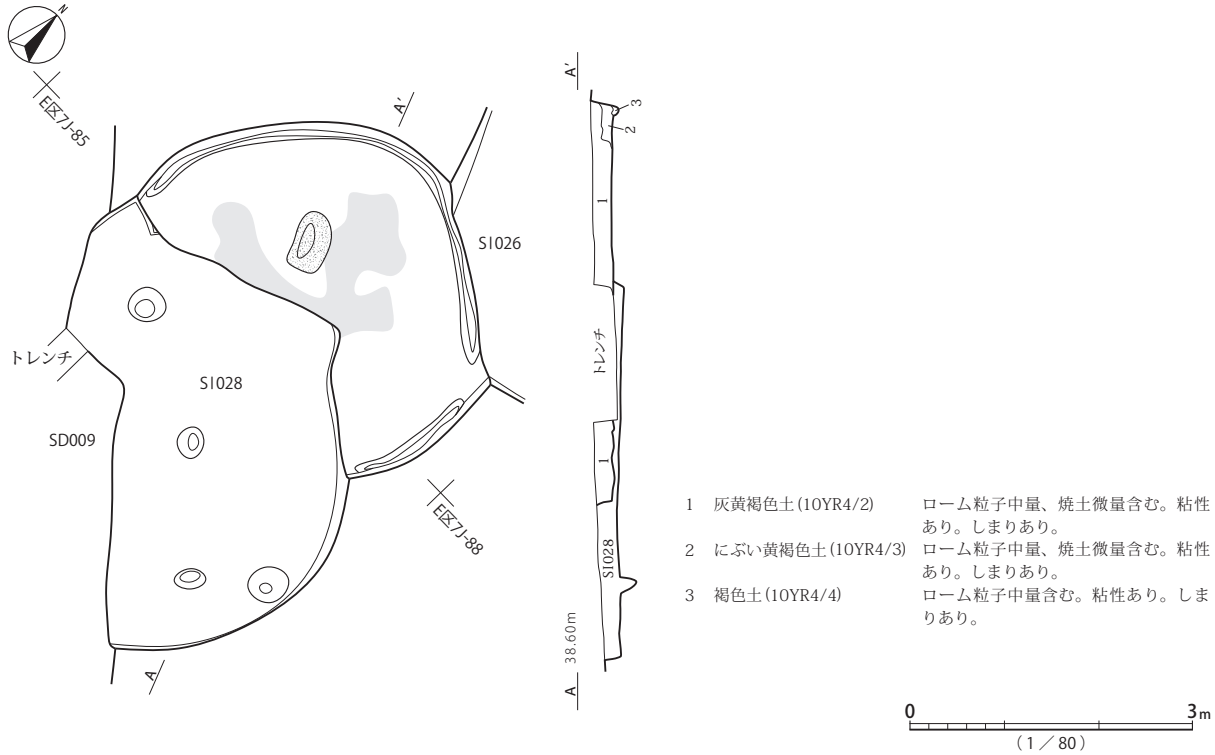
位置：Ｅ区７Ｊ-76グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI028を切り、SD009に切られる。SI026と切り合うが新旧関係は不明である。**規模：**主軸（3.84）m、副軸（3.72）m、確認面からの深度（0.31）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-46°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.64ｍ、短軸0.40ｍで浅く窪む。**施設：**周溝は西壁から東壁にかけて断続的に検出された。床面は掘り方を持たず北側がソフトローム層、南側がSI028の覆土を直接使用しており、炉の周囲からＣ字状に硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期前葉～中葉と考えられる。

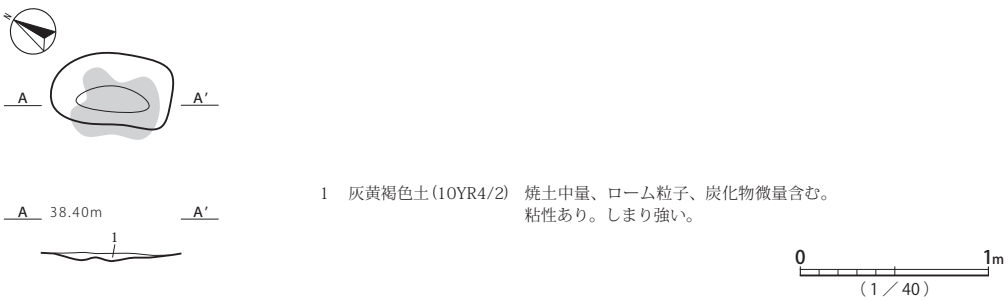
所見：調査当初は１棟の竪穴建物と考え、SI028との重複をとらえることができなかった。そのため、誤って南側の壁面と床面を掘削してしまっている。炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。

遺物：土器1414.9g、縄文土器446.0gが出土した。

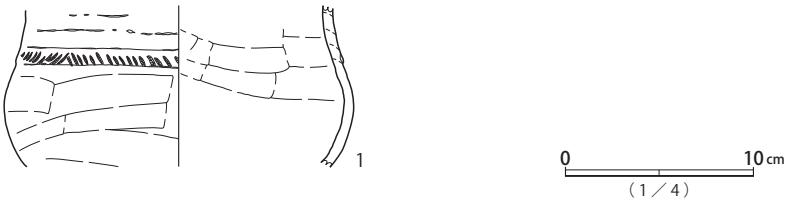
１は頸部に輪積み痕を残し、最下段にハケキザミが施文される。



第735図　SI027



第736図　SI027炉



第737図　SI027出土遺物

第245表　SI027出土土器観察表

単位：cm

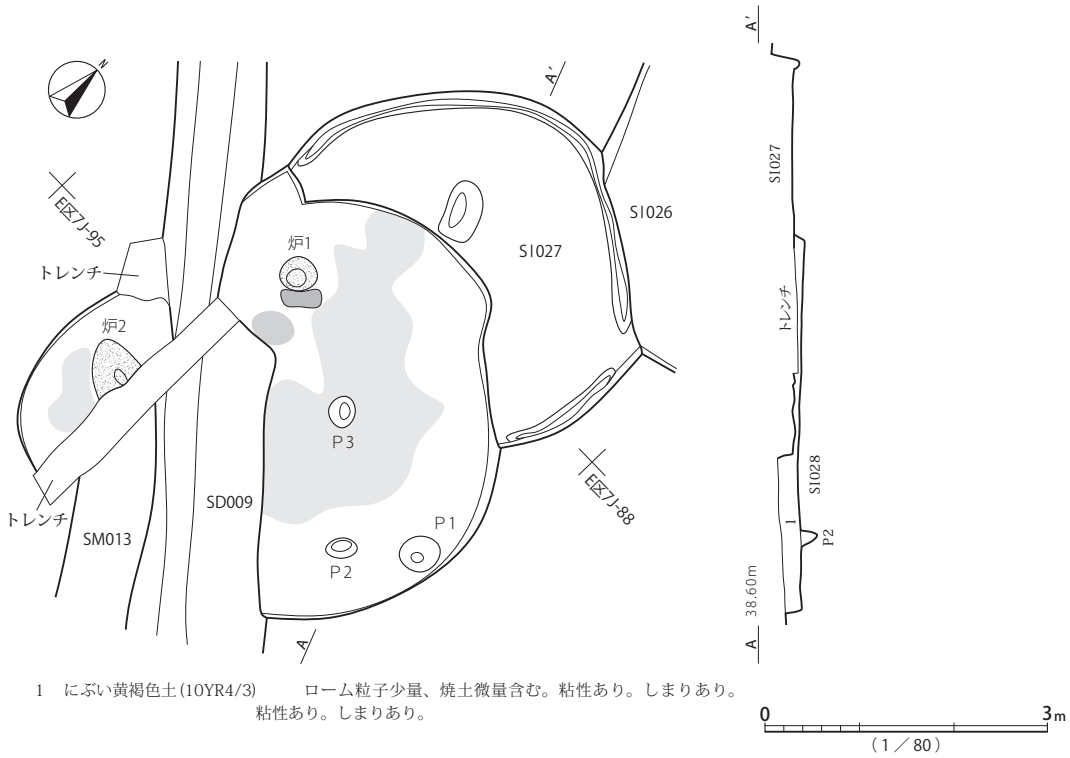
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［8.5］ 最大径：18.5	特徴：輪積み痕を4段残す 外面：輪積み部ハケキザミ、胴部ヘラナデ 内面：胴部ヘラナデ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：頸部～胴部の破片	

SI028（第738・739図、図版125）

位置：Ｅ区７Ｊ-86グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SM013、SI027、SD009に切られる。**規模：**主軸（4.80）m、副軸（5.12）m、確認面からの深度（0.37）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-43°-Ｗ。**炉：**２基検出された。炉１は竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.40ｍ、短軸0.36ｍで浅く窪み、南東端に灰白色の粘土が貼り付けられていた。枕状の盛り上がりはみられないが、おそらく粘土枕を意図したものと考えられる。炉２は竪穴中央やや南西寄りに位置する。長軸（0.52）m、短軸0.52ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが３基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉１の北壁から中央にかけてと、炉２の南側が硬化している。

時期：重複および出土遺物から、弥生時代後期前葉～中葉と考えられる。

所見：２基の炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。平面形状がやや不定形で炉も



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
粘性あり。しまりあり。

第738図　SI028

複数あることから、２棟の竪穴建物とも考えられるが、床面のレベルが同一であることから１棟の建物と判断した。

遺物：土器463.0g、縄文土器21.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

第739図　SI028炉

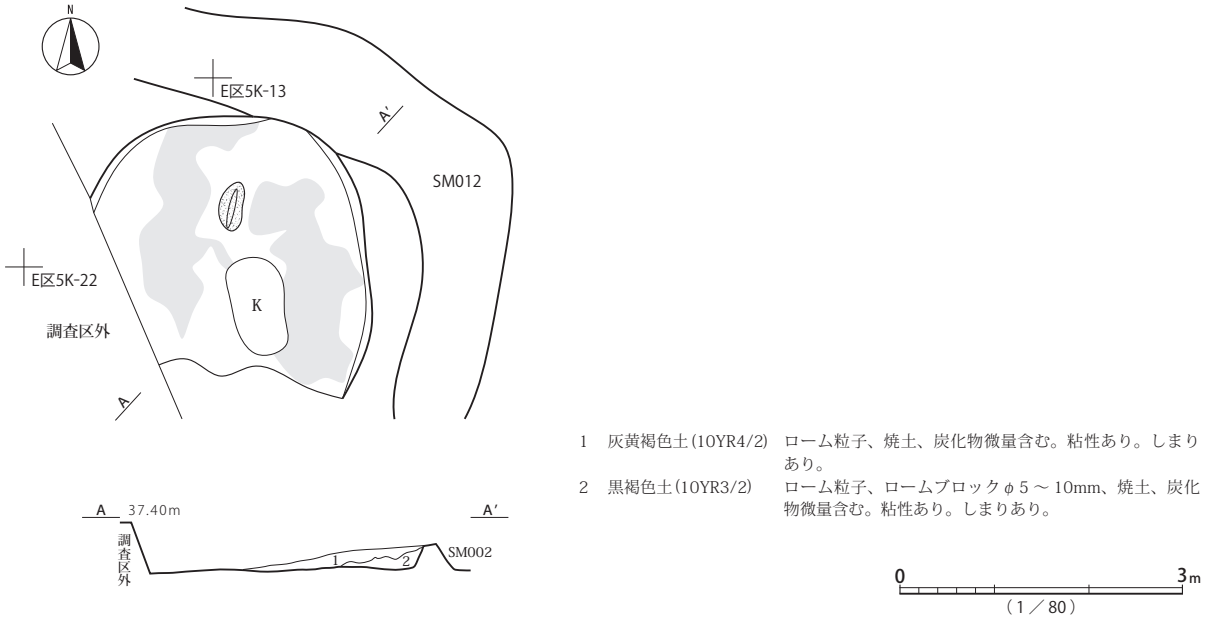
SI029（第740・741図、図版125）

位置：Ｅ区５Ｋ-13グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM002に切られる。竪穴中央南側の一部は撹乱され、西側の一部は調査区外へ伸びる。**規模：**主軸（3.00）m、副軸（2.96）m、確認面からの深度0.30ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.52ｍ、短軸0.24ｍで浅く窪む。 **施設：**床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の東西から南側へ「ハ」の字状に硬化している。

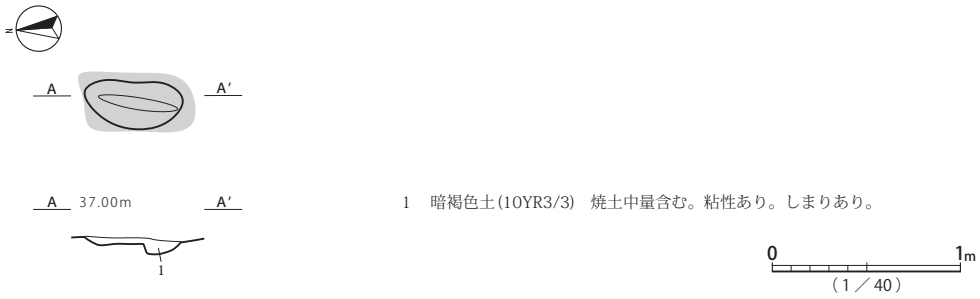
時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器71.0g、縄文土器12.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



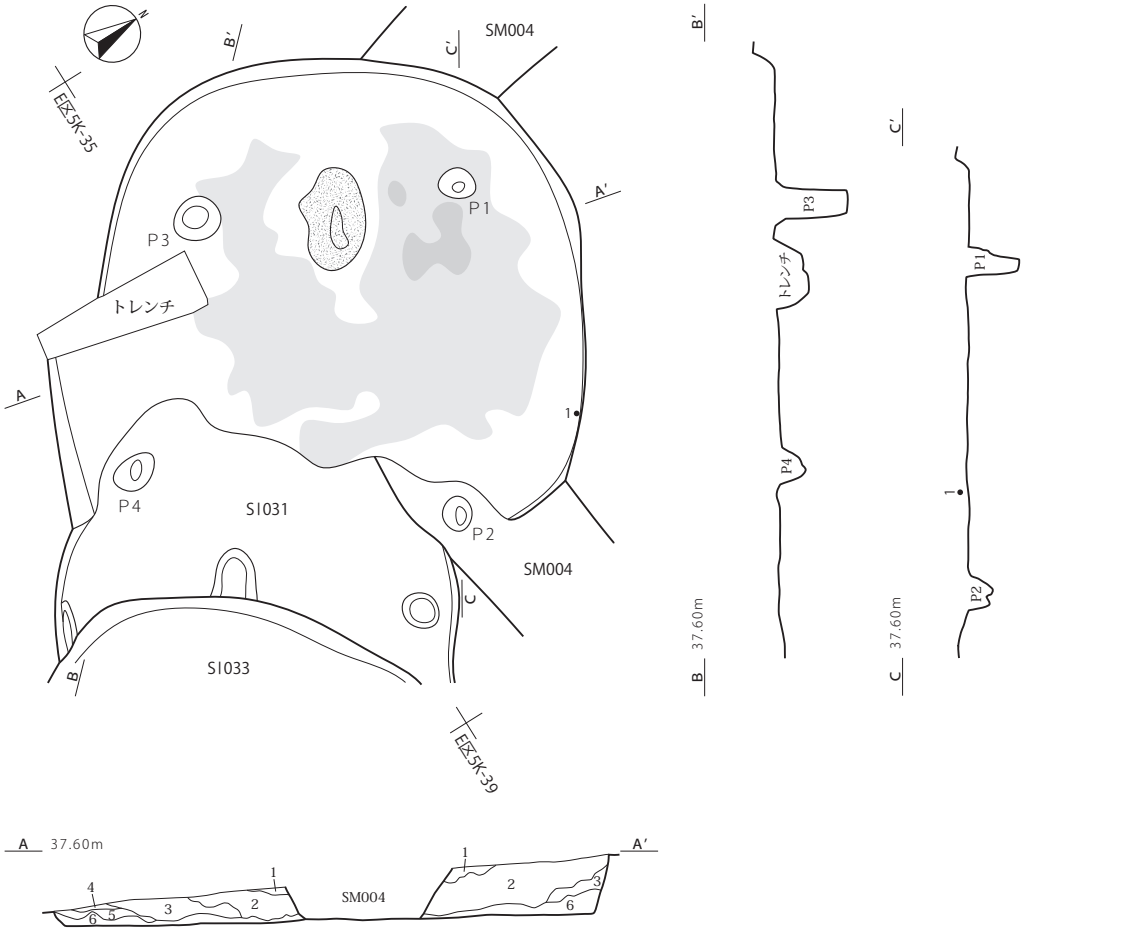
第740図　SI029



第741図　SI029炉

SI030（第742～744図、第246表、図版125・150）

位置：E区５K-26グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI012・SI014・SI031、SD003を切り、SM004に切られる。**規模：**主軸（5.08）m、副軸5.76ｍ、確認面からの深度0.51ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-58°-W。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。規模



1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)　焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ20～30mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ40～50mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
6　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ10～30mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第742図　SI030

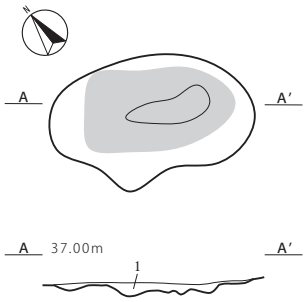
は比較的大きく長軸1.08ｍ、短軸0.60ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ３で柱間は主軸方向3.40ｍ、副軸方向2.80ｍ。床面はSI031覆土とハードローム層を直接使用しており、炉の周辺はＵ字状に硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代終末期と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。

遺物：土器1,608.9g、石器・石製品9.00g、縄文土器159.0gが出土した。

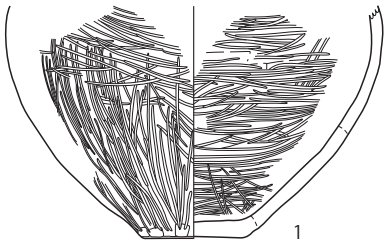
１は内面にヘラミガキが施されている。



1　暗褐色土(7.5YR3/3)　焼土中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　1m
（1／40）

第743図　SI030炉



0　10cm
（1／4）

第744図　SI030出土遺物

第246表　SI030出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 広口壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　5.4 器　高：[12.3] 最大径：(20.0)	外面：胴部ヘラミガキ横位・縦位、底部ヘラケズリ 内面：胴部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：石英 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：胴部～底部の1/2	

SI031（第745～747図、第247・248表、図版125・150・155）

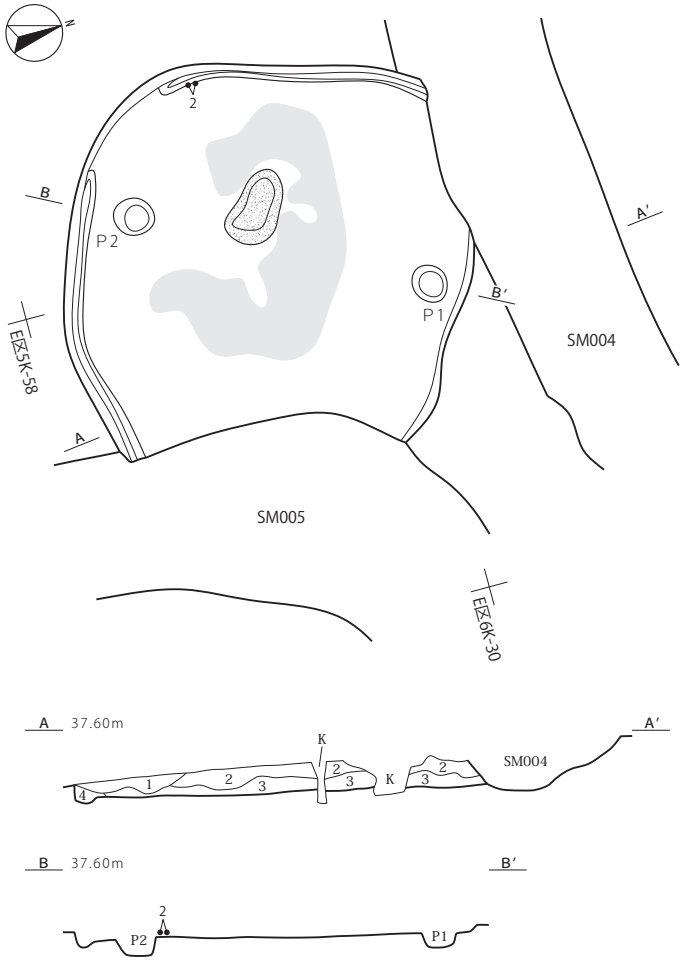
位置：Ｅ区５Ｋ-37グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI033を切り、SM004・SM005、SI030に切られる。**規模：**主軸（4.24）ｍ、副軸（4.32）ｍ、確認面からの深度0.44ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-75°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.80ｍ、短軸0.52ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。周溝は西壁と南壁で検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の周辺が逆Ｃ字状に硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

所見：炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴の可能性もあるが、いずれも深度が浅い。

遺物：土器1,445.3g、石器・石製品170.20g、縄文土器133.0ｇが出土した。

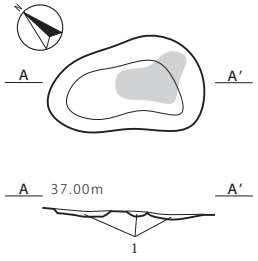
１は壺である。沈線区画の下位に多条結節文が充填される。２は細粒砂岩の磨石である。扁平礫の表裏に磨面がある。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。色調は3層よりやや暗い。

0　3m
（1／80）

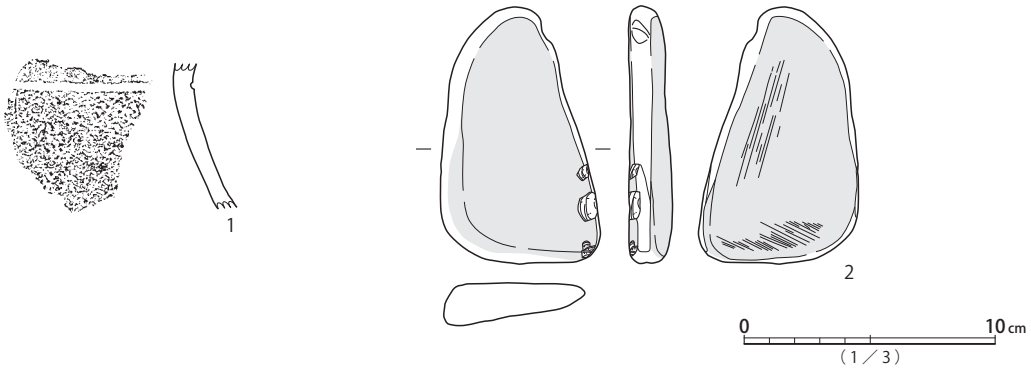
第745図　SI031



1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第746図　SI031炉



第747図　SI031出土遺物

第247表　SI031出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[5.8] 最大径：　－	外面：頸部沈線横位、多条結節文 内面：頸部ナデ	胎　土：砂粒・橙色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：頸部の破片	

第248表　SI031出土石器観察表

単位：cm

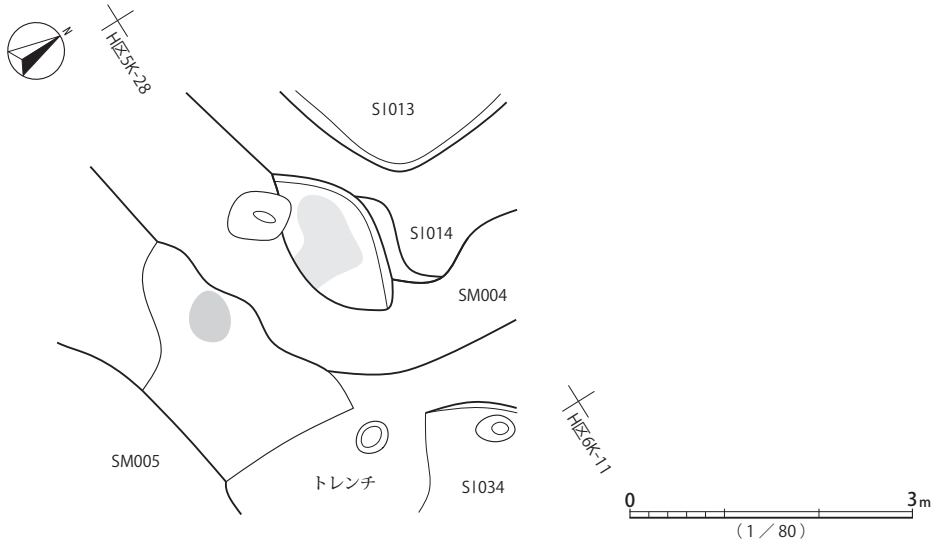
番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
2	磨石	細粒砂岩	覆土下層	10.20	6.30	2.60	160.20	磨全面、光沢

SI032（第748・749図、第249表、図版125・150）

位置：Ｅ区５Ｋ-29グリッドを中心とする台地の南向き緩斜面に位置する。**重複：**SI014を切り、SM004・SM005に切られる。北側隅の壁と床面が一部残存するのみ。**規模：**北西－南東方向を主軸と推定し（3.24）m、副軸（2.64）m、確認面からの深度0.24ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-58°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、北側の一部が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期後葉と考えられる。

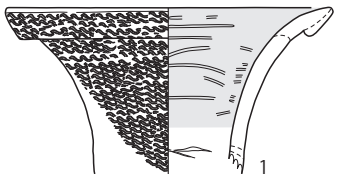
所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。焼土範囲が１箇所あるが掘り込みは認められず、炉とは断定できなかった。

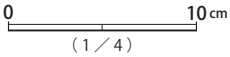


第748図　SI032

遺物：土器431.5g、縄文土器33.0gが出土した。

１は折り返し部から頸部まで、５段単位の結節文が施文される。





第749図　SI032出土遺物

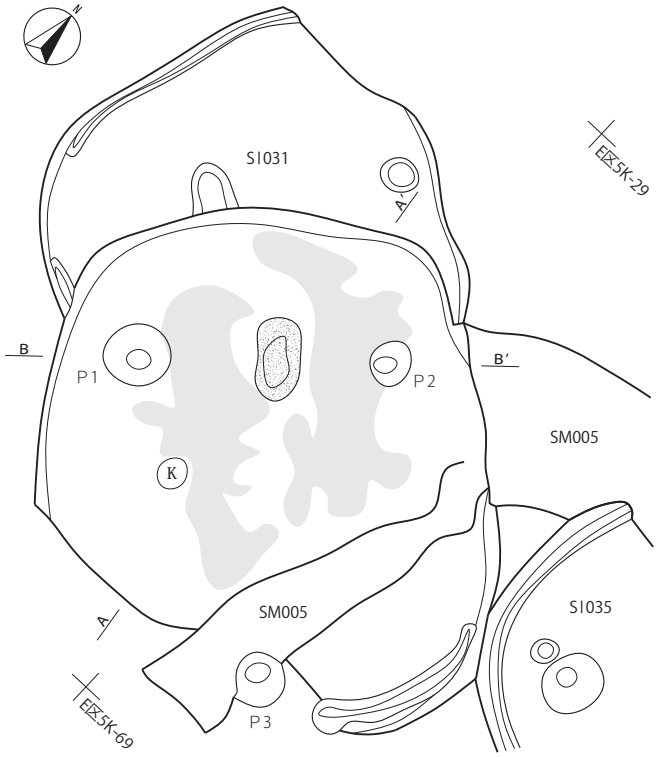
第249表　SI032出土土器観察表

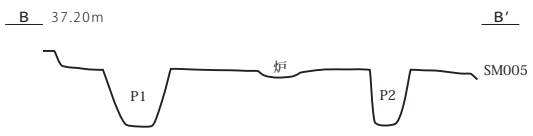
単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：17.2 底　径：－ 器　高：[8.8] 最大径：－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部～頸部多条結節文(Z5段単位) 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：石英・黒色粒 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：口縁部～頸部の2/3	

SI033（第750～752図、第250表、図版125・155）

位置：Ｅ区５Ｋ-48グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM005、SI031に切られ、SI035と切り合うが新旧関係は不明である。南西側の一部は撹乱される。**規模：**主軸（5.60）m、副軸（4.88）m、確認面からの深度0.56ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方**

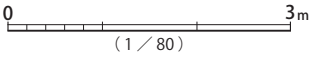




1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10～30mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



第750図　SI033

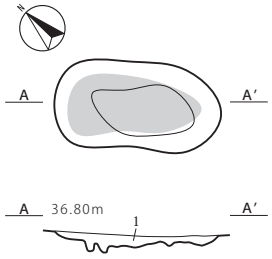
位：Ｎ－43°－Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.84ｍ、短軸0.44ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが３基検出された。Ｐ１・Ｐ２は対称的な位置にあることから、主柱穴の一部とみられ柱間は2.60ｍ。Ｐ３は主軸線上、炉の対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴う可能性が考えられる。周溝は南東壁で検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の両脇から南東側にかけて硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と考えられる。

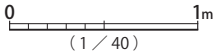
所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器1,254.0g、石器・石製品49.90g、縄文土器50.0gが出土した。

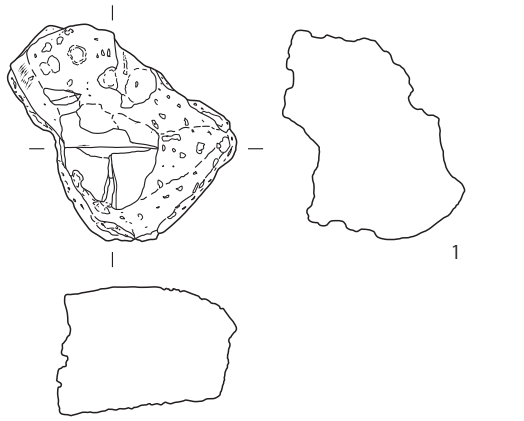
１は軽石である。明確な磨痕はみられない。

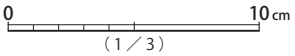


1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ5mm、焼土、炭化物微量含む。
粘性あり。しまりあり。



第751図　SI033炉





第752図　SI033出土遺物

第250表　SI033出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
1	不明石製品	軽石	覆土下層	8.60	7.20	6.20	46.90	

SI034（第753～755図、第251表、図版125・150）

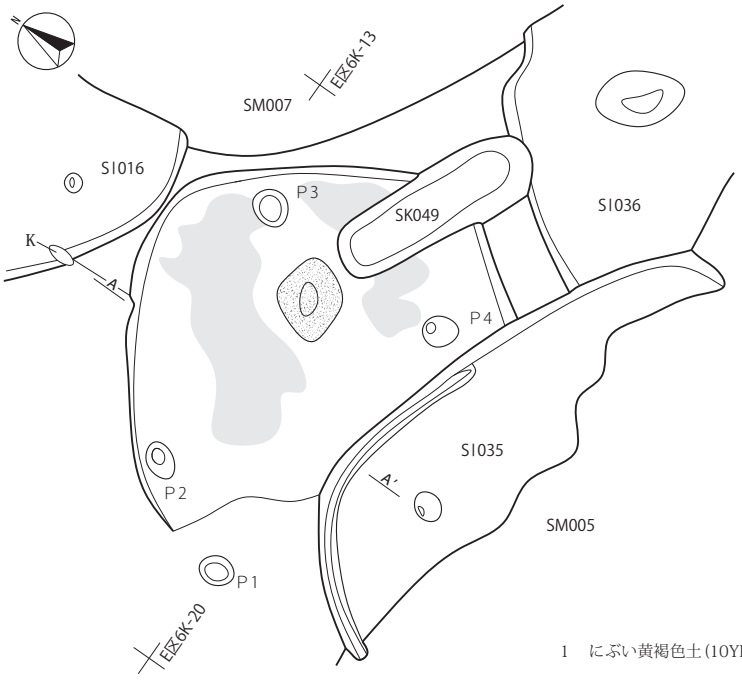
位置：Ｅ区６Ｋ－11グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI035、SK049に切られる。**規模：**主軸（4.40）ｍ、副軸（4.16）ｍ、確認面からの深度0.55ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ－55°－Ｅ。**炉：**竪穴中央やや北東寄りに位置する。長軸0.84ｍ、短軸0.68ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが４基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の両脇が「ハ」の字状に硬化している。

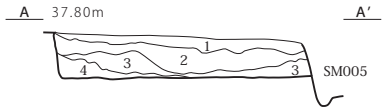
時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器292.6g、石器・石製品8.00g、縄文土器12.0gが出土した。

１は幅の狭い複合口縁である。外面は単節縄文施文後、沈線により区画され、枠外の縄文を磨り消し赤彩が施される。磨り消しは不完全で縄文の一部は残存している。口縁部内面に垂直方向の穿孔が施されている。

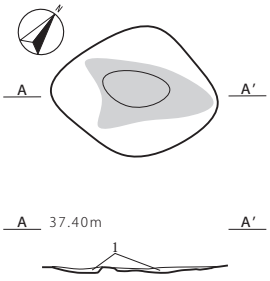




1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/6)　ロームブロックφ10～40mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

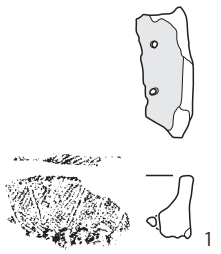
第753図　SI034



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土少量、ロームブロックφ5mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第754図　SI034炉



0　10cm
（1／3）

第755図　SI034出土遺物

第251表　SI034出土土器観察表

単位：cm

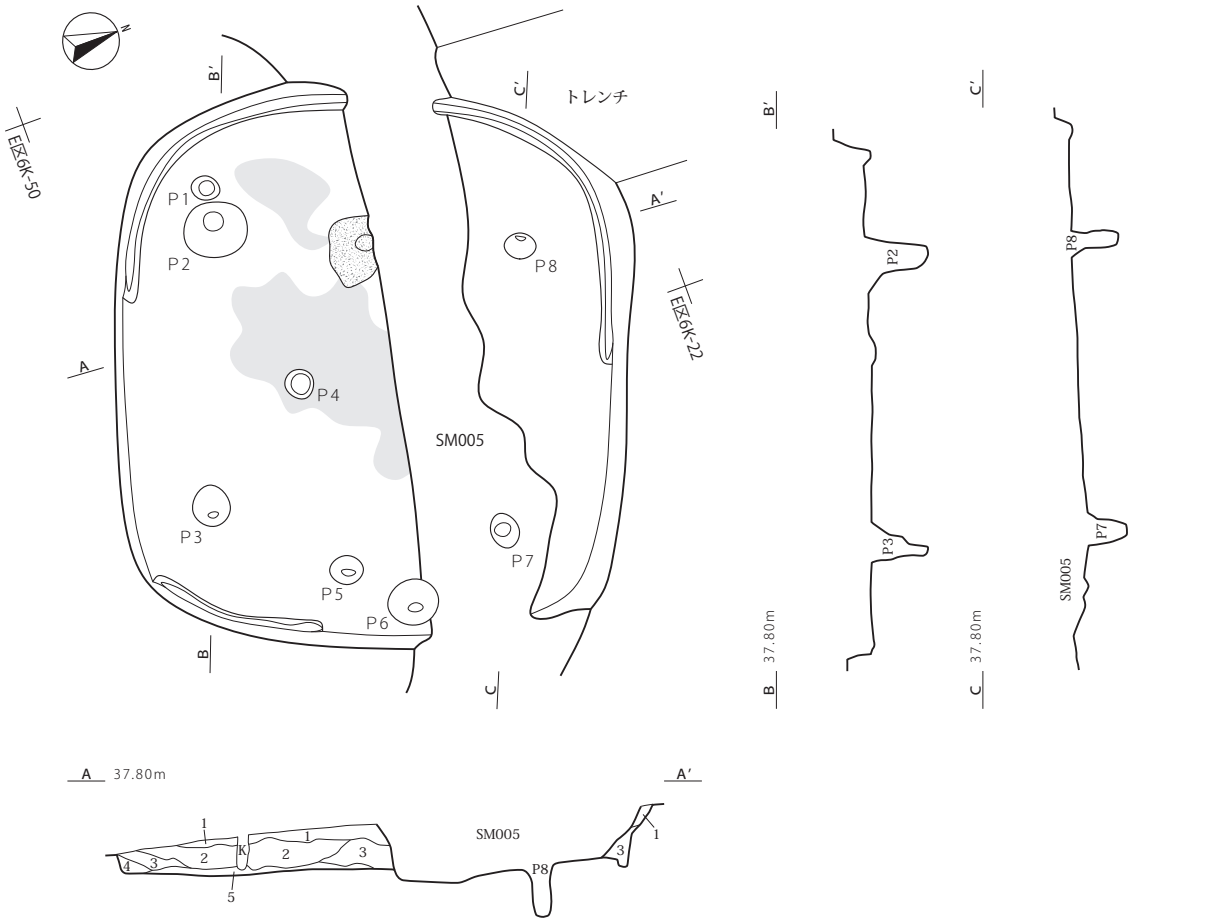
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[2.5] 最大径：　－	特徴：穿孔のある複合口縁 外面：口唇部単節縄文(RL)、複合部単節羽状縄文(LR・RL)施文後斜位の沈線で区画、１区画おきに縄文磨り消し赤彩、端部布目キザミ 内面：口縁部ヘラミガキ、赤彩、内面から複合部下側に穿孔２箇所	胎　土：石英 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	孔径2㎜

SI035（第756 ～ 759図、第252表、図版126・150）

位置：Ｅ区６Ｋ-31グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI034・SI036を切り、SM005に切られ、SI033と切り合うが新旧関係は不明である。**規模：**主軸（6.00）m、副軸5.48m、確認面からの深度0.85m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-70°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.68m、短軸（0.44）mで浅く窪む。**施設：**ピットが８基検出された。主柱穴はＰ２・Ｐ３・Ｐ７・Ｐ８で柱間は主軸方向3.04 ～ 3.16m、副軸方向3.08 ～ 3.28m。主柱穴はやや台形状に配置されている。Ｐ５・Ｐ６は主軸線上、炉の対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は南西壁から北壁と南東壁で検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央から南西側にかけて硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。



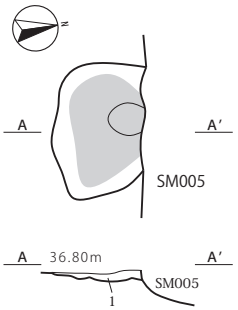
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、ロームブロックφ５～50mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ５～30mm中量、ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～20mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子、ロームブロックφ40mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、炭化物微量含む。粘性弱い。しまり強い。

0　3m
（1／80）

第756図　SI035

遺物：土器1,521.1g、縄文土器310.0gが出土した。

１の口縁部は欠損し、胴上部に横位の沈線が４条施される。体部は丸味があり、内面は黒色処理されている。



1　暗褐色土(10YR3/4)　焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第757図　SI035炉

0　10cm
（1／4）

第758図　SI035出土遺物

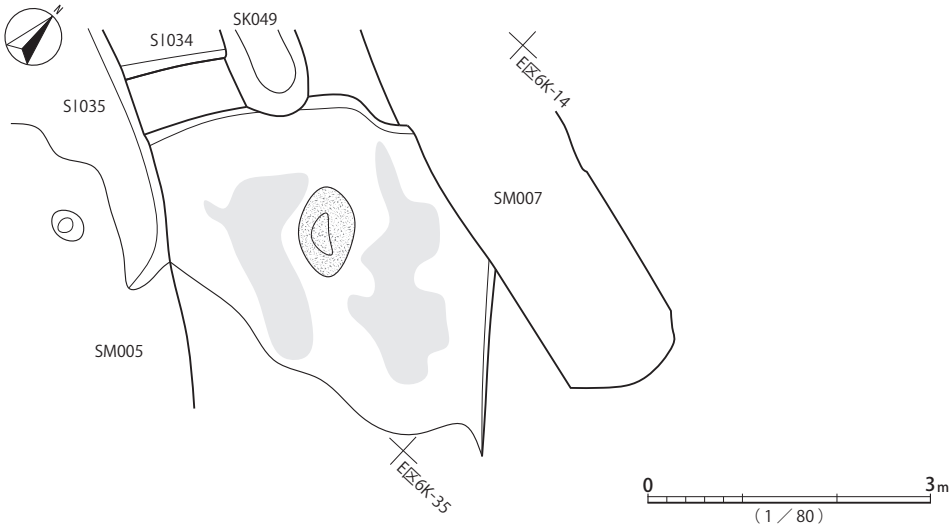
第252表　SI035出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 高坏	覆土上層	口　径：　－ 脚　径：　－ 器　高：　[4.9] 最大径：　－	外面：口縁部沈線横位４条、坏部ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ縦位、黒色処理	胎　土：砂粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：にぶい黄 残存度：坏部の破片	

SI036（第759・760図、図版126）

位置：Ｅ区６Ｋ-24グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM007、SI035、SK049に切られる。**規模：**主軸（3.80）m、副軸（3.68）m、確認面からの深度0.34ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-43°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.92ｍ、短軸0.60ｍで浅く窪む。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の両脇が硬化している。

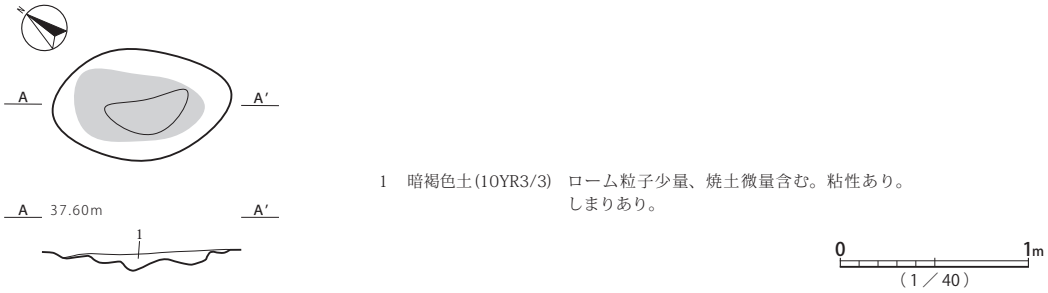


第759図　SI036

時期：重複および出土遺物から弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

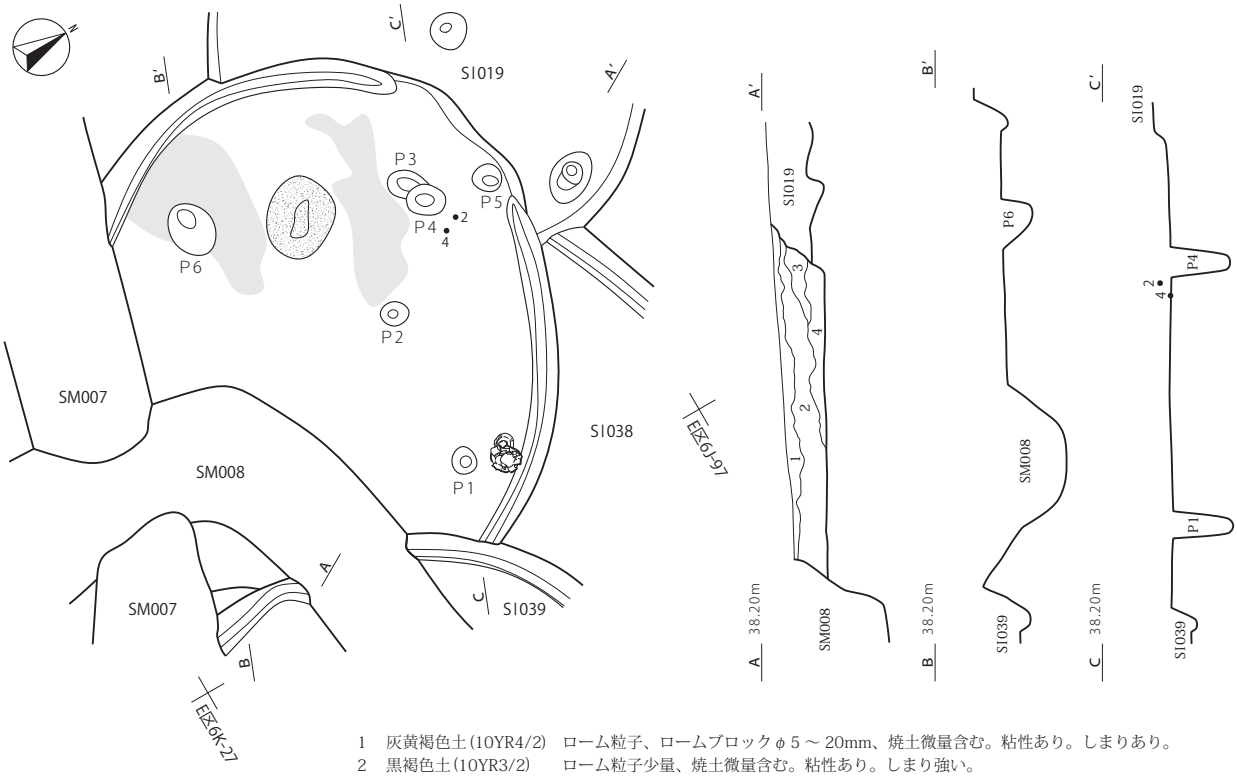
遺物：土器283.0g、縄文土器26.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第760図　SI036炉

SI037（第761～764図、第253表、図版126・151）

位置：E区6K-05グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI019・SI038を切り、SM007・SM008、SI039に切られる。**規模：**主軸（5.12）m、副軸（4.84）m、確認面からの深度（0.44）m。**形態：**小判形と推測される。**主軸方位：**N-60°-W。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.84m、短軸0.72mで浅く窪み、東端には灰白色の粘土が貼り付けられ若干盛り上がっている。おそらく粘土枕を意図したものと考えられる。**施設：**ピットが6基検出された。主柱穴



第761図　SI037

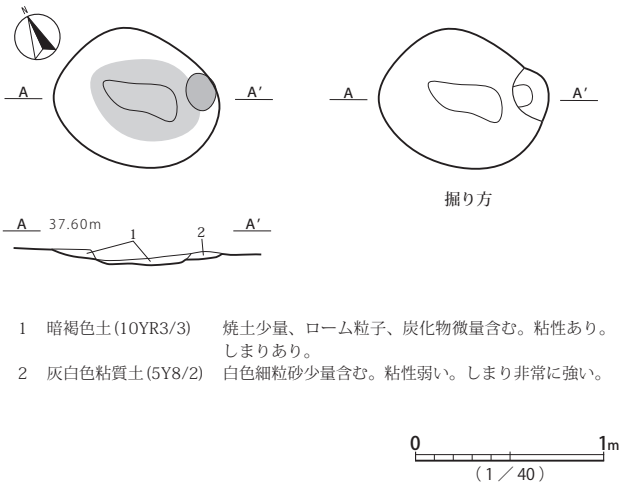
はＰ１･Ｐ４・Ｐ６で柱間は主軸方向2.84ｍ、副軸方向2.52ｍ。周溝は北西壁で一部途切れるが、ほぼ全周する。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の両脇が硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期中葉と考えられる。

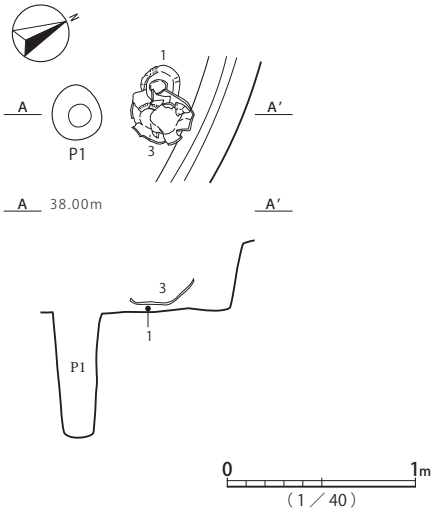
所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。Ｐ１に隣接する壁沿いの床面から、壺（１）、広口壺（３）が潰れた状態で出土している（第763図）。また、Ｐ４脇の床面から壺（４）が出土している。

遺物：土器3,204.3g、縄文土器143.0gが出土した。

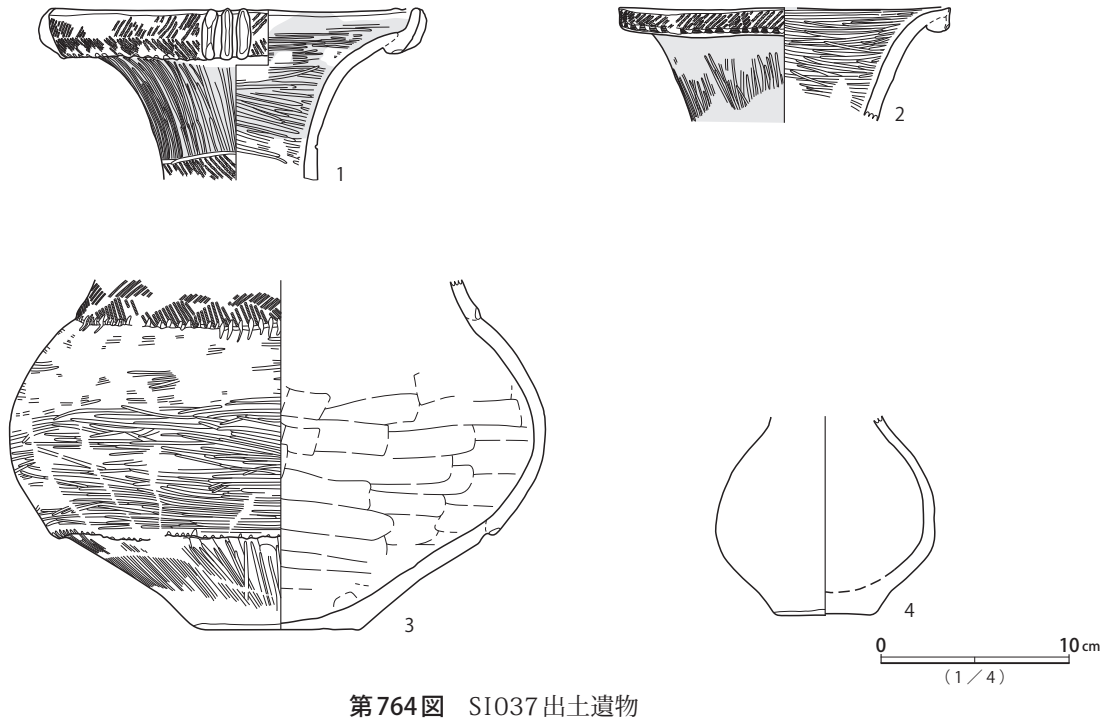
１～４は壺である。１は複合口縁に単節羽状縄文が施され、３本一組の棒状貼付文が添付される。２は折り返し口縁に細い単節縄文が施文される。３は肩部および胴下部に輪積み痕を残し、ヘラキザミを施している。



第762図　SI037炉



第763図　SI037遺物出土状況



第764図　SI037出土遺物

第253表　SI037出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	床面	口　径：19.5 底　径：－ 器　高：[9.1] 最大径：－	特徴：複合口縁 外面：複合部単節羽状縄文(LR・RL)・下端キザミ・棒状貼付文３本一組４箇所、頸部ヘラミガキ縦位、赤彩、沈線横位、単節縄文(RL) 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：石英・黒色粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～頸部のみほぼ完存	
2	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：(17.6) 底　径：－ 器　高：[6.0] 最大径：－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部単節縄文(LR)・端部布目キザミ、口縁部ヘラミガキ縦位、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：石英・砂粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の1/3	
3	弥生土器 広口壺	床面	口　径：－ 底　径：8.3 器　高：[18.5] 最大径：28.2	特徴：輪積み痕を肩部と胴部下に１段ずつ残す 外面：頸部単節羽状縄文（LR・RL）・輪積み部ヘラキザミ、胴部上半ヘラミガキ横位、輪積み部ヘラキザミ、胴部下半～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ縦位 内面：頸部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・橙色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：頸部～底部の1/2	
4	弥生土器 壺	床面	口　径：－ 底　径：5.2 器　高：[10.5] 最大径：11.6	外面：胴部～底部ナデ 内面：胴部～底部ナデ	胎　土：石英・黒色粒・白色粒 焼　成：良好 色　調：明赤褐 残存度：胴部～底部のみ完存	

SI038（第765・766図、第254表、図版126・151）

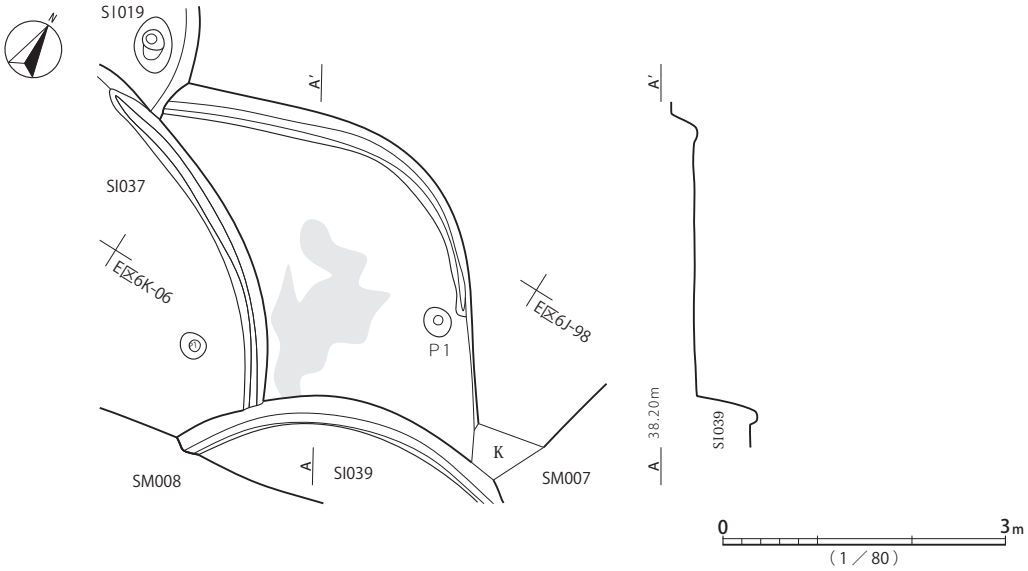
位置：Ｅ区６Ｊ-97グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI019・SI037・SI039に切られる。東壁の一部は撹乱される。**規模：**北西－南東方向を主軸と推定し（4.00）m、副軸（3.40）m、確認面からの深度（0.32）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-32°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが１基検出された。周溝は北西壁から北東壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、残存部分のほぼ中央が樹枝状に硬化している。

時期：SI037・SI039との重複から、弥生時代後期中葉以前と考えられる。

所見：周溝が検出されたが、炉、主柱穴は検出されなかった。

遺物：土器421.1g、縄文土器106.0gが出土した。

１は接合部に突帯を巡らせ、布目キザミを施している。キザミに残る布目は細密である。



第765図　SI038

1

0　10cm
（1／4）

第766図　SI038出土遺物

第254表　SI038出土土器観察表

単位：cm

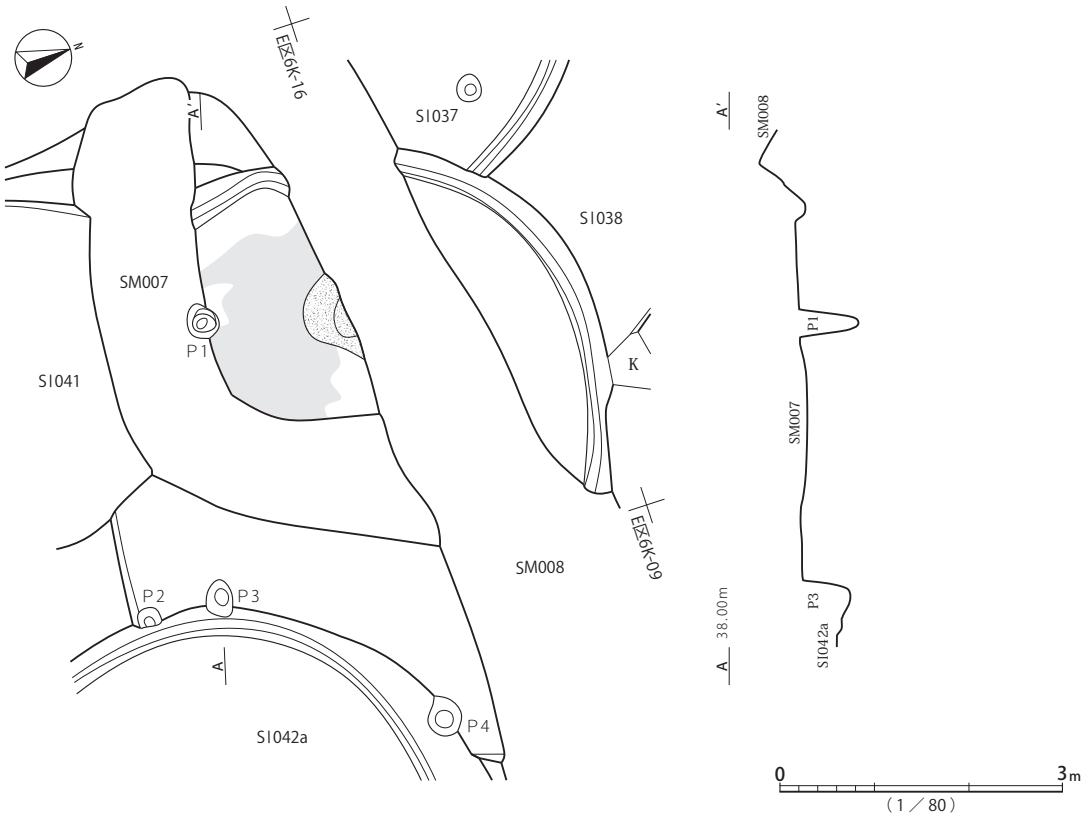
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 高坏	覆土上層	口　径：　－ 脚　径：　－ 器　高：［5.4］ 最大径：　－	特徴：接合部に突帯 外面：突帯上布目キザミ、脚部ヘラミガキ縦位、赤彩 内面：坏部ヘラミガキ、赤彩、脚部ナデ	胎　土：赤色粒・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：接合部～脚部の破片	

SI039（第767～769図、第255表、図版126・151）

位置：Ｅ区６Ｋ-18グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI037・SI038を切り、SM007・SM008、SI042aに切られ、SI041と切り合うが新旧関係は不明である。**規模：**主軸（6.48）m、副軸（5.28）m、確認面からの深度（0.60）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-72°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.96ｍ、短軸（0.44）ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが４基検出された。周溝は北壁から西壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の南側が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

所見：SI037・SI038と合せて１棟の竪穴建物と誤認し調査を行ったため、セクションベルトが設

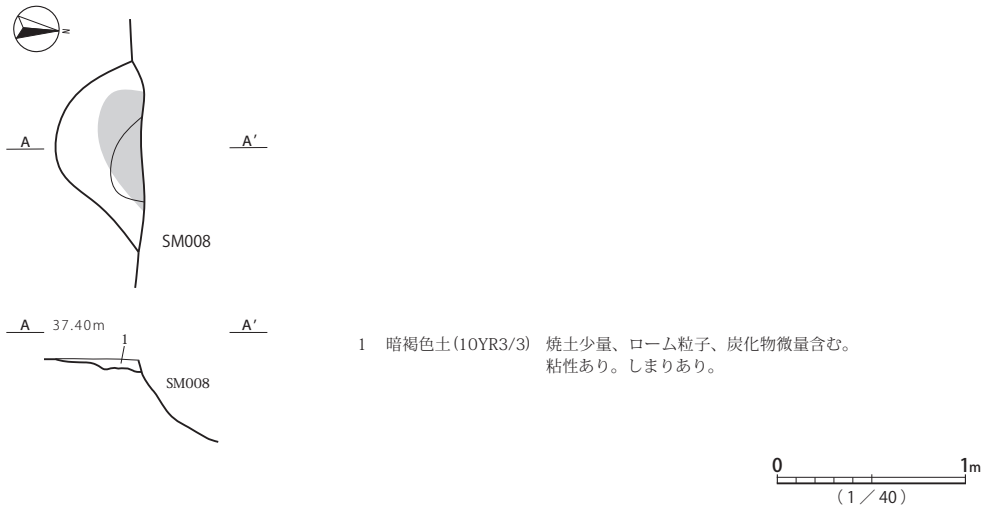


第767図　SI039

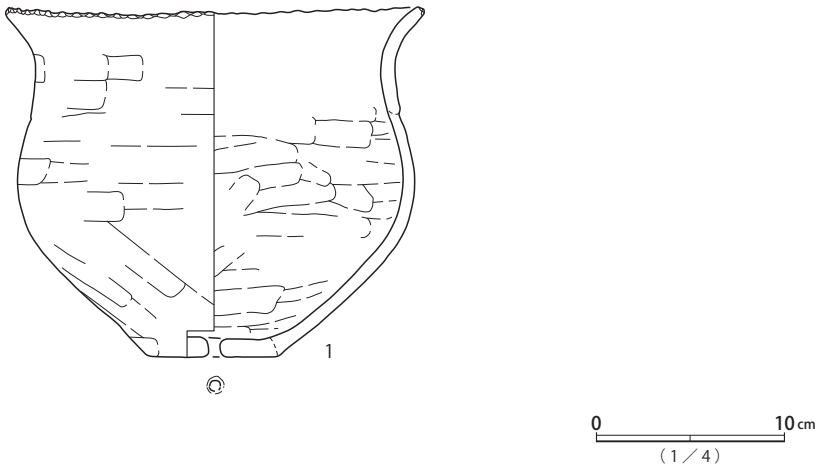
定できなかった。炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。Ｐ１・Ｐ３は、主柱穴の可能性が考えられるが、対となる位置がSM008に切られているため断定できない。

遺物：土器1,638.0g、縄文土器184.0gが出土した。

１は頸部に輪積み痕を１段残す。底部に焼成後の穿孔が確認された。敲打痕はみられず、孔は穿孔具を回転させて設けられているようである。



第768図　SI039炉



第769図　SI039出土遺物

第255表　SI039出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	床面	口　径：(21.7) 底　径：　6.7 器　高：18.5 最大径：　－	特徴：輪積み痕を１段残す、底部焼成後穿孔 外面：口唇部上と外から交互押圧、口縁部～底部ヘラナデ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：不良 色　調：浅黄橙 残存度：口縁部～底部の2/3	

SI040（第770 ～ 772図、第256表、図版127・151）

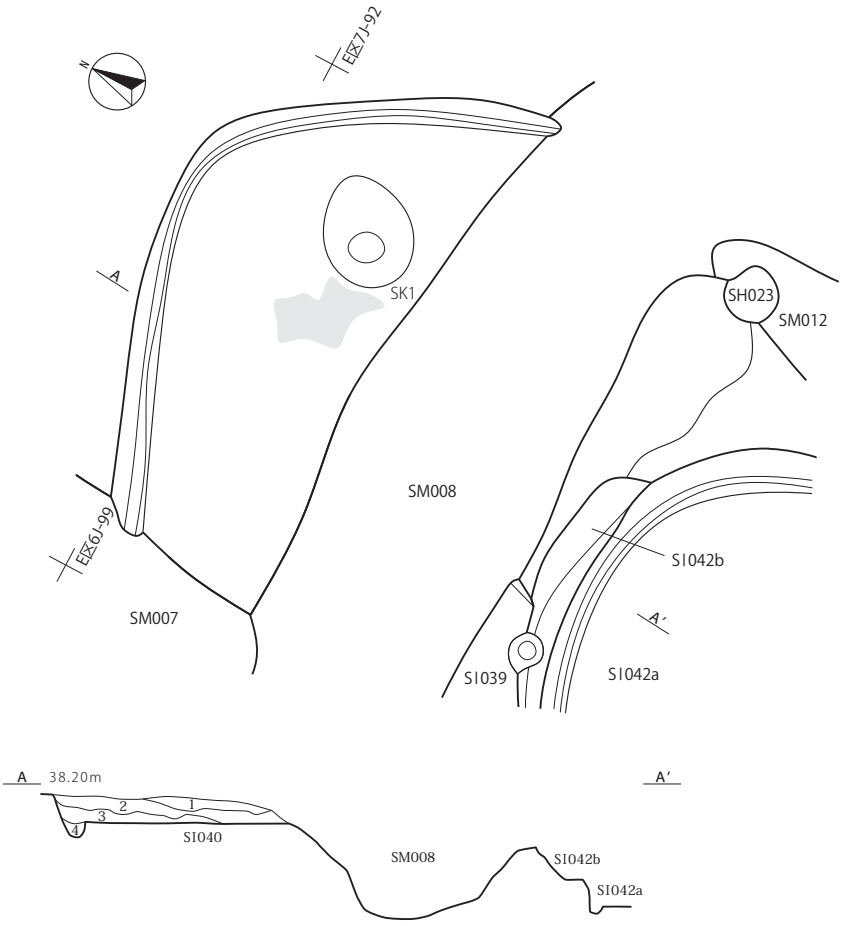
位置：Ｅ区７Ｊ-90グリッドを中心とする南向き緩斜面に位置する。**重複：**SM007・SM008に切られ、北隅のみ残存する。**規模：**北東－南西方向を主軸と推定し（5.48）m、副軸（4.72）m、確認面からの深度（0.38）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-62°-Ｅ。**炉：**検出されなかった。**施設：**土坑が１基検出された。規模は比較的大きく長軸1.20ｍ、短軸0.92ｍ、確認面からの深度1.09ｍ。周溝は北西壁から東壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、残存部分のほぼ中央が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：周溝が検出されたが、炉、主柱穴は検出されなかった。本調査区の竪穴建物の中で唯一屋内に土坑を持つが、性格は不明である。

遺物：土器1,063.1g、縄文土器371.0gが出土した。

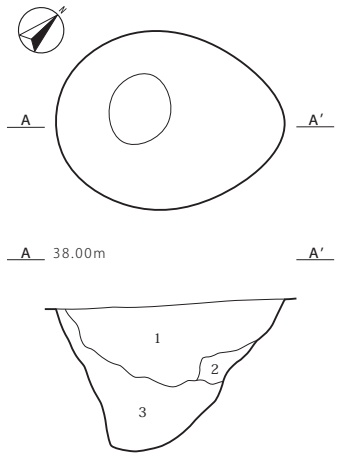
１は頸部に先端の鋭角な突帯が巡り、外面はヘラミガキが施され赤彩されている。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子、ロームブロックφ10mm微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、ロームブロックφ10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/6)　ロームブロックφ30 ～ 40mm少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり強い。周溝。

0　3m
（1／80）

第770図　SI040



1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子微量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子、ロームブロックφ10 ～ 70mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第771図　SI040SK1

0　10cm
（1／4）

第772図　SI040出土遺物

第256表　SI040出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[8.1] 最大径：　－	特徴：頸部に突帯 外面：頸部ヘラミガキ縦位、赤彩 内面：頸部ナデ	胎　土：砂粒・黒色粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：頸部のみほぼ完存	

SI041（第773 ～ 775図、第257・258表、図版127・151・155）

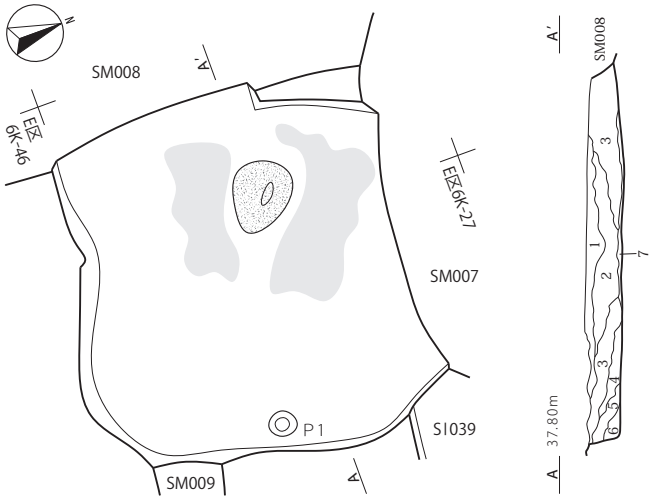
位置：Ｅ区６Ｋ-37グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM007 ～ SM009に切られ、SI039と切り合うが新旧関係は不明である。**規模：**主軸（4.08）m、副軸（4.20）m、確認面からの深度0.39ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-70°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.72m、短軸0.60mで浅く窪む。**施設：**ピットが１基検出された。Ｐ１は主軸線上、炉の対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は炉の両脇が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器1,060.0g、須恵器4.0g、石器8.63g、縄文土器348.0ｇが出土した。

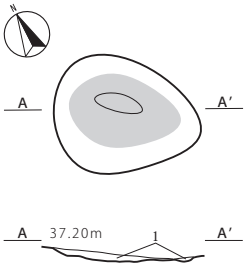
１は壺、２は扁平片刃石斧である。折損は見られず、研ぎ減りにより短くなったと考えられる。



1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子少量、ロームブロックφ20mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
6　黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子多量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
7　暗褐色土(10YR3/3)　焼土、炭化物少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

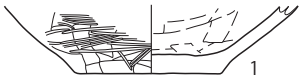
第773図　SI041

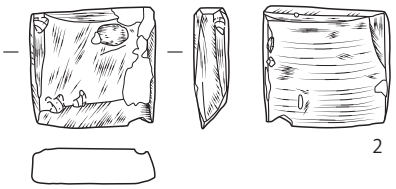


1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10～20mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第774図　SI041炉





0　10cm
（1／4）

0　5cm
（2／3）

第775図　SI041出土遺物

第257表　SI041出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　7.4 器　高：　[3.6] 最大径：　－	外面：底部ヘラケズリ後ヘラミガキ横位 内面：底部ヘラナデ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：普通 色　調：にぶい褐 残存度：底部の破片	

第258表　SI041出土石器観察表

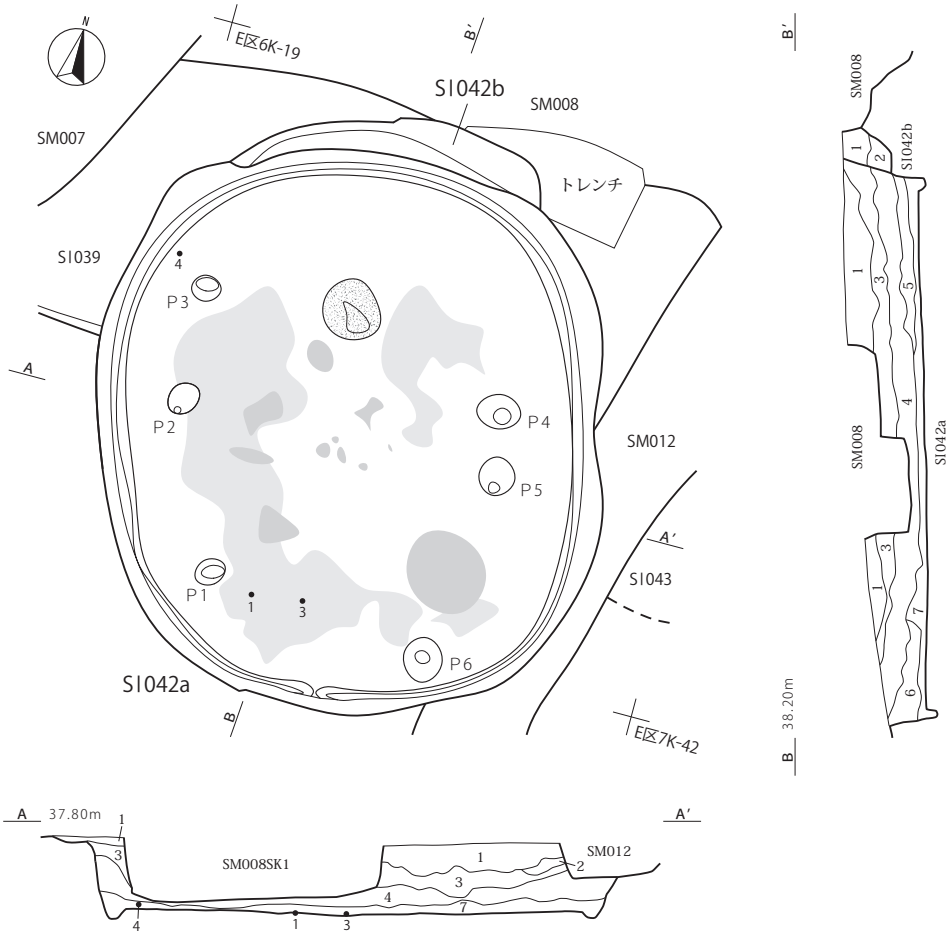
単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	備考
2	磨製石斧	デイサイトないし安山岩	覆土上層	2.40	2.50	0.70	8.63	扁平片刃石斧

SI042a（第776 ～ 778図、第259表、図版127・151）

位置：Ｅ区７Ｋ-20グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI039・SI042b・SI043・SI055・SI058を切り、SM012に切られる。**規模：**主軸6.12ｍ、副軸5.36ｍ、確認面からの深度0.74ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-15°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.60ｍ、短軸0.52ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。いずれも壁付近に位置しておりＰ１～Ｐ３はほぼ等間隔、Ｐ４・Ｐ５は２基１組のようにみえる。周溝は南壁で一部途切れるが、ほぼ全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、竪穴中央の東西両脇から南側にかけて「い」の字状に硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期前葉～中葉と考えられる。



SI042a
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、ロームブロックφ10 ～ 40mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
6　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
7　黒褐色土(7.5YR3/2)　ローム粒子、焼土少量、ロームブロックφ10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

SI042b
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10 ～ 30mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第776図　SI042a・SI042b

所見：調査着手時には１棟の竪穴建物と推測していたが、掘削途中に北壁が段差を持つことがわかり、セクションベルトを観察したところ、別遺構が切りあっていることが確認できた。そのためSI042a・SI042bとした。床面は完存し、甕（１）、鉢（３）、ミニチュア鉢（４）が出土している。炉、周溝が検出されたが主柱穴は検出されなかった。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器13,887.1g、石器・石製品7.74g、金属製品2.30g、縄文土器1,175.0gが出土した。

１は甕、２は高坏、３は鉢、４はミニチュア鉢である。１は頸部および胴下部に輪積み痕を一段残し、内外面にはヘラミガキが施される。２は接合部に突帯が巡り、布目キザミが施される。３は大型、厚手の鉢で、口縁部は結節文を６段施文している。４は折り返し口縁で、口唇部はヘラキザミが施される。

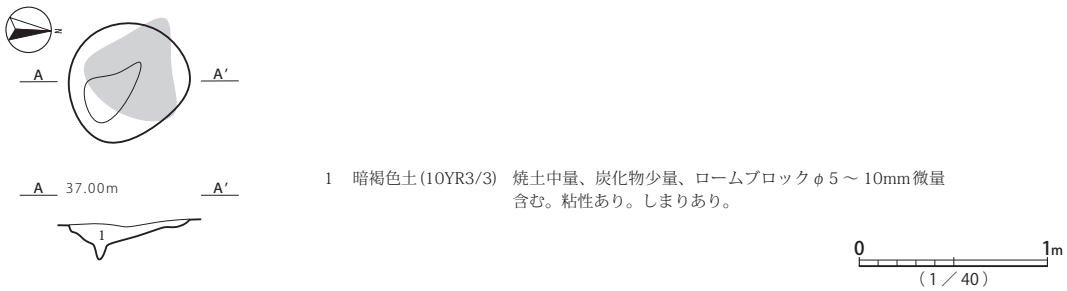
SI042b（第776図、図版127）

位置：Ｅ区７Ｋ−10グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI058を切り、SI042aに切られる。北隅のみ残存する。**規模：**南北方向を主軸と推定し（0.92）m、副軸（3.28）m、確認面からの深度（0.37）m。**形態：**不明。**主軸方位：**Ｎ−15°−Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**不明。

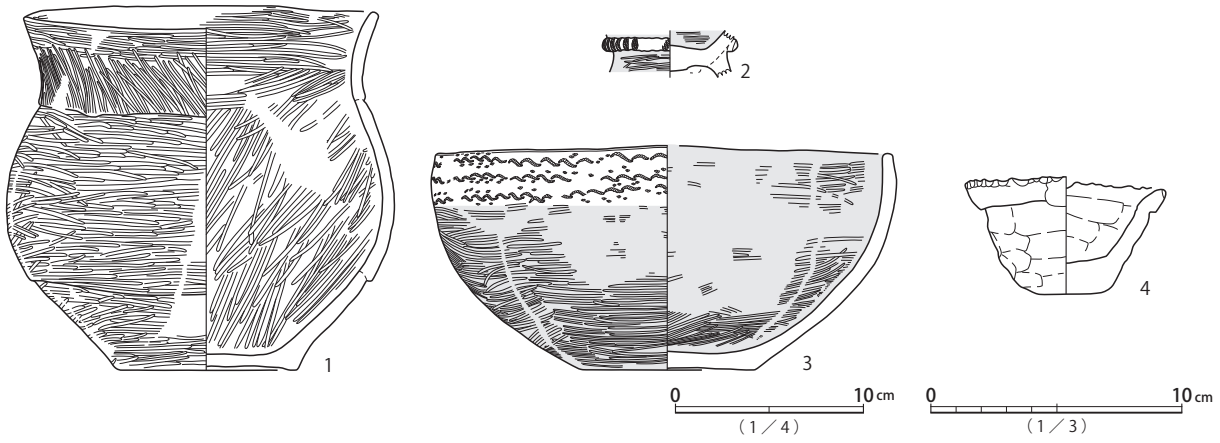
時期：重複から弥生時代後期前葉〜中葉と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：出土していない。



第777図　SI042a炉



第778図　SI042a出土遺物

第259表　SI042a出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	床面	口　径：18.4 底　径：9.4 器　高：19.3 最大径：20.6	特徴：輪積み痕を肩部と胴部下に1段ずつ残す 外面：口縁部～胴部～底部密なヘラミガキ 内面：口縁部ヘラミガキ横位、頸部～底部ヘラミガキ縦位	胎　土：海綿骨針顕著・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の4/5	
2	弥生土器 高坏	覆土上層	口　径：－ 脚　径：－ 器　高：[2.5] 最大径：－	特徴：接合部に突帯 外面：突帯上布目キザミ、脚部ヘラミガキ、キザミ以外赤彩 内面：坏部ヘラミガキ、赤彩、接合部ナデ	胎　土：砂粒 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：接合部の破片	
3	弥生土器 鉢	床面	口　径：(24.0) 底　径：9.1 器　高：11.9 最大径：－	外面：口縁部結節文(Z6段)、体部～底部ヘラミガキ横位、赤彩 内面：口縁部～底部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：黒色粒・砂粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の3/4	
4	弥生土器 ミニチュア 鉢	床面	口　径：7.6 底　径：2.4 器　高：4.7 最大径：－	特徴：折り返し口縁 外面：口唇部ヘラキザミ、体部～底部ナデ 内面：口縁部～底部ナデ	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：完存	

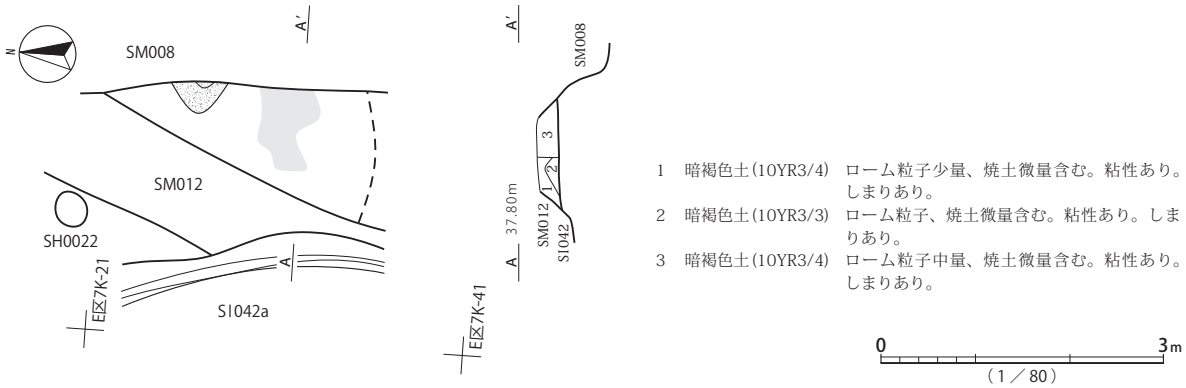
SI043（第779・780図、図版127）

位置：E区７K－22グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM008・SM012、SI042aに切られ壁面はまったく残存しない。**規模：**主軸（1.48）m、副軸（2.16）m、確認面からの深度0.20m。**形態：**不明。**主軸方位：**N－86°－E。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の南側が硬化している。

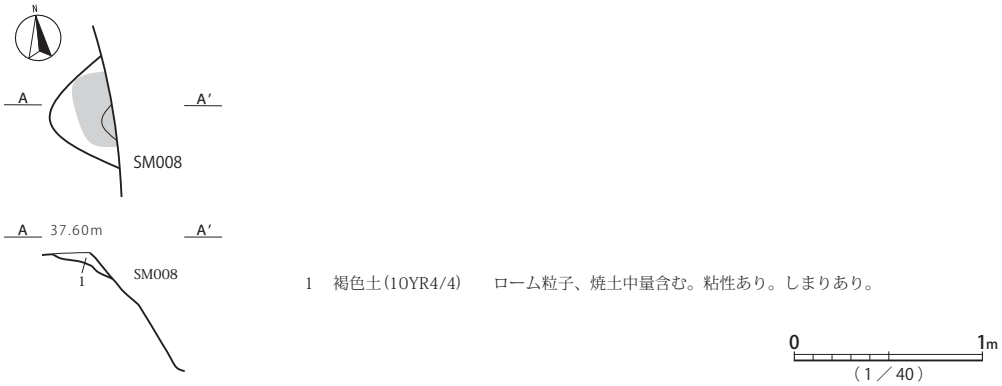
時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器341.0g、縄文土器202.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第779図　SI043



第780図　SI043炉

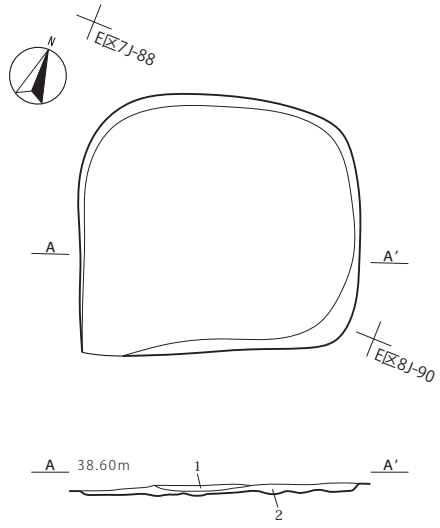
SI044（第781図、図版127）

位置：Ｅ区７Ｊ-88グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**北西－南東方向を主軸と推定し2.76ｍ、副軸2.96ｍ、確認面からの深度0.25ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-22°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、平坦ではあるが軟弱である。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：床面はほぼ完存している。炉、主柱穴、周溝は検出されなかったが、周囲に平面形態の類似する竪穴建物が多数検出されていることから同様の遺構と判断した。

遺物：土器55.0g、石器・石製品1.00g、縄文土器84.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第781図　SI044

SI045（第782～784図、第260表、図版127・151）

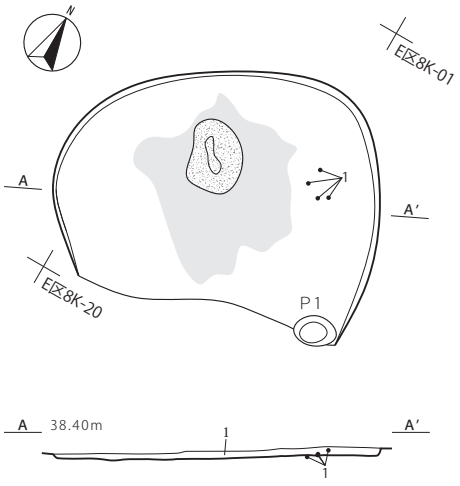
位置：Ｅ区８Ｋ-10グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。南東側は削平により床面まで消失している。**規模：**主軸（2.92）ｍ、副軸3.44ｍ、確認面からの深度（0.21）ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-30°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.88ｍ、短軸0.59ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが１基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周辺から南東側にかけて硬化している。床面から鉢（１）が出土している。

時期：出土遺物から弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器272.9g、石器・石製品23.05g、縄文土器109.0gが出土した。

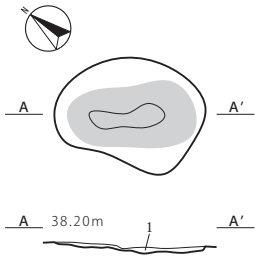
１は口縁部に単節羽状縄文が施され、結節により区画される。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

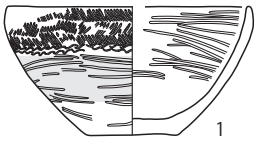
第782図　SI045



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第783図　SI045炉



0　10cm
（1／4）

第784図　SI045出土遺物

第260表　SI045出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 鉢	覆土下 層・床面	口　径：(12.8) 底　径：　4.7 器　高：　6.8 最大径：　－	外面：口縁部単節羽状縄文（RL・LR・RL）・結節文（S2段）、体部～底部ヘラミガキ横位、赤彩 内面：口縁部～底部ヘラミガキ横位	胎　土：砂粒・石英 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	

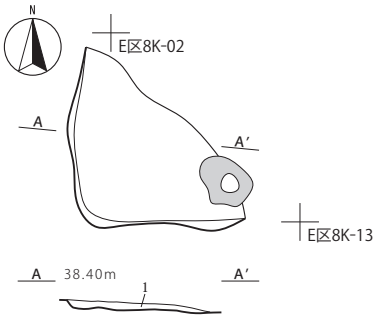
SI046（第785図、図版127）

位置：Ｅ区８Ｋ-02グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**南北方向を主軸と推定し（1.92）m、副軸（1.96）m、確認面からの深度（0.13）m。**形態：**方形もしくは隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。南東側で環状の焼土範囲が検出されているが、明確な掘り込みは認められず炉とは断定できない。

遺物：土器172.0g、縄文土器15.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（１／80）

第785図　SI046

SI047a（第786図、図版128）

位置：Ｅ区５Ｋ-66グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI047bを切り、SM003に切られる。**規模：**南北方向を主軸と推定し（3.84）m、副軸（2.12）m、確認面からの深度0.48ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずSI047ｂ覆土を直接使用しており、中央東側で樹枝状に硬化している。

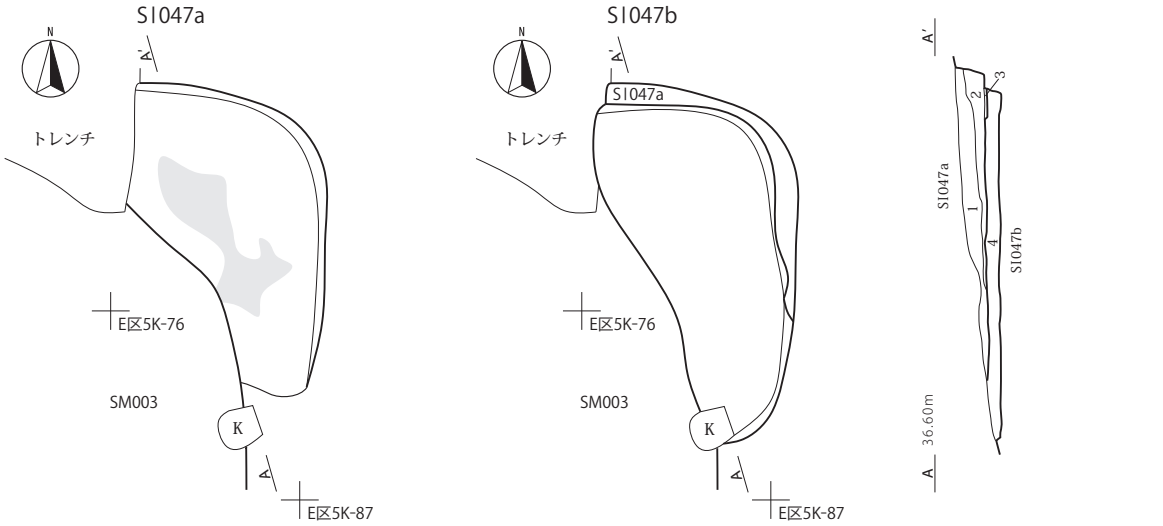
時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。SI047bと重複、あるいは建替え後の竪穴建物である。SI047bは掘り方の可能性もあるが、北壁際の段差から、若干の拡張を行いつつ、平坦な床面を構築していることから２棟の建物と判断した。

遺物：土器530.0g、縄文土器203.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SI047b（第786図、図版128）

位置：Ｅ区５Ｋ-66グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM003、SI047aに切られる。南壁の一部は撹乱される。**規模：**南北方向を主軸と推定し（3.60）m、副軸（2.12）m、



SI047a
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ブロック。粘性あり。しまりあり。
SI047b
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土微量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　3m
（１／80）

第786図　SI047a・SI047b

確認面からの深度0.35ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

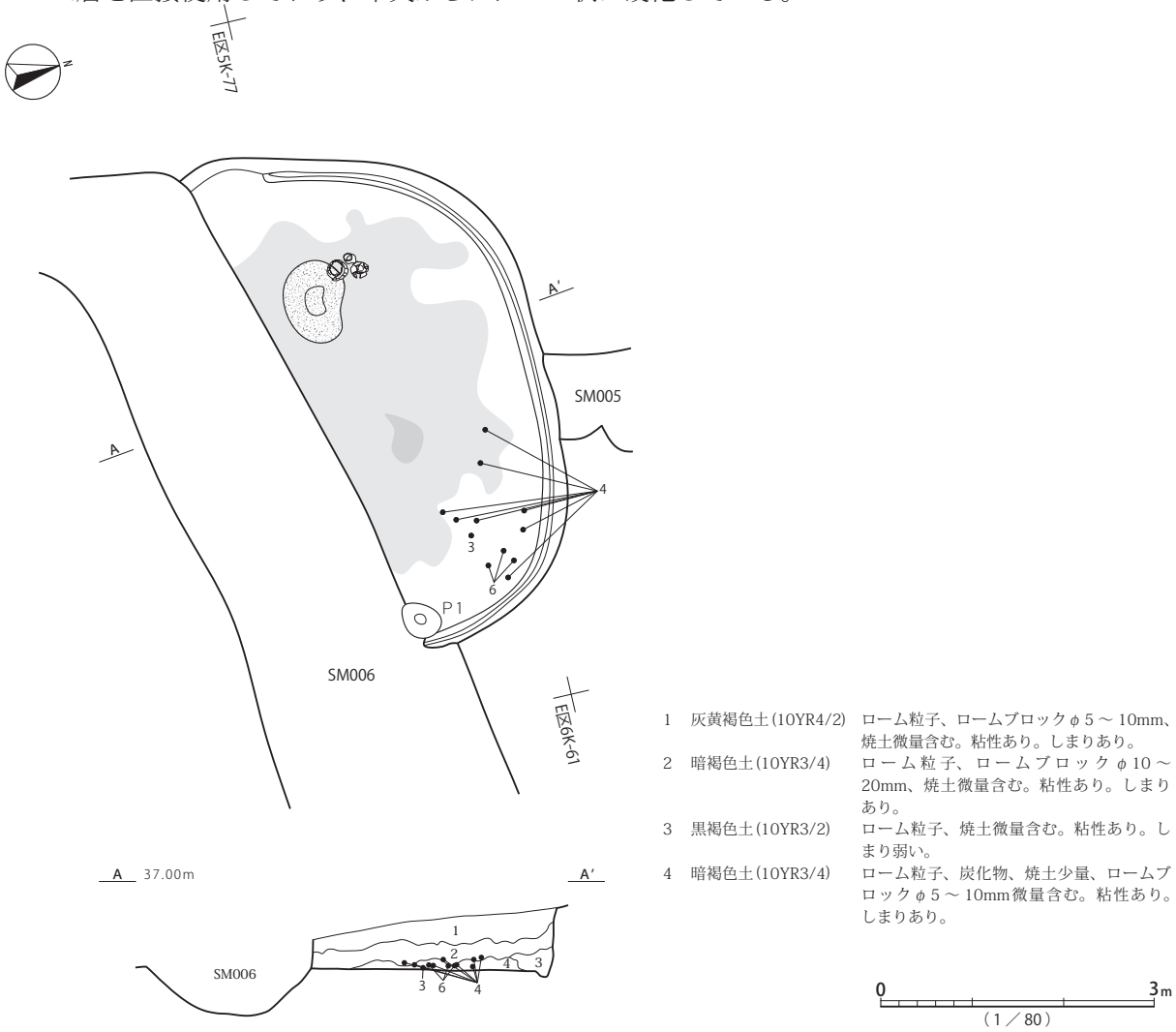
時期：重複から、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。SI047aと重複、あるいは建替え前の竪穴建物である。

遺物：出土していない。

SI048（第787～790図、第261表、図版128・151・152）

位置：Ｅ区５Ｋ-69グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI050を切り、SM005・SM006、SI049に切られる。**規模：**主軸（5.44）ｍ、副軸（4.60）ｍ、確認面からの深度0.72ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-77°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.88ｍ、短軸0.64ｍで浅く窪む。北西脇から甕の胴部１個体（５）が逆位で置かれ、壺の頸部２個体（１・２）が逆位と正位で出土しており、炉器台に転用されたと推測される。**施設：**ピットが１基検出された。周溝は西壁で一部途切れるが、ほぼ全周する。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央からアメーバ状に硬化している。



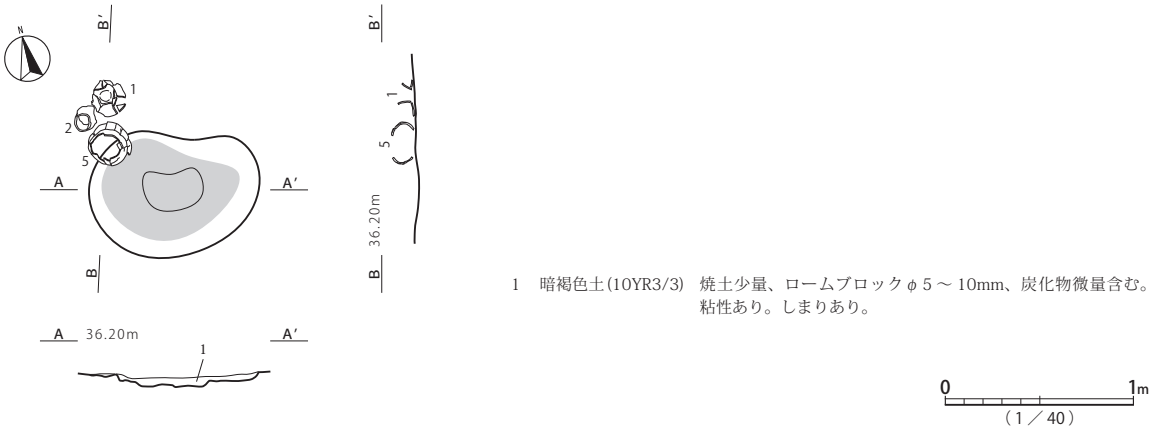
第787図　SI048

時期：出土遺物から弥生時代後期後葉と考えられる。

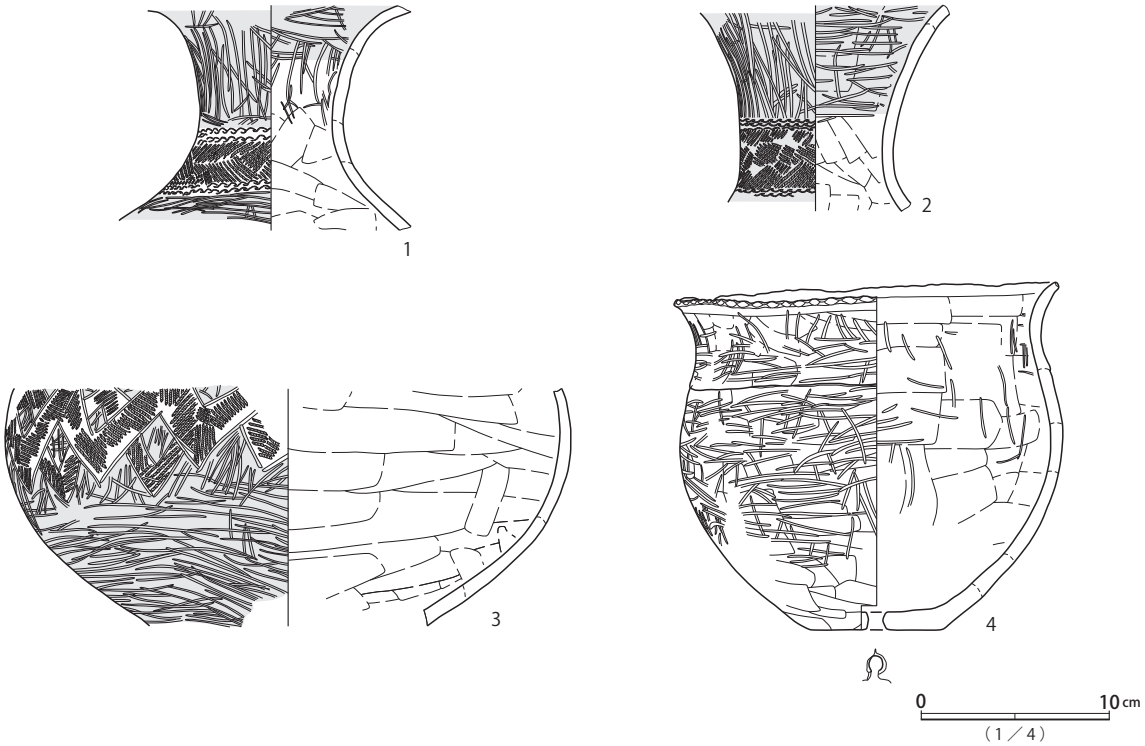
所見：炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。覆土から炭化木材が検出され、床面に被熱痕跡があることから、焼却・焼失した竪穴建物と考えられる。

遺物：土器8,971.3g、石器・石製品1.00g、縄文土器331.0gが出土した。

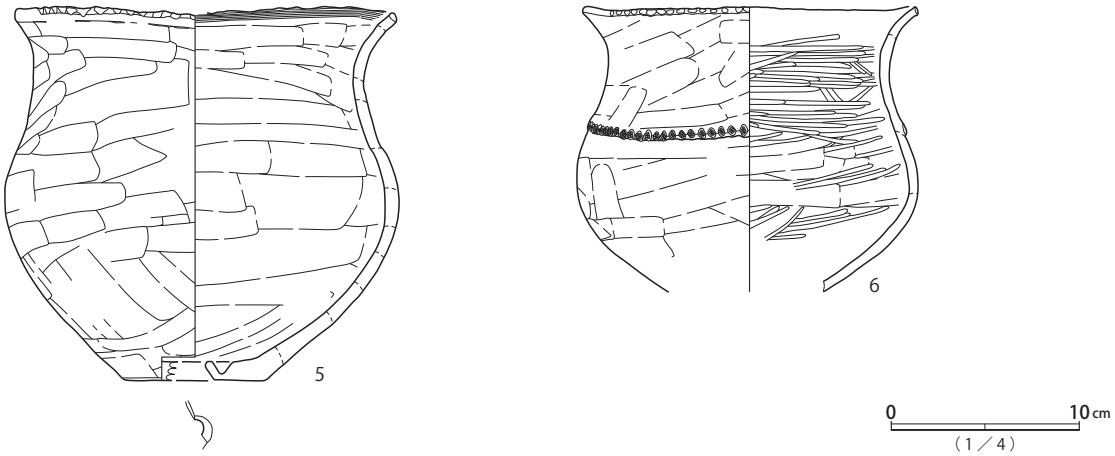
１～３は壺、４～６は甕である。１・２は頸部の結節区画内に単節羽状縄文が充填される。３は胴部に単節縄文を施文後、沈線により山形帯を重ねて区画し、枠外の縄文をヘラミガキで磨り消し赤彩している。４・５は口唇部に押圧が施された甕である。２点とも底部は焼成後に穿孔され、孔の内面は平滑であることから、穿孔具を回転させて設けられていると考えられる。５は穿孔を中断したのか、内面に円錐形の窪みがみられる。６は口唇部に押圧を施し、頸下部に輪積み痕を一段残す。段部には縄文原体によるキザミが施される。



第788図　SI048炉・遺物出土状況



第789図　SI048出土遺物（１）



第790図　SI048出土遺物（２）

第261表　SI048出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	床面	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[12.4] 最大径：　－	外面：頸部ヘラミガキ、赤彩、結節文(S2段)・単節羽状縄文（LR・RL）・結節文（S2段）、ヘラミガキ横位、赤彩 内面：頸部上半ヘラミガキ、赤彩、頸部下半ヘラナデ	胎　土：石英・橙色粒 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：頸部の4/5	
2	弥生土器 壺	床面	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[10.9] 最大径：　－	外面：頸部ヘラミガキ、結節文（S3段）・単節羽状縄文(LR・RL・LR)・結節文(S2段)、赤彩 内面：頸部ヘラナデ後ヘラミガキ、赤彩	胎　土：砂粒・小礫 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：頸部の3/4	
3	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[12.6] 最大径：(29.8)	外面：胴部単節縄文を横位・縦位に施文後、斜位の沈線で山形帯を2段区画した幾何学文、区画内菱形部と区画外の縄文磨り消しヘラミガキ、赤彩 内面：胴部ヘラナデ	胎　土：砂粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：にぶい褐～赤褐 残存度：胴部の1/4	
4	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：20.0 底　径：6.8 器　高：18.4 最大径：20.2	特徴：輪積み痕を1段残す、底部焼成後穿孔 外面：口唇部指先による押圧、口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ後ヘラミガキ、胴部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：砂粒・石英 焼　成：普通 色　調：にぶい橙 残存度：ほぼ完存	外面煤付着
5	弥生土器 甕	床面	口　径：(19.0) 底　径：7.4 器　高：19.8 最大径：20.8	特徴：底部焼成後穿孔と未貫通の穿孔痕 外面：口唇部上から押圧、口縁部～胴部上半ヘラケズリ、胴部下半～底部ヘラナデ 内面：口縁部ハケメ、頸部～底部ヘラナデ	胎　土：砂粒・橙色粒 焼　成：普通 色　調：にぶい褐 残存度：口縁部～底部の4/5	
6	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：(17.5) 底　径：　－ 器　高：[15.1] 最大径：18.0	特徴：輪積み痕を1段残す 外面：口唇部外から押圧、口縁部～頸部ヘラナデ、輪積み部縄文原体によるキザミ、胴部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ後ヘラミガキ横位	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の4/5	

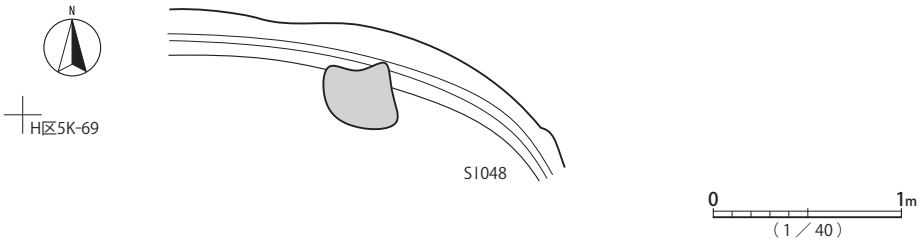
SI049（第791図、図版128）

位置：Ｅ区５Ｋ-59グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI048を切る。炉のみを確認した。**規模：**不明。**形態：**不明。**主軸方位：**不明。**炉：**長軸（0.36）m、短軸（0.40）mで浅く窪む。**施設：**不明。

時期：SI048との重複から弥生時代後期後葉以降と考えられる。

所見：SI048の覆土で検出された。炉の痕跡のみで、床面や壁などは検出されなかった。周辺の竪穴建物に伴わないことから別遺構とした。

遺物：出土していない。



第791図　SI049炉

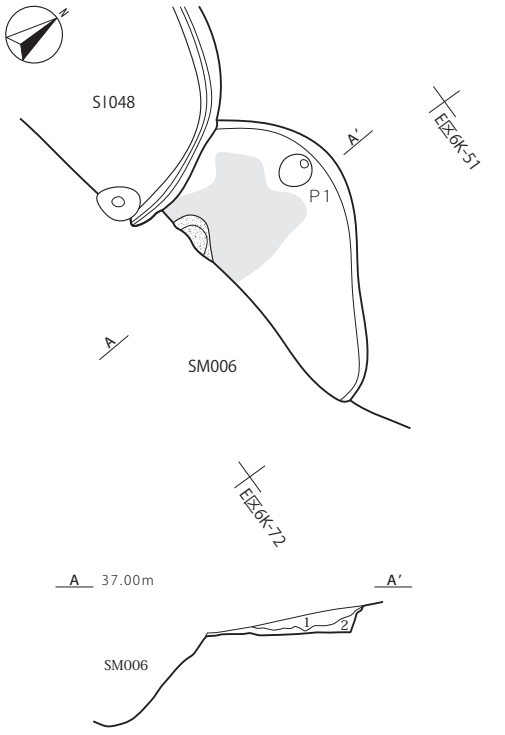
SI050（第792・793図、図版128）

位置：Ｅ区６Ｋ−61グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM006、SI048に切られる。**規模：**主軸（2.96）m、副軸（2.16）m、確認面からの深度0.34ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ−54°−Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸（0.56）m、短軸（0.28）mで浅く窪む。**施設：**ピットが１基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の周辺が硬化している。

時期：重複および出土遺物から弥生時代後期中葉〜後葉と考えられる。

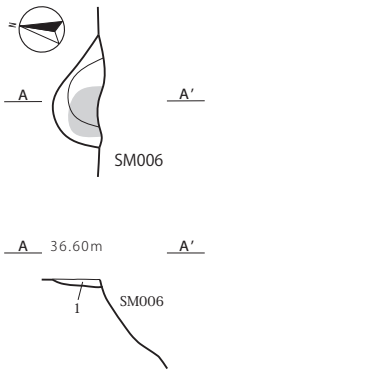
所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器555.0g、石器・石製品1.00gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ５〜10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。

第792図　SI050



1　褐色土(7.5YR4/3)　焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。

第793図　SI050炉

SI051（第794 ～ 796図、第262表、図版128・152）

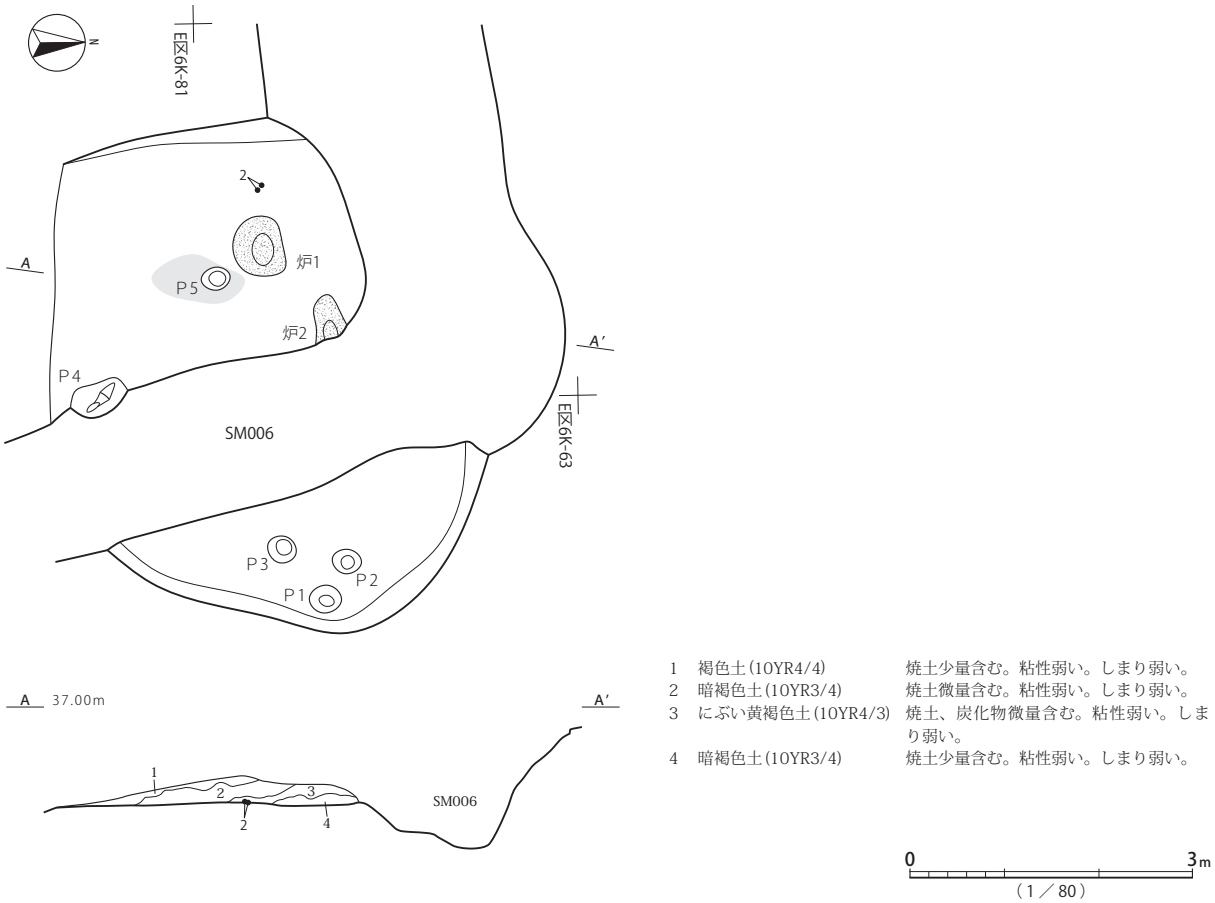
位置：Ｅ区６Ｋ-72グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM005・SM006に切られる。**規模：**主軸（5.44）m、副軸（4.60）m、確認面からの深度0.73ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-89°-Ｗ。**炉：**２基検出された。炉１は竪穴中央やや西寄りで長軸（0.64）m、短軸0.52ｍ、炉２は竪穴中央やや北西寄りで長軸（0.44）m、短軸0.32ｍ、ともに浅く窪む。**施設：**ピットが５基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、Ｐ５の周辺が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

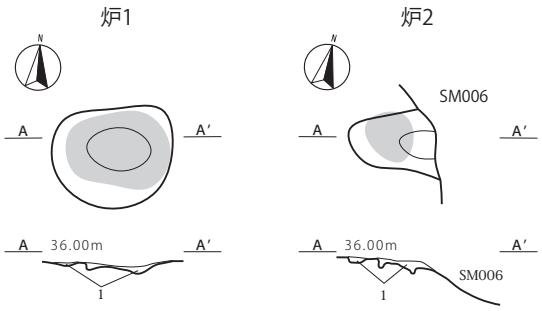
所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。Ｐ２から鉢（１）が、床面から炉器台（２）が出土している。

遺物：土器2,583.4g、縄文土器331.0gが出土した。

１・４は鉢、２は炉器台、３は壺である。１は口縁部に単節縄文施文後、沈線区画により幾何学文を施文し、枠外をヘラミガキで磨り消して赤彩している。２は器壁に厚みのある重厚な造りである。受け部上端は磨耗しており、煮沸具等を上に乗せての使用が推測される。３は口縁端部に単節縄文、布目キザミが施される。４は薄手で、細密な単節縄文が施される。



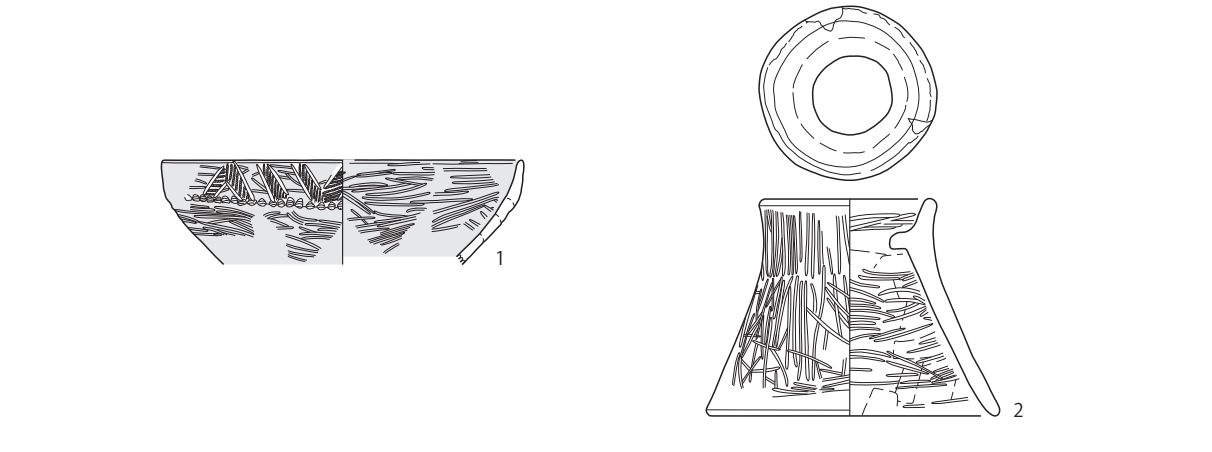
第794図　SI051



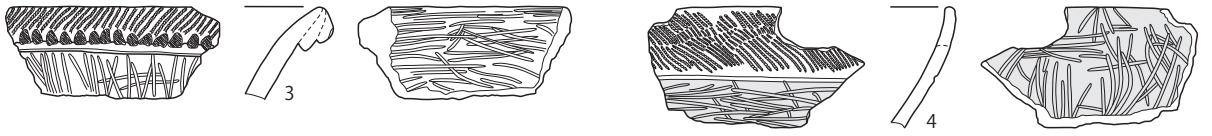
炉1
1　褐色土(7.5YR4/3)　焼土少量含む。粘性弱い。しまりあり。
炉2
1　暗褐色土(10YR3/4)　焼土少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第795図　SI051炉１・炉２



0　10cm
（1／4）



0　10cm
（1／3）

第796図　SI051出土遺物

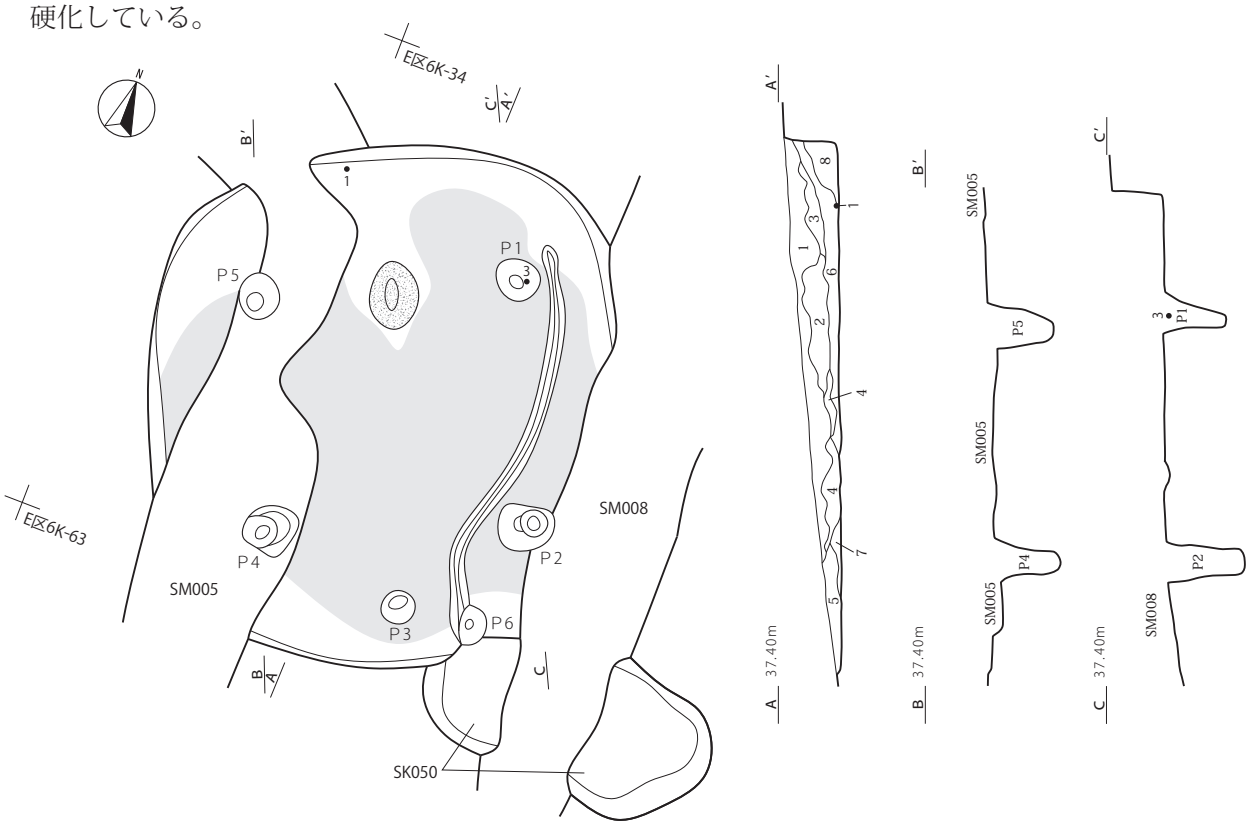
第262表　SI051出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 鉢	P2覆土	口　径：(18.9) 底　径：　－ 器　高：　[5.5] 最大径：　－	外面：口縁部単節縄文(LR)施文後、斜位の沈線で山形と平行四辺形を区画、1区画おきにヘラミガキ、赤彩、端部ハケキザミ、体部ヘラミガキ横位、赤彩 内面：口縁部～体部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：角閃石・石英 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～体部の1/3	
2	弥生土器 炉器台	床面	口　径：　9.4 脚　径：　－ 器　高：[11.5] 最大径：　－	外面：器受部～裾部ヘラミガキ 内面：器受部ヘラミガキ横位、脚部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：砂粒・白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：器受部～裾部の3/4	
3	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.7] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部単節縄文（LR）、端部布目キザミ、口縁部ヘラミガキ縦位 内面：口縁部ヘラミガキ横位	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	
4	弥生土器 鉢	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.8] 最大径：　－	外面：口唇部単節縄文（RL）、口縁部太さの異なる原体を撚った単節縄文（RL）、沈線、ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：砂粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：にぶい橙 残存度：口縁部の破片	

SI052（第797 ～ 799図、第263表、図版128・152）

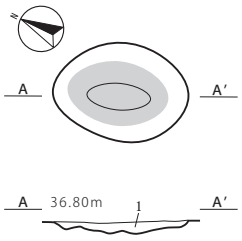
位置：Ｅ区６Ｋ-44グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM005・SM008、SK050に切られる。**規模：**主軸5.52ｍ、副軸（4.96）ｍ、確認面からの深度0.65ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-21°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.72ｍ、短軸0.52ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。主柱穴はＰ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５で柱間は、主軸方向2.64ｍ、副軸方向2.84ｍ。Ｐ３は主軸線上、炉の対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、ほぼ全面が硬化している。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ５～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ５～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり弱い。
7　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
8　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ５～10mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第797図　SI052



1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土少量、ローム粒子、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

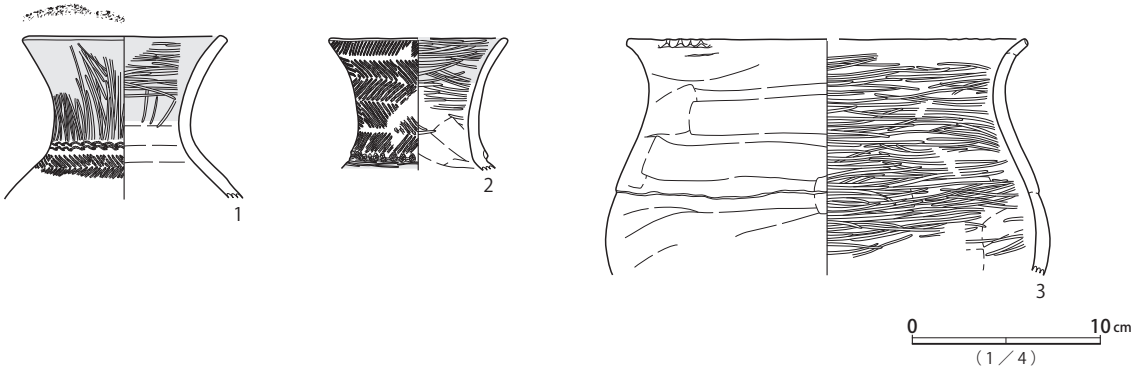
第798図　SI052炉

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期前葉～中葉と考えられる。

所見：炉、主柱穴が検出されたが、周溝は検出されなかった。Ｐ１の北西側からＰ６に向かって伸びる溝の性格は不明である。床面から壺（１）、甕（３）が出土している。

遺物：土器3,735.9g、石器・石製品4.00g、縄文土器373.0gが出土した。

１・２は壺、３は甕である。２は口縁部から頸部に単節羽状縄文が施文され、頸下部に縄文原体によるキザミが施される。３は胴上部に輪積み痕を一段残し、内面はきめ細かいヘラミガキが施される。



第799図　SI052出土遺物

第263表　SI052出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	床面	口　径：10.1 底　径：－ 器　高：[8.7] 最大径：－	外面：口唇部単節縄文(LR)、口縁部ヘラミガキ縦位、赤彩、頸部結節文(S2段)・単節羽状縄文(RL・LR) 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩、頸部ヘラナデ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：普通 色　調：浅黄橙 残存度：口縁部～頸部の4/5	
2	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：9.0 底　径：－ 器　高：[7.0] 最大径：－	外面：口縁部単節羽状縄文（LR・RL・LR・RL・LR）、頸部縄文原体によるキザミ・ヘラミガキ横位、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩、頸部ヘラナデ	胎　土：石英・砂粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：にぶい黄褐 残存度：口縁部～頸部の3/4	
3	弥生土器 甕	床面	口　径：(21.0) 底　径：－ 器　高：[12.5] 最大径：－	特徴：輪積み痕を1段残す 外面：口唇部外から押圧、口縁部～胴部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ後ヘラミガキ横位	胎　土：石英・砂粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～胴部の1/4	

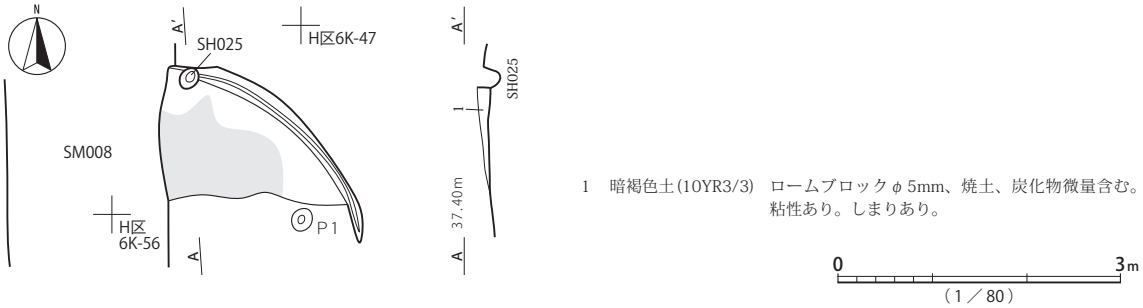
SI053（第800図、図版129）

位置：Ｅ区６Ｋ-46グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM008に切られる。**規模：**南北方向を主軸と推定し（1.84）m、副軸（2.16）m、確認面からの深度0.21 m。**形態：**不明。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが１基検出された。周溝は壁際で検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、残存部分のほぼ全面が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：周溝が検出されたが、炉、主柱穴は検出されなかった。

遺物：土器40.0g、縄文土器8.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第800図　SI053

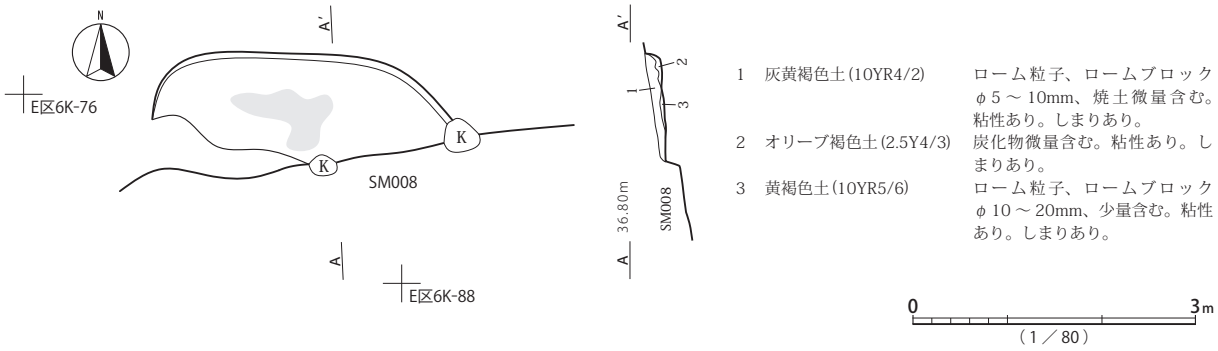
SI054（第801図、図版129）

位置：Ｅ区６Ｋ-77グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM008に切られる。南側の一部は撹乱される。北側端が残存するのみである。**規模：**南北方向を主軸と推定し（1.16）m、副軸（3.16）m、確認面からの深度0.28ｍ。**形態：**小判形もしくは隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、残存部分の中央が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。壁面がほぼ垂直に立ち上がり底面が水平に広がることから竪穴建物と判断した。

遺物：土器146.0g、縄文土器34.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第801図　SI054

SI055（第802～805図、第264表、図版129・152）

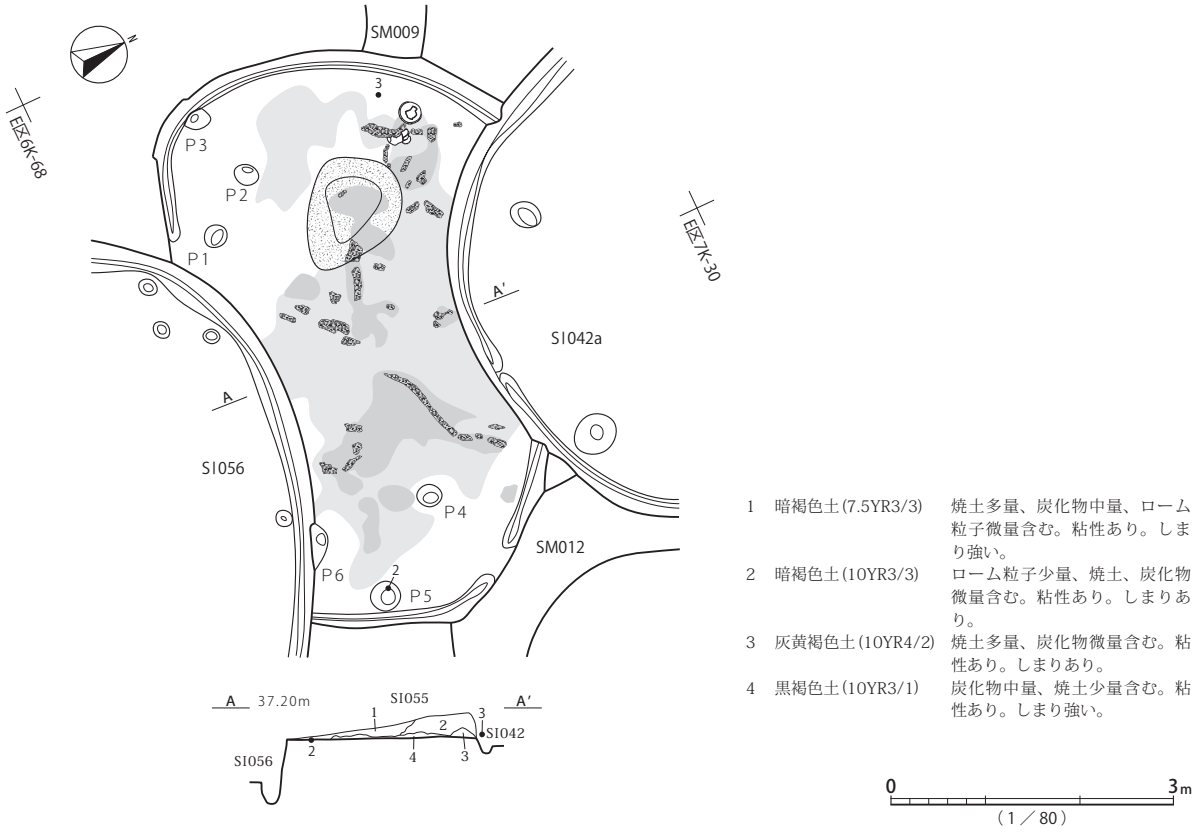
位置：Ｅ区６Ｋ-49グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI058を切り、SM009・SM012、SI042a・SI056に切られる。**規模：**主軸6.12ｍ、副軸（4.20）m、確認面からの深度（0.54）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-65°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.32ｍ、短軸1.00ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。主柱穴はＰ２・Ｐ４で残りの２基は他遺構に切られていると考えられる。周溝は残存部分ではほぼ全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央から壁際にかけてアメーバ状に硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期前葉～中葉と考えられる。

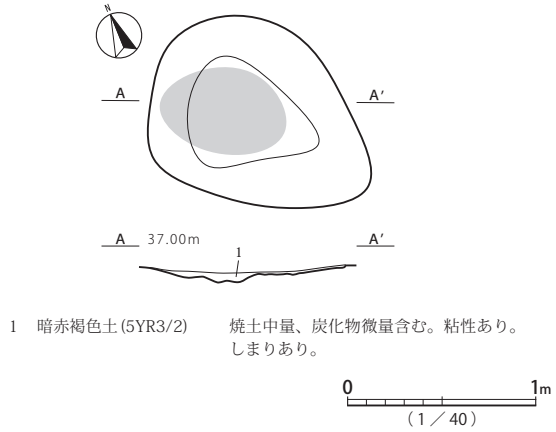
所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没の状況を示す。床面直上には焼土、炭化材が散在し、炉の北西側では甕（１・３）、台付甕（４）など残存度の比較的良好な土器が出土している。これらの状況から、竪穴建物廃棄後の焼却、あるいは火災に遭ったと推測される。

遺物：土器4,888.0g、縄文土器346.0gが出土した。

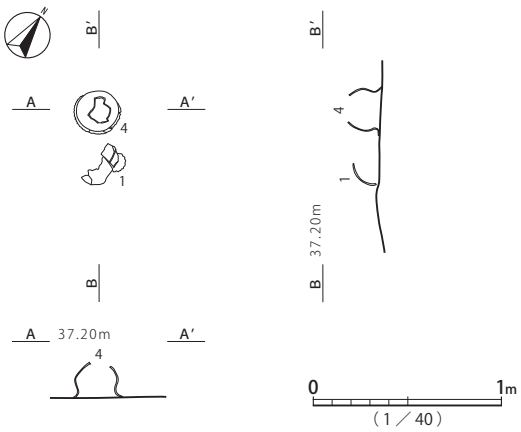
１・２・４は甕、３は台付甕である。１の口唇部には上側と外側からの交互押圧が施される。押圧は指先によるものか部分的に爪跡が見られる。３は口唇部に縄文原体によるキザミが施される。脚台部を欠損するが、胴下部の形状から台付甕とした。４は口唇部に指先による交互押圧が施され、胴上部に輪積み痕を一段残す。



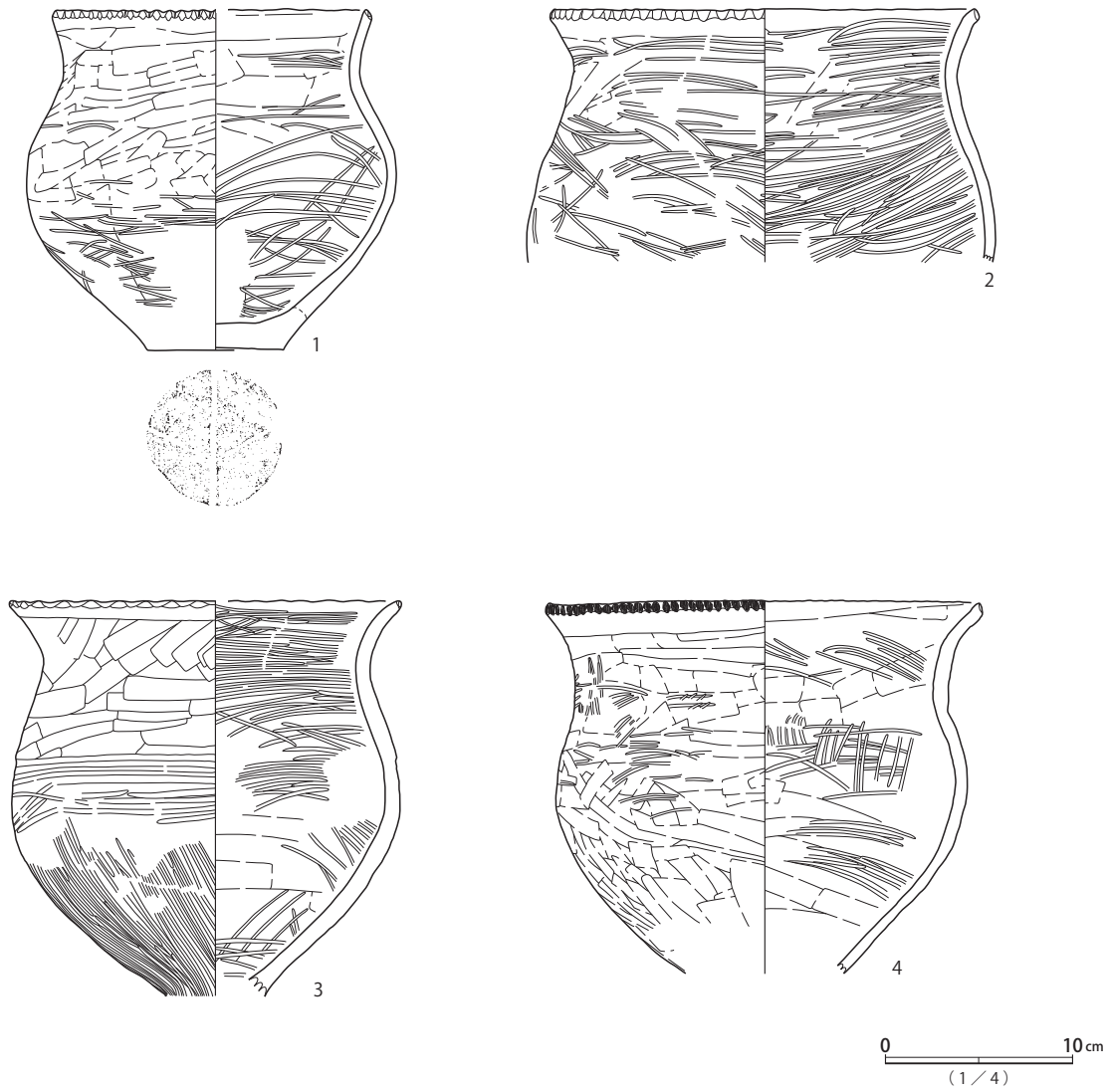
第802図　SI055



第803図　SI055炉



第804図　SI055遺物出土状況



第805図　SI055出土遺物

第264表　SI055出土土器観察表

単位：cm

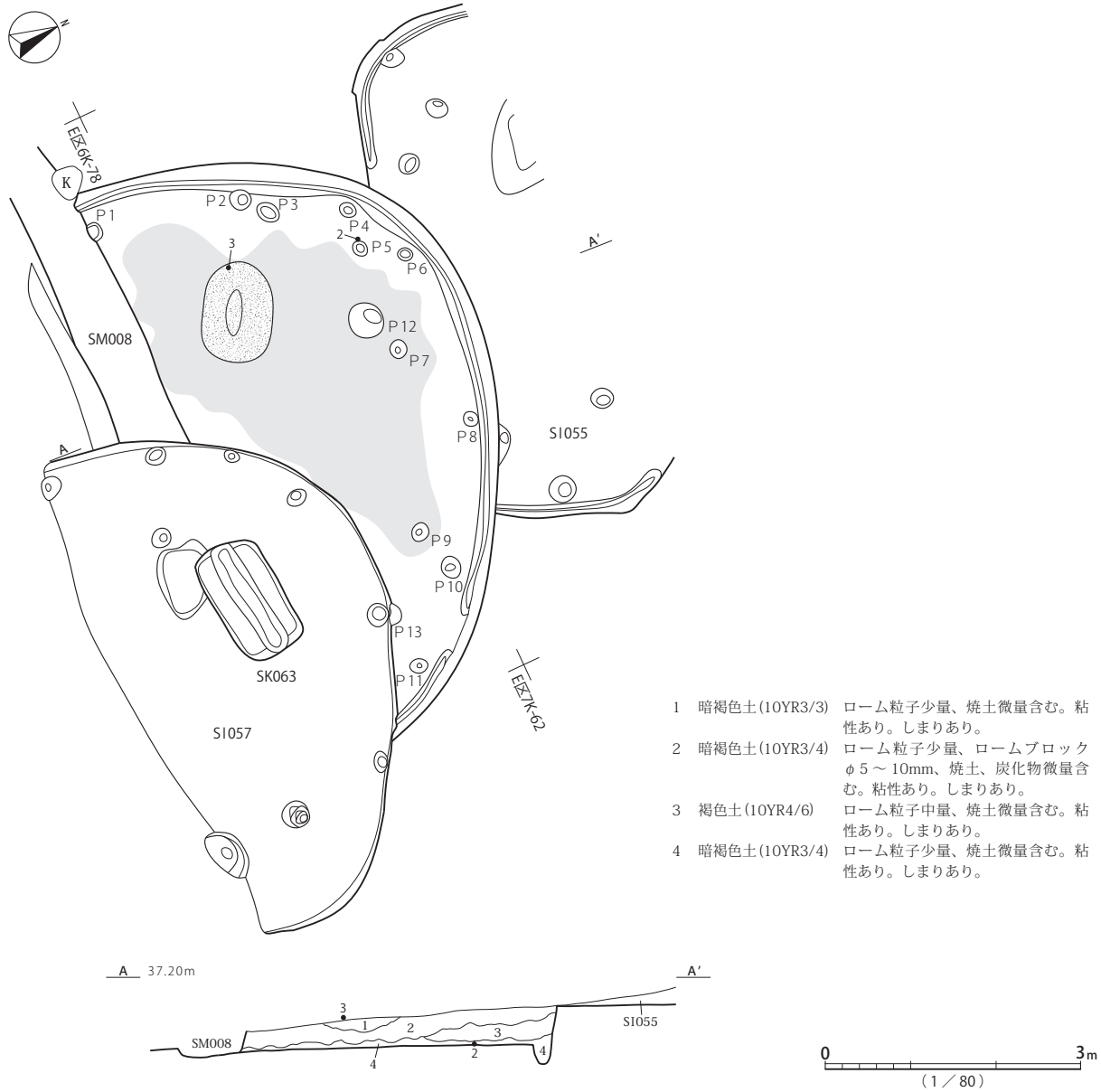
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	床面	口　径：(16.5) 底　径：　7.3 器　高：　18.1 最大径：　19.6	外面：口唇部指先(爪)による交互押圧、口縁部ヨコナデ、頸部～胴部上半ヘラナデ、胴部下半～底部ヘラミガキ横位、底部木葉痕 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ横位	胎　土：石英・砂粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：口縁部～底部の4/5	
2	弥生土器 甕	床面	口　径：　22.4 底　径：　－ 器　高：[13.5] 最大径：　25.0	外面：口唇部指先による押圧、口縁部～胴部ヘラナデ後粗いヘラミガキ横位 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ後粗いヘラミガキ横位	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：褐～黒褐 残存度：口縁部～胴部の3/4	
3	弥生土器 台付甕	床面	口　径：(20.6) 脚　径：　－ 器　高：[21.0] 最大径：　－	特徴：輪積み痕を1段残す 外面：口唇部上と外から交互押圧、口縁部ヨコナデ、頸部ヘラケズリ、胴部ヘラミガキ 内面：口縁部～胴部上半ヘラミガキ、胴部下半～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：石英・砂粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：口縁部～胴部の3/4	
4	弥生土器 甕	床面	口　径：　22.8 底　径：　－ 器　高：[19.7] 最大径：　－	外面：口唇部縄文原体によるキザミ、口縁部ヨコナデ、頸部～胴部上半ヘラナデ横位後ヘラミガキ、胴部下半ヘラナデ縦位 内面：口縁部～胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：砂粒・石英 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部ほぼ完存	

SI056（第806 ～ 808図、第265・266表、図版129・152・155）

位置：Ｅ区７Ｋ-60グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI055を切り、SM008・SM009、SI057に切られる。**規模：**主軸（6.72）m、副軸（5.52）m、確認面からの深度0.61ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-65°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.16ｍ、短軸0.80ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが13基検出された。Ｐ１～Ｐ６・Ｐ８・P10・P11は壁際に並ぶ。深度は0.10ｍ未満と浅い。周溝は残存部分ではほぼ全周する。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の周辺から北東側にかけて硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

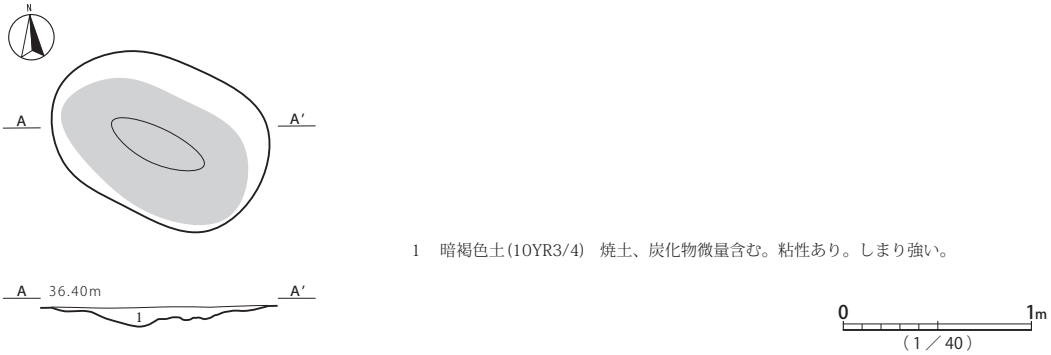
所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。壁際のピットは壁立ち構造の上屋に伴うと推測される。



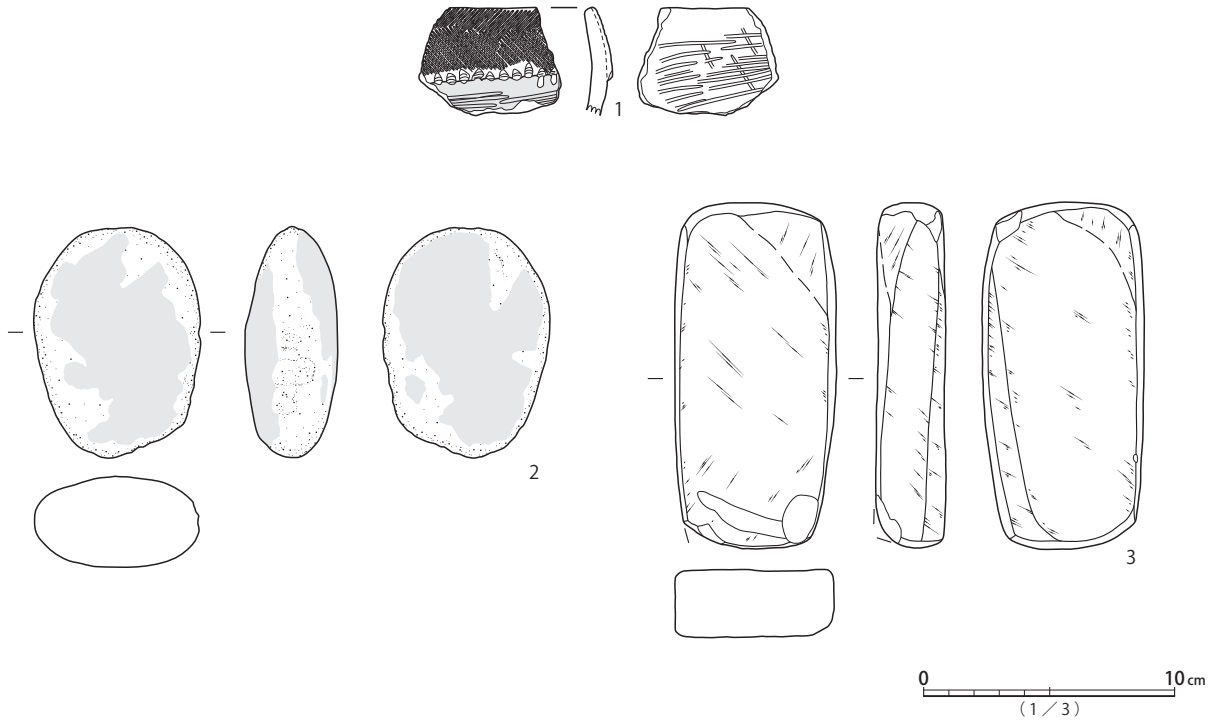
第806図　SI056

遺物：土器1,810.6g、石器・石製品674.26g、縄文土器552.0gが出土した。

１は無頸壺もしくは鉢である。弱く内湾する口縁部に単節羽状縄文が施され、段部はハケキザミが施されている。２は流紋岩質凝灰岩の磨石である。扁平な楕円礫の表裏に磨面がある。３は黒雲母流紋岩の砥石である。板状の礫の表裏を主たる砥面としている。



第807図　SI056炉



第808図　SI056出土遺物

第265表　SI056出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 無頸壺又は鉢	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.3] 最大径：　－	**特徴**：折り返し口縁 **外面**：口唇部単節縄文（LR）、折り返し部単節羽状縄文（LR・RL）、端部ヘラキザミ、口縁部ヘラミガキ横位、赤彩 **内面**：口縁部ヨコナデ・ヘラミガキ横位	**胎　土**：石英・砂粒 **焼　成**：普通 **色　調**：橙 **残存度**：口縁部の破片	

第266表　SI056出土石器・石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
2	磨石	流紋岩質凝灰岩	床面	9.20	6.65	3.70	303.78	磨：表・裏各１面
3	砥石	黒雲母流紋岩	覆土上層	13.75	6.40	2.70	368.29	砥面：全面

SI057（第809 ～ 811図、第267表、図版129・152）

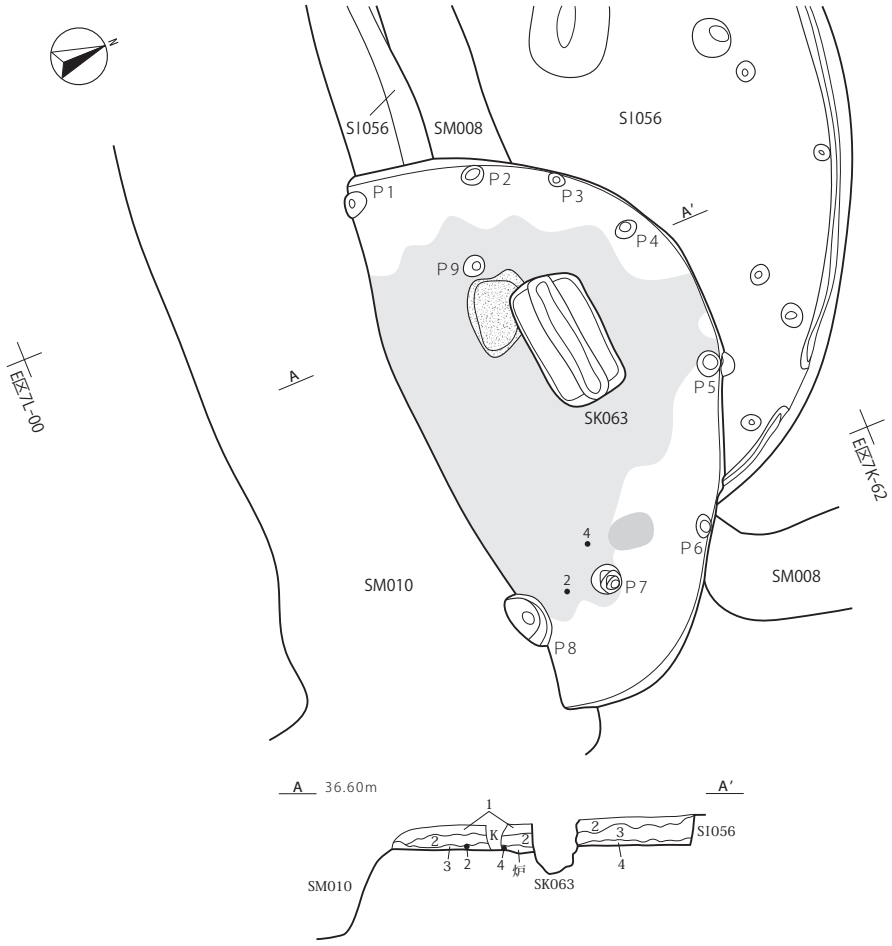
位置：Ｅ区７Ｋ-71グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI056を切り、SM008・SM010、SK063に切られる。**規模：**主軸（5.84）m、副軸（4.04）m、確認面からの深度0.59ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-68°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.92ｍ、短軸（0.48）ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが９基検出された。Ｐ１～Ｐ６はほぼ等間隔で壁際に並ぶ。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央からアメーバ状に硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。床面から広口壺（２）、甕（３）が出土している。壁際のピットは壁立ち構造に伴うと推測される。

遺物：土器3,677.1g、縄文土器187.0gが出土した。

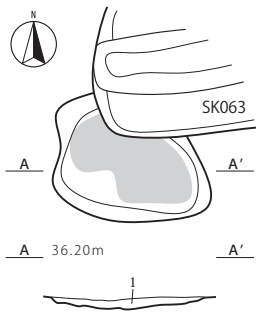
１は壺、２は広口壺、３は甕である。１の折り返し部内面は粘土帯を挟み込み多段となる。２の口唇部はヘラキザミが施され、胴部は中位が強く張り出している。３は頸部にヘラキザミが施される。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ５～10mm少量、ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　3m
（1／80）

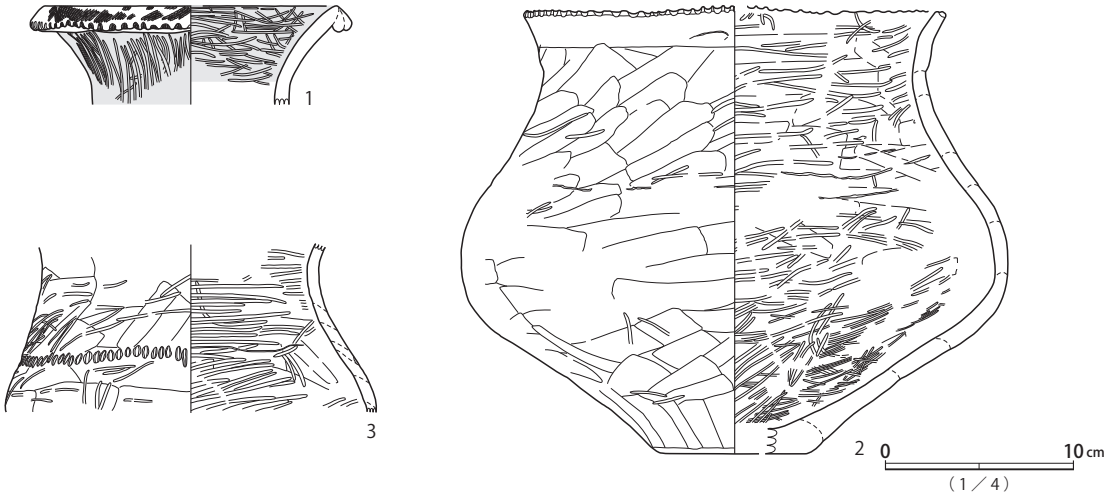
第809図　SI057



1　黒褐色土(10YR2/3)　焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第810図　SI057炉



第811図　SI057出土遺物

第267表　SI057出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：(15.5) 底　径：　－ 器　高：　[5.2] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：口唇部単節縄文(LR)、端部縄文原体によるキザミ、口縁部ヘラミガキ縦位、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：黒色粒・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の1/2	
2	弥生土器 広口壺	床面	口　径：(22.0) 底　径：　(7.6) 器　高：　23.7 最大径：(28.6)	外面：口唇部上からヘラキザミ、口縁部ヨコナデ、頸部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：砂粒・石英 焼　成：普通 色　調：赤褐～暗褐 残存度：口縁部～底部の1/2	
3	弥生土器 甕	床面	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[8.9] 最大径：　－	外面：頸部～胴部ヘラケズリ後粗いヘラミガキ・ヘラキザミ 内面：頸部ヘラナデ後ヘラミガキ横位	胎　土：石英顕著・砂粒 焼　成：普通 色　調：にぶい黄橙 残存度：頸部のみほぼ完存	

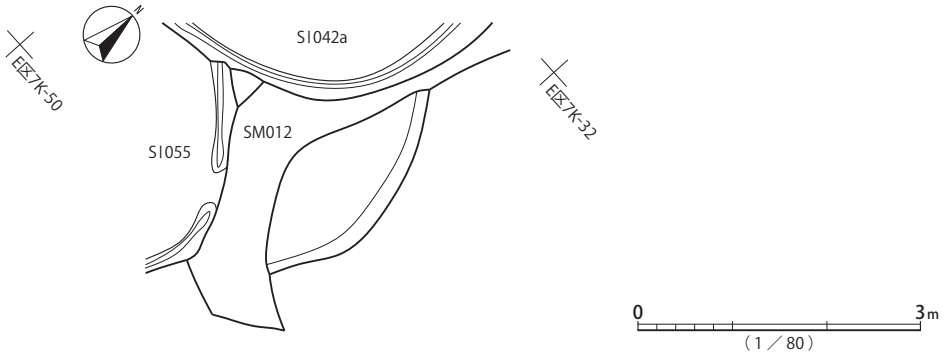
SI058（第812図）

位置：Ｅ区７Ｋ-41グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM012、SI042a・SI042b・SI055に切られる。東隅が残存するのみ。**規模：**北西－南東方向を主軸と推定し（1.92）m、副軸（1.72）m、確認面からの深度0.19ｍ。**形態：**不明。**主軸方位：**Ｎ-48°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。壁面がほぼ垂直に立ち上がり底面が水平に広がることから竪穴建物と判断した。

遺物：出土していない。



第812図　SI058

SI059（第813～815図、第268表、図版129・130・152・153）

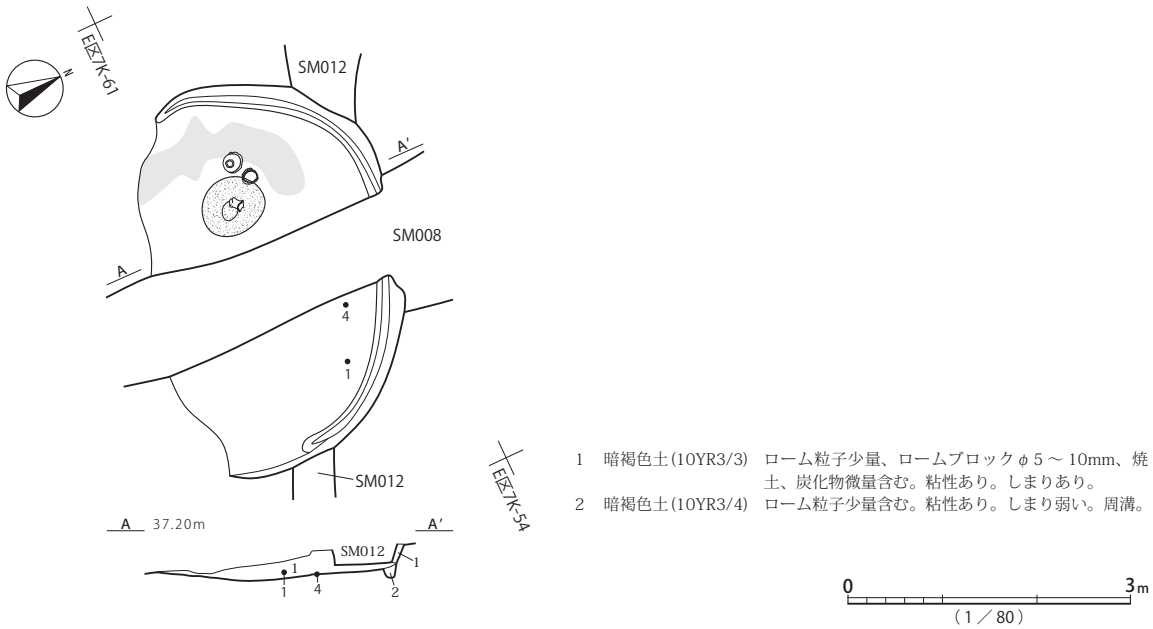
位置：Ｅ区７Ｋ-52グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM008・SM012に切られる。**規模：**主軸4.16ｍ、副軸（2.84）ｍ、確認面からの深度（0.48）ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-65°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.64ｍ、短軸0.60ｍで浅く窪む。炉の西脇から壺（２）、甕（３）が逆位で出土している。壺は口縁部から頸部まで、甕は口縁部から胴下部まで残存する。炉の燃焼面から壺の頸部が出土している。いずれも炉器台に転用されたと推測される。**施設：**周溝は西壁から東壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の西側が硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期前葉～中葉と考えられる。

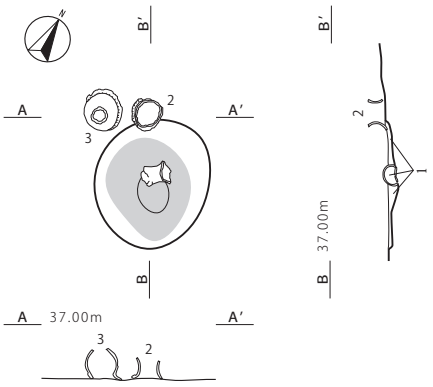
所見：炉、周溝が検出されが、主柱穴は検出されなかった。炉の脇のほか、北東壁沿いの床面から壺（１）、甕（４）が出土している。

遺物：土器2,454.8g、縄文土器221.0gが出土した。

１・２は壺、３・４は甕である。１は沈線区画内に単節羽状縄文を充填した縄文帯が頸部と肩部に、２は頸部に施文される。３・４は２点とも段部にヘラキザミが施される。



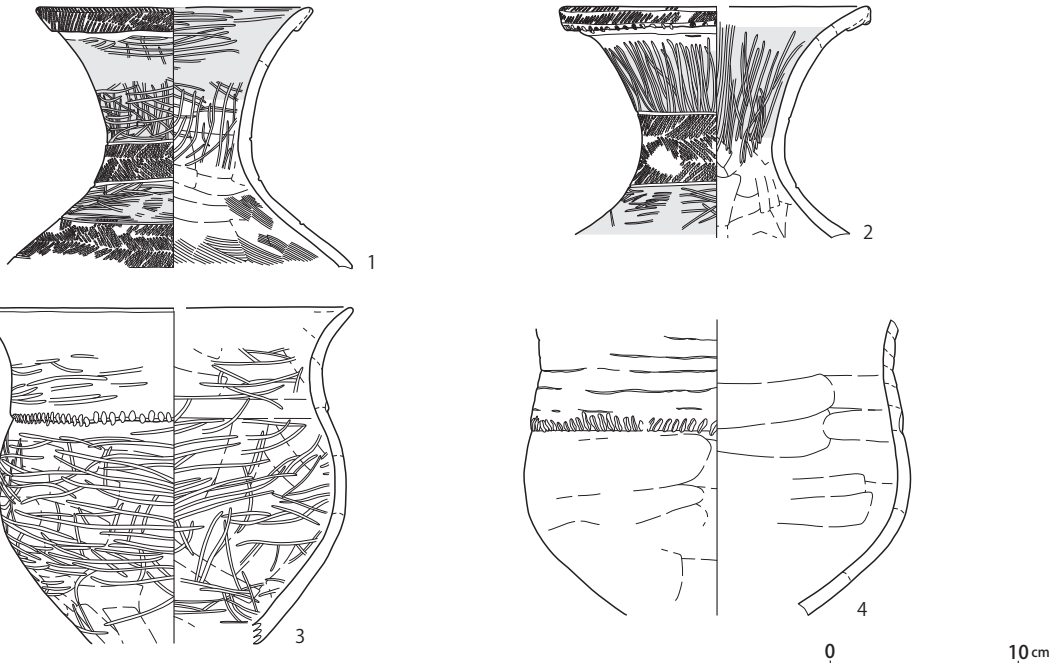
第813図　SI059



1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土、炭化物少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第814図　SI059炉



0　10cm
（1／4）

第815図　SI059出土遺物

第268表　SI059出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	床面	口　径：(14.2) 底　径：　– 器　高：[13.8] 最大径：　–	**特徴**：折り返し口縁 **外面**：口唇部単節縄文(RL)、折り返し部単節縄文(LR)、頸部ヘラミガキ、赤彩、沈線横位4段で3区画、区画内単節羽状縄文（LR・RL)、ヘラミガキ、赤彩、単節羽状縄文(RL・LR) **内面**：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩、頸部～肩部ヘラナデ後ハケメ	**胎　土**：石英・黒色粒 **焼　成**：普通 **色　調**：にぶい黄褐 **残存度**：口縁部～肩部の2/3	
2	弥生土器 壺	床面	口　径：(16.0) 底　径：　– 器　高：[12.2] 最大径：　–	**特徴**：折り返し口縁 **外面**：口唇部単節縄文(LR)、折り返し部単節縄文(LR)、端部縄文原体によるキザミ、口縁部ヘラミガキ縦位、赤彩、頸部沈線横位2段、区画内単節羽状縄文（LR・RL・LR)・ヘラミガキ横位、ヘラミガキ部赤彩 **内面**：口縁部ヨコナデ・ヘラミガキ縦位、赤彩、頸部ヘラナデ	**胎　土**：石英・砂粒 **焼　成**：良好 **色　調**：橙 **残存度**：口縁部～頸部の1/2	
3	弥生土器 甕	床面	口　径：(19.8) 底　径：　– 器　高：[17.8] 最大径：　–	**特徴**：輪積み痕を1段残す **外面**：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ横位、輪積み部ヘラキザミ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ横位 **内面**：口縁部～胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	**胎　土**：石英・砂粒 **焼　成**：良好 **色　調**：橙 **残存度**：口縁部～胴部の2/3	
4	弥生土器 甕	床面	口　径：　– 底　径：　– 器　高：[15.7] 最大径：(20.6)	**特徴**：輪積み痕を6段残す **外面**：輪積み部ヘラキザミ・ヘラナデ **内面**：胴部ヘラナデ横位	**胎　土**：石英・砂粒 **焼　成**：普通 **色　調**：にぶい黄橙 **残存度**：胴部の1/3	

SI060（第816 ～ 818図、第269表、図版130・153）

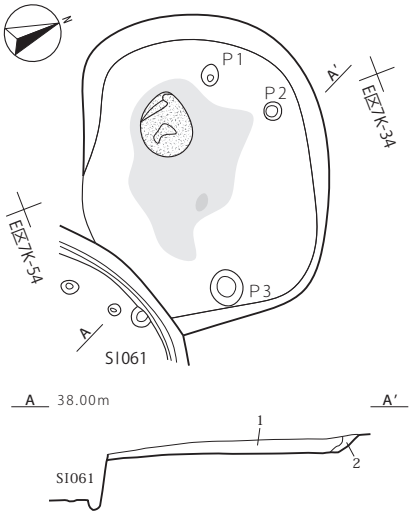
位置：Ｅ区７Ｋ-44グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI061に切られる。**規模：**主軸（3.36）m、副軸（2.60）m、確認面からの深度（0.37）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-69°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.68ｍ、短軸0.56ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが３基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の周辺から南東側にかけて硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期前葉～中葉と考えられる。

所見：本調査区では比較的小型の竪穴建物である。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器266.6g、縄文土器83.0gが出土した。

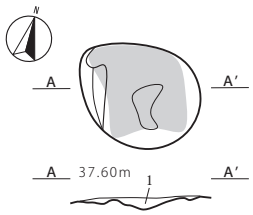
１は薄い粘土を貼付する折り返し口縁で、内湾している。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

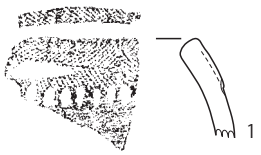
第816図　SI060



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒中量、焼土少量含む。粘性あり。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

第817図　SI060炉



0　10cm
（1／3）

第818図　SI060出土遺物

第269表　SI060出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 無頸壺 または鉢	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.0] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：口唇部単節縄文（RL）、折り返し部単節羽状縄文（LR・RL）・端部ヘラキザミ・ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部ナデ、赤彩	胎　土：石英・砂粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	

SI061（第819 ～ 821図、第270表、図版130・153）

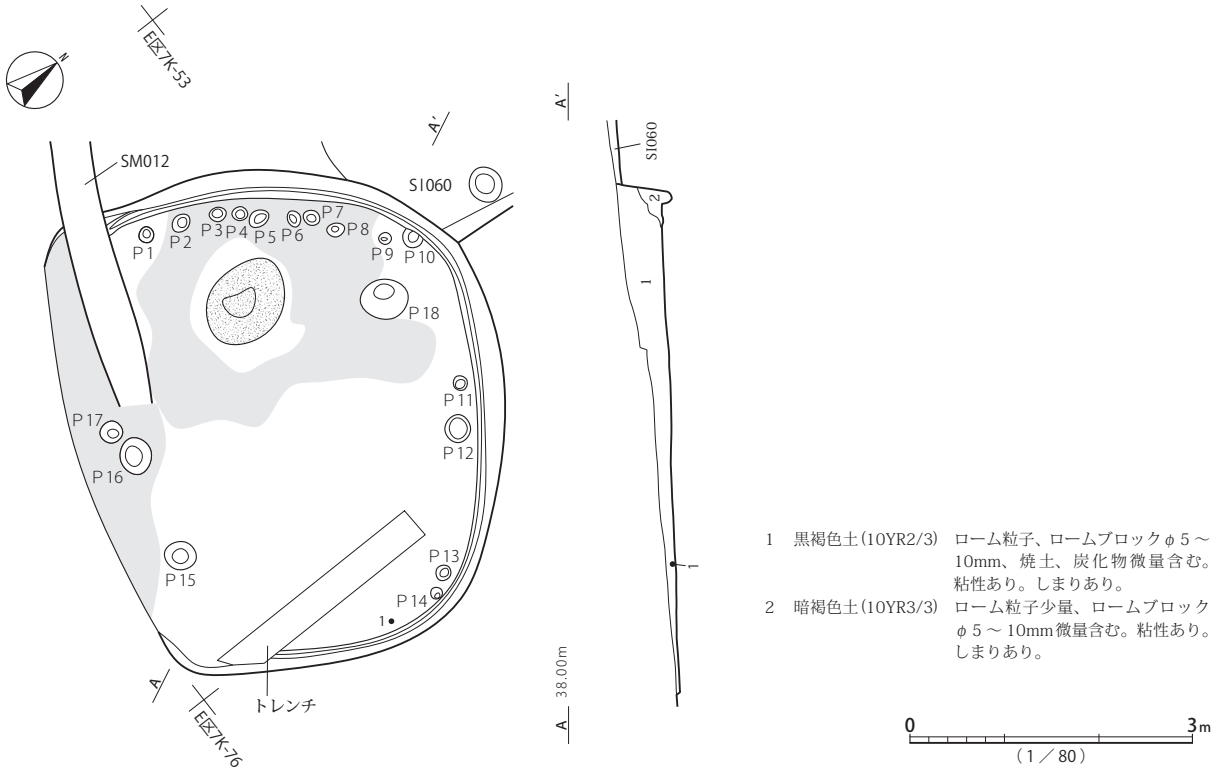
位置：Ｅ区７Ｋ-55グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI060、SK051を切り、SM012に切られる。**規模：**主軸5.32ｍ、副軸（4.88）ｍ、確認面からの深度0.80ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-52°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.00ｍ、短軸0.76ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが17基検出された。Ｐ１～Ｐ14が小ピット状の窪みで、周溝の内側に沿うように検出された。北西壁に集中しており、Ｐ４とＰ５、Ｐ６とＰ７、Ｐ９とP10、P11とP12、P13とP14は、２基１組で配置されているようにみえる。周溝は西壁から南東壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の周辺から南壁にかけて硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

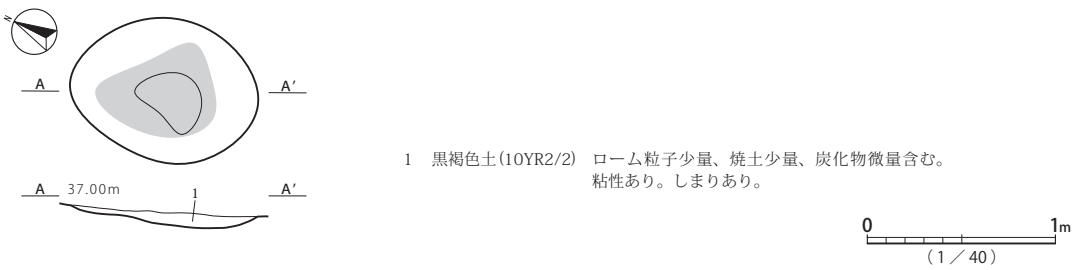
所見：炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。比較的大きいP16・P18は主柱穴の可能性がある。 床面から壺（１）が出土している。

遺物：土器2,583.2g、縄文土器513.0gが出土した。

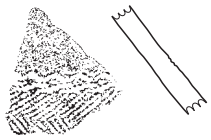
１は結節区画および単節羽状縄文が施される。



第819図　SI061



第820図　SI061炉



1

0　10cm
（1／3）

第821図　SI061出土遺物

第270表　SI061出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	床面	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.3] 最大径：　－	外面：肩部ヘラミガキ、赤彩、結節文（S2段）・単節羽状縄文（LR・RL） 内面：肩部ナデ	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：肩部の破片	

SI062（第822・823図、第271表、図版130・153）

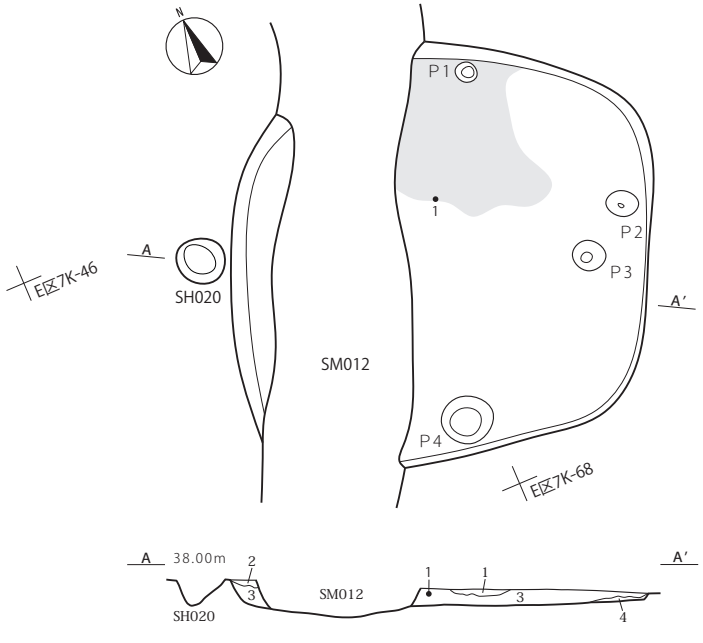
位置：Ｅ区７Ｋ-48グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM012に切られる。**規模：**北東－南西方向を主軸と推定し（4.52）m、副軸4.44 m、確認面からの深度（0.56）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-23°-Ｅ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが４基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、北東側から北壁際にかけて硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。炉はSM012により削平されたと考えられる。Ｐ４は主軸線上、硬化面の対面に位置し、壁際で検出された。周囲の竪穴建物では炉の周辺に硬化面を持つことが多いため、Ｐ４は出入り口施設に伴う可能性がある。

遺物：土器1,206.8g、縄文土器127.3gが出土した。

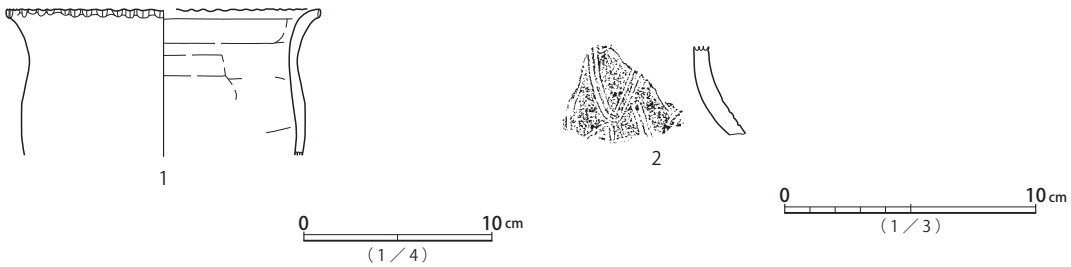
１は甕、２は壺である。２は半裁竹管による弧状文が施される。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、ロームブロックφ10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子中量、ロームブロックφ10～30mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第822図　SI062



第823図　SI062出土遺物

第271表　SI062出土土器観察表

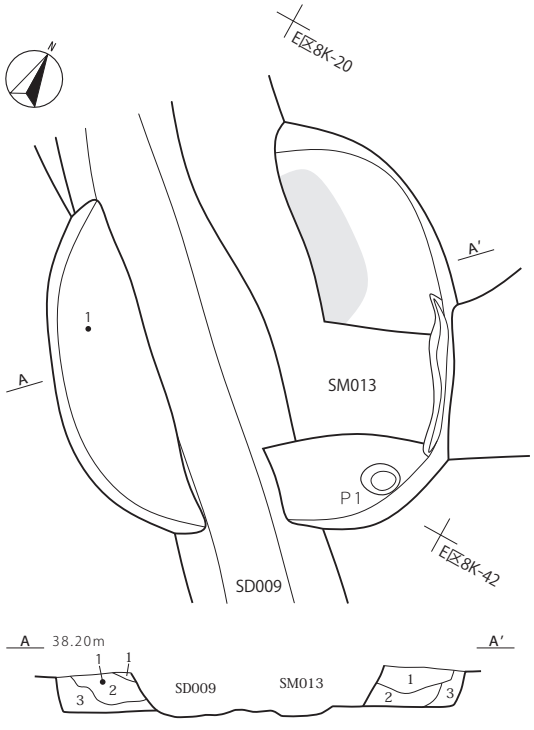
単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：(16.6) 底　径：　－ 器　高：［7.8］ 最大径：　－	特徴：輪積み痕を1段残す 外面：口唇部外から押圧、口縁部～胴部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/3	外面煤付着
2	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［3.5］ 最大径：　－	外面：頸部半裁竹管による弧状文 内面：頸部ヘラナデ	胎　土：石英・黒色粒 焼　成：普通 色　調：黒褐 残存度：頸部の破片	

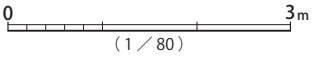
SI063（第824・825図、第272・273表、図版130・153・155）

位置：Ｅ区８Ｋ-30グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SM013、SD009に切られる。**規模：**北西－南東方向を主軸と推定し（4.36）m、副軸（4.32）m、確認面からの深度（0.55）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-29°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが１基検出された。周溝は北東壁から東壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央北側の一部が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ５～10mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ５～30mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

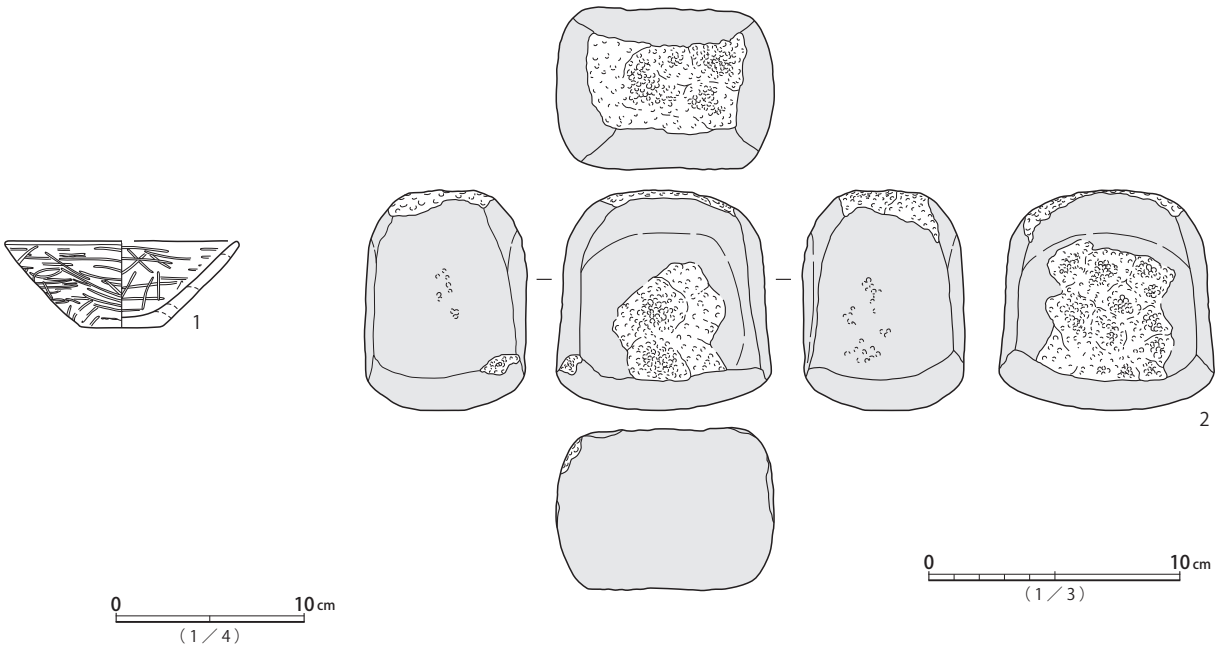


第824図　SI063

所見：周溝が検出されたが、炉、主柱穴は検出されなかった。

遺物：土器651.8g、石器859.83g、縄文土器137.0gが出土した。

１は無文の鉢である。２は輝石安山岩の磨＋敲石である。敲石として使用した後に磨石として利用され、上面を除くすべての面に磨面がある。このうち下面を主たる磨面とする。



第825図　SI063出土遺物

第272表　SI063出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 鉢	覆土上層	口　径：(12.2) 底　径：　4.2 器　高：　4.6 最大径：　－	外面：口縁部～底部ヘラミガキ横位 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：赤色粒・石英 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	

第273表　SI063出土石器観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
2	磨＋敲石	輝石安山岩	覆土下層	8.75	8.60	6.50	855.83	磨：表・裏・右・左・下各1面、敲：表・裏・右・左・上各1箇所

SI064（第826 ～ 828図、第274表、図版130・153）

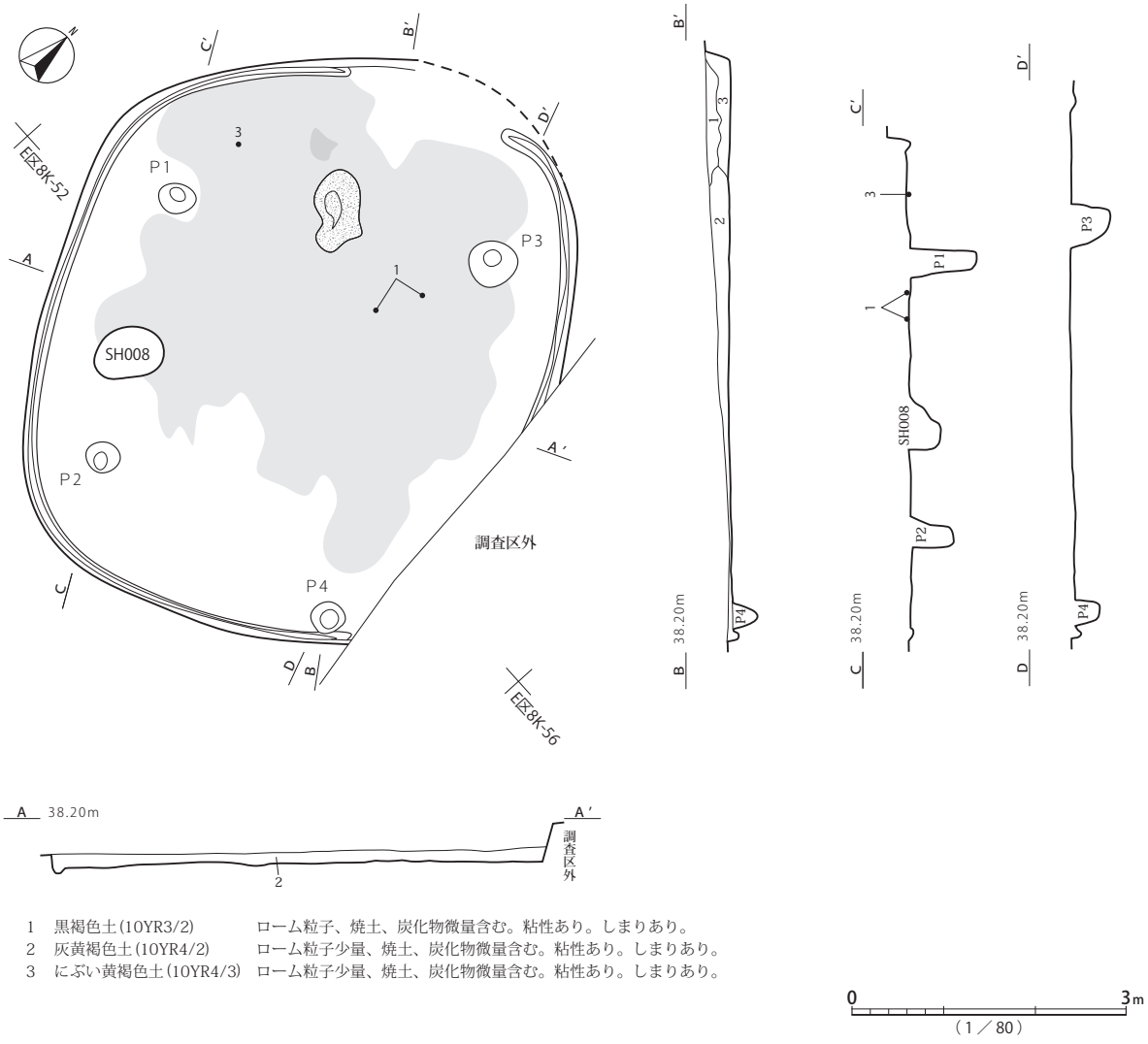
位置：Ｅ区８Ｋ-43グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。東側の一部は調査区外へ伸びる。**規模：**主軸6.40ｍ、副軸6.04ｍ、確認面からの深度0.34ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-48°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.88ｍ、短軸0.52ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ３で柱間は主軸3.12ｍ、副軸3.60ｍ。Ｐ４は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は北西壁で一部途切れるが、ほぼ全周する。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の周辺から南東側にかけて広く硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。もう１基の主柱穴は調査区外に位置すると考えられる。床面から壺（１）、ミニチュア壺（３）が出土している。

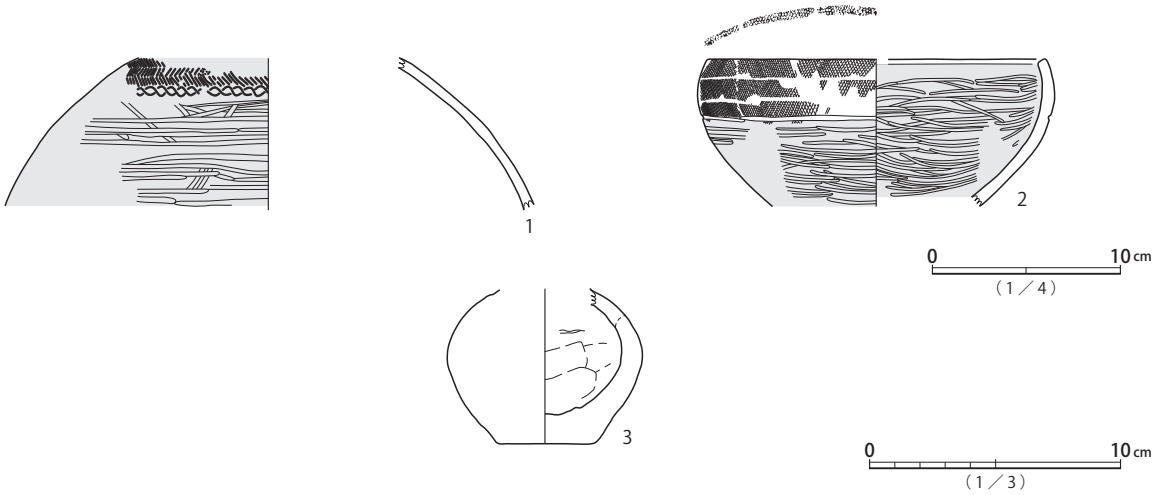
遺物：土器3,896.7g、石器・石製品118.40g、縄文土器360.0gが出土した。

１は壺、２は鉢、３はミニチュア壺である。１は単節羽状縄文により結節で区画され、縄文帯を含めた全体が赤彩される。２は口唇部および口縁部に押型による擬縄文が施文される。押型は幅約１cm、長さ３～４cmの単位で施され、下端は沈線で区画される。



第826図　SI064

第827図　SI064炉



第828図　SI064出土遺物

第274表　SI064出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	床面	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[8.0] 最大径：　－	外面：肩部単節羽状縄文（RL・LR・RL）・結節文（Z1段）、胴部ヘラミガキ横位、赤彩 内面：肩部～胴部ナデ	胎　土：砂粒 焼　成：良好 色　調：にぶい橙 残存度：肩部～胴部の破片	
2	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：(18.0) 底　径：　－ 器　高：　[7.8] 最大径：　－	特徴：口縁部内湾 外面：口唇部～口縁部押型による擬縄文・沈線横位、体部～底部ヘラミガキ横位、赤彩 内面：口縁部～底部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：砂粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～体部の1/3	
3	弥生土器 ミニチュア 壺	床面	口　径：　－ 底　径：　3.8 器　高：　[6.2] 最大径：　－	外面：胴部～底部ナデ 内面：胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：にぶい黄橙 残存度：胴部～底部の2/3	

SI065a（第829・830図、第275表、図版130・153）

位置：Ｅ区６Ｌ-12グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI065bを切る。**規模：**南北方向を主軸と推定し（2.08）m、副軸（3.88）m、確認面からの深度0.52ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面はSI065bの覆土を使用しており、中央東側で一文字状に硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期前葉と考えられる。

所見：ソフトローム層の上面で炉と考えられる焼土が露出していたが、焼土より高いレベルで床面が検出された。土層を観察した結果、竪穴建物の重複あるいは建替えと判断し、a・bの枝番号を付した。炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。北東側の壁面は埋没時の崩落によりテラス状に広がる。

遺物：土器3,251.1g、石器・石製品14.00g、縄文土器179.0ｇが出土した。

１の折り返し部内面は粘土帯を挟み込み多段となる。

SI065b（第831・832図、第276・277表、図版131・153・155）

位置：Ｅ区６Ｌ-12グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI065aに切られる。**規模：**南北方向を主軸と推定し（2.20）m、副軸（4.16）m、確認面からの深度0.67ｍ。**形態：**小判形もしくは隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが２

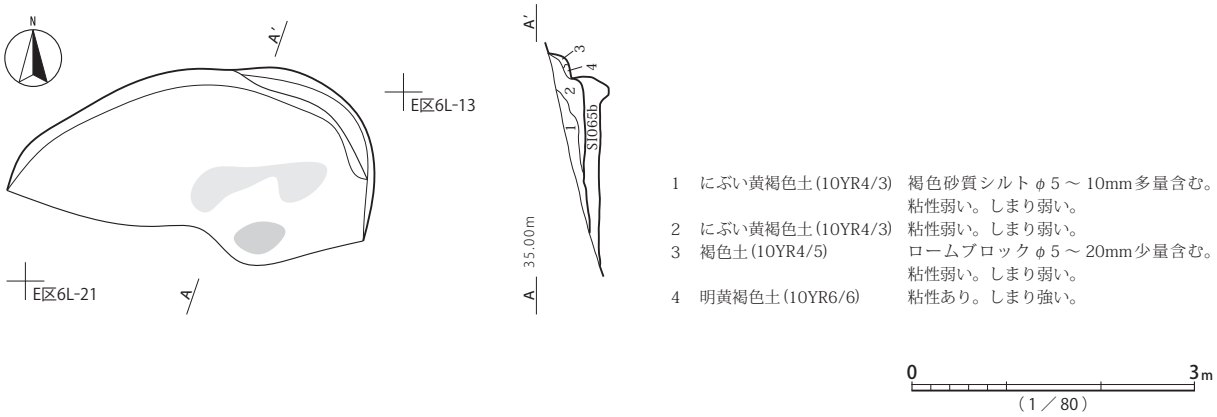
基検出された。周溝は残存部分で全周する。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央北側で一文字状に硬化している。

時期：SI065aとの重複から、弥生時代後期前葉以前と考えられる。

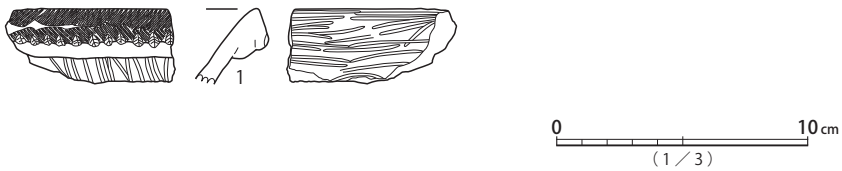
所見：SI065aと重複する、あるいは建替え前の建物である。周溝が検出されたが、炉、主柱穴は検出されなかった。焼土範囲が１箇所あるが掘り込みは認められず、炉とは断定できなかった。

遺物：土器19.9g、石器・石製品140.44gが出土した。

１は壺である。２は扁平な楕円礫を素材として、一部に敲打整形を加えている。研磨前に破棄された磨製石斧の未成品と考えられる。



第829図　SI065a

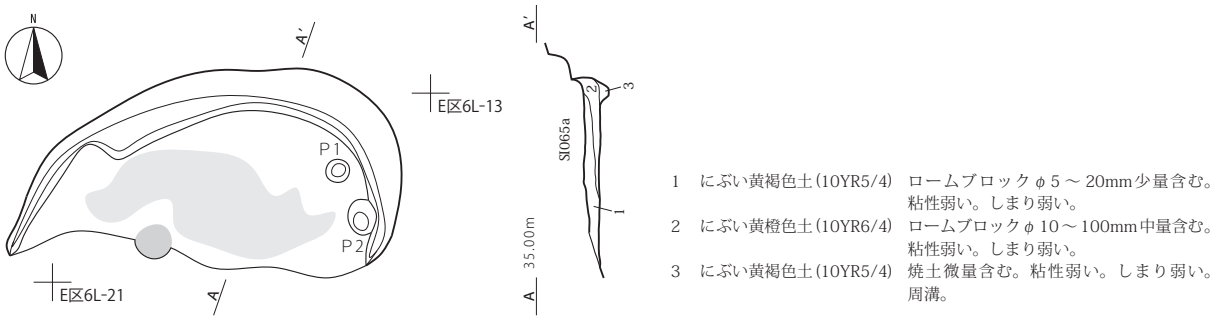


第830図　SI065a出土遺物

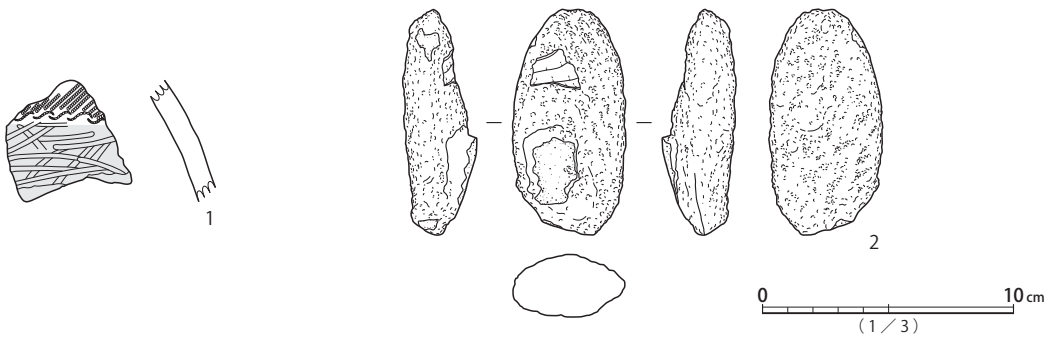
第275表　SI065a出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.0] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部単節羽状縄文（LR・RL）・端部ハケキザミ、口縁部ヘラミガキ縦位 内面：口縁部ヘラミガキ横位	胎　土：砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	



第831図　SI065b



第832図　SI065b出土遺物

第276表　SI065b出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.8] 最大径：　－	外面：肩部単節縄文(LR)・結節文(S)・ヘラミガキ、赤彩 内面：肩部ヘラナデ	胎　土：砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：肩部の破片	

第277表　SI065b出土石器観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
2	石斧	ホルンフェルス	覆土下層	8.95	4.50	2.95	140.44	敲打整形段階の未成品

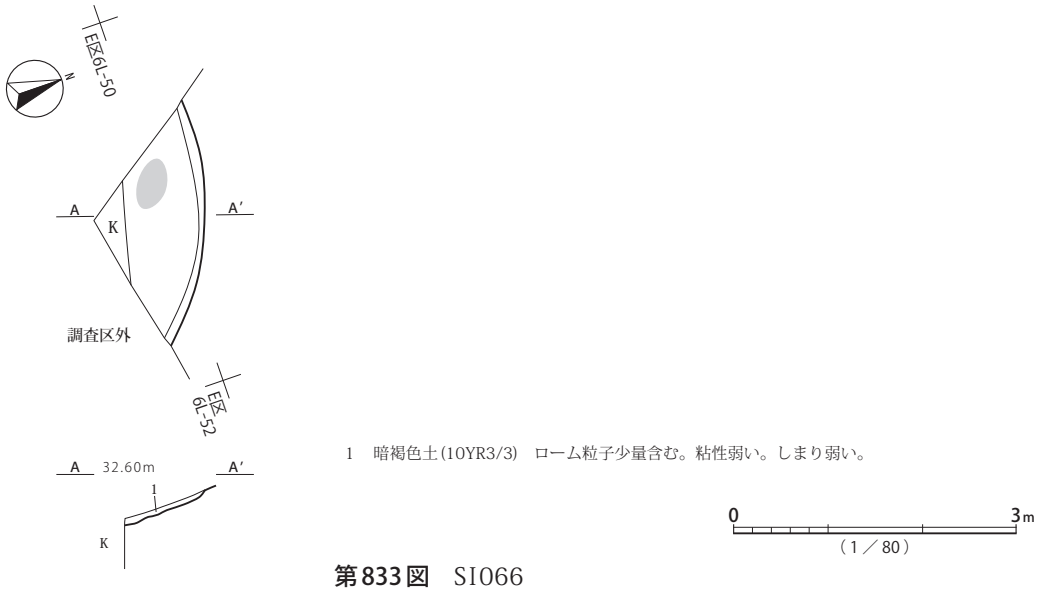
SI066（第833図、図版131）

位置：Ｅ区６Ｌ-51グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。大半が調査区外へ伸びる。**規模：**北東－南西方向を主軸と推定し（2.60）m、副軸（0.88）m、確認面からの深度0.33ｍ。**形態：**小判形もしくは隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-70°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。焼土範囲が１箇所あるが、掘り込みは認められず、炉とは断定できなかった。床面が地形に沿って傾斜するため竪穴建物ではない可能性があるが、大半が調査区外へ伸びるため全容は不明である。

遺物：土器130.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第833図　SI066

SI067（第834 ～ 836図、第278表、図版131・153）

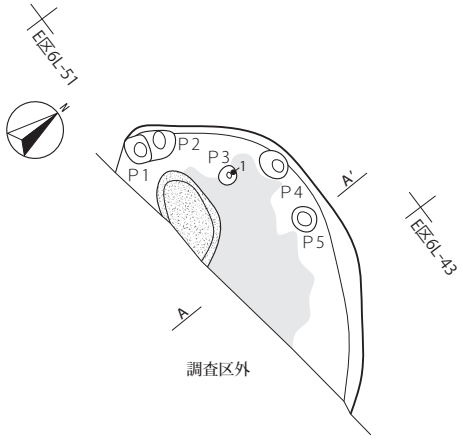
位置：Ｅ区６Ｌ-42グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。南側は調査区外へ伸びる。**規模：**主軸（3.04）m、副軸（2.64）m、確認面からの深度0.74ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-53°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸（0.84）m、短軸0.56ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが５基検出された。いずれも壁際に並ぶ。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の北側が硬化している。

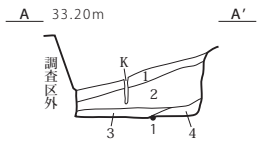
時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。床面から高坏（１）が出土している。

遺物：土器1,306.2g、縄文土器277.0gが出土した。

１は高坏、２は壺である。１は接合部の突帯に縄文原体によるキザミが施される。脚は三角形の透かしが推定で４箇所ある。２は結節文および山形の沈線により単節縄文が区画され、無文部は赤彩される。

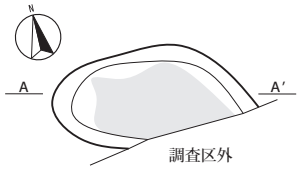


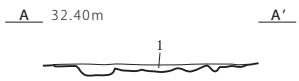


1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ５～15mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまり弱い。
4　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第834図　SI067





1　暗褐色土(7.5YR3/3)　焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第835図　SI067炉

第836図　SI067出土遺物

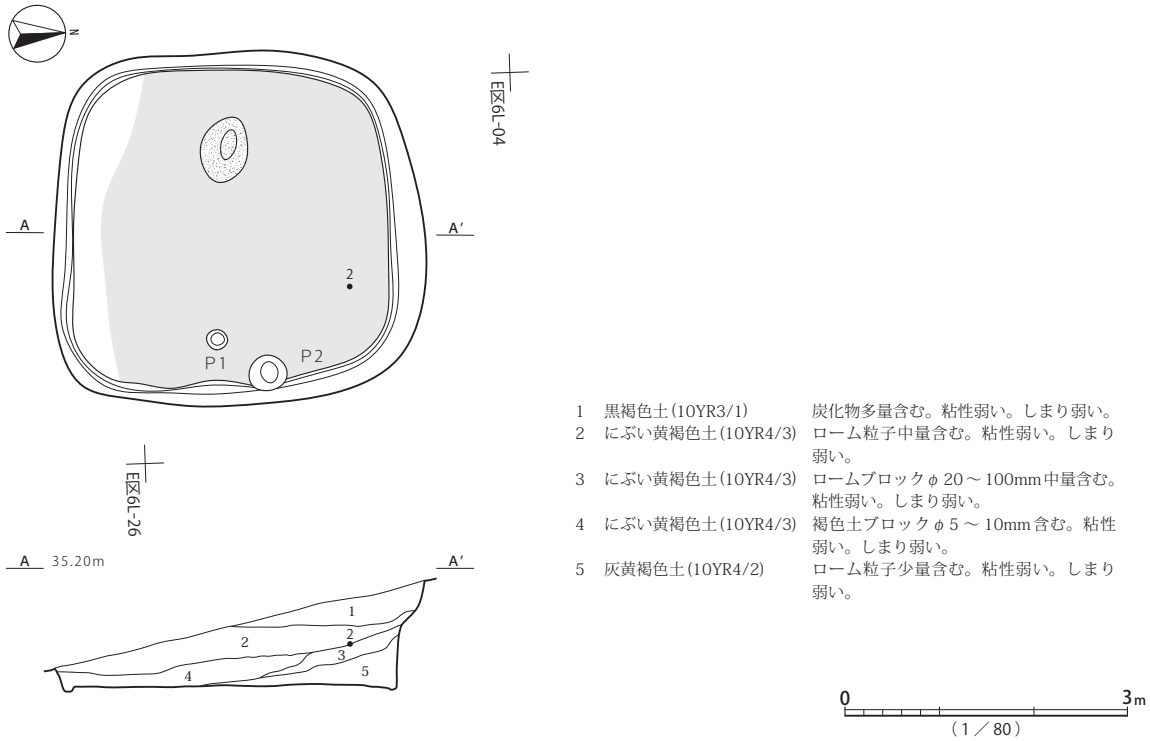
第278表　SI067出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 高坏	床面	口　径：　－ 脚　径：　－ 器　高：［7.7］ 最大径：　－	特徴：脚部に三角形の透かし４箇所 外面：坏部ヘラミガキ、赤彩、接合部突帯上縄文原体によるキザミ、脚部ヘラミガキ縦位 内面：坏部ヘラミガキ、赤彩、脚部ヘラナデ	胎　土：石英顕著・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：接合部～脚部の1/3	
2	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［5.6］ 最大径：　－	外面：肩部単節羽状縄文(LR・RL)・結節文（S2段）・山形文・単節縄文(RL)・結節文(S2段)・山形文・単節縄文(LR)、赤彩 内面：肩部ヘラナデ	胎　土：石英 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：肩部の破片	

SI068（第837～839図、第279表、図版131・153）

位置：Ｅ区６Ｌ-14グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI069を切る。**規模：**主軸3.76ｍ、副軸3.96ｍ、確認面からの深度1.14ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-88°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.52ｍ、短軸0.48ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。Ｐ１・Ｐ２は主軸線上、炉の対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は全周する。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、南端を除くほぼ全面が硬化している。



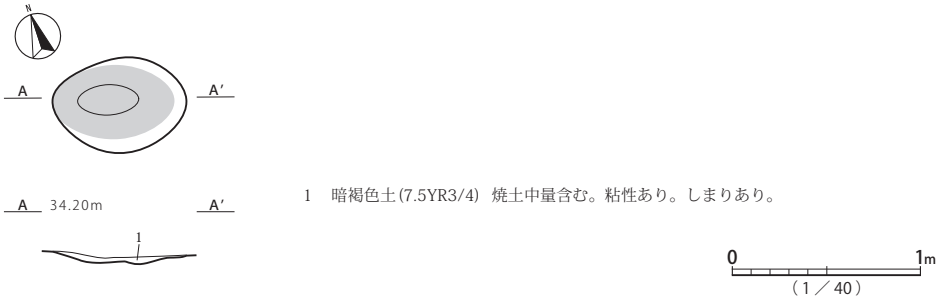
第837図　SI068

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

所見：床面は完存する。炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器3,365.8g、石器・石製品49.00g、縄文土器510.0gが出土した。

１は壺、２は高坏である。１は折り返し部に単節羽状縄文が施文される。２は接合部に突帯を巡らせ、布目キザミを施している。



第838図　SI068炉

第839図　SI068出土遺物

第279表　SI068出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：(18.4) 底　径：　－ 器　高：　[4.8] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部単節羽状縄文（LR・RL）、口縁部ヘラナデ後ヘラミガキ縦位、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：角閃石・石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	
2	弥生土器 高坏	覆土中層	口　径：　－ 脚　径：　－ 器　高：　[3.2] 最大径：　－	特徴：接合部に突帯 外面：突帯上布目キザミ、キザミ外赤彩、脚部ヘラナデ、赤彩 内面：坏部ヘラナデ、接合部ヘラナデ	胎　土：石英・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：接合部の破片	

SI069（第840・841図、第280表、図版131・153）

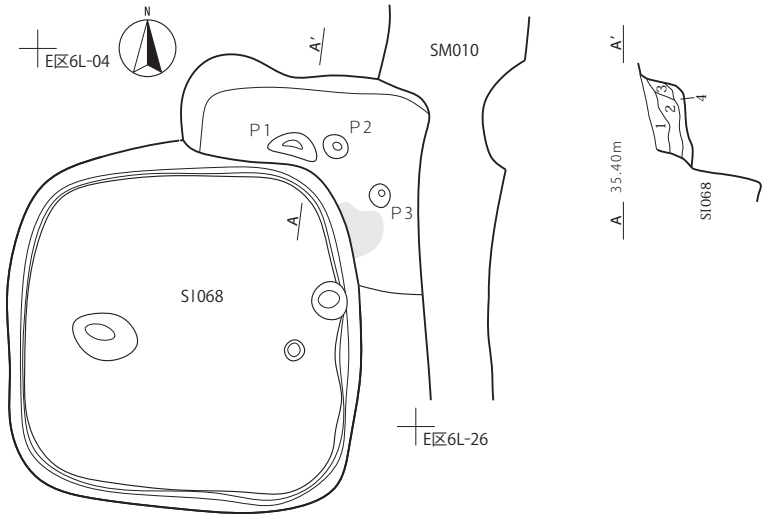
位置：Ｅ区６Ｌ-05グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM010、SI068に切られる。**規模：**南北方向を主軸と推定し（2.56）m、副軸（2.60）m、確認面からの深度0.62ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが３基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、南側の一部が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：床面は完存する。炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器509.2g、縄文土器26.0gが出土した。

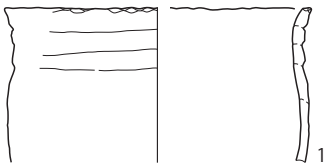
１の口唇部は上と外側から交互に押圧され、頸部は輪積み痕を３段残している。



1　黒褐色土(10YR3/2)　　焼土少量、炭化物微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　暗褐色土(10YR3/3)　　焼土少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　暗褐色土(10YR3/4)　　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　3m
（1／80）

第840図　SI069



0　10cm
（1／4）

第841図　SI069出土遺物

第280表　SI069出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：(16.1) 底　径：　－ 器　高：［8.2］ 最大径：　－	特徴：輪積み痕を3段残す 外面：口唇部上と外から押圧、口縁部～胴部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ナデ	胎　土：砂粒 焼　成：不良 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/5	

SI070（第842～845図、第281表、図版131・154）

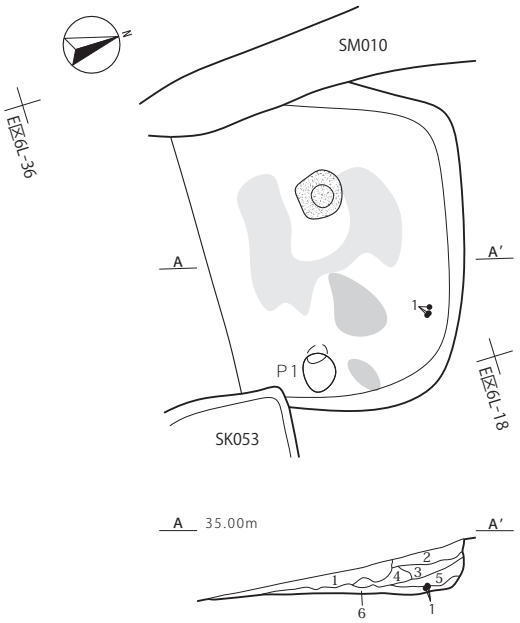
位置：Ｅ区６Ｌ-17グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SK054を切り、SM010、SK053に切られる。**規模：**主軸（3.44）m、副軸（3.12）m、確認面からの深度0.70m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-73°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.52m、短軸0.44mで浅く窪む。**施設：**ピットが1基検出された。Ｐ1は主軸線上、炉の対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の周辺が「コ」の字状に硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。東側で焼土溜まりが検出されたが、床面よりやや上であり埋没時の流入である。

遺物：土器710.6g、石器・石製品1.00g、縄文土器467.0gが出土した。

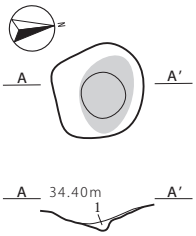
１は結節区画内に単節縄文が２段充填され、その下位にはハケキザミが施される。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱い。しまり弱い。
4　黄褐色土(10YR5/6)　ロームブロックφ５～20mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
6　暗褐色土(10YR3/3)　焼土、炭化物中量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　3m
（1／80）

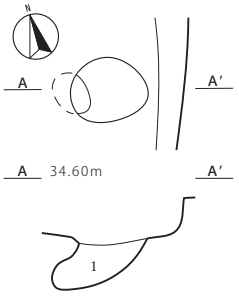
第842図　SI070



1　暗褐色土(7.5YR3/4)　焼土少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

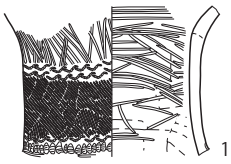
第843図　SI070炉



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

第844図　SI070P1



0　10cm
（1／4）

第845図　SI070出土遺物

第281表　SI070出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［7.9］ 最大径：　－	外面：頸部ヘラミガキ縦位・結節文（S2段）・単節縄文（RL2段・一部LR）・結節文（S）・ハケキザミ 内面：頸部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：白色粒・石英 焼　成：普通 色　調：にぶい褐～橙 残存度：頸部のみほぼ完存	

SI071（第846・847図、第282表、図版131・132・154）

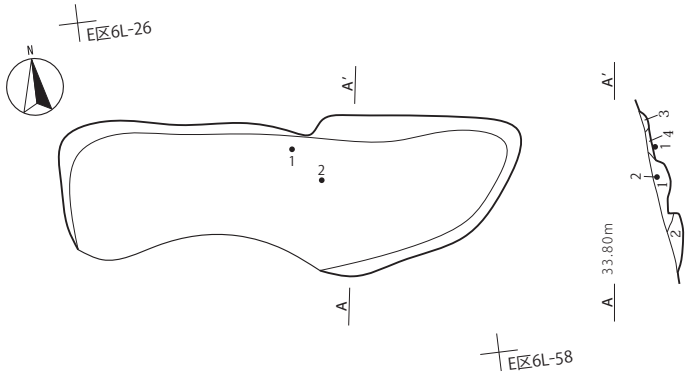
位置：Ｅ区６Ｌ-47グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**南北方向を主軸と推定し（1.72）m、副軸（4.88）m、確認面からの深度0.50ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ－８°－Ｅ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

所見：締まりのないソフトローム層を床面としていたため、掘りすぎてしまっている。規模や周囲の遺構の性格から竪穴建物と判断した。

遺物：土器1,341.1gが出土した。

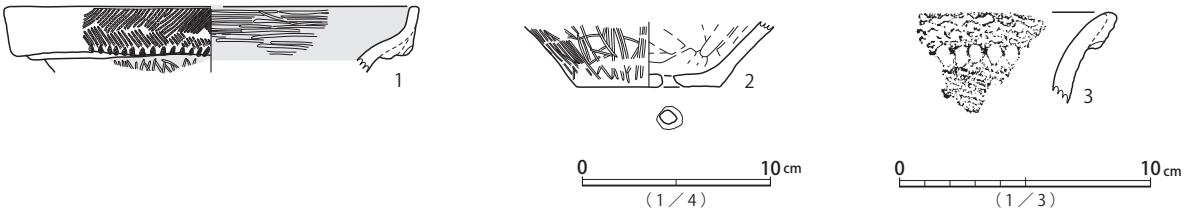
１～３は壺である。２の穿孔は焼成後に穿孔具を回転させて設けられているようである。３は折り返し部と頸部に多条結節文が施文される。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱い。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/4)　焼土微量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　3m
（1／80）

第846図　SI071



第847図　SI071出土遺物

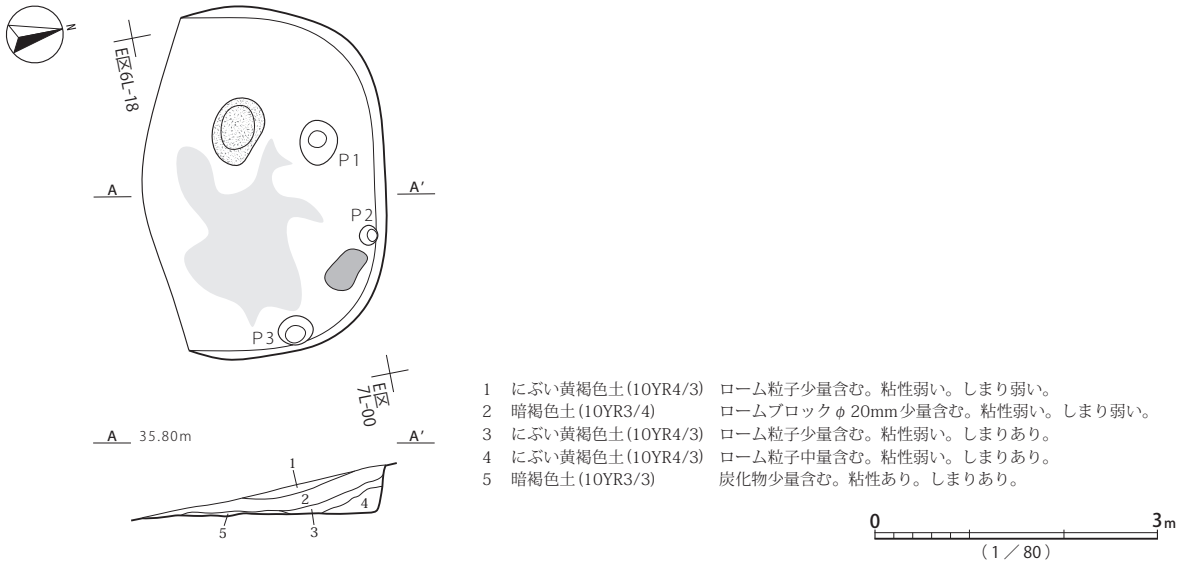
第282表　SI071出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：(22.0) 底　径：　－ 器　高：　[3.5] 最大径：　－	特徴：複合口縁 外面：口唇部単節縄文（RL）、複合部単節羽状縄文（LR・RL）、端部布目キザミ、頸部ヘラミガキ縦位、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：石英・角閃石 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	
2	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　7.6 器　高：　[3.2] 最大径：　－	特徴：底部焼成後穿孔 外面：底部ヘラミガキ縦位 内面：底部ヘラナデ	胎　土：角閃石・褐色粒・赤色粒 焼　成：良好 色　調：明黄褐 残存度：底部の2/3	
3	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.6] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部多条結節文（S）、端部布目キザミ、頸部多条結節文（S） 内面：口縁部ヘラミガキ横位	胎　土：橙色粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：にぶい黄褐 残存度：口縁部の破片	

SI072（第848・849図、図版132）

位置：Ｅ区６Ｌ-08グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸3.72ｍ、副軸（2.56）ｍ、確認面からの深度0.57ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-79°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.72ｍ、短軸0.48ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが３基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の東側から東壁にかけて硬化している。北東隅の壁沿いで粘土の集中範囲が検出されたが、意図や性格は不明である。

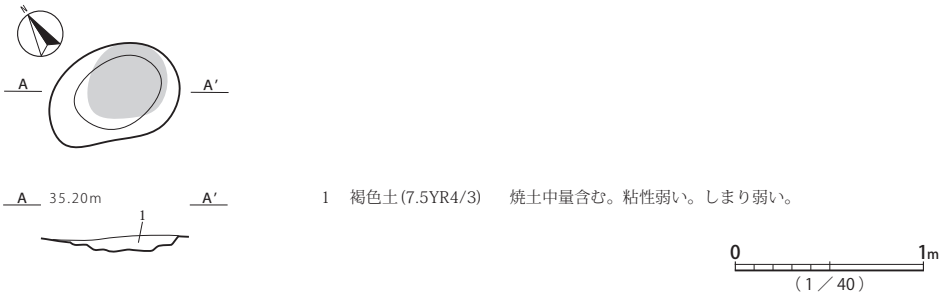


第848図　SI072

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器1,757.0g、縄文土器371.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第849図　SI072炉

SI073（第850～852図、第283表、図版132・154）

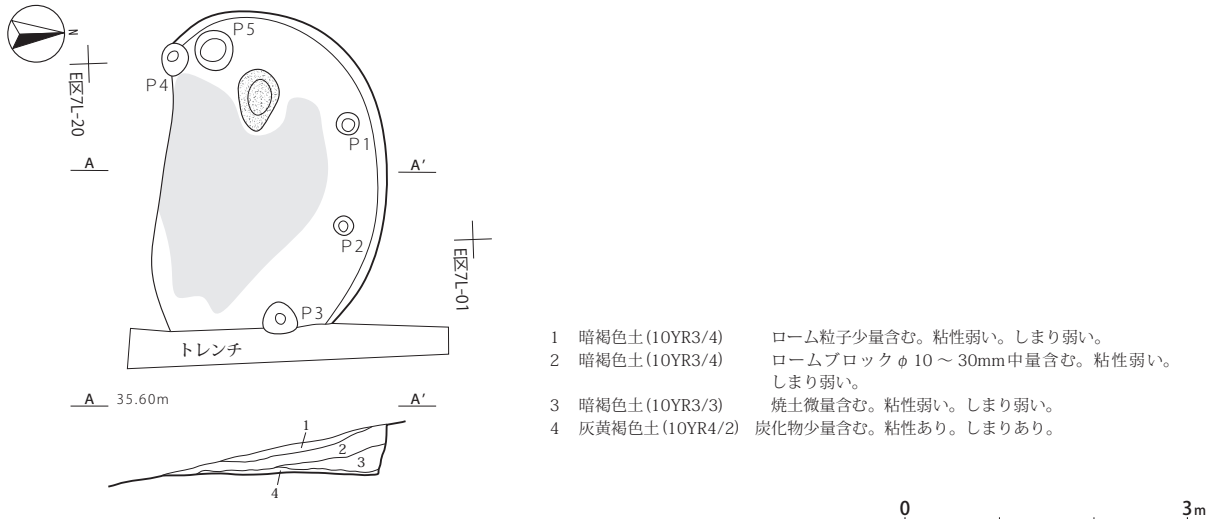
位置：Ｅ区７Ｌ-10グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸（3.40）m、副軸（2.48）m、確認面からの深度0.61ｍ。**形態：**小判形もしくは隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-88°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.68ｍ、短軸0.40ｍで浅く窪む。　**施設：**ピットが５基検出された。Ｐ１～Ｐ５は壁際に並ぶ。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の両脇から東側にかけてＹ字状に硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

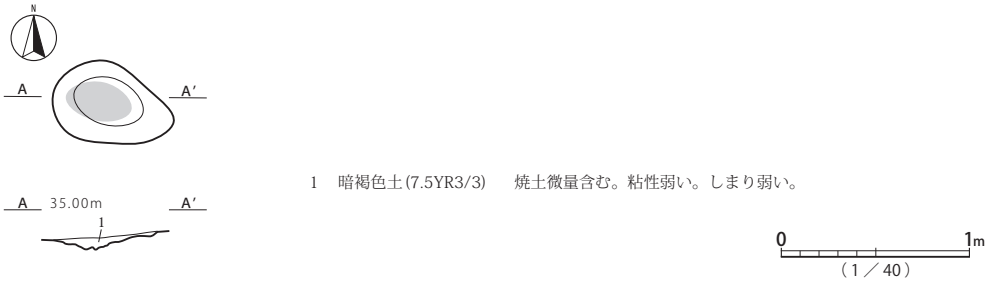
所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器1,255.9g、石器・石製品1.29g、縄文土器375.0gが出土した。

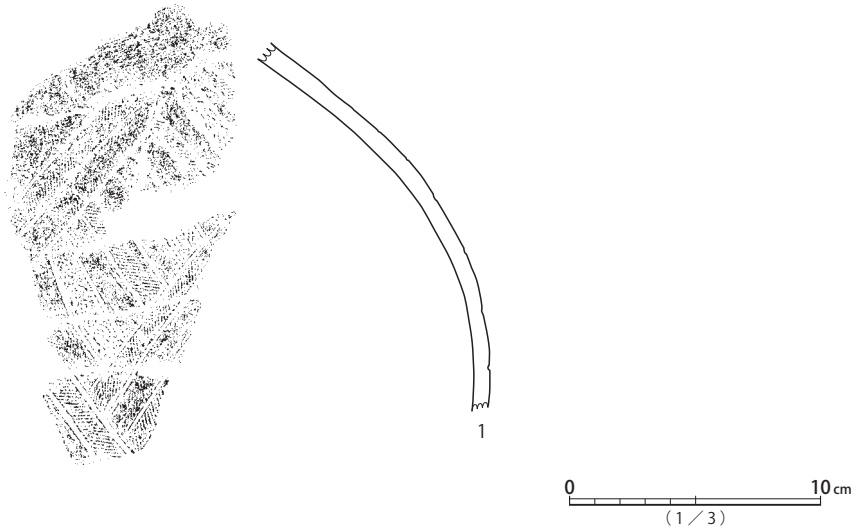
１は斜位の沈線により幾何学文が区画され、枠内は単節縄文および結節文、ヘラミガキが規則的に施文される。このうち結節文は区画後に充填されている。



第850図　SI073



第851図　SI073炉



第852図　SI073出土遺物

第283表　SI073出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[14.7] 最大径：　－	外面：肩部～胴部ヘラミガキ、赤彩、以下は斜位の沈線で幾何学文を区画、区画内単節縄文、および結節文とヘラミガキを交互に施文、ヘラミガキ部赤彩 内面：肩部ヘラナデ	胎　土：石英・砂粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：肩部～胴部の破片	

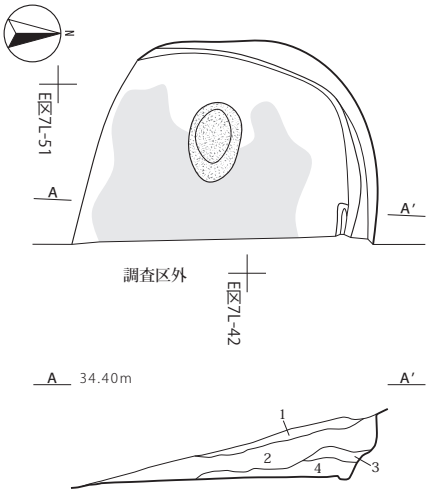
SI074（第853・854図、図版132）

位置：Ｅ区７Ｌ-41グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。西側は調査区外へ伸びる。**規模：**主軸（2.16）m、副軸（3.20）m、確認面からの深度0.80m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-88°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.84m、短軸0.52mで浅く窪む。**施設：**周溝は北壁の一部で検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の両脇から東側にかけて硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。北壁の段差は、壁面崩落に伴うと考えられる。

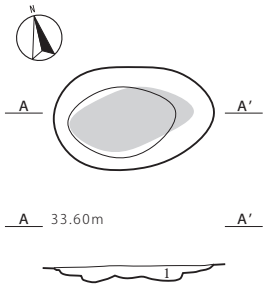
遺物：土器791.0g、石器・石製品2.00g、縄文土器553.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土ブロックφ３～ 5mm、炭化物少量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　炭化物少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　3m
（1／80）

第853図　SI074



1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土ブロックφ１～ 3mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

第854図　SI074炉

SI075a（第855 ～ 857図、第284表、図版132・154）

位置：Ｅ区７Ｌ-05グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI075b、SK026を切り、SK067に切られる。**規模：**主軸（5.64）m、副軸（4.36）m、確認面からの深度0.92ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-68°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.00ｍ、短軸0.92ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが12基検出された。主柱穴はＰ１・Ｐ７・P10・P12で柱間は主軸方向2.60 ～ 2.68ｍ、副軸方向2.32 ～ 3.00ｍ。Ｐ３は主軸線上、炉の対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。Ｐ６・Ｐ８・Ｐ９は壁際で検出されているが、規則性はない。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、飛び石状に硬化している。

時期：遺物が少なく断定は出来ないが、弥生時代終末期と考えられる。

所見：炉、主柱穴が検出されたが、周溝は検出されなかった。主柱穴は配置がやや歪で、底面のレベル差も大きいことから断定はできない。北西・北東の両壁は、SI075bを再利用している。床面から広口壺（１）が出土している。

遺物：土器3,407.4g、石器・石製品9.00g、縄文土器682.0gが出土した。

１の内面は密なヘラミガキが底面まで施されている。

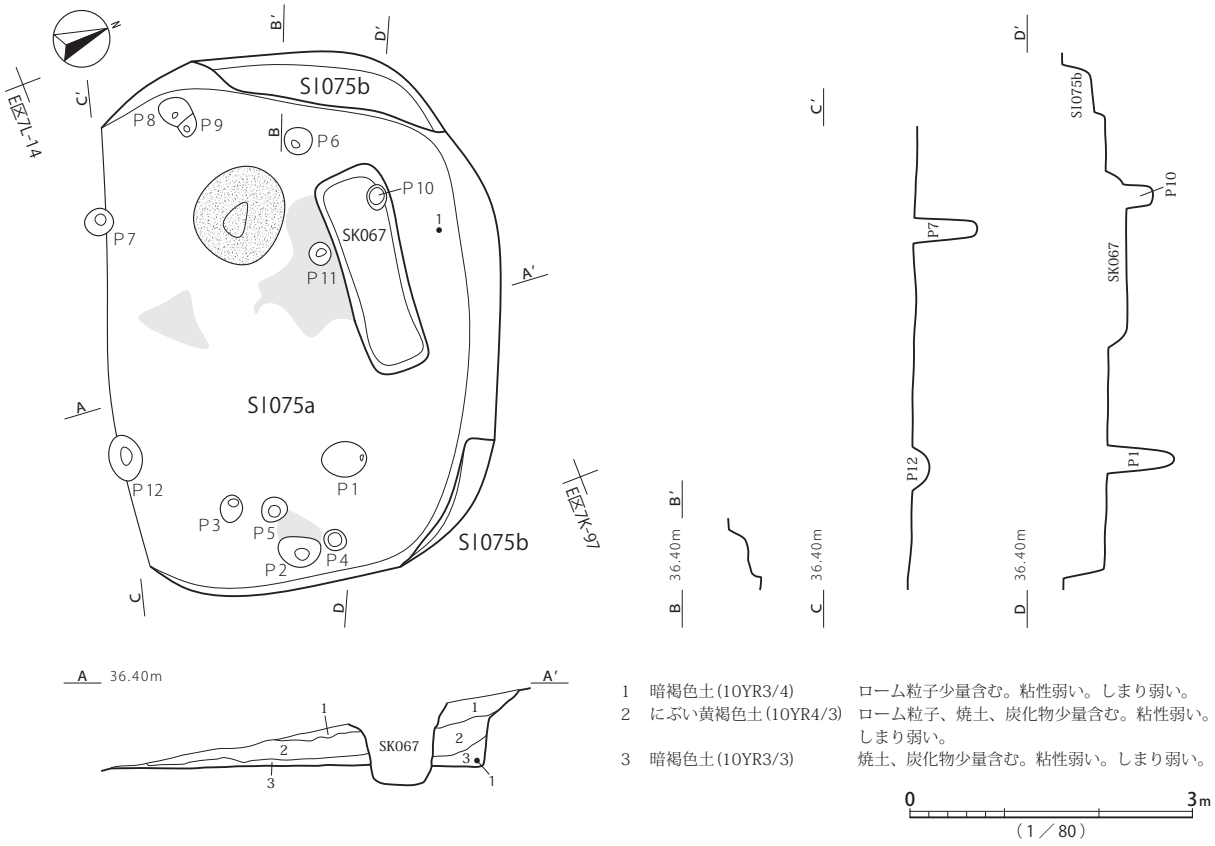
SI075b（第855図、図版132）

位置：Ｅ区７Ｋ-05グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI075aに切られる。**規模：**主軸（5.44 ）m、副軸（3.28）m、確認面からの深度0.68 m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-68°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

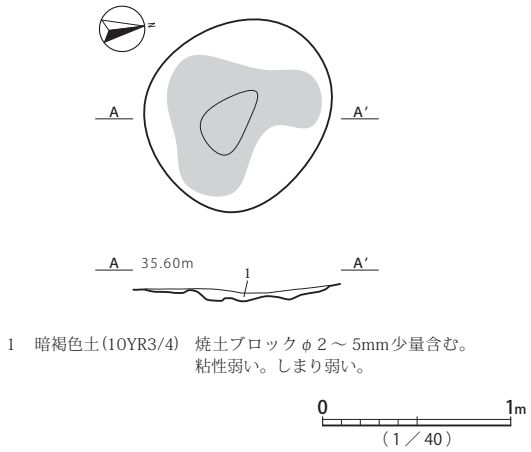
時期：SI075aとの重複から弥生時代終末期以前と考えられる。

所見：SI075aの壁面にわずかに残存する竪穴建物である。

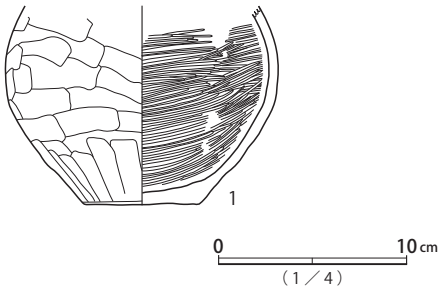
遺物：土器118.0g、縄文土器24.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第855図　SI075a・SI075b



第856図　SI075a炉



第857図　SI075a出土遺物

第284表　SI075a出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 広口壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　6.2 器　高：[10.5] 最大径：(14.4)	外面：胴部ヘラケズリ横位・縦位、底部ナデ 内面：胴部～底部ヘラミガキ横位	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：暗赤褐 残存度：胴部～底部の1/2	

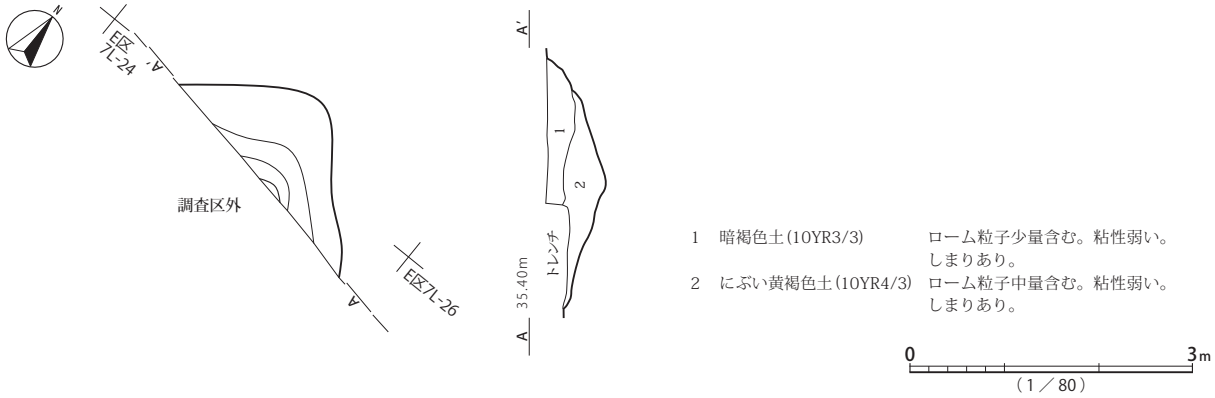
SI076（第858図、図版133）

位置：Ｅ区７Ｌ-25グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。大半は調査区外へ伸びており、北隅のみの検出である。**規模：**北西－南東方向を主軸と推定し（2.08）m、副軸（1.72）m、確認面からの深度0.57ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-39°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。隅部のみのため全容は不明である。

遺物：土器241.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第858図　SI076

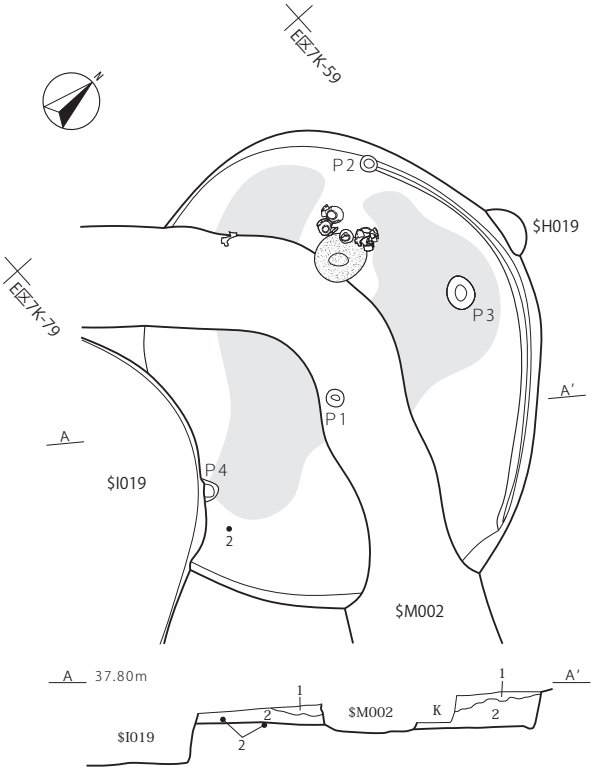
SI077（第859 ～ 862図、第285・286表、図版133・154・155）

位置：Ｅ区８Ｋ-60グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM014、SI078に切られる。**規模：**主軸（5.04）m、副軸（4.16）m、確認面からの深度（0.49）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-48°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.56ｍ、短軸0.52ｍで浅く窪む。北西脇には壺（１・３）、甕（４）、高坏（５）が並べられている。壺は口縁部から頸部が逆位に、甕は胴部から頸部が正位に、高坏は口縁部を欠損し逆位に置かれており、炉器台として転用されたと推測される。**施設：**ピットが４基検出された。Ｐ３・Ｐ４はそれぞれ対角線上に位置する。周溝は北壁から東壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の両脇から南方向にかけてＹ字状に硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

所見：炉・周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。炉の脇のほか、床面から壺（２）が出土している。

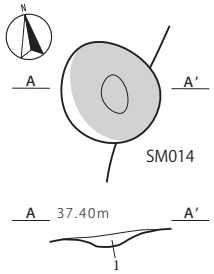
遺物：土器3,387.8g、石器・石製品464.36g、縄文土器90.0gが出土した。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

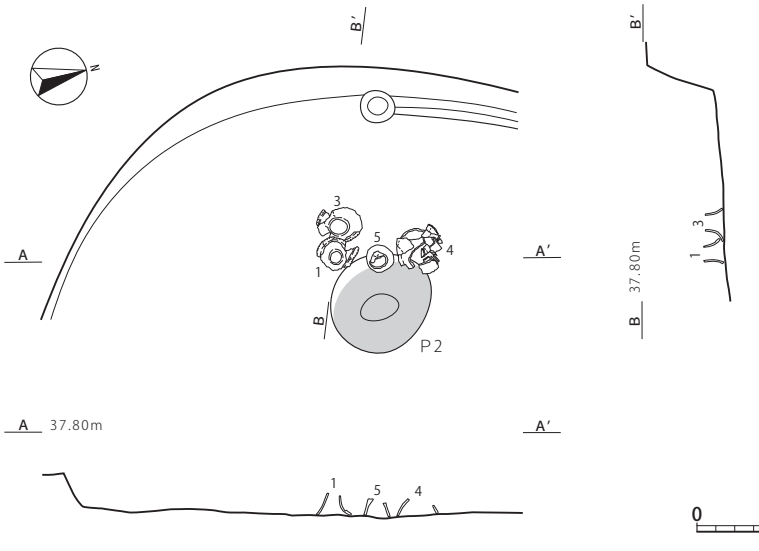
第859図　SI077



1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。
　　しまりあり。

0　1m
（1／40）

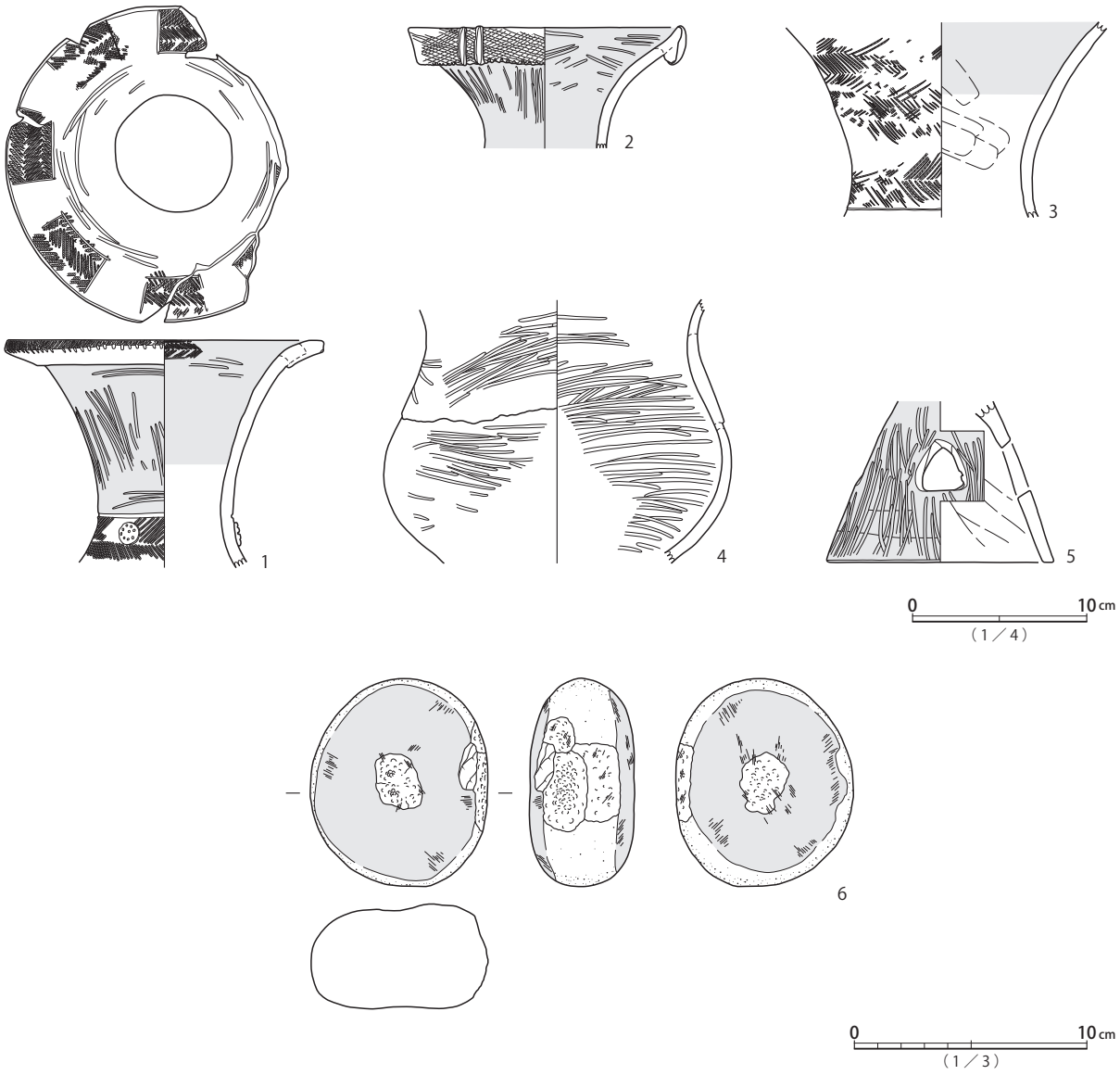
第860図　SI077炉



0　3m
（1／80）

第861図　SI077遺物出土状況

１～３は壺、４は甕、５は高坏である。１は折り返し口縁で、口縁部内面に沈線で長方形を区画し、単節羽状縄文が施される。口唇部には単節縄文、ヘラキザミが施される。頸部は単節羽状縄文が沈線により区画され、円形貼付文が添付される。２は複合部に網目状撚糸文が施され、棒状貼付文が添付される。３は頸部に細密な無節の羽状縄文が施される。５は脚部に三角形の透かしが４箇所設けられる。６は砂岩の磨＋敲石で、表裏に磨痕、表裏の中央部と右側縁に敲打痕がある。磨面に光沢があり、植物を擦り潰した可能性がある。



第862図　SI077出土遺物

第285表　SI077出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	床面	口　径：17.9 底　径：－ 器　高：[13.0] 最大径：－	特徴：折り返し口縁 外面：口唇部単節縄文（LR）・ヘラキザミ、折り返し部ヨコナデ、口縁部ヘラミガキ縦位、赤彩、頸部沈線・単節羽状縄文（RL・LR・RL）・9箇所刺突のある円形貼付文1個3箇所 内面：口縁部沈線で長方形区画推定8箇所、区画内単節羽状縄文（RL・LR・RL）、赤彩、頸部ナデ後粗いヘラミガキ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：明褐 残存度：口縁部～頸部の2/3	－
2	弥生土器 壺	床面	口　径：15.4 底　径：－ 器　高：[7.0] 最大径：－	特徴：複合口縁 外面：複合部網目状撚糸文・棒状貼付文2本一組推定5箇所、端部ハケキザミ、頸部ヘラミガキ縦位、赤彩 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：石英・角閃石・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～頸部	
3	弥生土器 壺	床面	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[11.2] 最大径：－	外面：頸部無節羽状縄文（R・L・R・L・R・L）・沈線 内面：頸部ヘラナデ、赤彩	胎　土：石英・黒色粒・砂粒 焼　成：普通 色　調：灰褐 残存度：頸部の1/3	
4	弥生土器 甕	床面	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[15.1] 最大径：20.0	特徴：輪積み痕を1段残す 外面：頸部～胴部ヘラミガキ横位 内面：頸部～胴部ヘラミガキ横位	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：頸部～胴部の4/5	内外面煤付着
5	弥生土器 高坏	床面	口　径：－ 脚　径：12.8 器　高：[9.2] 最大径：－	特徴：脚部に三角形の透かし4箇所 外面：脚部～裾部ヘラナデ後ヘラミガキ縦位、赤彩 内面：脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：石英・黒色粒・砂粒 焼　成：良好 色　調：明褐 残存度：脚部～裾部の4/5	

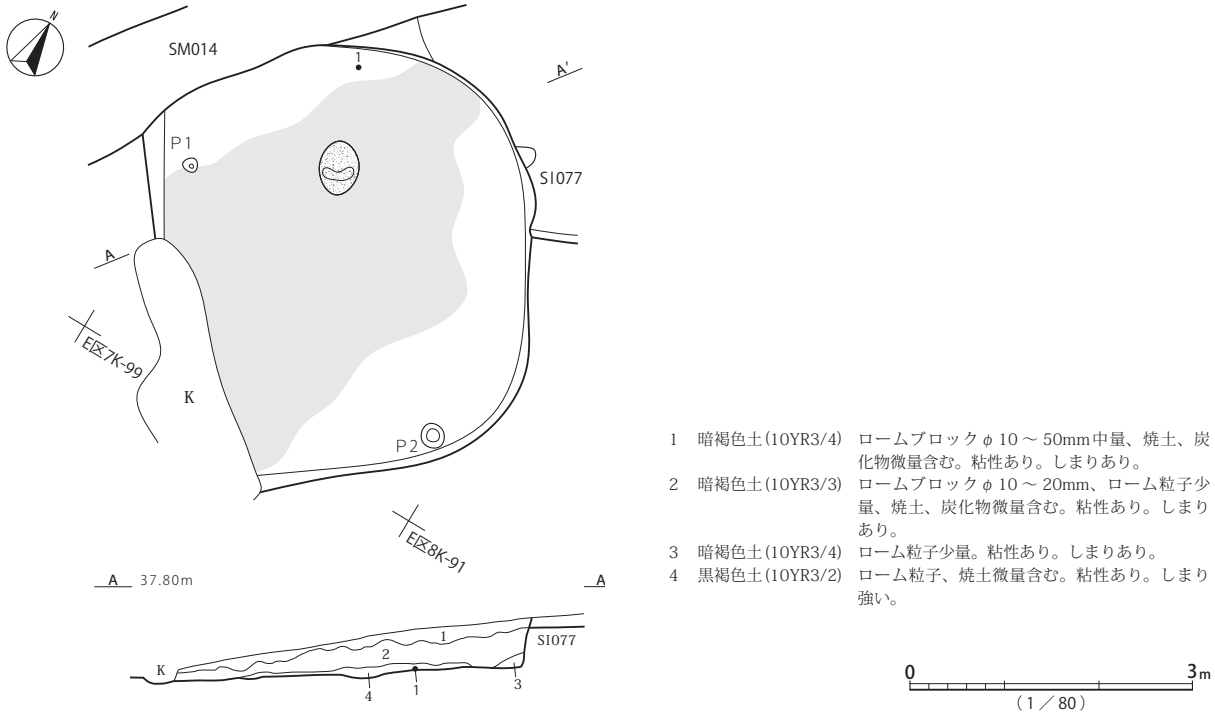
第286表　SI077出土石器観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
6	磨＋敲石	砂岩	覆土上層	8.90	7.65	4.50	458.36	磨：表・裏・右各1面、敲：表・裏・右各1箇所

SI078（第863～865図、第287表、図版133・154）

位置：E区7K-79グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI077を切り、SM014に切られる。南西側から南壁にかけて撹乱される。**規模：**主軸（4.72）m、副軸（4.12）m、



1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10～50mm中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ10～20mm、ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　3m
（1／80）

第863図　SI078

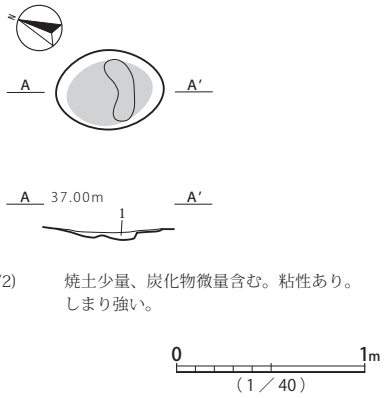
確認面からの深度（0.69）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-31°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.56ｍ、短軸0.40ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央から南北方向に硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

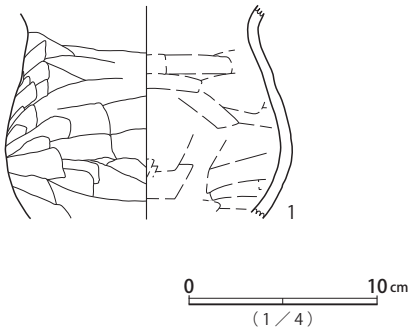
所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し自然埋没した状況を示す。北壁沿いの床面から甕（１）が出土している。

遺物：土器1,057.6g、縄文土器152.0gが出土した。

１の外面には粗いヘラケズリが施される。



第864図　SI078炉



第865図　SI078出土遺物

第287表　SI078出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	床面	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[11.3] 最大径：　15.2	外面：頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内面：頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：頸部～胴部の3/4	

SI079（第866・867図、第288表、図版133・154）

位置：Ｅ区８Ｋ-71グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM014、SI080・SI081に切られ、南西隅が残存するのみ。**規模：**北西－南東方向を主軸と推定し（2.20）m、副軸（2.08）m、確認面からの深度（0.22）m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-64°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが２基検出された。Ｐ１・Ｐ２は壁際の浅いピットである。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、残存部分の全面が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器239.8g、縄文土器30.0gが出土した。

１は上部２段、下部３段の結節区画内に単節羽状縄文が施される。

SI080（第866・868図、図版133）

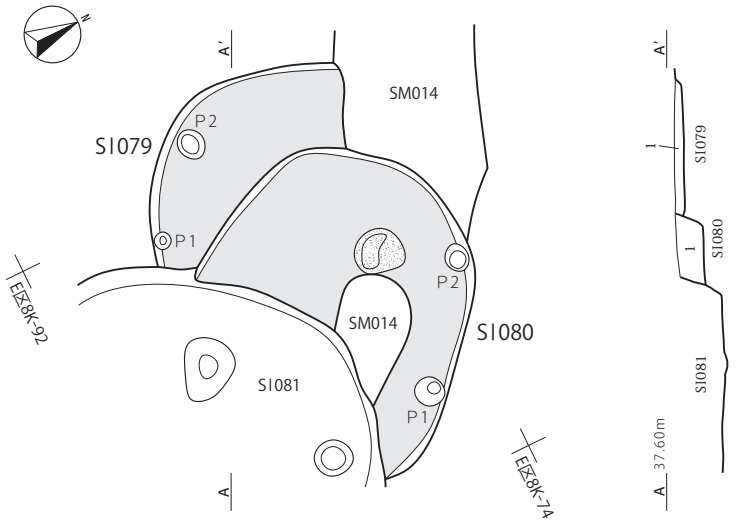
位置：Ｅ区８Ｋ-72グリッドを中心とする南西向き斜面に位置する。**重複：**SI079を切る。SM014、SI081に切られる。**規模：**主軸（3.28）m、副軸（2.92）m、確認面からの深度0.30ｍ。**形**

態：隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ－50°－Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.52ｍ、短軸0.44ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。Ｐ１・Ｐ２は壁際に位置する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、残存部分の全面が硬化している。

時期：重複および出土遺物から、弥生時代後期以降と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器1,382.0g、縄文土器23.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

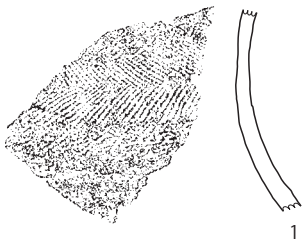


SI079
1　暗褐色土(10YR3/3)　　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。

SI080
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

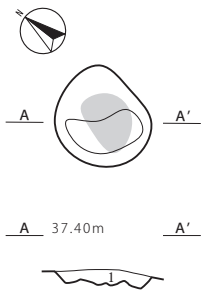
0　3m
（１／80）

第866図　SI079・SI080



0　10cm
（１／３）

第867図　SI079出土遺物



1　灰褐色土(7.5YR5/2)　　焼土少量、ロームブロック５～10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（１／40）

第868図　SI080炉

第288表　SI079出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［8.0］ 最大径：　－	外面：頸部ヘラミガキ・結節文（S2段）・単節羽状縄文（RL・LR）・結節文（S3段）・ヘラミガキ、ヘラミガキ部赤彩 内面：頸部ヘラナデ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：頸部の破片	

SI081（第869 ～ 871図、第289表、図版133・154）

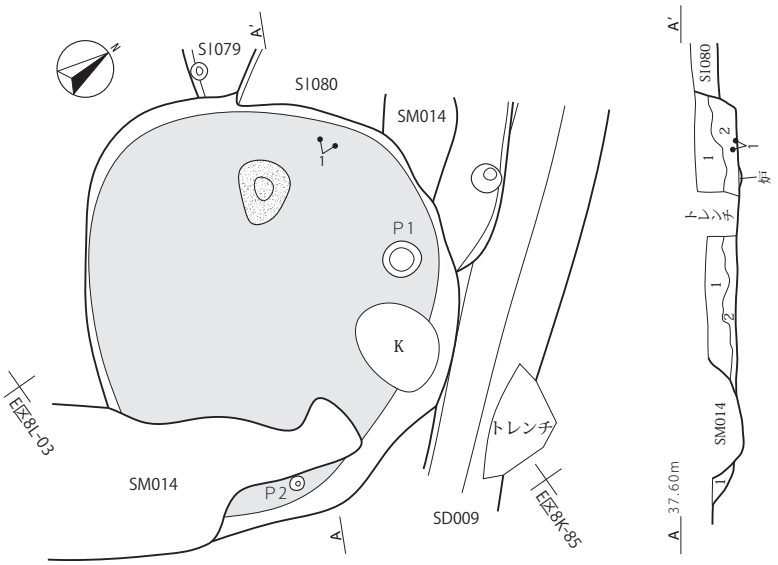
位置：Ｅ区８Ｋ-83グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI079・SI080を切り、SM014、SD009に切られる。北東側の一部は撹乱される。**規模：**主軸（4.72）m、副軸（3.92）m、確認面からの深度0.68ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-55°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.68ｍ、短軸0.56ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。Ｐ１・Ｐ２は壁際の浅いピットである。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、全面が硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期前葉～中葉と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。床面から甕（１）が出土している。

遺物：土器945.6g、石器・石製品1.00g、縄文土器33.00gが出土した。

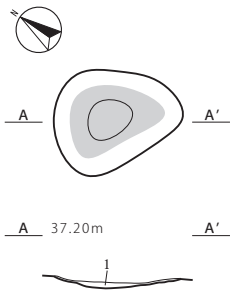
１は甕、２は壺である。１は頸部下端の輪積み部に押圧が施される。２は複合口縁で、キザミのある棒状貼付文が添付される。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～ 10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

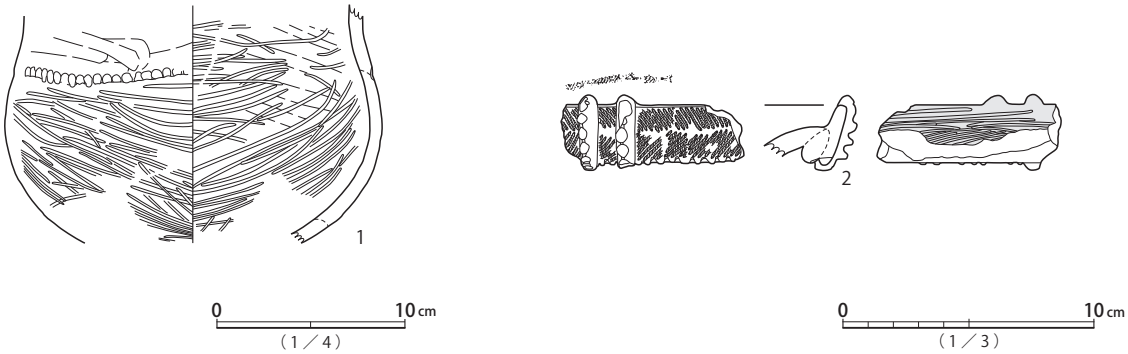
第869図　SI081



1　褐灰色土(7.5YR4/1)　焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第870図　SI081炉



第871図　SI081出土遺物

第289表　SI081出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	床面・覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[12.6] 最大径：(20.0)	特徴：輪積み痕を１段残す 外面：胴部上半ヘラナデ、輪積み部押圧、胴部下半ヘラミガキ横位 内面：胴部ヘラナデ後ヘラミガキ横位	胎　土：黒色粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：胴部の1/3	
2	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[3.0] 最大径：　－	特徴：複合口縁 外面：口唇部単節縄文（LR）、複合部単節羽状縄文（RL・LR）・端部ハケキザミ・キザミのある棒状貼付文（２本一組）・頸部ヘラミガキ縦位、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：角閃石・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	

SI082（第872・873・875図、第290表、図版133・154）

位置：Ｅ区８Ｋ-85グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI083、SD009に切られる。南東側の大部分は調査区外へ伸びる。**規模：**主軸（2.08）m、副軸（3.24）m、確認面からの深度0.39ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-53°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.80ｍ、短軸0.48ｍで浅く窪む。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、残存部分の全面が硬化している。

時期：重複および出土遺物から、弥生時代後期前葉以前と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。鉢（１）が床面から出土している。

遺物：土器617.4g、縄文土器8.0gが出土した。

１の内面は底部のみ磨耗している。

SI083（第872・874・876図、第291表、図版133・154）

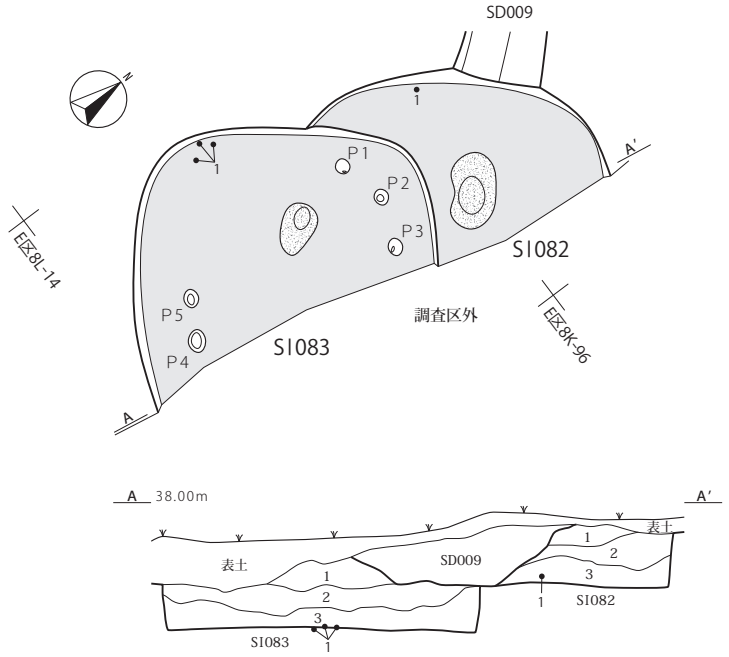
位置：Ｅ区８Ｌ-04グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI082を切る。東側は調査区外へ伸びる。**規模：**主軸（3.04）m、副軸（3.20）m、確認面からの深度0.55ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-53°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.52ｍ、短軸0.40ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが５基検出された。Ｐ１～Ｐ５は壁から0.40～0.60ｍ離れて配置されているが、規則性はみられない。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、検出範囲の全面が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期前葉と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。床面から壺（１）が出土している。

遺物：土器1,536.2g、縄文土器36.0gが出土した。

１は折り返し口縁で、内外面ともヘラミガキされる。



SI083

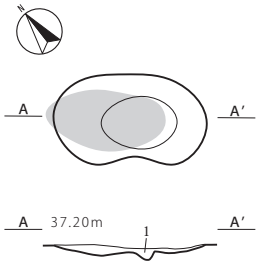
1	黒褐色土(10YR3/2)	ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
2	黒褐色土(7.5YR3/1)	ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	灰褐色土(7.5YR4/2)	ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

SI082

1	黒褐色土(10YR3/2)	ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
2	灰黄褐色土(10YR4/2)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
3	褐灰色土(10YR4/1)	ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

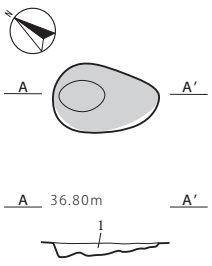
第872図　SI082・SI083



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　1m
（1／40）

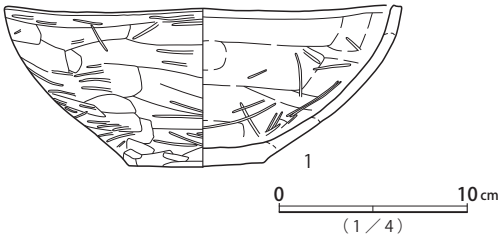
第873図　SI082炉



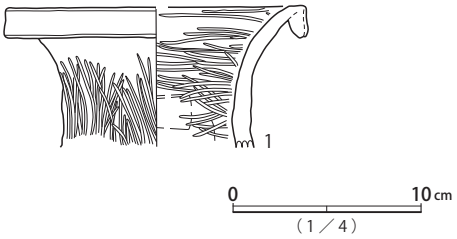
1　暗褐色土(10YR3/4)　焼土少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第874図　SI083炉



第875図　SI082出土遺物



第876図　SI083出土遺物

第290表　SI082出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 鉢	床面	口　径：(21.0) 底　径：　7.8 器　高：　8.4 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ横位 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：海綿骨針・砂粒・白色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の1/2	

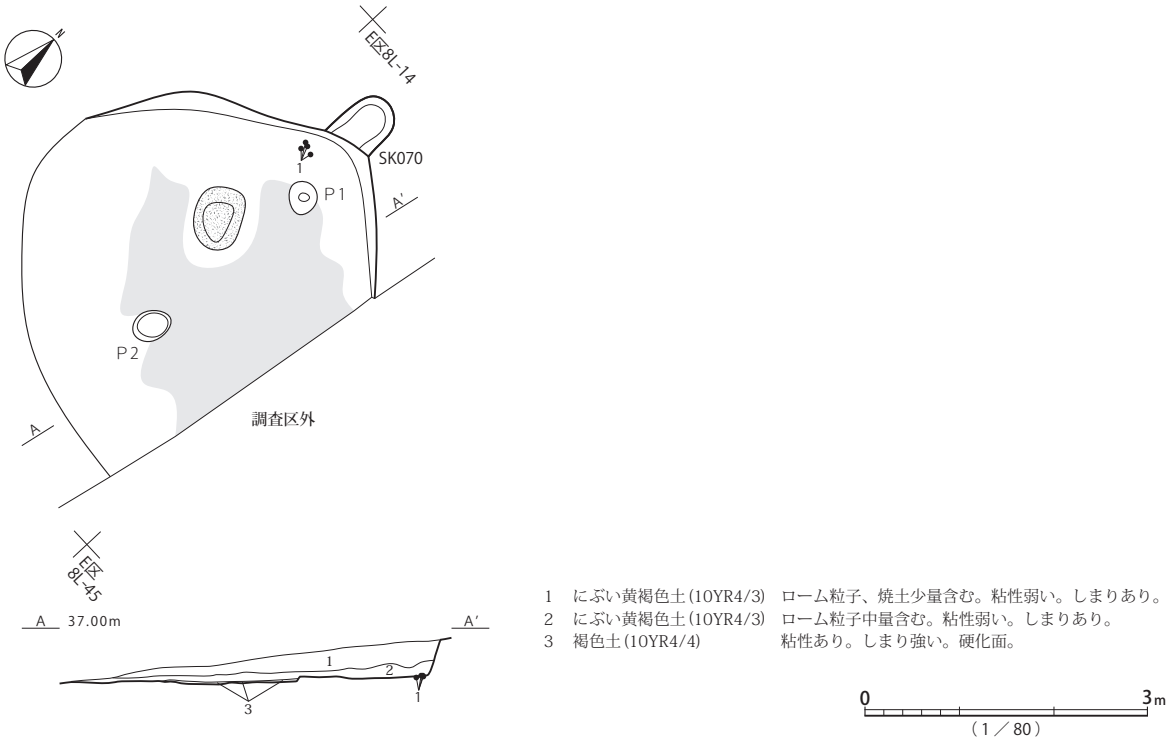
第291表　SI083出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	床面	口　径：(15.6) 底　径：　－ 器　高：　[7.3] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部ヨコナデ、頸部ヘラミガキ縦位 内面：口縁部ヘラミガキ、頸部ヘラナデ後ヘラミガキ横位	胎　土：石英・角閃石・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～頸部の1/2	

SI084（第877～879図、第292表、図版133・154）

位置：Ｅ区８Ｌ-24グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI085・SI086を切り、SK070・SK071に切られる。東側は調査区外へ伸びる。**規模：**主軸（4.08）m、副軸（3.76）m、確認面からの深度0.57ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-47°-Ｗ。**炉：**竪穴中央や



第877図　SI084

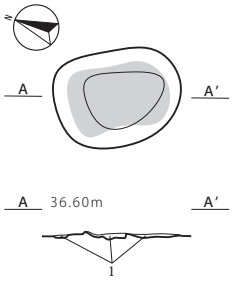
や北西寄りに位置する。長軸0.68ｍ、短軸0.48ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層とSI085覆土を直接使用しており、炉の両脇から南東側にかけて硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。北壁沿いの床面から甕（１）が出土している。

遺物：土器550.8g、縄文土器34.0gが出土した。

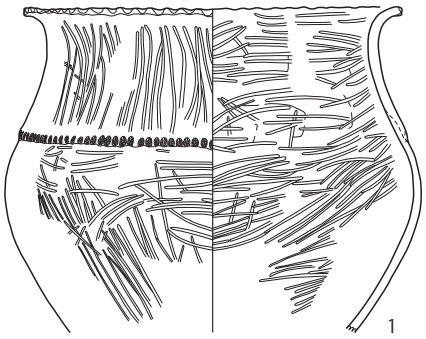
１の口唇部は上からの押圧が施される。胴上部は輪積み痕を一段残し、段部には縄文原体によるキザミが施される。内外面に丁寧なヘラミガキが施される。



1　オリーブ黒色土(5Y3/4)　　焼土微量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第878図　SI084炉



0　10cm
（1／4）

第879図　SI084出土遺物

第292表　SI084出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	床面	口　径：(18.8) 底　径：　－ 器　高：[17.2] 最大径：　－	特徴：輪積み痕を1段残す 外面：口唇部上から押圧、口縁部ヘラミガキ縦位、輪積み部縄文原体によるキザミ、胴部ヘラミガキ 内面：口縁部～胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/3	

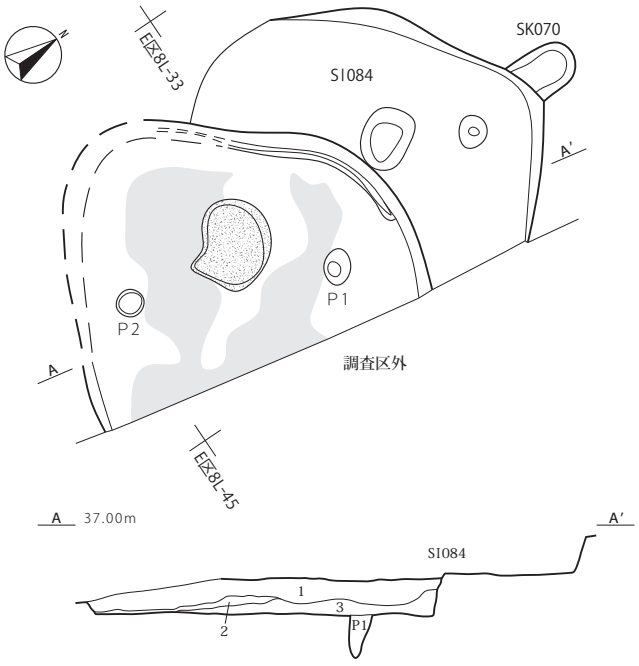
SI085（第880・881図、図版133）

位置：Ｅ区８Ｌ-34グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI086、SK034を切り、SI084に切られる。東側は調査区外へ伸びる。**規模：**主軸（3.28）m、副軸（3.76）m、確認面からの深度0.47ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-56°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.88ｍ、短軸0.80ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴の可能性があるが、Ｐ２の深度は非常に浅い。周溝は北西壁で検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層とSI086覆土を直接使用しており、炉の両脇からＵ字状に硬化している。

時期：SI084との重複から、弥生時代後期以前と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

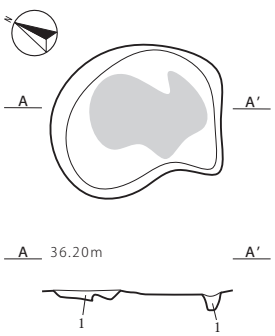
遺物：土器1,053.0g、石器・石製品1.00g、縄文土器277.4gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10～25mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、炭化物少量含む。粘性あり。しまり弱い。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子、炭化物少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　3m
（1／80）

第880図　SI085



1　暗褐色土(10YR3/4)　焼土ブロックφ5～10mm、炭化物少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第881図　SI085炉

SI086（第882 ～ 884図、第293・294表、図版133・155）

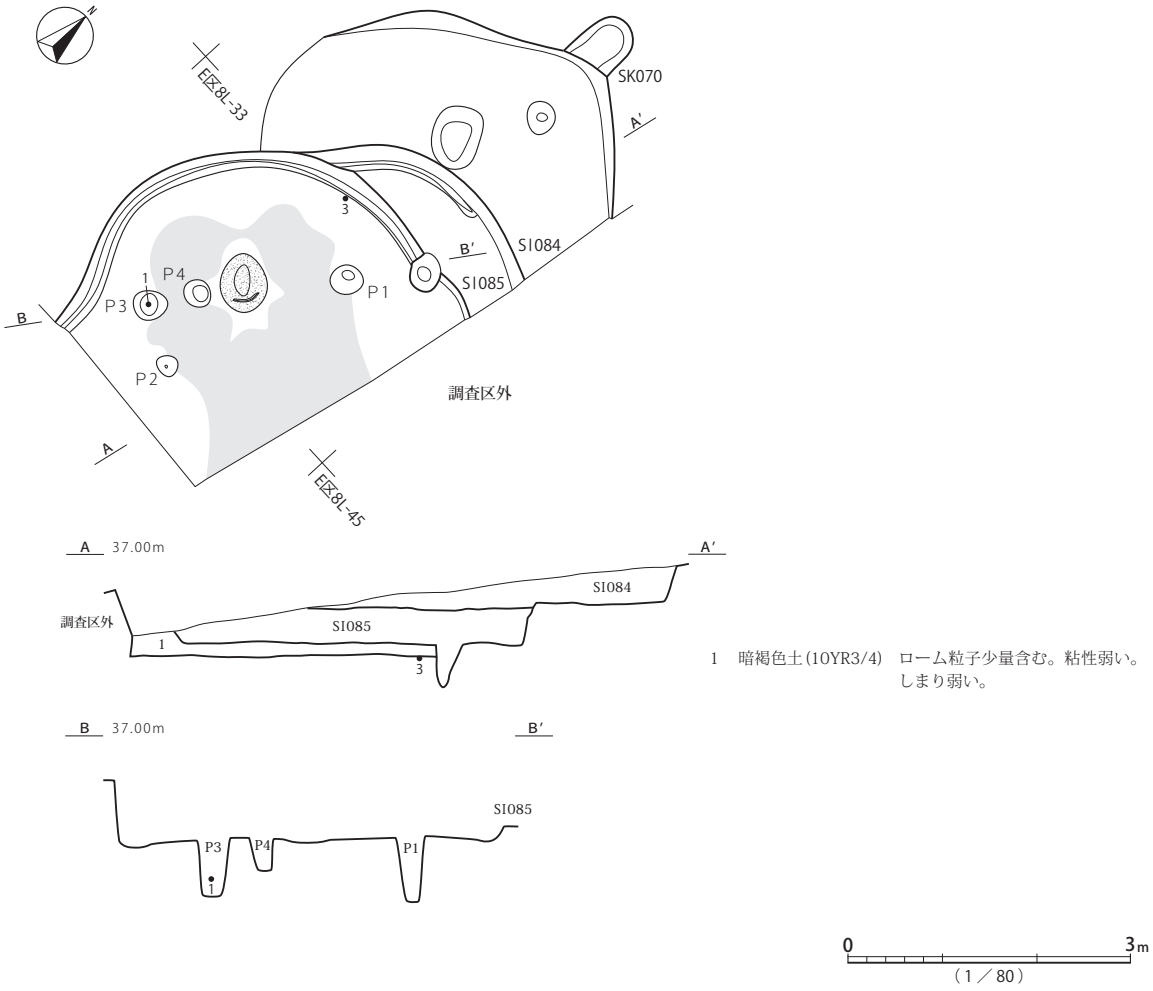
位置：Ｅ区８Ｌ-34グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SK034を切り、SI084・SI085に切られる。東側と南側は調査区外へ伸びる。**規模：**主軸（3.56）m、副軸（4.40）m、確認面からの深度0.34ｍ。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-46°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.60ｍ、短軸0.44ｍで浅く窪む。壺の破片（２）が逆位に埋設され、土器囲いとなっている。**施設：**ピットが４基検出された。Ｐ１・Ｐ３は対称的な位置にあることから、主柱穴の一部とみられ柱間は2.16ｍ。周溝は南西壁から北壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の周辺から南東側にかけて硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。Ｐ３から甕（１）が出土している。覆土は、単層で比較的厚みがあることから短期間で人為的な埋め戻しが行われたと推測される。

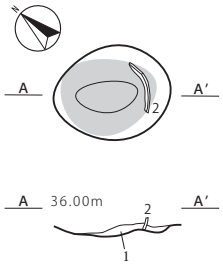
遺物：土器602.2g、金属製品0.80g、縄文土器17.0gが出土した。

１は甕、２は壺である。１は頸下部に輪積み痕を一段残す。２は単節羽状縄文を施文した後、沈線により山形文を区画し、枠外の単節羽状縄文を磨り消している。３は銅製の環である。幅５㎜の薄い素材を丸く折り曲げて成形されている。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

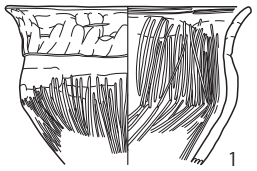
第882図　SI086



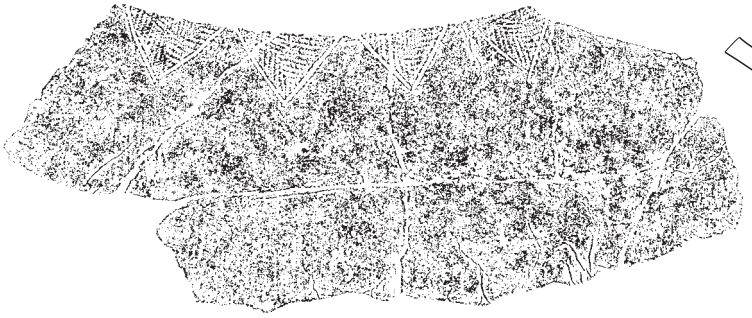
1　暗褐色土(10YR3/4)　焼土ブロックφ５～ 10mm少量含む。
　　粘性弱い。しまり弱い。

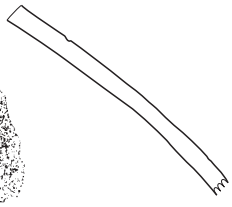
0　1m
（1／40）

第883図　SI086炉

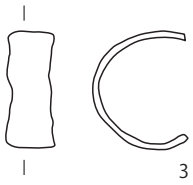


0　10cm
（1／4）





0　10cm
（1／3）



0　3cm
（1／1）

第884図　SI086出土遺物

第293表　SI086出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	P3覆土	口　径：12.9 底　径：－ 器　高：[8.4] 最大径：－	特徴：輪積み痕を１段残す 外面：口縁部～頸部ヘラナデ縦位、胴部ヘラミガキ縦位 内面：口縁部ヘラミガキ、頸部ヘラナデ後ヘラミガキ、胴部ヘラミガキ	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/2	
2	弥生土器 壺	炉	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[7.6] 最大径：－	外面：肩部単節縄文施文後沈線で山形文、山形文下部縄文磨り消し・ヘラミガキ、赤彩 内面：肩部ヘラナデ	胎　土：砂粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：肩部の破片	大型壺

第294表　SI086出土金属製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	備考
3	銅環	覆土下層	15.5	5.0	1.0	0.80	一部欠損

２．溝

SD001（第885図）

位置：Ｅ区７Ｉ−08グリッドを中心とする尾根先端部の東向き斜面に位置する。**重複：**北端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（3.04）m、幅0.56 ～ 0.76 m、確認面からの深度0.02 ～ 0.09 m。**形態：**南北方向に直線的に伸びる。底面はほぼ平坦である。壁面の立ち上がりは削平ないし流失により浅くなっているため不明である。

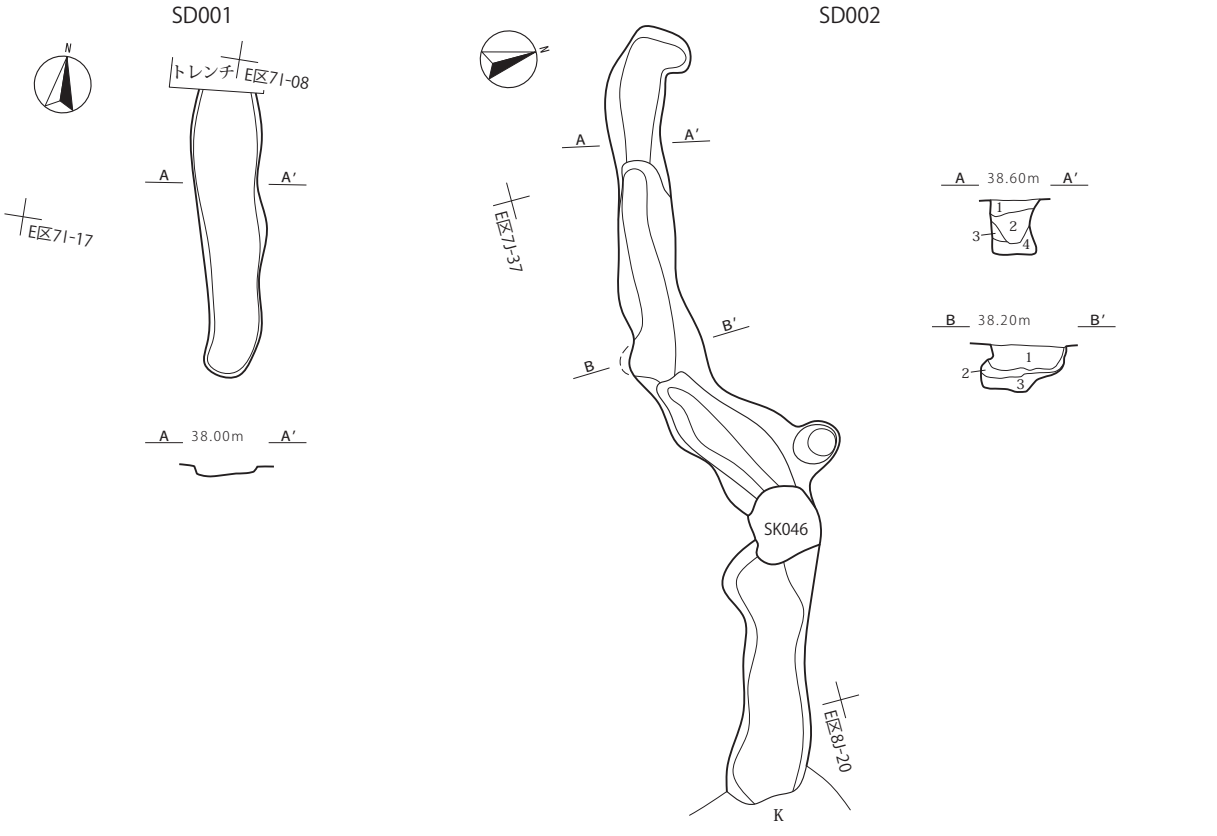
時期：覆土から弥生時代と考えられる。

所見：溝は尾根先端部の東向き斜面に平行しており、底面は南から北へ緩やかに下る。

遺物：出土していない。

SD002（第885図、図版134）

位置：Ｅ区７Ｊ−28グリッドを中心とする台地の平坦面から東向き斜面に位置する。**重複：**東側でSI024を切り、中央でSK046に切られる。東端は撹乱される。**規模：**全長（8.60）m、幅0.52 ～ 1.36 m、確認面からの深度0.16 ～ 0.85 m。**形態：**東西方向に伸びるが中央で屈曲している。底面は起伏があり中央が窪む。壁面は階段状やオーバーハング状など様々である。



1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ロームブロックφ５～10mm少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　3m
（1／80）

第885図　SD001・SD002

時期：重複から弥生時代後期前葉以降と考えられる。

所見：台地の平坦面から東向き斜面を下る溝である。水性堆積は認められない。

遺物：土器321.0g、石器・石製品8.00gが出土したが、小破片のため図示していない。

SD003（第886図、図版134）

位置：Ｅ区５Ｋ-25グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM004、SI030に切られる。**規模：**全長（5.08）m、幅0.84 ～ 1.36ｍ、確認面からの深度0.04 ～ 0.20ｍ。**形態：**北東－南西方向に伸びる。底面は起伏があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および出土遺物から弥生時代終末期以前と考えられる。

所見：台地の南向き斜面を下る溝である。水性堆積は認められない。

遺物：土器32.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

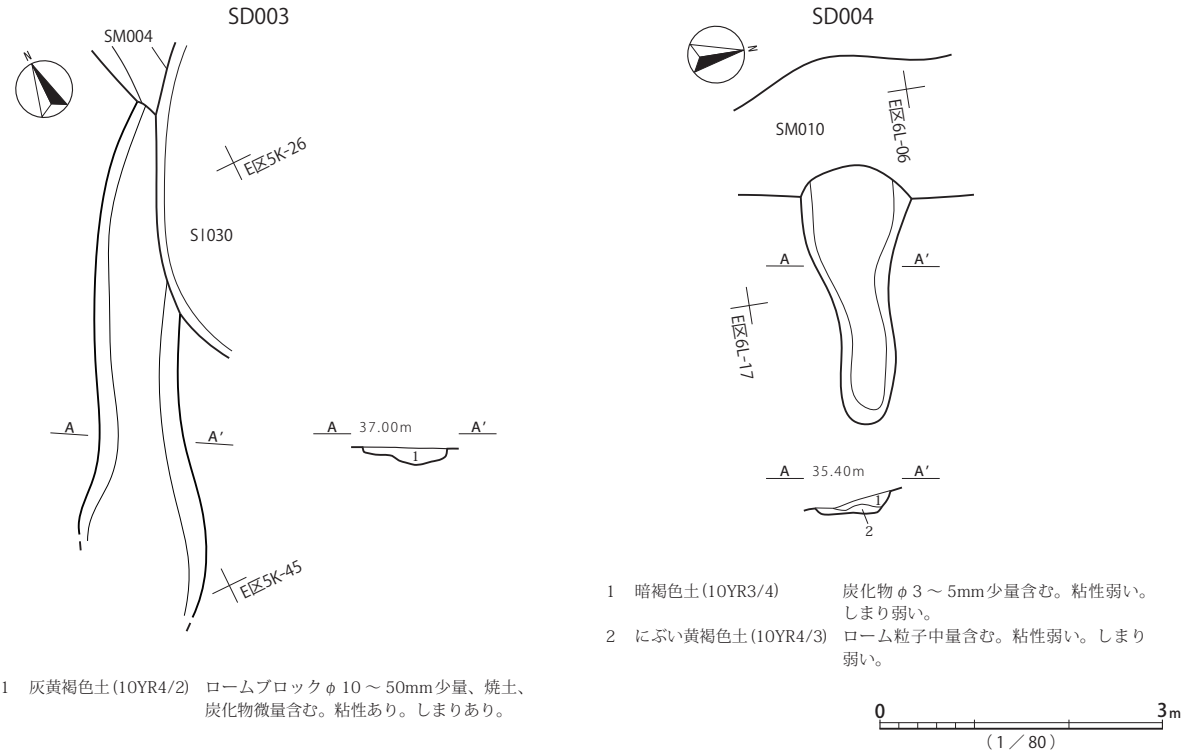
SD004（第886図、図版134）

位置：Ｅ区６Ｌ-06グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SM010に切られる。東端は立ち上がる。**規模：**全長（2.72）m、幅0.56 ～ 1.16ｍ、確認面からの深度0.04 ～ 0.32ｍ。**形態：**東西方向に伸びる。底面は起伏があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から弥生時代と考えられる。

所見：溝は台地の南向き斜面に平行しており、底面のレベルはほぼ一定である。水性堆積は認められない。

遺物：土器107.0g、縄文土器76.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ10 ～ 50mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

1　暗褐色土(10YR3/4)　炭化物φ3 ～ 5mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。

第886図　SD003・SD004

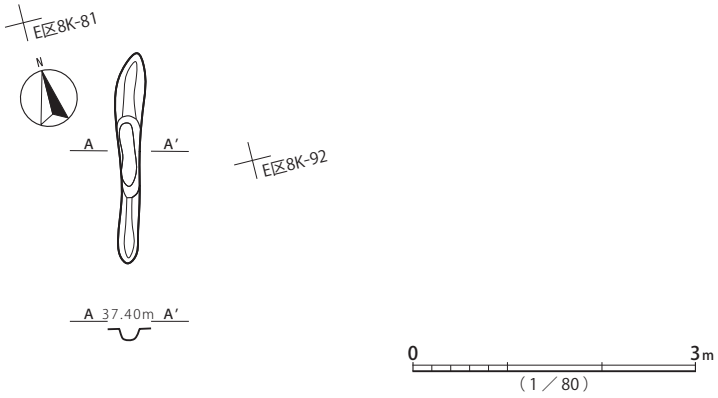
SD005（第887図）

位置：Ｅ区８Ｋ-81グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。両端は立ち上がる。**規模：**全長2.20ｍ、幅0.20 ～ 0.32ｍ、確認面からの深度0.03 ～ 0.15ｍ。**形態：**南北方向に直線的に伸びる。底面はほぼ平坦で中央がわずかに窪み、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

所見：台地の南向き斜面を下る溝である。

遺物：土器7.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第887図　SD005

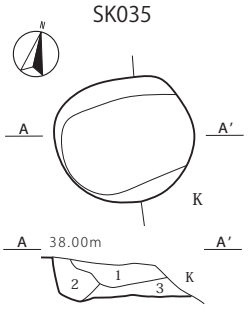
３．土　坑

SK035（第888図、図版134）

位置：Ｅ区７Ｉ-55グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。東側の一部は撹乱される。**規模：**長軸（1.10）ｍ、短軸0.98ｍ、確認面からの深度0.35ｍ。**長軸方位：**Ｎ-66°-Ｅ。**形態：**楕円形と推測される。底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がると推測される。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

遺物：土器18.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第888図　SK035

SK036（第889図、図版134）

位置：Ｅ区７Ｉ-78グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。南側の一部は撹乱される。**規模：**長軸1.35ｍ、短軸0.70ｍ、確認面からの深度0.23ｍ。**長軸方位：**Ｎ-88°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK037（第889図、図版134）

位置：Ｅ区７Ｉ-88グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.00ｍ、短軸0.72ｍ、確認面からの深度0.39ｍ。**長軸方位：**Ｎ-76°-Ｅ。**形態：**隅丸方形、底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK038（第889図、図版134）

位置：Ｅ区７Ｊ-04グリッドを中心に位置する。**重複：**SI005、SK039を切る。**規模：**長軸2.20ｍ、短軸1.80ｍ、確認面からの深度0.64ｍ。**長軸方位：**Ｎ-60°-Ｅ。**形態：**隅丸方形、底面は平坦で壁面は階段状に立ち上がる。

時期：重複および覆土から弥生時代と考えられる。

所見：北壁は樹痕によって階段状になった可能性がある。

遺物：出土していない。

SK039（第889図、図版135）

位置：Ｅ区７Ｊ-04グリッドを中心に位置する。**重複：**SK038に切られる。東側の一部は撹乱される。**規模：**長軸2.44ｍ、短軸1.32ｍ、確認面からの深度0.70ｍ。**長軸方位：**Ｎ-75°-Ｅ。**形態：**隅丸方形、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：重複から弥生時代後期以前と考えられる。

遺物：土器231.0g、縄文土器27.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK040（第889図、図版135）

位置：Ｅ区５Ｊ-33グリッドを中心に位置する。**重複：**SI007に切られる。**規模：**長軸（0.50）ｍ、短軸1.20ｍ、確認面からの深度0.39ｍ。**長軸方位：**Ｎ-22°-Ｅ。**形態：**楕円形と推測される。底面は起伏があり壁面はきつく立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

遺物：出土していない。

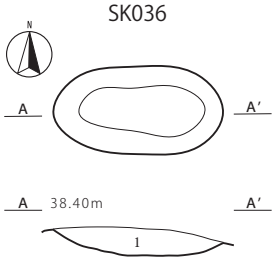
SK041（第889図、図版135）

位置：Ｅ区５Ｊ-35グリッドに位置する。**重複：**SI008に切られる。**規模：**長軸（0.76）m、短軸0.82m、確認面からの深度0.33m。**長軸方位：**Ｎ-86°-Ｅ。**形態：**楕円形と推測される。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

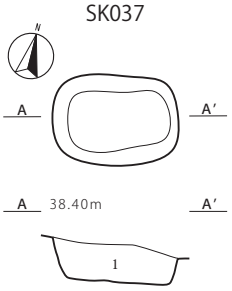
遺物：出土していない。

SK036



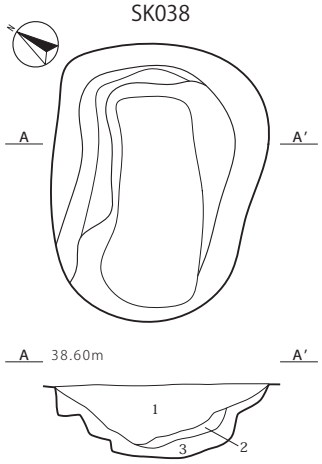
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ５～20mm少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK037



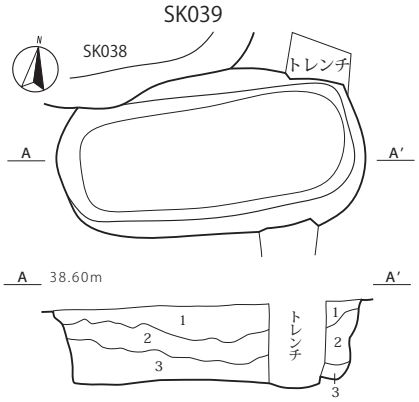
1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK038



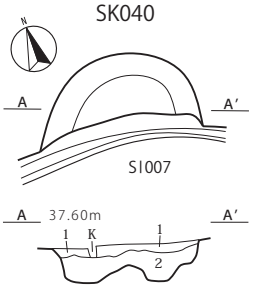
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子多量、ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK039



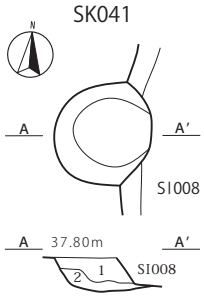
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～70mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子中量、ロームブロックφ10～70mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10～20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK040

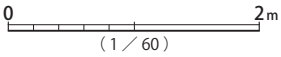


1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ10～50mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ５～30mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK041



1　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子多量、黒褐色土少量含む。粘性あり。しまりあり。



第889図　SK036～SK041

SK042（第890図）

位置：Ｅ区６Ｊ-38グリッドを中心に位置する。**重複：**SK009を切る。**規模：**長軸2.46ｍ、短軸1.44ｍ、確認面からの深度0.65ｍ。**長軸方位：**Ｎ-73°-Ｅ。**形態：**長楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複から弥生時代と考えられる。

遺物：土器51.0g、縄文土器162.2gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK043（第890図、図版135）

位置：Ｅ区７Ｊ-22グリッドを中心に位置する。**重複：**SM011に切られる。**規模：**長軸0.72ｍ、短軸（0.53）ｍ、確認面からの深度0.16ｍ。**長軸方位：**Ｎ-33°-Ｗ。**形態：**隅丸方形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から弥生時代と考えられる。

遺物：縄文土器3.0gが出土したが、混入と考えられる。

SK044（第890図、図版135）

位置：Ｅ区７Ｊ-53グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.97ｍ、短軸0.80ｍ、確認面からの深度0.20ｍ。**長軸方位：**Ｎ-５°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK045（第890図、図版135）

位置：Ｅ区７Ｊ-38グリッドを中心に位置する。**重複：**SK018を切る。西側の一部は撹乱される。**規模：**長軸2.64ｍ、短軸1.72ｍ、確認面からの深度0.43ｍ。**長軸方位：**Ｎ-11°-Ｅ。**形態：**隅丸方形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から弥生時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK046（第890図、図版135）

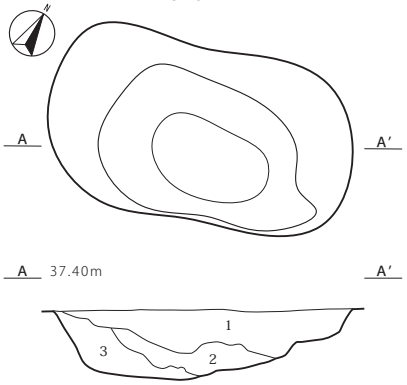
位置：Ｅ区７Ｊ-29グリッドを中心に位置する。**重複：**SD002を切る。**規模：**長軸1.15ｍ、短軸0.76ｍ、確認面からの深度0.77ｍ。**長軸方位：**Ｎ-77°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で西側に段差があり、壁面はきつく立ち上がる。

時期：重複および覆土から弥生時代後期以降と考えられる。

所見：底面の西側が落ち込むため、柱穴の可能性もあるが、周囲に組み合う柱穴は認められない。

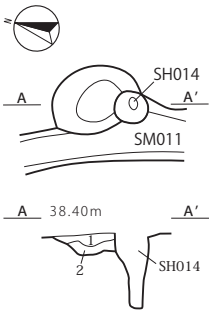
遺物：縄文土器18.0gが出土したが、混入と考えられる。

SK042



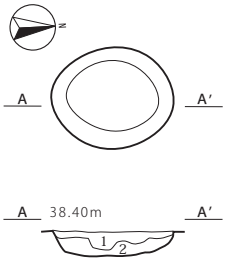
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子多量、ロームブロックφ５～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK043



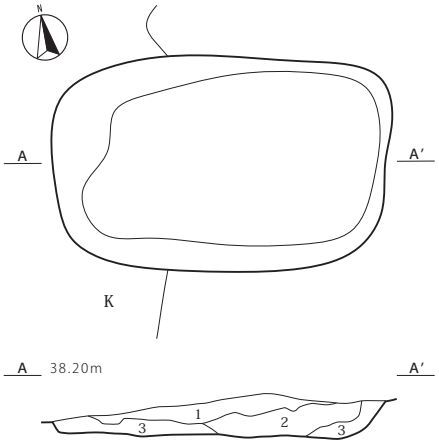
1　暗褐色土(7.5YR3/3)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量微量含む。粘性あり。しまり強い。

SK044



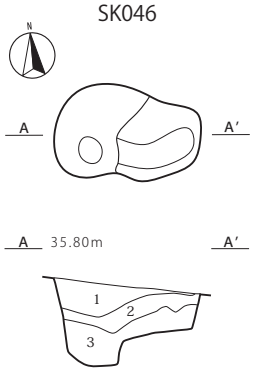
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。

SK045

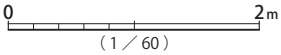


1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ10～20mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ10mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ10～30mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。

SK046



1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子、ロームブロックφ５～50mm中量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～10mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ10～50mm中量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。



第890図　SK042～SK046

SK047（第891図、図版135）

位置：Ｅ区７Ｊ-73グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.38ｍ、短軸1.15ｍ、確認面からの深度0.38ｍ。**長軸方位：**Ｎ-53°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面の平坦面は狭く壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

遺物：土器54.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK048（第891図、図版136）

位置：Ｅ区５Ｋ-05グリッドを中心に位置する。**重複：**SI011に切られる。**規模：**長軸0.88ｍ、短軸0.49ｍ、確認面からの深度0.47ｍ。**長軸方位：**Ｎ-54°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面はきつく立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

遺物：土器9.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK049（第891図、図版136）

位置：Ｅ区６Ｋ-12グリッドを中心に位置する。**重複：**SI034・SI036を切る。**規模：**長軸2.30ｍ、短軸0.80ｍ、確認面からの深度0.70ｍ。**長軸方位：**Ｎ-65°-Ｗ。**形態：**隅丸長方形、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

遺物：土器98.0g、縄文土器20.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK050（第891図）

位置：Ｅ区６Ｋ-56グリッドを中心に位置する。**重複：**SI052を切り、SM008に切られる。**規模：**長軸3.16ｍ、短軸1.58ｍ、確認面からの深度0.31ｍ。**長軸方位：**Ｎ-87°-Ｗ。**形態：**長楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

遺物：土器48.0g、縄文土器107.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK051（第891図）

位置：Ｅ区７Ｋ-56グリッドに位置する。**重複：**SI061に切られる。**規模：**長軸（0.48）ｍ、短軸0.56ｍ、確認面からの深度0.37ｍ。**長軸方位：**Ｎ-33°-Ｅ。**形態：**楕円形と推測される。底面は平坦で浅い段があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複から弥生時代と考えられる。

所見：覆土に焼土を含むが、壁面や底面に被熱痕はみられなかった。

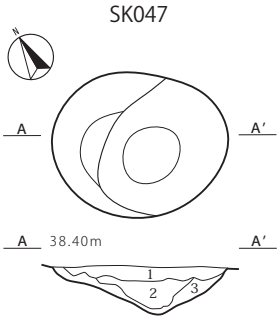
遺物：出土していない。

SK052（第891図、図版136）

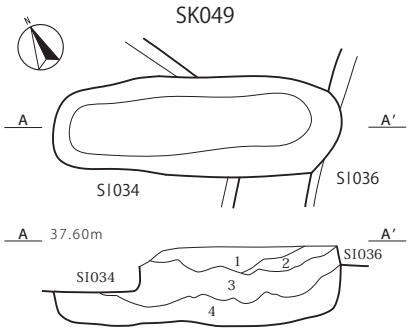
位置：Ｅ区６Ｌ-20グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.96ｍ、短軸1.78ｍ、確認面からの深度0.60ｍ。**長軸方位：**Ｎ-34°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は起伏があり壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

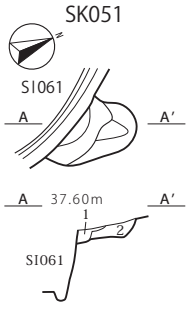
遺物：縄文土器192.0gが出土したが、混入と考えられる。



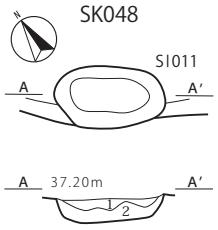
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)　砂質シルト。ローム粒子中量含む。粘性あり。しまり強い。



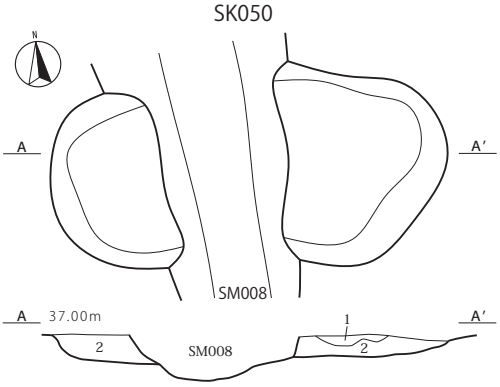
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、ロームブロックφ10～30mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ5～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。



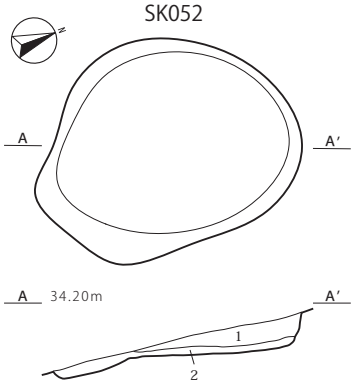
1　にぶい赤褐色土(5YR4/4)　焼土中量、ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子中量。粘性あり。しまりあり。



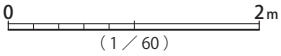
1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ5～10mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　暗褐色土(10YR3/4)　炭化物少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。



第891図　SK047 ～ SK052

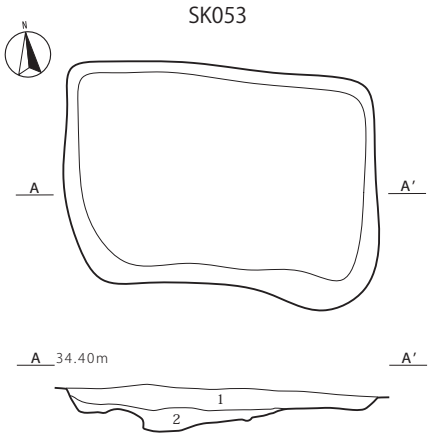
SK053（第892・893図、第295表、図版136・155）

位置：Ｅ区６Ｌ-28グリッドを中心に位置する。**重複：**SI070・SK054を切る。**規模：**長軸2.48ｍ、短軸1.87ｍ、確認面からの深度0.65ｍ。**長軸方位：**Ｎ-82°-Ｗ。**形態：**隅丸方形、底面は起伏があり壁面はきつく立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

遺物：土器7.0g、石器・石製品648.60g、縄文土器439.0gが出土した。

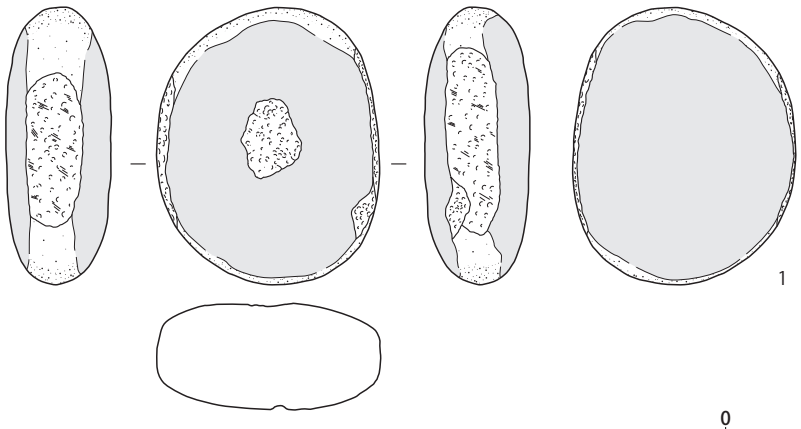
１は輝石安山岩の磨＋敲石である。扁平な楕円礫を素材とし、表裏に磨痕が、表面および両側縁には敲打痕が認められる。



1　暗褐色土(10YR3/4)　　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性弱い。しまり弱い。

0　2m
（1／60）

第892図　SK053



第893図　SK053出土遺物

第295表　SK053出土石器観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	備考
1	磨＋敲石	輝石安山岩	覆土中層	11.00	8.40	4.20	648.60	磨：表・裏・右・左各1面、敲：表・右・左各1箇所

SK054（第894図、図版136）

位置：Ｅ区６Ｌ-28グリッドを中心に位置する。**重複：**SI070・SK053に切られる。**規模：**長軸1.06ｍ、短軸0.86ｍ、確認面からの深度0.27ｍ。**長軸方位：**Ｎ－Ｓ。**形態：**不明、底面は起伏があり壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

遺物：縄文土器100.0gが出土したが、混入と考えられる。

SK055（第894図、図版136）

位置：Ｅ区６Ｌ-48グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。南側は調査区外へ伸びる。**規模：**長軸（2.10）ｍ、短軸1.46ｍ、確認面からの深度0.75ｍ。**長軸方位：**Ｎ－８°－Ｗ。**形態：**楕円形と推測される。底面中央に窪みをもち壁面はきつく立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

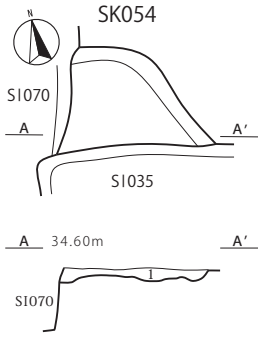
遺物：出土していない。

SK056（第894図、図版136）

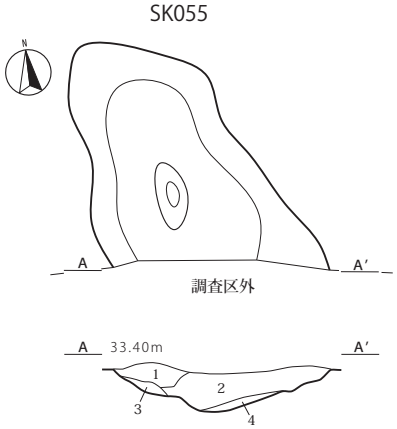
位置：Ｅ区７Ｌ-17グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.30ｍ、短軸0.85ｍ、確認面からの深度0.39ｍ。**長軸方位：**Ｎ-81°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は浅い皿状で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

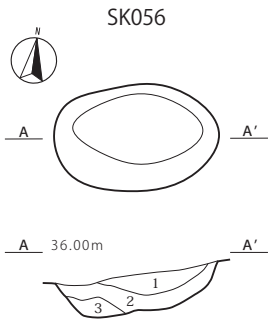
遺物：縄文土器115.0gが出土したが、混入と考えられる。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまりあり。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　炭化物少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　褐色土(10YR4/6)　粘性弱い。しまり弱い。
4　黒褐色土(10YR3/2)　焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。



1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性弱い。しまり弱い。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土微量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　2m
（1／60）

第894図　SK054 ～ SK056

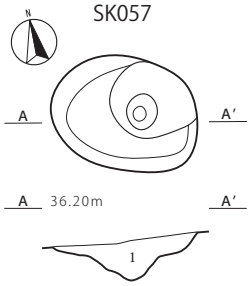
SK057（第895図、図版136）

位置：Ｅ区８Ｌ-32グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.20ｍ、短軸0.91ｍ、確認面からの深度0.54ｍ。**長軸方位：**Ｎ-53°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面にはピット状の落ち込みがあり、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から弥生時代と考えられる。

所見：底面にピット状の落ち込みがあるため、柱穴の可能性もあるが、周囲に組み合う柱穴は認められない。

遺物：出土していない。



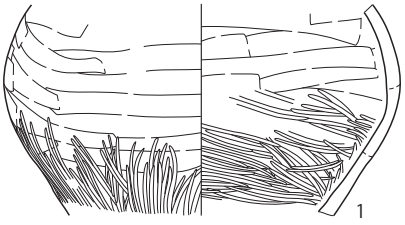
1　褐色土(7.5YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　2m
（1／60）

第895図　SK057

４．ピット出土遺物（第896図、第296表、図版155）

本調査区では時期不明のピットが多数検出されたため、第323表にて報告している。このうちSH017からは甕（1）が出土している。



0　10cm
（1／4）

第896図　SH017出土遺物

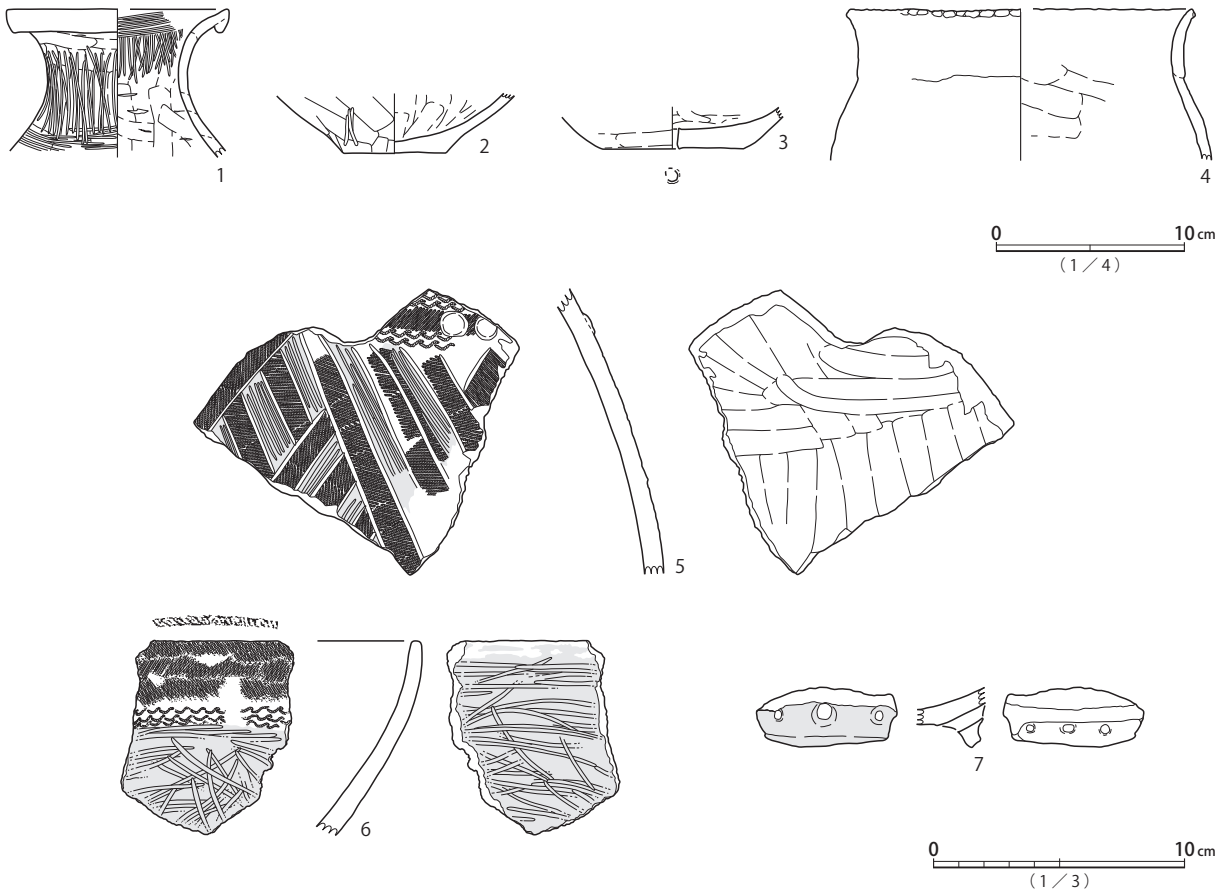
第296表　SH017出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[11.2] 最大径：(21.0)	外面：胴部ヘラナデ、後胴部下半ヘラミガキ 内面：胴部ヘラナデ、後胴部下半ヘラミガキ	胎　土：砂粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：胴部の1/3	内外面煤付着

５．遺構外出土遺物（第897図、第297表、図版155）

他時代の遺構から出土した混入遺物のうち、弥生時代の遺物についてここで報告する。１～３・５は壺、４は甕、６は鉢、７は高坏である。１は折り返し口縁をもち、内外面ともヘラミガキが施される。３は底部に径６㎜の焼成前穿孔が行われている。４は口唇部に押圧が施され、頸部には輪積み痕を一段残す。５は結節区画内に単節縄文が充填され、円形貼付文が添付される。下位には斜位の沈線区画で幾何学文が区画され、枠内は単節縄文およびヘラミガキが交互に施される。６は単節羽状縄文が結節により区画される。７は坏部の体部側縁である。体下部が外反し、焼成前穿孔が行われている。



第897図　弥生時代遺構外出土遺物

第297表　弥生時代遺構外出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	SM010 周溝覆土 下層	口　径：(11.8) 底　径：　－ 器　高：　[7.8] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部ヨコナデ、頸部～肩部ヘラナデ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、頸部～肩部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：白色粒・黒色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～肩部の2/3	
2	弥生土器 壺	SM001 周溝覆土 上層	口　径：　－ 底　径：　5.4 器　高：　[3.2] 最大径：　－	外面：底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：底部ヘラナデ	胎　土：黒色粒・白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：底部の破片	
3	弥生土器 壺	SM001 周溝覆土 上層	口　径：　－ 底　径：　(7.4) 器　高：　[2.2] 最大径：　－	特徴：底部焼成前穿孔あり 外面：底部ヘラナデ 内面：底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒・石英 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：底部の破片	
4	弥生土器 甕	SM001 周溝覆土 上層	口　径：(18.0) 底　径：　－ 器　高：　[8.0] 最大径：　－	外面：口唇部指による押圧、口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ・ナデ	胎　土：石英・砂粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/6	
5	弥生土器 壺	SM006 墳丘下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[11.3] 最大径：　－	外面：胴部結節文(S2段)・単節縄文(LR)・円形貼付文2個・結節文(S2段)・沈線斜位で幾何学文を施文、区画内単節縄文とヘラミガキ・赤彩を交互施文 内面：胴部ヘラナデ	胎　土：石英・黒色粒・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：胴部の破片	
6	弥生土器 鉢	SM008 覆土中層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[7.7] 最大径：　－	外面：口唇部単節縄文(RL)、口縁部単節羽状縄文(RL・LR・RL)、結節文(S3段)、ヘラミガキ横位、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：砂粒・赤褐色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：にぶい黄橙 残存度：口縁部の破片	
7	弥生土器 高坏	SM013 周溝覆土 下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[2.4] 最大径：　－	特徴：接合部の突帯に外側から下に穿孔3箇所 外面：接合部ナデ、赤彩 内面：接合部ナデ	胎　土：石英・黒色粒・橙色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：接合部の破片	

第３節　古墳時代

１．古　墳

SM001（第898図、図版137）

方墳と推測される。盛土が残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**Ｅ区５Ｊグリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。南側約４ｍにSM002が隣接する。**重複：**SI007を切る。南周溝は調査区外へ伸びる。**規模：**南辺（5.37）m、東辺（5.34）m。周溝を含めた総長は、南辺（6.48）m、東辺（6.81）m。**主軸方位：**東西方向を主軸と仮定し、Ｎ-80°-Ｗ。

墳丘：残存しない。

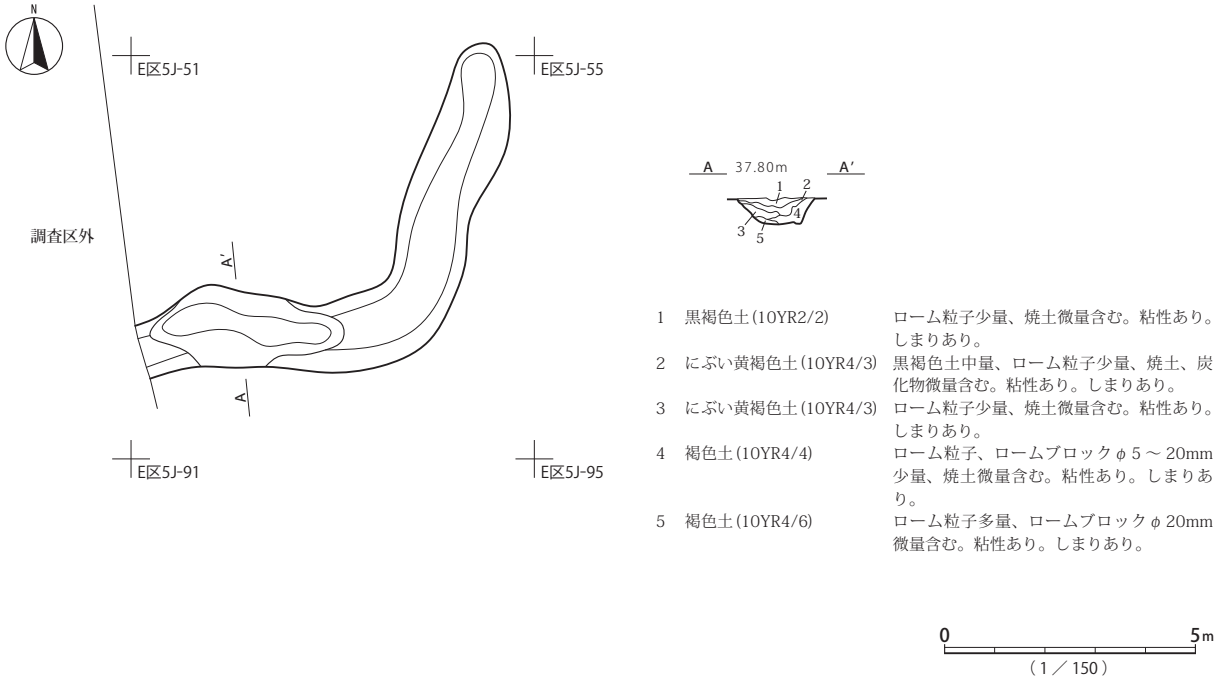
周溝：南周溝から南東隅部、東周溝がＬ字状に検出され、西側は調査区外へ伸びる。幅1.08～1.65m。確認面からの深度0.30～0.58m。断面形態は平坦な底面から壁面は逆台形状に立ち上がる。南周溝は西側で底面が0.17mほど一段低くなる。覆土は下層に褐色土（４・５層）が堆積し、その上層にはにぶい黄褐色土（２・３層）、最上層には黒褐色土（１層）がレンズ状に堆積している。

埋葬施設：検出されなかった。

時期：周囲で検出された方墳の平面形態や主軸方位の近似から５世紀代と推測される。

所見：周溝のみが検出された方墳である。検出時は古墳と考えるには躊躇したが、溝の方向が他の方墳と近似していることから方墳と判断した。南周溝の底面で検出された段差からは埋葬施設の設置を示す痕跡は認められなかった。平坦面という立地から考えると耕作等の削平によるものか、墳丘や埋葬施設、北側の周溝は消失している。

遺物：土器1,751.0g、石器・石製品6.00g、縄文土器105.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第898図　SM001

SM002（第899図、図版137）

方墳と推測される。盛土が残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**Ｅ区５Ｋグリッドを中心とする台地の平坦面から南向き斜面に位置する。北側約４ｍにSM001が隣接する。**重複：**SI029を切る。北周溝は調査区外へ延びる。**規模：**北辺（4.68）m、東辺（3.30）m。周溝を含めた総長は、北辺（6.33）m、東辺（3.72）m。**主軸方位：**東西方向を主軸と仮定し、Ｎ-70°-Ｅ。

墳丘：残存しない。

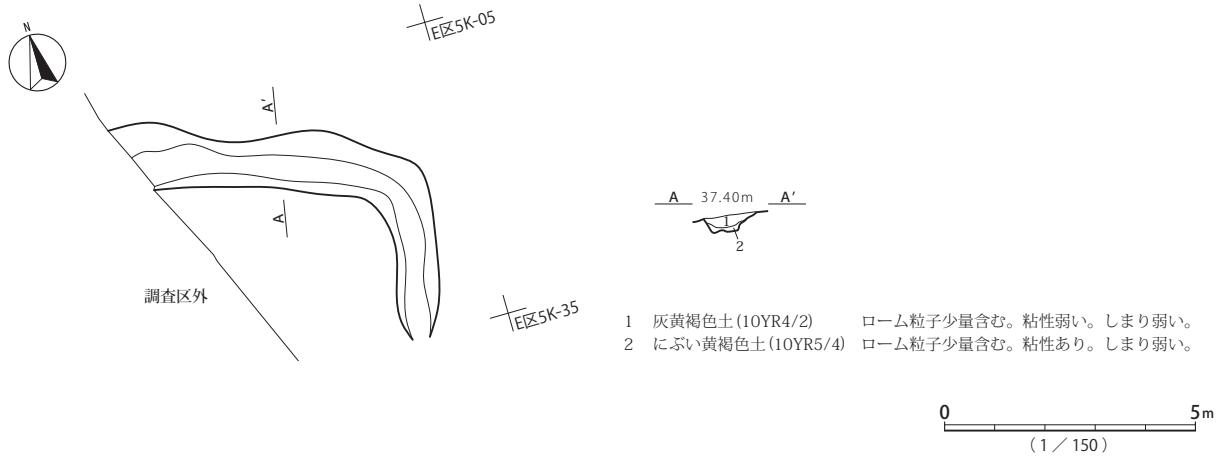
周溝：北周溝から北東隅部、東周溝がＬ字状に検出され、西側は調査区外へ伸びる。幅0.81～1.35m。確認面からの深度0.15～0.45m。断面形態は平坦な底面から壁面は逆台形状に立ち上がる。覆土は下層ににぶい黄褐色土（２層）が堆積し、その上層には灰黄褐色土（１層）が堆積している。

埋葬施設：検出されなかった。

時期：周囲で検出された方墳の平面形態や主軸方位の近似から５世紀代と推測される。

所見：周溝のみが検出された方墳である。溝の方向が他の方墳と近似していることから方墳と判断した。平坦面で周溝が残存し、斜面で周溝が消失していることから、地滑りや削平等による消失と考えられる。

遺物：土器1,751.0g、石器・石製品14.00g、縄文土器105.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第899図　SM002

SM003（第900図、図版137）

調査区内で周溝が検出され、墳丘は調査区外に残存している。**位置：**Ｅ区５Ｋグリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。東側約２ｍにSM006が隣接する。**現況：**調査区外にわずかな高まりが遺存している。**重複：**SI047a・SI047b、SK031を切る。**規模：**周溝の一部を調査したのみであり、規模は不明。**主軸方位：**不明。

墳丘：周溝西側の調査区外に残存するが、篠竹や樹木が繁茂しており墳形は不明である。

周溝：検出範囲は墳丘に対し北東周溝にあたる。調査区壁面を長軸とし11.82m、調査区壁面からの最大幅を短軸とし3.36m。確認面からの深度1.68m。底面は調査範囲の中央が盛り上がっており、

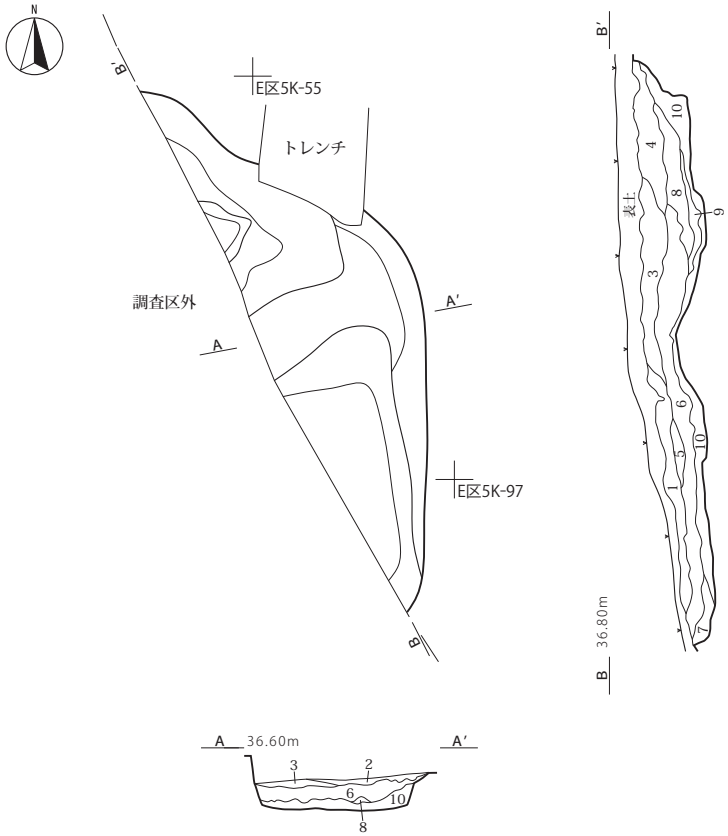
北西、南東それぞれの底面を分断するようにも見える。壁面の下位はきつく立ち上がり、上位は崩落によるものか緩やかに広がっている。覆土は最下層ににぶい黄褐色土や灰黄褐色土が堆積しており（９・10層）、墳丘裾部や壁面上位からの崩落土と推測される。上層には褐灰色土や黒色土、黒褐色土が堆積している（１・４・５層）。

埋葬施設：検出されなかった。

時期：時期を明確に示す遺物の出土はなく、調査範囲も限られており周溝の形態も不明であることから断定はできないものの、周囲で検出された古墳同様に５世紀代もしくは７世紀代と推測される。

所見：墳丘は調査区外であり、周溝の外周上端から底面までの限られた範囲の調査に留まっている。北東側の上端で周溝の隅部とも考えられる屈曲が見られるが、平面形態を推測するには検出範囲が狭小なため、墳形を断定することはできない。

遺物：土器2,702.0g、縄文土器995.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1	褐灰色土(10YR4/1)	ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。
3	黒色土(10YR2/1)	ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4	黒褐色土(10YR3/2)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
5	褐灰色土(10YR5/1)	ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
6	褐灰色土(7.5YR4/1)	ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
7	灰褐色土(7.5YR4/2)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
8	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
9	灰黄褐色土(10YR4/2)	ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
10	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	ローム粒子中量、褐灰色土少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　5m
（1／150）

第900図　SM003

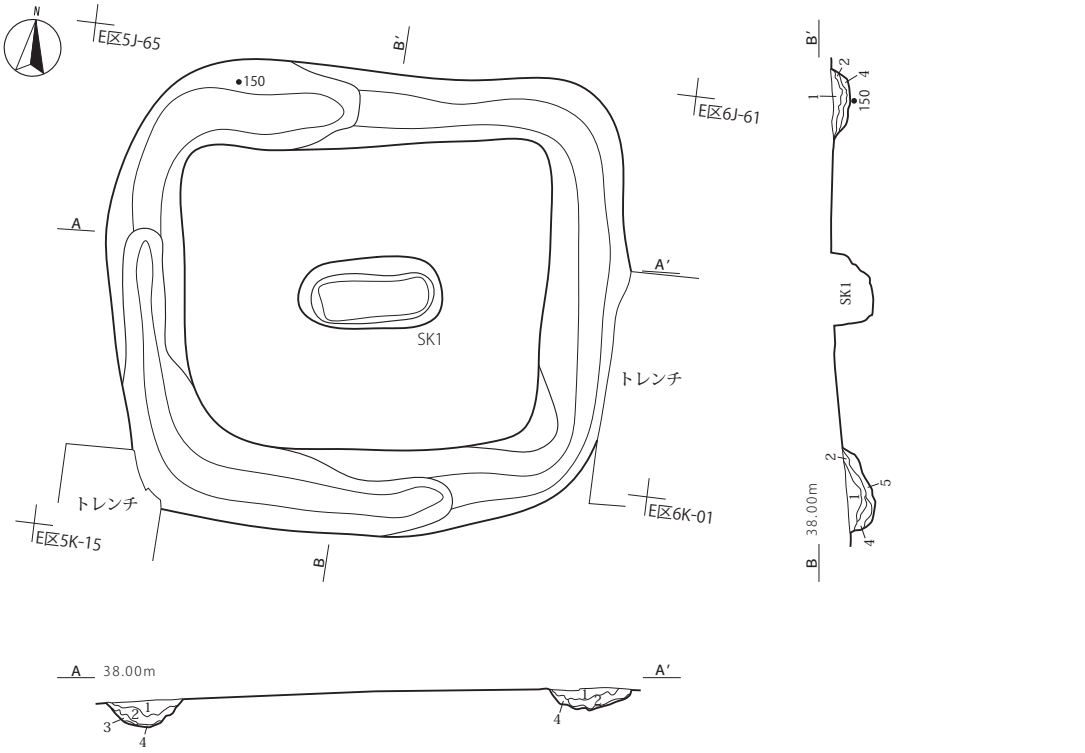
SM004（第901 ～ 908図、第298 ～ 301表、図版137・138・156・158 ～ 160）

埋葬施設から多数の玉類が出土している方墳である。盛土は残存していない。**位置：**Ｅ区５Ｋグリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。南側約９ｍにSM006が隣接する。**重複：**SI011 ～ I014・SI030 ～ SI032を切る。**規模：**南辺6.84m、北辺7.32m、東辺6.12m、西辺5.88m。周溝を含めた総長は、南辺9.30m、北辺10.32m、東辺8.64m、西辺9.18m。

墳丘：残存しない。

周溝：全周する。幅1.14 ～ 1.80m。確認面からの深度0.35 ～ 0.56m。断面形態は平坦な底面から壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は最下層に褐色土や黄褐色土（４・５層）が堆積し、その上層にはにぶい黄褐色土（２・３層）、最上層には黒褐色土（１層）がレンズ状に堆積している。

埋葬施設：方台部中央で１基検出された（SK1）。SI012・SI013の覆土を掘り込んで構築されている。掘り方の規模は長軸2.86m、短軸1.42m、確認面からの深度0.82m。長軸方位はＮ-78°-Ｅ。平面形態は隅丸長方形。断面形態は平坦な底面から壁面は逆台形状に立ち上がる。覆土は上層（１層）が埋め戻し土であり、主体となる黒褐色土はSI012・SI013の覆土起源と考えられる。その下位に木棺痕跡と考えられる２・３・６層があり、これを固定するためのにぶい黄褐色土や黒褐色土が充填されている（４・５層）。木棺痕跡内からは釘が47点が出土しており、その範囲から長さ1.92m、幅0.60mの木棺が推定される。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ20mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10～30mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子中量、焼土微量含む。粘性あり。しまり非常に強い。

0　5m
（1／150）

第901図　SM004

遺物は玉類が122点出土している。内訳は水晶切子玉３点（１～３）、管玉１点（４）、勾玉２点（４・５）、棗玉18点（７～23、１点は砕片のため図示せず）、ガラス小玉90点（24～113）、滑石製臼玉８点（114～121）である。出土範囲は木棺部の東端付近に密集しており、被葬者の頭位は東であったと考えられる。釘は47点出土している（122～146、27点は砕片のため図示せず）。複数の板材を打ちつけたのか、木目方向の異なる木質が付着する釘もある。分布は掘り方内で長方形を示し、木棺に伴う釘と考えられる。このほかに鉄鏃２点（147・148）が覆土下層から出土している。

時期：出土遺物から、古墳時代終末期３段階（７世紀中葉）と考えられる。

所見：１基の埋葬施設が検出された方墳である。墳丘は残存していないが、検出された埋葬施設の深度から考えると盛土はそれほど高く積み上げられていなかったと推測される。副葬品は装身具である玉類が出土し、SM008やSM010・SM011の直刀や鉄鏃といった武具の出土とは性格を異にしている。

遺物：SK1からは土器97.6g、玉類77.00g、金属製品392.60gが出土している。

１～３は水晶切子玉である。３点とも切子玉としてはやや短めな印象を受ける。３点とも稜が磨耗しており、長期間の使用を伺わせる。１は片側から穿孔されているが、２・３は一方から大部分を穿孔し、反対側をわずかに穿孔し貫通させている。４は管玉である。孔は中心まで均一に仕上げられている。勾玉は、５が滑石製、６が琥珀製である。どちらも軟質な素材であり、表面は平滑で研磨痕は残っていない。７～23は棗玉である。10は六角柱に、21・22は筒形に近い形に研磨されている。23は滑石や蛇紋岩などより比重の軽い石材を用いており表面は平滑に磨きこまれている。

24～113のガラス小玉は青を基調とした、紺色、青色、水色、薄水色のものと、濃緑色、青緑色、薄青緑色の７色がみられた。水色が最も多く36点で４割を占め、青色22点と薄青緑色19点がそれぞれ約２割、以下は薄水色５点、紺色３点、濃緑色３点、青緑色１点であった。ガラス小玉の大きさは径2.3～6.8㎜である。比較的径の大きい24～26の断面は筒形に近く、上下は平坦である。これ以外のものは上下が平坦で断面の角が丸味を帯びるものと、全体に丸味を帯びるものに大別される。

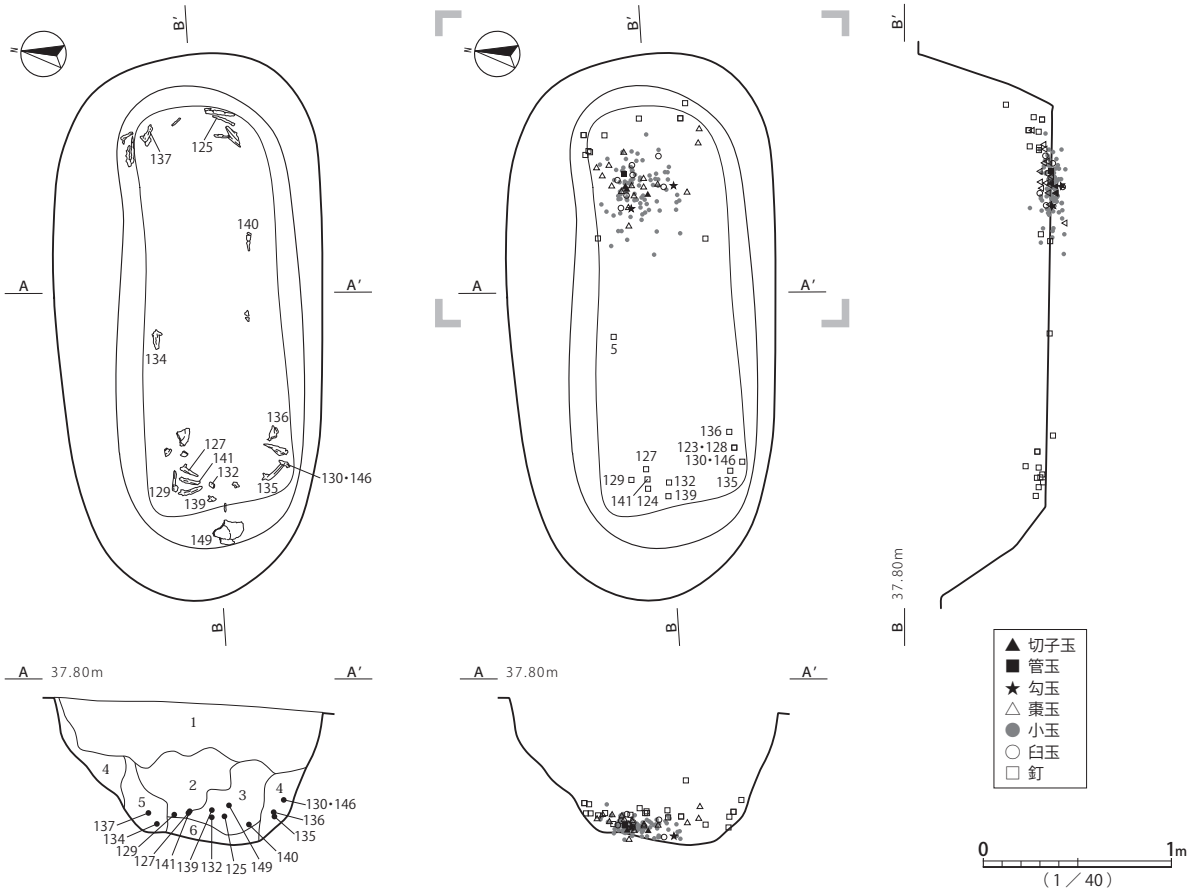
114～121は臼玉である。上下は平滑に研磨されている。

122～146は釘である。頭頂部は「く」の字状に片側に折れており、幅広く薄い。断面形は長方形である。頭頂部から続く上部は断面長方形であるが、先端に向かい次第に方形に変化する。完存するものから推測すると規格は長さ5.0～7.0cm、長さ9.5～10.5cmのものに二分され、146のみ径が細くやや異質である。木質の付着するものが22点あるが、このうちの９点では頭頂部直下に横方向、その下位には縦方向の木目の板材が付着し、二種類の板材が組み合わされている。これらは木棺の蓋、あるいは底板と側板の組み合わせと考えられる。木質の残存状態が良好な124～130から想定される板材の厚さは2.5～3.0cmである。

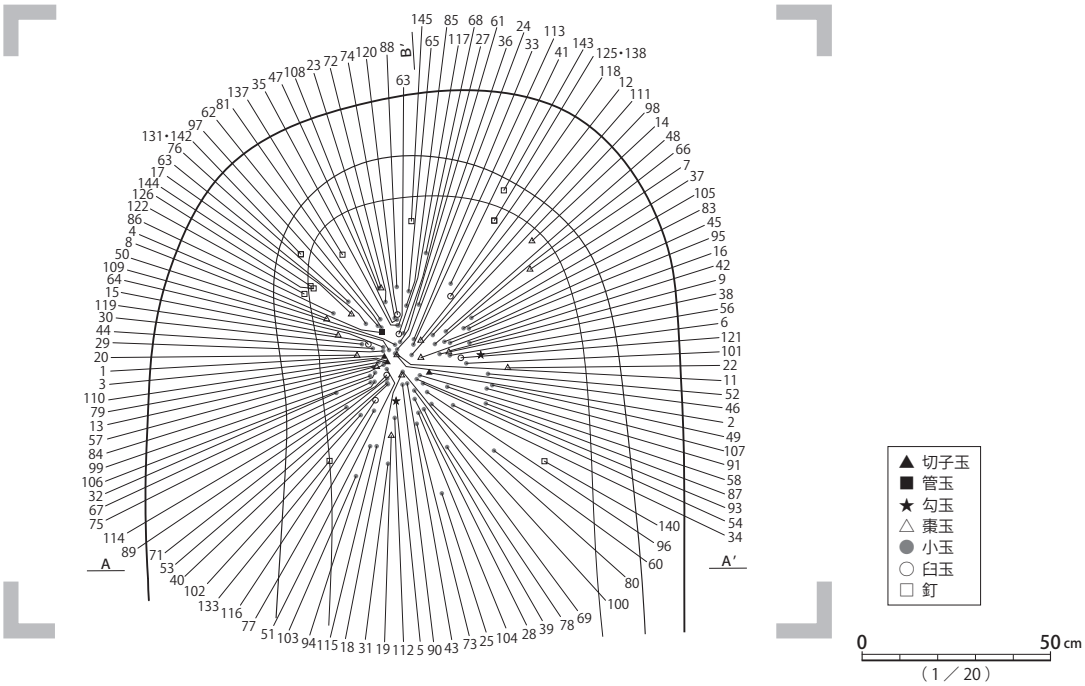
147・148は鉄鏃である。このうち147は長頸鏃の頸部から茎部である。頸部下端の関は、幅約２㎜の突起が両側に張り出す棘状関である。148は茎尻および矢柄である。樹皮巻が残存している側が頸部である。茎は折損し、矢柄の下端に残存している。２点は同一個体の可能性がある。

周溝内からは土器4,772.8g、縄文土器160.0gが出土している。

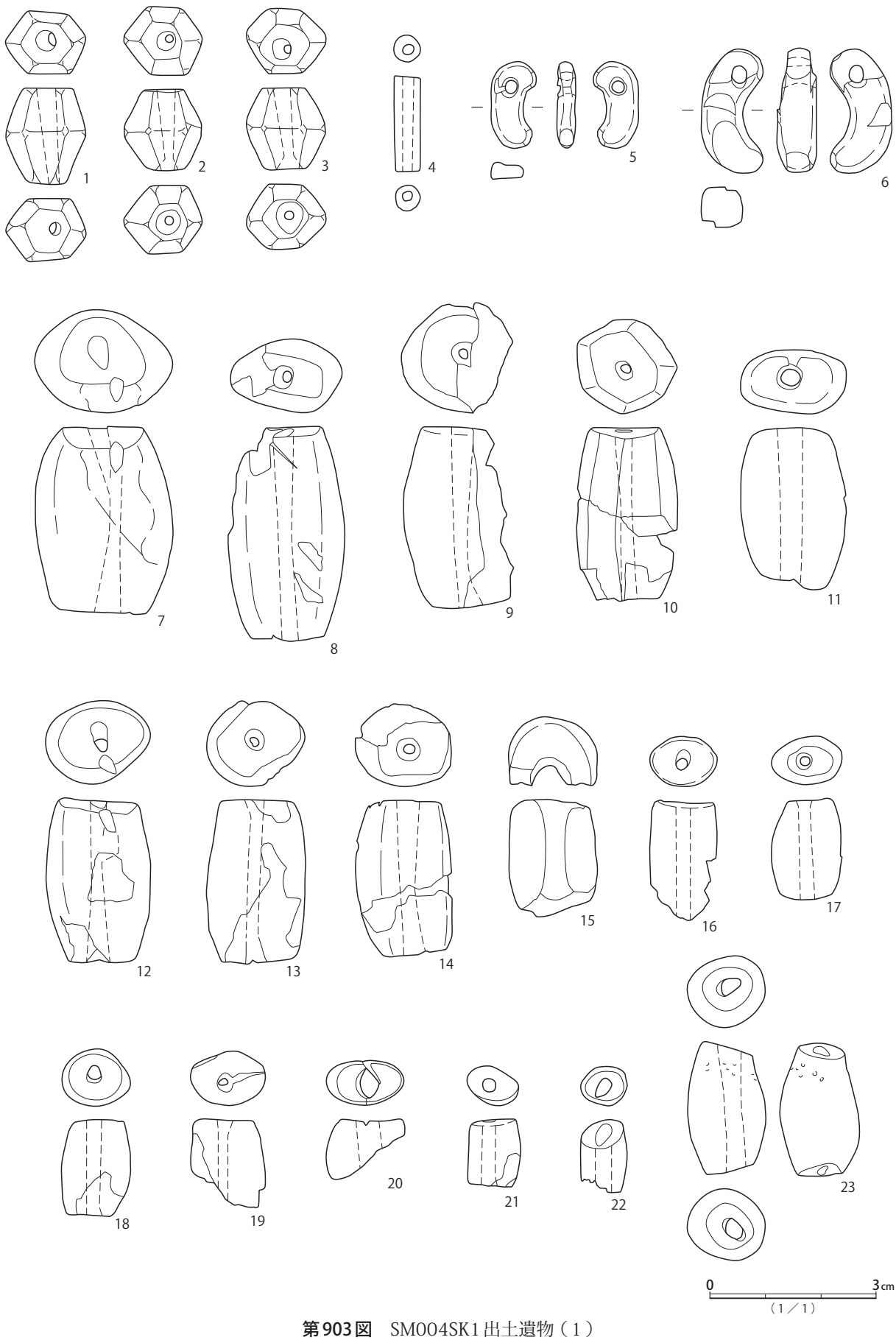
149の坏は埦形であり、口縁部が内湾する。150は上面中央に焼成前穿孔がなされる。



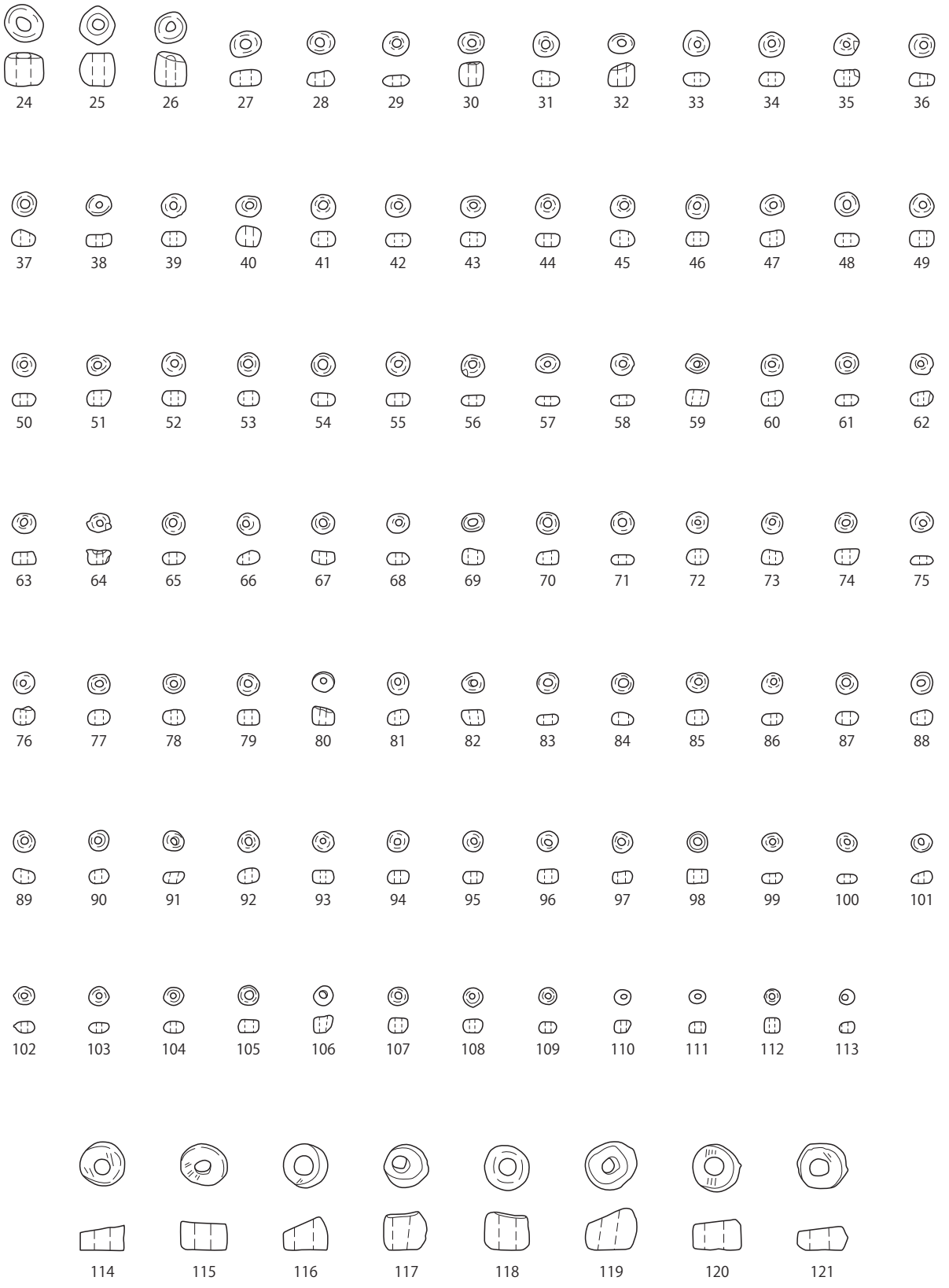
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子、ロームブロックφ10～30mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、ロームブロックφ10mm微量含む。粘性あり。しまり弱い。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、黒褐色土少量含む。粘性あり。しまり強い。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ5～10mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
6　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量、ロームブロックφ10mm微量含む。粘性あり。しまり強い。



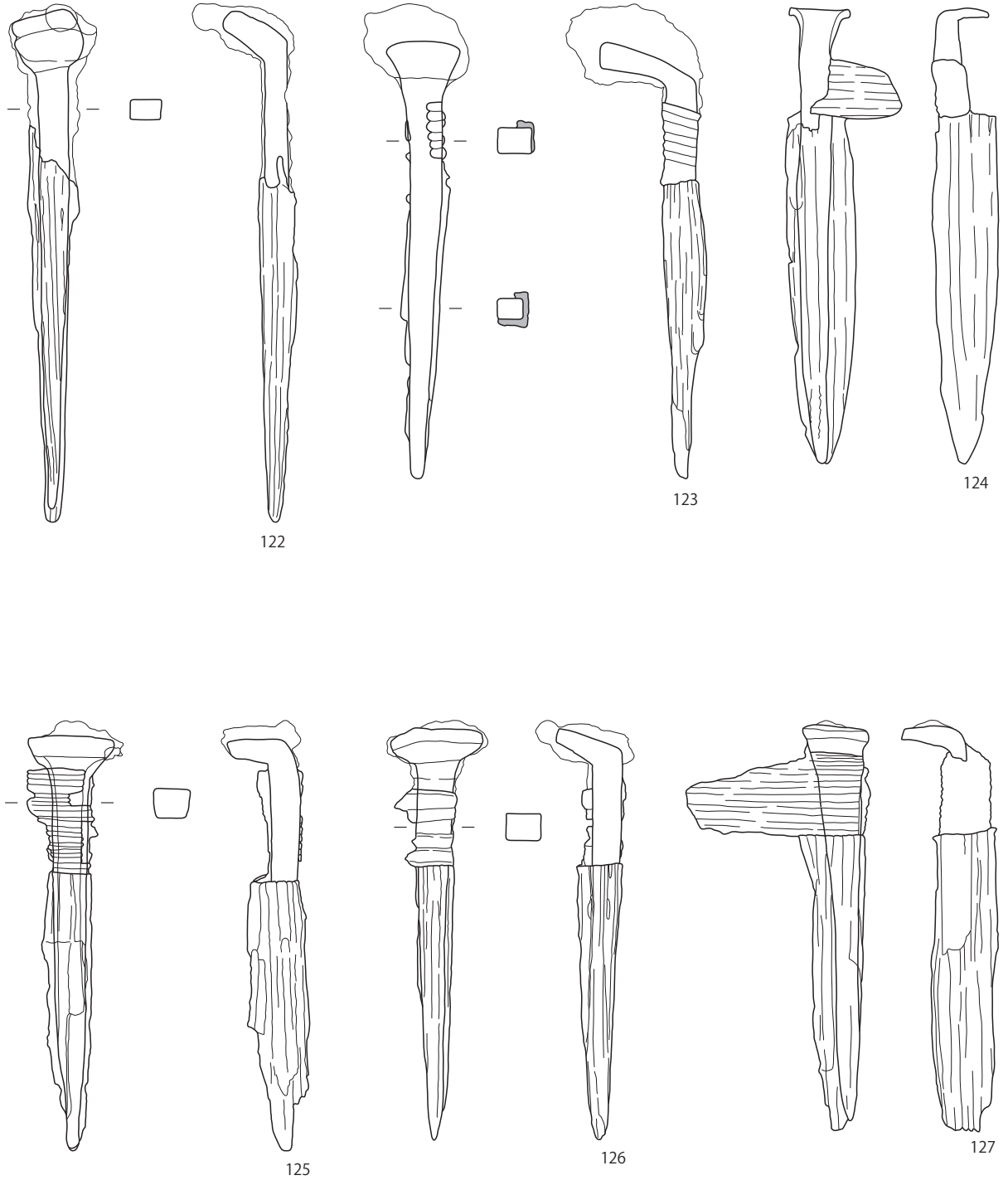
第902図　SM004SK1



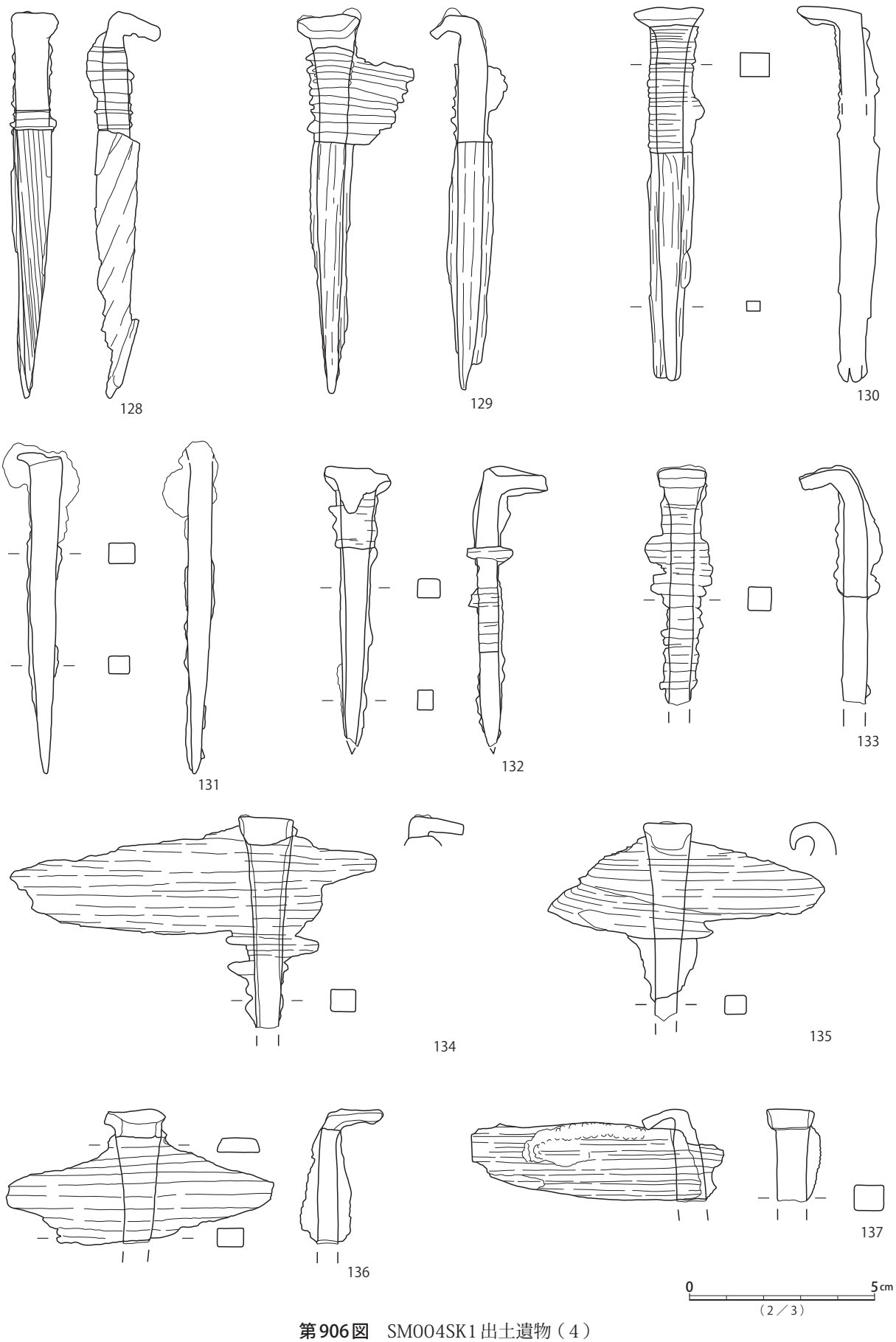
第903図　SM004SK1出土遺物（1）



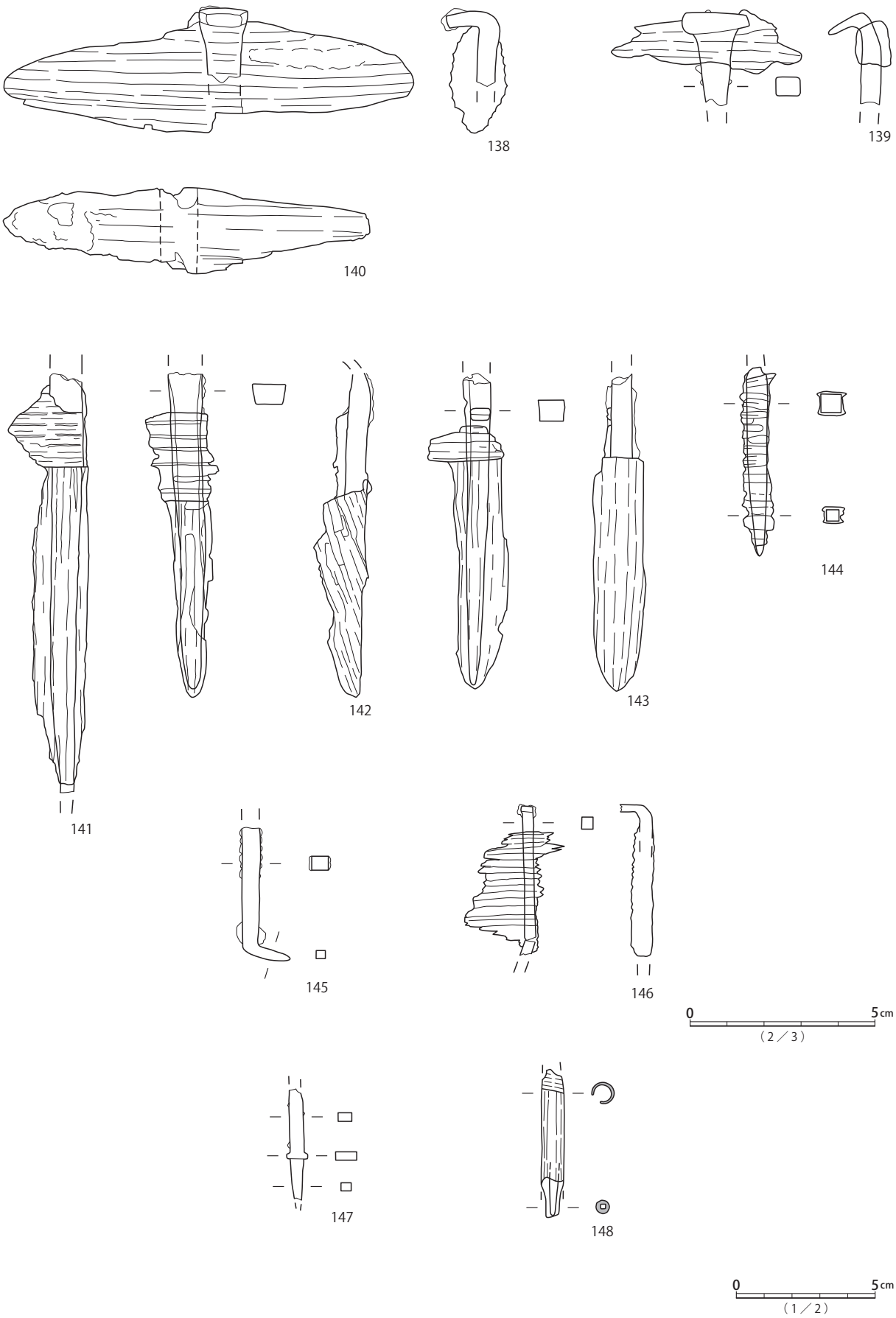
第904図　SM004SK1出土遺物（２）



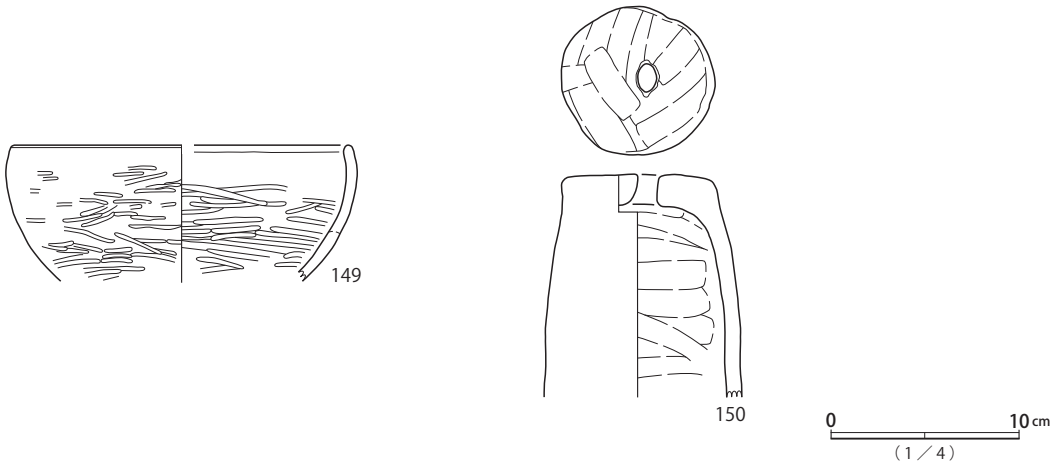
第905図　SM004SK1出土遺物（３）



第906図　SM004SK1出土遺物（４）



第907図　SM004SK1出土遺物（5）



第908図　SM004出土遺物

第298表　SM004SK1出土玉類観察表

単位：㎜

番号	種別	材質	出土位置	高さ（長さ）		径（幅）		孔径		重量（g）	色調	備考
				最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
1	切子玉	水晶	SK1覆土下層	16.9	16.6	13.0	11.5	3.6	1.8	3.84	透明	
2	切子玉	水晶	SK1覆土下層	13.7	13.3	13.4	12.1	3.7	2.2	3.07	透明	
3	切子玉	水晶	SK1覆土下層	14.0	13.9	14.0	11.6	4.2	2.0	2.98	透明	
4	管玉	緑色凝灰岩	SK1覆土下層	16.3	16.1	4.5	4.4	2.2	1.9	0.51	薄青緑	
5	勾玉	滑石	SK1覆土下層	15.0	－	7.5	－	2.6	2.4	0.62	鉄、紺、緑	厚さ3.5㎜
6	勾玉	琥珀	SK1覆土下層	21.0	－	7.1	－	3.0	2.2	0.86	茜、赤銅	厚さ7.0㎜
7	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	33.6	32.8	24.4	18.5	6.3	3.5	6.90	橙、茜、焦茶	
8	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	38.2	37.7	－	6.9	4.0	(3.0)	6.20	赤銅、焦茶	
9	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	32.3	－	－	－	5.2	3.9	6.60	橙、赤銅、焦茶	一部欠損
10	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	30.7	28.9	18.0	16.8	3.5	2.7	6.00	橙、茜、赤銅	
11	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	29.0	－	19.0	11.4	4.9	4.5	4.50	橙、赤銅、焦茶	
12	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	29.6	26.5	18.9	15.0	6.5	2.9	5.00	橙、赤銅、焦茶	
13	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	28.7	28.0	18.0	－	4.0	3.3	4.70	赤銅、焦茶	
14	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	28.1	26.0	17.2	15.0	4.4	4.0	4.10	橙、茜、赤銅	
15	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	[21.0]	－	－	－	－	－	2.40	橙、茜、柿渋	一部欠損
16	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	[21.0]	－	12.3	9.1	3.7	2.5	1.30	茜、赤銅	一部欠損
17	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	17.9	17.4	18.8	9.0	3.0	2.9	1.30	橙、茜	
18	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	16.9	－	12.2	10.5	3.1	2.8	1.50	茜、赤銅	
19	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	[15.3]	－	13.4	9.8	3.1	2.8	1.00	茜、赤銅	一部欠損
20	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	[10.7]	－	13.9	13.0	(5.0)	4.1	0.50	橙、茜、赤銅	一部欠損
21	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	12.4	11.0	10.0	7.0	2.9	2.9	0.60	橙、赤銅	
22	棗玉	琥珀	SK1覆土下層	[13.0]	－	8.8	7.1	3.8	2.4	0.40	茜、赤銅	一部欠損
23	棗玉	不明	SK1覆土下層	23.9	19.4	13.8	12.5	4.4	3.3	2.84	黒	
24	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.6	5.1	6.8	5.7	2.7	2.1	0.30	青緑	
25	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.6	5.5	6.5	5.8	2.0	1.7	0.30	紺	
26	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.8	5.2	5.5	5.0	2.2	1.8	0.20	青緑	
27	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.7	2.5	5.4	4.1	1.8	1.5	0.08	薄青緑	
28	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.6	2.2	4.6	3.8	1.3	1.1	0.06	薄水	
29	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.8	1.8	4.5	4.0	1.3	1.3	0.04	薄水	
30	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	4.0	4.4	3.5	1.4	1.2	0.10	薄青緑	
31	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.6	2.5	4.4	4.2	1.5	1.4	0.07	薄青緑	
32	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.9	3.0	4.4	3.4	1.4	1.1	0.07	水	
33	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.2	2.1	4.4	4.2	1.0	0.7	0.05	青	
34	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.3	2.3	4.4	4.1	1.0	1.0	0.05	水	
35	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.7	2.6	4.4	3.6	1.5	1.0	0.05	水	
36	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.2	1.8	4.3	3.8	1.2	1.2	0.06	水	
37	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.8	2.2	4.3	4.0	1.5	1.5	0.05	水	
38	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.1	2.0	4.3	3.4	0.9	0.7	0.05	紺	
39	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.5	2.5	4.3	3.8	1.2	1.0	0.04	水	
40	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.4	3.2	4.2	3.5	1.5	1.5	0.07	薄青緑	
41	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.5	2.5	4.2	4.1	1.3	1.3	0.05	水	
42	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.2	2.2	4.2	3.7	1.5	1.5	0.05	水	
43	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.4	2.4	4.2	3.6	1.3	1.0	0.05	濃緑	
44	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.2	2.2	4.2	4.0	1.1	1.1	0.04	水	

単位：mm

番号	種別	材質	出土位置	高さ（長さ）		径（幅）		孔径		重量（g）	色調	備考
				最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
45	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.7	2.5	4.2	3.8	1.5	1.2	0.04	薄青緑	
46	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.3	2.3	4.0	3.9	1.0	1.0	0.07	水	
47	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.7	2.4	4.0	3.3	1.5	1.4	0.07	濃緑	
48	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.2	2.2	4.0	4.0	1.0	1.0	0.06	水	
49	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.7	2.6	4.0	4.0	1.3	1.1	0.06	水	
50	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.1	2.0	4.0	3.8	1.1	1.1	0.06	水	
51	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.5	2.5	4.0	3.3	1.1	1.0	0.06	青	
52	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.5	2.5	4.0	4.0	1.1	1.1	0.05	青	
53	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.5	2.4	4.0	3.6	1.4	1.4	0.05	水	
54	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.2	2.0	4.0	3.8	1.5	1.5	0.04	水	
55	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.1	2.1	4.0	3.9	1.5	1.0	0.03	青	
56	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.8	1.7	4.0	3.8	1.2	1.2	0.03	水	
57	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.6	1.5	4.0	3.2	1.2	1.0	0.03	水	
58	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.8	1.8	3.9	3.6	1.1	1.1	0.07	水	
59	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.7	2.7	3.9	3.2	1.6	1.0	0.06	青	
60	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.6	2.2	3.9	3.5	1.2	1.2	0.05	青	
61	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.8	1.7	3.9	3.5	1.1	1.0	0.05	青	
62	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.4	2.2	3.9	3.7	1.0	1.0	0.04	青	
63	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.1	2.0	3.9	3.3	1.2	1.0	0.04	青	
64	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.5	2.3	3.9	3.1	1.4	1.2	0.03	水	
65	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.0	2.0	3.8	3.7	1.3	1.1	0.05	青	
66	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.2	1.7	3.8	3.5	1.1	0.9	0.04	水	
67	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.1	2.1	3.8	3.5	1.2	1.2	0.04	水	
68	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.0	2.0	3.8	3.2	1.1	1.1	0.04	青	
69	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.7	2.4	3.8	3.0	1.8	1.0	0.04	薄水	
70	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.3	2.1	3.8	3.7	1.8	1.3	0.03	薄水	
71	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.6	1.6	3.8	3.7	1.2	1.1	0.03	青	
72	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.6	2.5	3.8	3.4	0.9	0.9	0.03	青	
73	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.4	2.2	3.8	3.4	1.1	1.1	0.03	濃緑	
74	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.5	2.5	3.8	3.3	1.1	1.0	0.03	青	
75	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.5	1.4	3.8	3.3	1.2	1.2	0.03	薄青緑	
76	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.0	2.7	3.7	3.5	1.0	1.0	0.06	青	
77	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.5	2.5	3.7	3.3	1.0	1.0	0.06	水	
78	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.4	2.3	3.7	3.2	0.9	0.8	0.06	水	
79	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.5	2.5	3.7	3.7	1.0	1.0	0.05	青	
80	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.0	2.7	3.7	3.4	1.1	1.1	0.05	紺	
81	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.5	2.3	3.7	3.5	1.1	1.0	0.04	薄青緑	
82	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.6	2.5	3.7	3.4	1.3	1.0	0.04	薄青緑	
83	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.8	1.7	3.7	3.5	1.6	1.0	0.03	薄青緑	
84	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.0	1.9	3.7	3.4	1.7	1.5	0.03	水	
85	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.6	2.4	3.7	3.3	0.8	0.8	0.03	青	
86	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.9	1.9	3.7	3.3	1.2	1.2	0.03	水	
87	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.3	2.1	3.6	3.6	1.2	1.1	0.05	水	
88	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.5	2.1	3.6	3.6	1.3	1.2	0.04	水	
89	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.5	2.1	3.6	3.5	1.3	1.3	0.04	薄青緑	
90	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.3	2.2	3.6	3.4	1.1	1.1	0.04	薄青緑	
91	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.0	1.8	3.6	3.5	1.2	1.2	0.03	薄青緑	
92	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.4	2.3	3.6	3.4	1.0	0.7	0.03	青	
93	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.2	2.2	3.6	3.4	0.8	0.8	0.03	青	
94	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.1	2.1	3.5	3.5	0.8	0.8	0.06	青	
95	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.0	2.0	3.5	3.4	1.1	1.1	0.04	青	
96	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.4	2.3	3.5	3.3	1.2	1.0	0.04	薄水	
97	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.0	1.8	3.5	3.5	1.5	1.5	0.03	水	
98	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.4	2.3	3.5	3.5	1.4	1.3	0.03	薄青緑	
99	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.7	1.6	3.5	3.0	1.0	1.0	0.03	水	
100	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.6	1.5	3.5	3.0	1.2	1.1	0.03	水	
101	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.0	1.6	3.5	3.0	1.0	0.8	0.02	水	
102	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.9	1.8	3.5	3.0	0.8	0.8	0.02	水	
103	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.7	1.7	3.4	3.2	1.1	1.1	0.03	薄青緑	
104	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.9	1.9	3.4	3.0	0.9	0.9	0.03	水	
105	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.2	2.1	3.4	3.3	1.2	1.2	0.02	水	
106	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.7	2.7	3.3	3.0	1.4	1.1	0.06	青緑	
107	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.5	2.5	3.3	3.1	1.3	1.3	0.04	青	
108	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.3	2.2	3.3	3.0	1.1	1.1	0.03	薄青緑	
109	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.9	1.8	3.0	2.8	0.9	0.9	0.02	水	
110	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.1	2.0	2.8	2.6	1.1	1.0	0.03	水	

単位：mm

番号	種別	材質	出土位置	高さ（長さ）		径（幅）		孔径		重量（g）	色調	備考
				最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
111	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.9	1.8	2.8	2.3	1.2	1.0	0.02	薄青緑	
112	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.5	2.5	2.6	2.6	0.9	0.9	0.03	薄青緑	
113	小玉	ガラス	SK1覆土下層	1.9	1.7	2.6	2.4	1.0	1.0	0.02	薄青緑	
114	臼玉	滑石	SK1覆土下層	4.4	3.5	7.8	7.8	2.7	2.7	0.40	黒褐	
115	臼玉	滑石	SK1覆土下層	4.8	4.3	8.2	7.1	3.0	2.4	0.50	黒褐	
116	臼玉	滑石	SK1覆土下層	5.7	3.1	7.2	7.4	3.1	3.0	0.40	黒褐	
117	臼玉	滑石	SK1覆土下層	6.2	5.7	7.8	7.3	3.0	3.0	0.40	褐灰	
118	臼玉	滑石	SK1覆土下層	6.4	5.5	7.5	7.5	3.0	2.9	0.30	にぶい黄褐	
119	臼玉	滑石	SK1覆土下層	6.9	4.7	8.8	8.0	3.0	2.6	0.60	暗灰黄	
120	臼玉	滑石	SK1覆土下層	5.3	4.5	8.0	8.0	3.2	3.0	0.40	褐灰	
121	臼玉	滑石	SK1覆土下層	4.0	3.4	8.5	7.8	3.0	2.7	0.50	黒褐	

第299表　SM004SK1出土金属製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
122	釘	SK1覆土下層	119.0	7.2	4.8	19.10	釘と木目が平行する板材付着
123	釘	SK1覆土下層	104.0	7.6	6.0	24.40	釘と木目が直交・平行する2片の板材付着
124	釘	SK1覆土下層	108.0	7.5	6.5	19.70	釘と木目が直交・平行する2片の板材付着
125	釘	SK1覆土下層	98.0	8.0	7.0	20.00	釘と木目が直交・平行する2片の板材付着
126	釘	SK1覆土下層	98.0	8.2	6.0	16.80	釘と木目が直交・平行する2片の板材付着
127	釘	SK1覆土下層	94.0	8.0	7.5	30.80	釘と木目が直交・平行する2片の板材付着
128	釘	SK1覆土下層	104.0	8.8	6.5	19.40	釘と木目が直交・平行する2片の板材付着
129	釘	SK1覆土下層	101.0	7.5	7.5	21.40	釘と木目が直交・平行する2片の板材付着
130	釘	SK1覆土下層	100.0	7.8	5.2	23.70	板材付着
131	釘	SK1覆土下層	86.0	7.0	5.0	11.60	板材付着
132	釘	SK1覆土下層	75.0	6.0	4.5	12.30	釘と木目が直交する板材付着
133	釘	SK1覆土下層	[63.0]	6.5	6.0	12.70	釘と木目が直交する板材付着
134	釘	SK1覆土下層	[56.5]	6.2	6.0	27.50	釘と木目が直交する板材付着
135	釘	SK1覆土下層	[53.0]	8.0	7.0	26.40	釘と木目が直交する板材付着
136	釘	SK1覆土下層	[36.5]	11.5	5.0	21.70	釘と木目が直交する板材付着
137	釘	SK1覆土下層	[24.5]	8.2	6.8	22.50	釘と木目が直交する板材付着
138	釘	SK1覆土下層	[20.0]	9.0	4.8	22.40	釘と木目が直交する板材付着
139	釘	SK1覆土下層	[25.0]	5.5	5.0	6.10	釘と木目が直交する板材付着
140	釘	SK1覆土下層	－	10.0	8.0	18.30	釘跡のある板材
141	釘	SK1覆土下層	[112.0]	7.5	6.5	19.60	釘と木目が直交・平行する2片の板材付着
142	釘	SK1覆土下層	85.0	7.8	4.5	13.80	板材付着
143	釘	SK1覆土下層	[83.0]	6.0	6.0	14.10	釘と木目が直交・平行する2片の板材付着
144	釘	SK1覆土下層	[51.0]	5.5	5.1	3.50	釘と木目が直交する板材付着
145	釘	SK1覆土下層	[42.0]	4.5	3.8	2.00	
146	釘	SK1覆土下層	[40.0]	2.8	3.0	3.40	釘と木目が直交する板材付着

第300表　SM004SK1出土鉄鏃観察表

単位：mm

番号	種別	出土位置	全長	鏃身長	逆棘長	鏃身幅	鏃身厚	別造片腸抉	頸部長	頸部幅	頸部厚	関部幅	茎部長	茎部幅	茎部厚	重量(g)	備考
147	長頸鏃	SK1覆土下層	[40.0]	－	－	－	－	－	[25.0]	5.0	3.0	7.0	[15.0]	3.0	2.8	1.30	
148	長頸鏃	SK1覆土下層	[53.0]	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2.5	2.5	1.80	

第301表　SM004出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
149	土師器 坏	周溝覆土下層	口　径：(17.6) 底　径：　－ 器　高：[7.2] 最大径：(18.6)	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ	胎　土：白色粒・長石・黒色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：口縁部～体部の破片	
150	土師器 不明	SK1覆土下層	口　径：　7.6 底　径：　－ 器　高：[11.4] 最大径：　－	特徴：受け部焼成前穿孔あり 外面：器受部ヘラナデ、胴部～底部ナデ 内面：胴部～底部ヘラナデ	胎　土：角閃石・長石・石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：胴部～底部の1/2	

SM005（第909図、図版138）

方墳である。盛土は残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**Ｅ区６Ｋグリッドを中心とする南向き斜面に位置する。北側約３ｍにSM007が隣接する。**重複：**SI031 ～ SI033・SI035・SI048・SI051・SI052を切る。**規模：**北辺7.56m、東辺（6.00）m、西辺（6.06）m。周溝を含めた総長は、北辺11.46m、東辺（7.20）m、西辺（7.08）m。**主軸方位：**東西方向を主軸と仮定し、Ｎ-84°-Ｗ。

墳丘：残存しない。

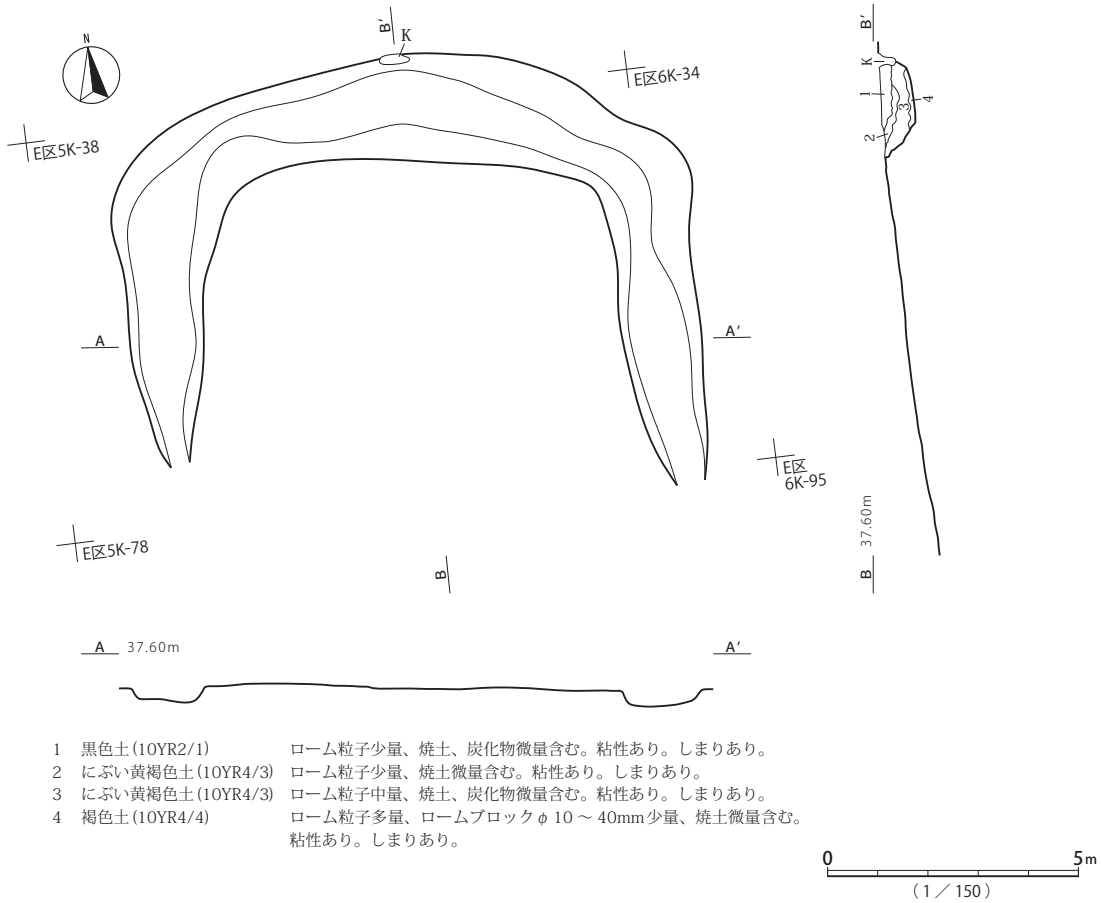
周溝：南側を消失し、「コ」の字状に巡る。幅0.66 ～ 2.16m。確認面からの深度0.09 ～ 0.78m。断面形態は平坦な底面から壁面は逆台形状に立ち上がる。覆土は最下層に褐色土（４層）が堆積し、その上層にはにぶい黄褐色土（２・３層）、最上層には黒色土（１層）がレンズ状に堆積している。

埋葬施設：検出されなかった。

時期：周囲で検出された方墳の平面形態や周溝の断面形態から５世紀代と推測される。

所見：周溝のみが検出された。盛土は耕作や地滑り等により消失しているが、約８ｍ四方の墳丘を有する方墳であったと推測される。東西の両周溝は途中から消失しているため、南周溝が存在していたのか、あるいは南側は低位であることから地山削り出しのテラス構造等であったのか、確認することはできなかった。

遺物：土器4,606.0g、須恵器92.0g、石器・石製品1.79g、縄文土器391.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第909図　SM005

SM006（第910図、図版139）

方墳である。盛土は残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**Ｅ区６Ｋグリッドを中心とする南向き斜面に位置する。東側約２ｍにSM003、約４ｍにSM010、北側約９ｍにSM004が隣接する。**重複：**SI048・SI050・SI051、SK032を切る。**規模：**北辺9.78m、東辺（3.72）m、西辺（3.24）m。周溝を含めた総長は、北辺12.18m、東辺（6.90）m、西辺（4.56）m。**主軸方位：**東西方向を主軸と仮定し、Ｎ-80°-Ｅ。

墳丘：残存しない。

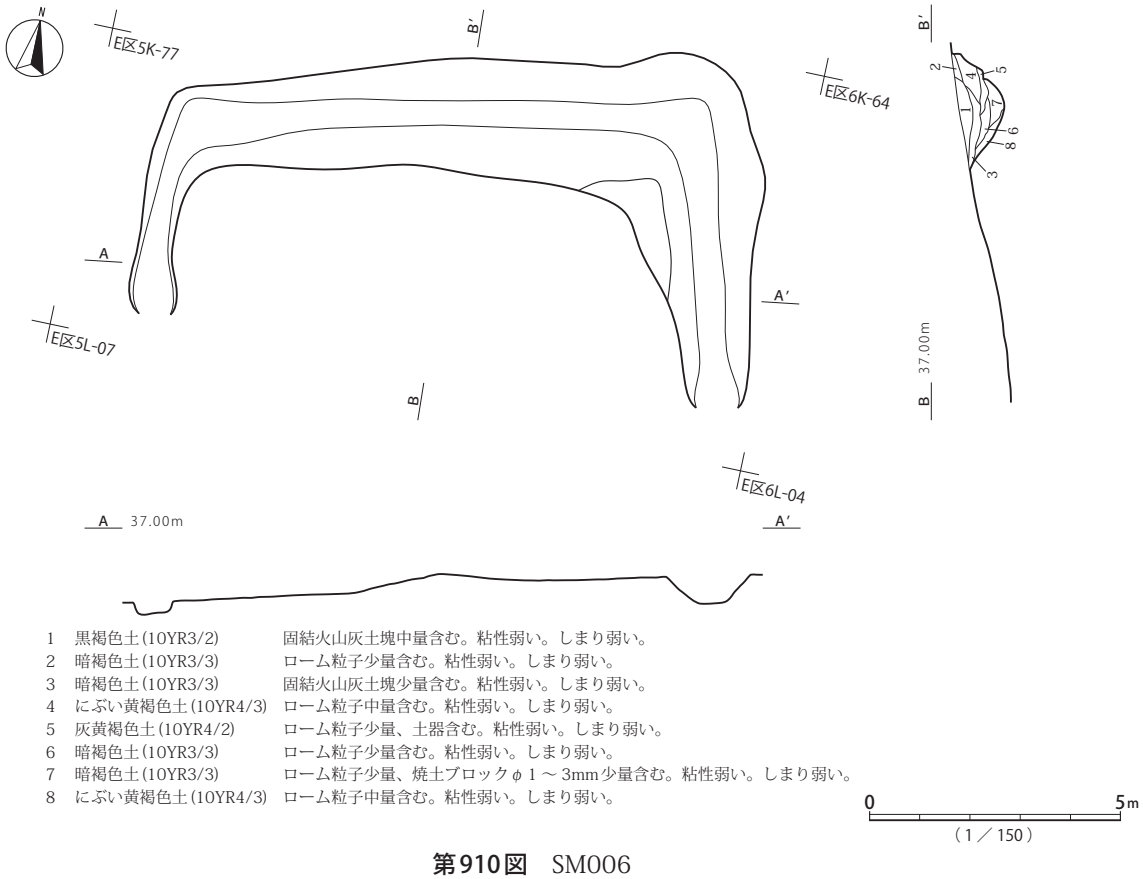
周溝：南側を消失し、「コ」の字状に巡る。幅0.72 ～ 2.64m。確認面からの深度0.25 ～ 1.15m。断面形態は平坦な底面から壁面は逆台形状に立ち上がる。覆土は下層が灰黄褐色土や暗褐色土、にぶい黄褐色土（５～８層）、上層は黒褐色土や暗褐色土などが堆積する（１～４層）。４・８層のにぶい黄褐色土は墳丘や壁面からの崩落土であろうか。

埋葬施設：検出されなかった。

時期：時期を明確に示す遺物の出土はないが、周溝の形態から７世紀代と考えられる。

所見：周溝のみが検出された。盛土は耕作や地滑り等により消失しているが、約10m四方の墳丘を有する方墳であったと推測される。北周溝の総長から考えると東西の両周溝は半分以上が消失しているため、南周溝が存在していたのか、あるいは南側は低位であることから地山削り出しのテラス構造等であったのか、確認することはできなかった。

遺物：土器2,828.3g、須恵器4.0g、石器・石製品114.58g、縄文土器297.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　黒褐色土(10YR3/2)　固結火山灰土塊中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　暗褐色土(10YR3/3)　固結火山灰土塊少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、土器含む。粘性弱い。しまり弱い。
6　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
7　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量、焼土ブロックφ１～３mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　5m
（１／150）

第910図　SM006

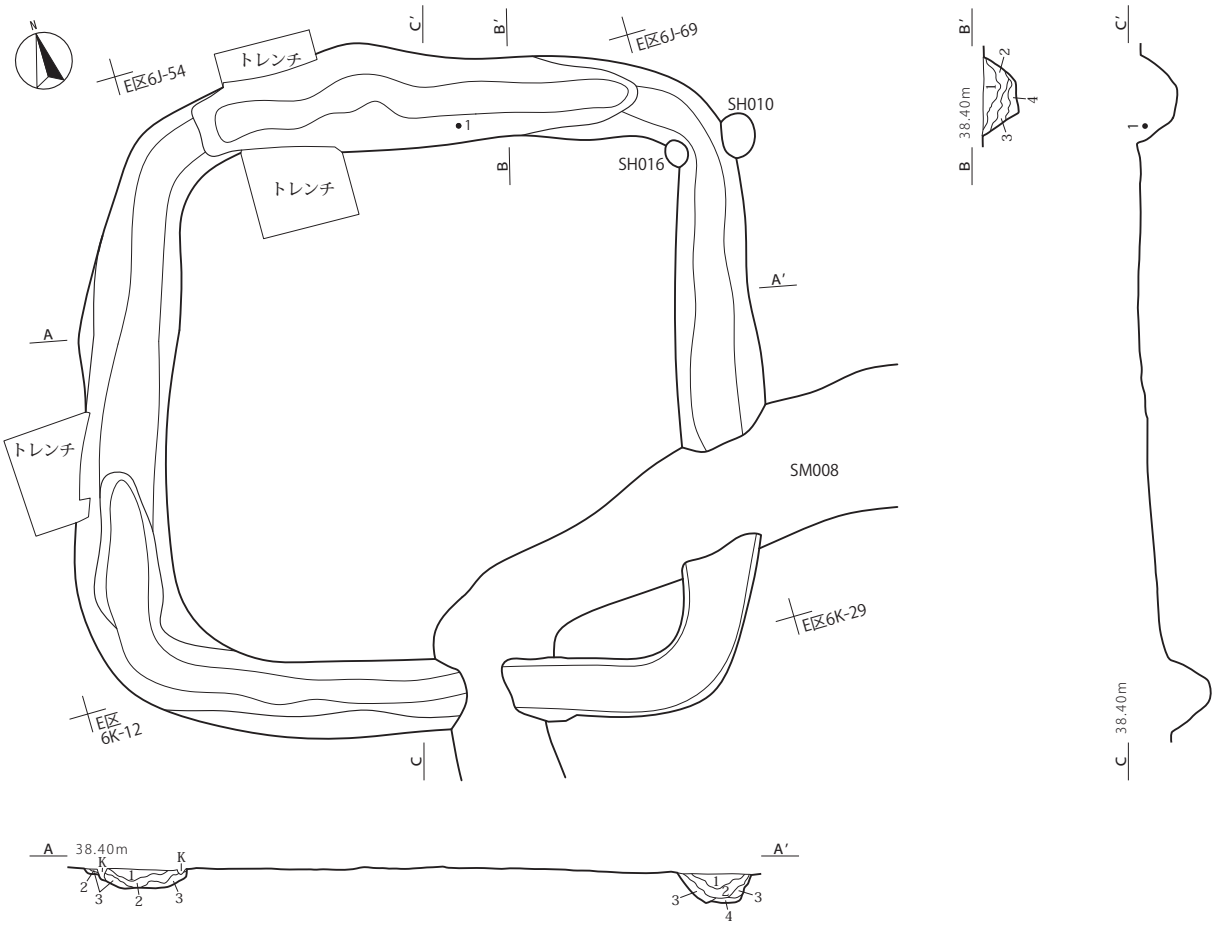
SM007（第911・912図、第302表、図版139・140・156）

方墳である。盛土は残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**Ｅ区６Ｊグリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。南側約２ｍにSM009、約３ｍにSM005、南東側約６ｍにSM012、北東側約３ｍにSM011が隣接する。**重複：**SI016・SI017・SI019・SI020・SI036・SI037・SI039～SI041を切り、SM008に切られる。**規模：**南辺10.14m、北辺9.96m、東辺10.38m、西辺10.14m。周溝を含めた総長は、南辺13.50m、北辺12.84m、東辺12.90m、西辺12.78m。**主軸方位：**東西方向を主軸と仮定し、N－73°－W。

墳丘：残存しない。

周溝：全周する。幅1.26～2.16m。確認面からの深度0.17～0.72m。断面形態は、平坦な底面から壁面は緩やかに立ち上がるが、北周溝のみ底面が0.30mほど一段低くなる。覆土は最下層に灰黄褐色土（４層）が、その上位にはにぶい黄褐色土（２・３層）、最上層には黒色土（１層）がレンズ状に堆積している。

埋葬施設：検出されなかった。



1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10～20mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒色土中量、ロームブロックφ10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒色土少量、ロームブロックφ60mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ20～70mm少量、黒色土微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　5m
（1／150）

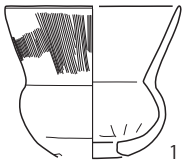
第911図　SM007

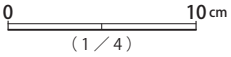
時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期３段階（５世紀中葉）と考えられる。

所見：周溝のみが検出された方墳である。北周溝の中央では覆土中から坩（１）が出土している。底面で検出された段差からは埋葬施設の設置を示す痕跡は認められなかった。

遺物：土器7,981.0g、石器・石製品30.15g、縄文土器930.0gが出土した。

１の口縁部外面にはハケメ調整が、底部外面にはヘラケズリが施される。





第912図　SM007出土遺物

第302表　SM007出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坩	周溝覆土 中層	口　径：　9.2 底　径：　－ 器　高：　[8.0] 最大径：　－	特徴：底部焼成後穿孔あり 外面：口縁部ヨコナデ・ハケメ、頸部～胴部ナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	

SM008（第913～918図、第303～307表、図版139～142・156・157・160）

２基の埋葬施設を持つ方墳である。盛土は残存していない。**位置：**Ｅ区６Ｋグリッドを中心とする平坦面から南向き緩斜面に位置する。南側約１ｍにSM010が隣接する。**重複：**SM007・SM012、SI037・SI039～SI041・SI043・SI052～SI054・SI056・SI057・SI059、SK050を切る。**規模：**南辺12.24m、北辺10.44m、東辺11.52m、西辺12.12m。周溝を含めた総長は、南辺14.04m、北辺15.30m、東辺13.80m、西辺13.92m。**主軸方位：**Ｎ-88°-Ｅ。

墳丘：残存しない。

周溝：南西隅を除き全周する。幅0.42～2.82m。確認面からの深度0.06～1.24m。断面形態は平坦な底面から壁面は逆台形状に立ち上がるが、北周溝の中央部のみ底面が0.20mほど一段低くなる。覆土は最下層が褐色土（９層）であり、墳丘や壁面の崩落土と考えられる。その上位には黒褐色土や暗褐色土が（２～８層）、最上層には黒色土（１層）が堆積している。

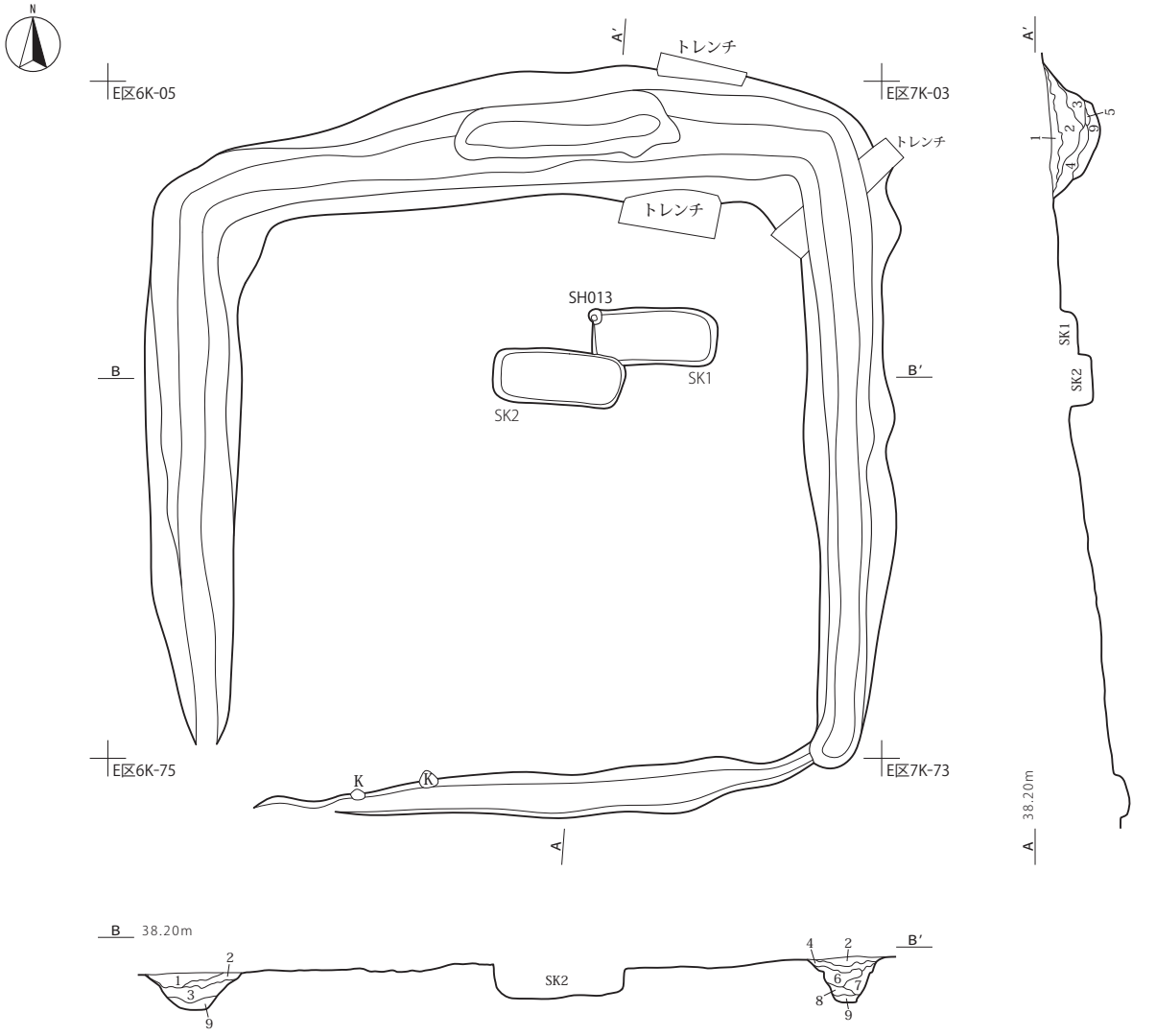
埋葬施設：方台部において２基（SK1・SK2）検出された。

SK1は北東隅寄りで検出された。SI042aの覆土である黒褐色土を掘り込んで構築され、ロームブロックを含む埋め戻し土が充填されていたことから平面プランの把握は容易であった。南西隅でSK2と重複し、SK1が切ることを遺構検出時に確認している。

掘り方の規模は長軸2.60m、短軸1.20m、確認面からの深度0.45m。長軸方位はＮ-89°-Ｗ。平面形態は長方形で底面は平坦、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は１～３・５・６・８層にロームブロックを含み、人為的な埋め戻しは確認できるものの棺部の痕跡は捉えることができなかった。

遺物は直刀１点（１）、鉄鏃２束55点（２～14の13点以外は小破片のため図示せず）、刀子１点（15）が出土している。

直刀は掘り方中央北寄りから、切先を西に、刃を南に向けて出土した。茎尻部に密着して、鞘口あるいは環頭と考えられる鉄環が出土している。鉄鏃は２束、直刀の北側で切先側と柄側から出土し、どちらの束も刃部を東に向けている。刀子は掘り方南東隅寄りから出土しているが、切先や刃の向きは確認できなかった。直刀や鉄鏃の出土位置から被葬者の頭位は東であったと推測される。また、遺物は掘り方の底面から高さ29～45㎝の間に集中しており（１～３層）、底面に遺体や副葬品を安置



1　黒色土(10YR2/1)　黒褐色土、固結火山灰土塊少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　にぶい黄褐色土少量、ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子中量、ロームブロックφ5mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
7　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子中量、固結火山灰土塊、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
8　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
9　褐色土(10YR4/6)　暗褐色土、ロームブロックφ10～50mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　5m
（1／150）

第913図　SM008

したとは考えにくい。ローム面を目指して掘り込んだものの、下位には竪穴建物SI042aが存在することからローム面に到達しないため掘削をやめ、４～８層を充填したのちに遺体や副葬品を安置した可能性がある。

SK2は中央北寄り、SK1の南西側で検出された。掘り方の規模は長軸2.72m、短軸1.14m、確認面からの深度0.76m。長軸方位Ｎ-85°-Ｗ。平面形態は長方形で底面は平坦、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は１～４層の全てにロームブロックを含み、SK1同様に人為的な埋め戻しは確認できるものの棺部の痕跡は捉えることができなかった。

遺物は直刀１点（18）が掘り方中央南寄りから出土している。切先を欠損するが、西向きで、刃は南に向けている。このことから被葬者の頭位は東にあったと推測される。掘り方の底面はSI042aの覆土中であり、SK1と同様にローム面まで到達することはない。しかしながら直刀は底面直上から出土しており、SK1の状況とは異なる。

時期：時期を明確に示す遺物の出土はないが、周溝の形態から７世紀代と考えられる。

所見：２基の埋葬施設が検出された方墳である。墳丘は残存していないが、検出された埋葬施設の深度から考えると盛土はそれほど高く積み上げられていなかったと推測される。北周溝中央の底面で確認された段差からは埋葬施設の設置を示す痕跡は認められなかった。南西隅で周溝が陸橋状に途切れているが、これは斜面の低位にあたり、地滑りや削平等による消失と考えられる。

遺物：SK1からは鉄製品1,348.00gが出土している。

１は切先から茎尻まで95.7㎝ある長大な直刀である。上身部は平造りで、切先のふくらはわずかである。切先側が幅、厚さともやや狭くなるが、全体に変化に乏しい。鍔と鏃を伴う。茎部は細めで、茎尻は垂直に切られる。茎尻寄りに目釘孔が１箇所ある。目釘も残存しており、長さ2.6cm、径0.4～0.5cmである。鍔は鉄製で、倒卵形、八窓である。茎尻部に接して鉄製の環が出土している。断面四角形の素材を加工していると考えられるが、繋ぎ目は不明である。環頭もしくは鞘口と考えられる。

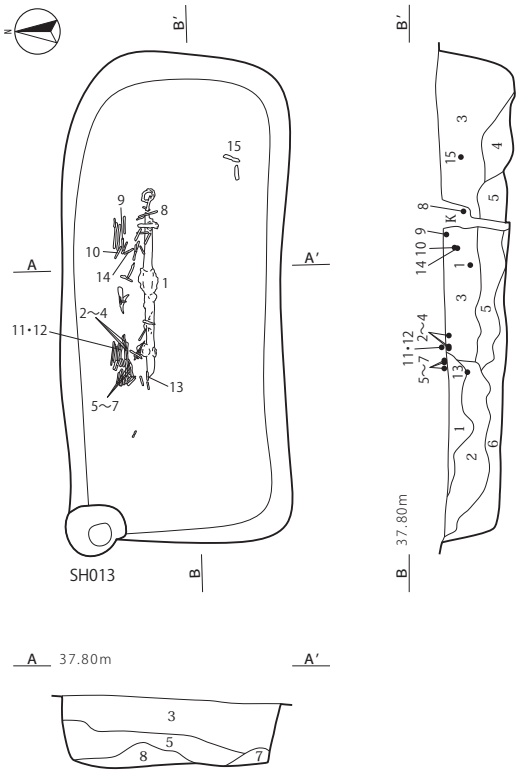
２～14は有頸・有茎の長頸鏃である。鏃身部から茎まで完存するものはなく、すべて破片で出土した。鏃身部のある２～４・６・８は片刃形で、断面も片刃造りである。鏃身関は刃側がナデ関で、背関は見られない。頸部関の形態は、４は茎部寄りが緩やかに広がる台形関であるが、９・10は小突起が外側に張り出す棘関であり、両者が混在している。茎部は６点に矢柄が残存しており、外側は樹皮巻が見られる。15は刀子である。茎部を欠損している。刃部は厚目で、砥減り等はない。

SK2からは鉄製品563.30gが出土している。

16は直刀である。切先を欠損している。上身部は平造りで、刀身はSK1出土直刀（１）と同様に切先側が幅、厚さともやや狭くなるが、全体に変化に乏しい。背側は関がなく、茎部に連なる。刃関は湾曲するように緩やかに切られる。茎部は比較的に幅広で、目釘孔が１箇所穿たれる。茎尻は半損するが、残存部は丸味を帯びる。

周溝からは土器11,762.3g、土製品3.11g、石器・石製品130.22g、縄文土器2,390.0gが出土している。

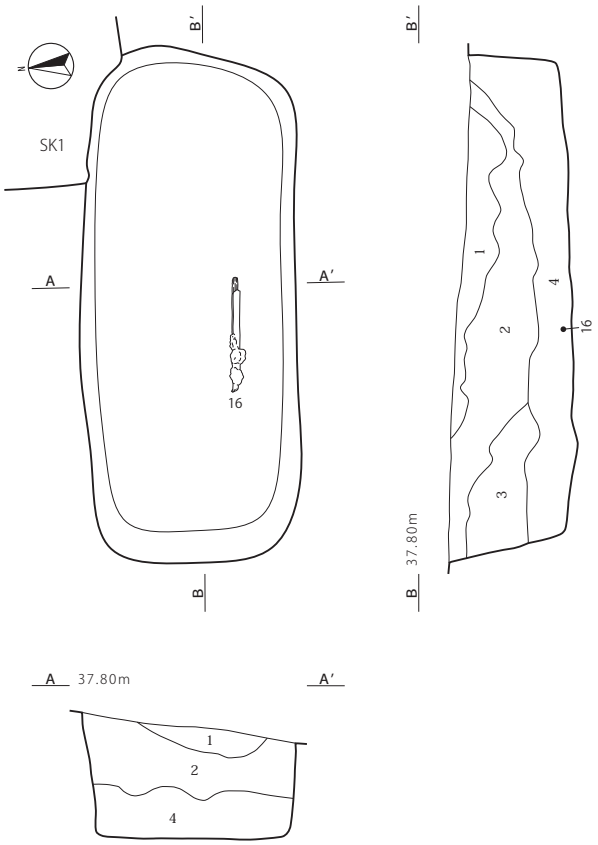
17は土製丸玉である。孔は間口が細長いが貫通部は極小である。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ10～80mm少量、ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ20～60mm中量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子中量、ロームブロックφ10～30mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量、ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
6　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子中量、ロームブロックφ5～10mm微量含む。粘性あり。しまり強い。
7　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり強い。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10～30mm中量含む。粘性あり。しまり強い。

0　1m
（1／40）

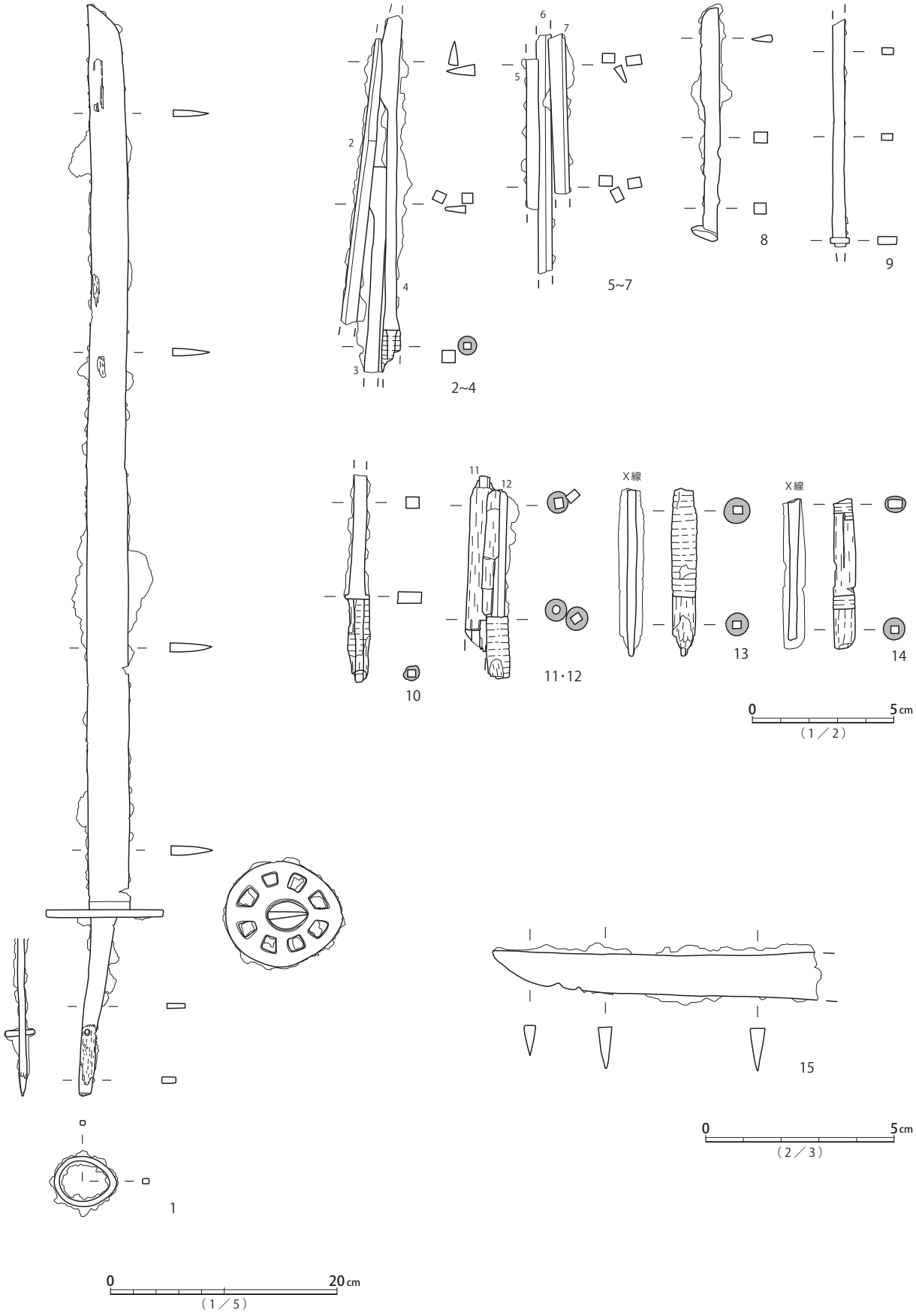
第914図　SM008SK1



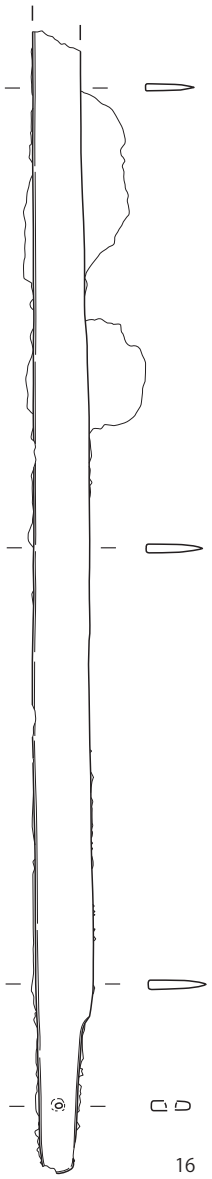
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、ロームブロックφ5～30mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ10～50mm中量、ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性弱い。しまり強い。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ10～60mm中量、ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ5～80mm中量、ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　1m
（1／40）

第915図　SM008SK2

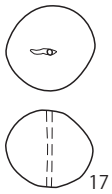


第916図　SM008SK1出土遺物



0　10cm
（1／4）

第917図　SM008SK2出土遺物



0　5cm
（2／3）

第918図　SM008出土遺物

第303表　SM008SK1出土鉄刀観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	全長	刀身長	刀身幅	刀身厚	茎長	茎幅	茎厚	鍔	重量（g）	備考
1	直刀	SK1覆土中層	95.7	79.5	3.6	0.8	16.2	1.6	0.6	長さ：10.3 幅　：　9.3 厚さ：　0.6	928.0	平造り、目釘、鍔、鎺、縁金

第304表　SM008SK1出土鉄鏃観察表

単位：mm

番号	種別	出土位置	全長	鏃身長	逆棘長	鏃身幅	鏃身厚	別造片腸抉	頸部長	頸部幅	頸部厚	関部幅	茎部長	茎部幅	茎部厚	重量(g)	備考
2	片刃形長頸鏃	SK1覆土上層	[101.0]	[21.0]	－	9.0	4.0	－	[80.0]	4.0	3.5	－	－	－	－	34.50	
3	片刃形長頸鏃	SK1覆土上層	[72.0]	[17.0]	－	7.5	3.0	－	[55.0]	5.0	4.2	－	－	－	－	－	
4	片刃形長頸鏃	SK1覆土上層	[125.0]	[32.0]	－	10.0	3.5	－	77.0	4.5	3.8	6.0	[16.0]	4.0	3.0	－	矢柄残存
5	長頸鏃	SK1覆土上層	[52.0]	－	－	－	－	－	[52.0]	4.2	3.5	－	－	－	－	16.30	
6	片刃形長頸鏃	SK1覆土上層	[84.0]	－	－	6.5	2.5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
7	長頸鏃	SK1覆土上層	[56.0]	－	－	－	－	－	[56.0]	4.5	3.5	－	－	－	－	－	
8	片刃形長頸鏃	SK1覆土上層	[83.0]	33.0	－	7.5	2.5	－	[47.0]	4.2	3.8	－	－	－	－	6.20	
9	長頸鏃	SK1覆土上層	[80.5]	－	－	－	－	－	[79.0]	4.0	2.8	6.5	－	－	－	3.50	棘関
10	長頸鏃	SK1覆土上層	73.0	－	－	－	－	－	[44.0]	5.0	3.6	7.5	[29.0]	2.8	2.0	5.60	棘関 矢柄残存
11	長頸鏃か	SK1覆土上層	[62.0]	－	－	－	－	－	－	－	－	－		3.8	3.0	12.80	矢柄残存
12	長頸鏃か	SK1覆土上層	[66.0]	－	－	－	－	－	[45.0]	4.2	3.0	－	[21.0]	3.2	2.8	－	矢柄残存
13	長頸鏃か	SK1覆土上層	[59.0]	－	－	－	－	－	－	－	－	－	[59.0]	3.8	4.0	4.80	矢柄残存
14	長頸鏃か	SK1覆土上層	[53.0]	－	－	－	－	－				－	[50.0]	5.0	3.0	2.70	矢柄残存

第305表　SM008SK1出土金属製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
15	刀子	SK1覆土下層	87.0	12.5	3.5	9.70	刃部の中～切先

第306表　SM008SK2出土鉄刀観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	全長	刀身長	刀身幅	刀身厚	茎長	茎幅	茎厚	鍔	重量（g）	備考
16	直刀	SK2底面	[60.3]	[52.0]	3.0	0.5	8.3	2.1	0.5	－	563.3	平造り、目釘孔0.7

第307表　SM008出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
17	丸玉	周溝覆土中層	直径：1.8　厚さ：1.6　孔径：0.1	3.11	

SM009（第919図）

方墳と推測される。盛土が残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**Ｅ区６Ｋグリッドを中心とする台地の平坦面から南向き斜面に位置する。北側約３ｍにSM007が隣接する。**重複：**SI041・SI055・SI056を切る。**規模：**北辺（3.78）m、東辺（5.76）m。周溝を含めた総長は、北辺（4.29）m、東辺（6.54）m。**主軸方位：**東西方向を主軸と仮定し、Ｎ－88°－Ｗ。

墳丘：残存しない。

周溝：北周溝から北東隅にかけて、また東周溝の一部が検出された。幅0.51 ～ 0.78m。確認面からの深度0.19 ～ 0.32m。断面形態は平坦な底面から壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は下層ににぶ

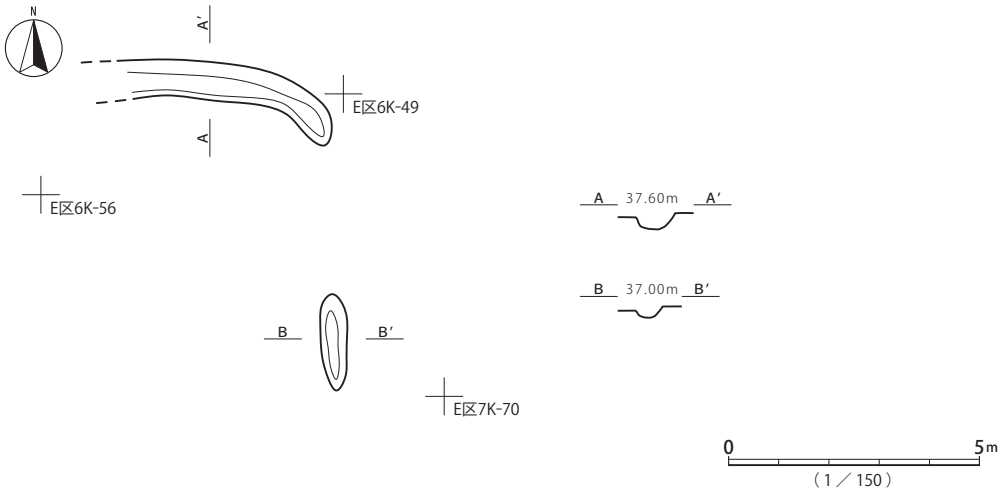
い黄褐色土、最上層に黒褐色土が堆積していたが、深度が浅く、残りが悪いため堆積状況を明確にすることはできなかった。

埋葬施設：検出されなかった。

時期：周囲で検出された同形態の周溝から５世紀代と推測される。

所見：周溝のみが検出された方墳である。検出時の平面プランは不明瞭であったが、Ｌ字状の溝とその屈曲部の延長上に覆土や深度の近似する溝を検出したため、これらを北・東周溝と判断し方墳とした。

遺物：出土していない。



第919図　SM009

SM010（第920～924図、第308～311表、図版139・142・143・156・157・160）

２基の埋葬施設を持つ方墳である。盛土は残存していない。**位置：**Ｅ区７Ｋグリッドを中心とする南向き斜面に位置する。北側約１ｍにSM008、西側約４ｍにSM006が隣接する。**重複：**SI054・SI057・SI069・SI070、SD004を切る。東周溝は調査区外へ伸びる。**規模：**北辺11.52m、東辺（4.80）m、西辺（7.32）m。周溝を含めた総長は、北辺15.06m、東辺（7.68）m、西辺（9.36）m。

墳丘：残存しない。

周溝：南側を消失し、「コ」の字状に巡る。幅0.66～2.64m。確認面からの深度0.31～1.17m。断面形態は平坦な底面から壁面は逆台形状に立ち上がる。覆土は下層が暗褐色土を主体とし（６～８層）、上層はにぶい黄褐色土や灰黄褐色を主体とする（２～５層）。最上層には暗褐色土（１層）が堆積している。

埋葬施設：方台部において１基（SK1）、周溝内で１基（SK2）検出された。SK2は周溝の検出面では確認されず、覆土の掘削後に検出されたことからSM010に伴う周溝内土坑と判断した。

SK1は北東隅寄りで検出された。掘り方の規模は長軸2.94m、短軸1.28m、確認面からの深度0.79m。長軸方位はＮ-89°-Ｗ。平面形態は長方形で底面は南側にテラス状の段差をもつも平坦であり、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は２層にロームブロックを含み、人為的な埋め戻しは確認できるものの棺部の痕跡は捉えることができなかった。

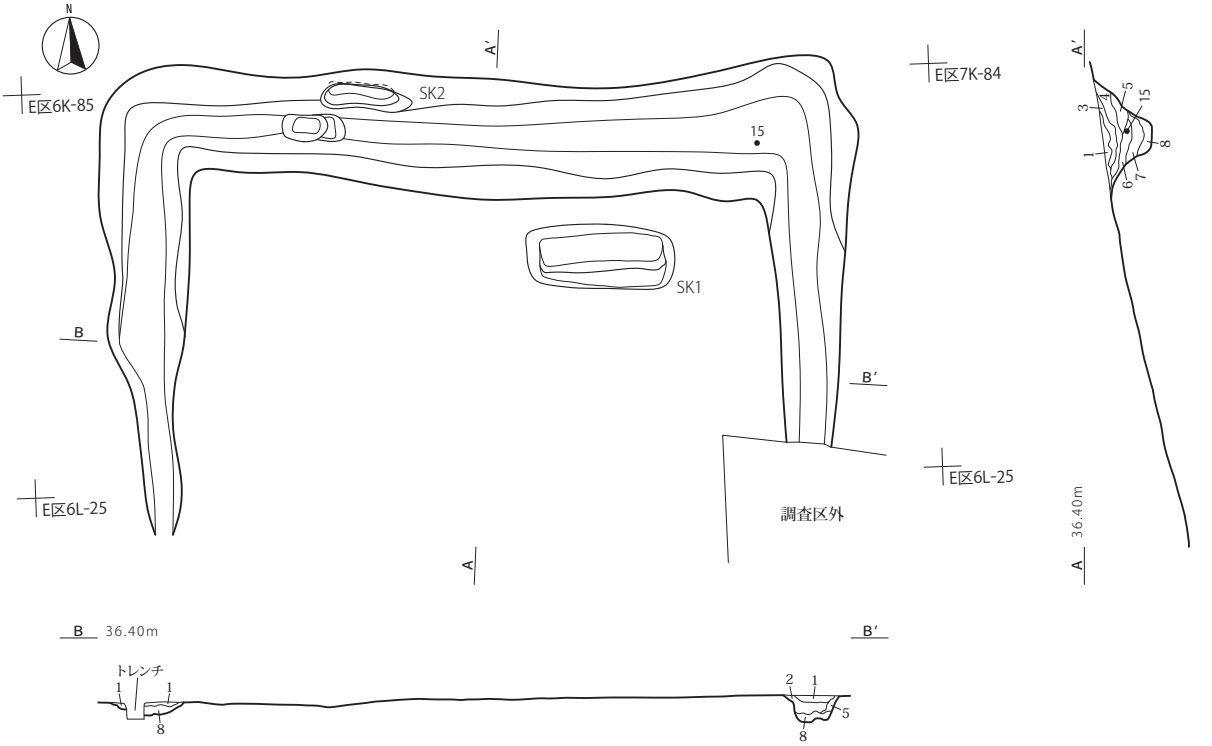
遺物は直刀１点（１）、鉄鏃１束12点（２～13）が出土している。

直刀は掘り方北壁沿いの底面から、切先を西に、刃を南に向けて出土した。切先の西には鞘尻金具が残存している。鉄鏃は直刀の西側で、やはり底面から出土し、刃部を東に向けている。鞍に入れた状態で副葬されたのか、頸部に漆が付着している。これらの出土位置から被葬者の頭位は東にあったと推測される。棺部の痕跡は確認されなかったが、掘り方の底面には段差があり、北側の下段はあたかも棺部の範囲を推測させるようである。

SK2は北周溝の壁面で検出された。規模は長軸1.82m、短軸0.52m、検出最高位からの深度0.57m。長軸方位はＮ－85°－Ｗ。平面形態は長楕円形で底面は平坦、壁面は北側でオーバーハングし、南側はハング部に平行するように立ち上がる。壁面の状況から有天井土坑と考えられる。覆土は１・３層にロームブロックを含み、人為的な埋め戻しが推測される。遺物は出土していない。

時期：出土遺物から７世紀末葉～８世紀初頭と考えられる。

所見：２基の埋葬施設が検出された方墳である。墳丘は残存していないが、約12m四方の方墳であったと推測される。また、SK1の深度から考えると盛土はそれほど高く積み上げられていなかったと考えられる。西に隣接するSM006同様、南周溝が消失している。北周溝の覆土中から須恵器平瓶（15）が出土している。



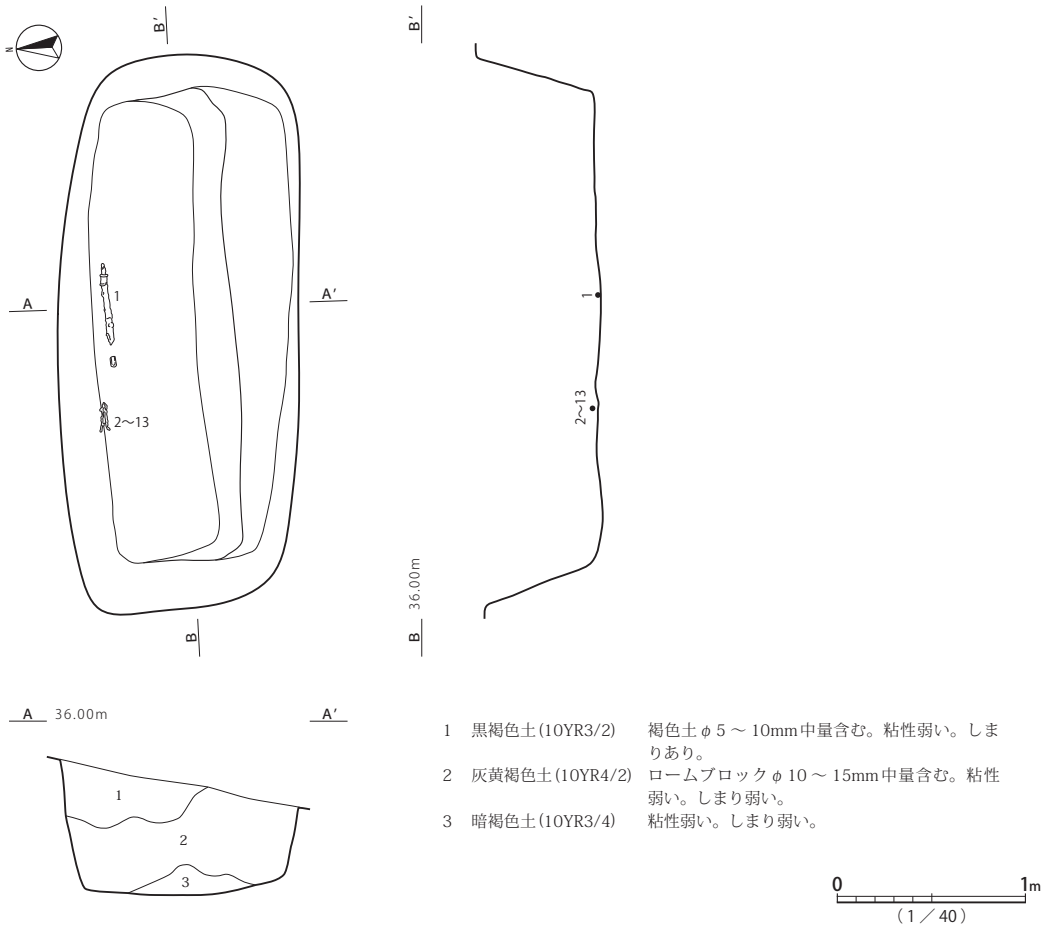
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子中量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ30mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
6　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～40mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
7　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
8　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ20～40mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　5m
（1／150）

第920図　SM010

遺物：SK1からは金属製品367.50gが出土している。

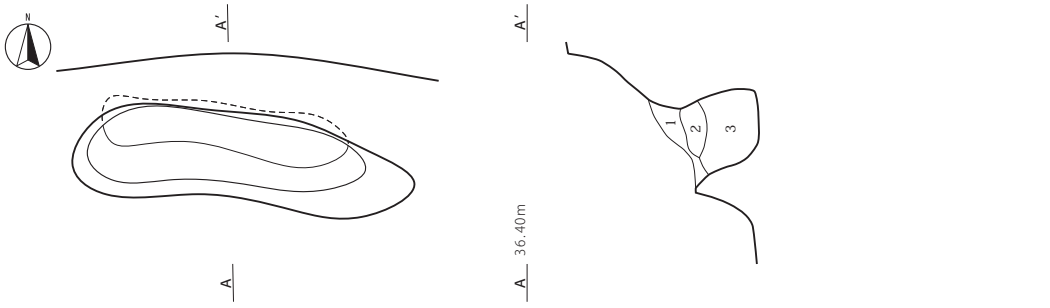
１は直刀である。切先から茎部まで完存している。上身部は平造りで、切先にふくらはなく直線的に切られる。上身部の半ばから切先にかけて、赤色の漆が付着している。茎部の周囲には木質が残存し、これにより関は確認できない。茎部には目釘が残存している。目釘の形状は銹膨れで判然としないが、片側がやや太めである。刀身から茎にかけて４点の環を伴っている。刀身側から細い銅製の環



1　黒褐色土(10YR3/2)　褐色土φ５～10mm中量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ10～15mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　暗褐色土(10YR3/4)　粘性弱い。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

第921図　SM010SK1



1　黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり弱い。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

第922図　SM010SK2

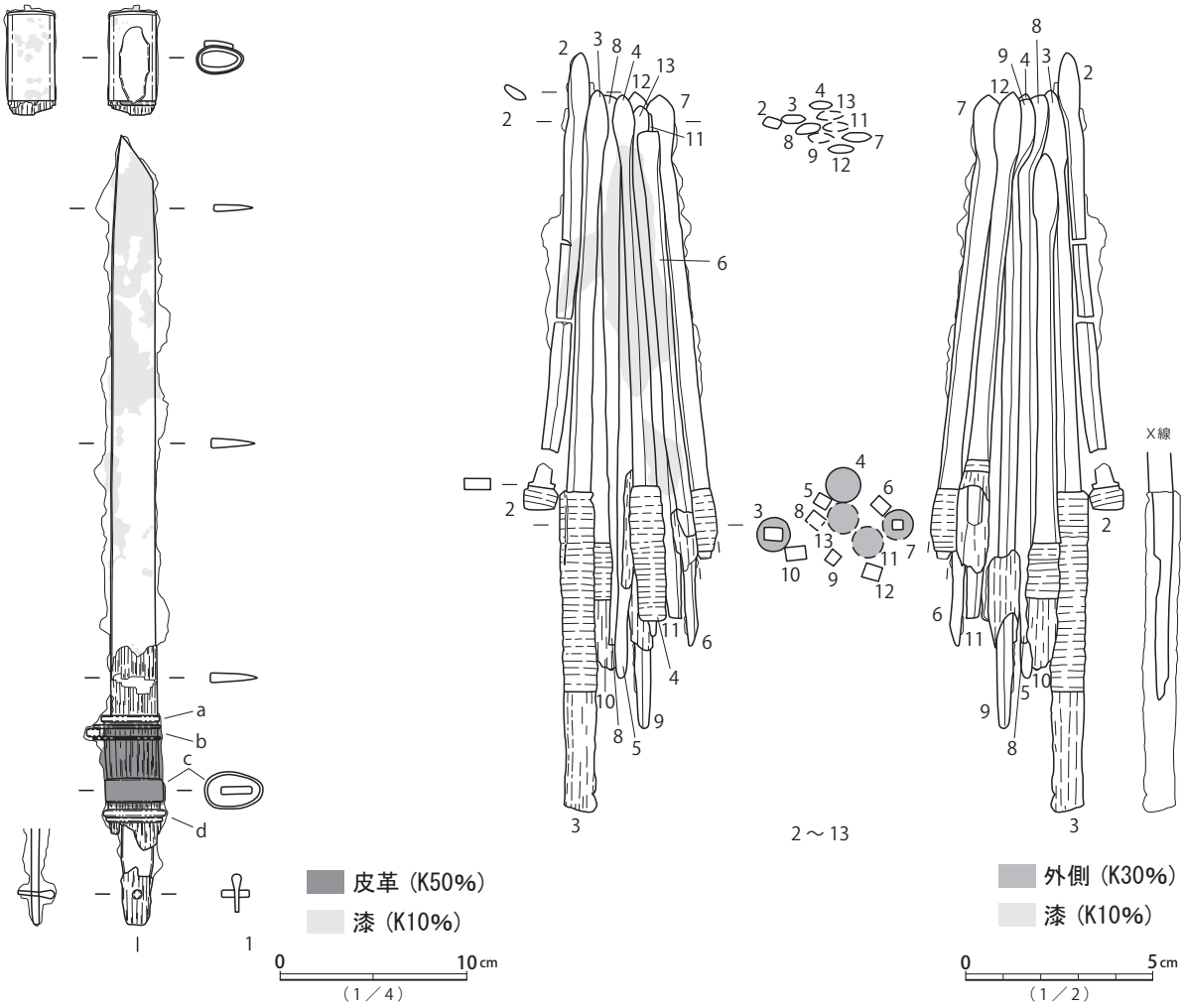
(a)、鉄製の足金 (b)、幅のある銅製の口金 (c)、細い銅製の環 (d) である。足金と口金の間には皮革と考えられる褐色の薄い膜が残存している。鞘尻金具は銅製である。

２～ 13は有頸・有茎の長頸鏃である。12本が癒着している。このうち観察可能な10本の鏃身部は柳葉形である。錆膨れと癒着で詳細な形状は判然としないが、断面は両丸造り、鏃身関はなだらかに頸部に収束するナデ関である。頸部の断面は長方形である。頸部関の形態は、大部分が錆膨れで不明であるが、２は小突起が両端に張り出す棘関である。３・４・５・９は鏃身部から茎尻まで完存し、矢柄は８を除き残存している。

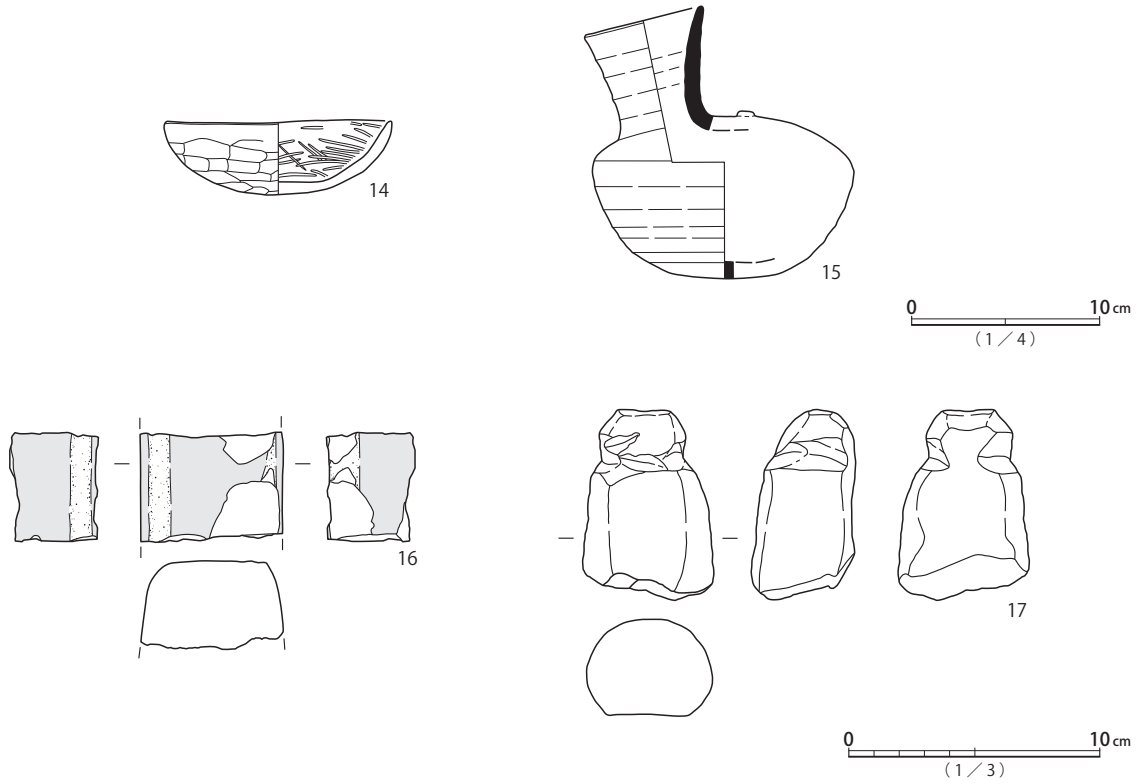
SK2からは遺物は出土していない。

周溝からは土器2,369.7g、須恵器570.8g、石器・石製品330.80g、縄文土器2,008.0gが出土している。

14は土師器の坏、15は須恵器の平瓶である。15の底部はやや丸底で、体部外面中央にはボタン状の突起がある。16は火山礫凝灰岩の磨石である。正面と両側面に弱い磨痕がある。17は黒雲母流紋岩で、上半部に摘みを作出し、全面を研磨している。使用痕は認められず、非実用的な性格であった可能性がある。



第923図　SM010SK1出土遺物



第924図　SM010出土遺物

第308表　SM010SK1出土鉄刀観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	全長	刀身長	刀身幅	刀身厚	茎長	茎幅	茎厚	鍔	重量（g）	備考
1	直刀	SK1底面	42.1	30.9	11.2	0.5	2.3	1.7	0.4	－	232.2	平造り、目釘、銅製鞘尻金具、漆痕

第309表　SM010SK1出土鉄鏃観察表

単位：mm

番号	種別	出土位置	全長	鏃身長	逆棘長	鏃身幅	鏃身厚	別造片腸抉	頸部長	頸部幅	頸部厚	関部幅	茎部長	茎部幅	茎部厚	重量(g)	備考
2	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	[105.0]	19.0	－	8.5	2.5	－	[87.0]	5.0	4.0	6.8	－	－	－	135.30	棘関 矢柄残存
3	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	161.0	17.0	－	6.2	2.5	－	89.0	5.5	4.5	－	55.0	5.0	－	－	矢柄を含め 191.5㎜
4	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	143.5	16.0	－	6.5	2.5	－	87.5	5.5	4.5	－	40.0	－	－	－	矢柄残存
5	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	154.0	－	－	－	－	－	－	4.6	4.2	－	－	3.0	3.0	－	矢柄残存
6	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	[110.0]	－	－	－	－	－	－	4.8	4.0	－	[32.0]	3.0	3.0	－	矢柄残存
7	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	[124.0]	17.0	－	7.5	2.0	－	88.0	5.5	4.5	－	[19.0]	2.5	2.5	－	矢柄残存
8	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3.0	3.0	－	
9	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	165.0	－	－	－	－	－	－	5.0	4.2	－	－	3.5	3.5	－	矢柄残存
10	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	[137.0]	18.0	－	6.5	2.2	－	85.0	4.5	3.8	－	[34.0]	3.2	3.0	－	矢柄残存
11	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3.5	3.5	－	矢柄残存
12	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	[115.0]	18.0	－	7.5	2.5	－	80.0	4.8	4.2	6.0	[18.0]	3.2	3.0	－	矢柄残存
13	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	[150.0]	15.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	矢柄残存

第310表　SM010出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
14	土師器 坏	周溝覆土 上層	口　径：11.8 底　径：－ 器　高：4.0 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：白色粒・長石・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：完存	
15	須恵器 平瓶	周溝覆土 中層	口　径：6.4 底　径：－ 器　高：14.5 最大径：13.9	特徴：体部外面中央にボタン状の突起１箇所 外面：口縁部～体部ロクロ調整、底部回転ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：灰 残存度：ほぼ完存	自然釉付着

第311表　SM010出土石器・石製品観察表

単位：cm

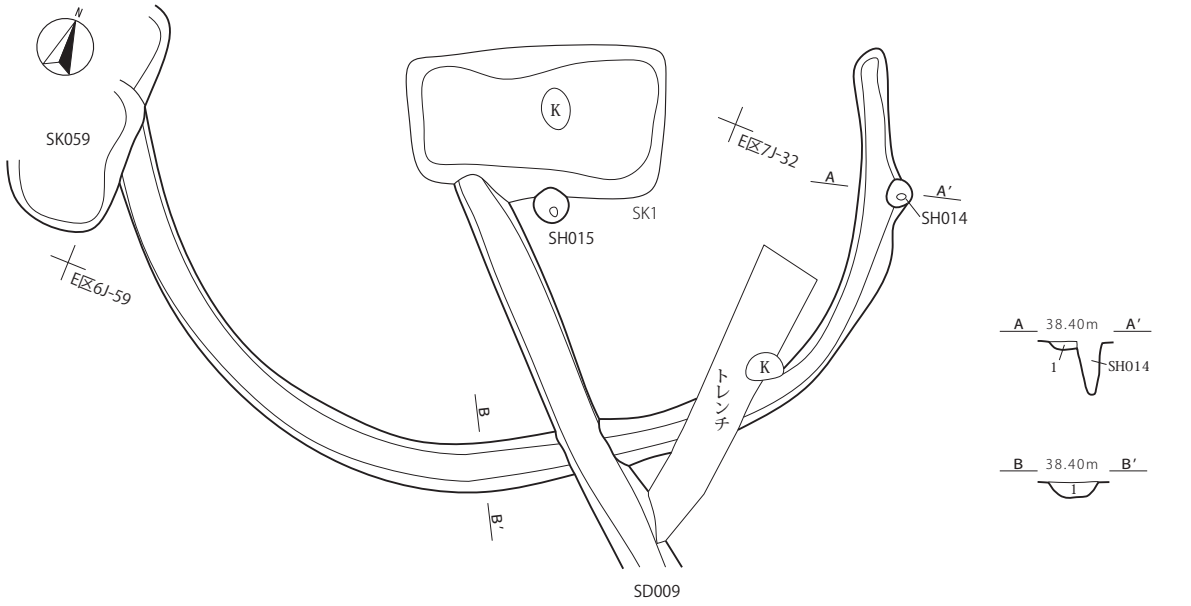
番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
16	磨石	火山礫凝灰岩	周溝覆土上層	[4.30]	[5.60]	[3.50]	177.90	磨：表・右・左各１面
17	不明石製品	黒雲母流紋岩	周溝覆土上層	7.55	5.10	4.10	145.90	ケズリ後研磨

SM011（第925 ～ 927図、第312・313表、図版143・144・157・160）

１基の埋葬施設をもつ円墳である。盛土は残存していない。**位置：**Ｅ区７Ｊグリッドを中心とする平坦面から北西向き緩斜面に位置する。南西側約３ｍにSM007が隣接する。**重複：**SI023、SK028・SK043・SK059を切る。**規模：**墳丘径、長軸（7.52）m、短軸（4.24）m。周溝を含めた外径、長軸（8.24）m、短軸4.64m。

墳丘：残存しない。

周溝：北側を消失し、Ｃ字状にほぼ半周する。幅0.44 ～ 0.49m。確認面からの深度0.03 ～ 0.18m。断面形態は平坦な底面から緩やかに立ち上がる。深度が浅いため暗褐色土（１層）の単層を確認するのみであった。



1　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒子少量、焼土、固結火山灰土塊微量含む。
粘性あり。しまり強い。

0　3m
（1／80）

第925図　SM011

埋葬施設：円台部中央と推測される位置で１基検出された（SK1）。掘り方の規模は長軸2.72m、短軸1.63m、確認面からの深度0.17m。長軸方位はＮ-67°-Ｅ。平面形態は長方形。断面形態は平坦な底面から壁面は逆台形状に立ち上がる。覆土は深度が浅いため暗褐色土（１層）を確認するのみであり、棺部の痕跡は捉えられなかった。

遺物は直刀１点（１）、鉄鏃２束10点（２～11）が出土している。

直刀は掘り方のほぼ中央から、切先を西に、刃を南に向けて出土した。鉄鏃のうち一束は長頸鏃（２～９）であり、掘り方の西端から刃部を西に向けて出土した。もう一束は短茎鏃（10・11）で、直刀の峰の下位から、刃部を南東に向けて出土している。11には布帛が付着しており、布に包まれて副葬されたと推測される。直刀の出土位置から被葬者の頭位は東に、また長頸鏃の束は足元にあったと推測される。

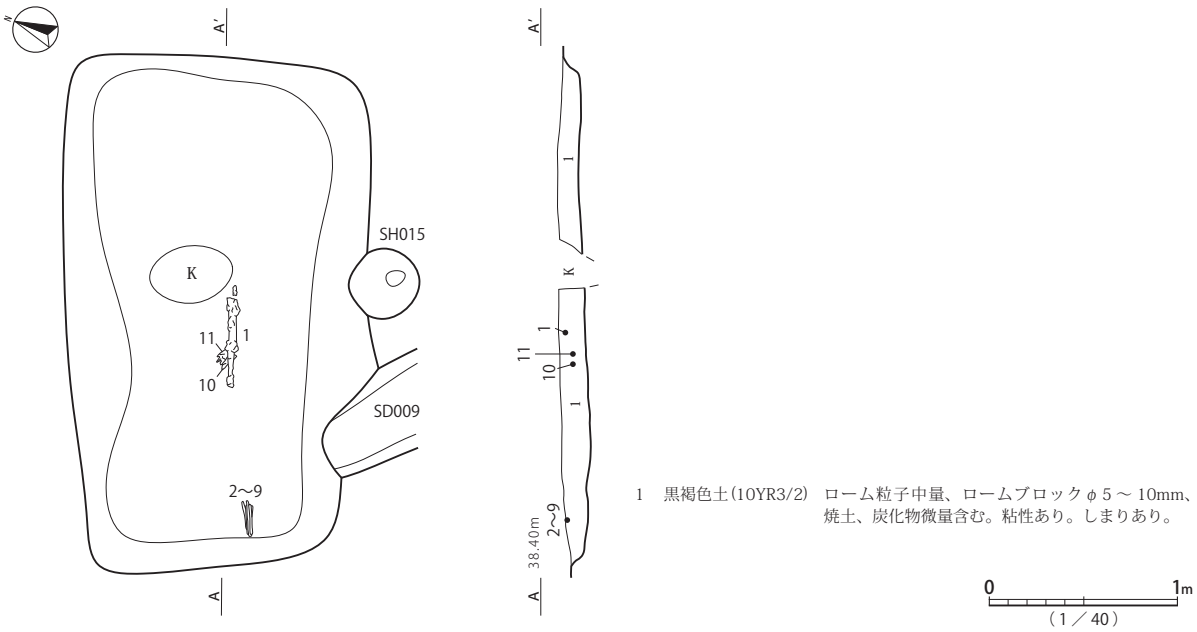
時期：時期を明確に示す遺物の出土はなく、断定はできないものの、７世紀代と推測される。

所見：埋葬施設１基が検出された。盛土は耕作や地滑り等により消失しているが、径約８ｍの墳丘を有する円墳であったと推測される。埋葬施設の深度が浅いことから墳丘の盛土はある程度高く積み上げられていたと考えられる。本調査区では唯一の円墳であることや、幅の狭い周溝、埋葬施設から短茎鏃が出土するなど他の古墳とは異なった状況を示している。

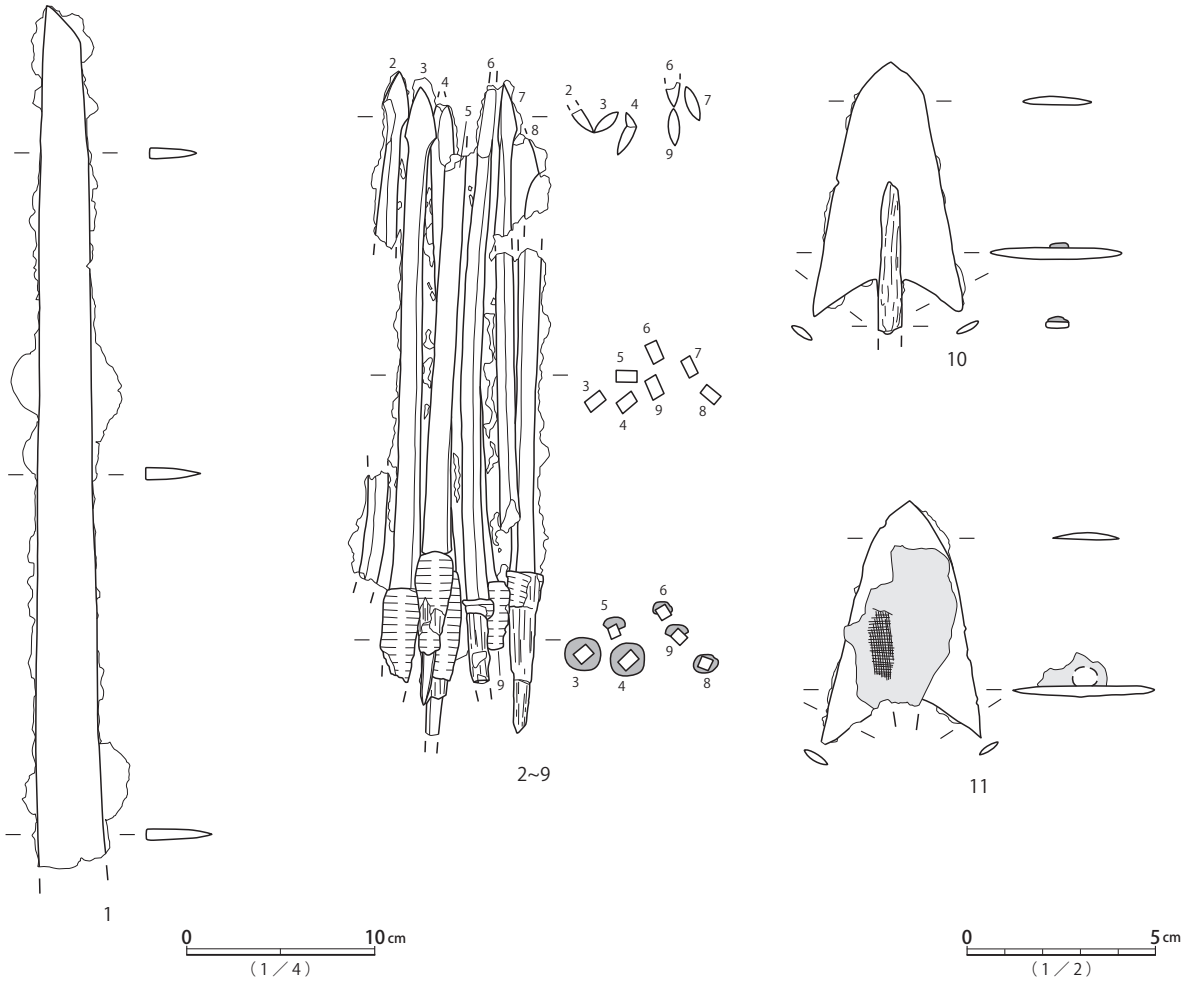
遺物：土器35.0g、金属製品517.09g、縄文土器156.0gが出土した。

１は直刀の上身部である。平造りで、切先にふくらはなく直線的に切られる。上身部の幅は切先に向かって序々に狭まるが厚さは変化しない。２～９は８点が癒着する有頸・有茎の長頸鏃である。いずれもほぼ同一規格で、鏃身部は錆膨れが著しいが、ナデ関で断面は両丸造りである。鏃身長は15～17㎜である。頸部は長めで断面形状は長方形である。頸部関は茎部寄りが緩やかに広がる台形関である。茎部は長さ40～44㎜で、３～６・８・９には矢柄と樹皮口巻が残存している。

10・11は長三角形の鏃身部をもつ短茎鏃である。逆棘は長めで鋭利、断面は全体が薄い平造りである。11の茎部は根元で折れているが、10は14㎜残存しており、茎部に沿って矢柄が残存している。11は片面の表面に右撚りの片撚り糸で織られた布帛や膠と考えられる有機物が付着している。



第926図　SM011SK1



第927図　SM011SK1出土遺物

第312表　SM011SK1出土鉄刀観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	全長	刀身長	刀身幅	刀身厚	茎長	茎幅	茎厚	鍔	重量（g）	備考
1	直刀	SK1覆土下層	－	[45.6]	2.9	0.7	－	－	－	－	363.5	平造り

第313表　SM011SK1出土鉄鏃観察表

単位：mm

番号	種別	出土位置	全長	鏃身長	逆棘長	鏃身幅	鏃身厚	別造片腸抉	頸部長	頸部幅	頸部厚	関部幅	茎部長	茎部幅	茎部厚	重量(g)	備考
2	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	[135.0]	15.0	－	10.0	3.0	－	[120.0]	6.0	4.0	－	－	－	－	141.30	
3	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	[156.0]	16.0	－	8.5	3.0	－	116.0	5.5	3.5	－	－	－	－	－	矢柄残存
4	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	[166.0]	[16.0]	－	－	－	－	106.0	5.5	3.2	－	[44.0]	4.0	3.5	－	矢柄残存
5	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	[145.0]	－	－	－	－	－	[104.0]	5.8	3.2	8.0	40.0	3.0	2.8	－	矢柄残存
6	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	157.0	－	－	－	－	－	116.0	5.0	3.2	－	－	－	－	－	矢柄残存
7	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	[118.0]	17.0	－	－	3.5	－	[101.0]	5.2	3.0	－	－	－	－	－	
8	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	[158.0]		－	－	－	－	[85.0]	5.0	3.0	－	42.0	3.0	3.0	－	矢柄残存
9	柳葉形長頸鏃	SK1覆土下層	[145.0]	16.0	－	－	－	－	112.0	5.0	3.0	－	[17.0]	－	－	－	矢柄残存
10	長三角形短茎鏃	SK1覆土下層	[72.0]	67.0	10.0	40.0	2.5	－	－	－	－	－	[14.0]	6.0	1.5	12.67	矢柄残存
11	長三角形短茎鏃	SK1覆土下層	[74.5]	74.5	12.5	42.5	2.0	－	－	－	－	－	[2.0]	7.0	2.0	13.22	有機物、布帛付着

SM012（第928・929図、第314表、図版144・156）

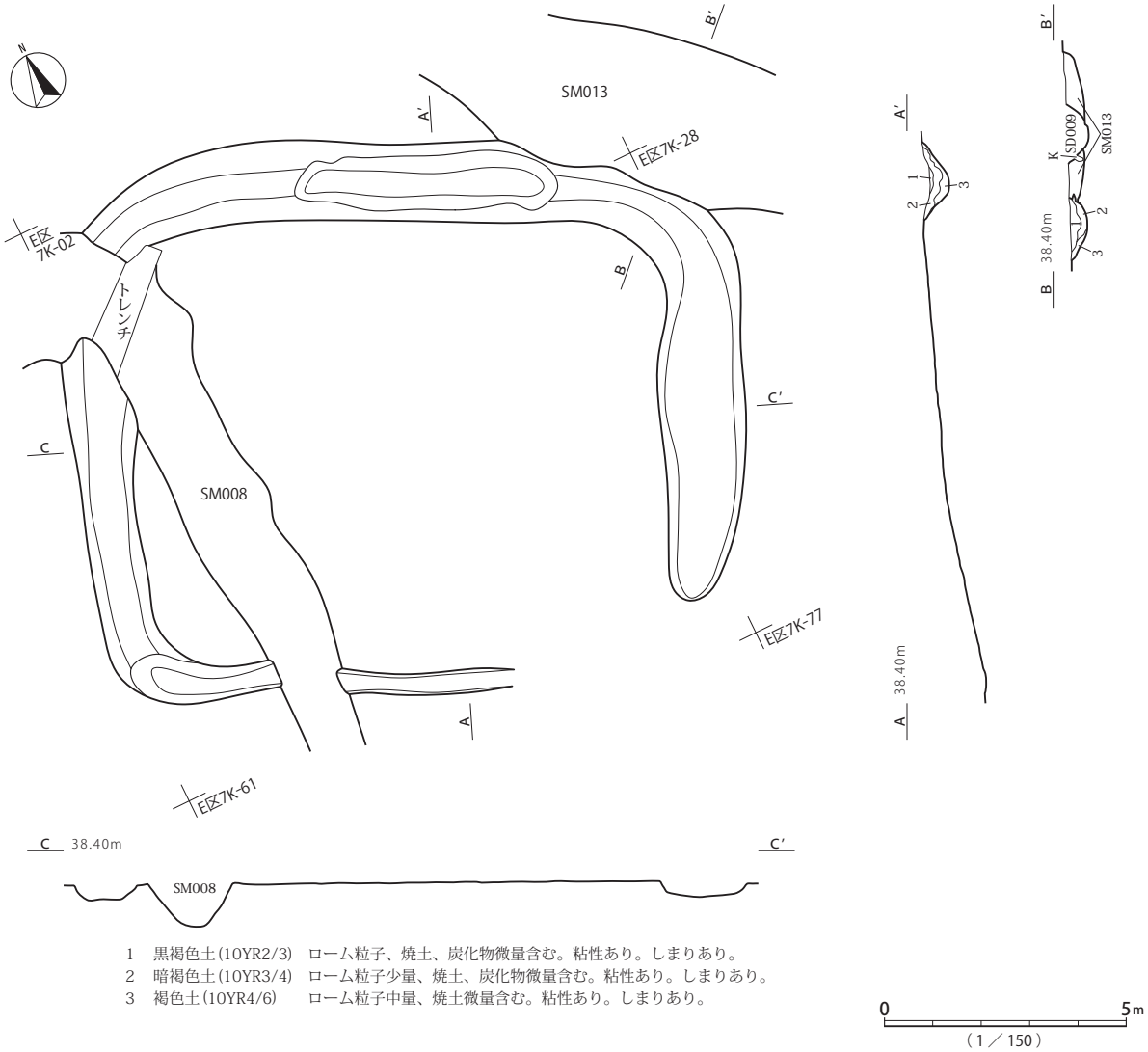
方墳である。盛土が残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**Ｅ区７Ｋグリッドを中心とする台地の平坦面から南向き斜面に位置する。南東側約４ｍにSM014が、北西側約６ｍにSM007が隣接する。**重複：**SM013、SI043・SI055・SI058・SI059・SI061・SI062、SK021・SK030を切り、SM008に切られる。**規模：**南西辺10.74m、北東辺9.96m、南東辺（8.64）m、北西辺9.00m。周溝を含めた総長は、南西辺（8.46）m、北東辺（12.66）m、南東辺（8.04）m、北西辺10.74m。**主軸方位：**北西－南東方向を主軸と仮定し、Ｎ-67°-Ｗ。

墳丘：残存しない。

周溝：南隅を除き全周する。幅0.36 ～ 1.80m。確認面からの深度0.17 ～ 0.63m。断面形態は、平坦な底面から壁面は緩やかに立ち上がるが、北東周溝の中央部のみ底面が0.30mほど一段低くなる。覆土は最下層に褐色土（３層）が、その上位には黒褐色土や暗褐色土がレンズ状に堆積している（１・２層）。

埋葬施設：検出されなかった。

時期：周囲で検出された方墳の平面形態や周溝の断面形態から５世紀代と推測される。



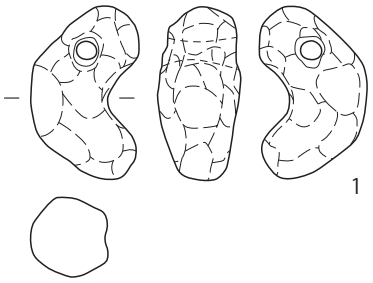
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子中量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

第928図　SM012

所見：周溝のみが検出された方墳である。北東周溝中央の底面で検出された段差からは埋葬施設の設置を示す痕跡は認められなかった。南西周溝の覆土中から土製勾玉（１）が出土している。南隅で周溝が陸橋状に途切れているが、これは斜面の低位にあたり、地滑りや削平等による消失と考えられる。

遺物：土器5,019.0g、土製品2.50g、石器・石製品3.18g、縄文土器1,021.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

１は土製勾玉である。全面に指による調整痕が観察される。孔は円形で直線的に貫通している。



第929図　SM012出土遺物

第314表　SM012出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
1	勾玉	周溝覆土	長さ：2.3　幅：1.5　厚さ：1.1　孔径：0.3～0.4	2.50	

SM013（第930～932図、第315表、図版144・156）

方墳である。盛土が残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**Ｅ区７Ｋグリッドを中心とする台地の平坦面から北東向き斜面に位置する。南側約４ｍにSM014が隣接する。**重複：**SI026～SI028・SI063を切り、SM012、SD009に切られる。**規模：**南西辺12.54m、南東辺（8.46）m、北西辺（4.80）m。周溝を含めた総長は、南西辺13.74m、南東辺（9.90）m、北西辺（4.86）m。**主軸方位：**北西－南東方向を主軸と仮定し、Ｎ-46°-Ｗ。

墳丘：残存しない。

周溝：北東側を消失し、「コ」の字状に巡る。幅0.60～（3.12）m。確認面からの深度0.07～0.61m。断面形態は、南東、南西周溝はやや幅の広い底面から、壁面は緩やかに立ち上がるが、南東周溝の中央のみ底面が0.23mほど一段低くなる。覆土は黒褐色土や暗褐色土がレンズ状に堆積している（１～３層）。

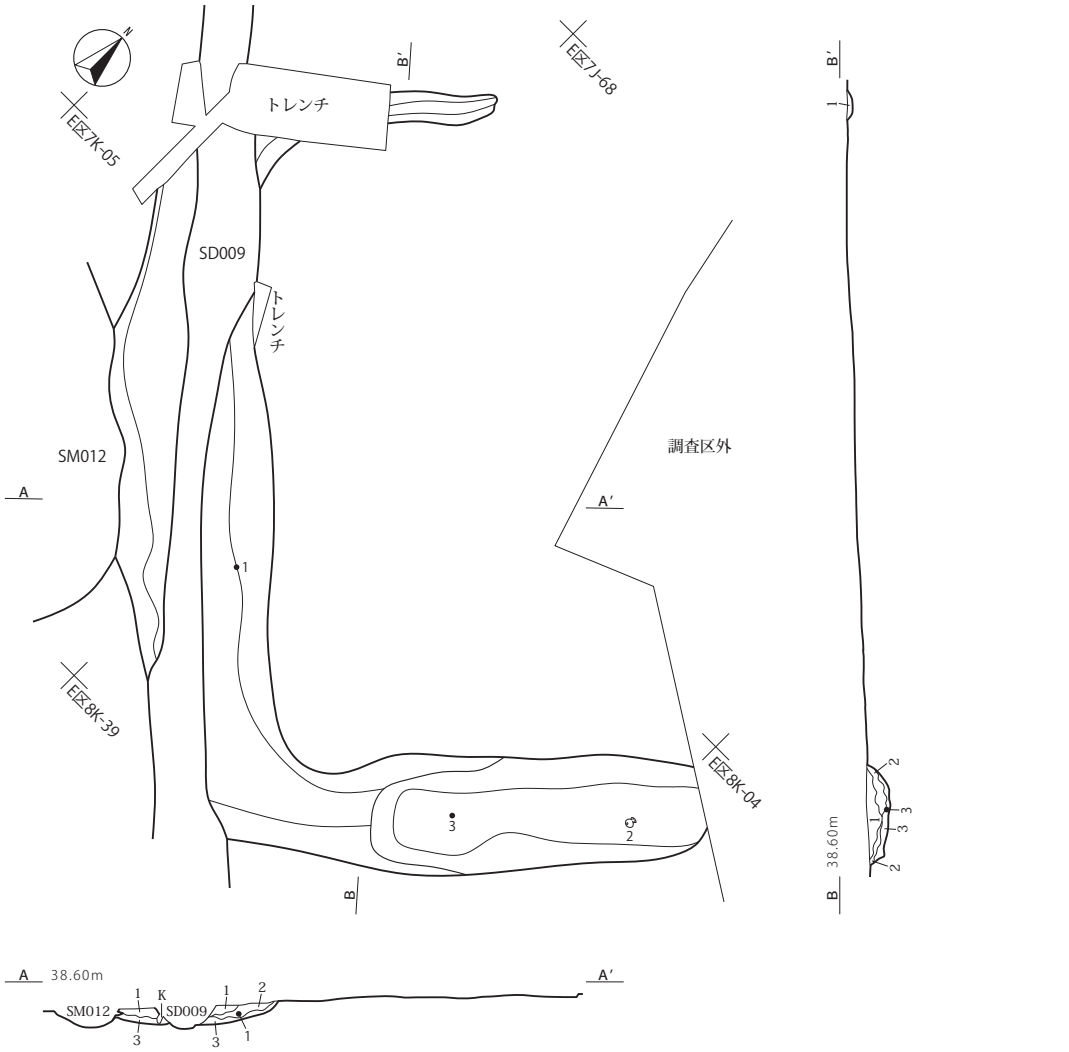
埋葬施設：検出されなかった。

時期：出土遺物から古墳時代中期２段階（５世紀前葉）と考えられる。

所見：周溝のみが検出されたが、約12m四方の墳丘を有する方墳であったと推測される。南東周溝中央の底面で検出された段差からは埋葬施設の位置を示す痕跡は認められなかった。南西周溝の下層から鉢（１）が、南東周溝の下層から広口壺（２）、甕（３）が出土している。平坦面では周溝が残存し、斜面では消失していることから、地滑りや削平等によるものと考えられる。

遺物：土器4,539.0g、石器・石製品11.00g、縄文土器908.0gが出土した。

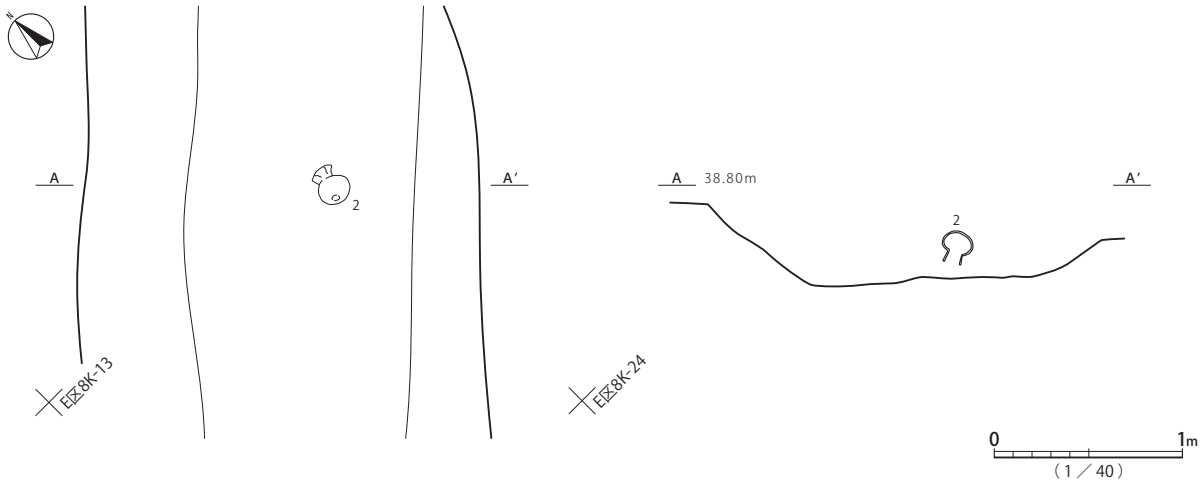
１は鉢、２は広口壺、３は甕である。２は胴上部に焼成後の穿孔が行われ、頸部内面にはハケメ調整が見られる。３の胴上部はヘラナデが、胴下部にはヘラケズリが施される。



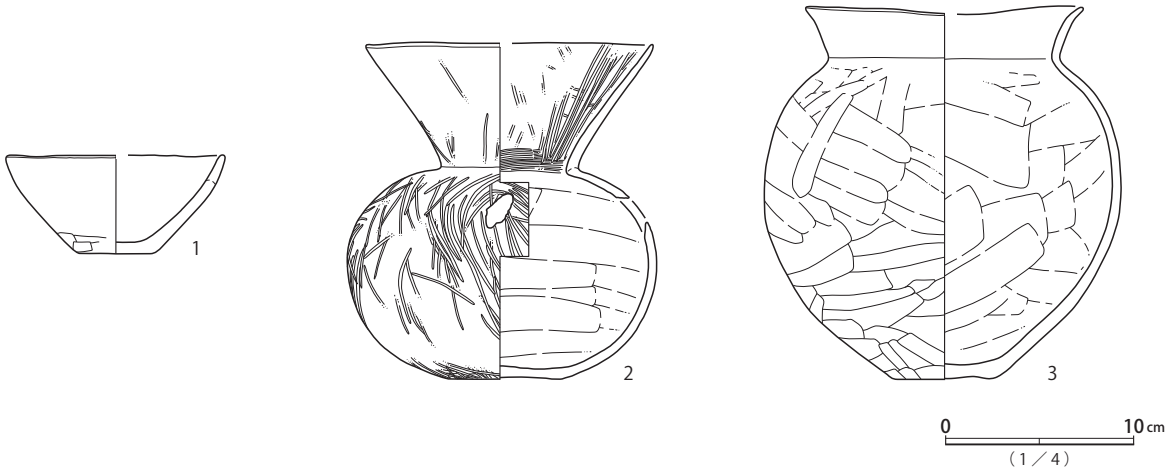
1　黒褐色土(10YR2/2)　　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　　黒褐土少量、ロームブロックφ10～30mm、焼土微量含む。
粘性あり。しまり強い。

0　5m
（1／150）

第930図　SM013



第931図　SM013遺物出土状況



第932図　SM013出土遺物

第315表　SM013出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 鉢	周溝覆土 下層	口　径：(11.6) 底　径：　3.9 器　高：　5.2 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
2	土師器 広口壺	周溝覆土 下層	口　径：(15.2) 底　径：　6.0 器　高：17.7 最大径：16.4	特徴：焼成後穿孔 外面：口縁部～頸部ヨコナデ後ヘラミガキ、胴部～底部ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、頸部ハケメ後ヘラミガキ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の4/5	
3	土師器 甕	周溝覆土 下層	口　径：(14.7) 底　径：　5.3 器　高：19.7 最大径：18.8	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部上半ヘラナデ、胴部下半～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の3/4	外面煤付着

SM014（第933・934図、第316表、図版145・156）

方墳である。盛土が残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**Ｅ区８Ｋグリッドを中心とする南向き斜面に位置する。北西側約４ｍにSM012、北側約４ｍにSM013が隣接する。**重複：**SI077～SI081を切り、SD009、SK072・SK073に切られる。**規模：**南西辺9.48m、北東辺9.06m、南東辺7.80m、北西辺（7.62）m。周溝を含めた総長は、南西辺（11.94）m、北東辺11.40m、南東辺11.10m、北西辺11.46m。**主軸方位：**北西－南東方向を主軸と仮定し、Ｎ-53°-Ｗ。

墳丘：残存しない。

周溝：南隅を除き全周する。幅0.60～2.04m。確認面からの深度0.21～0.43m。断面形態は、平坦な底面から皿状に立ち上がる。覆土は最下層がにぶい黄褐色土や黒褐色土であり（３・４層）、最上層には黒色土（１層）が堆積している。

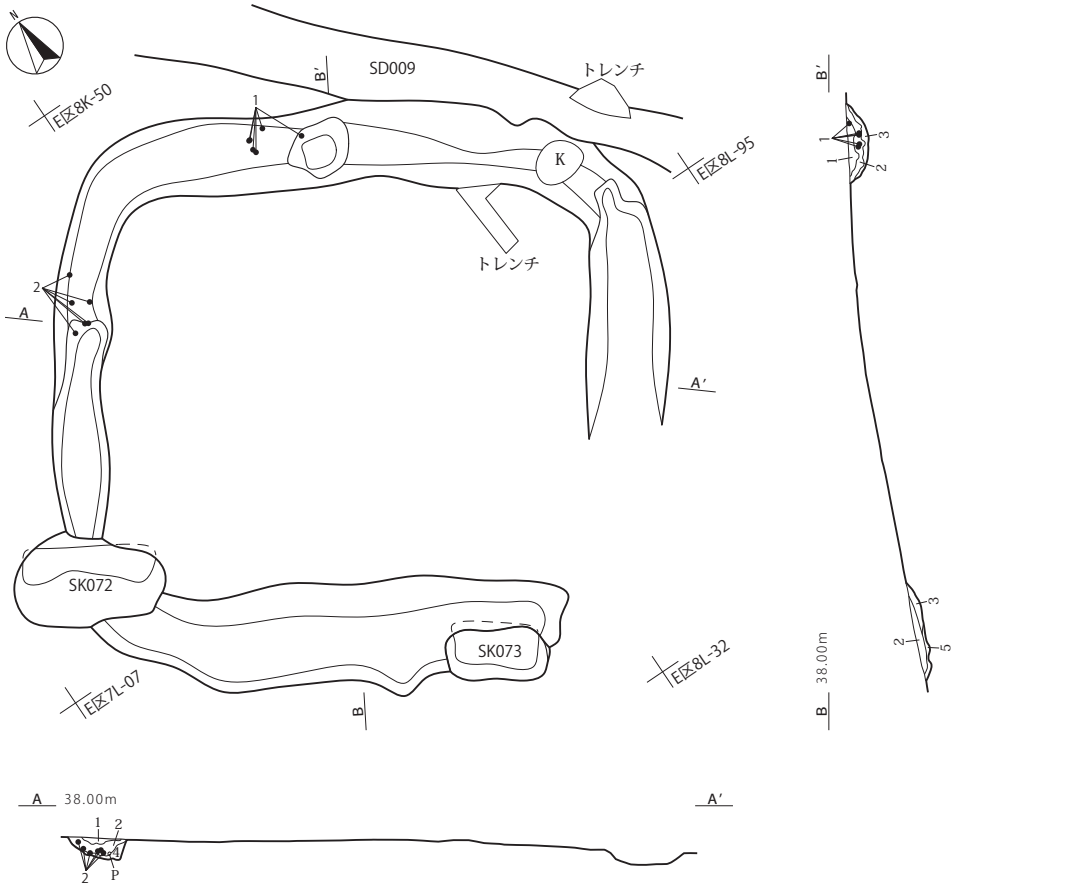
埋葬施設：検出されなかった。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期３段階（５世紀中葉）と考えられる。

所見：周溝のみが検出された方墳である。墳丘や埋葬施設は消失している。北西・北東周溝の中央から甕（１・２）が出土している。南隅で周溝が陸橋状に途切れているが、これは斜面の低位にあたり、地滑りや削平等による消失と考えられる。重複するSK072・SK073は遺構検出時に周溝覆土を掘り込んでいることを確認しており、本遺構の埋葬施設ではないと考えられる。

遺物：土器6,201.2g、石器・石製品6.00g、縄文土器1,017.0gが出土した。

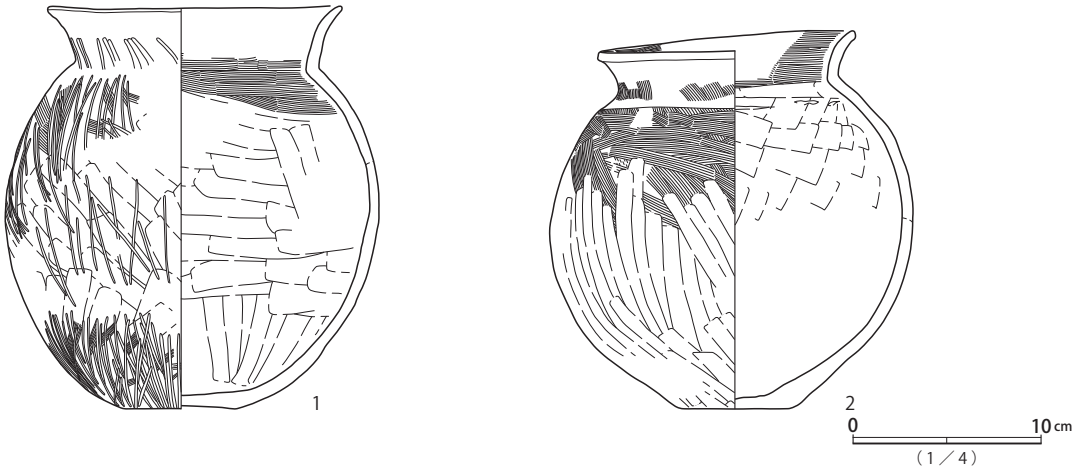
１・２は甕である。１は胴上部外面にハケメ調整がわずかに残存する。また外面全面にヘラミガキが施されている。２は胴中部から下部にかけてハケメ調整がナデ消されている。



1　黒色土(10YR2/1)　にぶい黄褐色土少量、ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒色土少量、ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ10mm微量含む。粘性あり。しまり強い。
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、焼土ブロックφ２～3mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　5m
（1／150）

第933図　SM014



第934図　SM014出土遺物

第316表　SM014出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 甕	周溝覆土 下層	口　径：15.2 底　径：5.8 器　高：21.3 最大径：19.8	**外面**：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラミガキ、胴部上半ハケメ後ヘラミガキ、胴部中位ヘラナデ後ヘラミガキ、胴部下半ハケメ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ **内面**：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、胴部～底部ヘラナデ	**胎　土**：白色粒・長石・石英・海綿骨針 **焼　成**：普通 **色　調**：橙 **残存度**：口縁部～底部の2/3	外面煤付着
2	土師器 甕	周溝覆土 下層	口　径：13.5 底　径：5.8 器　高：20.0 最大径：19.2	**外面**：口縁部～頸部ハケメ後ヨコナデ、胴部上半ハケメ後ヘラナデ、胴部下半～底部ヘラナデ **内面**：口縁部ハケメ、頸部～胴部上半ヘラナデ、胴部下半～底部ナデ	**胎　土**：長石・白色粒・黒色粒 **焼　成**：普通 **色　調**：橙 **残存度**：口縁部～底部の3/4	外面煤付着

２．溝

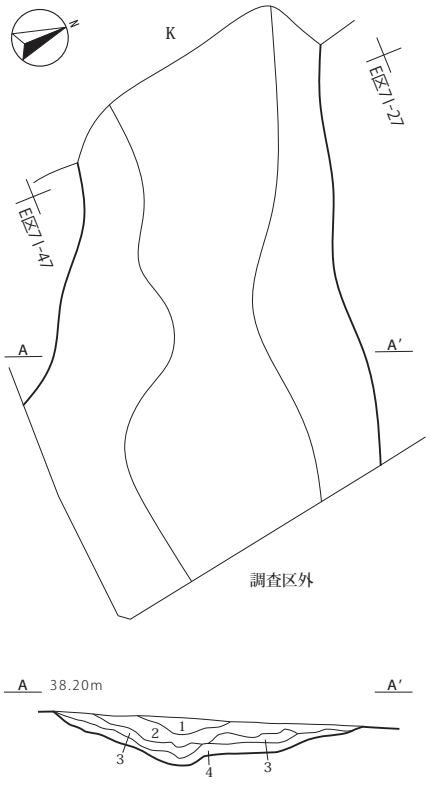
SD006（第935図、図版145）

位置：Ｅ区７Ｉ-38グリッドを中心とする台地の東向き斜面に位置する。**重複：**西側は撹乱される。東端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（6.20）m、幅2.60～3.64m、確認面からの深度0.25～0.56m。**形態：**北西－南東方向に伸びる。底面は起伏が多く、壁面は非常に緩やかに立ち上がる。

時期：覆土および出土遺物から古墳時代と考えられる。

所見：台地の東向き斜面を下る溝である。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。水性堆積は認められない。

遺物：土器1,684.0g、須恵器8.0g、石器・石製品2.00gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～30mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（１／80）

第935図　SD006

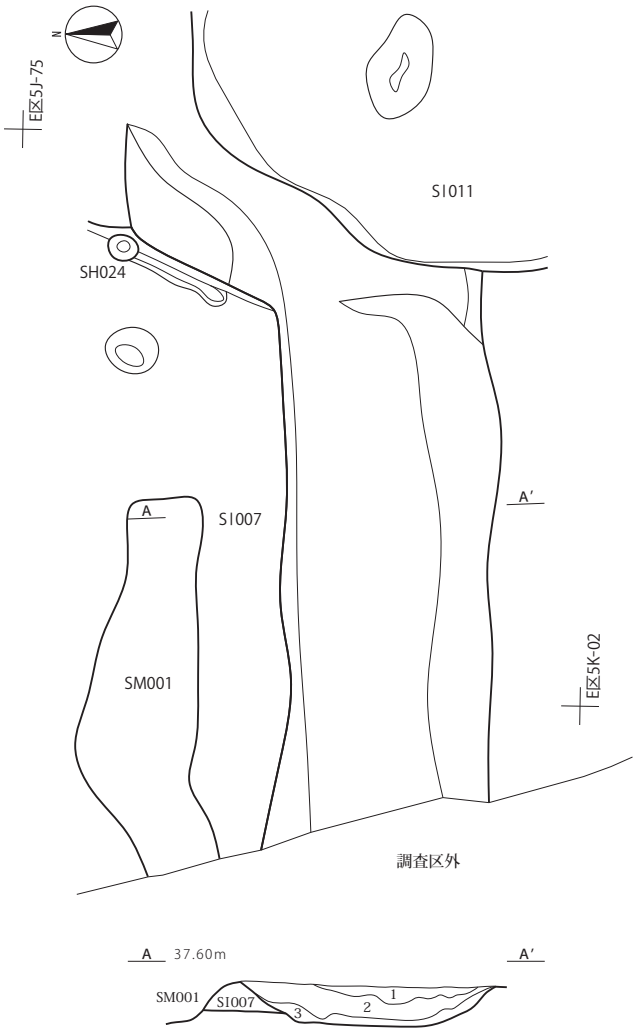
SD007（第936図）

位置：Ｅ区５Ｊ-83グリッドを中心とする西向き尾根の先端頂部に位置する。**重複：**SI007・SI054を切る。西端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（6.44）m、幅2.12 ～ 2.68m、確認面からの深度0.03 ～ 0.53m。**形態：**東西方向に伸びる。底面は起伏があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：出土遺物から古墳時代と考えられる。

所見：西向き尾根の先端頂部を西に下る溝である。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。水性堆積は認められない。

遺物：土器140.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ロームブロックφ10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックφ10mm、ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ロームブロックφ10 ～ 20mm、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第936図　SD007

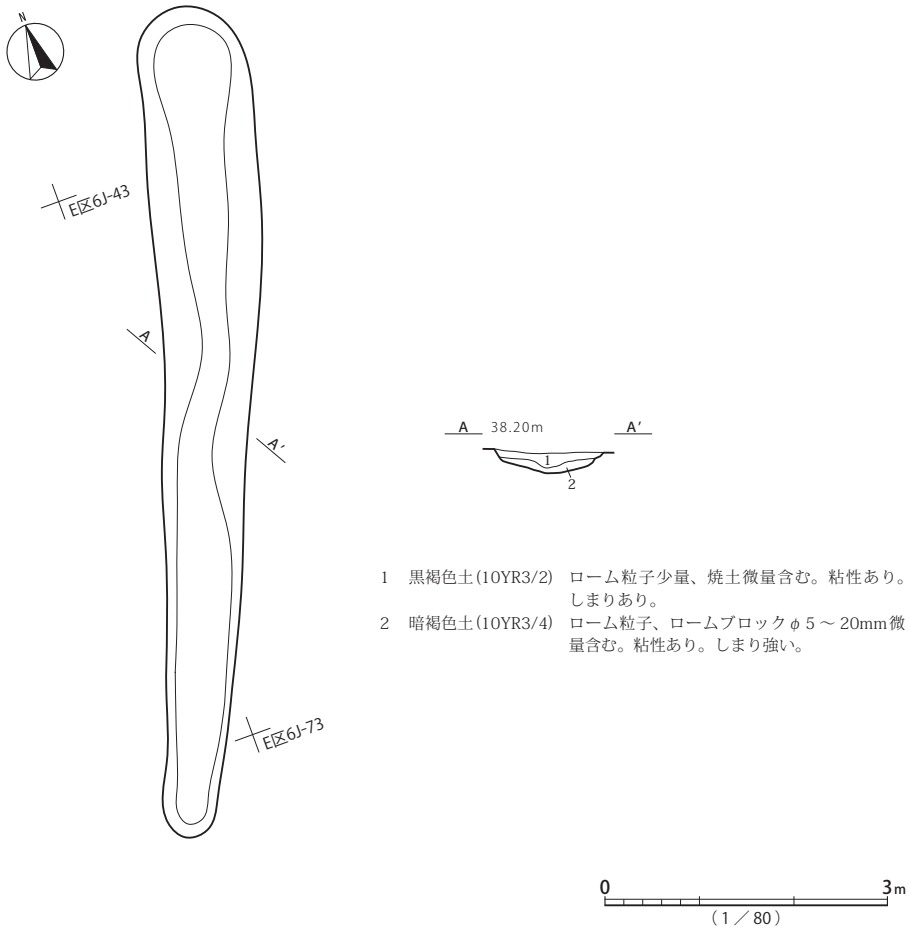
SD008（第937図）

位置：Ｅ区６Ｊ-53グリッドを中心とする台地の平坦面から北向き斜面に位置する。**重複：**SI017を切る。両端は立ち上がる。**規模：**全長8.78ｍ、幅0.56 ～ 1.16ｍ、確認面からの深度0.07 ～ 0.22ｍ。**形態：**南北方向に直線的に伸びる。底面は起伏があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および出土遺物から古墳時代と考えられる。

所見：台地の平坦面から北向き斜面を下る溝である。水性堆積は認められない。

遺物：土器429.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第937図　SD008

３．土　坑

SK058（第938図、図版145）

位置：Ｅ区７Ｉ-79グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.17ｍ、短軸0.88ｍ、確認面からの深度0.90ｍ。**長軸方位：**Ｎ-12°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は西側が浅く落ち込み、壁面はオーバーハング気味に立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

所見：底面の西側が浅く落ち込むため、柱穴の可能性もあるが、周囲に組み合う柱穴は認められない。

遺物：土器66.0g、縄文土器26.8gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK059（第938図、図版145）

位置：Ｅ区６Ｊ-48グリッドを中心に位置する。**重複：**SM011を切る。**規模：**長軸2.57ｍ、短軸1.45ｍ、確認面からの深度0.25ｍ。**長軸方位：**Ｎ－５°－Ｗ。**形態：**隅丸方形、底面は平坦で北側に段差があり、壁面はきつく立ち上がる。

時期：重複から古墳時代と考えられる。

遺物：土器135.0g、縄文土器191.3gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK060（第938図、図版145）

位置：Ｅ区７Ｊ-48グリッドを中心に位置する。**重複：**SI025を切る。**規模：**長軸2.34ｍ、短軸1.18ｍ、確認面からの深度0.45ｍ。**長軸方位：**Ｎ-24°－Ｗ。**形態：**長楕円形、底面はほぼ平坦で壁面はきつく立ち上がる。

時期：重複および出土遺物から古墳時代と考えられる。

遺物：土器61.0g、縄文土器20.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK061（第938図、図版146）

位置：Ｅ区８Ｊ-80グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.25ｍ、短軸0.80ｍ、確認面からの深度1.30ｍ。**長軸方位：**Ｎ－５°－Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で南側にピット状の掘り込みがある。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土および出土遺物から古墳時代と考えられる。

所見：ピット状の掘り込みがあり、柱穴の可能性もあるが、周囲に組み合う柱穴は認められない。

遺物：土器5.0g、縄文土器132.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK062（第938図、図版146）

位置：Ｅ区５Ｋ-44グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.46ｍ、短軸1.34ｍ、確認面からの深度0.60ｍ。**長軸方位：**Ｎ-67°－Ｗ。**形態：**隅丸方形、底面はほぼ平坦で壁面はきつく立ち上がり、確認面付近で外側に大きく開く。

時期：覆土および出土遺物から古墳時代と考えられる。

遺物：土器81.0g、縄文土器75.2gが出土したが、小破片のため図示していない。

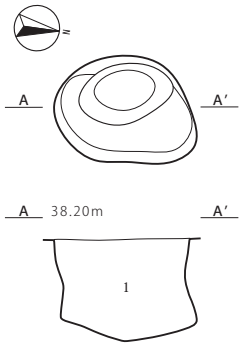
SK063（第938図、図版146）

位置：Ｅ区７Ｋ-70グリッドを中心に位置する。**重複：**SI057を切る。**規模：**長軸1.53ｍ、短軸0.80ｍ、確認面からの深度0.60ｍ。**長軸方位：**Ｎ-84°－Ｅ。**形態：**隅丸長方形、底面は溝状、平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土および出土遺物から古墳時代と考えられる。

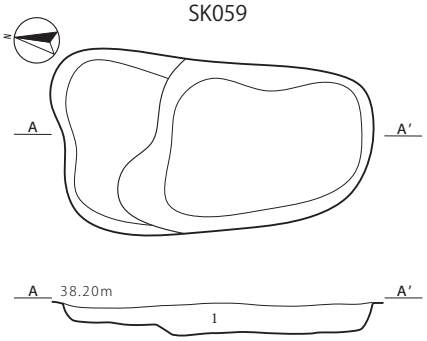
遺物：土器20.0g、縄文土器196.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK058



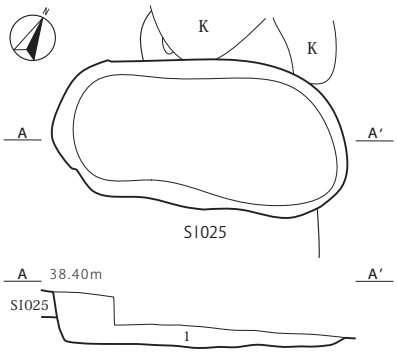
1　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックφ5mm少量、にぶい黄褐色砂質シルト少量、ローム粒子、微量含む。粘性あり。しまり強い。

SK059



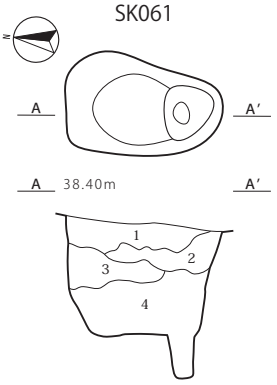
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子中量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK060



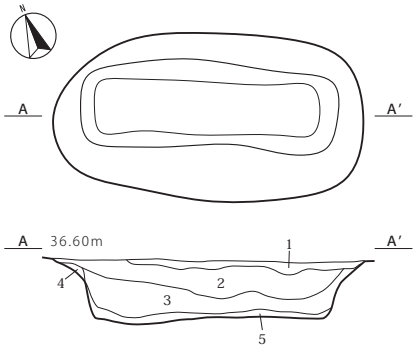
1　褐色土(7.5YR4/3)　焼土中量、黒色砂質シルト少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK061



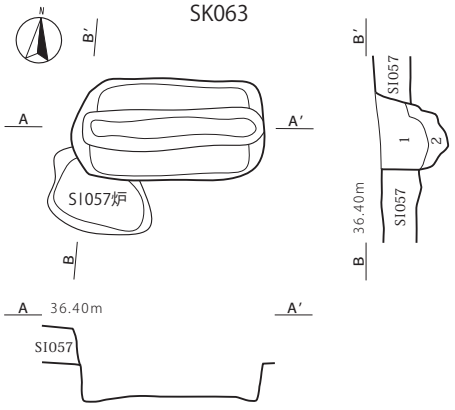
1　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ5～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK062



1　暗褐色土(7.5YR3/3)　粘性弱い。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまりあり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/4)　粘性弱い。しまりあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性あり。しまりあり。

SK063



1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ20mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10～30mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第938図　SK058～SK063

SK064（第939・940図、第317表、図版146・156）

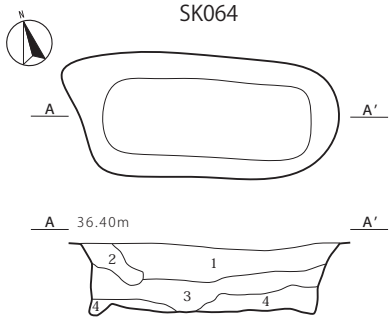
位置：Ｅ区７Ｋ-84グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.16ｍ、短軸1.00ｍ、確認面からの深度0.64ｍ。**長軸方位：**Ｎ-71°-Ｗ。**形態：**隅丸方形、底面はほぼ平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：出土遺物から古墳時代終末期１段階（６世紀末葉～７世紀初頭）と考えられる。

所見：北西隅が歪であるが、本来隅丸方形のものが、壁面の崩落により変形したと考えられる。

遺物：土器103.6g、縄文土器236.0gが出土した。

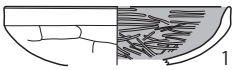
１の内面はヘラミガキおよび黒色処理が施される。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　2m
（1／60）

第939図　SK064



0　10cm
（1／4）

第940図　SK064出土遺物

第317表　SK064出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土上層	口　径：(11.8) 底　径：　－ 器　高：[3.1] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部ヘラミガキ、黒色処理	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～体部の破片	

SK065（第941図、図版146）

位置：Ｅ区７Ｋ-93グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.22ｍ、短軸0.68ｍ、確認面からの深度0.77ｍ。**長軸方位：**Ｎ-34°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦面がなく南西壁がほぼ垂直に立ち上がり、北東壁に向かって緩やかに立ち上がる。

時期：覆土および出土遺物から古墳時代と考えられる。

遺物：須恵器2.0g、縄文土器82.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK066（第941図、図版146）

位置：Ｅ区７Ｌ-14グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.87ｍ、短軸0.62ｍ、確認面からの深度0.25ｍ。**長軸方位：**Ｎ-72°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK067（第941図、図版146）

位置：Ｅ区７Ｋ-95グリッドを中心に位置する。**重複：**SI075aを切る。**規模：**長軸2.20ｍ、短軸1.02ｍ、確認面からの深度0.88ｍ。**長軸方位：**Ｎ-85°-Ｗ。**形態：**隅丸長方形、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がり、確認面付近で外側に湾曲する。

時期：覆土および出土遺物から古墳時代と考えられる。

所見：SI075aの掘削時に検出されたため、上端を掘りすぎてしまっている。

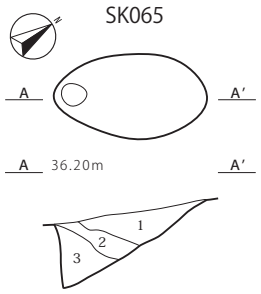
遺物：土器144.0g、縄文土器136.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK068（第941図、図版146）

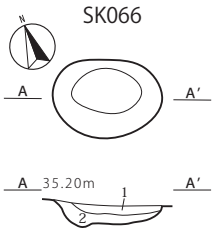
位置：Ｅ区７Ｋ-66グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。北側の一部は撹乱される。**規模：**長軸1.52ｍ、短軸0.62ｍ、確認面からの深度0.68ｍ。**長軸方位：**Ｎ-86°-Ｗ。**形態：**長楕円形、底面は平坦で壁面はきつく立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

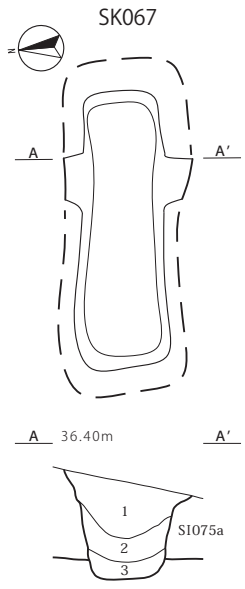
遺物：縄文土器120.0gが出土したが、混入と考えられる。



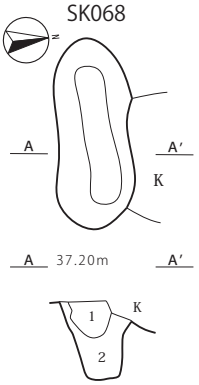
1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性弱い。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱い。しまり弱い。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。



1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子多量、ロームブロックφ５～10mm含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第941図　SK065 ～ SK068

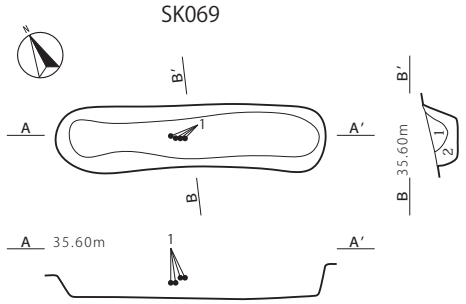
SK069（第942・943図、第318表、図版147・156）

位置：Ｅ区７Ｌ-16グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.15ｍ、短軸0.52ｍ、確認面からの深度0.33ｍ。**長軸方位：**Ｎ-63°-Ｗ。**形態：**長楕円形、底面は平坦で壁面はきつく立ち上がる。

時期：覆土および出土遺物から古墳時代と考えられる。

遺物：土器608.3g、石器・石製品1.00g、縄文土器85.9gが出土した。

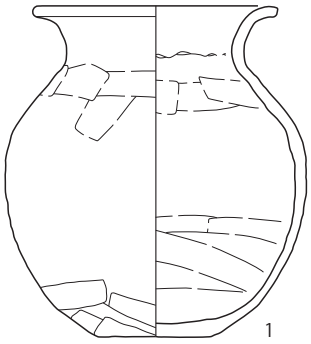
１の頸部は屈曲が緩やかで、胴部は球胴形である。



1　黒褐色土(10YR3/2)　粘性弱い。しまり弱い。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　2m
（1／60）

第942図　SK069



0　10cm
（1／4）

第943図　SK069出土遺物

第318表　SK069出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 甕	覆土中層	口　径：(12.6) 底　径：　6.0 器　高：17.5 最大径：16.0	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：白色粒・長石・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	

SK070（第944図、図版147）

位置：Ｅ区８Ｌ-14グリッドに位置する。**重複：**SI084を切る。**規模：**長軸1.01ｍ、短軸0.52ｍ、確認面からの深度0.23ｍ。**長軸方位：**Ｎ－１°－Ｅ。**形態：**長楕円形、底面は起伏があり壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

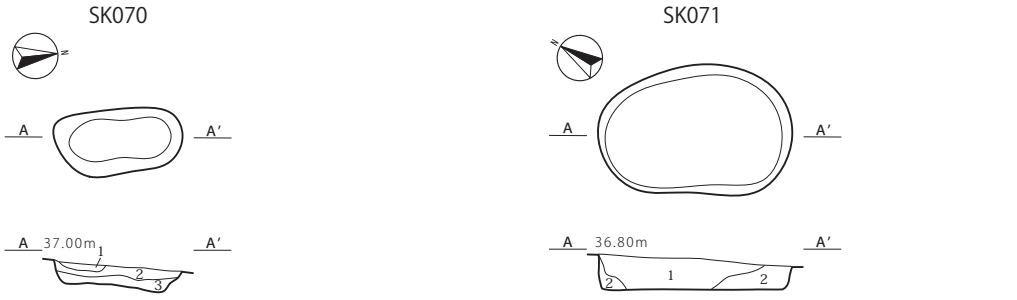
遺物：出土していない。

SK071（第944図、図版147）

位置：Ｅ区８Ｌ-24グリッドを中心に位置する。**重複：**SI084を切る。**規模：**長軸1.54ｍ、短軸1.04ｍ、確認面からの深度0.34ｍ。**長軸方位：**Ｎ-34°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土および出土遺物から古墳時代と考えられる。

遺物：土器67.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　暗褐色土(10YR3/4)　焼土微量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。

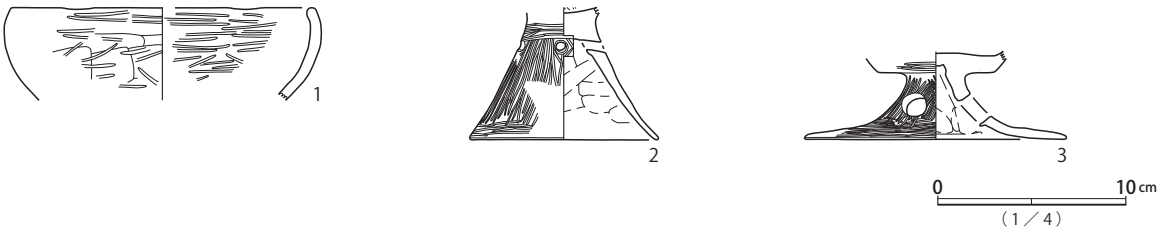
1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第944図　SK070・SK071

４．遺構外出土遺物（第945図、第319表、図版156）

他時代の遺構、または遺構外から出土した古墳時代の遺物についてここで報告する。３点はいずれも土師器で、１は坏、２・３は高坏である。１は半球状の器形であり内外面にヘラミガキが施される。２は脚部に５箇所の円形透かし孔が施されている。３は坏部下位に稜をもち、円形透かし孔は３箇所。脚裾部は接地面が広く大きく開いている。



第945図　古墳時代遺構外出土遺物

第319表　古墳時代遺構外出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	SI023 覆土	口　径：(16.0) 底　径：　－ 器　高：　[4.9] 最大径：(16.8)	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラミガキ	胎　土：黒色粒・角閃石・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～体部の破片	
2	土師器 高坏	確認調査	口　径：　－ 脚　径：　9.8 器　高：　[7.0] 最大径：　－	特徴：脚部に円形の透かし３箇所 外面：脚部～裾部ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：白色粒・黒色粒・海綿骨針・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部のみほぼ完存	
3	土師器 高坏	表土	口　径：　－ 脚　径：13.8 器　高：　[4.7] 最大径：　－	特徴：脚部に円形の透かし５箇所 外面：坏部～裾部ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：白色粒・石英・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：坏部～裾部の1/3	

第４節　奈良・平安時代

１．溝

SD009（第946・947図、第320表、図版147・160）

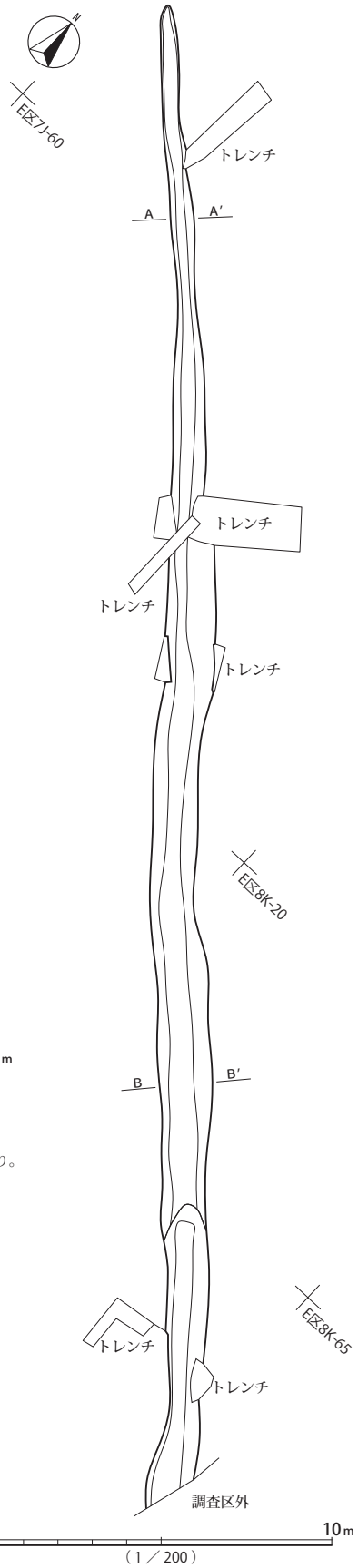
位置：Ｅ区７Ｋ-18グリッドを中心とする台地の平坦面から南向き斜面に位置する。**重複：**北西側はSM011、SI023、SK014・SK028、中央はSM013、SI027・SI028・SI063、南東側はSM014、SI080～SI082を切る。南東端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（43.20）ｍ、幅0.45～1.50ｍ、確認面からの深度0.07～0.58ｍ。**形態：**北西－南東方向に直線的に伸びる。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。中央から南東側で幅がやや広がる。

時期：重複から奈良・平安時代と考えられる。

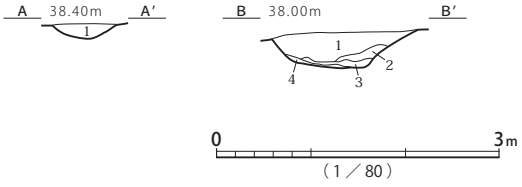
所見：台地の平坦面から南向き斜面をやや平行しながら下る溝である。水性堆積は認められない。

遺物：土器2,628.0g、土製品3.91g、石器・石製品23.00g、縄文土器729.0gが出土した。

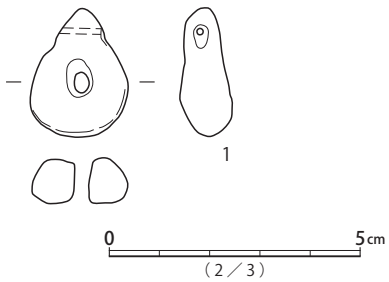
１は上部に紐通し孔のある環状の土製垂飾である。表面はきめ細かくナデ調整されている。



第946図　SD009



1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり強い。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。



第947図　SD009出土遺物

第320表　SD009出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
1	垂飾	覆土	長さ：2.6　幅：1.9　厚さ：0.9　孔径：上0.1、中央0.4	3.91	

２．土　坑

SK072（第948・949図、第321表、図版147・160）

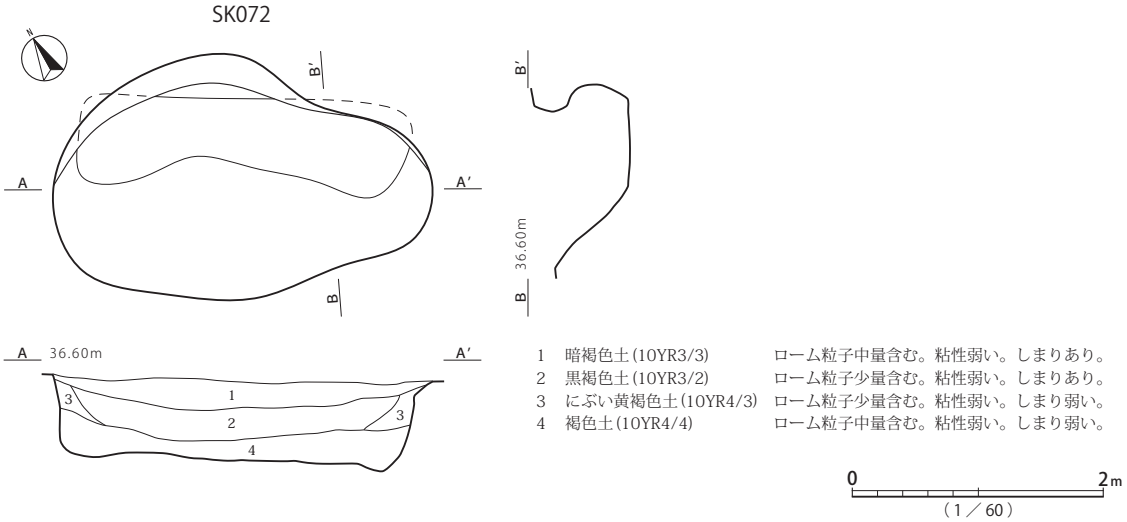
位置：Ｅ区７Ｋ-87グリッドを中心に位置する。**重複：**SM014を切る。**規模：**長軸3.00ｍ、短軸1.96ｍ、確認面からの深度0.83ｍ。**長軸方位：**Ｎ-60°-Ｗ。**形態：**隅丸方形、底面は平坦で東壁はオーバーハングする。

時期：重複および出土遺物から奈良・平安時代と考えられる。

所見：台地の南向き緩斜面に位置し、形状から有天井土坑と考えられる。

遺物：土器825.0g、縄文土器153.0gが出土した。

１の底部には焼成後の穿孔がなされ、孔は穿孔具を回転させて設けられているようであり、敲打痕はみられない。



第948図　SK072

第949図　SK072出土遺物

第321表　SK072出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土下層	口　径：　－ 底　径：（7.6） 器　高：［1.9］ 最大径：　－	特徴：底部焼成後穿孔あり 外面：底部ナデ 内面：底部ナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：底部の破片	

SK073（第950・951図、第322表、図版147・160）

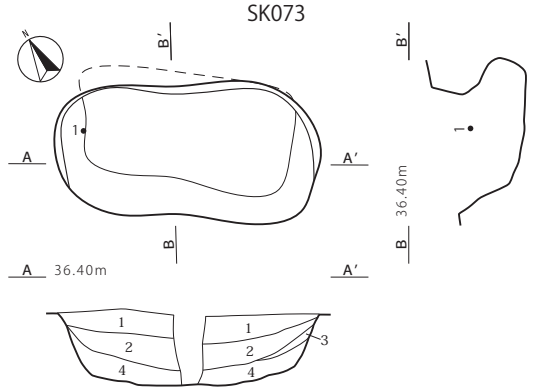
位置：Ｅ区８Ｌ-10グリッドを中心に位置する。**重複：**SM014を切る。**規模：**長軸2.10ｍ、短軸1.12ｍ、確認面からの深度0.76ｍ。**長軸方位：**Ｎ-53°-Ｗ。**形態：**隅丸長方形、底面は平坦で東壁ほぼ全体がオーバーハングする。

時期：重複および出土遺物から奈良・平安時代と考えられる。

所見：台地の南向き緩斜面に位置し、形状から有天井土坑と考えられる。

遺物：土器439.6g、縄文土器61.0gが出土した。

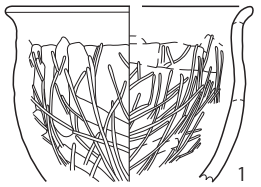
１は内外面にヘラミガキが施されている。



1　暗褐色土(10YR3/3)　粘性弱い。しまり弱い。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　2m
（1／60）

第950図　SK073



0　10cm
（1／4）

第951図　SK073出土遺物

第322表　SK073出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器甕	覆土中層	口　径：(12.9) 底　径：　－ 器　高：　[9.3] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	

第５節　時期不明の遺構

本調査区からは33基のピットが検出されているが、そのほとんどが時期不明である。掘立柱建物や柱穴列などの復元も不可能であったため、まとめて第323表に計測値を示しておく。

第323表　ピット計測表

遺構番号	長軸	短軸	深さ
SH001	0.68	0.59	0.23
SH002	0.52	0.44	0.20
SH003	0.44	0.39	0.16
SH004	0.47	0.40	0.16
SH005	0.77	(0.39)	0.21
SH006	0.61	0.59	0.20
SH007	0.45	0.34	0.30
SH008	0.78	0.56	0.33
SH009	0.64	0.49	0.41
SH010	0.85	0.71	0.22
SH011	0.78	0.56	0.22

遺構番号	長軸	短軸	深さ
SH012	0.66	0.60	0.19
SH013	(0.30)	(0.29)	0.57
SH014	(0.26)	(0.25)	0.59
SH015	(0.38)	0.37	0.32
SH016	(0.56)	0.44	0.20
SH017	(0.77)	(0.64)	0.17
SH018	0.72	0.62	0.26
SH019	0.60	0.27	0.23
SH020	0.51	0.48	0.20
SH021	0.51	0.35	0.46
SH022	0.38	0.33	0.08

遺構番号	長軸	短軸	深さ
SH023	(0.57)	(0.56)	0.67
SH024	0.31	0.29	0.28
SH025	0.24	0.19	0.14
SH026	0.34	0.28	0.19
SH027	0.39	0.35	0.59
SH028	0.38	0.32	0.44
SH029	0.33	0.32	0.18
SH031	0.59	0.43	0.27
SH032	0.64	0.60	0.75
SH033	0.59	0.58	0.16
SH034	0.37	0.36	0.60

第５章　総　括

はじめに

海保西竹谷遺跡・海保小谷作遺跡・海保大塚遺跡の３遺跡で32,756㎡の調査を実施した（以後、遺跡名の海保は省略する）。結果、縄文時代から中・近世までの遺構・遺物が確認された。本章では、時代別に調査成果をまとめることとする。特に、古墳時代では、１で土器の変遷をもとに段階設定を行い、２・３で、中期・終末期の古墳について、周辺古墳との比較を行った。さらに終末期の前方後方墳は、房総での事例を集成し、検討を加えた。４では、これらの古墳と集落の関係について述べることとする。

第１節　縄文時代

３遺跡の合計で、早期の炉穴26基、陥し穴１基、中期初頭の竪穴建物１棟、後期中葉の土坑１基、そのほかに縄文時代と考えられる陥し穴13基、土坑22基が検出された（第952図）。

早期　炉穴は全て大塚遺跡で検出された。撚糸文系および条痕文系の土器が出土していることから、早期前半（撚糸文系～子母口式期や野島式期）と考えられる。大塚遺跡の遺構外出土遺物をみても、縄文時代早期がほとんどであることから、遺物の出土がない炉穴も同時期のものと考えられる。西竹谷遺跡では陥し穴１基（SK001）を早期の遺構とした。

前期　西竹谷遺跡で、遺構外から前期後半（浮島式）の土器片が出土するのみであり、３遺跡ともこの時期の遺構は検出されなかった。

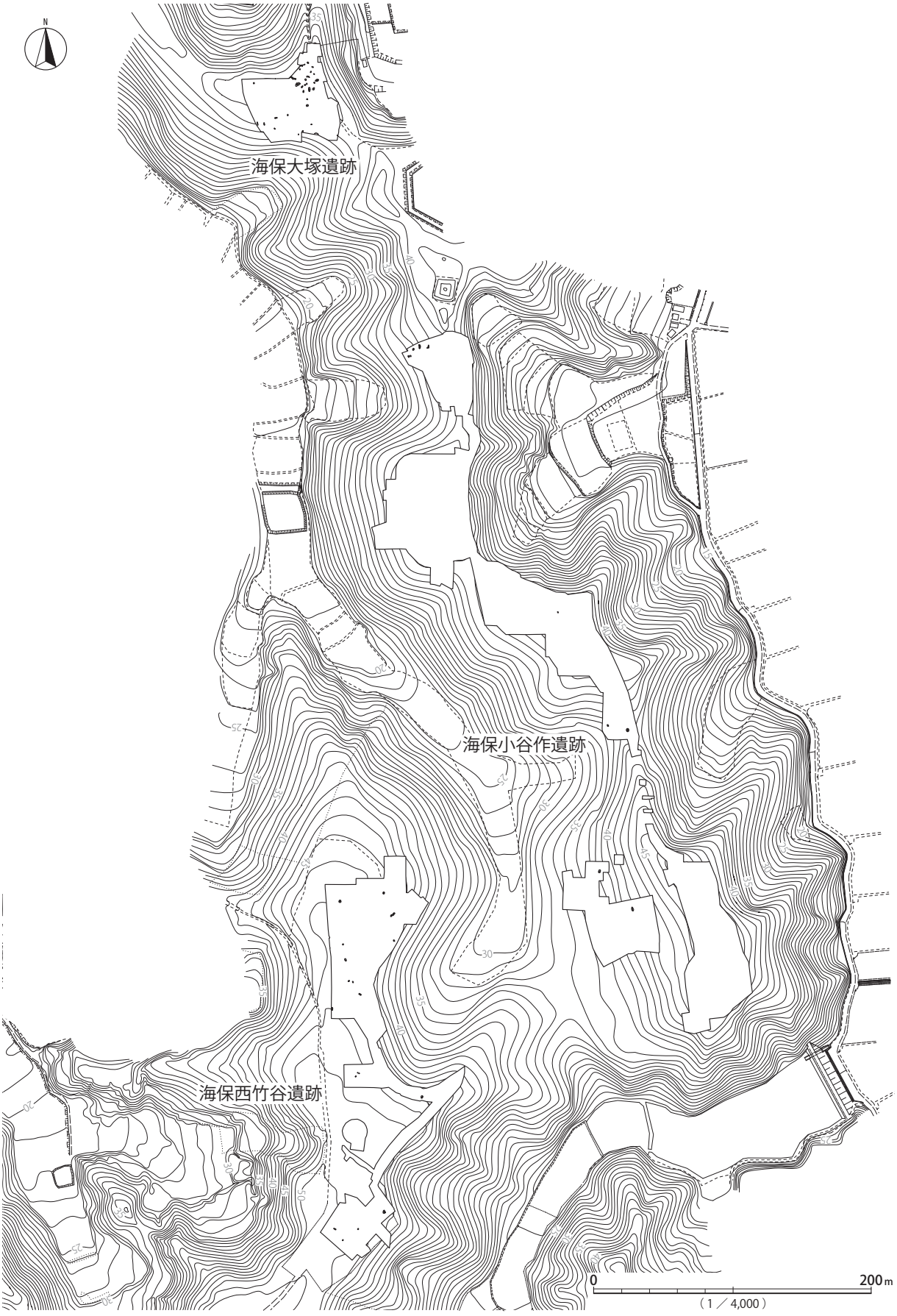
中期　大塚遺跡で五領ヶ台式期の竪穴建物１棟（SI001）が検出された。他の２遺跡ではこの時期の遺構は検出されなかった。

後期　西竹谷遺跡において、加曾利B式期の土坑１基（SK017）が検出されている。

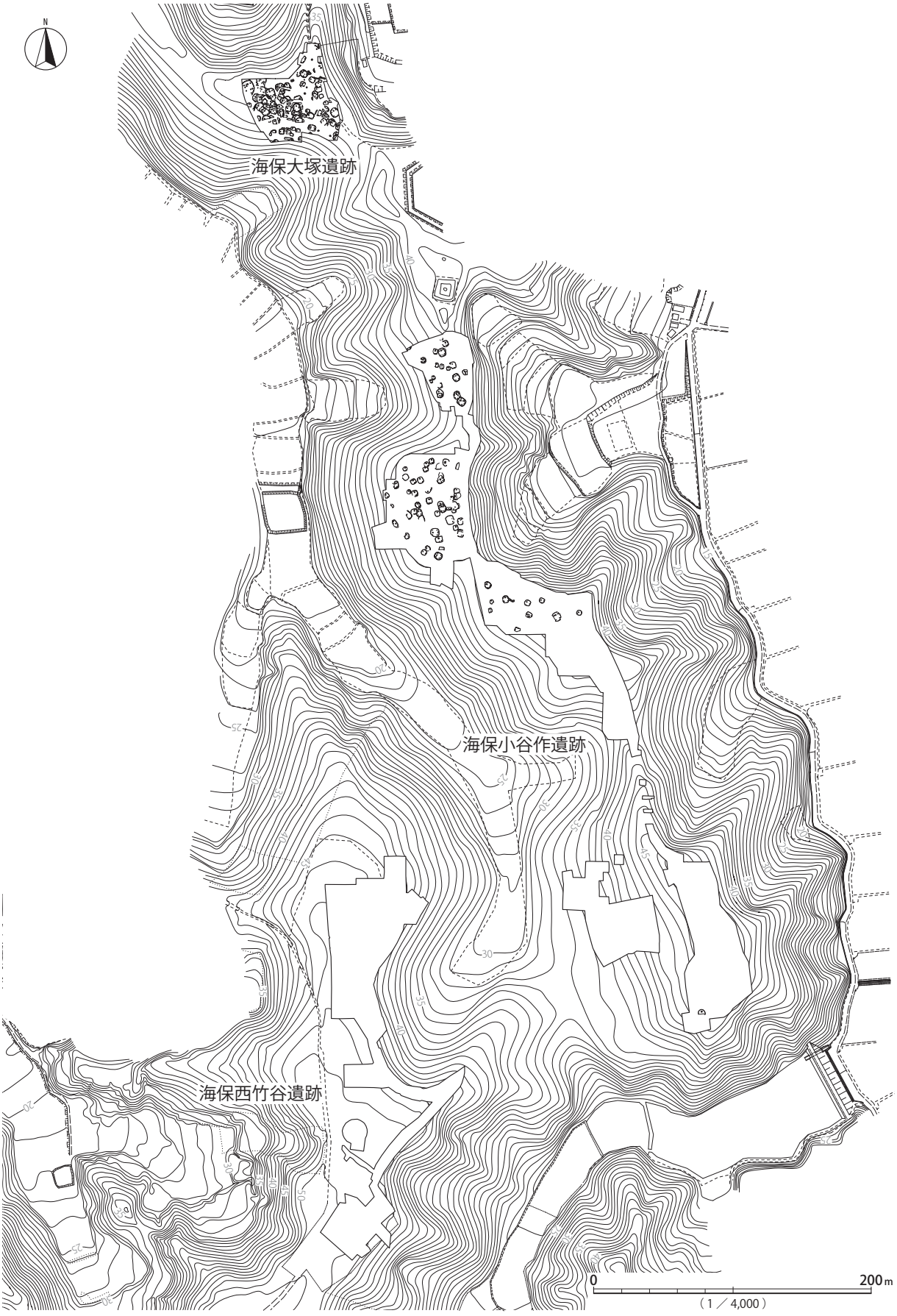
上記の遺構のほかに、覆土の特徴から縄文時代とした遺構が各遺跡で検出されている。西竹谷遺跡では陥し穴が平坦面から斜面への変換線上に設けられている。その他の遺構は散発的な分布である。

第２節　弥生時代

小谷作遺跡および大塚遺跡において、弥生時代後期から終末期にかけての竪穴建物が合計167棟検出された。時期決定は出土遺物を元に行った。ただし、多くの竪穴建物は遺物が少なく、重複関係や平面形態を判断材料としており、後期～終末期などのように時期幅が大きくなってしまった。以下では、時期を特定した竪穴建物を列挙している。本来ならば、時期別の変遷図を示すべきだが、詳細な時期が不明な竪穴建物が多いため、第953図では全ての竪穴建物の分布を図示している。本節では、時期を特定した竪穴建物からうかがえる分布傾向を提示するにとどめたい。



第952図　時期別遺構分布図（縄文時代）



第953図　時期別遺構分布図（弥生時代）

後期前葉

小谷作遺跡　SI055・SI056・SI070

大塚遺跡　SI024・SI065a・SI083

後期前葉～中葉

大塚遺跡　SI018・SI027・SI028・SI042a・SI042b・SI052・SI055・SI059・SI060・SI081

後期中葉

小谷作遺跡　SI008・SI010・SI031・SI041・SI060・SI063・SI076

大塚遺跡　SI025・SI034・SI037

後期中葉～後葉

小谷作遺跡　SI005・SI011・SI023・SI024・SI045・SI050・SI052

大塚遺跡　SI010・SI019・SI039・SI045・SI050・SI064・SI067・SI068・SI070・SI071・SI077・SI086

後期後葉

小谷作遺跡　SI004・SI006・SI051

大塚遺跡　SI005・SI016・SI022・SI032・SI048

終末期

小谷作遺跡　SI015・SI025・SI044・SI058・SI061・SI062・SI067・SI072・SI078

大塚遺跡　SI007・SI011・SI030・SI075a

後期前葉が集落の開始段階であり、小谷作遺跡・大塚遺跡ともに台地上の平坦面に竪穴建物が構築される。ただし大塚遺跡SI065aは斜面に構築されており、やや例外的な存在となっている。

後期中葉から後葉になると、平坦面に加えて斜面への構築がみられるようになる。特に大塚遺跡SI067・SI068・SI070・SI071は比較的傾斜の強い斜面に構築されており、その平面形態は隅丸方形である。一方、平坦面では小判型が多いことから、立地によって平面形態が異なる竪穴建物が構築されていた可能性がある。

終末期では小谷作遺跡・大塚遺跡ともに平坦面に竪穴建物はなく、斜面への変換線上に構築されている。また小谷作遺跡SI078（H区21Rグリッド）は集落から離れた位置で1棟のみ構築されているが、これも傾斜への変換線上に位置している。竪穴建物の構築に際して、平坦面から斜面への変換線上を意図的に選択した可能性が考えられる。

以上、非常に雑駁であるが、海保地区遺跡群の弥生時代における竪穴建物の分布傾向をまとめてみた。今後は周辺の集落遺跡の動向を踏まえた、集団の動向の解明が課題になろう。

第3節　古墳時代

3遺跡の合計で、中期および終末期の古墳31基、竪穴建物73棟、掘立柱建物1棟、柱穴列1条、溝8条、土坑82基が検出された。

中期は古墳と集落が明確に分かれている一方、終末期は古墳と竪穴建物が混在している。その変遷

を解明することは、養老川流域における該期の展開を研究するに有益な情報となると考える。そこで、本節ではまず土器の変遷を検討し、両時期の段階を設定する。次に段階ごとの古墳と集落の変遷を検討していきたい。

１．土器の変遷

土器の変遷を検討するにあたって、竪穴建物の床面、付属施設、覆土下層や各遺構出土の一括資料から、遺存度の良好な個体を抽出し対象とした。

段階の設定は例言に挙げた文献を参考に、中期では土師器高坏、終末期では土師器坏を中心とした器種の型式変化と遺構の重複関係をもとに区分した。年代の決定には、中期では小谷作SM005出土の陶邑産須恵器（TK208型式）、終末期では西竹谷遺跡出土の湖西産須恵器坏身（湖西編年Ⅳ期）を定点としている。

なお、土器変遷図中の遺物番号は、遺跡の頭文字、出土遺構名とその掲載番号である。

中期０段階（４世紀代）

５世紀代に先行する段階として０段階（４世紀代）を設定する。ただし、４世紀代を一括した段階であり、中期１段階の直前段階を示すものではない。

甕は外面全面にハケメ調整を残す（小SM011-4・同５）や、胴下部にヘラケズリを施す（小SM009-1・小SM011-6・小SM012-5）がある。

大型の広口壺（小SM012-4）は折り返し口縁をもち、頸部や胴下部にハケメ調整を残している。

高坏（小SM012-1・小SI131-1）は内実、柱状の脚部である。このほかに鉢（小SM012-2）や小型の器台（小SM011-1・小SI086-1）、平底鉢（小SM010-1・小SM011-3）などがある。

中期１段階（５世紀初頭）

甕はハケメ調整を肩部に残し（小SK023-5）、全面への調整はみられなくなる。また外面全面にヘラナデやヘラケズリを施す（小SI107-15・小SI128-6）が現れる。この段階に特徴的なものとして外面全面にミガキを施す小ぶりの甕（小SK023-6・小SI112-2）、有段口縁をもつ大型の壺（小SI107-14・小SI109-1）がある。

小型の広口壺（小SI085-1・小SI128-3）がこの段階からみられる。

坩（小SI128-2）は口縁高が高く、ソロバン玉状の胴部をもつ。

高坏は脚部が内空になる。坏部との接合部に臍をもつものともたない（小SI107-2）が混在し、臍をもつものでは坏部に稜が認められる（小SI107-3）と認められない（小SI091-4）に細分される。この段階から、坏部の稜が明瞭で口縁部が外反する（小SK023-1・同２）が現れる。

中期２段階（５世紀前葉）

甕は前段階同様、外面全面にヘラナデやヘラケズリを施す（小SI122-15・大SM013-3）があり、肩部にハケメ調整を残す（小SI121-8）やハケメ調整の後にヘラミガキを施す（小SI122-16・同18）が混在する。

壺は有段口縁がみられず、折り返し口縁で、内外面にヘラミガキを施す（小SI094-1）や、素口縁で口縁部から肩部にかけてハケメ調整を残す（小SI121-7）がある。

小型の広口壺がこの段階で増加し、大小の二種に大別できる。

坩（小SI099-3）は胴部が球状に発達し、口縁部は前段階に比して開き気味になる。

高坏の形態は前段階と同様のものに加えて、脚部が中膨らみの（小SI102-3・小SI122-5）や、坏底部が水平で脚部との接合部が鋭角になる（小SI102-4・同７）が現れる。接合部の臍はみられなくなるが、坏部の稜の有無はともに存続している。

前段階で見られなかった平底鉢（大SM013-1・小SI121-1・小SK029-1）が、再び現れる。

中期３段階（５世紀中葉）

甕は胴部外面全面にハケメ調整を残す球胴、丸底の甕（小SI114-4・小SI117-8）、肩部にハケメ調整を残す（小SI114-5・小SI108-12）などがある。

壺は前段階と同様に、折り返し口縁をもち内外面にミガキが施される（小SM006-2）、素口縁で口縁部から肩部にかけてハケメ調整を残す（小SM005-191）がある。

小型の広口壺も前段階と同様に、大小の二種に大別できる。（大SM007-1）のようなハケメ調整を残すものはわずかである。

坩（小SI114-3・小SI108-5）は胴部が退化し、口縁部はさらに開いてゆく。

高坏は中膨らみの脚部は消滅し、短脚化していく。また坏部の稜が接合部に接近し、稜を持たないものに近似した形態（小SI108-1）も存在する。前段階まで見られた脚部へのヘラミガキは施されなくなる。他とは形状が異なる大型のもの（小SM005-190）がある。

坏は本段階のみで確認される。全て小谷作SM005からの出土である。１点（小SM005-189）のみ深い鉢形、平底であるが、そのほかは浅い埦形、丸底である。

須恵器が確認されるのも本段階のみで、坏同様、小谷作SM005からの出土である。坏身、坏蓋、鼓、高坏、甕があり全て陶邑産、TK208型式に比定できる。

特徴的な遺物として高坏（小SM005-172）が挙げられる。内面に突帯の巡るこの遺物は、類例は少ないが、大阪府泉大津市豊中遺跡や堺市陶邑・STK99地点、同市陶邑・伏尾遺跡などに出土例が認められる。本報告では高坏としたが、共伴して出土した鼓（小SM005-173）を置くのに適した口径、突帯径であり、あるいは器台としての使用も推測される。

中期４段階（５世紀後葉）

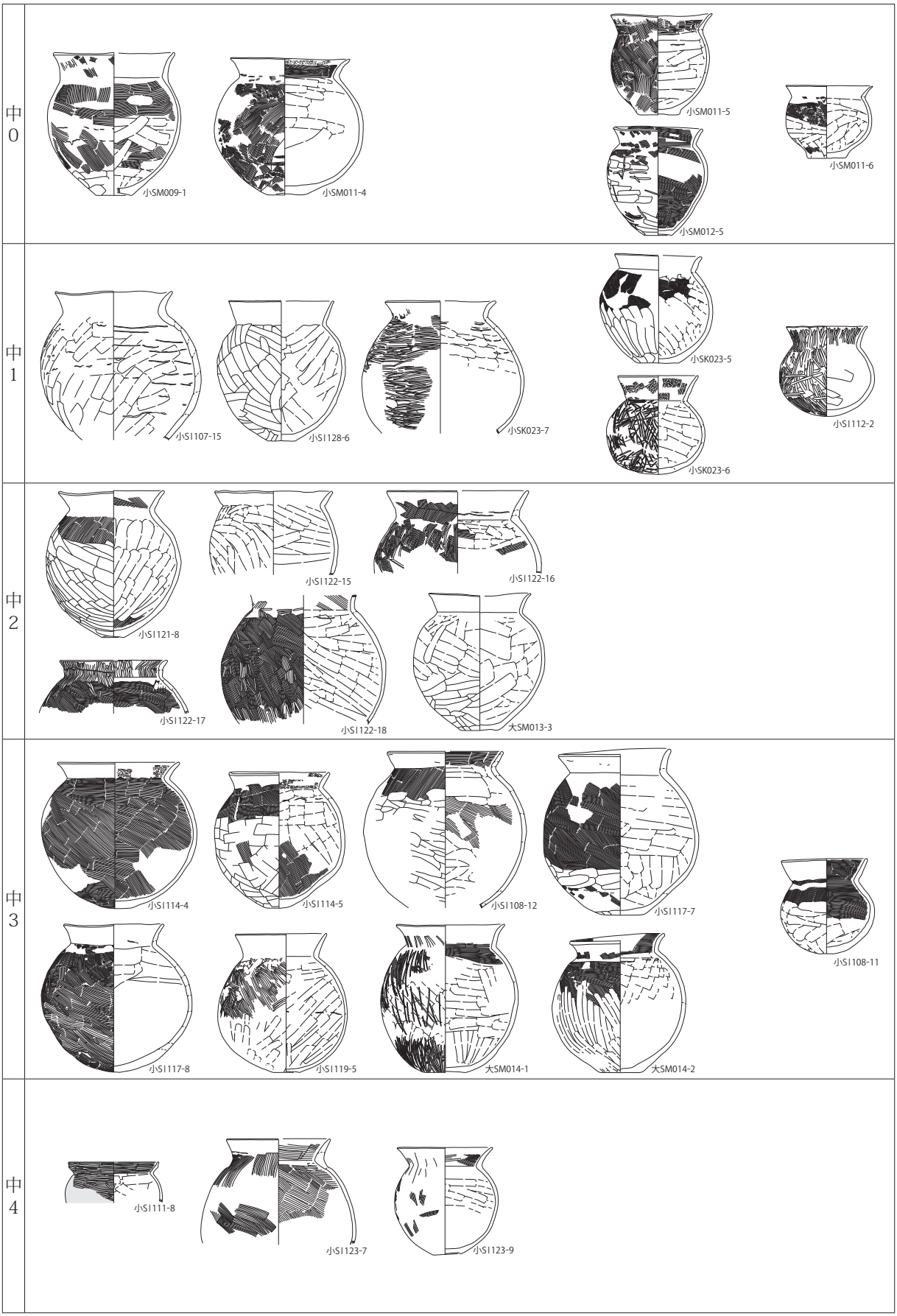
本段階は遺構数が少なく、出土遺物も限られている。

甕は受け口状で、赤彩の施される（小SI111-8）や、外面にハケメ調整を残す（小SI123-7）などがある。

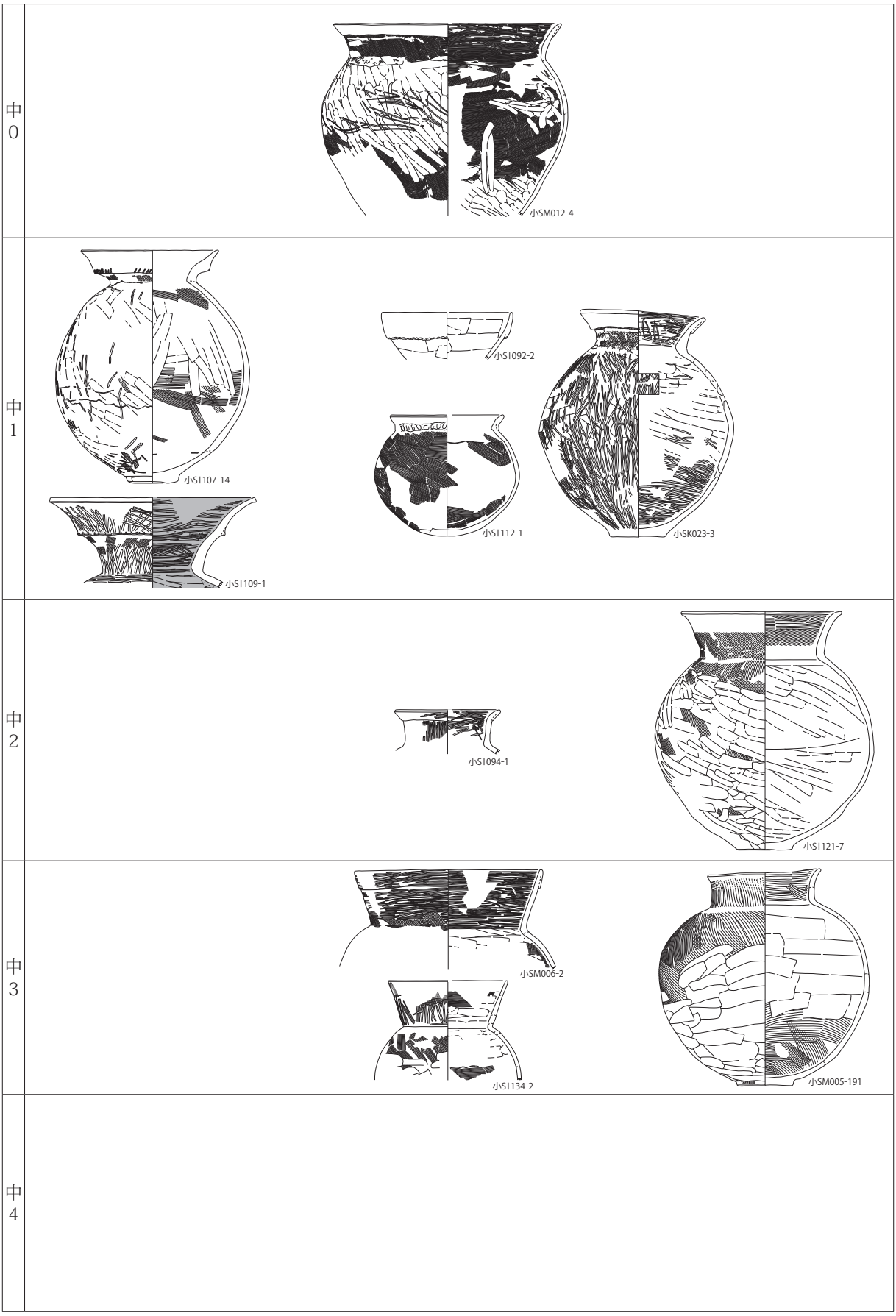
鉢は口縁部が強く外反し、埦形の胴部で丸底となる（小SI111-1・小SI123-4・同５）。

高坏は埦形の坏部に八の字状に大きく開く脚部をもち、前段階までとは異なる形態となる。またヘラミガキはほとんど施されなくなり、内外面にハケメ調整を残す粗雑な造りとなっている。

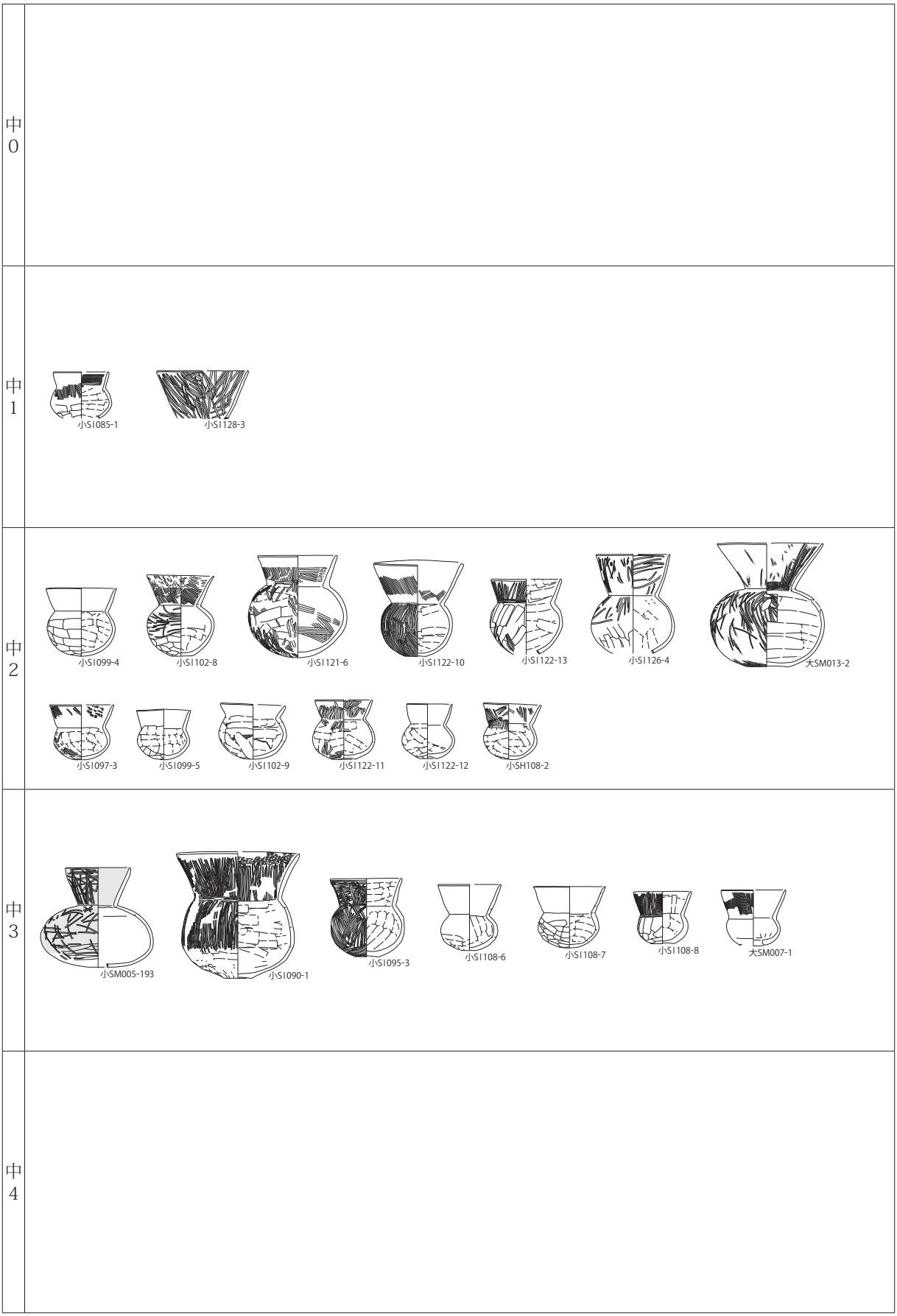
前段階ではみられなかった平底鉢が再び現れる。中期２段階よりも底径が小さく、不安定な印象を受ける。高坏同様、内外面にハケメ調整を残す。



第954図　海保地区遺跡群　中期の土器変遷図（甕）

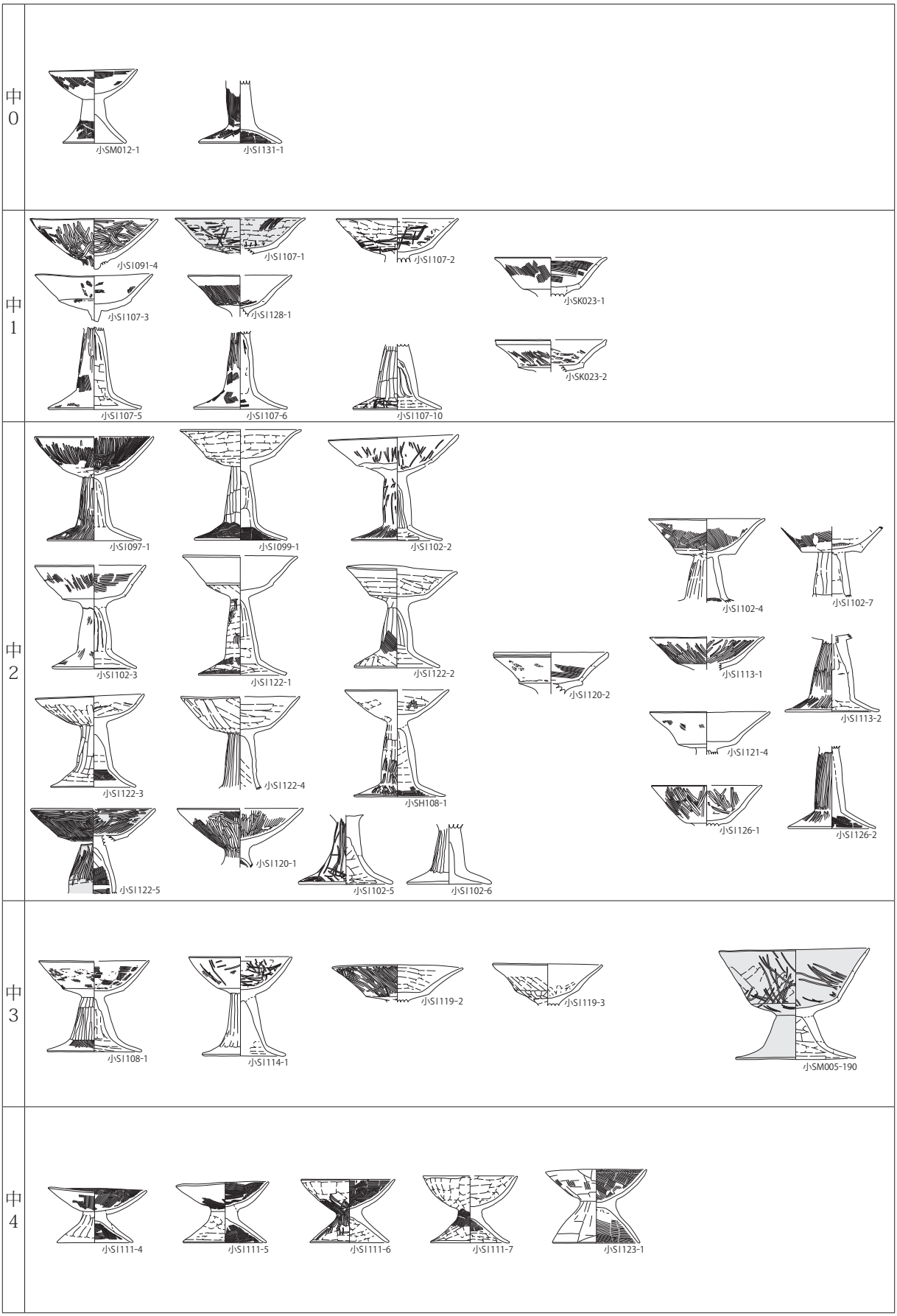


第955図　海保地区遺跡群　中期の土器変遷図（壺・広口壺・甑）

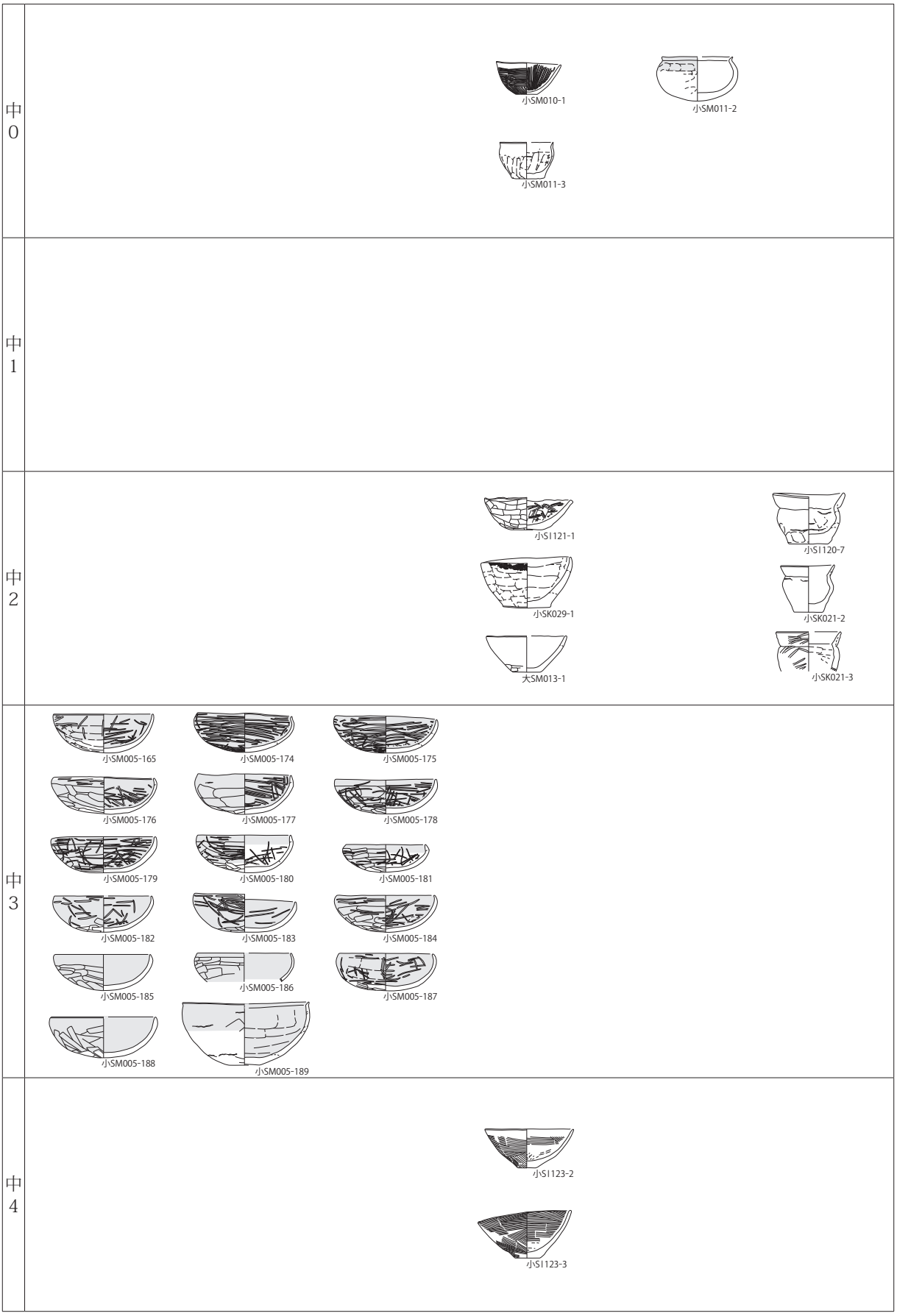


第956図　海保地区遺跡群　中期の土器変遷図（広口壺）

第957図　海保地区遺跡群　中期の土器変遷図（鉢・坩）



第958図　海保地区遺跡群　中期の土器変遷図（高坏）



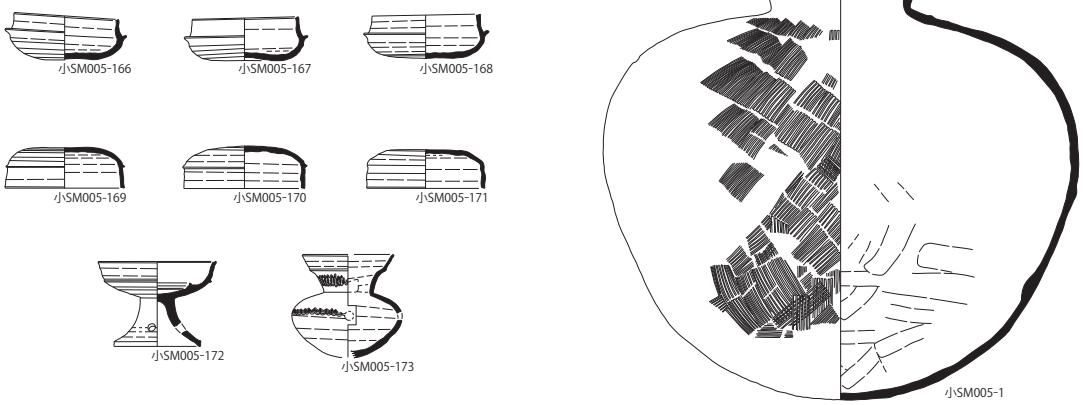
第959図　海保地区遺跡群　中期の土器変遷図（坏・平底鉢・その他）

中0

中1

中2

中3



中4

第960図　海保地区遺跡群　中期の土器変遷図（須恵器）

終末期１段階（６世紀末葉～７世紀初頭）

甕は頸部に直線的な立ち上がりをもつ（小SI105-8）や屈曲が緩い（小SI129-3・同５）が存在する。いずれも長胴で胴中部～下部に最大径をもち、胴径が口径を上回る。内面のハケメ調整はあまりみられない。

鉢は口縁部が外反し、底部のやや突出する（小SI129-2）がある。

坏は模倣坏を主体とし、扁平な坏蓋模倣（小SI105-1・2　、小SI129-1）とやや器高のある坏身模倣（小SI132-1・同２）が存在する。両タイプともに赤彩、無彩がある。

高坏は模倣坏形の坏部をもつ。赤彩の施される（小SI105-5）、無彩（小SI105-3・同４）が存在する。

須恵器は無蓋高坏（西SI009-2）がある。

終末期２段階（７世紀前葉）

甕は前段階と同様に、頸部に直線的な立ち上がりる（西SI011-4・西SI015-3・西SI017-3）や頸部の屈曲が緩い（西SI017-2・同４）があり、これに加えて屈曲の強い（西SI017-1・同５）が現れる。最大径はやや上位に移り、胴上部～中部で、ほぼ口径＝胴径となる。

平底の鉢は内面にヘラミガキが施される（西SI015-2）やヘラナデ調整を残す粗製のもの（西SI012-6）がある。また、内面に黒色処理を施す（西SI013-4）もある。

高坏は短脚・小型（西SM003-5・同６）と長脚・大型（西SI012-7）に大別できる。坏部は模倣坏形がみられなくなり、浅い皿形となる。

坏のうち、坏身模倣は前段階に比して口径が縮小、扁平化し埦形へ変化する。多くは内外面にヘラミガキが密に施される（西SM003-1・西SI002-1・西SI012-1・同２など）。赤彩は施されなくなり、代わって黒色処理が施されるようになる（西SM003-1・小SI127-1）。一方、坏蓋模倣は大小の別（小SI127-3・西SI011-3）があり、ともに体部が深くなっている。本段階のみで、東北系の有稜坏（西SI005-1・西SI011-1・同２）がみられる。

須恵器は坏身（西SI012-8・西SI018-1）、坏蓋（西SI012-9・西SI013-5）、甕（小SI127-8）などがある。坏身受け部の径は10.6 ～ 11.0cmである。

なお、湖西編年Ⅳ期の年代観は７世紀第２四半期～第４四半期と考えられており、本段階は７世紀前葉でも後半にあたると考えられる。

終末期３段階（７世紀中葉）

甕は前段階の特徴を引き継ぎつつ、屈曲がさらに弱くなる（西SM003-8・小SI080-4）が加わる。最大径は前段階と同様に胴中部～上部であるが、一部は口径が胴径を上回る（西SM003-7・西SI014-18・小SI118-2）。また球胴（西SI014-16）や底径のやや大きな寸胴のもの（西SI014-21・小SI133-3）が存在する。

甑は前段階からの変化に乏しいが、頸部の屈曲がやや緩く、口縁の外反部が短くなる印象を受ける。

鉢は前段階から継続し、内面に黒色処理が施される（西SM001-2・西SI014-12）。

高坏は長脚がみられなくなり、八の字状の短脚、浅い皿形の坏部をもつ形態での大小の別となる。筒状の脚部を持つもの（小SI080-3）は例外的な存在である。

坏は埦形にほぼ統一されるが、坏身模倣の要素である内屈する口縁立ち上がりを残すもの（西SI014-4・同６・小SI110-1）もみられる。外面への黒色処理はほとんど見られず、体部のやや深いタイプ（西SI014-2・同６・同10・同11）は内面に黒色処理が施される。

須恵器は坏身（西SM003-9 ～ 11・小SI080-5・小SI110-2・同３）、坏蓋（西SM001-4）、甕（西SM001-5・西SM003-15）、瓶（西SM003-13）がある。坏身は口縁部の立ち上がりが受け部と同位（西SM003-9・同10）、わずかに高位（小SI110-3）、明らかに高位（小SI080-5・小SI110-2）の３タイプが混在する。坏身受け部の径は10.4 ～ 10.8cm、器高は3.1 ～ 4.0cmとなり、わずかながら縮小傾向にある。

終末期４段階（７世紀後葉）

甕は頸部の屈曲の強いものが減少するが、前段階との差異は目立たない。最大径や口径と胴径の比率も前段階との差異は明確ではない。球胴タイプも継続する。またソロバン玉状の胴部を持つ（西SI010-5）がある。

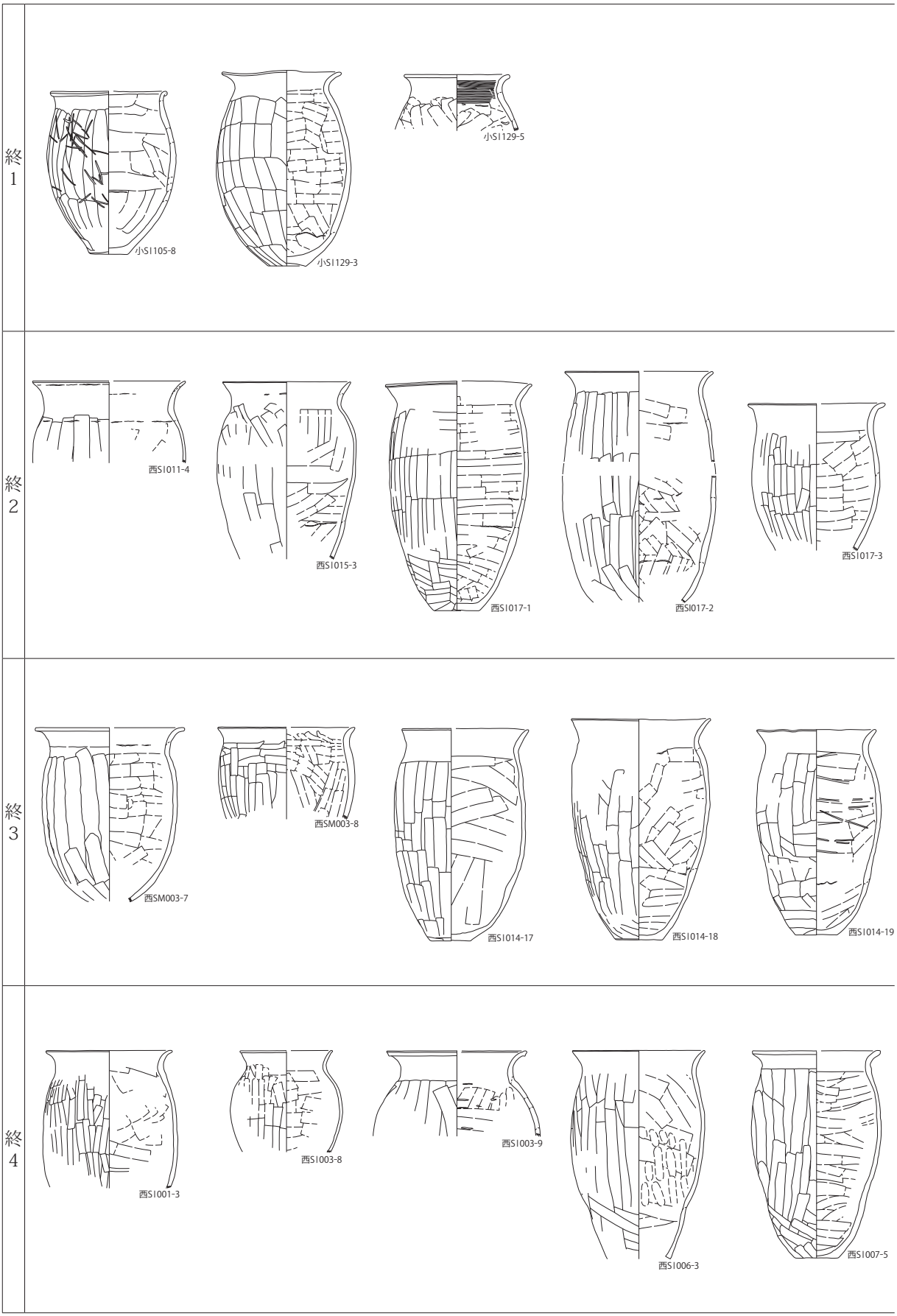
甑は胴中部に最大径をもつ（西SI003-7）。

鉢はみられなくなる。

坏は放射状暗文の施されるものが増加し、内面の黒色処理はほぼみられなくなる。器形は前段階同様、埦形を主体とするが、平底（西SI006-1・同２）がわずかにみられる。

高坏は大小の別が継続するが、脚部の開きが弱くなる。また埦形の坏部（西SI010-3）や柱状の脚部（西SM002-1）をもつものが現れる。埦形の坏部は内面に放射状暗文が施されており、坏との関連が指摘できる。

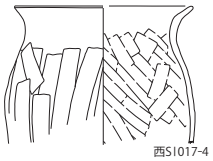
須恵器は坏身（西SI003-1・同２・西SI010-6・同７・小SM002-2）、坏蓋（西SI003-3・西SI007-4・西SI010-8）がある。坏身受け部の径は10.0 ～ 10.7cm、器高は3.3 ～ 3.4cmとなり、さらに縮小している。

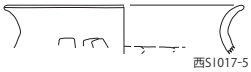


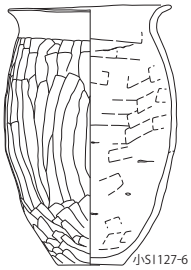
第961図　海保地区遺跡群　終末期の土器変遷図（甕）

終1

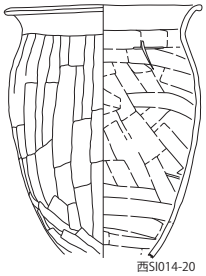
終2

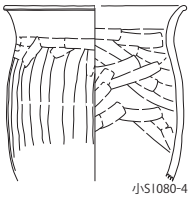

西SI017-4

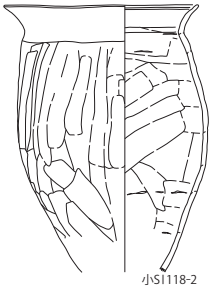

西SI017-5

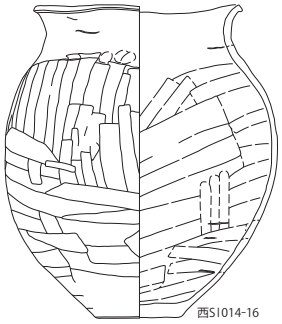

小SI127-6

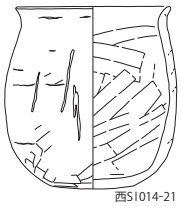
終3

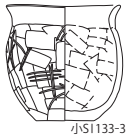

西SI014-20


小SI080-4

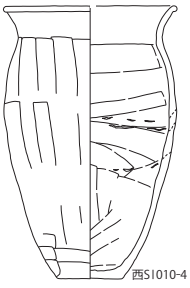

小SI118-2

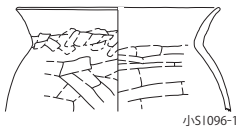

西SI014-16

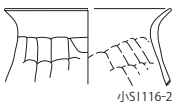

西SI014-21

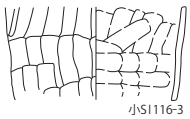

小SI133-3

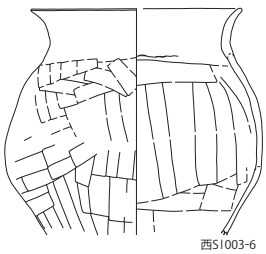
終4

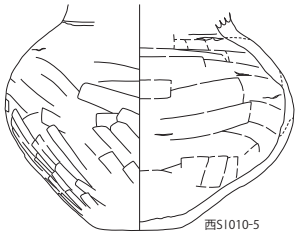

西SI010-4

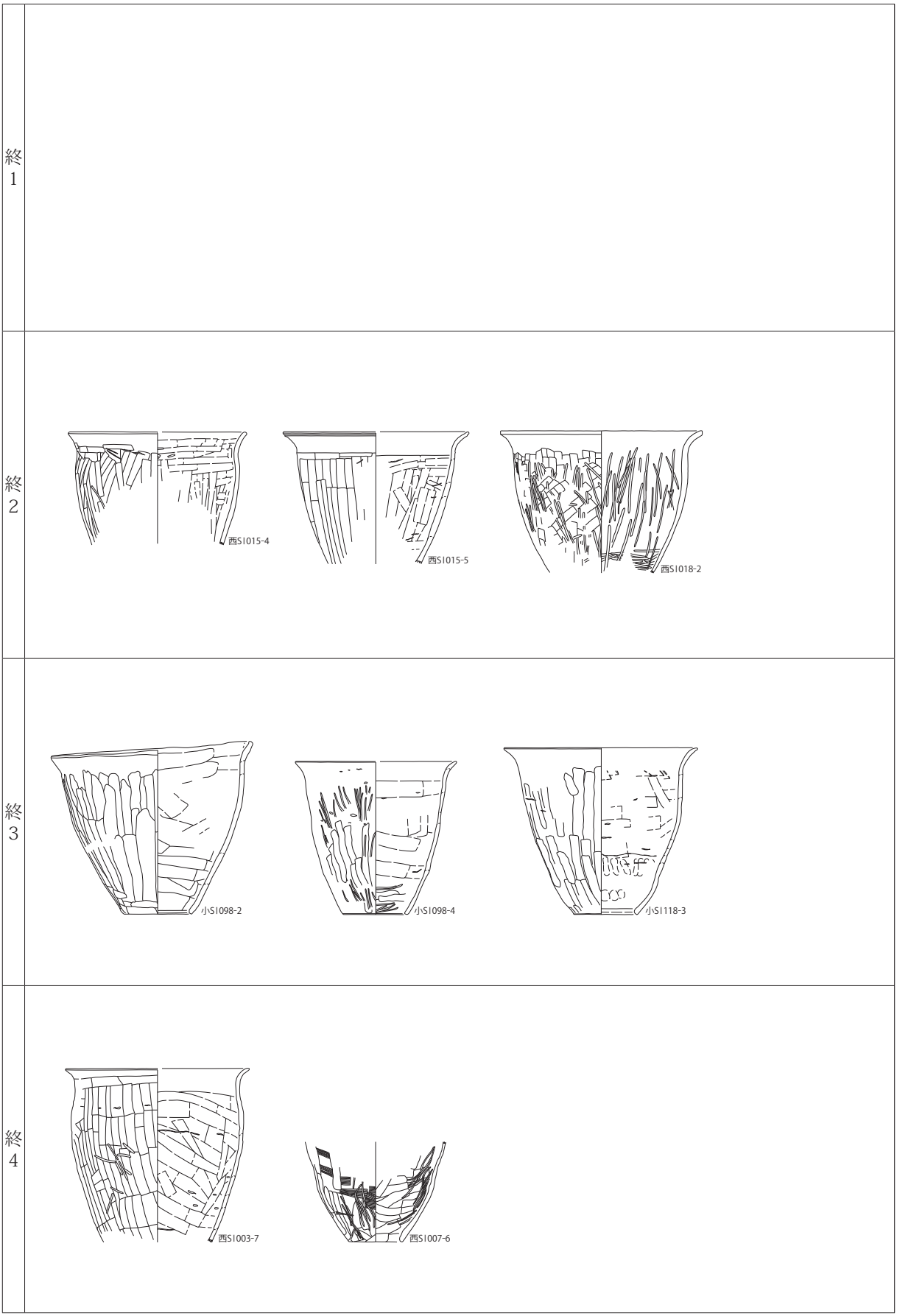

小SI096-1


小SI116-2


小SI116-3

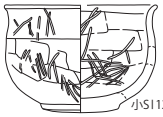

西SI003-6


西SI010-5

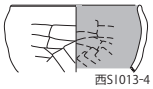


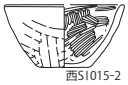
第962図　海保地区遺跡群　終末期の土器変遷図（甑）

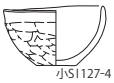
終1



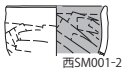
終2





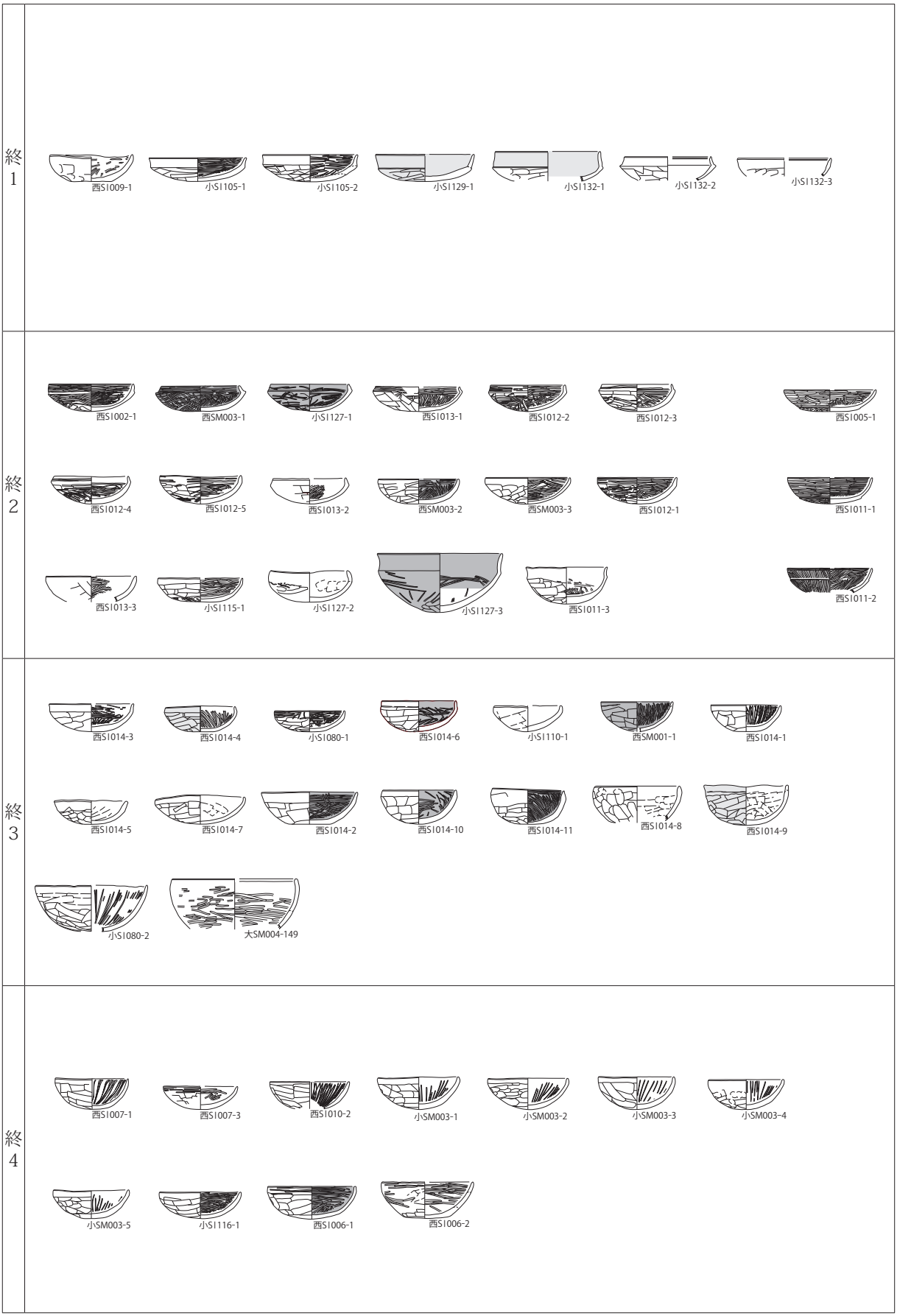


終3

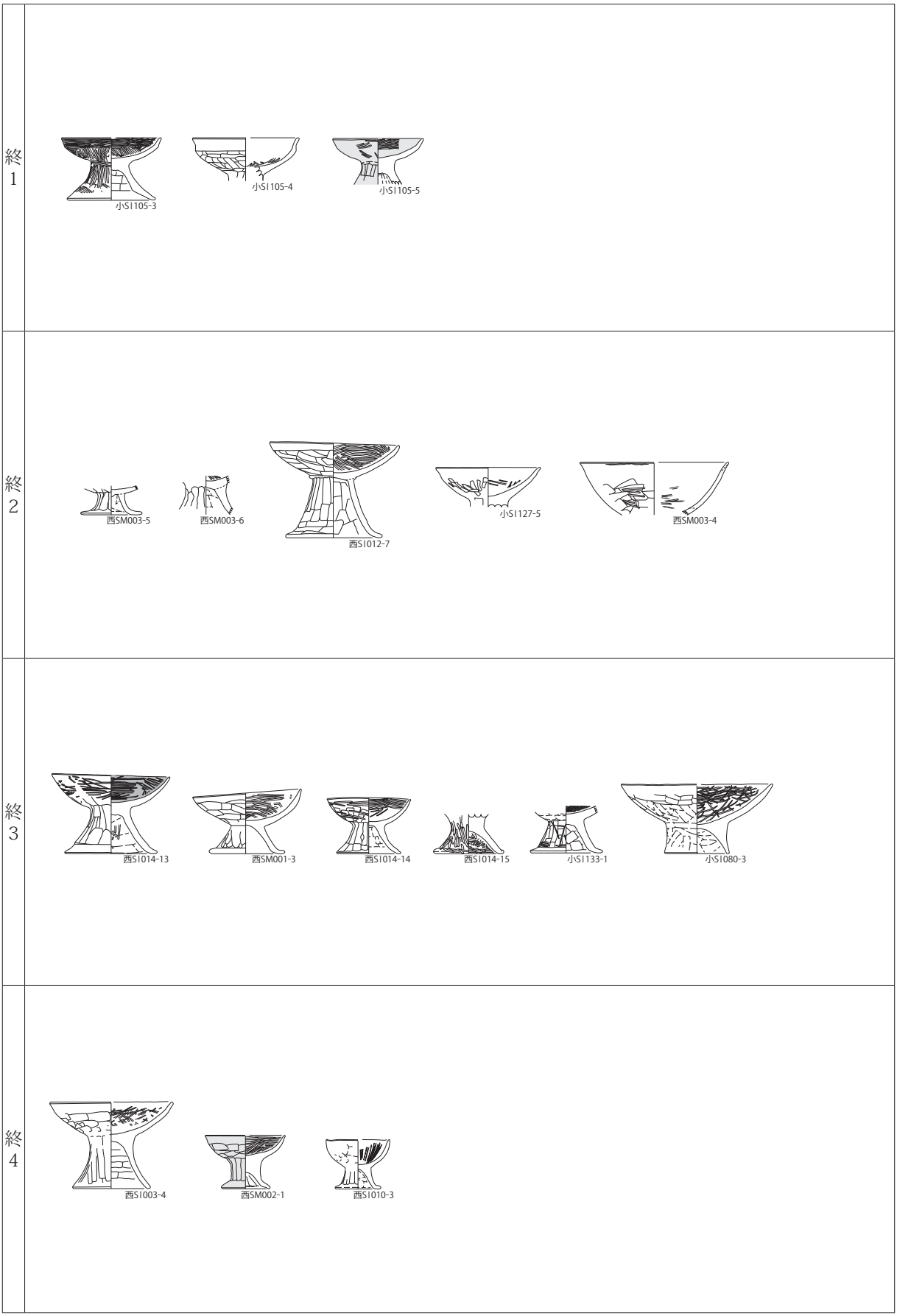


終4

第963図　海保地区遺跡群　終末期の土器変遷図（鉢）



第964図　海保地区遺跡群　終末期の土器変遷図（坏）



第965図　海保地区遺跡群　終末期の土器変遷図（高坏）

第966図　海保地区遺跡群　終末期の土器変遷図（須恵器）

２．前期・中期古墳

今回の調査で確認された前期・中期古墳は総数17基である（第324表）。まず、時期別の概要を述べる。

４世紀代

小谷作遺跡のみで確認された。いずれも円墳である。４世紀代（中期０期）のSM009 ～ SM013、４～５世紀代のSM007がある。SM007は今回調査した中で最大規模（29.94ｍ）になる。埋葬施設は、SM007で木棺直葬（SK1）、SM013で墓坑（SK1）が確認された。ともに副葬品は出土していない。

５世紀代

小谷作遺跡では、５世紀中葉（中期３段階）のSM005（円墳）・SM006（方墳）、５世紀代のSM004（方墳）がある。埋葬施設はSM005で木棺直葬（SK1・SK3）２基、周溝内土坑１基、SM006で同一の墓坑（SK1）から２基の木棺痕跡が確認された。副葬品は、SM005SK1から直刀１点、鉄鏃25点、ガラス小玉140点、SK3から直刀１点、鉄鏃25点がある。周溝底面から陶邑産の須恵器坏身や蓋、高坏、𤭯など、土師器は坏、鉢、高坏などが、それぞれまとまって出土している。

大塚遺跡では、５世紀前葉（中期２段階）のSM013、５世紀中葉（中期３段階）のSM007・SM014、５世紀代のSM001・SM002・SM005・SM009・SM012があり、いずれも方墳である。削平が激しく墳丘盛土や埋葬施設は確認されていない。

以上のとおりであり、前期・中期古墳は、西竹谷遺跡では確認されなかった。次に、豊富な副葬品が出土した小谷作SM005と、最大規模を誇る小谷作SM007についてさらに検討したい。

周辺の主要な中期古墳について「古墳時代中期の房総」『研究紀要27』（千葉県教育振興財団編2012）所載の「第３表中期主要古墳一覧」をもとに第325表にまとめた。小谷作SM005と同時期の古墳は『研究紀要27』では、Ⅴ期（ON46・TK208）に該当する。「王賜」銘鉄剣の稲荷台１号墳など、いずれも30ｍ弱の規模で、甲冑や馬具などが副葬されていた。近辺では富士見塚１号墳があり、鏡や胡籙などが出土している。小谷作SM005はこれらの古墳より規模がひとまわり小さく、副葬品に鏡や甲冑、馬具などは伴わない。規模や副葬品の内容から小谷作SM005の被葬者はこれらの古墳よりは下位のクラスといえる。

ただし、小谷作SM005の事例は10ｍ級の古墳であっても、直刀、鉄鏃が副葬され、陶邑産の須恵器を伴う祭祀が行われていたことを示している。

小谷作SM007は、丘陵上の最高所に位置し、規模も最も大きいが埋葬施設の遺存状態が悪く出土遺物に恵まれなかった。以下に築造時期について可能性を述べておきたい。小谷作遺跡において、最初に築造された中心的な古墳と考えるのなら、西側の斜面に４世紀代の古墳が分布することからそれらと同時期の可能性、もしくは北隣に５世紀中葉の古墳が位置していることから、その前段階として５世紀前葉の二つの可能性が考えられる。５世紀前葉とした場合、東隣の丘陵に位置する海保３号墳とは、時期や規模がほぼ同じになり、海保地区遺跡群の中小古墳の動向を考える上で大変興味深いが、時期を特定することはできなかった。いずれにしても、５世紀中葉以前と考えておきたい。

第324表　海保地区遺跡群　古墳一覧表

古墳名	墳形	墳丘規模	総長 (周溝を含む)	高さ	埋葬施設	副葬品			時期	備考
						直刀	鉄鏃	玉類		
海保西竹谷遺跡										
SM001	方墳	(10.41)×8.12	(13.83)×14.48	0.30	墓坑(SK1 木棺直葬?) 周溝内土坑(SK2～SK4)				７Ｃ中葉 終末期３段階	
SM002	方墳	9.71×(6.73)	11.97×(7.76)	墳丘盛土なし					７Ｃ後葉 終末期４段階	
SM003	前方後方墳	27.66	34.87	1.30	墓坑(SK1 木棺直葬?) 木棺直葬(SK2)				後方部　７Ｃ前葉 終末期２段階 前方部　７Ｃ中葉 終末期３段階	
SM004	方墳	20.30×18.82	25.58×22.58	1.20	横穴式石室　掘り方(SK3)のみ				７Ｃ中～７Ｃ末	
海保小谷作遺跡										
SM001	方墳	(2.74)×(0.84)	(3.48)×(1.57)	墳丘盛土なし					７Ｃ	
SM002	方墳	11.20×(5.67)	14.96×(7.55)	墳丘盛土なし					７Ｃ後葉 終末期４段階	
SM003	方墳	(7.75)×(1.93)	(9.19)×(3.79)	墳丘盛土なし					７Ｃ後葉 終末期４段階	
SM004	方墳	8.96×(7.59)	10.37×(9.72)	墳丘盛土なし					５Ｃ	
SM005	円墳	13.52×12.32	20.82×19.22	0.93	木棺直葬(SK1)	1	25	ガラス小玉140	５Ｃ中 中期３段階	周溝内から須恵器坏・蓋・高坏・𤭯、土師器坏・鉢・高坏・壺など
					木棺直葬(SK3)	1	25			
					周溝内土坑(SK2)					
SM006	方墳	16.70×15.30	(20.00)×20.00	0.70～1.45	木棺直葬(SK1a・b) ２棺埋葬				５Ｃ中 中期３段階	
SM007	円墳	29.94×28.68	(43.30)×(40.16)	1.00～1.40	木棺直葬(SK1)				４～５Ｃ	
SM008	方墳	(9.72)×9.23	(11.40)×14.20	墳丘盛土なし					７Ｃ末～８Ｃ初	
SM009	円墳	12.51×12.18	16.34×16.34	墳丘盛土なし					４Ｃ 中期０段階	
SM010	円墳	8.13×6.72	15.33×13.00	墳丘盛土なし					４Ｃ 中期０段階	
SM011	円墳	16.69×15.10	23.04×22.05	0.26					４Ｃ 中期０段階	周溝内から散在して鉄鏃が出土
SM012	円墳	8.39×7.47	13.87×13.55	墳丘盛土なし					４Ｃ 中期０段階	
SM013	方墳	(8.93)×8.78	11.49×11.92	墳丘盛土なし	墓坑(SK1)				４Ｃ 中期０段階	
海保大塚遺跡										
SM001	方墳	(5.37)×(5.34)	(6.48)×(6.81)	墳丘盛土なし					５Ｃ	
SM002	方墳	(4.68)×(3.30)	(6.33)×(3.72)	墳丘盛土なし					５Ｃ	
SM003										周溝のみ確認　調査区外に墳丘あり
SM004	方墳	7.32×6.12	10.32×8.64	墳丘盛土なし	木棺直葬(SK1)		2	ガラス小玉90、切子玉3、管玉1、勾玉2、棗玉18、臼玉8	７Ｃ中葉 終末期３段階	木棺に伴う鉄釘
SM005	方墳	7.56×(6.06)	11.46×(7.20)	墳丘盛土なし					５Ｃ	
SM006	方墳	9.78×(3.72)	12.18×(6.90)	墳丘盛土なし					７Ｃ	
SM007	方墳	10.38×10.14	12.90×13.50	墳丘盛土なし					５Ｃ中 中期３段階	
SM008	方墳	12.24×12.12	14.04×13.92	墳丘盛土なし	墓坑(SK1　木棺直葬?)	1	55		７Ｃ	
					墓坑(SK2　木棺直葬?)	1				
SM009	方墳	(5.76)×(3.78)	(6.54)×(4.29)	墳丘盛土なし					５Ｃ	
SM010	方墳	11.52×(7.32)	15.06×(9.36)	墳丘盛土なし	墓坑(SK1　木棺直葬?)	1	12		７Ｃ末～８Ｃ初	
SM011	円墳	(7.52)×(4.24)	(8.24)×4.64	墳丘盛土なし	墓坑(SK1　木棺直葬?)	1	10		７Ｃ	
SM012	方墳	10.74×9.00	(12.66)×10.74	墳丘盛土なし					５Ｃ	
SM013	方墳	12.54×(8.46)	13.74×(9.90)	墳丘盛土なし					５Ｃ前 中期２段階	
SM014	方墳	9.48×(7.62)	(11.94)×11.46	墳丘盛土なし					５Ｃ中 中期３段階	

第325表　養老川下流域の中期主要古墳一覧表

古墳名	墳形	墳長	埴輪	埋葬施設	鏡	剣	大刀	甲冑・馬具	鉄鏃	胡籙	玉類			装身具	刀子	農工具	その他	時期
											碧玉等	滑石	ガラス					
持塚４号墳	方墳	29.0		木棺(北)		1					○				1	ヤリガンナ、斧、針(錐)		Ⅰ
海保３号墳	円墳	29.0		木棺直葬		3			5		○						土師器	Ⅲ～Ⅳ
姉崎二子塚古墳	前方後円墳	114.0	円筒	木棺(後円部)	蟠虺文鏡、獣形鏡他1		(2)	金銅装衝角付冑、(短甲・小札甲)			○	(○)					鎌1、(鉄鉾1)、石製立花・刀子・有孔円盤、(臼玉)	Ⅳ
				木棺(前方部)			(2)	(甲、馬具轡)	55+		○			銀製長型耳飾り			有文石枕、(鉾2)	Ⅳ
富士見塚古墳	円墳	(25)		木棺直葬	方画規矩八鳳鏡1					鉄地金銅張						鉄斧1		Ⅴ
稲荷台１号墳	円墳	27.5		木棺(中央)		3		金銅装横矧板鋲留短甲1	10＋						1		鉄剣に「王賜」銘	Ⅴ
				木棺(北)			1		10＋	鉄製						きさげ1	佩砥石1	Ⅴ
持塚３号墳	円墳	28.1	円筒・形象															Ⅴ
東間部多１号墳	円墳	28.0					1	横矧板鋲留短甲1	7									Ⅴ
持塚６号墳	円墳	18.9					(○)		(○)								須恵器	Ⅵ
持塚１号墳	円墳	40.0	円筒	木棺(１)	一神五獣鏡1		1				○				1		須恵器臆	Ⅵ
				木棺(２)			1		8＋							針３＋	佩砥石1	Ⅵ

※時期区分　Ⅰ　陶質土器搬入段階　４世紀後葉、Ⅱ　TG232・231段階　４世紀末葉、Ⅲ　ON231～TK73前半段階　５世紀初頭～前葉
Ⅳ　TK73後半～TK216段階　５世紀前葉～中葉、Ⅴ　ON46～TK208段階　５世紀中葉～後葉、Ⅵ　TK23～TK47段階　５世紀後葉～末葉

３．終末期古墳

今回の調査で確認された終末期古墳は総数13基である（第324表）。

西竹谷遺跡では、７世紀前葉（終末期２段階）にSM003（前方後方墳）の後方部が築造され、７世紀中葉（終末期３段階）に前方部が付け足される。SM001（方墳）も７世紀中葉（終末期３段階）である。７世紀後葉（終末期４段階）ではSM002（方墳）、７世紀末葉～８世紀初頭以前ではSM004（方墳）がある。

埋葬施設は、SM001で木棺直葬と推測される墓坑（SK1）１基と周溝内土坑（SK2～SK4）３基、SM003で木棺直葬（SK2）１基、木棺直葬と推測される墓坑（SK1）１基、SM004で横穴式石室と推測される掘り方（SK3）が確認された。いずれも副葬品は出土していない。

小谷作遺跡では、７世紀後葉（終末期４段階）のSM002・SM003、７世紀末葉～８世紀初頭のSM008、７世紀代のSM001がある。いずれも方墳で、削平のため埋葬施設や墳丘盛土は確認されていない。

大塚遺跡では、７世紀中葉（終末期３段階）のSM004、７世紀末葉～８世紀初頭のSM010、７世紀代のSM006・SM008・SM011がある。墳形は、SM011が円墳で、そのほかは方墳である。埋葬施設はSM004で木棺直葬（SK1）１基、SM008で木棺直葬と推測される墓坑（SK1・SK2）２基、SM010とSM011で木棺直葬と推測される墓坑（SK1）各１基が確認されている。

副葬品は、SM004SK1から鉄鏃２点、ガラス小玉90点、切子玉３点、管玉１点、勾玉２点、棗玉18点、臼玉８点と木棺に伴う鉄釘が出土している。SM008SK1から直刀１点、鉄鏃55点、SK2から直刀１点、SM010SK１から直刀１点、鉄鏃12点、SM011SK1から直刀１点、鉄鏃10点が出土している。

以下では、前方後方墳の西竹谷SM003と横穴式石室墳と推測される西竹谷SM004について、さらに詳しく検討したい。

房総の終末期の前方後方墳

房総半島では、第326表に示した通り終末期の前方後方墳が12基確認されている（うち１基は６世紀後葉）。まず各古墳の概要を述べる（第967図）。

船塚古墳は、測量調査のみのため詳細は不明である。現状で３段の長方形を呈しており、くびれの弱い前方後方墳とされている。

西竹谷SM003は、方墳に前方部が付け足されている。後方部には、木棺直葬１基、木棺直葬と想定される墓坑１基がある。また、前方部の下からは、付け足し時に埋められた竪穴建物SI014・SI015が確認された。

六孫王原古墳は、後方部南側縁の裾部に横穴式石室の痕跡が認められたが、撹乱により詳細な規模・構造は不明である。金銅製馬具３点、直刀片、刀子、鉄鏃６点が出土している。

日立精機１号墳は、くびれ部に単室両袖形の横穴式石室があり全長3.08ｍである。副葬品は確認されていない。

草刈遺跡K500・K550は、方墳に前方部が付け足されている。後方部には、単室の横穴式石室があり、全長は2.55ｍ、半地下式である。前方部には木棺直葬１基がある。周溝底面で27基のピット列が確認されており、幡などの棒を立てた痕跡と考えられている。

東間部多11号墳は、墳丘盛土がほとんど流出しており、埋葬施設は確認されていない。

諏訪台古墳群では、６基確認されており、３基は前方部を付け足したもの、１基は長方形状でくびれ部がある。正報告書が今年度末に刊行予定であるため、ここでは、『上総市原台の光芒』（田中新史2000）や県史、各概報で示された計測値を利用した。また、古墳名についても、県史や概報時の名称としているが、『上総市原台の光芒』で示された番号を括弧内に併記した。詳細な計測値や埋葬施設の状況は正報告書の見解を参照されたい。

７世紀代の房総では、首長墓に方墳が採用されており印旛沼周辺の岩屋古墳（79ｍ）、作田川流域の駄ノ塚古墳（60ｍ）、小糸川流域の割見塚古墳（40ｍ）、小櫃川流域の松面古墳(44ｍ)などが認められる。一方、養老川下流域や手賀沼周辺では、六孫王原古墳（45.4ｍ）、日立精機１号墳（45ｍ）のように前方後方墳が首長墓として採用されている。

六孫王原古墳の位置する養老川下流域では、小地域まで前方後方墳が広がっており、諏訪台古墳群（６基、15.1 ～ 38.9ｍ）、東間部多11号墳（24.5ｍ）、西竹谷SM003（27.7ｍ）が確認されている。

第326表　房総の終末期前方後方墳一覧表

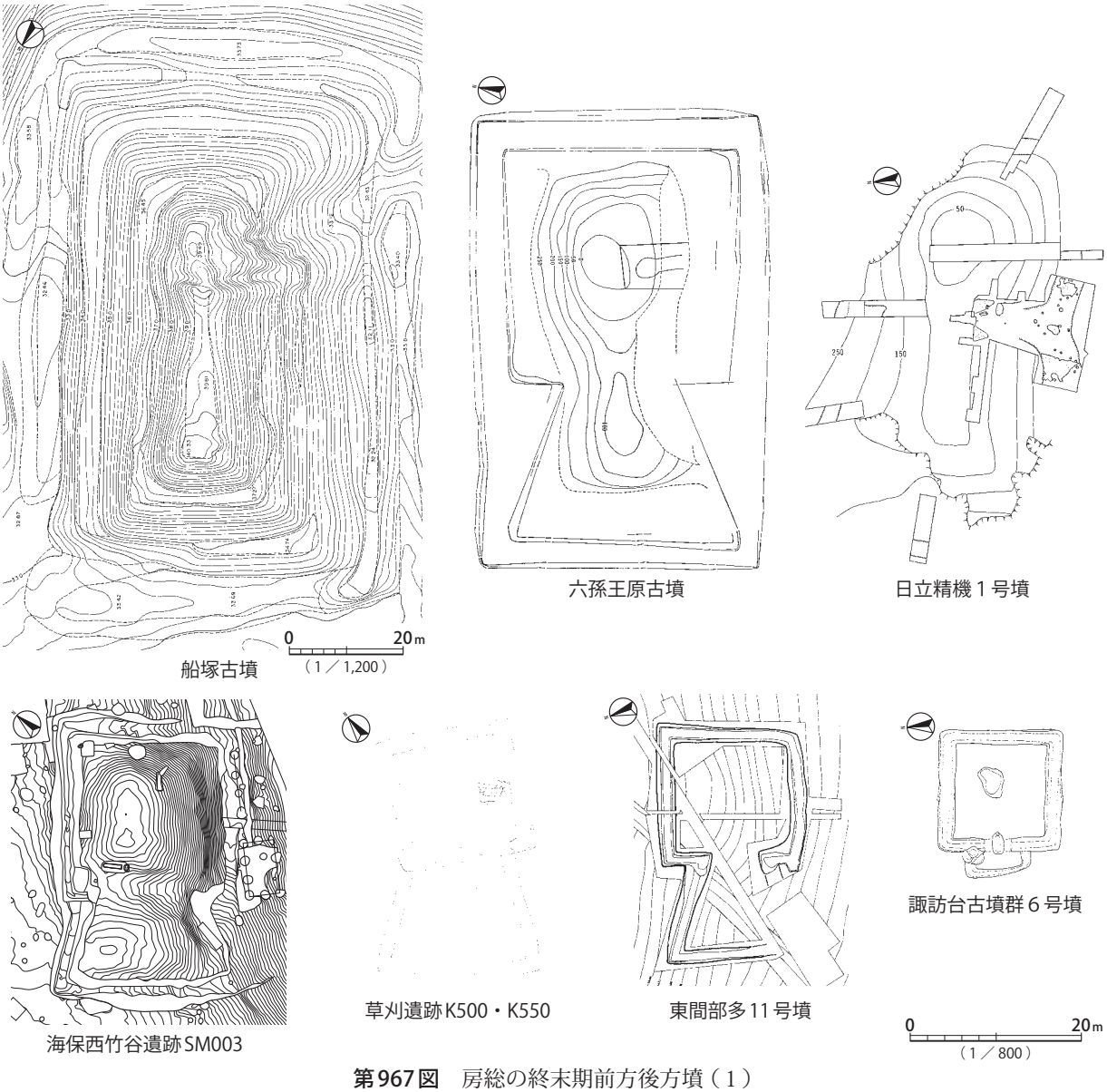
番号	古墳名	所在地	墳長	後方部幅	時期	埋葬施設	備考
1	船塚古墳	成田市	85.0	40前後	６C後		くびれなし
2	海保西竹谷遺跡SM003	市原市	27.7	16.7	７C前～中	後方部：木棺直葬、墓坑	付け足し
3	六孫王原古墳	市原市	45.6	28.0	７C中	後方部：横穴式石室	
4	日立精機１号墳	我孫子市	45.0	23.0	７C中～後	くびれ部：横穴式石室	
5	草刈遺跡K500・K550	市原市	25.6	12.5	７C後	後方部：横穴式石室 前方部：木棺直葬	付け足し
6	東間部多11号墳	市原市	24.5	13.2	７C		
7	諏訪台古墳群　K15号墳(C1)	市原市	38.9	24.2	７C	木棺直葬？	
8	諏訪台古墳群　4022号墳(C2)	市原市	29.5	18.2	７C		
9	諏訪台古墳群　4060号墳(C3)	市原市	22.7	13.8	７C		くびれなし
10	諏訪台古墳群　S62年度調査分(C5)	市原市	17.0	9.7	７C	木棺直葬？	付け足し
11	諏訪台古墳群　S63年度調査分(C4)	市原市	15.8	10.5	７C	木棺直葬？	付け足し
12	諏訪台古墳群　６号墳(C6)	市原市	15.1	12.0	７C	木棺直葬？	付け足し

これらは、六孫王原古墳（45.6ｍ）に比べて規模が小さく、埋葬施設も横穴式石室を伴わないなど、下位のクラスに位置づけられる。村田川流域の草刈遺跡K500・K550（25.6ｍ）も養老川流域からの影響によると考えられる。

方墳に前方部を付け足した事例は、西竹谷遺跡、諏訪台古墳群、草刈遺跡で認められる。

房総では６世紀後半に前方後円墳が増加する中で、円墳から前方後円墳に改変された例が認められる。特に房総南部で顕著であり、木更津市塚原21号墳、富津市上北原古墳、君津市戸崎１号墳などがある。周辺では、持塚２号墳、諏訪台古墳群でも４基確認されている。これらは、前方後円墳の増加を受けて、円墳から前方後円墳への格上げ行為が働いたと評価されている。方墳を前方後方墳に改変した事例も、同様の現象だと考えられる。

以上から養老川下流域の序列としては、前方後方墳（首長墓）－前方後方墳―前方後方墳（付け足し）－方墳が考えられ、海保地区遺跡群では、六孫王原－西竹谷SM003－西竹谷SM001・大塚SM004が想定される。



第967図　房総の終末期前方後方墳（１）

第968図　房総の終末期前方後方墳（２）

養老川流域の横穴式石室墳

養老川流域の横穴式石室墳は、「養老川流域の石棺・石室」（田中新史1996）や『房総古墳文化の研究』（小沢洋2008）でまとめられている。それらに掲載された表をもとに第327表にまとめた。本来ならば石室の図面も示すべきだが紙幅の都合もあり割愛した。上記の各書を参照されたい。

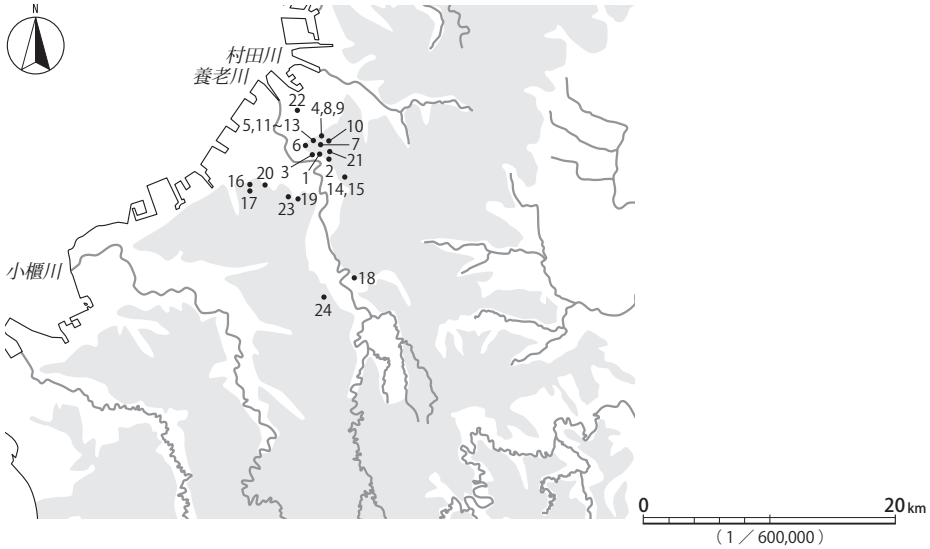
下流域から概観する。右岸の国分寺台地区で調査事例が多く、６世紀末葉～７世紀初頭では、前方後円墳（持塚２号墳、山倉１号墳）に軟質砂岩の切石を利用した単室両袖形の石室が採用される。また、西谷14号墳、根田５号墳といった円墳では磯石を切石状に加工して小規模なＬ字形石室が構築される。さらに、南向原２号墳、向原台４号墳では、加工磯石で弱い胴張をもつ単室両袖形の石室がみられる。

７世紀前葉～中葉では、稲荷台11号墳、西谷12号墳、西谷17号墳などの円墳・方墳に切石積の単室両袖形の石室がみられる。また、国分寺台地区から３km程内陸に位置する福増１号墳は、複室構造の石室で山武地域の影響が指摘されている。そのほか、六孫王原古墳にも横穴式石室が採用されているが、内部構造は不明である。徳部台古墳は、大型の方墳に石室をもつと考えられるが未報告のため詳細は不明である。

７世紀後葉～末葉では、半地下式の玄室を持つ長老塚（今富新山遺跡）がある。７世紀末葉の東４号墳は六角形木室に切石積の玄門を持つ特異な形態であるが、本報告がなく詳細は不明である。

中流域では、調査事例が少ないが、７世紀中葉の牛久３号墳は複室構造の石室である。

以上が周辺の事例である。西竹谷SM004は、盗掘が激しかったため掘り方のみの確認であった。まず、掘り方の規模を比較検討することで、内部構造を類推する手がかりとしてみたい。掘り方が、石室よりも一回り大きな事例として牛久３号墳（石室長6.96ｍ、掘り方長7.70ｍ）、持塚２号墳（石室長4.35ｍ、掘り方長６ｍ）がある。また、掘り方が石室より大きくなる事例として長老塚（石室長５ｍ、掘り方長９ｍ）、南向原２号墳（石室長3.38ｍ、掘り方長9.95ｍ）がある。これらは前庭部に伴う地業のため石室長に対して、掘り方が長くなるなどの理由が考えられる。本報告の事例が少なく掘り方の規模が不明なものが多いが、掘り方から一回り小さい数値が石室の規模であると単純には言えないようである。



第969図　養老川流域の横穴式石室墳

次に築造時期をもとに検討してみたい。西竹谷SM004の時期は、特定できる遺物が盗掘坑（SK2）から出土した７世紀末葉～８世紀初頭以降の長頸壺の破片のみである。この遺物は、追葬などの可能性を考えると、下限の時期を示しているにすぎない。古墳正面（開口部側）に隣接して７世紀前葉（終末期２段階）の竪穴建物SI018が位置するため築造時期は７世紀中葉～末葉の可能性を指摘しておきたい。この時期の横穴式石室墳は類例が少ない。７世紀代としてみるなら単室両袖形を基本としているが、複室構造、六角形木室といった形態も認められる。時期から内部構造を類推することも難しそうである。

国分寺台地区の横穴式石室墳は、１世代に数基程度の割合と指摘されており、海保地区遺跡群も終末期古墳13基（１基は６～７世紀代）のうち横穴式石室墳が１基であることは同様の傾向といえよう。また、西竹谷SM004は、前方後方墳である西竹谷SM003の次に墳丘規模が大きい。ともに、立地は丘陵の頂部ではなく東側の傾斜変換線上に位置し、対岸の丘陵や大塚遺跡、小谷作遺跡を意識していたと考えられる。西竹谷遺跡の両墳は、形態、規模、埋葬施設からみて西竹谷遺跡・小谷作遺跡・大塚遺跡周辺を範囲とする小地域において、優位的な立場の被葬者が埋葬されたと考えられる。

第327表　養老川流域の横穴式石室墳一覧表

番号	古墳名	墳形	墳長	掘り方	石室長	玄室（長×幅）	羨道（長×幅）	使用石材	平面形態	時期
1	持塚２号墳	前方後円墳	30.6	6×5	4.35	2.90×1.93	1.10×0.97	砂岩切石	両袖形	６C末
2	山倉１号墳	前方後円墳	48		4.6	3.67(±)×1.38(±)	0.90(±)×1.20(±)	砂岩切石	両袖形？	６C末
3	諏訪台B３号墳	前方後円墳	27.9		不明			砂岩切石	両袖形	６C末
4	向原台１号墳	円墳？	33		不明			礫石？	不明	６C末
5	西谷14号墳	円墳	23.6		3.6以上	1.44×1.91	2.14(±)×0.99	加工礫石	左L字形	６C末
6	根田５号墳	円墳	17		2.36	1.27×1.94	1.14×0.64	加工礫石	左L字形	６C末
7	南向原２号墳	円墳	24.2	9.95×3.55	3.38	2.35×1.39 胴張	0.78×0.98	加工礫石	両袖形	７C初
8	向原台４号墳	円墳？	18		2.68	1.96×1.06 胴張	0.54×0.88	礫石？	両袖形	７C初
9	向原台５号墳	円墳？	21		3.23	2.38×1.40	0.54×0.78	砂岩切石	両袖形？	７C初
10	稲荷台11号墳	円墳	24.9		3.66	2.34×1.08	0.96×0.82	砂岩切石	両袖形	７C前
11	西谷12号墳	円墳	14.4		3.33	2.37×1.35 胴張	0.40×0.85	砂岩切石	両袖形	７C前
12	西谷15号墳	円墳	24		不明			砂岩切石	不明	７C前
13	西谷17号墳	方墳	15.8		2.97	2.24×1.17 胴張？	0.60×0.80	砂岩切石	両袖形	７C前
14	福増１号墳	？	15		5.96	2.61×1.55（玄） 1.82×0.98（前） 胴張複室	0.85×0.65	砂岩切石	両袖複室	７C前
15	福増２号墳	？	20	5.6×3.6	3.7	1.90×1.24	1.40×0.78	砂岩切石	両袖形	７C前
16	徳部台古墳	方墳			不明					
17	六孫王原古墳	前方後方墳	45.6	7.4以上	5.2			砂岩切石	不明	７C中
18	牛久３号墳	方墳	31.6	7.70×4.15	6.96	2.66×1.56（玄） 2.36×1.36（前） 複室	0.66(+)×1.04	砂岩切石	両袖複室	７C中
19	今富新山遺跡 長老塚	方墳	36	9×5.8	5	5×1.77		砂岩切石	不明	７C後～末
20	海保西竹谷 SM004	方墳	20.3	10.55×6	不明			砂岩切石		7C中～末
21	東４号墳	方墳	18.2		3.79	2.22×2.28	0.61×0.76	一部切石	木室両袖	７末
22	クワノ木古墳	円墳？	25		不明			砂岩切石	不明	７C？
23	公家台古墳	円墳？			不明			礫石？	不明	？
24	報恩寺古墳	円墳？			不明			切石？	両袖形	？

４．古墳と集落の変遷

１で設定した段階をもとに、遺構の分布状況から古墳と集落の展開について検討してみたい（第970図～第979図）。ただし、出土遺物が少なく、段階を明確にすることのできなかった遺構は除外している。

古墳の築造は、中期では小谷作遺跡・大塚遺跡に展開し、終末期では西竹谷遺跡・小谷作遺跡にみられる。集落の形成は、中期では小谷作遺跡のみにみられ、終末期は西竹谷、小谷作の両遺跡に展開する。小谷作遺跡の集落は、調査区の北半分、南北に連なる３箇所の平坦面に展開している。遺構の位置を示す際に、グリッドを用いては煩雑となるため、本項に限ってはこの平坦面を北からＡ（Ｅ区10Ｓ～13Ｖグリッド）、Ｂ（Ｅ区10Ｗ～Ｈ区12Ｃグリッド）、Ｃ（Ｈ区13Ｂ～18Ｆグリッド）と呼称する。

中期０段階（４世紀代）　第970図

小谷作遺跡　SM009～SM013、SI083・SI084・SI086・SI092・SI093・SI103・SI131、SK045

古墳および集落はこの段階から形成される。小谷作遺跡の古墳と集落の位置関係は、古墳が調査区南側、集落が北側と分布範囲が分かれている。

古墳は丘陵の頂部には築造されず、西向きの緩斜面に立地している。SM007は４～５世紀代と考えられ、本段階に属する可能性もあるが、どちらにせよ丘陵頂部の全域に古墳が分布することはなく、より下位の斜面に築造されている。

竪穴建物の総数は７棟で、平坦面Ａに５棟、平坦面Ｂ・Ｃに１棟ずつ構築される。立地は、西向き斜面への変換線上に沿うように構築されるものが多い。

中期１段階（５世紀初頭）　第971図

小谷作遺跡　SI085・SI091・SI104・SI107・SI109・SI112・SI128・SK023

本段階では古墳の築造は認められない。

竪穴建物の総数は７棟で、平坦面Ａ～Ｃで展開が継続する。特に平坦面Ｂの利用が活発となり、１棟から４棟に増加している。立地は西向き斜面以外にも平坦面の最高所を利用し、SI104・SI109が構築される。なお、SI109は、一辺が7.04mで、他の竪穴建物よりも大型である。そのほかに、高坏や広口壺を埋納するSK023が構築されている。

中期２段階（５世紀前葉）　第972図

小谷作遺跡　SI094・SI097・SI099・SI101・SI102・SI113・SI120～SI122・SI125・SI126、SK021・SK029、SH108

大塚遺跡　SM013

古墳の築造は大塚遺跡SM013のみある。

竪穴建物の総数は11棟となり、特に平坦面Bでは5棟から9棟に増加し、集中傾向が認められる。立地は、多くが前段階と同様に、西向き斜面もしくはその変換線上に沿って構築される。平坦面BのSI122は、床面に硬化範囲がみられず、炉も持たないため、住居とは異なった用途が推測される。

中期3段階（5世紀中葉）　第973図

小谷作遺跡　SM005・SM006、SI090・SI095・SI108・SI114・SI117・SI119・SI134

大塚遺跡　SM007・SM014

古墳は、小谷作遺跡南側の丘陵頂部に少なくとも2基（SM005・SM006）、大塚遺跡に2基（SM007・SM014）があり、築造のピークとなる段階である。

竪穴建物は総数9棟となり、数は減少するものの、前段階と同様に平坦面Bへの集中が継続する。立地は前段階とほぼ同様の状況を示すが、SI134は平坦面から離れた調査区南半に構築されている。SI108は、前段階のSI122と同様に、床面に硬化範囲がみられず、炉も持たない。

中期4段階（5世紀後葉）　第974図

小谷作遺跡　SI111・SI123

古墳の築造はいずれの遺跡においても認められない。

竪穴建物は平坦面Bの2棟のみと大きく減少する。

本段階で、古墳、集落の展開は一旦途絶える。後期の遺構は認められず、この台地上で再び遺構や遺物がみられるのは終末期になる。

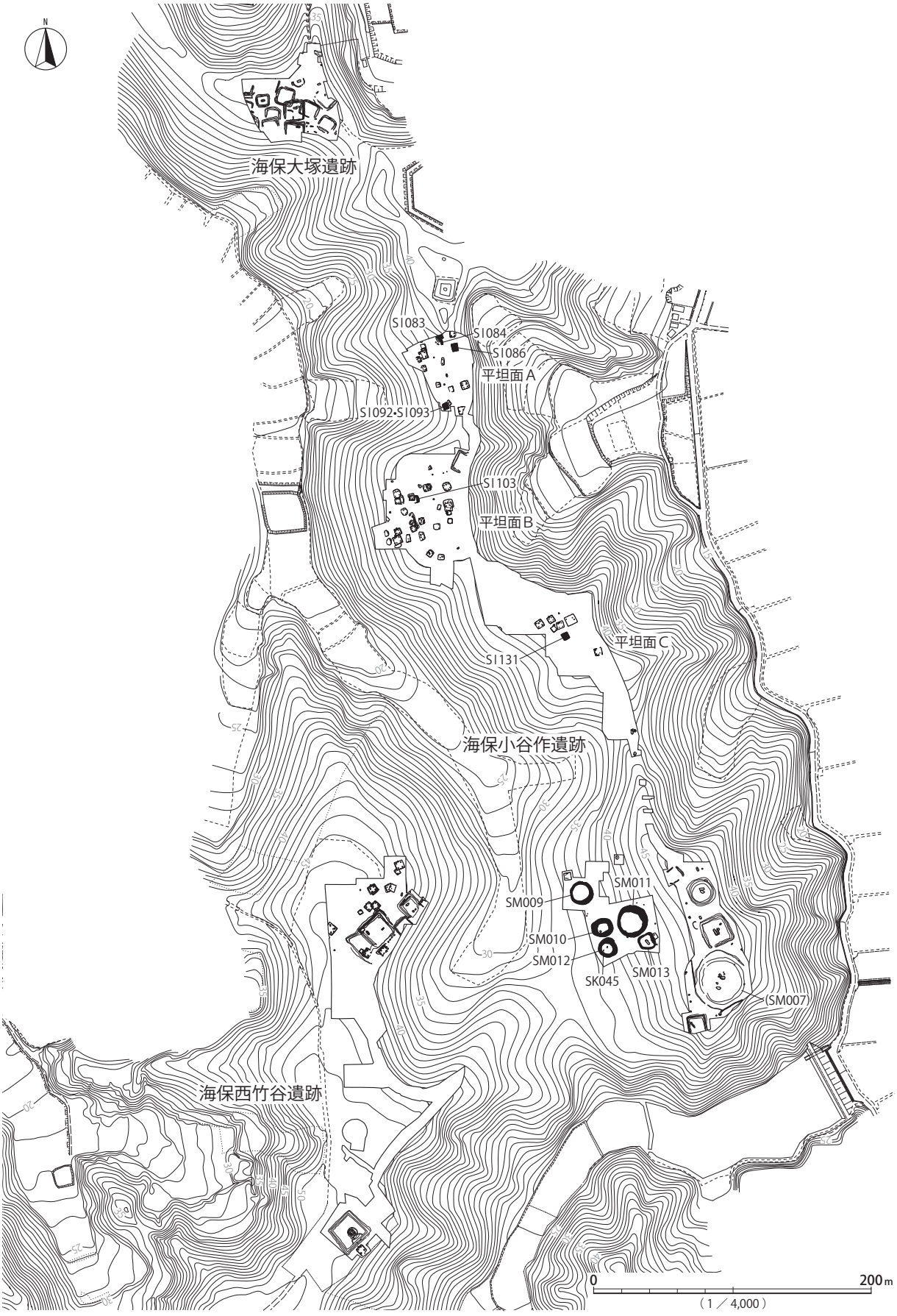
中期における古墳と集落の動向

ここで中期における古墳と集落の動向について整理しておきたい。

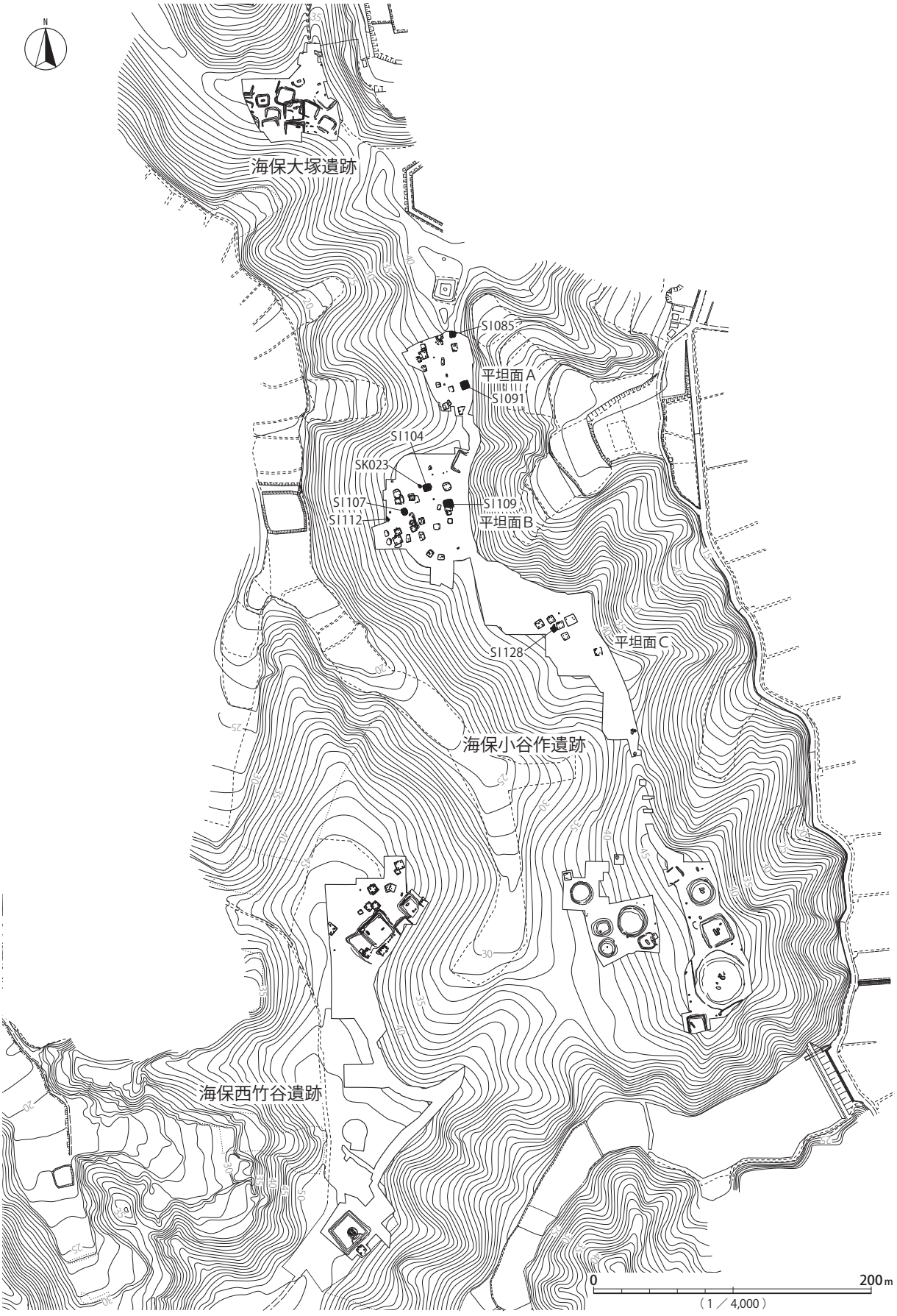
古墳は小谷作遺跡と大塚遺跡で築造され、集落は中期を通じて小谷作遺跡のみで展開している。段階ごとの動向をみる限りでは、集落と古墳の出現、消滅は期を一にしている。さらに周辺の状況を確認してみると、西竹谷遺跡の北に位置する畑木小谷遺跡では前期～中期の竪穴建物、畑木向古墳群では後期古墳が確認されている。小谷作遺跡の東隣の丘陵では、中期の古墳群である海保吉谷前古墳群が広がる。遺跡のすべての範囲が調査されていないことを考えると、丘陵単位で、それぞれの古墳群に近接して集落が営まれている可能性がある。小谷作遺跡・大塚遺跡の中期古墳の被葬者は、小谷作遺跡の集落内、特に竪穴建物が集中した平坦面Bの居住者が、まず候補となる。

しかしながら、被葬者との関連を示すであろう規模の突出した大型建物は認められなかった。掘立柱建物や平地式建物も確認できなかったため複数の建物の構成から集落内での階層差を導きだすこともできない。遺物からも被葬者を示すような傑出したものは認められなかった。

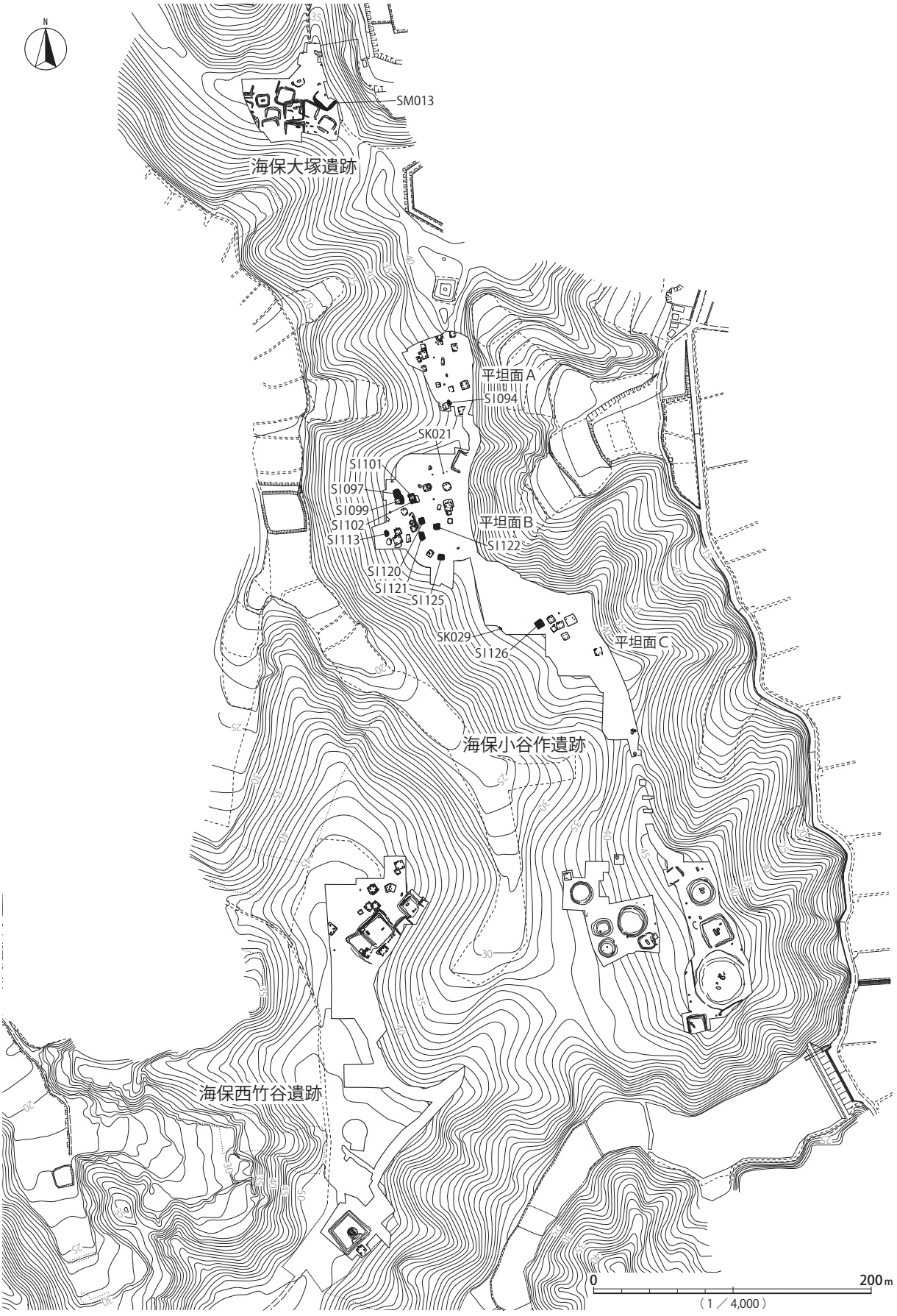
SM007に代表される直刀や鉄鏃、陶邑産の須恵器を所持した被葬者が、小谷作遺跡の集落長であった可能性が高いと考えられるが、竪穴建物を特定する資料には恵まれなかった。



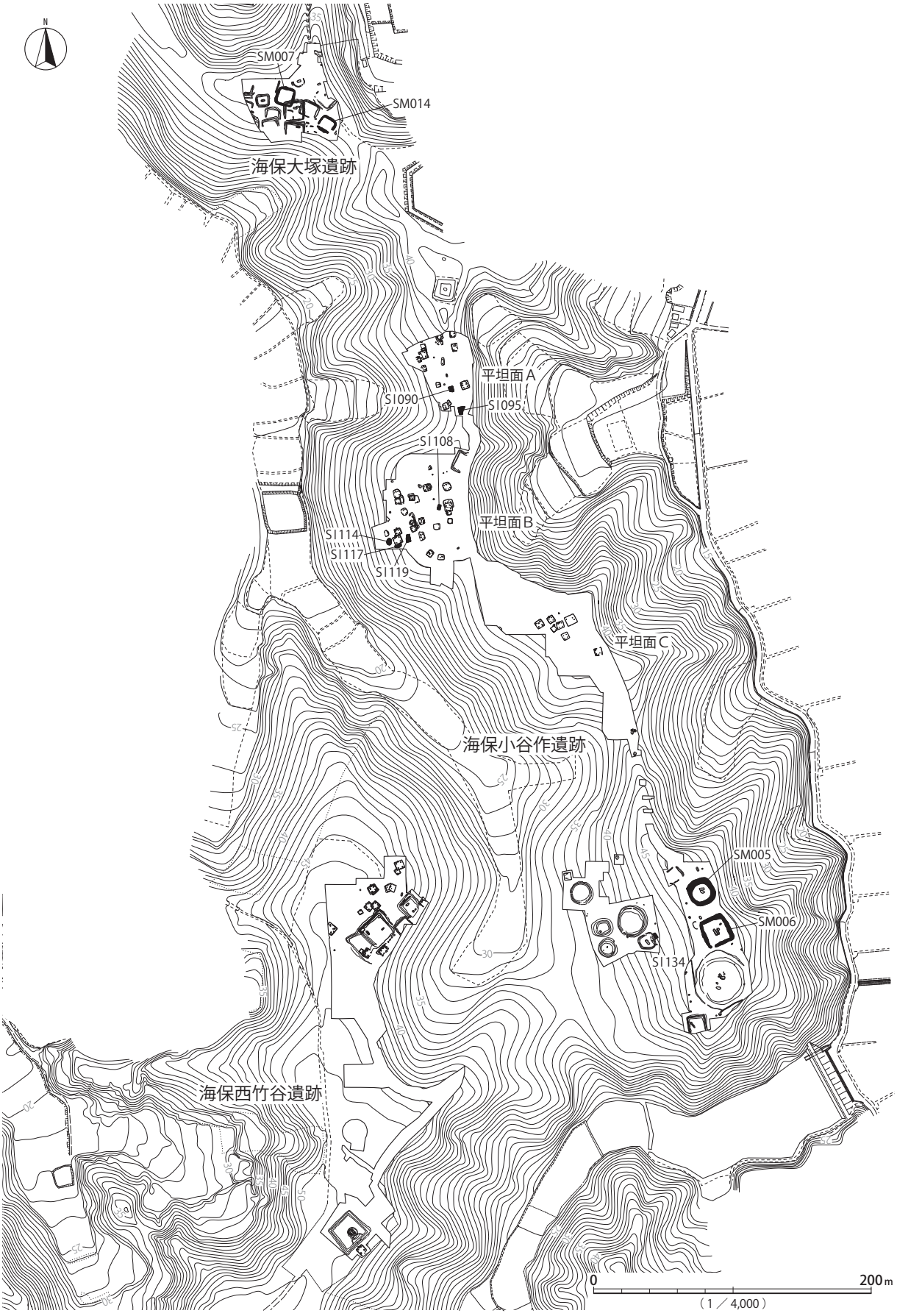
第970図　時期別遺構分布図（古墳時代中期０段階）



第971図　時期別遺構分布図（古墳時代中期1段階）



第972図　時期別遺構分布図（古墳時代中期２段階）



第973図　時期別遺構分布図（古墳時代中期３段階）

第974図　時期別遺構分布図（古墳時代中期４段階）

終末期１段階（６世紀末葉～７世紀初頭）　第975図

西竹谷遺跡　SI009

小谷作遺跡　SI105・SI129・SI132

大塚遺跡　SK064

本段階では、古墳の築造はみられない。竪穴建物は西竹谷遺跡で１棟、小谷作遺跡で３棟あり、100年ぶりに集落が展開してゆく。大塚遺跡ではSK064が認められるが、中期と同じく終末期においても竪穴建物は構築されない。立地は、西竹谷遺跡では東向き斜面への変換線上に１棟認められる。小谷作遺跡では平坦面Ｂの西向き斜面への変換線上に１棟、平坦面Ｃでは頂部から東向き斜面の変換線にかけて２棟が認められる。

終末期２段階（７世紀前葉）　第976図

西竹谷遺跡　SM003（方墳）、SI002・SI005・SI011～SI013・SI015・SI017・SI018、
SB001（？）、SA001（？）

小谷作遺跡　SI115・SI127

古墳は西竹谷遺跡でSM003が確認されるのみである。

竪穴建物は、西竹谷遺跡で８棟、小谷作遺跡で２棟あり、西竹谷遺跡の利用が活発となっている。立地は、西竹谷遺跡では多くが東向き斜面の等高線に沿いながら、標高の上位と下位の２列に連なって構築されており、何らかの意図的な選択が推測される。調査区の南端にはSI018があるが、前後の段階で、他の竪穴建物は確認できなかった。SI011は同段階のSM003周溝に切られており、同一段階で竪穴建物が廃絶し、古墳の築造が行われたことを示している。小谷作遺跡では、平坦面Ｂの西向き斜面にSI115が、平坦面Ｃの頂部にSI127が構築されている。

終末期３段階（７世紀中葉）　第977図

西竹谷遺跡　SM001・SM003（前方後方墳）・SM004（？）、SI014、SB001（？）、SA001（？）

小谷作遺跡　SI080・SI098・SI100・SI110・SI118・SI133

大塚遺跡　SM004

古墳は、西竹谷遺跡で２基ないし３基、大塚遺跡で１基が認められる。西竹谷遺跡SM003は前段階の方墳に前方部が付け足され、前方後方墳となっている。

竪穴建物は西竹谷遺跡では１棟のみ、小谷作遺跡では６棟認められた。西竹谷遺跡における立地は前段階とほぼ同じ等高線上に位置している。小谷作遺跡では、特に平坦面Ｂで前段階の１棟から４棟となっている。立地は多くが西向きの斜面に構築されている。また終末期ではこれまで利用されることのなかった調査区南半にSI133が構築される。竪穴建物のカマドは、ほとんどが北壁に構築されているが、SI110は西壁に設けられている唯一の例である。

古墳と集落の関係において、西竹谷遺跡SM003前方部はSI014を人為的に埋め戻して築造してい

ることから、古墳と竪穴建物は近接、並存していたと考えられる。またSM003に隣接してSB001、SA001が構築されている。具体的な帰属時期や性格は不明であるが、SM003との主軸方向の近似から、並存の可能性を指摘しておきたい。

終末期４段階（７世紀後葉）　第978図

西竹谷遺跡　SM002・SM004（？）、SI001・SI003・SI006・SI007・SI010

小谷作遺跡　SM002・SM003、SI096・SI116

古墳は西竹谷遺跡で１基ないし２基、小谷作遺跡で２基が認められる。小谷作遺跡での終末期古墳の築造は本段階のみにみられる。

竪穴建物は西竹谷遺跡では前段階の１棟から５棟に増加し、立地は終末期２段階とほぼ同様である。小谷作遺跡では６棟から２棟に減少する。

西竹谷SM002は、SM001・SM003の間に位置することから、両墳の存在を意識した築造が推測される。ただし、標高が下位に位置し、規模も一辺9.71mとやや小さいことから、SM001・SM003よりもランクの低い被葬者が推測される。

本段階で、海保地区遺跡群の集落は途絶えることとなる。一方で古墳の築造は以降も継続し、７世紀末葉～８世紀初頭には小谷作SM008、大塚SM010が築造されている（第979図）。

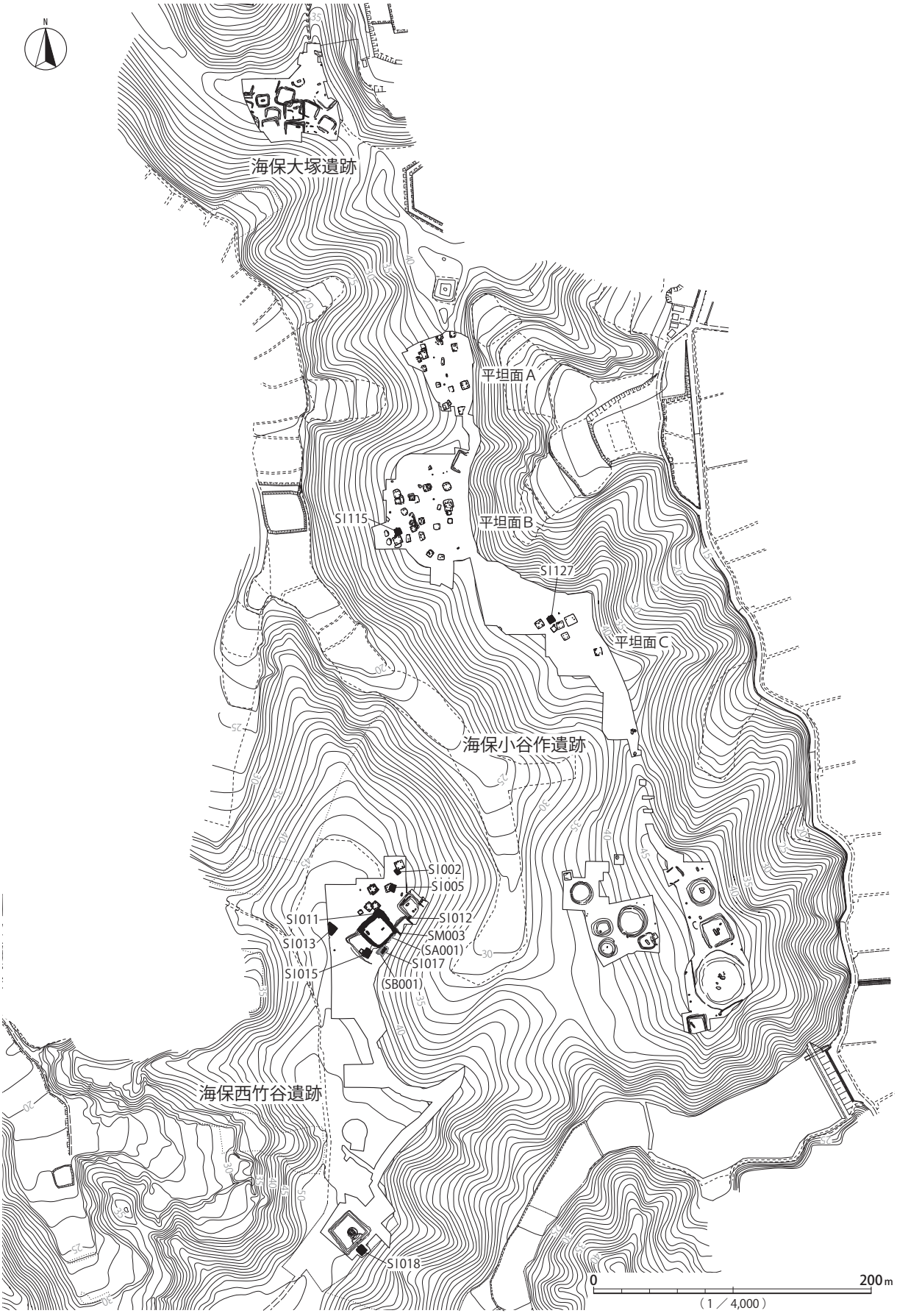
終末期における古墳と集落の動向

古墳は３遺跡に築造され、集落は西竹谷遺跡・小谷作遺跡の２遺跡に展開する。古墳と集落の出現には時期差があり、集落は終末期１段階から、古墳は終末期２段階からとなっている。また、終焉にも時期差がみられる。集落は終末期４段階で途絶えるが、古墳は、７世紀末葉以降も、西竹谷遺跡や大塚遺跡で墳墓が築造されている。

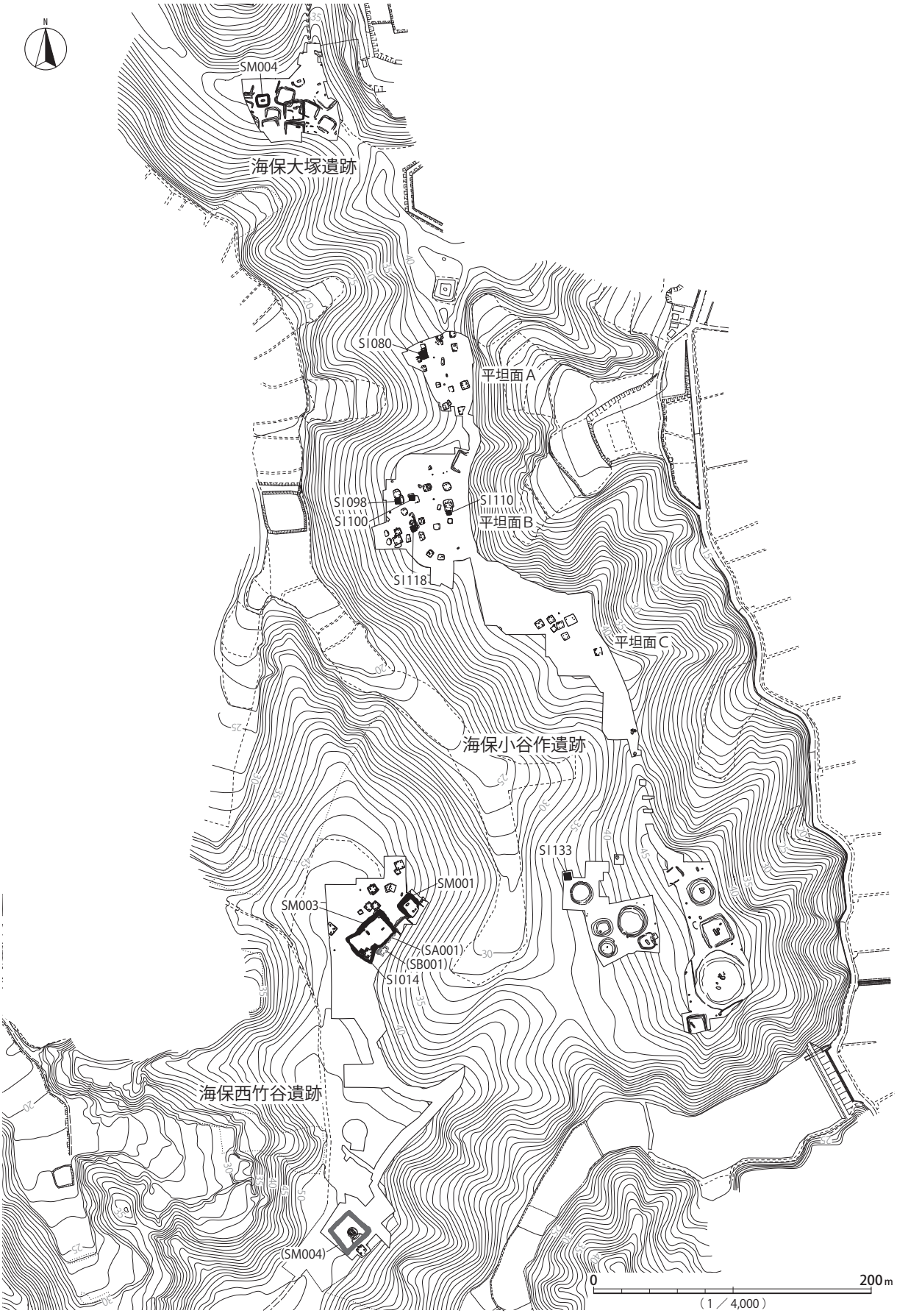
古墳と集落の関係は、西竹谷遺跡の終末期２・３段階からうかがえるように近接、並存している。終末期１～４段階を通して、改めて遺構の分布をみてみると、古墳と竪穴建物が近接関係にある小群が３単位ほど認められる。西竹谷遺跡では、SM003とその周辺、SM004とその周辺、小谷作遺跡ではSM002・SM003とその周辺である。３遺跡の周辺では、終末期の古墳・集落が確認されていないことから、古墳の被葬者は、近接した竪穴建物の居住者である可能性が高いと考えられる。

これらの古墳は、形態や埋葬施設の様相から前項で指摘したとおり、前方後方墳や横穴式石室墳がある西竹谷遺跡が優位な状況である。西竹谷遺跡・小谷作遺跡・大塚遺跡周辺を範囲とする小地域をひとつの村落と考えるのなら、西竹谷SM003・SM004は村落長クラスと推測され、小谷作SM002・SM003は、村落の一般構成員を被葬者としたと考えられる。ただし、中期と同様に竪穴建物の中から被葬者の居宅を選び出すことはできず、西竹谷遺跡と小谷作遺跡における竪穴建物の階層差も見出せなかった。竪穴建物の規模は階層差を示していなかった可能性がある。いずれにしても、７世紀代の海保地区遺跡群は、集落と別の場所に墓域が設定されるのではなく、居住域と墓域が隣接もしくは重複する関係を原則としていたようだ。なお、周辺で竪穴建物が認められなかった大塚遺跡の古墳や、小谷作SM008については、未調査部分に竪穴建物が存在しているのか、居住域と墓域が離れた

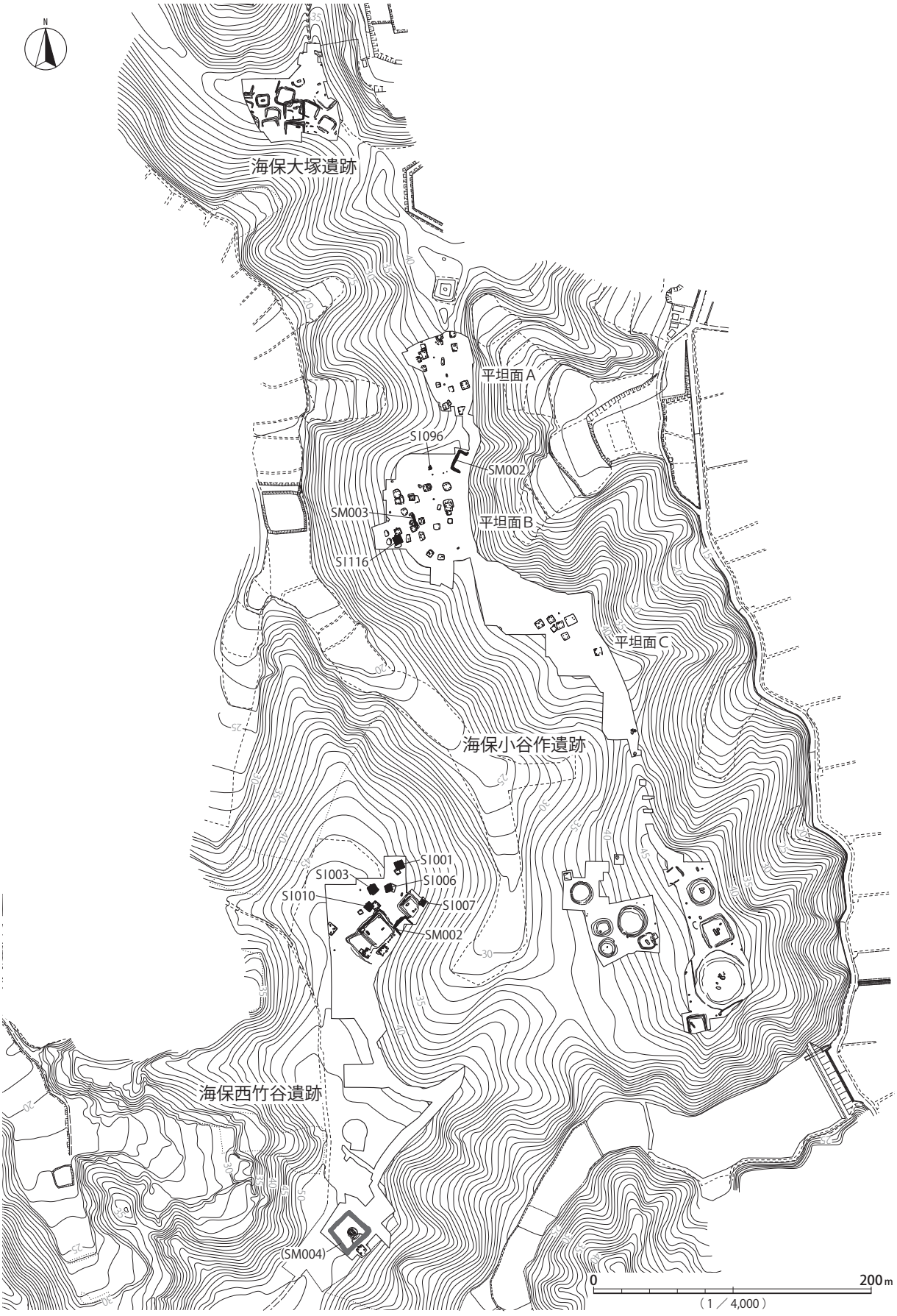
第975図　時期別遺構分布図（古墳時代終末期1段階）



第976図　時期別遺構分布図（古墳時代終末期２段階）



第977図　時期別遺構分布図（古墳時代終末期３段階）



第978図　時期別遺構分布図（古墳時代終末期４段階）

第979図　時期別遺構分布図（7世紀末葉～8世紀初頭）

関係にあったのかは、今後の検討課題である。

以上のように古墳と集落の近接関係は、終末期２～４段階に認められることから、孝徳朝の「天下立評」にともなう上海上国造から海上評への変革期においても墓制や居住地に変化は認められないということになる。その後、集落は７世紀後葉で途絶えることから、庚午年籍（670年）、浄御原令（689年）などの本格的な律令制の運用開始にともない、居住地の再編が行われたようである。一方、古墳は、７世紀末葉以降も認められることから、墓制については、大きな変更がなされなかった可能性がある。このことは養老川下流域の集団が前方後方墳を採用した理由の一端を示す重要な意味をもつ可能性がある。詳細な史的背景については、今後の検討課題としたい。

第４節　奈良・平安時代

集落の展開は古墳時代終末期で途絶えるが、大塚遺跡や西竹谷遺跡は奈良・平安時代においても墳墓の築造が継続する。

西竹谷遺跡では、SM006が８世紀第１四半期と推定され、仰臥伸展葬の埋葬施設をもち古墳時代以来の葬制が継続している。SM005の詳細な時期は不明であるが火葬骨を納めた土坑を埋葬施設とする。有天井土坑SK026も該期の土坑墓と考えられえる。

大塚遺跡では有天井土坑SK072・SK073がみられる。５世紀中葉の方墳（SM014）の周溝内に構築されており、墓域の存在を意識した立地であることが推測される。

これらの遺構の存在は、大化薄葬令以降であっても、少なくとも８世紀第１四半期までは古墳時代以来の葬制が存続すること、集落終焉後の奈良・平安時代においても墓域という性格は継続し、墳墓の築造が行われていたことを示している。

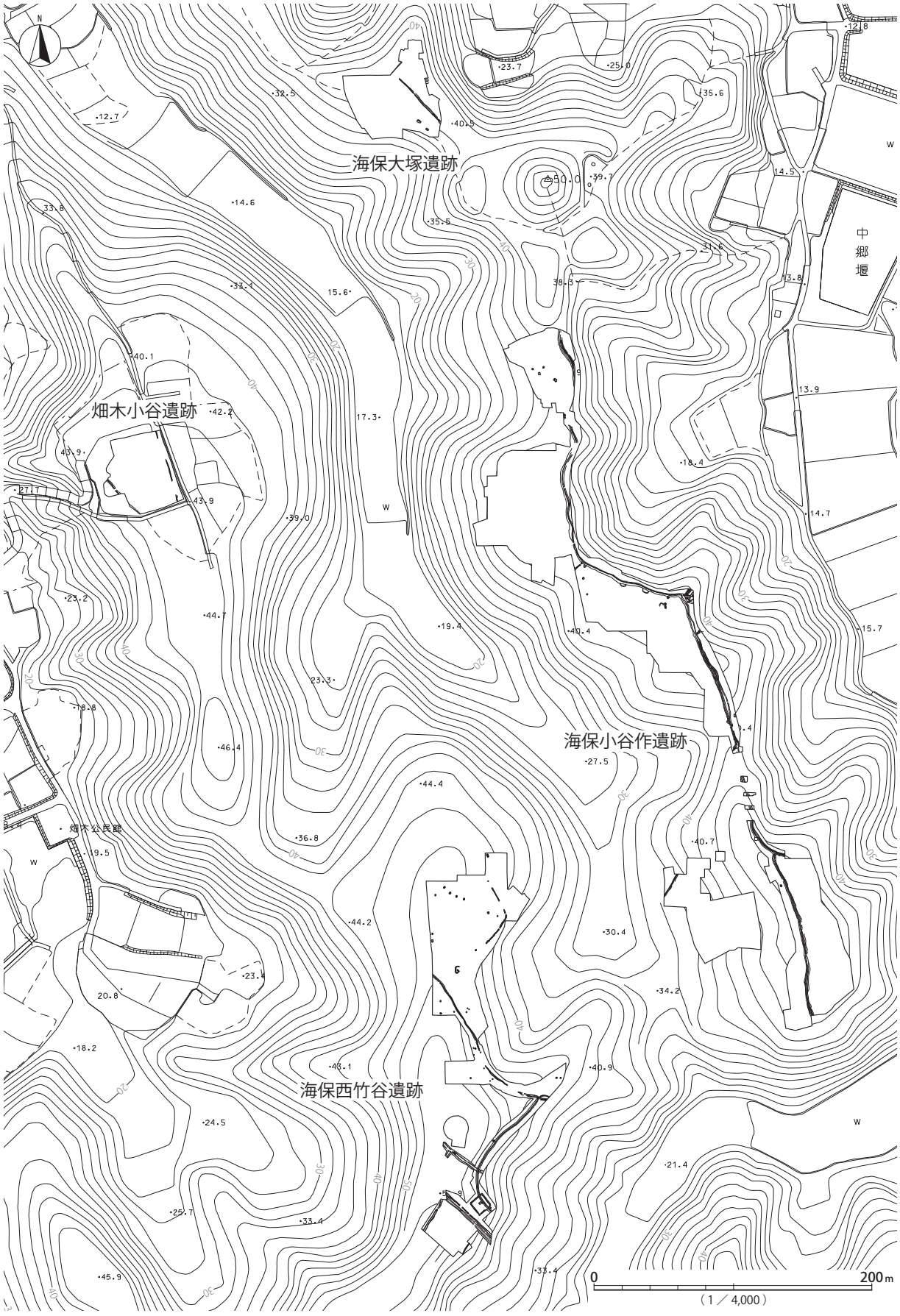
墳墓のほかに、台地の縁辺を縦走する溝が３遺跡にわたって構築されている。西竹谷遺跡SD002・SD004・SD005・SD007 ～ SD010、小谷作遺跡SD007・SD018、大塚遺跡SD009である。

これらの溝は遺物の出土がほとんどないため、詳細な時期の判断に躊躇するが、西竹谷遺跡では８世紀第１四半のSM006を切って構築されること、中世の遺構・遺物が認められないことなどから、奈良・平安時代の遺構とした。

遺構の性格は、覆土の観察から水性堆積は認められないため、恒常的な流水や排水施設とは考えられず、中世城館に伴う堀切とも考えられない。これらの点から広大な土地を区画する、一連の溝と考えたい。

奈良・平安時代における、広大な土地を区画する溝として、ここでは牧の関連施設という可能性を指摘したい。ただし、文献史料上、当地で経営された牧の存在は認められない。

古代の牧は農繁期と農閑期で限定放牧と自由放牧を使い分けていたとされる。放牧中の馬が自由に移動したりしないように柵・堀・土塁等を利用して区画した内部で放飼するのが限定放牧であり、山野等で自由に放飼するのが自由放牧である。やせ尾根上に展開する平坦地という立地は、牛馬の放牧に適した地形であり、長大な溝は、牛馬の移動を制限し、限定放牧地とする堀、「馬格」と考えられる。溝以外に該期の遺構がほとんどみられないことは、放牧地であれば構造物が必要ないためと説明できる。墓域としての利用が停止した後、広大な土地を利用した牧が設置されたのだろう。



第980図　時期別遺構分布図（奈良・平安時代）

長大な溝は海保地区遺跡群に隣接する、畑木小谷作遺跡でも検出されている（第980図）。これも含めて一連の施設とするならば、牧の範囲は海保地区遺跡群に留まらない、より広い範囲が想定されるが、これ以上の推測は屋上屋を架すことになる。周辺の調査事例、資料の増加に期待したい。

第５節　中・近世

この時期を特徴付ける遺構として塚が挙げられる。塚は西竹谷遺跡で１基（SM007）、小谷作遺跡で１基（SM014）確認された。小谷作SM014は塚本体ではなく溝のみが検出されたため、ここでは、多量の銭貨などが出土した西竹谷SM007について検討しておきたい。まず、調査成果の概要をまとめておく。

西竹谷SM007

長軸7.55ｍ×短軸6.09ｍ、高さ2.55ｍ。関連施設は、盛土中に土坑（SK1）１基、整地層上面で埋納施設（SK2）１基。出土遺物は、埋納施設（SK2）から曲物および十字状に配置されたかわらけ、かわらけの間に６枚一組（以下、六道銭と呼ぶ）の銭貨、曲物内には底面に六道銭３組、数珠３連、その上を毛髪が覆い、さらに多量の銭貨（銭差、組数不明）が納められていた。銭貨は547点で、寛永通寶（古寛永、初鋳1636年）526点、渡来銭21点である。寛永通寶は、すべて古寛永で文銭（初鋳1668年）が含まれないことから、築造の時期は17世紀中葉と考えられる。

次に市原市域の事例を確認してみたい。市域は出羽三山信仰が盛んな地域で、150基以上の供養塚が認められる。塚は、方形で３段築成、石塔がみられるものが多い。信仰面の研究は、「市原市の出羽三山信仰に関する研究」（對馬郁夫1988）、過去の調査事例は『市原市平野馬頭塚』（牧野光隆2011）にまとめられる。その成果を適時引用しながら、西竹谷SM007と埋納状況や出土遺物の違いについて比較検討してみたい。

第981図　市原市域の主要な塚

平野馬頭塚

方形３段築成、19.6ｍ×19.2ｍ、高さ3.9 ～ 4.0ｍ。地鎮祭祀、撒き銭行為が確認された。地鎮祭祀では、小孔を旧表土上から穿ち、寛永通寶（新寛永文銭）４点を埋納。周囲に56点の銭を撒く。次に鏡・数珠玉を埋納し、銭158点、数珠玉54粒以上を撒いていた。さらに盛土を積み上げながら複数回にわたり撒き銭を行っている。

出土した銭貨の総数は計952点、内訳は、古寛永228点、新寛永（すべて文銭）401点、新古不明寛永39点、宋銭など中世銭10点、不明274点である。

寛永通寶は、古寛永（初鋳1636年）と新寛永文銭（初鋳1668年）のみであり、元禄期鋳造銭（初鋳1697年）以降の銭貨が含まれないことから、延宝から元禄期前半（1673 ～ 1697年）に築造されたと推定されている。

小草畑三山塚

方形３段築成、21.5ｍ四方、高さ５ｍを超える。盛土から寛永通寶等700点余りと、かわらけ数点がみられ、銭200点は中央部に集中していた。

花和田三山塚

１辺23ｍ、高さ５ｍ。土壇の四隅と中央にかわらけが配され、中央に寛永通寶３点が伴う。盛土には寛永通寶などが100点ほど含まれていた。

一本松塚（新生萩原野遺跡）

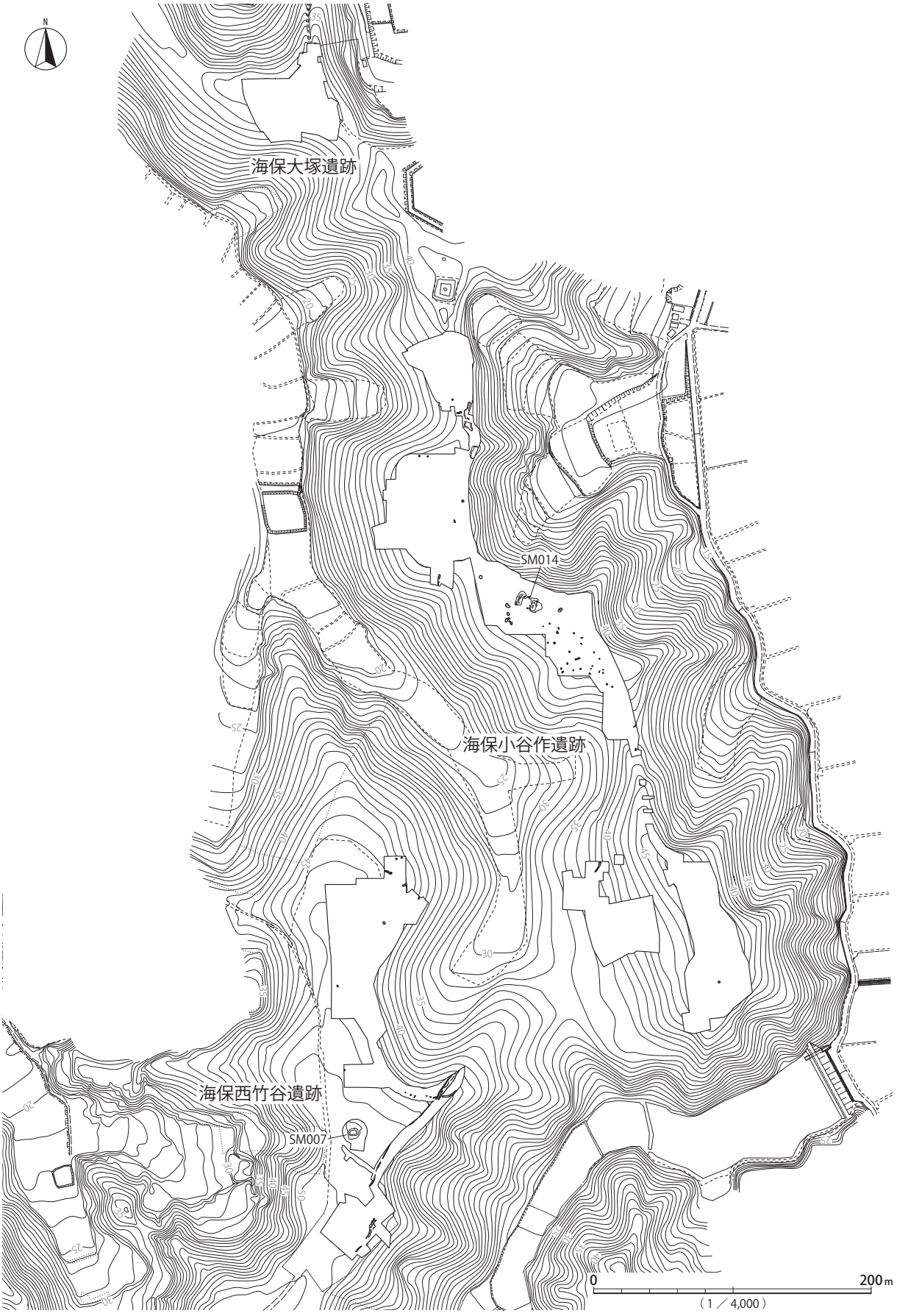
方形３段築成、24.0ｍ×23.5ｍ、高さ3.6ｍ。中央最下層で陶器の壺１点とその直下でかわらけ50点を埋納した土坑が検出された。壺内には６枚組で紙紐や繊維束で綴られるなどした763点の銭（主に古寛永）が納められていた。さらに土坑の底面からは、銭20点余りが出土した。

盛土からはかわらけ１点、寛永通寶12点が確認されている。古寛永のみであると築造時期は17世紀中頃まで遡る可能性がある。土を積み上げていく上での作法や祭祀行為が、平野馬頭塚や上記２つの市域南部の塚とはかなり異なっている。

惣社行人塚

方形３段築成、19.7ｍ×19.3ｍ、高さ3.8ｍ。近世文書に記載があり、延宝（1678）６年に築造されたことがわかる塚である。詳細は不明であるが、中央部の下層より、柄鏡を差し立てた周囲に籾殻をつめて口を合わせたかわらけ５組10点を十文字に配する祭祀跡が観察されたという。盛土からの遺物は確認されていない。

以上のとおり塚の形状、埋納状況ともに類似した事例は認められなかった。『市原市平野馬頭塚』では「供養塚はそれぞれの地域の方法で築造されており、一様でないことがわかって」おり、その多様性は「地元の講の指導者である里先達や末派修験者などの自己流的な影響力によるもの」と指摘されている。西竹谷SM007について改めて個別に埋納状況を確認していくと、かわらけを４箇所に配することは、四方を意識したと考えられ、結界することを意図した可能性がある。曲物内の頭髪は、六道銭や数珠を伴うことから遺髪の可能性が高い。六道銭、数珠ともに３組であることは、被葬者が３人、あるいは施主が３人いた可能性がある。なお、被葬者が３人の場合は、遺髪も３組になるが、はっきりとはしない。いずれにしても埋納物の内容から遺髪をもって被葬者を供養した遺髪塚の可能性が指摘できる。



第982図　時期別遺構分布図（中・近世）

この遺髪塚と多様性が指摘されている出羽三山信仰の塚との関係については、明らかにできなかった。西竹谷SM007の築造時期は、出羽三山信仰の初期にあたる17世紀中葉に特定できる。今後は、17世紀中葉の塚の事例をより広く検討することで、西竹谷SM007の性格、さらには遺髪塚と出羽三山信仰との関係の有無について検討を続けたい。

おわりに

最後に、残されたいくつかの課題について触れておきたい。

古墳時代中期では、小谷作SM005から出土した陶邑産の高坏が挙げられる。これは坏内部に突帯が巡る、非常に類例の乏しい資料である。生産窯の特定や、他古墳からの出土事例を明らかにすることができれば、倭王権からの配布行為の一端を解明する手がかりとなろう。引き続き、類例の探索に努めていきたい。

古墳時代終末期では、７世紀中葉に方墳から前方後方墳に改変された西竹谷SM003や周辺の竪穴建物との関係が挙げられる。この時期は、上海上国造から海上評への移行期にあたる。古墳時代から律令時代への変革期に前方後方墳を築造した意味、墓域と集落の関係など、地域の７世紀史を解明するためにも、今後も検討を続けていきたい。

奈良・平安時代では、長大な溝の性格が課題となる。牧関連施設の可能性を指摘したが、溝＝牧とは断定できない。牧以外の可能性も考慮に入れて検討していきたい。

そのほかにも、弥生時代後期～終末期の集落の動向、古墳時代中期の集落と古墳の関係、近世の塚など、今後検討すべき課題は多い。ひとまずは、ここに養老川下流域左岸における、約３万㎡におよぶ遺跡の調査成果を示すこととする。文末となったが、海保地区遺跡群の発掘調査・報告書作成にご理解とご協力を賜った全ての方々に感謝申し上げるとともに、本書が多くの方々に有意義に活用されることを祈念して筆を置きたい。

参考文献

井藤徹・坂口昌男　1976「豊中・古池遺跡発掘調査概報」豊中・古池遺跡調査会
小沢洋・田中裕　2012「地域の展開⑨関東沿岸」『古墳時代の考古学２古墳出現と展開の地域相』同成社
小谷寛　2007「陶邑における百済系陶工の渡来に関する一考察」『列島の考古学Ⅱ－渡辺誠先生古希記念論文集－』渡辺誠先生古希記念論文集刊行会
佐々木憲一編　2007『関東の後期古墳群』考古学リーダー 12　六一書房
佐野隆　2008「小笠原牧の考古学」『牧の考古学』高志書院
鈴木敏則　2011「須恵器の編年②東日本」『古墳時代の考古学１古墳時代史の枠組み』同成社
田中新史　1996「養老川流域の石棺・石室－総の石材利用古墳のなかで－」『土筆』第４号　土筆舎
田中新史　2000『上総市原台の光芒－市原古墳群調査と上総国分寺台遺跡調査団－』市原古墳群刊行会
對馬郁夫　1988「市原市の出羽三山信仰に関する研究」『市原地方史研究』15号　市原市教育委員会
広瀬和雄・太田博之編　2010『前方後円墳の終焉』雄山閣
牧野光隆　2011『市原市平野馬頭塚』市原市埋蔵文化財センター調査報告書第20集
松崎元樹　2008「武蔵国多磨郡域の牧をさぐる」『牧の考古学』高志書院
右島和夫・池上悟　2011「関東」『講座日本の考古学７古墳時代（上）』青木書店
水野敏典　2013「金属製品の型式学的研究⑤鉄鏃」『古墳時代の考古学４ 副葬品の型式と編年』同成社
山口英男　1994「文献から見た古代牧馬の飼育形態」『山梨県史研究』第２号　山梨県
山口英男　2004「御牧の成立」『山梨県史通史編１原始・古代』山梨県
渡辺誠　2001『陶邑窯跡群・泉北若竹保育園移転新築用地－豊田地区・STK99－』小谷城郷土館発掘調査団

第328表　海保西竹谷遺跡遺構名対照表

掲載番号	遺構種別	調査時番号
SM001	古墳	SM004
SM001SK1	古墳埋葬施設	SM004SK1
SM001SK2	古墳埋葬施設	SK084
SM001SK3	古墳埋葬施設	SK058
SM001SK4	古墳埋葬施設	SK085
SM002	古墳	SM005
SM003	古墳	SM003
SM003SK1	古墳埋葬施設	SM003SK1
SM003SK2	古墳埋葬施設	SM003SK2
SM004	古墳	SM001
SM004SK1	盗掘坑	SM001SK1
SM004SK2	盗掘坑	SM001SK2
SM004SK3	横穴式石室掘り方	SM001SK3
SM005	方形区画墓	SD021
SM005SK1	方形区画墓埋葬施設	SK077
SM006	方形区画墓	SD011・SD012
SM006SK1	方形区画墓埋葬施設	SK003
SM007	塚	SM002
SM007SK1	塚関連施設	SM002SK1
SM007SK2	埋納施設	SM002SK2
SI001	竪穴建物	SI007
SI002	竪穴建物	SI008
SI003	竪穴建物	SI011
SI004	竪穴建物	SI013
SI005	竪穴建物	SI006
SI006	竪穴建物	SI004
SI007	竪穴建物	SI019
SI008	竪穴建物	SI016
SI009	竪穴建物	SI012
SI010	竪穴建物	SI009
SI011	竪穴建物	SI010
SI012	竪穴建物	SI018
SI013	竪穴建物	SI005
SI014	竪穴建物	SI014
SI015	竪穴建物	SI015
SI016	竪穴建物	SI017
SI017	竪穴建物	SI003
SI018	竪穴建物	SI001
SB001	掘立柱建物テラス部	SI002
SB001P1	掘立柱建物	SH055
SB001P2	掘立柱建物	SH167
SB001P3	掘立柱建物	SH052
SB001P4	掘立柱建物	SI003P3
SB001P5	掘立柱建物	SI002P2
SB001P6	掘立柱建物	SI002P6
SB001P7	掘立柱建物	SI002P1
SB001P8	掘立柱建物	SI002P5
SB001P9	掘立柱建物	SI002P3
SA001P1	柱穴列	SK039
SA001P2	柱穴列	SK045
SA001P3	柱穴列	SH050
SA001P4	柱穴列	SK038

掲載番号	遺構種別	調査時番号
SD001	溝	SD015
SD002	溝	SD013
SD003	溝	SD006
SD004	溝	SD002
SD005	溝	SD010
SD006	溝	SD004
SD007	溝	SD007
SD008	溝	SD008
SD009	溝	SD009
SD010	溝	SD014
SD011	溝	SD018
SD012	溝	SD019
SD013	溝	SD022
SD014	道路状遺構	SD016
SD015	道路状遺構	SD005
SD016	溝	SZ001
SD017	溝	SD003
SD018	道路状遺構	SD001
SK001	陥し穴	SK064
SK002	陥し穴	SK082
SK003	陥し穴	SK012
SK004	陥し穴	SK013
SK005	陥し穴	SK076
SK006	陥し穴	SK078
SK007	陥し穴	SK080
SK008	陥し穴	SK043
SK009	陥し穴	SK026
SK010	陥し穴	SK008
SK011	土坑	SK075
SK012	土坑	SK046
SK013	土坑	SK079
SK014	土坑	SK031
SK015	土坑	SK032
SK016	土坑	SK030
SK017	土坑	SK005
SK018	土坑	SK007
SK019	土坑	SK006
SK020	土坑	SK014
SK021	土坑	SK057
SK022	土坑	SK083
SK023	土坑	SK086
SK024	土坑	SK087
SK025	土坑	SK072
SK026	土坑	SK056
SK027	土坑	SK062
SK028	土坑	SK060
SK029	土坑	SK061
SK030	土坑	SK059
SK031	土坑	SK063
SK032	土坑	SK010
SK033	土坑	SK011
SK034	土坑	SK052
SK035	土坑	SK051
SK036	土坑	SK027
SK037	土坑	SK081
SK038	土坑	SK041
SK039	土坑	SK042

掲載番号	遺構種別	調査時番号
SK040	土坑	SK044
SK041	土坑	SK049
SK042	土坑	SK048
SK043	土坑	SK047
SK044	土坑	SK037
SK045	土坑	SK036
SK046	土坑	SK035
SK047	土坑	SK034
SK048	土坑	SK033
SK049	土坑	SK028
SK050	土坑	SK025
SK051	土坑	SK024
SK052	土坑	SK016
SK053	土坑	SK015
SK054	土坑	SK004
SK055	土坑	SK002
SK056	土坑	SK009
SK057	土坑	SK055
SK058	土坑	SK054
SK059	土坑	SK053
SK060	土坑	SK050
SK061	土坑	SK040
SK062	土坑	SK029
SK063	土坑	SK023
SK064	土坑	SK022
SK065	土坑	SK021
SK066	土坑	SK020
SK067	土坑	SK019
SK068	土坑	SK018
SK069	土坑	SK017
SK070	土坑	SK001
－	遺構とせず	SD017
－	遺構とせず	SD020
－	遺構とせず	SK065
－	遺構とせず	SK066
－	遺構とせず	SK067
－	遺構とせず	SK068
－	遺構とせず	SK069
－	遺構とせず	SK070
－	遺構とせず	SK071

第329表　海保小谷作遺跡遺構名対照表

掲載番号	遺構種別	調査時番号
SM001	古墳	SZ035
SM002	古墳	SM011
SM003	古墳	SD017
SM004	古墳	SM009
SM005	古墳	SM001
SM005SK1	古墳埋葬施設	SM001SK4
SM005SK2	古墳埋葬施設	SM001SK2
SM005SK3	古墳埋葬施設	SM001SK3
SM006	古墳	SM002
SM006SK1a	古墳埋葬施設	SM002SK3a
SM006SK1b	古墳埋葬施設	SM002SK3b
SM007	古墳	SM003
SM007SK1	古墳埋葬施設	SM003SK5
SM008	古墳	SM010
SM009	古墳	SM007
SM010	古墳	SM006
SM011	古墳	SM004
SM012	古墳	SM005
SM013	古墳	SM008
SM013SK1	古墳埋葬施設	SM008SK1
SM014	塚	SZ019
SM014	塚	SZ020
SI001	竪穴建物	SI127
SI002	竪穴建物	SI009
SI003	竪穴建物	SI003
SI004	竪穴建物	SI110
SI005	竪穴建物	SI113
SI006	竪穴建物	SI106
SI007	竪穴建物	SI122
SI008	竪穴建物	SI114
SI009	竪穴建物	SI120
SI010	竪穴建物	SI124
SI011	竪穴建物	SI118
SI012	竪穴建物	SI119
SI013	竪穴建物	SI105
SI014	竪穴建物	SI005
SI015	竪穴建物	SI098
SI016	竪穴建物	SI092
SI017	竪穴建物	SI128
SI018	竪穴建物	SI126
SI019	竪穴建物	SI008
SI020	竪穴建物	SI121
SI021	竪穴建物	SI007
SI022a	竪穴建物	SI078a
SI022b	竪穴建物	SI078b
SI023	竪穴建物	SI076
SI024	竪穴建物	SI080
SI025	竪穴建物	SI081
SI026	竪穴建物	SZ025
SI027	竪穴建物	SI115
SI028	竪穴建物	SZ017
SI029	竪穴建物	SI065
SI030	竪穴建物	SI074
SI031	竪穴建物	SI094
SI032	竪穴建物	SI084
SI033	竪穴建物	SI072
SI034	竪穴建物	SI103

掲載番号	遺構種別	調査時番号
SI035	竪穴建物	SI101
SI036	竪穴建物	SI057
SI037	竪穴建物	SI083
SI038	竪穴建物	SI108
SI039	竪穴建物	SI091
SI040	竪穴建物	SZ026
SI041	竪穴建物	SI015
SI042	竪穴建物	SI016
SI043	竪穴建物	SZ023
SI044	竪穴建物	SI068
SI045	竪穴建物	SI107
SI046	竪穴建物	SI082
SI047	竪穴建物	SI067
SI048	竪穴建物	SI064
SI049	竪穴建物	SI056
SI050	竪穴建物	SI060
SI051	竪穴建物	SI052
SI052	竪穴建物	SI089
SI053	竪穴建物	SI097
SI054	竪穴建物	SI112
SI055	竪穴建物	SI095
SI056	竪穴建物	SI096
SI057	竪穴建物	SI010
SI058	竪穴建物	SI042
SI059	竪穴建物	SI043
SI060	竪穴建物	SI051
SI061	竪穴建物	SI038
SI062	竪穴建物	SI039
SI063	竪穴建物	SI050
SI064	竪穴建物	SI069
SI065	竪穴建物	SI014
SI066	竪穴建物	SI011
SI067	竪穴建物	SI012
SI068	竪穴建物	SI028
SI069	竪穴建物	SI029
SI070	竪穴建物	SI030
SI071	竪穴建物	SI031
SI072	竪穴建物	SI036
SI073	竪穴建物	SI033
SI074	竪穴建物	SI035
SI075	竪穴建物	SI032
SI076	竪穴建物	SI034
SI077	竪穴建物	SI019
SI078	竪穴建物	SI027
SI079	竪穴建物	SZ032
SI079	竪穴建物	SZ034
SI080	竪穴建物	SI085
SI081	竪穴建物	SZ031
SI082	竪穴建物	SI086
SI083	竪穴建物	SI002
SI084	竪穴建物	SI088
SI085	竪穴建物	SI001
SI086	竪穴建物	SI004
SI087	竪穴建物	SI125
SI088	竪穴建物	SI087
SI089	竪穴建物	SI093
SI090	竪穴建物	SI099

掲載番号	遺構種別	調査時番号
SI091	竪穴建物	SI006
SI092	竪穴建物	SI109
SI093	竪穴建物	SI116
SI094	竪穴建物	SI123
SI095	竪穴建物	SI013
SI096	竪穴建物	SI075
SI097	竪穴建物	SI079
SI098	竪穴建物	SI073
SI099	竪穴建物	SI117
SI100	竪穴建物	SI077
SI101	竪穴建物	SI104
SI102	竪穴建物	SI100
SI103	竪穴建物	SI102
SI104	竪穴建物	SI090
SI105	竪穴建物	SI071
SI106	竪穴建物	SI061
SI107	竪穴建物	SI066
SI108	竪穴建物	SZ024
SI109	竪穴建物	SI070
SI110	竪穴建物	SI049
SI111	竪穴建物	SI058
SI112	竪穴建物	SI054
SI113	竪穴建物	SI047
SI114	竪穴建物	SI046
SI115	竪穴建物	SI062
SI116	竪穴建物	SI048
SI117	竪穴建物	SI059
SI118	竪穴建物	SI063
SI119	竪穴建物	SI045
SI120	竪穴建物	SI053
SI121	竪穴建物	SI044
SI122	竪穴建物	SI037
SI123	竪穴建物	SI055
SI124	竪穴建物	SI041
SI125	竪穴建物	SI040
SI126	竪穴建物	SI025
SI127	竪穴建物	SI024
SI128	竪穴建物	SI023
SI129	竪穴建物	SI021
SI130	竪穴建物	SI022
SI131	竪穴建物	SI017
SI132	竪穴建物	SI018
SI133	竪穴建物	SI020
SI134	竪穴建物	SI026
SD001	溝	SZ022
SD002	溝	SD018
SD003	溝	SD006
SD004	溝	SD008
SD005	溝	SD007
SD006	溝	SD009
SD007	溝	SD001
SD008	溝	SZ016
SD009	溝	SD014
SD010	溝	SD015
SD011	溝	SZ013
SD012	溝	SD013
SD013	溝	SD012

掲載番号	遺構種別	調査時番号
SD014	溝	SZ010
SD015	溝	SD011
SD016	溝	SD010
SD017	溝	SD002
SD018	溝	SD004
SD019	道路状遺構	SD016
SD020	溝	SD003
SD021	道路状遺構	SD005
SK001	陥し穴	SZ036
SK002	陥し穴	SK006
SK003	陥し穴	SK032
SK004	陥し穴	SM004SK1
SK005	土坑	SK127
SK006	土坑	SK126
SK007	土坑	SK125
SK008	土坑	SZ037
SK009	土坑	SK069
SK010	土坑	SK009
SK011	土坑	SK115
SK012	土坑	SK110
SK013	土坑	SK109
SK014	土坑	SK108
SK015	土坑	SZ033
SK016	土坑	SK124
SK017	土坑	SK131
SK018	土坑	SK129
SK019	土坑	SK111
SK020	土坑	SK107
SK021	土坑	SK104
SK022	土坑	SK105
SK023	土坑	SZ027
SK024	土坑	SK101
SK025	土坑	SK116
SK026	土坑	SK103
SK027	土坑	SK106
SK028	土坑	SK114
SK029	土坑	SZ021
SK030	土坑	SK090
SK031	土坑	SK073
SK032	土坑	SK001
SK033	土坑	SK010
SK034	土坑	SK008
SK035	土坑	SK002
SK036	土坑	SK003
SK037	土坑	SK022
SK038	土坑	SZ001
SK039	土坑	SZ002
SK040	土坑	SK026
SK041	土坑	SK027
SK042	土坑	SZ003
SK043	土坑	SK025
SK044	土坑	SK024
SK045	土坑	SK021
SK046	土坑	SZ004
SK047	土坑	SK023
SK048	土坑	SK031
SK049	土坑	SK029
SK050	土坑	SK030

掲載番号	遺構種別	調査時番号
SK051	土坑	SK040
SK052	土坑	SK042
SK053	土坑	SK039
SK054	土坑	SK020
SK055	土坑	SK038
SK056	土坑	SM002SK2
SK057	土坑	SK028
SK058	土坑	SZ005
SK059	土坑	SZ007
SK060	土坑	SZ006
SK061	土坑	SM003SK3
SK062	土坑	SM003SK1
SK063	土坑	SM003SK4
SK064	土坑	SM003SK2
SK065	土坑	SM003SK7
SK066	土坑	SM003SK8
SK067	土坑	SM003SZ1
SK068	土坑	SK033
SK069	土坑	SK034
SK070	土坑	SK035
SK071	土坑	SK036
SK072	土坑	SK037
SK073	土坑	SK122
SK074	土坑	SK123
SK075	土坑	SK121
SK076	土坑	SZ028
SK077	土坑	SK067
SK078	土坑	SK068
SK079	土坑	SZ012
SK080	土坑	SZ011
SK081	土坑	SK093
SK082	土坑	SK088
SK083	土坑	SK070
SK084	土坑	SK071
SK085	土坑	SK072
SK086	土坑	SK012
SK087	土坑	SK014
SK088	土坑	SK013
SK089	土坑	SK007
SK090	土坑	SK005
SK091	土坑	SK041
SK092	土坑	SK120
SK093	土坑	SK119
SK094	土坑	SK117
SK095	土坑	SK118
SK096	土坑	SZ014
SK097	土坑	SZ015
SK098	土坑	SK113
SK099	土坑	SK112
SK100	土坑	SK017
SK101	土坑	SK102
SK102	土坑	SK066
SK103	土坑	SK074
SK104	土坑	SK087
SK105	土坑	SK086
SK106	土坑	SK085
SK107	土坑	SK084
SK108	土坑	SK083

掲載番号	遺構種別	調査時番号
SK109	土坑	SK098
SK110	土坑	SK097
SK111	土坑	SZ018
SK112	土坑	SK064
SK113	土坑	SK065
SK114	土坑	SK063
SK115	土坑	SK062
SK116	土坑	SK096
SK117	土坑	SK095
SK118	土坑	SK089
SK119	土坑	SK082
SK120	土坑	SK099
SK121	土坑	SK094
SK122	土坑	SK081
SK123	土坑	SK075
SK124	土坑	SK053
SK125	土坑	SK078
SK126	土坑	SK077
SK127	土坑	SK054
SK128	土坑	SK076
SK129	土坑	SK092
SK130	土坑	SK091
SK131	土坑	SK079
SK132	土坑	SK080
SK133	土坑	SK055
SK134	土坑	SK059
SK135	土坑	SK061
SK136	土坑	SK058
SK137	土坑	SK057
SK138	土坑	SK060
SK139	土坑	SK056
SK140	土坑	SK051
SK141	土坑	SK052
SK142	土坑	SK011
SK143	土坑	SK019
SK144	土坑	SM003SK6
－	攪乱とした	SM002SK1
－	遺構とせず	SM003SZ2
－	遺構とせず	SI111
－	遺構とせず	SK004
－	遺構とせず	SK015
－	遺構とせず	SK016
－	遺構とせず	SK018
－	遺構とせず	SK043
－	遺構とせず	SK044
－	遺構とせず	SK045
－	遺構とせず	SK046
－	遺構とせず	SK047
－	遺構とせず	SK048
－	遺構とせず	SK049
－	遺構とせず	SK050
－	遺構とせず	SK100
－	遺構とせず	SK128
－	遺構とせず	SK130
－	遺構とせず	SZ008
－	遺構とせず	SZ009
－	遺構とせず	SZ029
－	遺構とせず	SZ030

第330表　海保大塚遺跡遺構名対照表

掲載番号	遺構種別	調査時番号
SM001	古墳	SM011
SM002	古墳	SM012
SM003	古墳	SM013
SM004	古墳	SM010
SM004SK1	古墳埋葬施設	SM010SK1
SM005	古墳	SM009
SM006	古墳	SM007
SM007	古墳	SM005
SM008	古墳	SM001
SM008SK1	古墳埋葬施設	SM001SK1
SM008SK2	古墳埋葬施設	SM001SK2
SM009	古墳	SM006
SM010	古墳	SM008
SM010SK1	古墳埋葬施設	SM008SK2
SM010SK2	古墳埋葬施設	SM008SK1
SM011	古墳	SD005
SM011SK1	古墳埋葬施設	SK023
SM012	古墳	SM004
SM013	古墳	SM003
SM014	古墳	SM002
SI001	竪穴建物	SI044
SI002	竪穴建物	SI004
SI003	竪穴建物	SI001
SI004	竪穴建物	SI033
SI005	竪穴建物	SI009
SI006	竪穴建物	SI003
SI007	竪穴建物	SI047
SI008	竪穴建物	SI081
SI009	竪穴建物	SI080
SI010	竪穴建物	SI079
SI011	竪穴建物	SI075
SI012	竪穴建物	SI066
SI013	竪穴建物	SI063
SI014	竪穴建物	SI064
SI015	竪穴建物	SI073
SI016	竪穴建物	SI074
SI017	竪穴建物	SI027
SI018	竪穴建物	SI028
SI019	竪穴建物	SI029
SI020	竪穴建物	SI032
SI021	竪穴建物	SI010
SI022	竪穴建物	SI011
SI023	竪穴建物	SI025
SI024	竪穴建物	SI002
SI025	竪穴建物	SI012
SI026	竪穴建物	SI013
SI027	竪穴建物	SI014a
SI028	竪穴建物	SI014b
SI029	竪穴建物	SI042
SI030	竪穴建物	SI067
SI031	竪穴建物	SI050
SI032	竪穴建物	SI065
SI033	竪穴建物	SI060
SI034	竪穴建物	SI077
SI035	竪穴建物	SI056
SI036	竪穴建物	SI071
SI037	竪穴建物	SI031
SI038	竪穴建物	SI034
SI039	竪穴建物	SI030
SI040	竪穴建物	SI036
SI041	竪穴建物	SI039
SI042	竪穴建物	SI037
SI043	竪穴建物	SI040

掲載番号	遺構種別	調査時番号
SI044	竪穴建物	SI005
SI045	竪穴建物	SI006
SI046	竪穴建物	SI008
SI047	竪穴建物	SI078
SI048	竪穴建物	SI051
SI049	竪穴建物	SI070
SI050	竪穴建物	SI076
SI051	竪穴建物	SI055
SI052	竪穴建物	SI068
SI053	竪穴建物	SI061
SI054	竪穴建物	SI057
SI055	竪穴建物	SI038
SI056	竪穴建物	SI054
SI057	竪穴建物	SI058
SI058	竪穴建物	SI082
SI059	竪穴建物	SI035
SI060	竪穴建物	SI021
SI061	竪穴建物	SI022
SI062	竪穴建物	SI020
SI063	竪穴建物	SI026
SI064	竪穴建物	SI007
SI065	竪穴建物	SI053
SI066	竪穴建物	SZ004
SI067	竪穴建物	SI069
SI068	竪穴建物	SI049
SI069	竪穴建物	SI062
SI070	竪穴建物	SI052
SI071	竪穴建物	SZ006
SI072	竪穴建物	SI048
SI073	竪穴建物	SI059
SI074	竪穴建物	SI072
SI075	竪穴建物	SI041
SI076	竪穴建物	SZ001
SI077	竪穴建物	SI018
SI078	竪穴建物	SI019
SI079	竪穴建物	SI017
SI080	竪穴建物	SI024
SI081	竪穴建物	SI016
SI082	竪穴建物	SI023
SI083	竪穴建物	SI015
SI084	竪穴建物	SI046
SI085	竪穴建物	SI045
SI086	竪穴建物	SI043
SD001	溝	SD004
SD002	溝	SD003
SD003	溝	SD008
SD004	溝	SZ005
SD005	溝	SD006
SD006	溝	SD002
SD007	溝	SZ003
SD008	溝	SD007
SD009	溝	SD001
SK001	炉穴	SK005
SK002	炉穴	SK010
SK003	炉穴	SK011
SK004	炉穴	SK006
SK005	炉穴	SK039
SK006	炉穴	SK008
SK007	炉穴	SK018
SK008	炉穴	SK025
SK009	炉穴	SK035
SK010	炉穴	SK034b
SK011	炉穴	SK022

掲載番号	遺構種別	調査時番号
SK012	炉穴	SK037
SK013	炉穴	SK026
SK014	炉穴	SK033
SK015	炉穴	SK031
SK016	炉穴	SK013
SK017	炉穴	SK024
SK018	炉穴	SK041
SK019	炉穴	SK016
SK020	炉穴	SK021
SK021	炉穴	SK040
SK022	炉穴	SK062
SK023	炉穴	SK066
SK024	炉穴	SK061
SK025	炉穴	SK065
SK026	炉穴	SK055
SK027	土坑	SK071
SK028	土坑	SK030
SK029	土坑	SK020
SK030	土坑	SK017
SK031	土坑	SK053
SK032	土坑	SK067
SK033	土坑	SK057
SK034	土坑	SK063
SK035	土坑	SK004
SK036	土坑	SK001
SK037	土坑	SK003
SK038	土坑	SK009
SK039	土坑	SK012
SK040	土坑	SK072
SK041	土坑	SK070
SK042	土坑	SK034a
SK043	土坑	SK032
SK044	土坑	SK014
SK045	土坑	SK027
SK046	土坑	SK007
SK047	土坑	SK015
SK048	土坑	SK069
SK049	土坑	SK068
SK050	土坑	SK060
SK051	土坑	SK038
SK052	土坑	SK058
SK053	土坑	SK056
SK054	土坑	SK064
SK055	土坑	SZ008
SK056	土坑	SK046
SK057	土坑	SK048
SK058	土坑	SK002
SK059	土坑	SK019
SK060	土坑	SK029
SK061	土坑	SK028
SK062	土坑	SK042
SK063	土坑	SK059
SK064	土坑	SK043
SK065	土坑	SK051
SK066	土坑	SK054
SK067	土坑	SK052
SK068	土坑	SK036
SK069	土坑	SK045
SK070	土坑	SK050
SK071	土坑	SK049
SK072	土坑	SK044
SK073	土坑	SK047